

一般国道23号中勢道路(9工区)建設事業に伴う

# 六大B遺跡(B～I地区)発掘調査報告

2006. 3

三重県埋蔵文化財センター





調査区全景（北から）



S E 6 半截状況（西から）









1025



1494



1539



1496







# 序

三重県の北中部に広がる伊勢平野は、東に伊勢湾をひかえ西に鈴鹿・布引の山々をのぞみ風光明媚な土地です。大小の川の流れに潤された平地は豊かで実り多く、古くから人々の生活の場所となってきました。

今回報告する六大B遺跡は、一般国道23号中勢道路建設に伴って、遺跡の現状保存が困難な部分について、緊急の発掘調査を実施して記録保存に努めてきた遺跡です。調査の結果、弥生時代の土坑、奈良・平安時代の掘立柱建物群など、弥生時代から江戸時代にわたる多数の遺構、膨大な量の遺物が見つかり、貴重な調査結果を得ることができました。

開発が進み私たちの生活が豊かで便利になることは喜ばしいことではありますが、古くからこの地に生活していた人々が遺した文化財を保存していくこともまた大切なことであります。とりわけ、このように調査後やむなく破壊される遺跡について、わたくしどもに課せられた重要な責務のひとつは、その膨大な記録を整理して、後々の学術的な検証に耐えうる報告書というかたちにして、世に公開することであると考えています。そうすることでこの地域の歩んできた歴史を少しでも明らかにすることができれば、今後の埋蔵文化財の保存に必ずや結びつくと確信しております。

調査にあたりご協力いただいた関係諸機関ならびに地元の皆様に厚くお礼申し上げます。

最後に、本書が地域の歴史と文化に対するご理解の深まりの一助になることを願いますとともに、県民の皆様の埋蔵文化財保護へのより一層のご理解とご協力を念願して序文といたします。

平成18年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 吉水 康夫

# 例 言

- 1 本書は三重県津市大里窪田町字榎垣内ほかに所在する六大B遺跡（B～I地区）の報告書である。A地区についてはすでに平成11年2月に報告書を刊行している。
- 2 調査は、三重県教育委員会が国土交通省中部地方整備局（平成13年1月の省庁再編までは建設省中部地方建設局ー以下略）の委託を受け、昭和63年度にB～I地区の範囲確認調査を、平成2～4年度にB～I地区の本調査を実施した。また、整理・報告書作成業務は、平成8年度から断続的に進めてきた。現地調査ならびに報告書作成にかかる費用は全額国土交通省中部地方整備局の負担による。
- 3 調査の体制は下記のとおりである。
  - ・調査主体 三重県教育委員会
  - ・調査担当 同事務局文化課（昭和63年度）  
三重県埋蔵文化財センター（平成元年度以降）
  - ・調査協力 津市教育委員会（昭和63～平成11年度）  
鈴鹿市教育委員会（平成7～9年度）  
嬉野町教育委員会（平成12年度）
  - ・現場作業 社団法人中部建設協会
- 4 現地調査は、平成2年度にB・C・D地区を浅生悦生・渡辺尚登・村木一弥が、E・F・G地区を杉谷政樹・油田秀紀・竹内英昭が担当して実施した。平成3年度にはH地区を村木一弥・近藤健・天野秀昭が、B～F地区の補完調査（パイロット道部分）を村木一弥・近藤健が担当して実施した。平成4年度にはI地区を本堂弘之・小菅文裕・山口格・中村光司が担当して実施した。
- 5 本書作成にかかる報文執筆は、宮田勝功・山本義弘・池端清之・米山浩之・筒井昭仁・西村美幸・水橋公恵・川畑由紀子・川崎志乃・森川常厚・中村らの協力を得て、山口・村木・本堂上村が行った。
- 6 室内整理については、市川嘉子・畑ひろ子・森川尚子・駒田 泉・一木八千代・小坂規美子・太田浩子・伊藤友子・脇葉輝美・森川絹代・三谷 妙・黒川敬子・蒔田やよい・新田智子・宇河由起子・山口香代・北岡佳代子・西山実公子・野田摩耶の協力を得た。また、調査補助員として、蔭山誠一・中本 淳・大西貴夫・葛山拓也・河角龍典・丸澤友加・前田誠治・中村慎太郎・藤田有紀らが現地調査および室内整理に携わった。
- 7 発掘調査ならびに整理・報告書作成にあたっては、下記の方々に御指導・御教示を賜った。記して感謝の意を表したい。（順不同・敬称略、所属は当時）

青木哲哉（立命館大学）・磯部 克（県立松阪高校）・岡田 登（皇學館大學）・岡田茂弘（国立歴史民俗博物館）・肥塚隆保（奈良国立文化財研究所）・塩谷 格（三重大学：当時）・八賀 晋（三重大学：当時）・広瀬和久 原 正之（三重県農業技術センター）・馬場義平（三重大学）・村上 隆（奈良国立文化財研究所）・森 勇一 永原康次（愛知県埋蔵文化財



センター)・富田靖男 山下純生(県立博物館)・萱室康光(津市教育委員会)・毛利光俊  
彦 金子裕之 巽淳一郎 寺崎保広 渡辺晃宏(奈良国立文化財研究所)・三辻利一(奈良  
教育大学)・坂野和信(埼玉県埋蔵文化財調査事業団)・平尾政幸 小森俊寛 上村憲章  
(財団法人京都市埋蔵文化財研究所)・尾野善裕(京都国立博物館)・福田明美(財団法人千  
葉県文化財センター)・三好美穂(奈良市埋蔵文化財調査センター)・加藤真琴

8 六大B遺跡(B~I地区)については、既に『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概  
報』I(三重県教育委員会 1989)、『同』III~V(三重県埋蔵文化財センター 1991~1993)、  
『中勢道路ニュース』No.2・11・12・13にその調査途中の概要を報告しているが、本書をもっ  
て正式報告とする。

9 本書に用いた地図及び遺構実測図は、国土調査法の第VI座標系(調査当時)を基準とし、方  
位の表示は座標北を示す。当該遺跡では磁北はN 6° 40' W座標北から振れている。(平成10  
年度)

10 本書で報告した記録および出土品は、三重県埋蔵文化財センターにおいて管理・保管してい  
る。

11 本書に用いた遺構表示略記号は、下記のとおりである。なお、遺構の名称・番号は、調査時  
点および調査途中の概報での呼称を踏襲せずに、新たに改称したものである。

SA: 柵・塀 SB: 掘立柱建物 SD: 溝・自然流路 SE: 井戸 SK: 土坑  
SH: 竪穴住居 pit: 柱穴・小穴 SX: 墳墓

12 本書では出土遺物を土器・土製品・陶器・磁器・石器・石製品・金属製品・木製品などに分  
けている場合がある。この場合、瓦質製品は土器・土製品に、炆器(焼締め陶、いわゆる山茶  
椀を含む)は陶器に、漆製品は木製品に含めた。

13 「わん」の文字については、「椀」に統一した。

# 本文目次

I	前言	(本堂弘之)	1
1	調査の契機と経過		1
2	調査の体制		1
3	調査の経過		3
4	調査の方法		3
	(1) 遺跡名		3
	(2) 地区設定		3
	(3) 図面・写真等		4
	(4) 遺物整理		5
II	位置と環境	(本堂)	5
1	地理的環境		5
2	歴史的環境		5
III	調査の成果		9
1	基本層序	(本堂)	9
2	遺構と遺物		21
	(1) 概要	(本堂)	21
	(2) 竪穴住居	(村木一弥・本堂)	21
	(3) 中世墓	(村木・本堂)	21
	(4) 掘立柱建物・柵列	(村木・本堂)	22
	(5) 井戸	(村木)	55
	(6) 土坑	(村木・本堂)	73
	(7) 溝・自然流路	(本堂)	96
	(8) Pit・包含層出土遺物	(上村安生)	132
IV	結語	(上村)	140

## 挿図目次

第1図	六大B遺跡大地区割り設定 (A~R)、 調査区割り設定 (A~I) ……2	第39図	SB53・56~58実測図、出土遺物実測図…42
第2図	遺跡位置図 ……6	第40図	SB59~61実測図 ……43
第3図	六大B遺跡周辺地形図 ……7	第41図	SB62~64実測図、出土遺物実測図 ……44
第4図	B~E地区東壁土層断面図① ……10	第42図	SB65~68実測図、出土遺物実測図 ……45
第5図	B~E地区東壁土層断面図② ……11	第43図	SB69~72実測図 ……46
第6図	B~E地区東壁土層断面図③ ……12	第44図	SB73~75実測図 ……47
第7図	F~H地区東壁土層断面図① ……13	第45図	SB76~78・81実測図 ……48
第8図	F~H地区東壁土層断面図② ……14	第46図	SB79・80・82実測図 ……49
第9図	F~H地区東壁土層断面図③ ……15	第47図	SB83~86実測図、出土遺物実測図 ……50
第10図	B地区北壁土層断面図 ……16	第48図	SB87ab・88・89実測図、出土遺物実測図…51
第11図	I-1地区北壁土層断面図 ……16	第49図	SB90~92実測図 ……52
第12図	I-2地区北壁土層断面図 ……17	第50図	SB93・SA2~5実測図、出土遺物実測図 53
第13図	I-3地区北壁土層断面図① ……17	第51図	SA6~11実測図 ……54
第14図	I-3地区北壁土層断面図② ……18	第52図	SE1実測図 ……55
第15図	I-4地区南壁土層断面図① ……18	第53図	SE1出土遺物実測図 ……55
第16図	I-4地区南壁土層断面図② ……19	第54図	SE3実測図 ……55
第17図	F地区南壁土層断面図 ……20	第55図	SE3出土遺物実測図 ……55
第18図	D地区南壁土層断面図 ……20	第56図	SE2実測図 ……56
第19図	SH1実測図 ……21	第57図	SE2出土遺物実測図 ……56
第20図	SH2実測図 ……21	第58図	SE5実測図 ……57
第21図	SX1実測図、出土遺物実測図 ……22	第59図	SE5出土遺物実測図 ……57
第22図	SB1~4実測図、出土遺物実測図 ……23	第60図	SE6実測図 ……57
第23図	SB5・6実測図、出土遺物実測図 ……24	第61図	SE7実測図、出土遺物実測図 ……57
第24図	SB7~9・11実測図、出土遺物実測図…25	第62図	SE4実測図、出土遺物実測図 ……58
第25図	SB10・12・13実測図、出土遺物実測図…26	第63図	SE8実測図 ……59
第26図	SB14~16実測図、出土遺物実測図 ……27	第64図	SE8出土遺物実測図① ……59
第27図	SB17~20実測図 ……28	第65図	SE8出土遺物実測図② ……60
第28図	SB21~24実測図、出土遺物実測図 ……29	第66図	SE10実測図 ……61
第29図	SB25・35実測図 ……30	第67図	SE10出土遺物実測図 ……61
第30図	SB26・29・32実測図、出土遺物実測図…31	第68図	SE11実測図・土層断面図 ……61
第31図	SB27・28・30実測図、出土遺物実測図…32	第69図	SE11出土遺物実測図 ……61
第32図	SB31・33実測図、出土遺物実測図 ……33	第70図	SE12実測図 ……62
第33図	SB34・36・37・39実測図、出土遺物実測図…34	第71図	SE12出土遺物実測図① ……62
第34図	SB38・43・44実測図、出土遺物実測図…35	第72図	SE12出土遺物実測図② ……63
第35図	SB40~42・48実測図、出土遺物実測図…36	第73図	SE9実測図 ……64
第36図	SB45・49・50実測図、出土遺物実測図…39	第74図	SE9出土遺物実測図 ……64
第37図	SB46・47・SA1実測図、出土遺物実測図…40	第75図	SE13実測図 ……64
第38図	SB51・52・54・55実測図、出土遺物実測図…41	第76図	SE13出土遺物実測図 ……64
		第77図	SE14実測図 ……64



第78図	SE14出土遺物実測図	65	第119図	SK13実測図、出土遺物実測図	81
第79図	SE15実測図	65	第120図	SK14実測図	82
第80図	SE15出土遺物実測図	65	第121図	SK14出土遺物実測図	82
第81図	SE16実測図	66	第122図	SK15実測図	82
第82図	SE16出土遺物実測図	66	第123図	SK15出土遺物実測図	82
第83図	SE17実測図	66	第124図	SK16実測図	83
第84図	SE18実測図	66	第125図	SK16出土遺物実測図	83
第85図	SE18出土遺物実測図①	66	第126図	SK17実測図	83
第86図	SE18出土遺物実測図②	67	第127図	SK17出土遺物実測図	83
第87図	SE17出土遺物実測図	68	第128図	SK18・19実測図	83
第88図	SE19実測図	69	第129図	SK18・19出土遺物実測図	83
第89図	SE22実測図	69	第130図	SK20実測図	84
第90図	SE22出土遺物実測図	69	第131図	SK20出土遺物実測図	84
第91図	SE23出土遺物実測図	69	第132図	SK21実測図、SK21出土遺物実測図	84
第92図	SE20実測図	69	第133図	SK22実測図・土層断面図、 出土遺物実測図	84
第93図	SE21実測図	70	第134図	SK23出土遺物実測図	85
第94図	SE21出土遺物実測図①	70	第135図	SK23実測図・土層断面図	85
第95図	SE21出土遺物実測図②	71	第136図	SK24実測図、出土遺物実測図	86
第96図	SE23実測図	72	第137図	SK25実測図・土層断面図、 出土遺物実測図	87
第97図	SE24実測図	72	第138図	SK26実測図	87
第98図	SE24出土遺物実測図	72	第139図	SK34・35実測図	87
第99図	SK 1・SK 2 実測図	73	第140図	SK34出土遺物実測図	87
第100図	SK 1 出土遺物実測図	73	第141図	SK27~30実測図	88
第101図	SK 2 出土遺物実測図	73	第142図	SK30出土遺物実測図	88
第102図	SK 3 実測図	74	第143図	SK31~33実測図	88
第103図	SK 3 出土遺物実測図①	75	第144図	SK33出土遺物実測図	88
第104図	SK 3 出土遺物実測図②	76	第145図	SK35出土遺物実測図	88
第105図	SK 3 出土遺物実測図③	77	第146図	SK36・37実測図	89
第106図	SK 4 実測図	78	第147図	SK37出土遺物実測図	89
第107図	SK 4 出土遺物実測図	78	第148図	SK38~40実測図	89
第108図	SK 5・SK 6 実測図	78	第149図	SK40出土遺物実測図	89
第109図	SK 6 出土遺物実測図	78	第150図	SK41実測図、出土遺物実測図	90
第110図	SK 7 実測図	79	第151図	SK42実測図・土層断面図	90
第111図	SK 7 出土遺物実測図	79	第152図	SK42出土遺物実測図	90
第112図	SK 8 実測図	79	第153図	SK43実測図、出土遺物実測図	91
第113図	SK 8 出土遺物実測図	79	第154図	SK44実測図、出土遺物実測図	91
第114図	SK 9 実測図、出土遺物実測図	80	第155図	SK45実測図・土層断面図、 出土遺物実測図	91
第115図	SK10実測図、出土遺物実測図	80	第156図	SK46実測図・土層断面図	91
第116図	SK11実測図・土層断面図	81			
第117図	SK11出土遺物実測図	81			
第118図	SK12実測図、出土遺物実測図	81			

第157図 SK47実測図・土層断面図、 出土遺物実測図	92
第158図 SK48実測図、出土遺物実測図	92
第159図 SK49実測図、出土遺物実測図	93
第160図 近世土坑群 (SK50~60)	94
第161図 近世土坑群出土遺物①	95
第162図 近世土坑群出土遺物②	96
第163図 SD 1 実測図・土層断面図	97
第164図 SD 1 出土遺物実測図	98
第165図 SD 2・3・34実測図	99
第166図 SD 2 出土遺物実測図①	100
第167図 SD 2・3・34土層断面図	101
第168図 SD 2 出土遺物実測図②	102
第169図 SD 2 出土遺物実測図③	103
第170図 SD 2 出土遺物実測図④	103
第171図 SD 3 出土遺物実測図①	104
第172図 SD 3 出土遺物実測図②	105
第173図 SD 4~9 実測図	106
第174図 SD 5・6 出土遺物実測図	107
第175図 SD 6 出土遺物実測図	108
第176図 SD 8・9 出土遺物実測図	109
第177図 SD10・11・13実測図・SD10・11土層断面図	110
第178図 SD10出土遺物実測図①	111
第179図 SD10出土遺物実測図②	112
第180図 SD10出土遺物実測図③	113
第181図 SD10出土遺物実測図④	114
第182図 SD10出土遺物実測図⑤	115
第183図 SD10出土遺物実測図⑥	115
第184図 SD11・14出土遺物実測図	116
第185図 SD12実測図	117・118
第186図 SD12出土遺物実測図①	119
第187図 SD12出土遺物実測図②	119
第188図 SD12出土遺物実測図③	120
第189図 SD14~27実測図	121
第190図 SD28実測図	122
第191図 SD29・30実測図	123
第192図 SD31・32実測図	124
第193図 SD13・17・28~32出土遺物実測図	125
第194図 SD33実測図	126
第195図 SD33中央トレンチ東壁土層断面図	127
第196図 SD33出土遺物実測図①	128

第197図 SD33出土遺物実測図②	129
第198図 SD34・35・37出土遺物実測図	129
第199図 SD35~37実測図・SD35・36土層断面図	130
第200図 SD38実測図	130
第201図 SD36出土遺物実測図	131
第202図 Pit出土遺物実測図	133
第203図 包含層出土遺物実測図①土師器	134
第204図 包含層出土遺物実測図②土師器・土製品	135
第205図 包含層出土遺物実測図③須恵器	136
第206図 包含層出土遺物実測図④ 石帯・管玉・和銅開珎	136
第207図 包含層出土遺物実測図⑤緑釉陶器	137
第208図 包含層出土遺物実測図⑥灰釉陶器・山茶椀	138
第209図 包含層出土遺物実測図⑦ 瓦・青磁・白磁・陶器ほか	139
第210図 遺構配置図	付図

## 表目次

井戸一覧表	141
土坑一覧表	142~144
溝一覧表	145~146
掘立柱建物一覧表	147~151
遺物観察表	152~190

## 原色写真図版目次

遺構 調査区全景・SE6半截状況
遺物 緑釉陶器・石帯・銭貨 (和銅開珎)

## 写真図版目次

遺構図版
PL 1 B・C地区調査区全景
PL 2 D・E・F地区調査区全景
PL 3 G・H地区調査区全景
PL 4 D地区SB26、I-3地区SB86
PL 5 C地区SK11、I-4地区SK49

P L 6	B地区SK3、D地区SE12	P L 45	出土遺物29
P L 7	B地区SD・SE・SK他、C地区SD・拡張区	P L 46	出土遺物30
P L 8	C地区SE・SB	P L 47	出土遺物31
P L 9	C地区SB・pit、D地区SE・pit	P L 48	出土遺物32
P L 10	D地区pit・SD・SK・SB	P L 49	出土遺物33
P L 11	D地区SB	P L 50	出土遺物34
P L 12	D地区SB・SD、E地区SB・pit	P L 51	出土遺物35
P L 13	E地区SB	P L 52	出土遺物36
P L 14	E地区拡張区pit・SD、F地区SX・SD・SK	P L 53	出土遺物37
P L 15	F地区SB・拡張区SB、G地区SD・SE ・土器出土状況、H地区SD、I地区SK	P L 54	出土遺物38
P L 16	I-1・2・3・4地区全景	P L 55	出土遺物39
	遺物図版	P L 56	出土遺物40
P L 17	出土遺物 1	P L 57	出土遺物41
P L 18	出土遺物 2	P L 58	出土遺物42
P L 19	出土遺物 3	P L 59	出土遺物43
P L 20	出土遺物 4	P L 60	出土遺物44
P L 21	出土遺物 5	P L 61	出土遺物45
P L 22	出土遺物 6	P L 62	出土遺物46
P L 23	出土遺物 7	P L 63	出土遺物47
P L 24	出土遺物 8	P L 64	出土遺物48
P L 25	出土遺物 9	P L 65	出土遺物49
P L 26	出土遺物10	P L 66	出土遺物50
P L 27	出土遺物11	P L 67	出土遺物51
P L 28	出土遺物12	P L 68	出土遺物52
P L 29	出土遺物13	P L 69	出土遺物53
P L 30	出土遺物14	P L 70	出土遺物54
P L 31	出土遺物15	P L 71	出土遺物55
P L 32	出土遺物16	P L 72	出土遺物56
P L 33	出土遺物17	P L 73	出土遺物57
P L 34	出土遺物18	P L 74	出土遺物58
P L 35	出土遺物19	P L 75	出土遺物59
P L 36	出土遺物20	P L 76	出土遺物60
P L 37	出土遺物21	P L 77	出土遺物61
P L 38	出土遺物22	P L 78	出土遺物62
P L 39	出土遺物23	P L 79	出土遺物63
P L 40	出土遺物24	P L 80	墨書 1
P L 41	出土遺物25	P L 81	墨書 2
P L 42	出土遺物26	P L 82	墨書 3
P L 43	出土遺物27	P L 83	墨書 4・ヘラ記号
P L 44	出土遺物28		



# I 前言

## 1 調査の契機と経過

中勢道路は、鈴鹿市玉垣町から松阪市小津町に至る延長33.8kmの一般国道23号中勢バイパスの一環である。国道23号の交通集中の緩和とバイパス周辺の適切な土地利用の誘導を図り、三重県中勢地区の経済発展に寄与することを目的に計画されたものである。

この計画地内に所在する埋蔵文化財については、昭和58年に計画路線内の分布調査を行い、建設省中部地方建設局（当時）と三重県教育委員会が埋蔵文化財の取扱について協議を行った結果、現状保存の困難な遺跡については事前に発掘調査を行い、記録保存をすることとなった。

現地調査は、昭和63年度に開始した。国土交通省中部地方整備局（平成12年までは建設省中部地方建設局）から三重県が委託を受け、三重県埋蔵文化財センター（昭和63年度は三重県教育委員会）が調査を担当している。調査にあたっては、「県教育委員会・市町村教育委員会職員人事交流要綱」に基づき、津市教育委員会（昭和63年度～平成11年度）と鈴鹿市教育委員会（平成7年度～平成9年度）から派遣職員を得た。平成12年度には嬉野町教育委員会に範囲確認調査の協力を得た。また、現地作業は調査の円滑化を期して、国土交通省中部地方整備局が社団法人中部建設協会に委託している。そして、国土交通省中部地方整備局・三重県・中部建設協会の三者で「協定書」を締結し事業を推進している。

中勢道路の発掘調査は、津市大里窪田町の主要地方道津関線（当時：現在の一般地方道草生窪田津線）～津市神戸の9・10工区がまず事業化された関係で同地区から開始した。昭和63年度に六大B遺跡を含む9工区10遺跡の範囲確認調査と3遺跡の本調査を行った。その後、順次、鈴鹿市・河芸町・三雲町・嬉野町へも範囲を広げ、平成12年度末までに範囲確認調査と本調査合わせて約165,000㎡の調査を行った。また、発掘調査報告書はこれまでに13冊刊行している。

## 2 調査の体制

調査主体は三重県教育委員会で、調査担当は昭和63年度は三重県教育委員会文化課、平成元年度からは、県教育委員会規則により設置された三重県埋蔵文化財センターである。本書に所収した六大B遺跡（B～I地区）については、昭和63年度に範囲確認調査を、平成2～4年度に本調査を、実施した。また、平成8～13年度に報告書作成を行い、17年度に刊行した。その体制は以下のとおりである。

[昭和63年度]

文化財第二係長 伊藤久嗣

主査 吉水康夫・増田安生

主事 浅生悦生（津市教育委員会より派遣）

臨時調査員 和氣清章・油田秀紀

調査協力者 宮澤織江・新井ゆう子・森 貴子・  
谷口裕美・園田純子・蔭山誠一・糸  
敏明・若松 剛・川辺光則・下井則  
幸・奥山テルヨ・畑ひろ子

[平成2年度]

次長兼調査第二課長 山澤義貴

第三係長 浅生悦生（津市教育委員会より派遣）

主事 渡辺尚登・杉谷政樹・森川幸雄・近藤 健

主事 村木一弥（津市教育委員会より派遣）

臨時調査員 竹内英昭・油田秀紀

[平成3年度]

調査第二課長 新田 洋

主査兼第三係長 駒田利治

主事 渡辺尚登・近藤 健・天野秀昭

主事 村木一弥・山口 格

（津市教育委員会より派遣）

[平成4年度]

調査第二課長 新田 洋

主査兼第三係長 駒田利治

主事 本堂弘之・小菅文裕

技師 穂積裕昌

主事 山口 格・中村光司

（津市教育委員会より派遣）



第1図 六大B遺跡大地区割り設定 (A~R)、調査区割り設定 (A~I) (1:5,000)

[平成8年度]

主幹兼調査第二課長 山田 猛

第三係長 本堂弘之

主事 宮田勝功・山本義浩

技師 水橋公恵

主事 池端清行・米山浩之

(津市教育委員会より派遣)

主事 筒井昭仁 (鈴鹿市教育委員会より派遣)

[平成9年度]

主幹兼調査第二課長 山田 猛

主査兼第三係長 本堂弘之

主事 宮田勝功

技師 西村美幸・水橋公恵

主事 池端清行・米山浩之

(津市教育委員会より派遣)

主事 筒井昭仁 (鈴鹿市教育委員会より派遣)

[平成10年度]

主幹兼調査第二課長 吉水康夫

主査兼第三係長 本堂弘之

主事 宮田勝功

技師 西村美幸

主事 村木一弥・山口 格

(津市教育委員会より派遣)

[平成11年度]

主幹兼調査第二課長 吉水康夫

主幹 新田 洋

主査兼第三係長 本堂弘之

技師 川畑由紀子

主事 山口 格 (津市教育委員会より派遣)

[平成12年度]

主幹兼調査第二課長 吉水康夫

主幹 新田 洋

主査兼第三係長 森川常厚

技師 川畑由紀子

臨時技術補助員 川崎志乃・瀬野弥知世

[平成13年度]

主幹兼調査第二課長 新田 洋

主査兼第二係長 本堂弘之

主事 川合圭子・中川 明・東 敬義

技師 川畑由紀子

臨時技術補助員 川崎志乃・瀬野弥知世

### 3 調査の経過

六大B遺跡では、分布調査の結果を受けて昭和63年度に範囲確認調査を実施した。範囲確認調査は、20mピッチで打たれた道路のセンター杭を基準に道路中央と、その両側（六大B遺跡付近ではほぼ南北に道路が通るため、西側と東側とになる）に4m×4mの試掘坑を設定して行った。各試掘坑は、センター杭ナンバー（六大B遺跡はNo.700～No.800）とC（中央）・W（西）・E（東）の組み合わせで、例えば「750C」などと表記した。一部に未買収の用地があることから、試掘坑は31箇所となった。

範囲確認調査は、昭和63年5月25日～7月6日に実施し、溝・柱穴・土坑・住居跡等の遺構や土師器・須恵器・山茶碗等の遺物を検出した。この時点で、古墳時代後期から中世の複合遺跡であると考え、24,600㎡を本調査対象とした。津関線（当時）から毛無川までの間延長約500mに及ぶ。

本調査は、平成2年度から開始した。平成2年度は津関線沿いのA地区と毛無川北岸のH地区を除いた17,525㎡を対象に、4月26日～平成3年3月15日に実施した。B～G地区をB～DとE～Gの2つに分け2班体制で、中央のD・Eから北と南にむけて同時に調査を進行させた。途中、8月11日にD・E地区で、12月15日にC・F地区で現地説明会を行い、それぞれ250名・230名の参加を得た。全体の測量は航空測量によった。平成3年度は、H地区2,800㎡の本調査を5月7日～9月3日に行い、引き続き、B～F地区の補完調査としてパイロット道

部分620㎡の調査を10月16日～12月4日に行った。12月25日には補完調査部分を対象に、橋垣内遺跡・大古曾遺跡とともに現地説明会を開催し、80名の参加を得た。測量はH地区、補完調査地区とも航空測量とした。H地区では1/100の図面のみの作成とした。補完調査地区では平成2年度調査の図面との合成図を作成した。平成4年度には、新たに計画された、本線を横切る2本の農道の地下道部分をI地区として1～4の4ヵ所で調査をした。測量は、やはり航空測量とし12月26日に実施した。1/50と1/100の図面を作成したが、本線部分との合成図は作成しなかった。また、同日現地説明会も行い、80名の参加を得た。

### 4 調査の方法

#### (1) 遺跡名

当該遺跡の名称は「六大B遺跡」である。県道津関線をはさんだ北側には「六大A遺跡」が所在する。このふたつの遺跡は、別々に台帳が作成されて登録されており、行政上別遺跡として取り扱われる。

今回の六大B遺跡の調査区は、B地区、C地区、…I地区に分けられる。これらは本調査範囲を水路や畦畔、道などにより便宜上任意に分けたものである。「六大B遺跡（A地区）」の報告書で「調査区割り」と呼んだものである。遺物ラベルの「遺跡名」の欄にはこの地区名が「六大B遺跡」に次いで記入される。（ex. 六大B遺跡C地区 または六大B遺跡C）

なお、I地区は2本の地下道のスロープ部分であり、4ヵ所に分かれるため、1～4の枝番を付して、I-1などと記述してある。

#### (2) 地区設定

上記のB～I地区とは別に、アルファベット1文字で大地区、アルファベット1文字と算用数字の組み合わせで小地区を設定した。

大地区の設定方法は、国土法による国土座標第VI座標系を基準としている。X=-137,000～X=-137,600の間を100m単位で6等分し、Y=45,400～Y=45,700の間を100m単位で3等分して100m四方の正方形を1区画とした。東西3区画・南北6区画の計18区画を設定した。地区名は、アルファベ



ットの大文字をあて、北西角をAとし東へB・C、北から2列目を西から東へD・E・F、……最終の南東角（6列目東端）をRとした。これで、中勢道路にかかる調査範囲は、六大B遺跡A地区も含め、すべて網羅する。規則性を保つために600m×300mの長方形区画内を大地区割りしたため、A・O・Q・Rの大地区は調査範囲外である。

この大地区名は六大B遺跡の中勢道路調査区固有のものである。北に隣接する六大A遺跡では、国土座標を使った100mメッシュは同じであるがABC…の大地区名はまた別個に割り振られている。六大B遺跡の津市教育委員会調査区と、南に隣接する橋垣内遺跡の中勢道路調査区には大地区割は用いられていない。

小地区の設定方法は、大地区の1区画100m四方を東西・南北とも4m毎に区切って25等分し、625の4m四方のグリッドとしている。そして、北西角のグリッドを基準として、北から南へアルファベットA～Yを、西から東へ算用数字1～25をあてた。その組み合わせでA1、A2…A25、B1…Y24、Y25などと表記し各グリッドの小地区名とした。

地区名は「大地区名」－「小地区名」と書き、間にダッシュを入れる。（e x. H-M15）なお、アルファベットはすべて大文字であるが、手書きの場合、UはVとの区別を明確にするため、Uをuと書き表している場合もある。

### (3) 図面・写真等

現場で作成した資料には、実測図・写真・遺構カード及び遺構略測図・調査日誌・航空測量図面がある。

実測図は原則手描きである。大きく分けて個別遺構実測図・遺物出土状況図・調査区土層断面図とがある。個別遺構実測図と遺物出土状況図には、平面図・断面図または断面見通し図・遺構の土層断面図等がある。

これらの図は、必要に応じて作成されている。縮尺は、個別遺構実測図が1/10または1/20、遺物出土状況図が原則1/10、調査区土層断面図が1/20である。

図面には、本調査の期間平成2～4年度を通して001～の3桁の番号を付け、別に図面一覧表を作成して検索できるようにしている。

写真は、モノクロネガフィルムとカラーリバーサルフィルムを用い、35mmとブローニー、必要に応じて4×5で撮影した。適宜35mmカラーネガフィルムでスナップも撮影した。写真は当センターの整理方法に従ってアルバムやスライドホルダー等に収め、カット毎に内容を記入した一覧表を作成して添付している。また、報告書に掲載したカットは、アルバムの該当箇所に写真図版の番号を記入し、掲載写真のみの一覧表を作成した。

遺構カードは、B5判の用紙に遺構検出時の状況を略測して1/40で記入したものである。調査区内の小地区（4m×4m）毎に1枚作成した。調査区内であっても、遺構の全くない小地区についてはカードを削除したものもある。

カードには遺構の略測図だけでなく、切り合い関係、埋土の色、遺物取り上げ時の遺構番号、特筆すべき遺物等が記入されている。また、上層遺構の埋土を除去した後に検出された遺構が赤色等で記入されている。六大B遺跡の場合は、B地区・C地区…の別に表紙をつけて保管されている。

遺構略測図は、遺構カードをもとに1/100に手描きで縮小した図面である。実測図とともに図面番号を付して保管している。

調査日誌には、調査の進捗、特筆すべき遺構や遺物の検出、来訪者、などなど調査担当者が現地調査期間中に必要としたことを記入した。六大B遺跡の調査ではB4判横長の用紙を使っている。調査単位毎に作成したため、B～D地区で1冊、E～G地区で1冊、補完調査区で1冊、H地区で1冊、I地区で1冊となっている。

航空測量図面は、業者に委託して作成した。平成2年度調査のB～G地区は一括発注のため一連の図面であり、翌年度には補完調査区をそれに接合した図面を作成した。H地区とI地区はそれぞれ別個の図面として作成した。

航空測量図面には、1/50の遺構図・等高線図・平面図、1/100の遺構図・等高線図・平面図がある。H地区については1/100の図面のみ作成した。それぞれ原図、第二原図、青焼き製本したものがある。

航空測量関係の資料としては、図面のほかに、密着焼写真、標定図、測量成果簿、ヘリコプターから

撮影した遺跡の斜め写真（4×5 モノクロネガ及びカラーリバーサル）がある。

#### (4) 遺物整理

出土遺物には、土器・陶磁器等のほか、石器・石製品、金属製品（銭貨等）、木製品・漆器がある。このうち木製品・漆器を除く出土遺物は、洗浄・注記したあと、実測すべき遺物とそうでないものに分けた。実測されない遺物は、遺構ごとに袋詰めし、コンテナに収めて「B遺物」として収蔵している。コンテナには「※1、※2 …」の箱番号がふっており、別に一覧表を作成した。

遺物実測図は、実測すべき遺物として選別されたものについてのみ作成した。原則として遺構別にまとめてあるが、一部ことなる場合もある。遺物実測図面1枚毎に、遺構図面とは別に001～の3桁の番号をふってある。また、1枚の図面に載せている個々の遺物実測図には01～の2桁の番号をふってある。この合計5桁の数字は登録番号（通称Rナンバー）と呼ばれる。（ex. R123-04 Rは略され

る場合もある）

この登録番号は、該当遺物にも同じ番号が注記され、ラベルに記入され、さらにその遺物の入った紙箱にも付けている。報告書に掲載された場合には報告書の図と同じ番号（図版番号）を、ラベルと紙箱に赤字で記入している。

こうした遺物は、報告書番号順にコンテナにならべて入れられている。コンテナには、遺跡名・遺構名・箱番号等とともに図版番号何番から何番の遺物が入っているかを、1～5というように記入したシールを貼り付けてある。箱番号はおおむね図版番号を追う形で付けてある。登録番号のみの遺物（実測をしたが報告書には掲載しなかった遺物）や参考遺物（実測はしなかったが参考のため実見することがあると考えた遺物）はそのあとにつけて箱番号を付けた。

収蔵は「A収蔵」として、箱番号順に行われている。図版番号順の一覧表を作成し、報告書非掲載の一覧表とともに保管している。

## II 位置と環境

### 1 地理的環境

六大B遺跡は、志登茂川とその支流である毛無川に挟まれた台地の東端に立地する。行政的には三重県津市大里窪田町字出口ほかとなる。津市一身田町の西方にあたる。

六大B遺跡の立地する台地は、南と東に向かって緩やかに下がる洪積台地である。東側は志登茂川の沖積地にむかって急激に落ち込む。その比高差は県道がJR紀勢本線をまたぐ地点で約6mである。一方、ほぼ南北に細長い調査区の最高所は県道に接する付近のA地区の標高11.8m。最も低いところは毛無川に接するH地区で標高約6.1mである。その間の調査区の延長は約500mなので1.1%の勾配となる。東西方向では、I-1西端とI-2東端・I-3西端とI-4東端の比高差がいずれも約3m、距離が

それぞれ約160m・200mで勾配は1.5～1.9%となる。

この台地は毛無川の周辺で一端沖積地へと変わったあと、その西側では奄芸層群からなる丘陵（見当山丘陵）へと連なる。起伏が激しい複雑な丘陵である。さらにその西には安濃川の沖積地がひろがる。北側でも、志登茂川の沖積平野へと落ち込んだ後、やはり奄芸層群の丘陵となる。志登茂川と中ノ川の間広がるこの丘陵には須恵器古窯跡が多数確認されている。

### 2 歴史的環境

六大B遺跡(1)は、弥生時代から近世に至る複合遺跡である。遺物だけをみればチャート製のナイフ形石器がA地区<sup>①</sup>で出土している。ナイフ形石器は本遺





1. 六大B遺跡   2. 大古曾遺跡   3. 東浦遺跡   4. 橋垣内遺跡   5. 大里西沖遺跡   6. 長遺跡   7. 山籠遺跡   8. 山王遺跡
9. 川北遺跡   10. 六大A遺跡   11. 中黨遺跡   12. 墓の谷1号墳   13. 徳居古窯跡群   14. 窪田大垣内遺跡   15. 安養院跡
16. 南所遺跡   17. 三行城跡   18. 千里ヶ丘遺跡   19. 東豊野遺跡   20. 門脇北古墳   21. 森山東遺跡   22. 太田遺跡   23. 松ノ木遺跡
24. 納所遺跡   25. 上津部田城跡   26. 峯治城跡

第2図 遺跡位置図 (1:50,000) (国土地理院 1:25,000 棕本・白子・津西部・津東部)





第3図 六大B遺跡周辺地形図

跡の南、毛無川の右岸丘陵裾に位置する大古曾遺跡<sup>②</sup>(2)からも頁岩製のものが出土している。また、北方の東浦遺跡<sup>③</sup>(3)や芸濃町の北浦A遺跡では尖頭器がみついている。南に続く橋垣内遺跡<sup>④</sup>(4)では、早期押型文土器が報告されている。遺構としては大里西沖遺跡<sup>⑤</sup>(5)や、芸濃町の大石遺跡<sup>⑥</sup>でみつかった縄文時代中期の竪穴住居がこの周辺では最も古い例である。

周辺の弥生時代の遺構・遺物としては、橋垣内遺跡で中期以降の土器が出土している。見当山丘陵の長遺跡<sup>⑦</sup>(6)・山籠遺跡<sup>⑧</sup>(7)では中期後葉の竪穴住居が見ついている。志登茂川北岸では、山王遺跡<sup>⑧</sup>(8)や川北遺跡<sup>⑨</sup>(9)で中期土器が出土している。また、六大B遺跡の北に隣接する六大A遺跡<sup>⑩</sup>(10)の大溝最下層から弥生後期の土器が、中鳶遺跡<sup>⑪</sup>(11)では竪穴住居と後期の土器が報告されている。

古墳時代になると、川北遺跡・中鳶遺跡で竪穴住居が検出されている。六大A遺跡では、大溝から多種多様の土器・石製品・木製品が出土した。周辺の古墳で調査されているのは、川北遺跡内の2基と墓の谷1号墳<sup>⑫</sup>(12)である。志登茂川北岸の丘陵には徳居古窯跡群(13)をはじめとした須恵器窯跡群がひろがる。

古代には、六大B遺跡のある台地上の窪田大垣内遺跡<sup>⑭</sup>(14)・橋垣内遺跡・安養院跡<sup>⑮</sup>(15)等で掘立柱建物が多数検出されている。遺物も緑釉陶器・灰釉陶器・円面硯等がみられる。平城宮出土の木簡に「伊世国奄伎郡」「久菩多里私部小□」と記され、「和妙抄」に「窪田郷」とあることから、付近には奄芸郡の郡衙関連の遺跡、ないしは寺院等の存在が想定される。また、千里ヶ丘遺跡<sup>⑰</sup>(18)からは和銅開珎が



出土している。

中世では、大石遺跡で土坑墓や掘立柱建物が、大里地区内遺跡群の南所遺跡<sup>①</sup>(16)で掘立柱建物がみつ  
かっている。川北城跡は、関から安濃津に至る街道  
を南に望む位置にある。空堀・門・掘立柱建物等が  
検出されている。三行城跡<sup>②</sup>(17)では、南北2つの郭  
とそれを分かつ箱葉研掘りの堀切が見つかっている。

「六大」の地名の由来となった六大院は、15世紀  
中頃の文安年間(1444～1448)に窪田地内に建立  
された。天正8年(1580)には恵日山観音寺(津観  
音)に移転し大宝院と称するようになる。旧地に現  
在も六大院は残るが無住である。

一方、六大B遺跡の東に広がる沖積地の一身田に  
は15世紀後半、専修寺第10世住持真慧によって無量  
寿寺が建設された。現在の高田本山専修寺である。  
それまでには関・椋本を通り、津を經由して伊勢に  
むかう街道が窪田を通るように変わっていた。寺内  
町の成立は16世紀に入ってからと考えられている。

近世には、窪田は「伊勢別街道」の宿場として発  
展する。本陣は調査区の西約400mにあった。今で  
も表門が往時をしのばせる。

註

- ① 本堂弘之『一般国道23号中勢道路(9工区)建設事業に伴う 六大B遺跡(A地区)発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 1999年
- ② 山口 格ほか「II. 大古曾遺跡」『一般国道23号中勢道路建設事業に伴う 大古曾遺跡・山籠遺跡・宮ノ前遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 1995年
- ③ 小林 秀・清水正明「II 津市東浦遺跡ほか」『東浦遺跡・椋本南方遺跡ほか』三重県埋蔵文化財センター 1993年
- ④ 穂積裕昌・宮田勝功『一般国道23号中勢道路(9工区)建設事業に伴う 橋垣内遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 1997年
- ⑤ 伊藤裕偉・穂積裕昌「II 津市大里地区内遺跡群 3. 大里西沖遺跡の調査」『平成3年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財調査報告—第1分冊—』三重県教育委員会 三重県埋蔵文化財センター 1992年
- ⑥ 伊藤徳也・森川幸雄「III 安芸郡芸濃町椋本大石遺跡」『平成3年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財調査報告—

第1分冊—』三重県教育委員会 三重県埋蔵文化財センター 1992年

- ⑦ 池端清行『一般国道23号中勢道路(9工区)建設事業に伴う 長遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2000年  
萱室康光ほか『長遺跡発掘調査報告』津市教育委員会 1989年
- ⑧ 中村光司・穂積裕昌「III. 山籠遺跡」『一般国道23号中勢道路建設事業に伴う 大古曾遺跡・山籠遺跡・宮ノ前遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 1995年
- ⑨ 村木一弥『津市北部サイエンスシティ第1期事業区域内埋蔵文化財発掘調査報告 山王遺跡』津市教育委員会 1998年
- ⑩ 萱室康光「川北遺跡・川北城址調査概要」『三重の古文化52』三重郷土会 1984年
- ⑪ 穂積裕昌『一般国道23号中勢道路(8工区)建設事業に伴う 六大A遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2002年
- ⑫ 萱室康光『中蔭遺跡発掘調査報告』津市教育委員会 1977年  
河北秀実ほか『中蔭遺跡(第2次)発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2002年
- ⑬ 萱室康光『墓の谷1号墳発掘調査報告』津市教育委員会 1976年
- ⑭ 木野本和之『窪田大垣内遺跡(第二次)発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 1997年  
大川勝宏『窪田大垣内遺跡(第3次)・管ヶ谷古墳発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 1997年
- ⑮ 萱室康光ほか『安養院跡発掘調査報告』津市教育委員会 1990年
- ⑯ 小玉道明・村上善雄・金村允人『三重・千里ヶ丘遺跡発掘調査報告』千里ヶ丘遺跡発掘調査団 1968年
- ⑰ 伊藤裕偉「II 津市大里地区内遺跡群 2. 南所遺跡の調査」『平成3年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財調査報告—第1分冊—』三重県教育委員会 三重県埋蔵文化財センター 1992年
- ⑱ 梅澤 裕・山田 猛『三行城跡発掘調査報告』三重県教育委員会 1985年

### Ⅲ 調査の成果

#### 1 基本層序

遺跡は、志登茂川と毛無川に挟まれた河岸段丘および、低地に立地する。今回の調査範囲は、B～H地区では南北約500m、I-3～I-4地区では東西約200mにもおよぶ。B地区の北のA地区を境として、以北は北ないし東に下がっていく地形で場所によっては急斜面もみられる。一方、B地区以南では、南ないし東にむかって緩やかに下がっていく地形である。標高は、北方の津市大里窪田町付近で11.8m、南端の毛無川付近で6.1mである。現況は水田・畑で、およそ6段に削平されている。

B～G地区の基本層序は、I層：表土（耕作土）、II層：包含層、III層：地山である。

表土は水田または畑に伴う耕作土で、厚さ数cm～40cm。場所によっては大変薄い。耕作土の下に床土のみみられる部分もある。

包含層は、褐灰色砂質シルト・暗灰色砂混じりシルト・褐灰色砂混じりシルト・灰褐色細砂・暗褐色シルトなどで、場所によって土質に多少のちがいがみられる。厚さは、B～E地区では20～30cmだが、F・G地区では40～70cmと厚くなる。D地区では、表土が大変薄く、表土直下が地山で、包含層のみみられない部分がある。

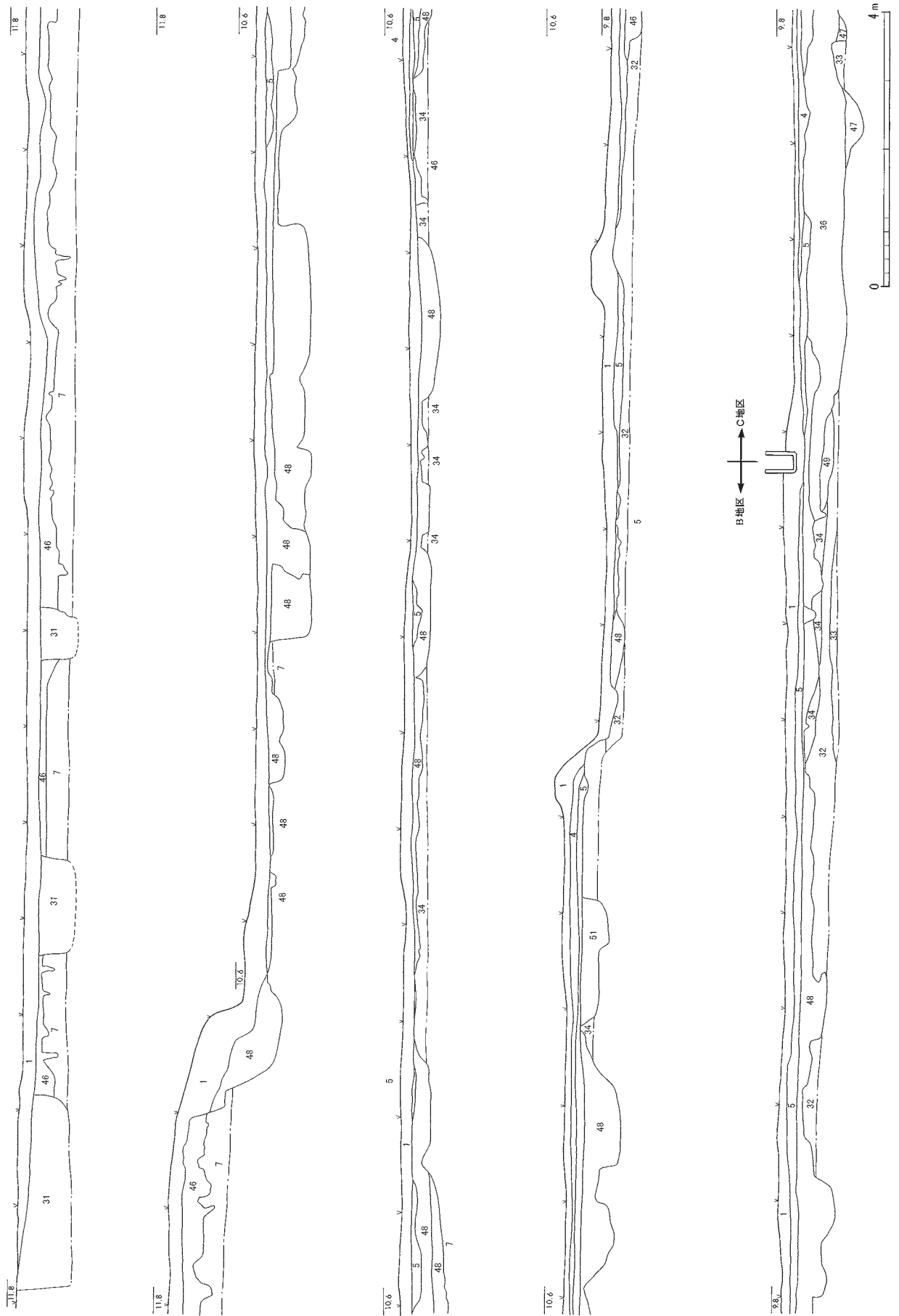
地山は、よく締まった黄灰色粘質シルト・黄灰色シルトなどで、この上面を遺構検出面とした。なお、F～G地区では、黄灰色シルトが徐々に下降し、淡黄灰色砂に変化する。F地区とG地区の一部では、包含層と地山との間に黒ボクが堆積する部分もみられる。

地表から地山上面までの深さは、浅いところで表土直下の数cm。深いところでは、B地区北端で70cm、G地区南端で90cmである。

東西方向の基本層序は、場所による大きな変化はなく、I：表土（耕作土）・床土、II：包含層（褐灰色シルト・暗灰茶褐色土等）、III：地山（黄灰色粘質土・黄灰色粘質シルト等）となっている。なお、I地区では、農道部分の調査であったため、道路に

伴う盛土がなされていた。

H地区は、調査区で最も低い部分で、I層：表土（耕作土）、II層：床土、III層：包含層、IV層：地山（暗黄灰色砂質シルト、検出面）となる。基本層序はG地区以北と大きな変わりはないが、包含層は黒褐色粘質シルトあるいは暗青灰色シルト質粘土等が数層堆積している。

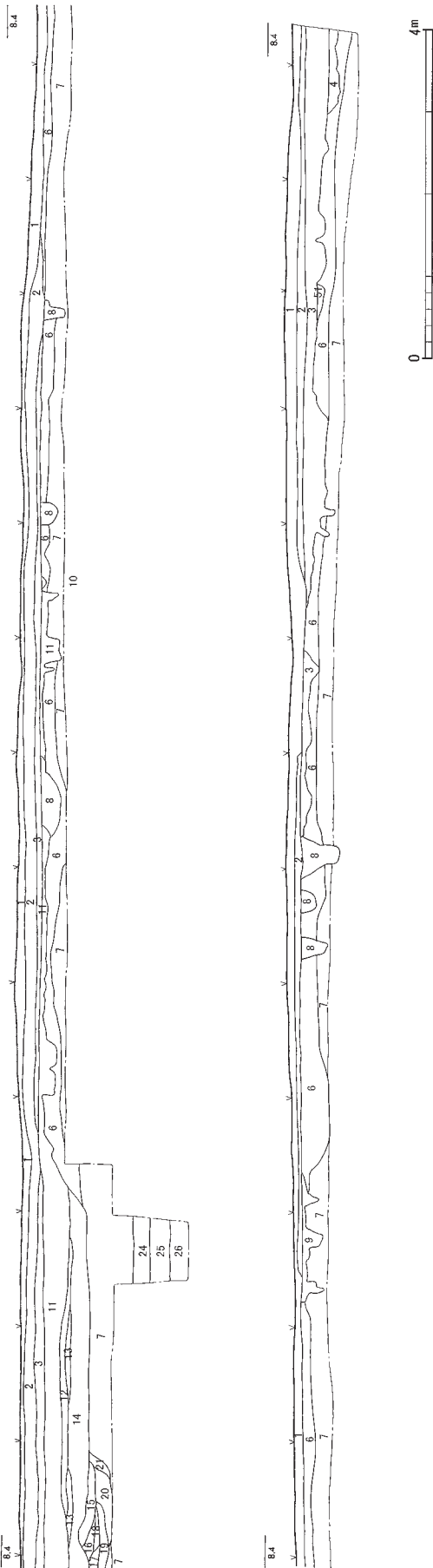


第4图 B~E地区東壁土層断面图① (1:80)



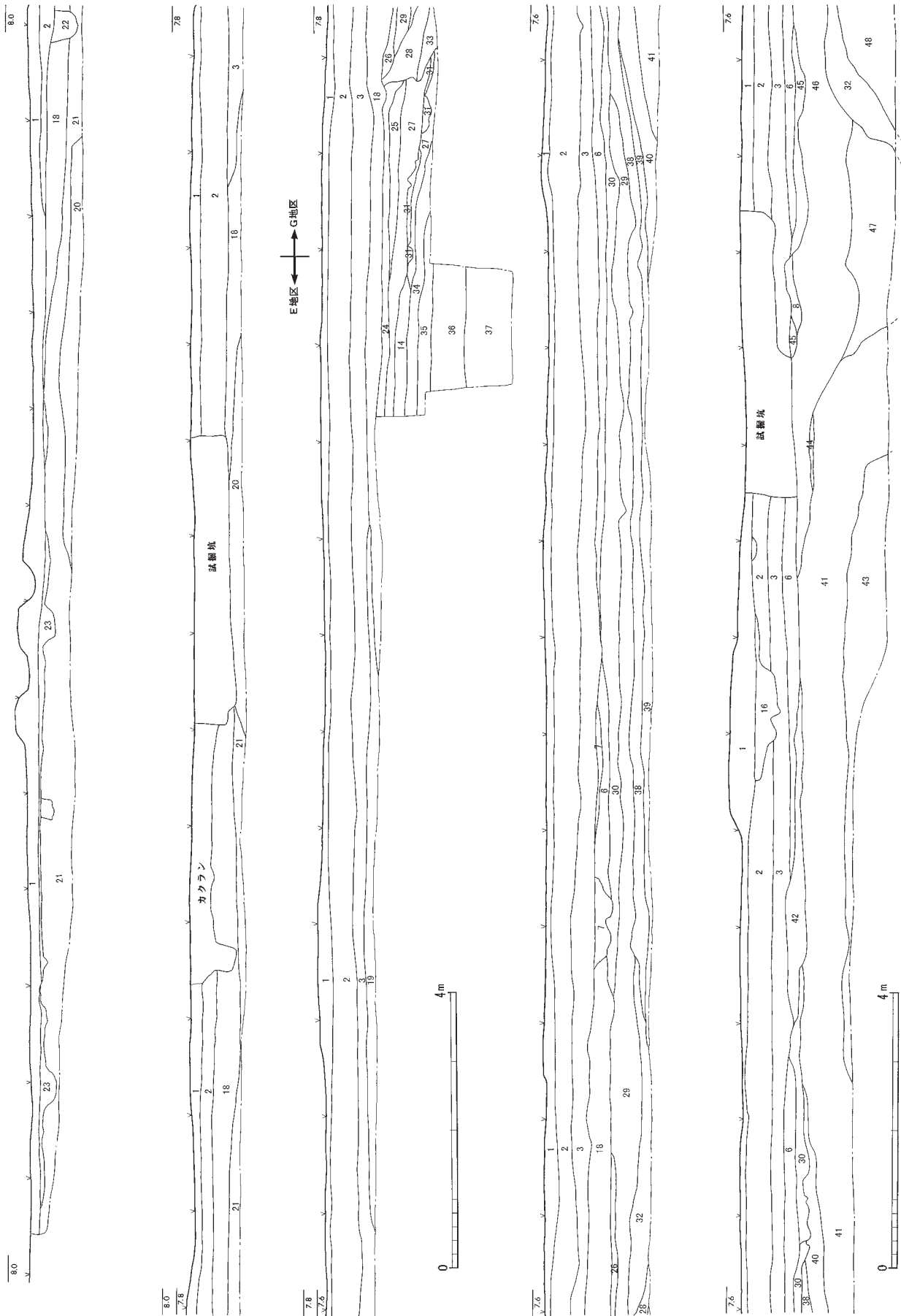
第5図 B～E地区東隣土層断面図② (1:80)





第6図 B～E地区東壁土層断面図③ (1:80)

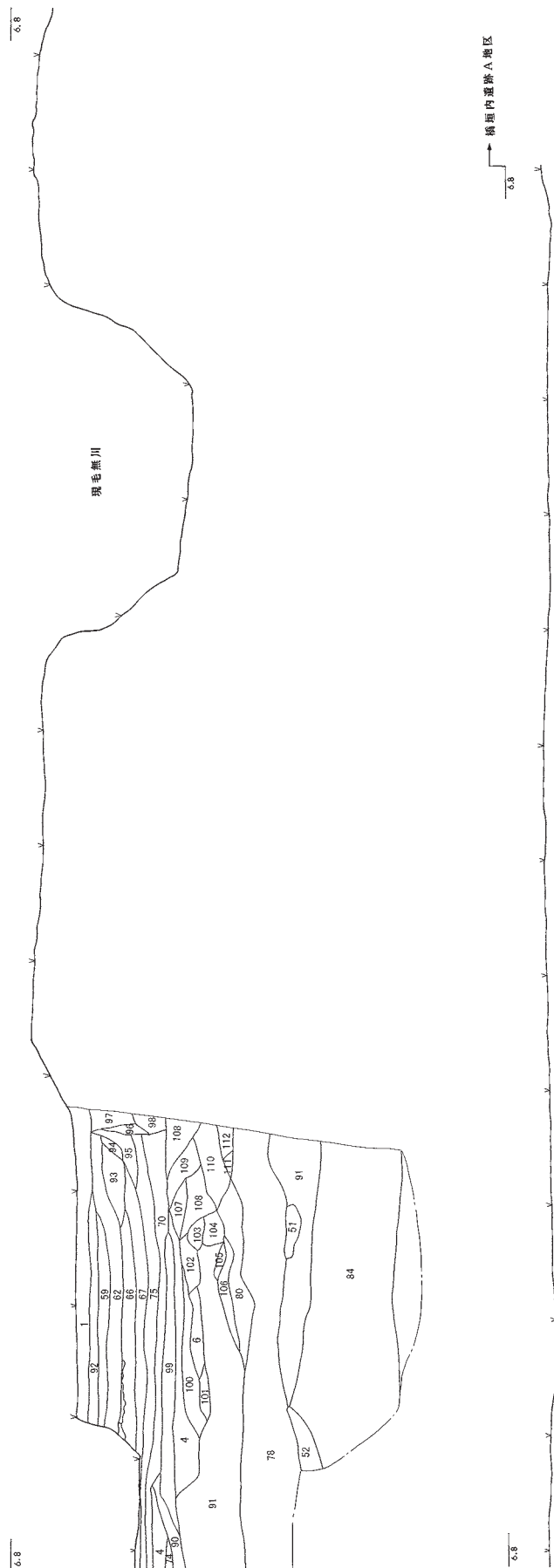
- |   |   |
|---|---|
| <p>1 耕作土<br/>2 褐灰色砂質シルト<br/>3 褐灰色砂混りシルト(土器混入、包含層)<br/>4 灰褐色細砂(土器混入、包含層・溝埋土)<br/>5 暗褐色シルト(土器混入、包含層・遺構埋土)<br/>6 黄灰色粘質シルト(地山)<br/>7 黄灰色シルト(地山)<br/>8 黒褐色シルト(遺構埋土)<br/>9 灰黒褐色シルト(遺構埋土)<br/>10 黒木ク<br/>11 暗褐色色砂混りシルト<br/>12 暗褐色細砂シルト<br/>13 暗褐色細砂<br/>14 黒褐色シルト<br/>15 灰黒褐色粘質シルト(6ブロック混入)<br/>16 褐黒色シルト<br/>17 黒色粘質シルト(7土粒混入)<br/>18 暗灰褐色礫混り粗砂<br/>19 褐黒色粘質シルト<br/>20 灰褐色礫混り粗砂<br/>21 灰褐色シルト(7土粒混入)<br/>22 黒色シルト(7土粒混入)<br/>23 黒っぽい黄褐色砂質シルト(地山面のよごれか)<br/>24 淡灰褐色砂礫(直径3mm以下)<br/>25 淡灰褐色粗砂<br/>26 淡灰褐色砂礫(亜角礫、直径10mm以下)</p> | <p>27 黄灰色粘土質シルト(14土斑状混入)<br/>28 淡黒褐色土(7混入)<br/>29 黒褐色粘土(遺構埋土)<br/>30 黒褐色粘土(6混入、遺構埋土)<br/>31 擾乱<br/>32 黄灰色砂<br/>33 褐灰色砂礫(直径3～10mm礫、亜角礫、Max直径20mm)<br/>34 黄灰色砂質シルト<br/>35 黄灰色砂礫(亜角礫直径10mm以下)<br/>36 黒灰色シルト(土器混入、包含層・井戸10上層)<br/>37 黒灰色粘土質シルト(井戸10中層)<br/>38 暗褐色シルト(井戸10下層)<br/>39 淡灰色砂質シルト<br/>40 黒灰色シルト(6混入、土坑10埋土)<br/>41 黒灰色シルト(6大量混入・土坑10埋土)<br/>42 暗黒灰色粘土質シルト(7混入)<br/>43 暗黒灰色粘質シルト(7混入)<br/>44 暗黒灰色粘土<br/>45 盛土<br/>46 7・12・38がポール状に混入(木の根による擾乱)<br/>47 暗灰色シルト混り砂礫<br/>48 7・36・38がポール状に混入<br/>49 褐色砂質シルト(36がポール状に混入)<br/>50 褐色砂混りシルト(7・33がレンズ状に混入)<br/>51 テータなし</p> |
|---|---|



第7図 F～H地区東壁土層断面図①(1:80)



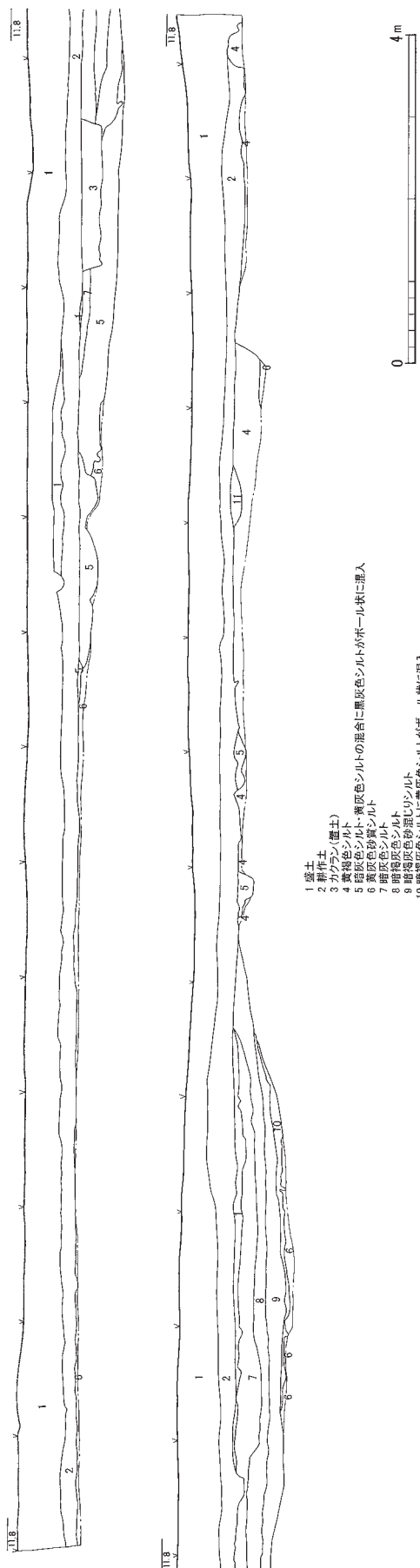
第8図 F～H地区東壁土層断面図②(1:80)



第9図 F～H地区東壁土層断面図③(1:80)

- |  |   |   |
|--|---|---|
| <p>1 耕作土<br/>2 褐色色砂質シルト(包含層)<br/>3 暗灰色砂質シルト(包含層)<br/>4 淡黄色砂質シルト(包含層)<br/>5 淡黄色粘土質シルト<br/>6 淡黄色粘土質シルト<br/>7 淡黄色粘土質シルト<br/>8 淡黄色粘土質シルト<br/>9 淡黄色粘土質シルト<br/>10 淡黄色粘土質シルト<br/>11 淡黄色粘土質シルト<br/>12 淡黄色粘土質シルト<br/>13 旧耕土<br/>14 赤褐色粘土質シルト<br/>15 暗褐色粘土質シルト<br/>16 暗褐色粘土質シルト<br/>17 暗褐色粘土質シルト<br/>18 赤褐色粘土質シルト<br/>19 赤褐色粘土質シルト<br/>20 赤褐色粘土質シルト<br/>21 赤褐色粘土質シルト<br/>22 赤褐色粘土質シルト<br/>23 赤褐色粘土質シルト<br/>24 赤褐色粘土質シルト<br/>25 赤褐色粘土質シルト<br/>26 赤褐色粘土質シルト<br/>27 赤褐色粘土質シルト<br/>28 赤褐色粘土質シルト<br/>29 赤褐色粘土質シルト<br/>30 赤褐色粘土質シルト<br/>31 火山灰(黄色)※A.T(峰島丹沢火山灰の堆積)<br/>32 暗褐色粘土質シルト<br/>33 暗褐色粘土質シルト<br/>34 暗褐色粘土質シルト<br/>35 暗褐色粘土質シルト<br/>36 暗褐色粘土質シルト<br/>37 淡黄色粘土質シルト</p> | <p>38 淡黄色粘土質シルト<br/>39 淡黄色粘土質シルト<br/>40 暗褐色粘土質シルト(淡黄色粘土質シルト混入、一部黄褐色)<br/>41 暗褐色粘土質シルト(淡黄色粘土質シルト混入、一部黄褐色)<br/>42 暗褐色粘土質シルト<br/>43 暗褐色粘土質シルト<br/>44 暗褐色粘土質シルト<br/>45 暗褐色粘土質シルト<br/>46 暗褐色粘土質シルト<br/>47 暗褐色粘土質シルト<br/>48 暗褐色粘土質シルト<br/>49 暗褐色粘土質シルト<br/>50 暗褐色粘土質シルト<br/>51 暗褐色粘土質シルト<br/>52 暗褐色粘土質シルト<br/>53 暗褐色粘土質シルト<br/>54 暗褐色粘土質シルト<br/>55 暗褐色粘土質シルト<br/>56 暗褐色粘土質シルト<br/>57 暗褐色粘土質シルト<br/>58 暗褐色粘土質シルト<br/>59 暗褐色粘土質シルト<br/>60 暗褐色粘土質シルト<br/>61 暗褐色粘土質シルト<br/>62 暗褐色粘土質シルト<br/>63 暗褐色粘土質シルト<br/>64 暗褐色粘土質シルト<br/>65 暗褐色粘土質シルト<br/>66 暗褐色粘土質シルト<br/>67 暗褐色粘土質シルト<br/>68 暗褐色粘土質シルト<br/>69 暗褐色粘土質シルト<br/>70 暗褐色粘土質シルト<br/>71 暗褐色粘土質シルト<br/>72 暗褐色粘土質シルト<br/>73 暗褐色粘土質シルト<br/>74 淡黄色粘土質シルト</p> | <p>75 淡黄色粘土質シルト(黒褐色強粘土質シルトよりややシルトに近い)<br/>76 淡黄色粘土質シルト<br/>77 淡黄色粘土質シルト<br/>78 黄褐色粘土質シルト<br/>79 黄褐色粘土質シルト<br/>80 黄褐色粘土質シルト<br/>81 暗褐色粘土質シルト<br/>82 暗褐色粘土質シルト<br/>83 暗褐色粘土質シルト<br/>84 暗褐色粘土質シルト<br/>85 暗褐色粘土質シルト<br/>86 暗褐色粘土質シルト<br/>87 暗褐色粘土質シルト<br/>88 暗褐色粘土質シルト<br/>89 暗褐色粘土質シルト<br/>90 暗褐色粘土質シルト<br/>91 暗褐色粘土質シルト<br/>92 暗褐色粘土質シルト<br/>93 暗褐色粘土質シルト<br/>94 暗褐色粘土質シルト<br/>95 暗褐色粘土質シルト<br/>96 暗褐色粘土質シルト<br/>97 暗褐色粘土質シルト<br/>98 暗褐色粘土質シルト<br/>99 暗褐色粘土質シルト<br/>100 暗褐色粘土質シルト<br/>101 暗褐色粘土質シルト<br/>102 暗褐色粘土質シルト<br/>103 暗褐色粘土質シルト<br/>104 暗褐色粘土質シルト<br/>105 暗褐色粘土質シルト<br/>106 暗褐色粘土質シルト<br/>107 暗褐色粘土質シルト<br/>108 暗褐色粘土質シルト<br/>109 暗褐色粘土質シルト<br/>110 暗褐色粘土質シルト<br/>111 暗褐色粘土質シルト<br/>112 暗褐色粘土質シルト</p> |
|--|---|---|





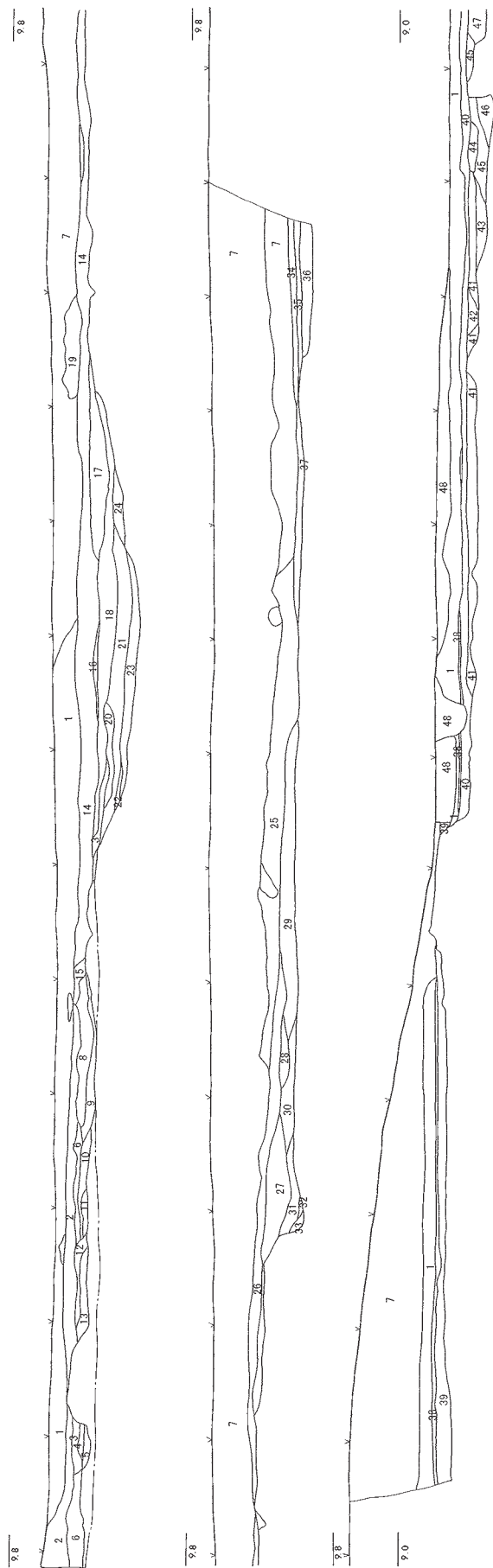
第10図 B地区北壁土層断面図 (1:80)

- 1 耕作土
- 2 耕作土
- 3 カプラン(礫土)
- 4 黄褐色シルト
- 5 黄褐色シルト、黄灰色シルトの混在に黄灰色シルトがボール状に混入
- 6 黄灰色砂質シルト
- 7 黄灰色シルト
- 8 暗緑灰色シルト
- 9 暗緑灰色砂質シルト
- 10 暗緑灰色シルトに黄灰色シルトがボール状に混入
- 11 岩代のカプラン

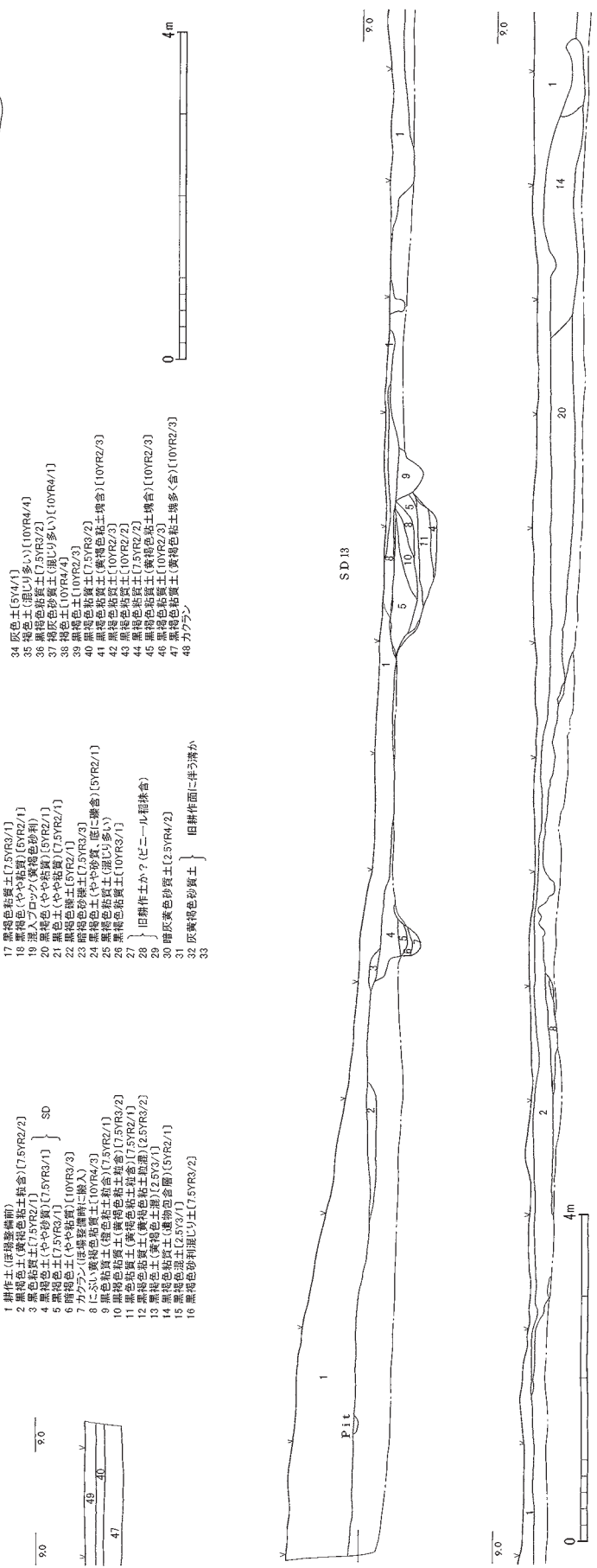


第11図 I-1地区北壁土層断面図 (1:80)

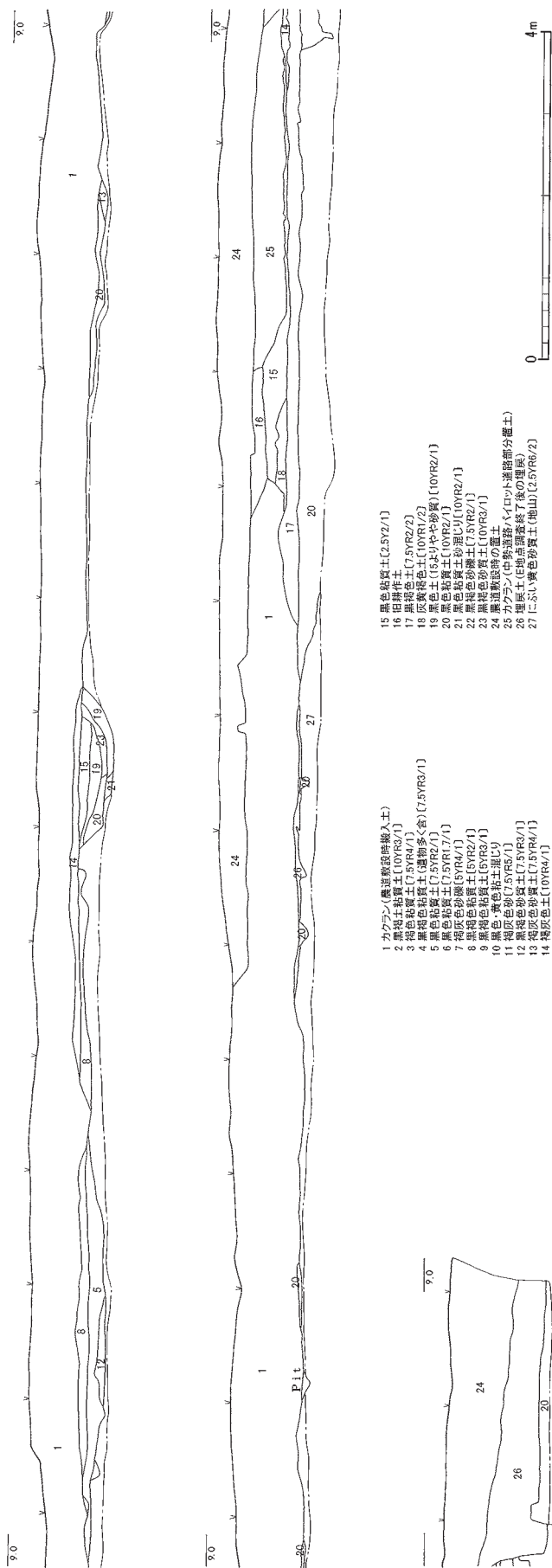
- 1 耕作土
- 2 黄褐色シルト
- 3 黄褐色シルト・礫混じり
- 4 黄褐色シルト・礫混じり
- 5 黄褐色シルト
- 6 黄褐色シルト
- 7 礫



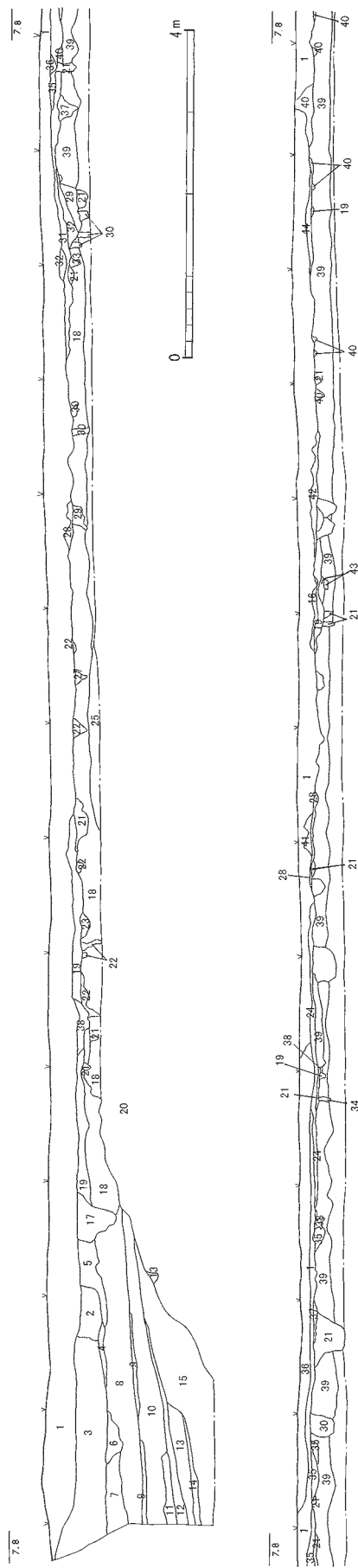
第12図 1-2地区北壁土層断面図(1:80)



第13図 1-3地区北壁土層断面図①(1:80)

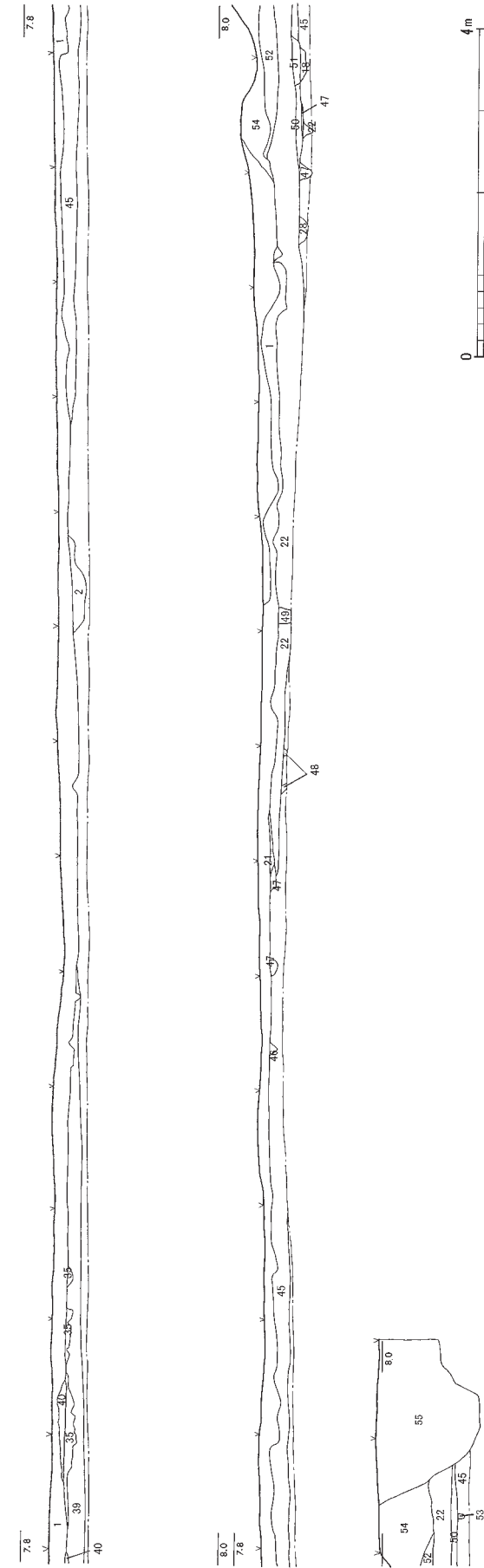


第14図 1-3地区北隣土層断面図②(1:80)



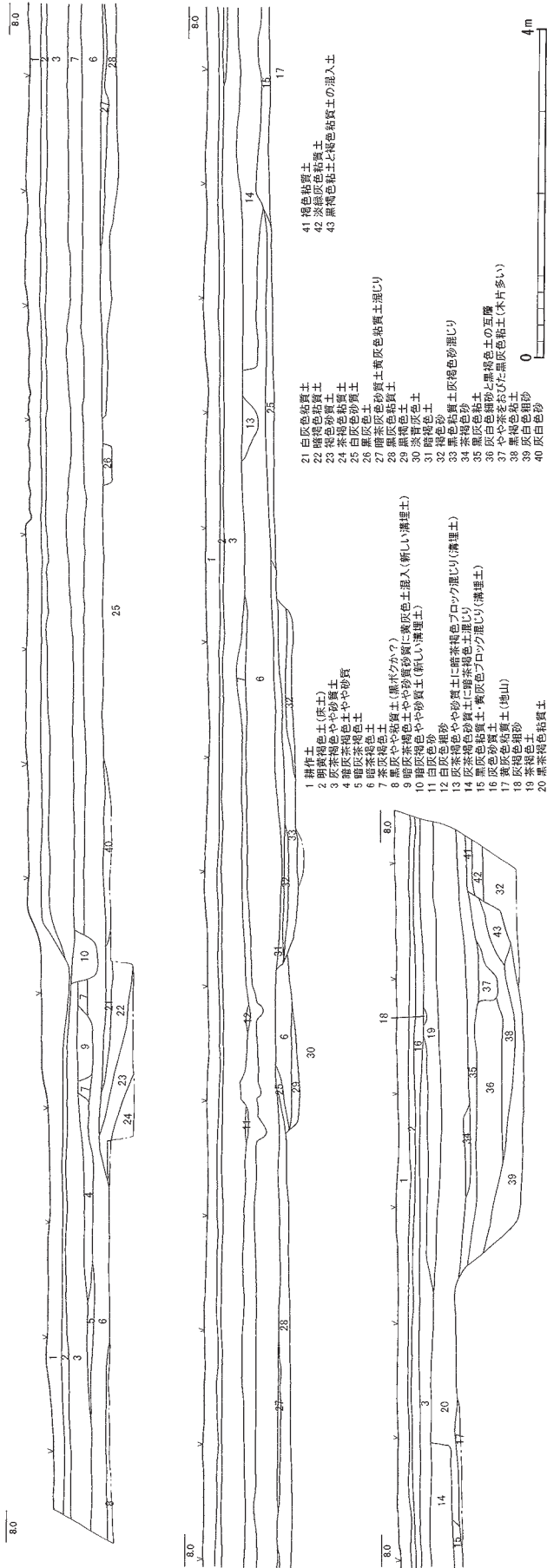
第15図 1-4地区南隣土層断面図①(1:80)



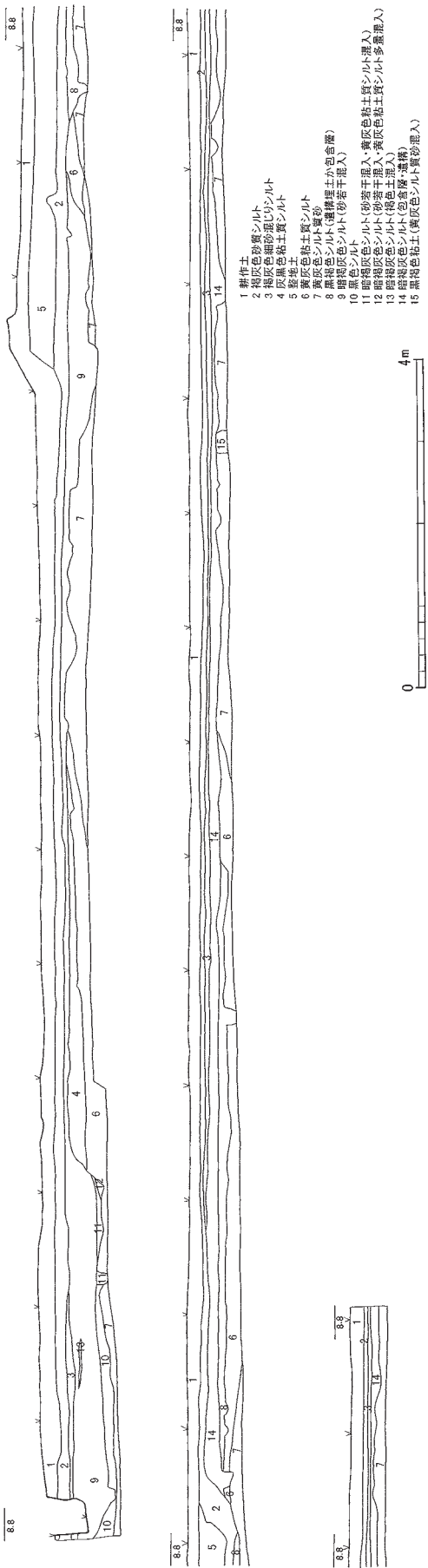


第16図 1-4地区南隣土層断面図② (1:80)

- |   |  |   |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1 耕作土</li> <li>2 カクラシ</li> <li>3 灰色土 (Feしみ)</li> <li>4 黒灰色土</li> <li>5 灰茶褐色土</li> <li>6 褐色土</li> <li>7 暗灰色土 (包含層少量)</li> <li>8 黒色粘土 (10よりやや粗い、包含層)</li> <li>9 暗灰色粘土 (Feしみ柱状)</li> <li>10 黒色粘土 (15よりやや粗く、色も薄い、下部Feしみ)</li> <li>11 黒灰色粘土 (Feしみ)</li> <li>12 暗灰色粘土 (Feしみ)</li> <li>13 黒灰色粘土 (炭化物混じる)</li> <li>14 灰色粘土</li> <li>15 黒色粘土</li> <li>16 暗灰色シルト [7.5YR4/1]</li> <li>17 黒褐色シルトや粘質 [10YR2/2]</li> <li>18 赤黒色粘土質シルト [2.5YR1.7/1]</li> <li>19 黒褐色シルトや粘質 [5YR2/1]</li> <li>20 褐色粘土質シルト [7.5YR4/6]</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>21 黒色粘土質シルト [7.5YR2/1]</li> <li>22 黒色粘土質シルト [7.5YR1.7/1]</li> <li>23 黒色粘土質シルト [7.5YR1.7/1] と 黒褐色粘土質シルト [7.5YR3/2] の混合</li> <li>24 褐色シルト [7.5YR2/2]</li> <li>25 褐色砂 [10YR4/6]</li> <li>26 次層</li> <li>27 黒褐色粘土質シルト [10YR2/5]</li> <li>28 黒褐色シルト [7.5YR2/2]</li> <li>29 黒褐色粘土質シルト [10YR5/6]</li> <li>30 黒色シルト [10YR2/1]</li> <li>31 耕作土・褐色シルト [7.5YR4/4]</li> <li>32 褐色シルト [7.5YR4/4]</li> <li>33 暗褐色シルト [7.5YR3/3]</li> <li>34 黒褐色粘土質シルト [7.5YR3/1]・灰褐色粘土質シルト [7.5YR4/2] の混合</li> <li>35 黒褐色シルト (やや粗い) [7.5YR3/2]</li> <li>36 黒色シルト [5YR1.7/1]</li> <li>37 黒色粘土質シルト [7.5YR2/1]・明黄褐色シルト [10YR6/6] の混合</li> <li>38 褐色シルト [5YR4/1]</li> <li>39 暗褐色シルト [10YR3/3]</li> <li>40 黒褐色シルト [10YR3/2]</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>41 黒色粘土質シルト [7.5YR2/1]・黒褐色シルト [10YR3/2] の混合</li> <li>42 耕作土・黒褐色シルト [10YR3/2] の混合</li> <li>43 黒色粘土質シルト [7.5YR2/1]・黒褐色シルト [10YR3/2] の混合</li> <li>44 褐色シルト (耕土) [7.5YR4/1]</li> <li>45 黄褐色粘土質シルト [10YR5/6]</li> <li>46 黒褐色粘土質シルト [7.5YR1.7/1]・黄褐色粘土質シルト [10YR5/6] の混合</li> <li>47 黒褐色粘土質シルト [7.5YR3/1]</li> <li>48 黒褐色シルト [2.5YR3/1]</li> <li>49 黒色粘土質シルト [10YR1.7/1] に ぶい、黄褐色シルト質砂 [10YR6/9] の混合</li> <li>50 暗赤褐色シルト質粘土 [5YR3/2]</li> <li>51 黒色粘土 [5YR1.7/1]</li> <li>52 赤黒色シルト [7.5YR1.7/1]</li> <li>53 黒色粘土質シルト [2.5YR2/1]</li> <li>54 盛土</li> <li>55 本線埋戻土</li> </ul> |
|---|--|---|



第17図 F地区南隣土層断面図 (1:80)



第18図 D地区南隣土層断面図 (1:80)

## 2 遺構と遺物

### (1) 概要

検出された遺構は、竪穴住居、掘立柱建物、柵列、中世墓、井戸、土坑、溝・自然流路、など多岐にわたる。このうち、竪穴住居2棟、中世墓1基、掘立柱建物93棟、柵列11条、井戸24基、土坑60基、溝・自然流路38条について報告する。時期的には、弥生時代後期初頭（SK3）から幕末（近世土坑群：SK50～60）にわたるが、数の上では古代～中世が多い。

一方、遺物の時期もおおむね遺構の時期と一致し、古代～中世が種類・量とも充実している。特徴としては、緑釉陶器の点数が多いこと、和銅開珎銀銭や石帯が出土していることなどがあげられる。

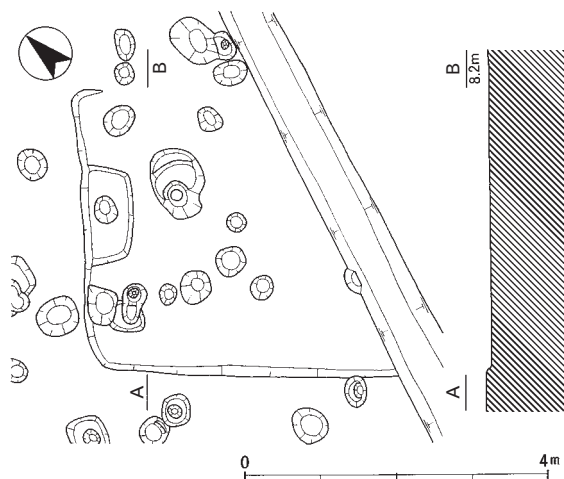
遺構の分布は、掘立柱建物はC～F地区に分布する。特にD・E地区に集中している。ごく大まかにいえば、飛鳥・奈良時代：C・F地区、平安時代前半：D・E地区、平安時代後半：D地区、鎌倉時代：C地区といった傾向がみられる。井戸は、F・H地区にはなく、B・E地区に各1基分布するほかは、地区によるかたよりはみられない。G地区は近世井戸のみである。土坑もH地区を除くB～I地区全体にわたって検出されている。弥生時代の土坑は、B地区に2基、C地区に2基、D地区に1基所在する。溝は、C・E・F・I地区に多く、自然流路は、G地区を中心に検出されている。自然流路は飛鳥奈良～古代のものが多い。F地区を中心とする鎌倉時代の溝は、条理方向に沿ったものである。

### (2) 竪穴住居

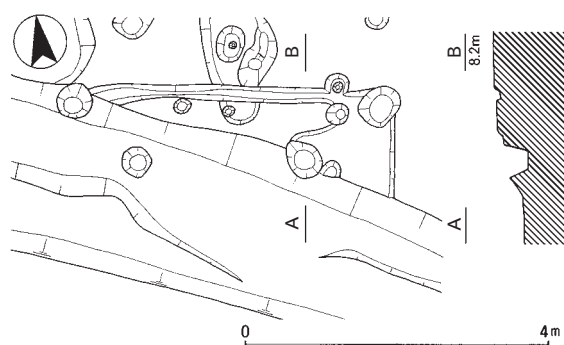
B～Iまでの調査区で検出した竪穴住居はSH1・2の2棟だけである。いずれもE地区に所在する。

SH1 E地区の東端で北西辺全部（3.7m）と南西辺大半（検出長4.1m）を検出した。北コーナーは検出したが、北東辺（推定検出長2.5m）は削平されていた。検出面から住居床面までの深さは8cm。出土遺物はないが、形状から飛鳥時代まで溯ると推定した。

SH2 E地区の南端で北辺の大半（検出長3.8m）と東辺の一部（同1.2m）を検出した。北辺西端部では南に向かってカーブしているところから、北辺のほぼ全体が検出できていると考えられる。SH2の南の大部分はSD13によって切られている。北東角もピ



第19図 SH1実測図（1：100）

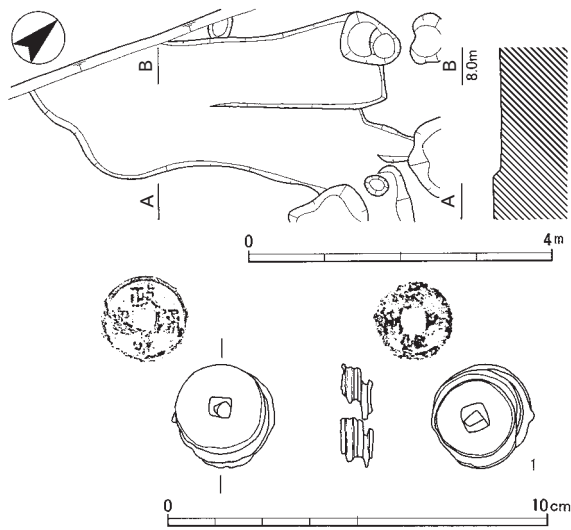


第20図 SH2実測図（1：100）

ットに切られて検出できなかった。検出面から床面まではわずか2～3cmしか残っていなかったが、北辺では周溝と2つの支柱穴が確認できた。支柱穴の間隔は2.3m、周溝は幅20cm、検出面からの深さ9cmである。図化遺物はないが、支柱穴からは宝珠つまみのある須恵器と陶器山茶椀が出土している。陶器山茶椀は混入品と考えられ、須恵器と竪穴住居の形状から飛鳥時代と推定した。

### (3) 中世墓

SX1 F地区の西壁付近で検出した。西端が調査区外になること、北東側と東側に別の土坑が切り込んでいることなどにより全体の形は明らかでないが、南西～北東に長い方形または楕円形と考えられる。ほとんど削平されており、検出面からの深さは5cm程度と大変浅い。出土遺物には六文銭(1)と土器の小片がある。この六文銭の出土から中世墓と判断した。六文銭は6枚が固着しており分離できなかった。最上部の1枚は、「政和通寶」（北宋 1111年初铸）である。全体の重さは14.8g。



第21図 SX1実測図(1:100)、出土遺物実測図(1:2)

#### (4) 掘立柱建物・柵列

掘立柱建物93棟(SB1～93)および柵列11条(SA1～11)の個々のデータについては一覧表を参照されたい。一覧表の中で、SB74とSB87には建て替えが確認されたため、建て替え前をSB74a・SB87a、建て替え後をSB74b・SB87bとした。また、一覧表中の、「概報番号」は、『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報』Ⅲ・Ⅳ・Ⅴによっている。概報Ⅲでは、B～D地区とE～G地区は同時進行で調査されたため、概報の遺構番号は、B～D地区が1番から、E～G地区が500番からとなっている。概報Ⅳ・Ⅴも基本的に同じ概報番号を用いているが、概報Ⅳは、平成3年度に調査区が西に拡張された結果、概報Ⅲに加えて、新しく検出されたり規模が確定されたりしたものが掲載されている。ただし、SB31は、概報Ⅲで掘立57とされたものが、概報Ⅳでは規模が拡張され掘立81と改称されている。改称後の番号のみ表に掲載した。また、概報ⅣのH地区では、掘立柱建物は検出されなかった。概報Ⅴでは、当該年度に調査されたI地区の掘立柱建物が加えられている。年度が異なるため概報の遺構番号は1番からふられている。B～D地区との混同を避けるため、一覧表ではI地区であることを明記している。

以下、主な掘立柱建物・柵列および出土遺物の概略を述べる。

SB1・2 C地区西壁で北東角を確認した。SB1からは土師器杯(2)と皿(3)のほか、製塩土器片が出土している。SB1は平安時代初頭。SB2は出土遺物がないが、SB1と類似した方向であり同時期と推定される。

SB3 C地区西壁で南西角を確認した。須恵器鉢(4)が出土しており、奈良時代と考えられる。

SB4～8・12・13 C地区の西よりで検出した。東側は検出面の落ち込みにより検出できなかった部分が多い。出土遺物(5～14・20)などからいずれも奈良時代と考えられる。SB6～8は総柱建物の可能性がある。

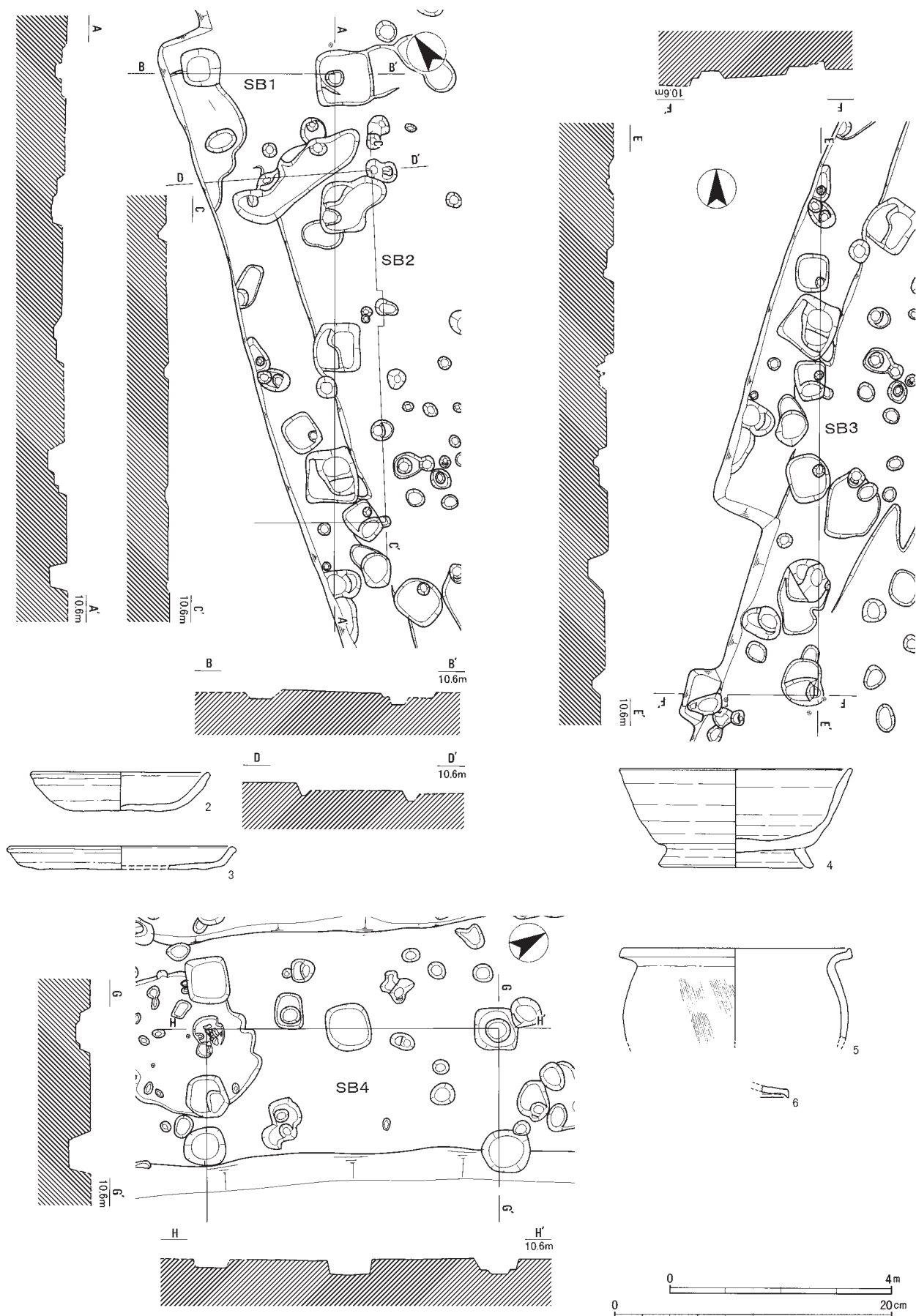
SB9～11 C地区の中央から東よりで検出した。形態と出土遺物からSB9・11は奈良時代と考えられる。陶器山茶椀(16～18)は混入品である。SB10は2面廂(東・南)を持つ。全体にややいびつな平面形である。白磁椀(19)が出土しており、鎌倉時代と考えられる。

SB14～16 SB14はC地区の南西部、SB15・16は南東部で検出した。いずれも総柱建物である。出土遺物は、SB15から土師器鍋口縁部(21)・土錘(22)と凶化できなかったが陶器山茶椀片、SB16から土師器小片がある。いずれも鎌倉時代と考えられる。SB14は、出土遺物はないが、形態から平安時代前半と考えられる。

SB17～20 D地区の中央から東よりで検出した。このあたりから南のE地区にかけては、平安時代前半から後半の掘立柱建物が特に集中する一角である。SB17は、出土遺物はないが、棟持柱2本が確認でき、弥生時代のものと思われる。SB18は、土師器小片が出土しており、形態から鎌倉時代と思われる。SB19・20は、平安時代前半と考えられる。出土遺物はSB20から長胴甕片があるのみである。

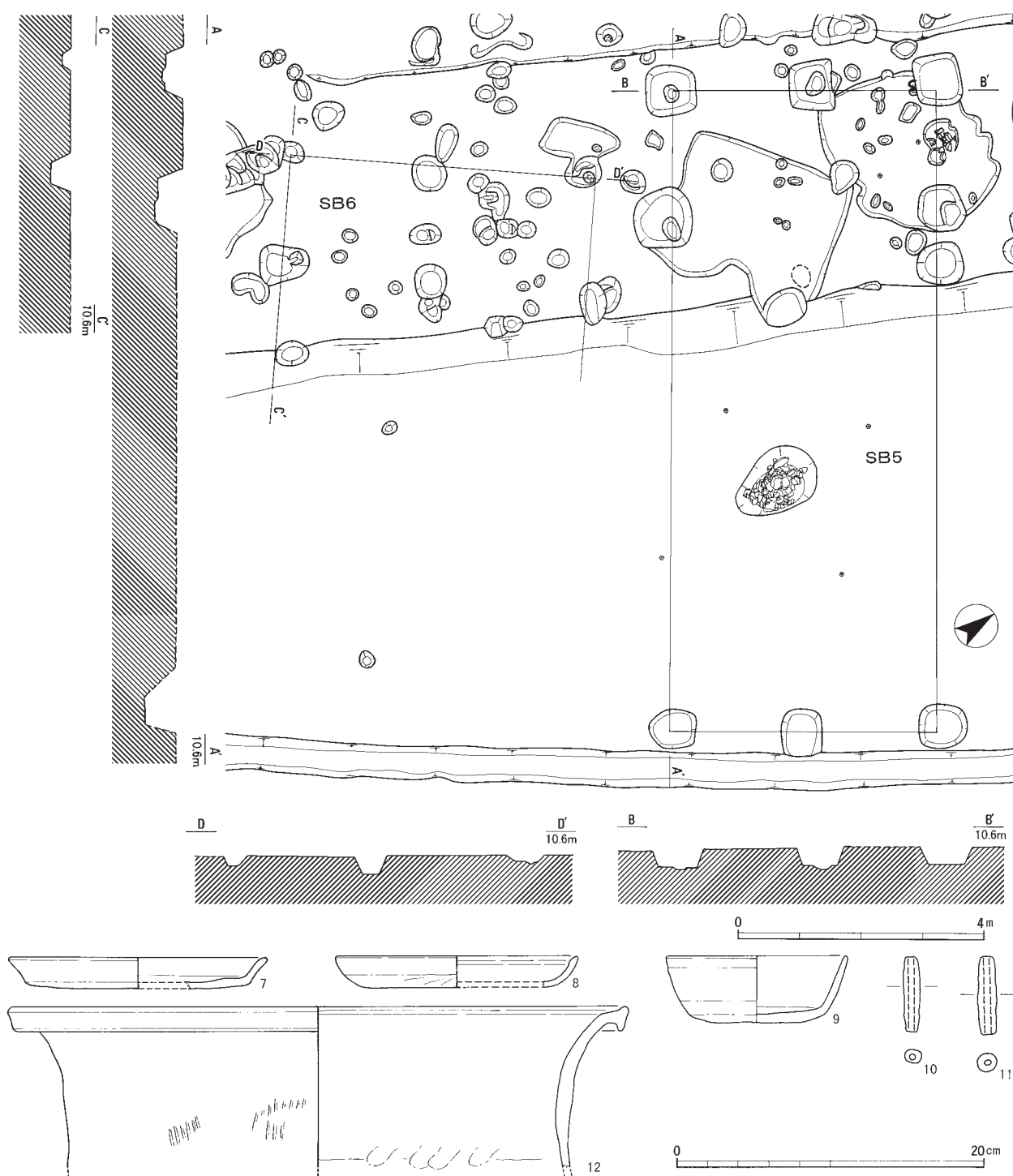
SB21～47 D地区南方に集中している。時期が不明確な3棟を除くと、平安時代の建物ばかりである。平安時代前半と後半の比率はほぼ半々である。

SB25は、集中地区から東にはずれたところにある桁行7間×梁行2間の南北棟である。東西棟の多い中で、ひときわ細長く、目立つ存在である。出土遺物は、凶化できなかったが、土師器・須恵器・灰釉陶器の小片があり、平安時代後半と考えられる。



第22図 SB 1～4 実測図 (1 : 100)、出土遺物実測図 (1 : 4) [2・3 ; SB 1、4 ; SB 3、5・6 ; SB 4]





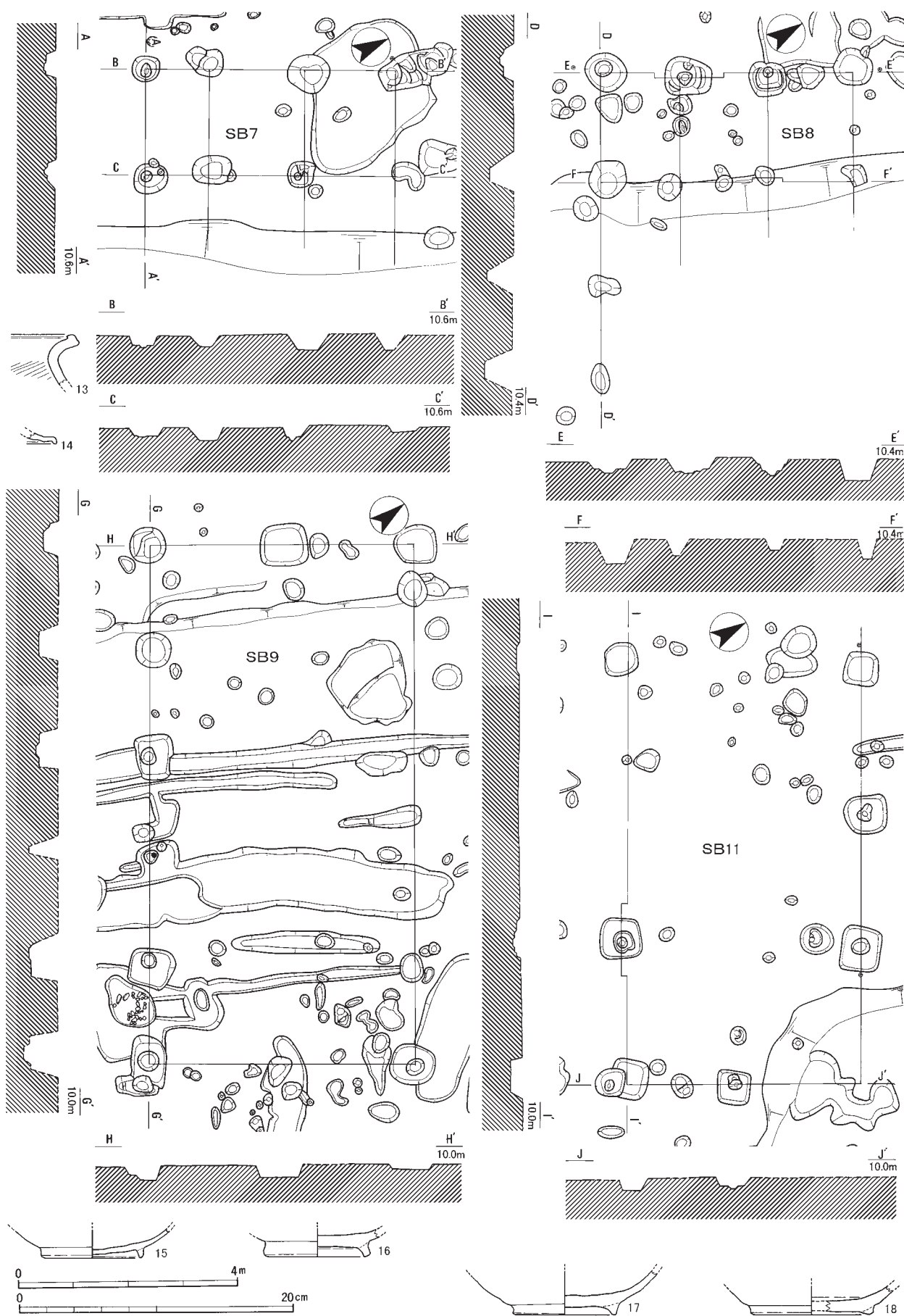
第23図 SB5・6実測図(1:100)、出土遺物実測図(1:4)〔7~11; SB5、12; SB6〕

SB29・38は、それぞれ東・西に1面廂を持つ。SB29から土師器杯(26)と砥石(27)のほか須恵器小片が、SB38から灰釉陶器皿(41)のほか土師器・須恵器・製塩土器の小片が出土している。SB29は平安時代前半、SB38は平安時代後半の建物である。

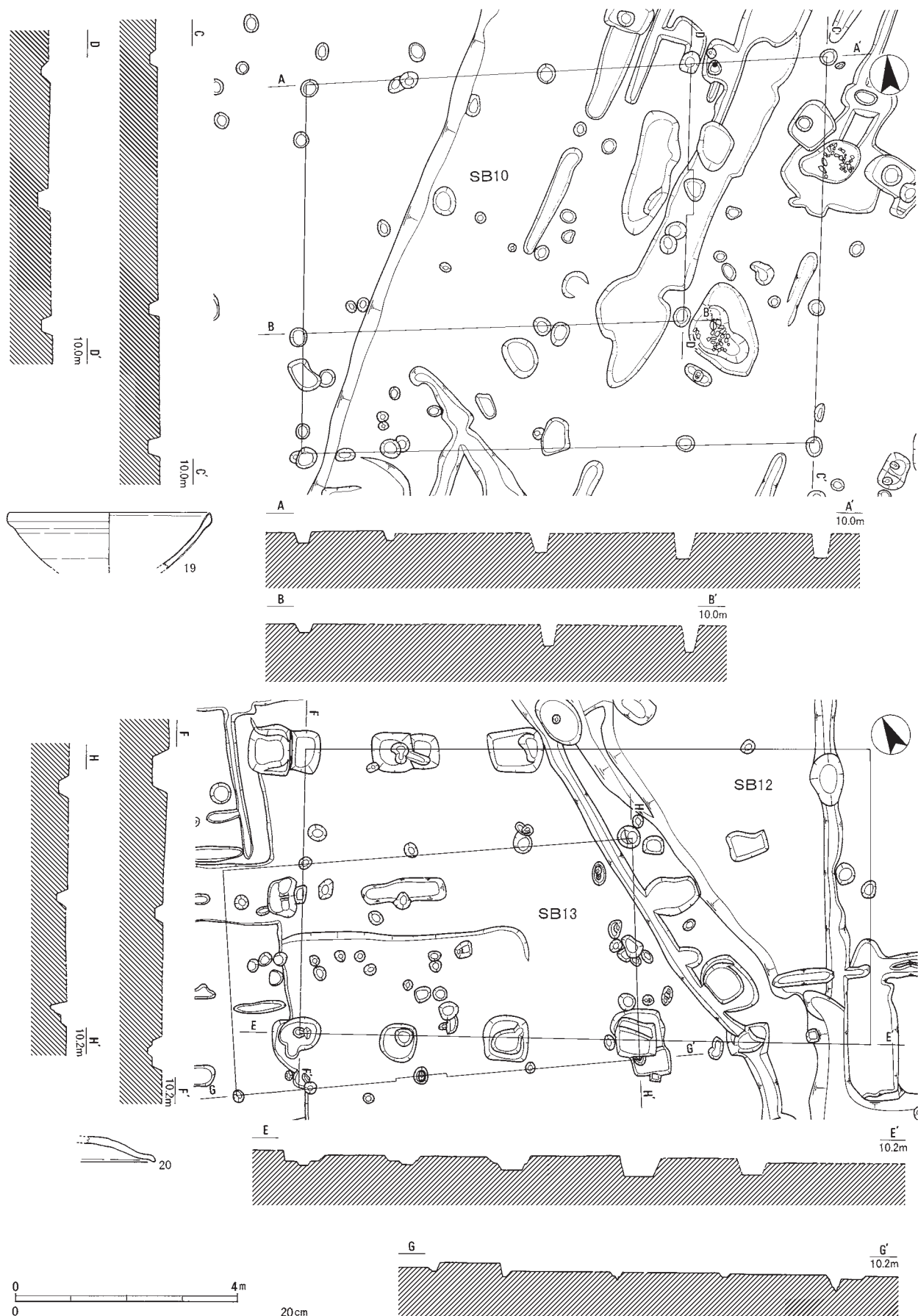
SB43・44は、D地区の掘立柱建物が集中する地区からやや南にはずれたところ、E地区との境付近で確認した。SB43は、桁行3間×梁行2間、東西棟

の総柱建物である。SB44は、桁行が西側2間・東側3間、梁行2間の南北棟である。図化できる出土遺物はないが、SB43からは土師器と陶器山茶碗の小片が出土しており、鎌倉時代と考えられる。SB44からは土師器片が出土しており、奈良~平安時代と思われる。

SB45は、西・北・東の3面に廂を持つ。身舎の桁行5間×梁行3間の東西棟である。土師器小片が出

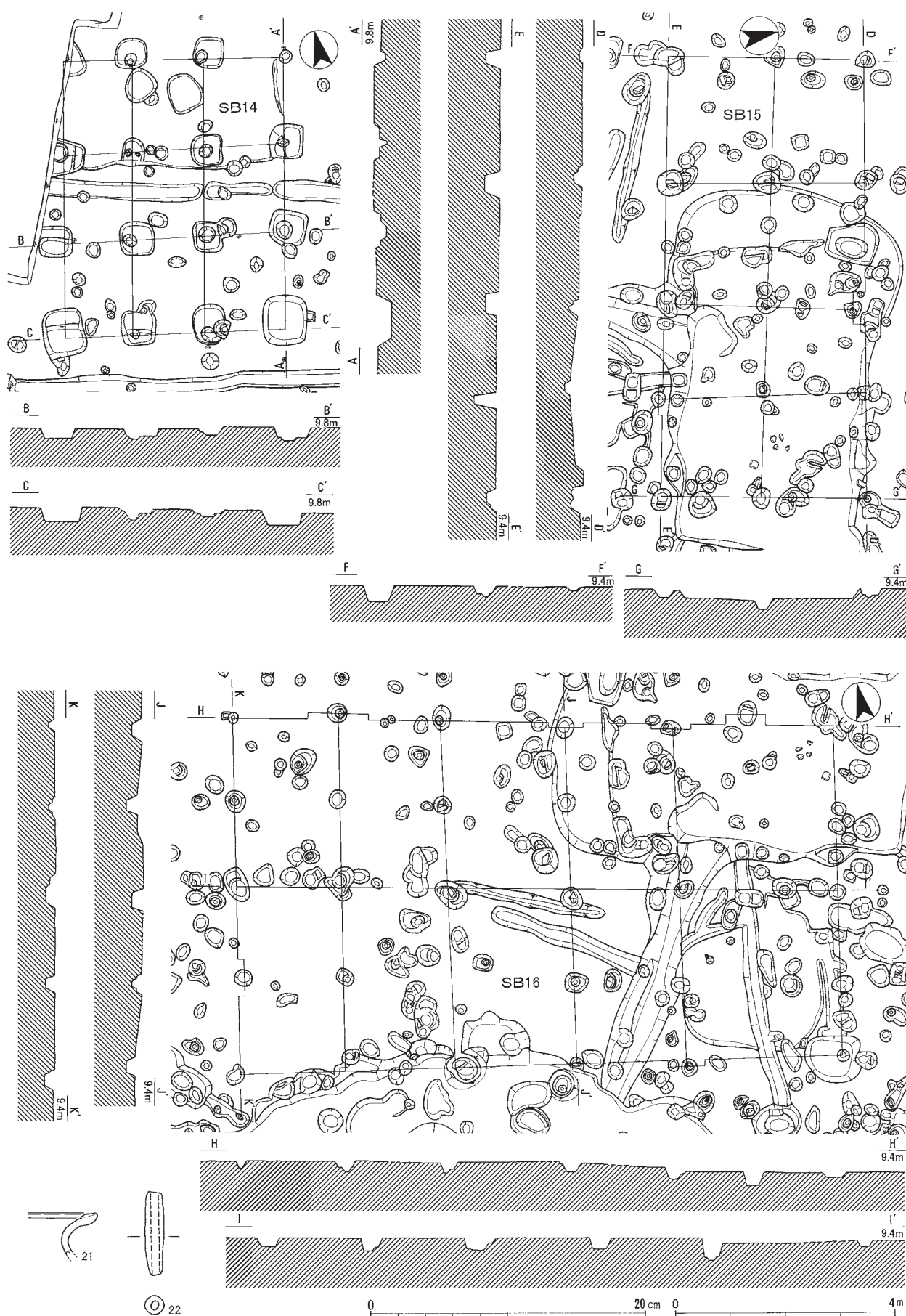


第24図 SB7～9・11実測図(1:100)、出土遺物実測図(1:4)[13・14; SB7、15～18; SB9]

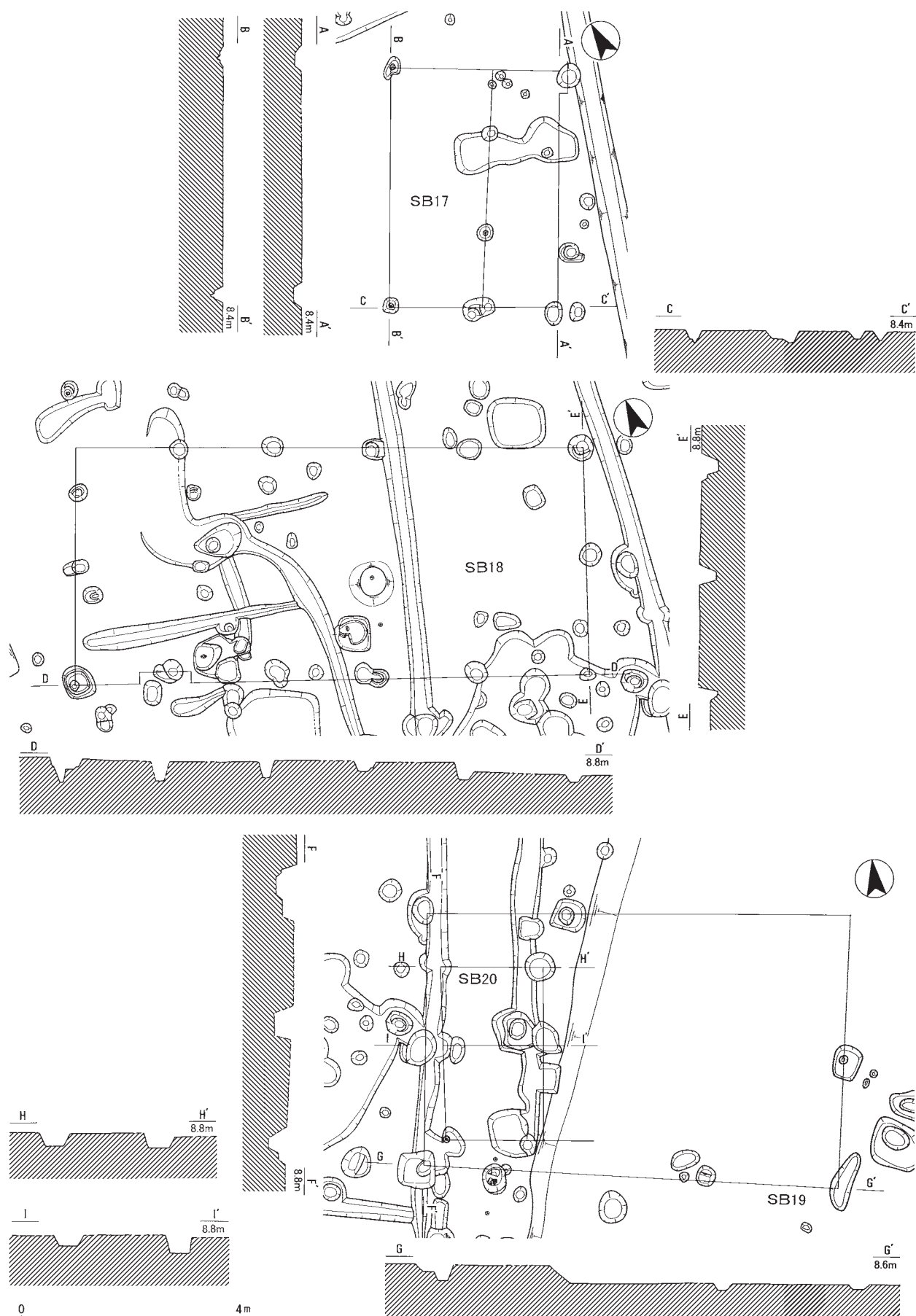


第25図 SB10・12・13実測図（1：100）、出土遺物実測図（1：4）〔19；SB10、20；SB12〕



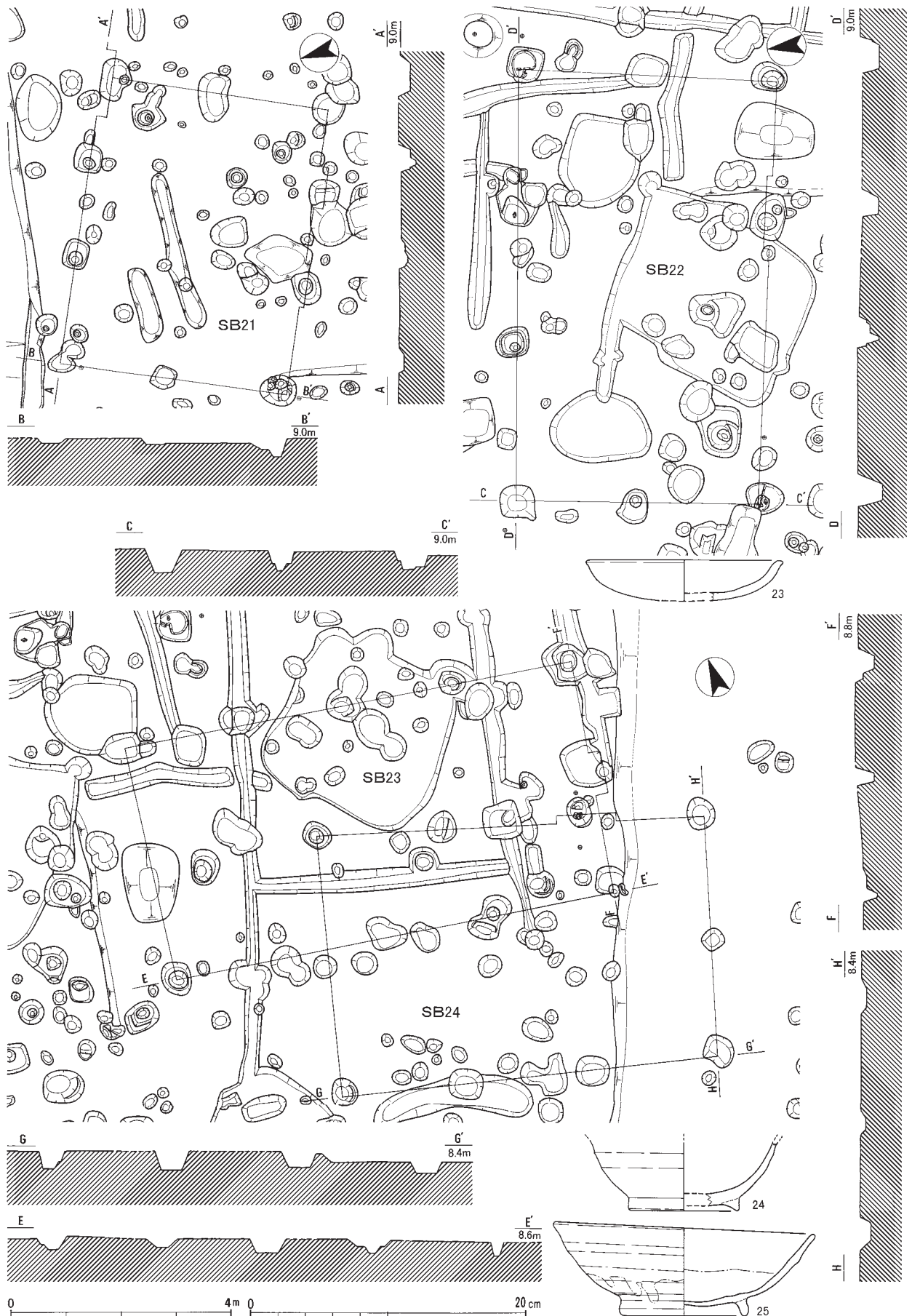


第26図 SB14~16実測図 (1 : 100)、出土遺物実測図 (1 : 4) [21・22 ; SB15]



第27図 SB17~20実測図 (1 : 100)





第28図 SB21~24実測図 (1 : 100)、出土遺物実測図 (1 : 4) [23 ; SB22、24・25 ; SB24]

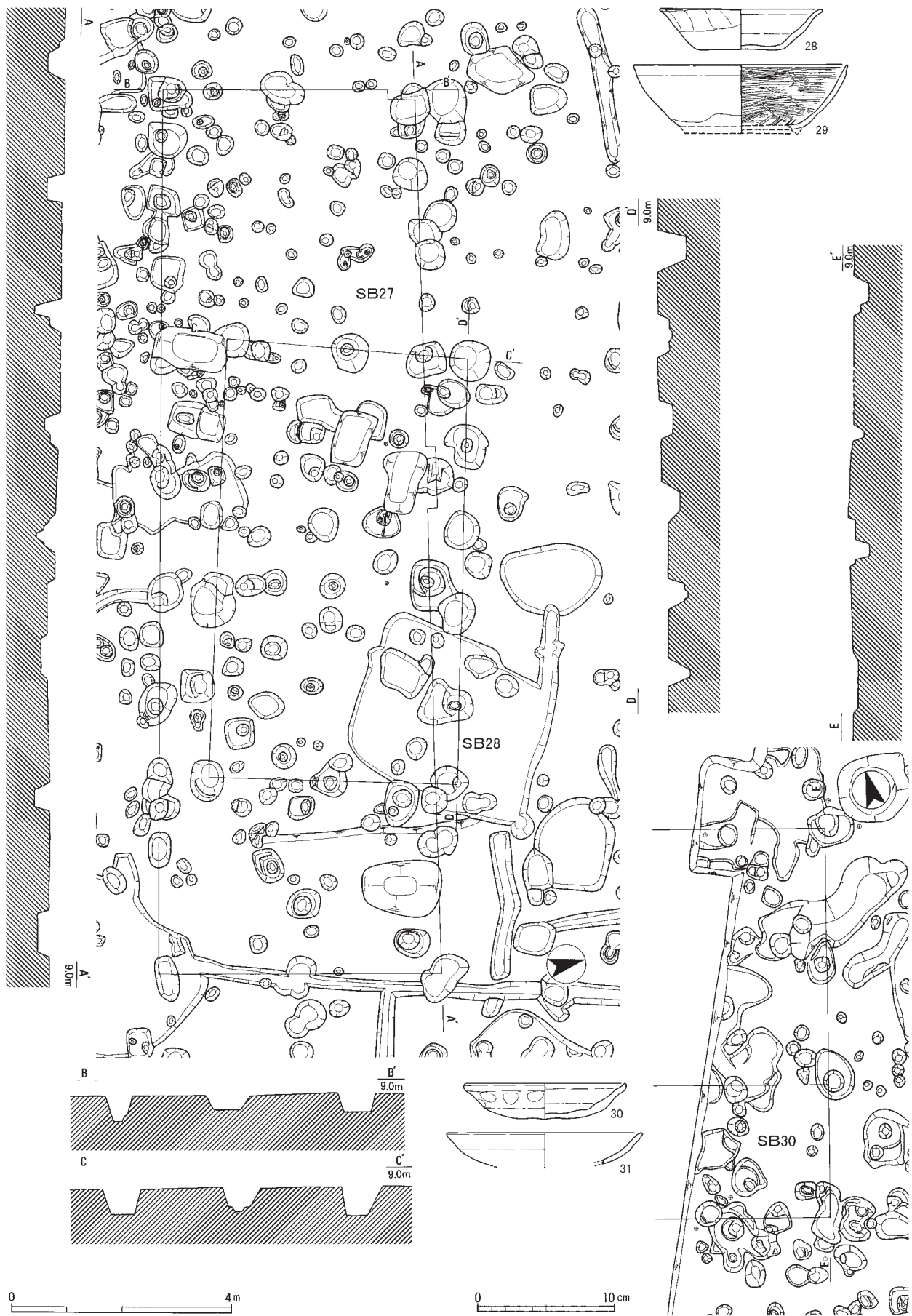


第29図 SB25・35実測図 (1 : 100)

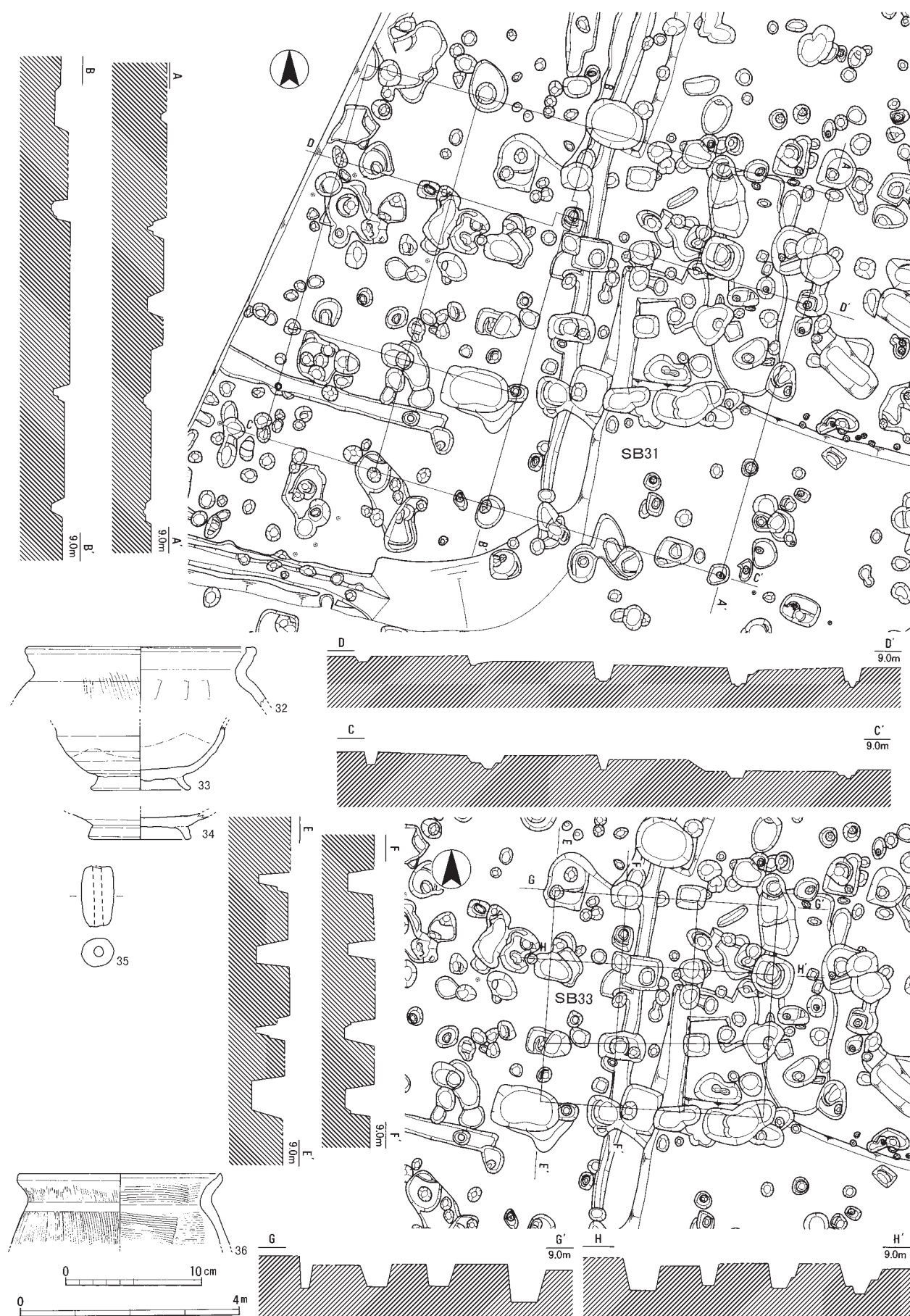


第30図 SB26・29・32実測図(1:100)、出土遺物実測図(1:4)[26・27;SB29]



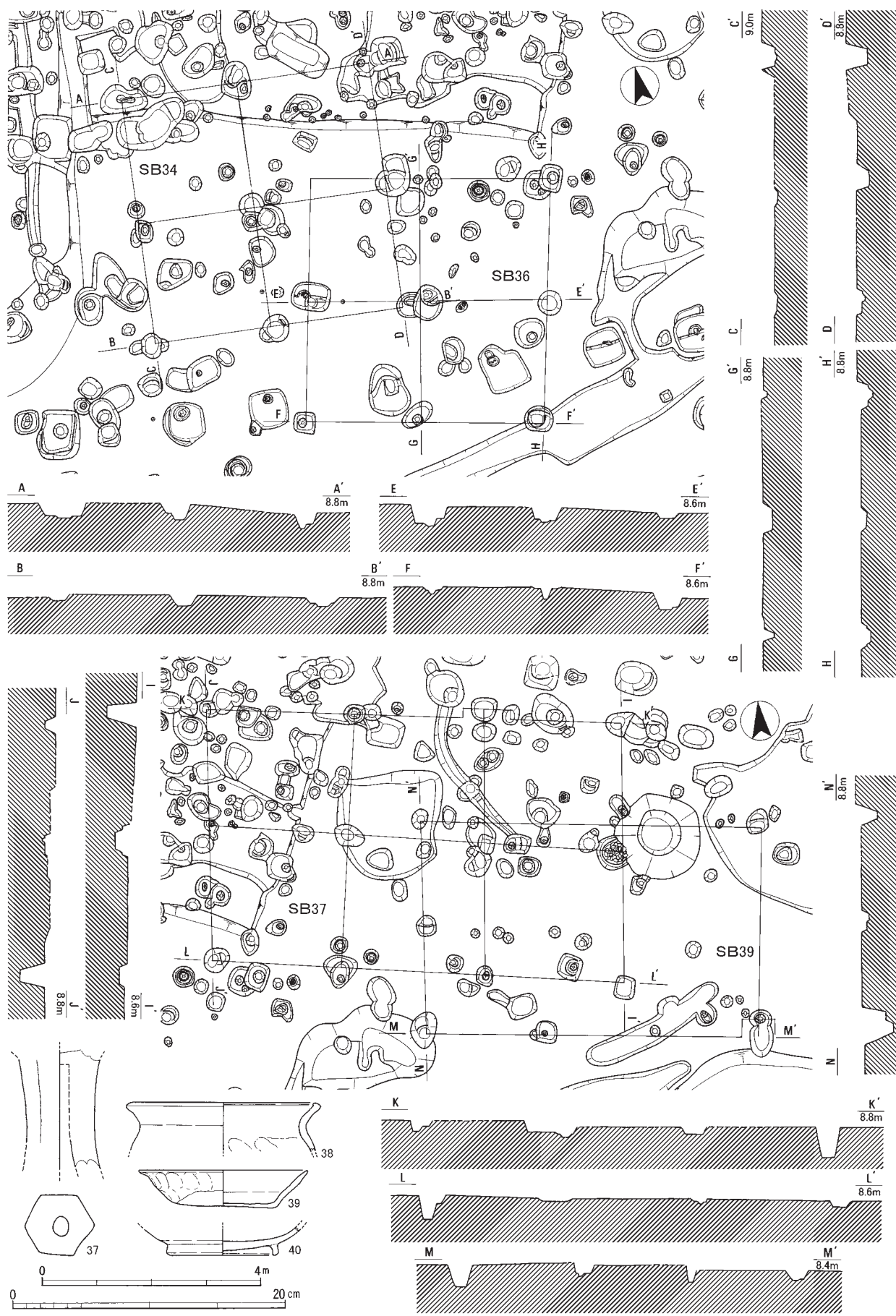


第31図 SB27・28・30実測図(1:100)、出土遺物実測図(1:4)[28・29;SB27、30・31;SB30]

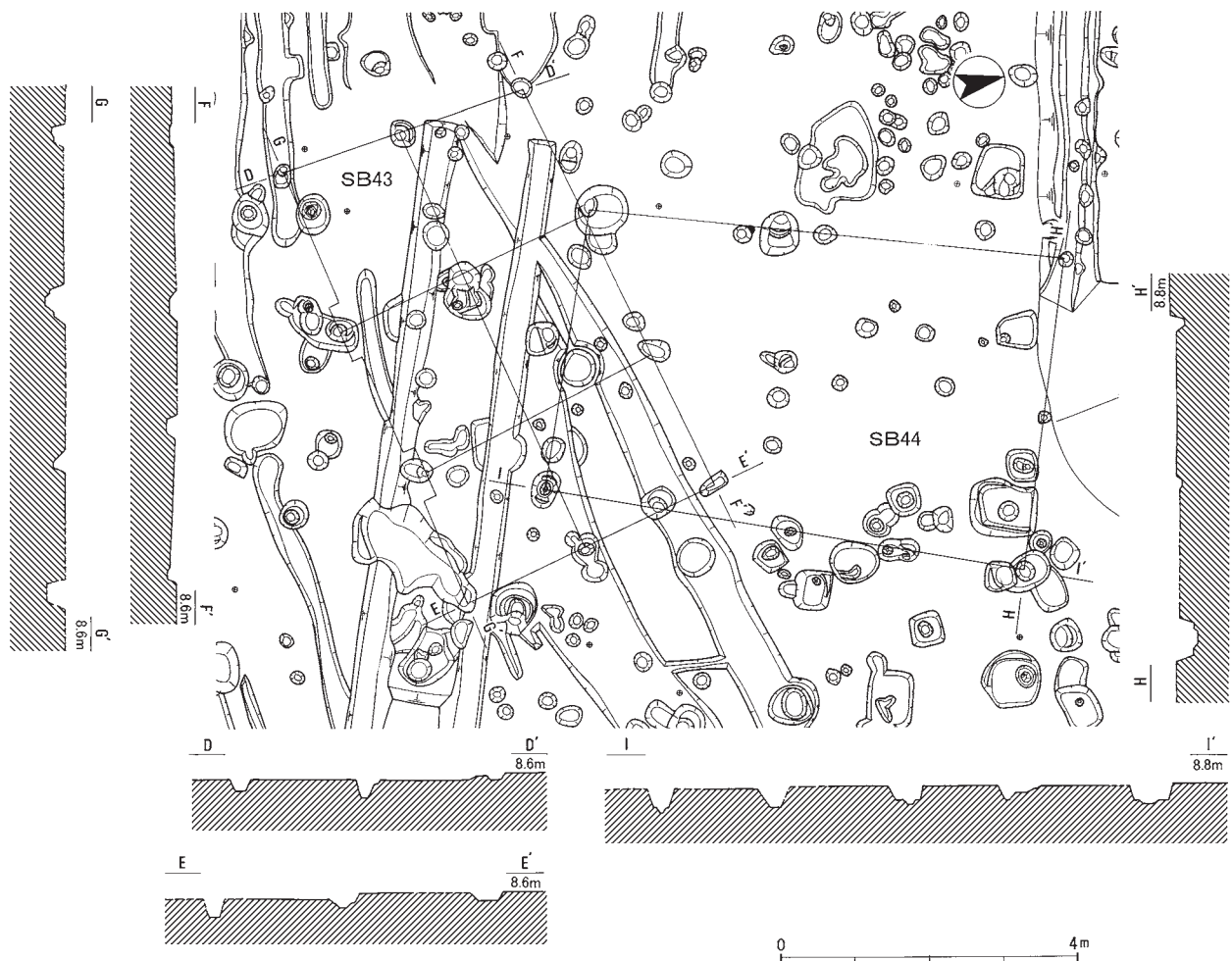
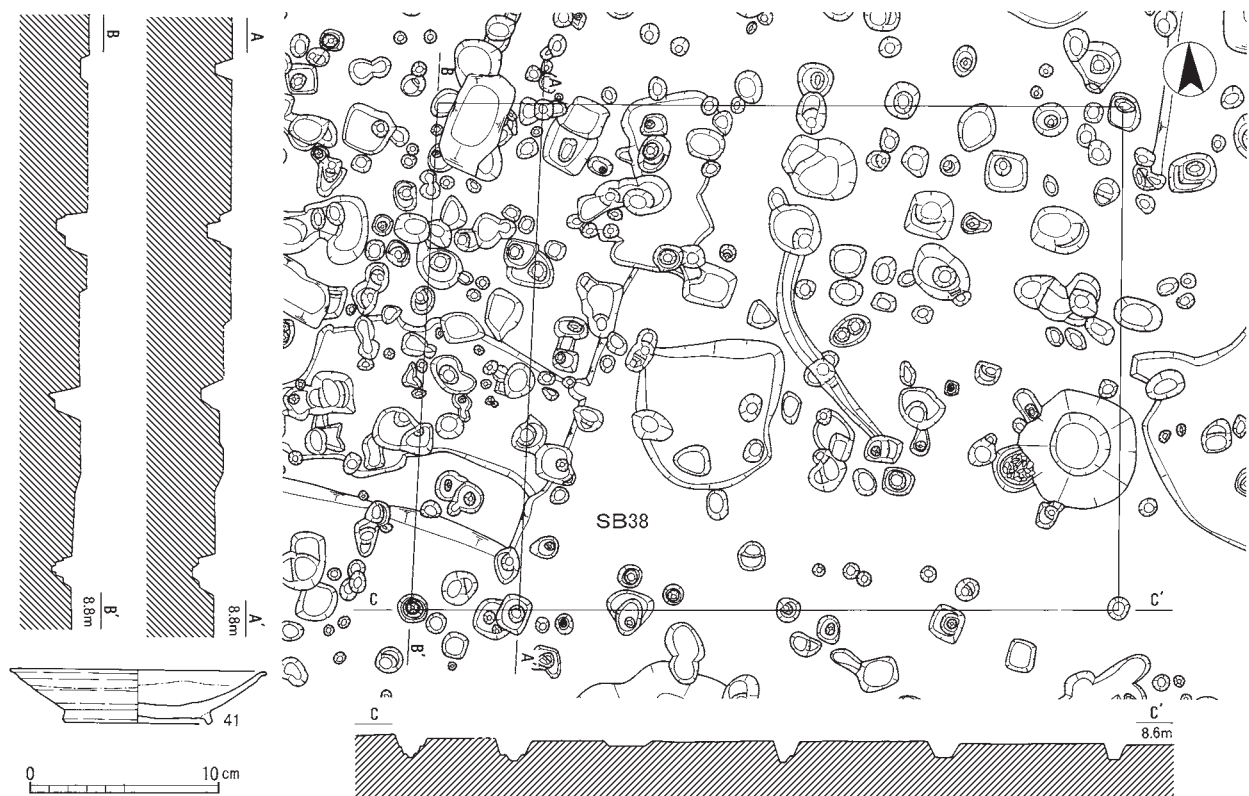


第32図 SB31・33実測図（1：100）、出土遺物実測図（1：4）〔32～35；SB31、36；SB33〕





第33図 SB34・36・37・39実測図(1:100)、出土遺物実測図(1:4)[37・38;SB34、39;SB36、40;SB39]



第34図 SB38・43・44実測図（1：100）、出土遺物実測図（1：4）〔41；SB38〕



第35図 SB40~42・48実測図（1：100）、出土遺物実測図（1：4）〔42~44；SB40、45~48；SB42〕



土しており、平安時代前半と考えられる。

SB46・47は、SA1を介してひとまとまりととらえられる建物群である。D地区の掘立柱建物が集中する地区からやや東にはずれたところ、SB25のすぐ南西で確認した。いずれも桁行5間×梁行3間と間数は同じだが、SB47の方が桁行が短い。ふたつの建物の間隔は、3間(6.6m)である。SB47から灰釉陶器口縁部(49)が出土しているほか、両者から土師器・須恵器片が出土している。平安時代前半の建物である。

D地区の掘立柱建物は、E地区には連続していかず、D地区とE地区の間には建物の密度が疎になる部分がある。E地区で掘立柱建物が集中するのは、北西部に7棟、南東部に11棟である。北西部の集中地区では、平安時代後半の建物が2棟(SB51・52)みられるほかは、平安時代初頭～前半の建物である。南東部では建物すべてが平安時代前半のものである。

SB48 E地区の中央北端部、D地区との境で検出した。桁行4間×梁行2間の東西棟である。D地区の集中地区とE地区北西部集中地区との間に1棟だけ建つ。中央部を東西にD・Eの境の土手、南北にSD11が横切る。図化できた出土遺物はなく土師器片が出ているのみである。平安時代前半と思われる。

SB53～55 北西部の集中地区で検出した。いずれも柱掘形のしっかりした建物で、SB53・54は桁行4間×梁行2間の側柱建物、SB55は3間×3間の総柱建物である。遺物は、SB53から土師器鍋の口縁部(53)のほか土師器片・須恵器片・木炭が、SB54から土師器片・灰釉陶器片・製塩土器片・木炭が、SB55から製塩土器(51)・土錘(52)のほか土師器片が出土している。いずれも平安時代初頭の建物である。

SB56～58 この3棟は、ふたつの集中地区からははずれ、E地区の南西部で検出した。SB56は2間×2間の総柱建物、SB57は3間×3間だが、中央部がSD13に切られており、総柱建物であると考えられる。SB58は桁行3間×梁行2間で、やはりSD13に切られているが側柱建物であると考えられる。遺物は、SB58から灰釉陶器碗の底部(54)が出土しているほか、SB56から土師器甕片、SB58から土師器片が出土している。いずれも平安時代前半の建物である。

SB64 4間×3間の南北棟の身舎に西一面庇が付

く。土師器甕の口縁部(56)が出土しており、平安時代前半の建物である。

F地区・I地区は、D・E地区に比べると掘立柱建物の密度はまばらである。時期的には、飛鳥・奈良時代が多く、下っても平安時代前半までである。

SB70・71 F地区北端中央で検出した。どちらも総柱建物で、SD12に切られている。土師器片が出土しているが、図化できる遺物はなかった。平安時代(前半)のものと思われる。

SB72 SB70・71の東で検出した。3間×3間の総柱建物で、直径または一辺50～60cmのしっかりとした柱掘形を持つ。土師器片が出土している。形態などから奈良時代と考えられる。

SB73 F地区中央部やや東よりで検出した。桁行3間×梁行2間の柱間の長い建物である。総柱(床柱)の可能性もある。また、建物の中央南よりにあるSK26はこの建物に伴う土坑と考えられる。SB73の柱掘形からは土師器片が出土している。SK26からは須恵器杯蓋・瓶の口縁が出土しているが図化できるものはなかった。平安時代前半のものと考えられる。

SB74 桁行3間×梁行2間の東西棟である。F地区の西よりで検出した。北側の桁が1度建て替えられている。建て替え前をSB74a、建て替え後をSB74bとした。建て替え後は北に40cmほど広がるかたちになる。出土遺物はないが、形態から飛鳥・奈良時代のものと思われる。

SB78 SB74・75の南で検出した。桁行3間×梁行2間、南北棟の総柱建物である。直径30cm～50cmの円形ないし楕円形の柱掘形に直径15cm～20cm柱痕が確認できる。図化できる遺物はなかったが、土師器片・須恵器片が出土している。奈良時代と考えられる。

SB79～81 SB78の南で検出した。SB79・80は桁行が調査区外へ伸びる。梁行はいずれも3間である。中央付近に中心柱と考えられる柱穴がある。SB81は1間×1間であるが、この建物にも中心柱穴が検出された。遺物は、SB79・80で土師器片が出土している。3棟とも飛鳥・奈良時代と考えられる。

SB82 SB81の東で検出した。確認できた規模は桁行3間×梁行2間だが、すぐ南西に自然流路SD12

があることなどから、もう少し広がる可能性がある。建物中央の東よりにSK23があり、建物に伴うものと考えられる。掘立柱建物の柱掘形や柱痕からの出土遺物はなかったが、SK23からは、土師器甕(403・405)・杯(404)・皿(408)、須恵器壺(406)・甕(407)・曲物の底板(410)が出土している。飛鳥～奈良時代の土坑と考えられ、建物も同時期であろう。陶器山茶碗(409)は重複した別の遺構(遺構番号なし)から混入したものである。

**SA5** 柵列として報告するが、調査区外に延びるため建物になる可能性もある。土師器片・須恵器片が出土しており、奈良時代～平安時代前半と思われる。

I地区は他の地区に比べて調査区の幅が狭く、多くの掘立柱建物が調査区外に延びる。柵列として報告するSA7～11も建物になる可能性がある。I地区は4つに細分される。I-1・I-2は、それぞれC地区の西と東につながるが、新たな掘立柱建物は検出されなかった。F地区の西につながるI-3地区で4棟、東につながるI-4地区で8棟確認した。いずれも集中する傾向はみられない。

**SB83** 全体を確認できた。桁行4間×梁行2間の東西棟で、柱掘形は、50～60cmの直径または一辺を持つ円形・方形である。土師器片が出土しており、奈良時代～平安時代と思われる。

**SB84** 南西部が調査区外に延びるため、全体を確認できなかった。桁行2間以上×梁行2間で柱掘形は20～30cmと小さい。出土遺物はないが、形態から鎌倉時代と思われる。

**SB85・86** 一辺40～60cmの方形の柱掘形を持つ総柱建物である。柱痕の確認できるものが多い。規模は、南が調査区外に延びるSB85が3間×1間以上、全体が確認できたSB86が3間×3間である。SB86から須恵器高杯の脚部(59)が出土している。いずれも飛鳥時代の建物である。

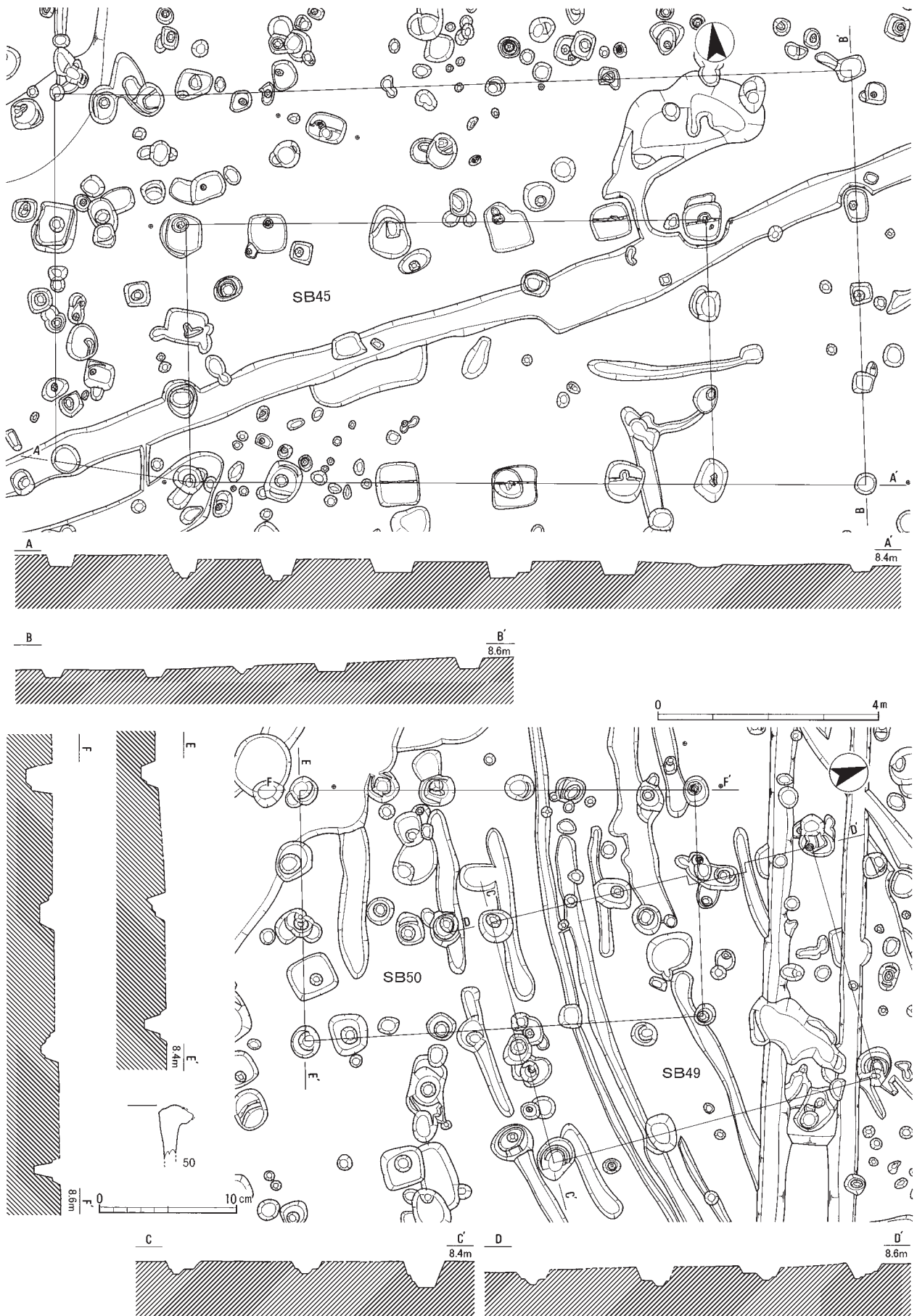
**SB87** 同じ場所で建て替えが確認できる。建て替え前のSB87aは、一辺60～70cmの方形、建て替え後のSB87bは直径または一辺50～70cmの円形・方形の柱掘形である。柱根の残るものもある。また、中心柱穴と思われるピットを検出している。遺物は、須恵器杯蓋(60)のほか、土師器片・須恵器片がある。

飛鳥時代のものである。

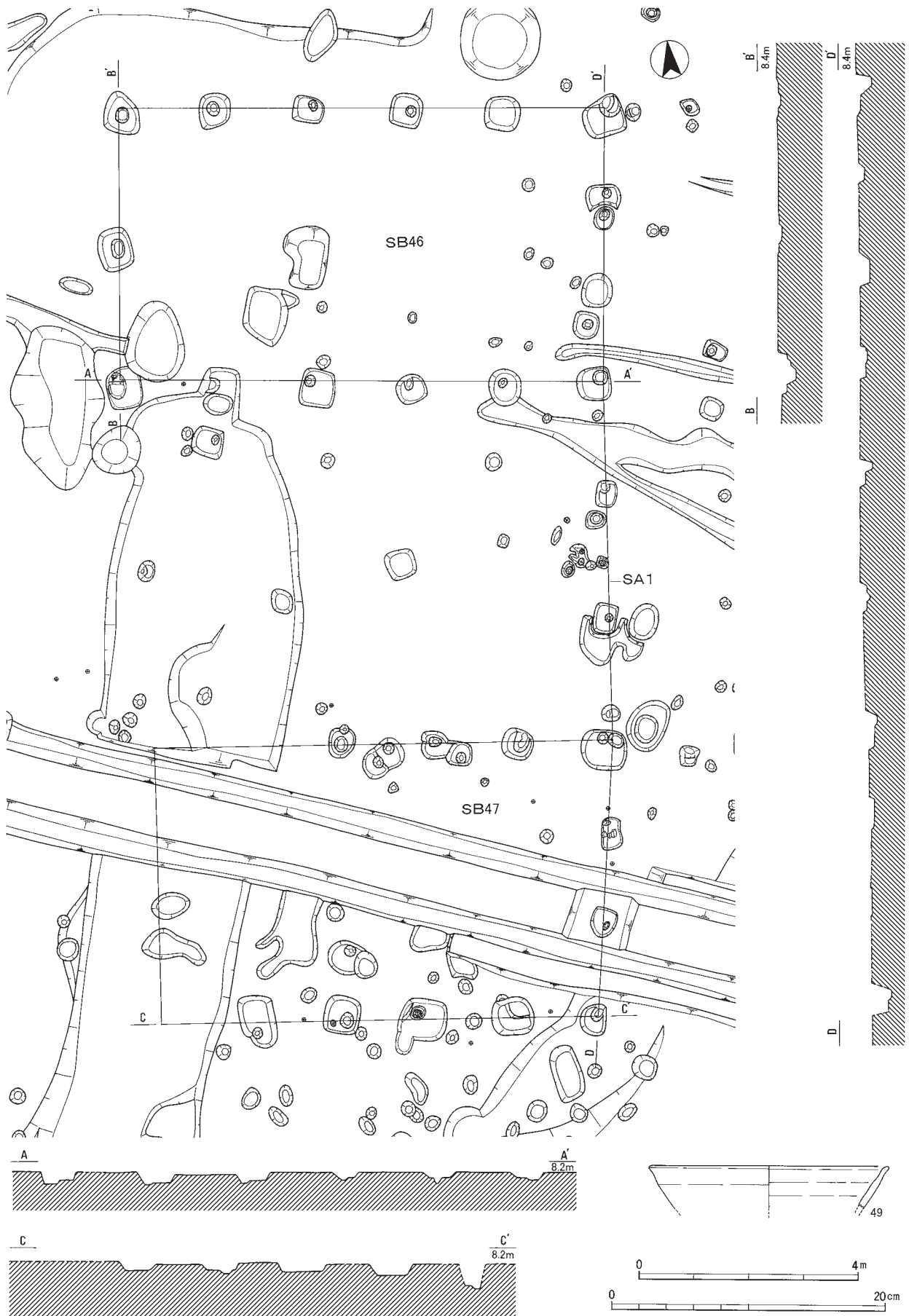
**SB88** 全体が確認できた。2間×2間の総柱建物である。中央のピットはやや小さく、床柱と考えられる。出土遺物はないが、形態から平安時代と思われる。

**SB90～92** 柱掘形が小さく、鎌倉時代と思われる。出土遺物は、SB91・92で土師器小片があるが図化できるものはなかった。SB92の中央の柱穴がSD38などで検出できなかったものと考え、3棟とも総柱建物である。





第36図 SB45・49・50実測図（1：100）、出土遺物実測図（1：4）〔50；SB50〕



第37図 SB46・47・SA1実測図(1:100)、出土遺物実測図(1:4)[49; SB47]



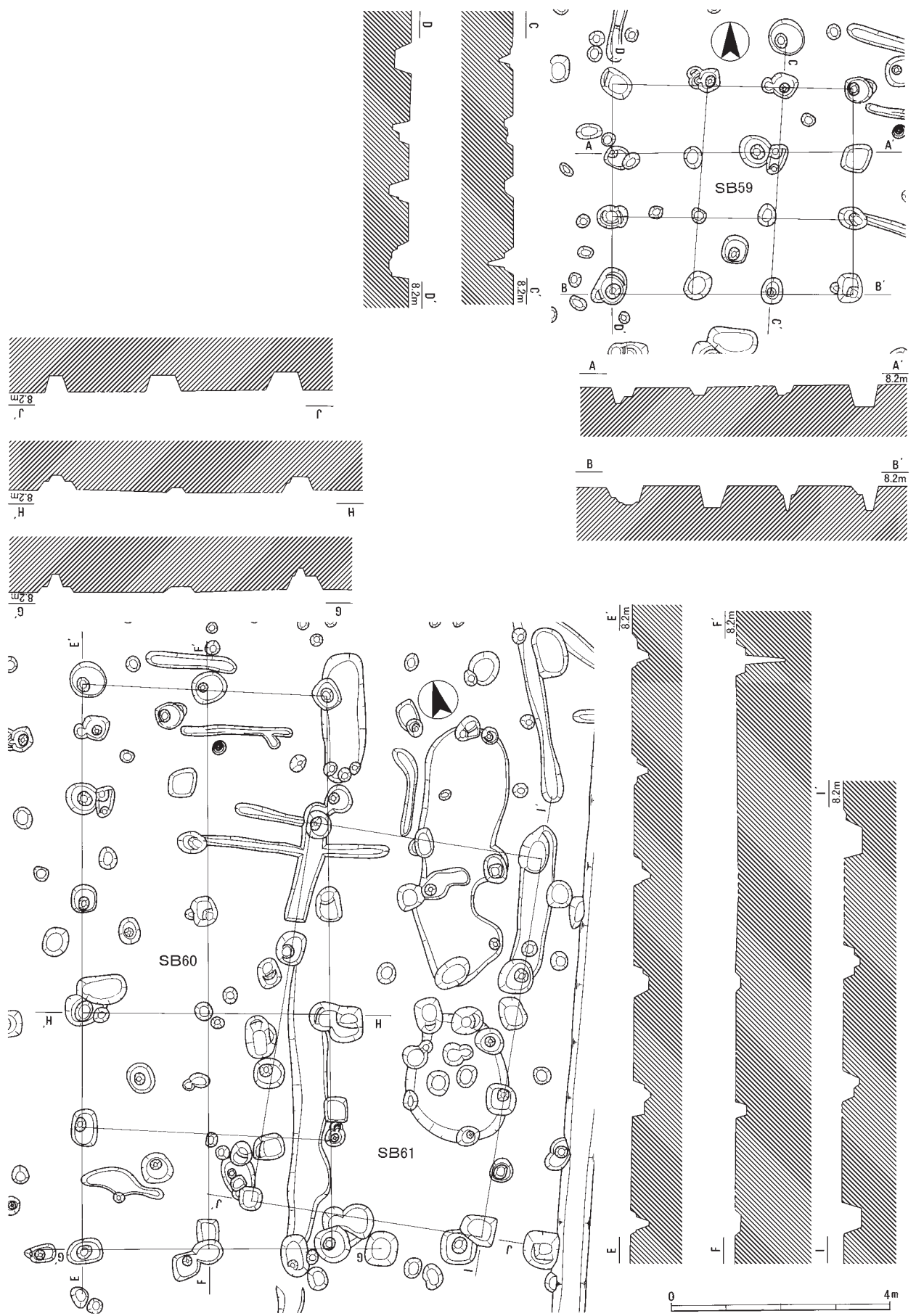
第38図 SB51・52・54・55実測図（1：100）、出土遺物実測図（1：4）〔51・52；SB55〕



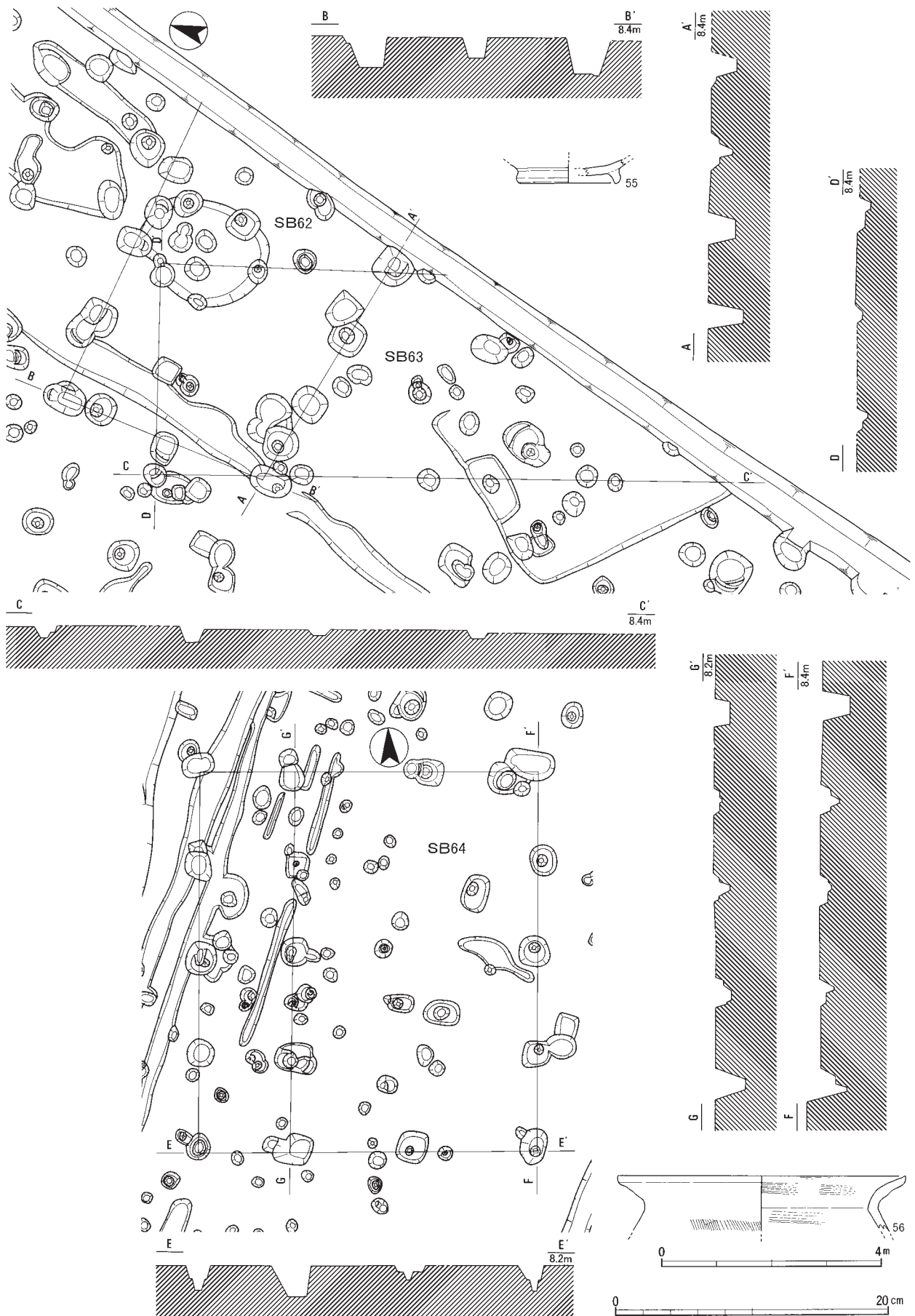


第39図 SB53・56~58実測図(1:100)、出土遺物実測図(1:4)[53;SB53、54;SB58]





第40図 SB59~61実測図 (1 : 100)



第41図 SB62~64実測図 (1 : 100)、出土遺物実測図 (1 : 4) [55 ; SB62、56 ; SB64]



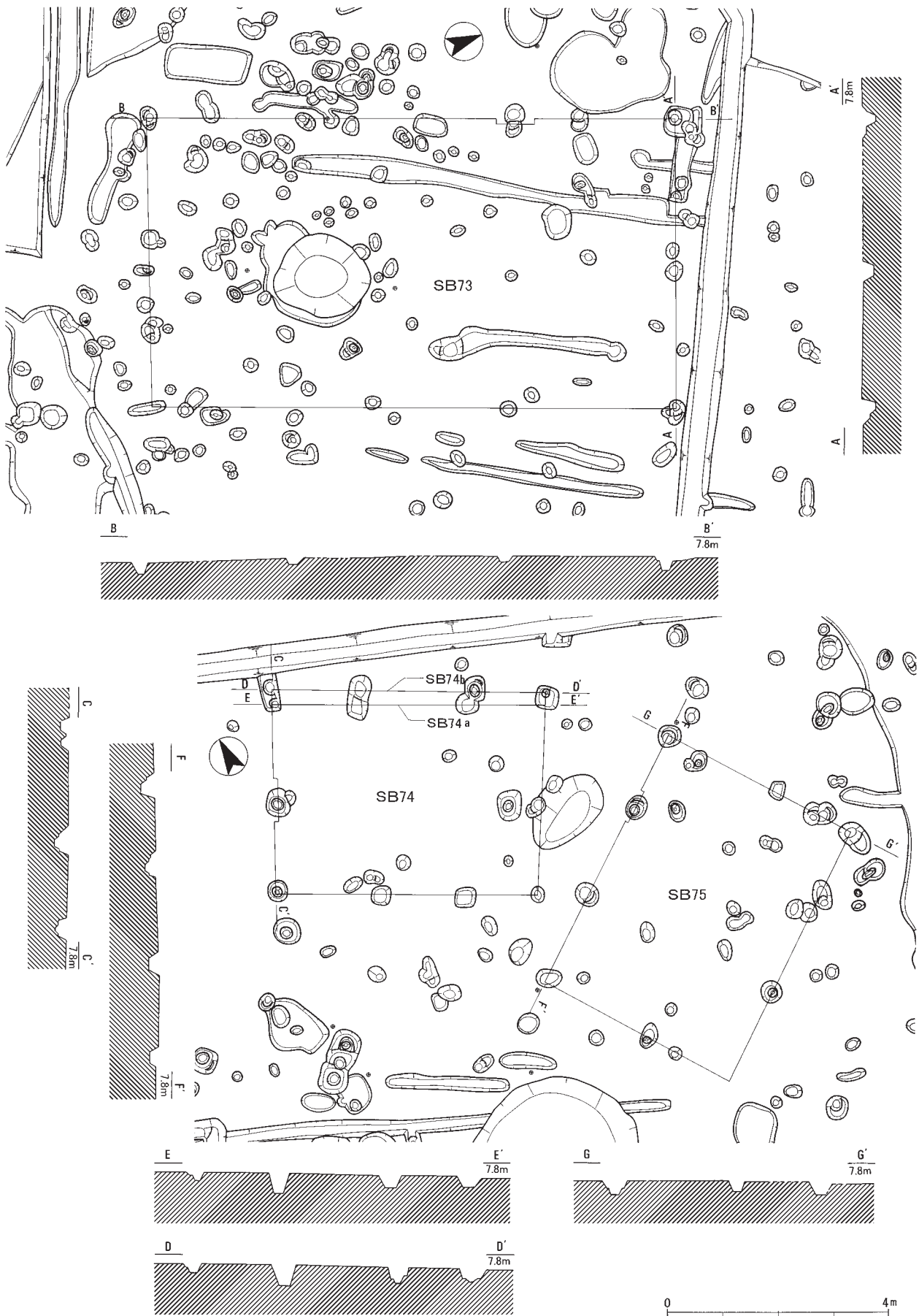
第42図 SB65~68実測図 (1 : 100)、出土遺物実測図 (1 : 4) [57 ; SB65、58 ; SB68]



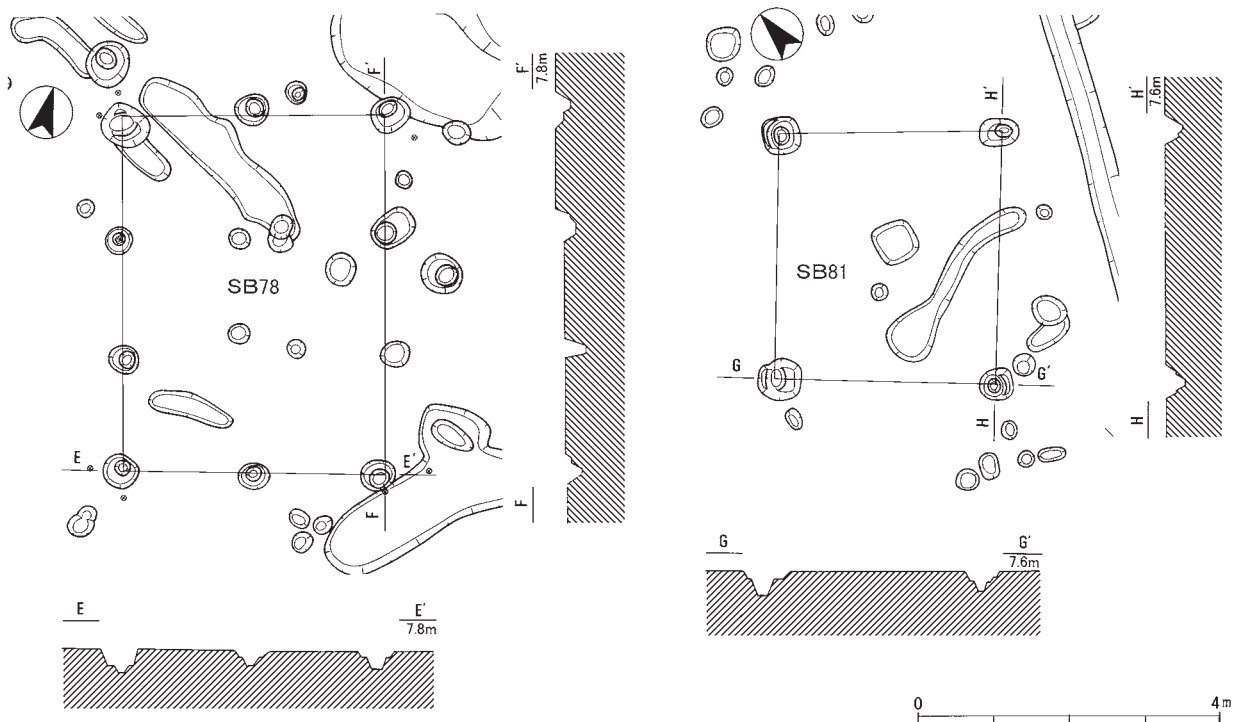
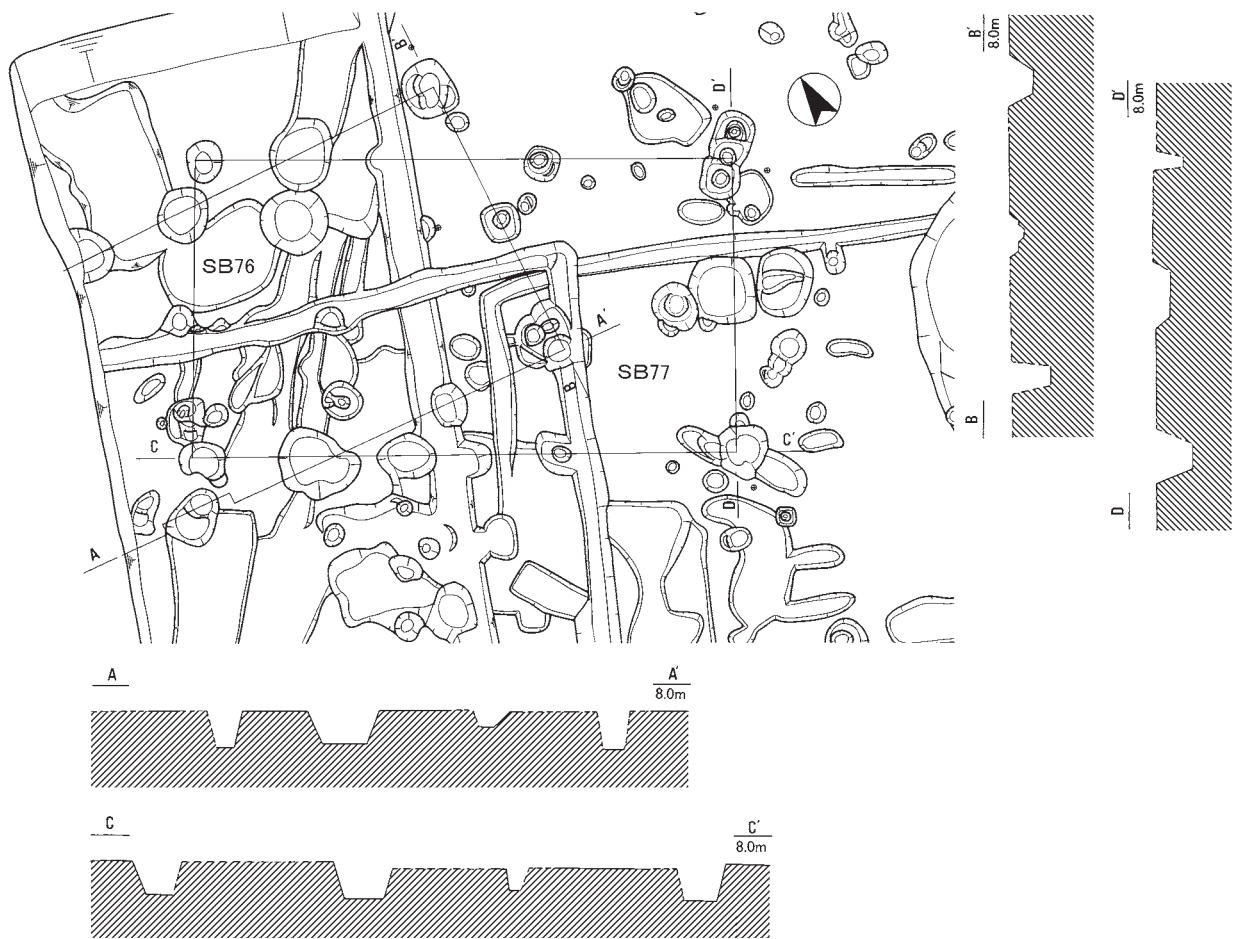


第43図 SB69~72実測図 (1 : 100)

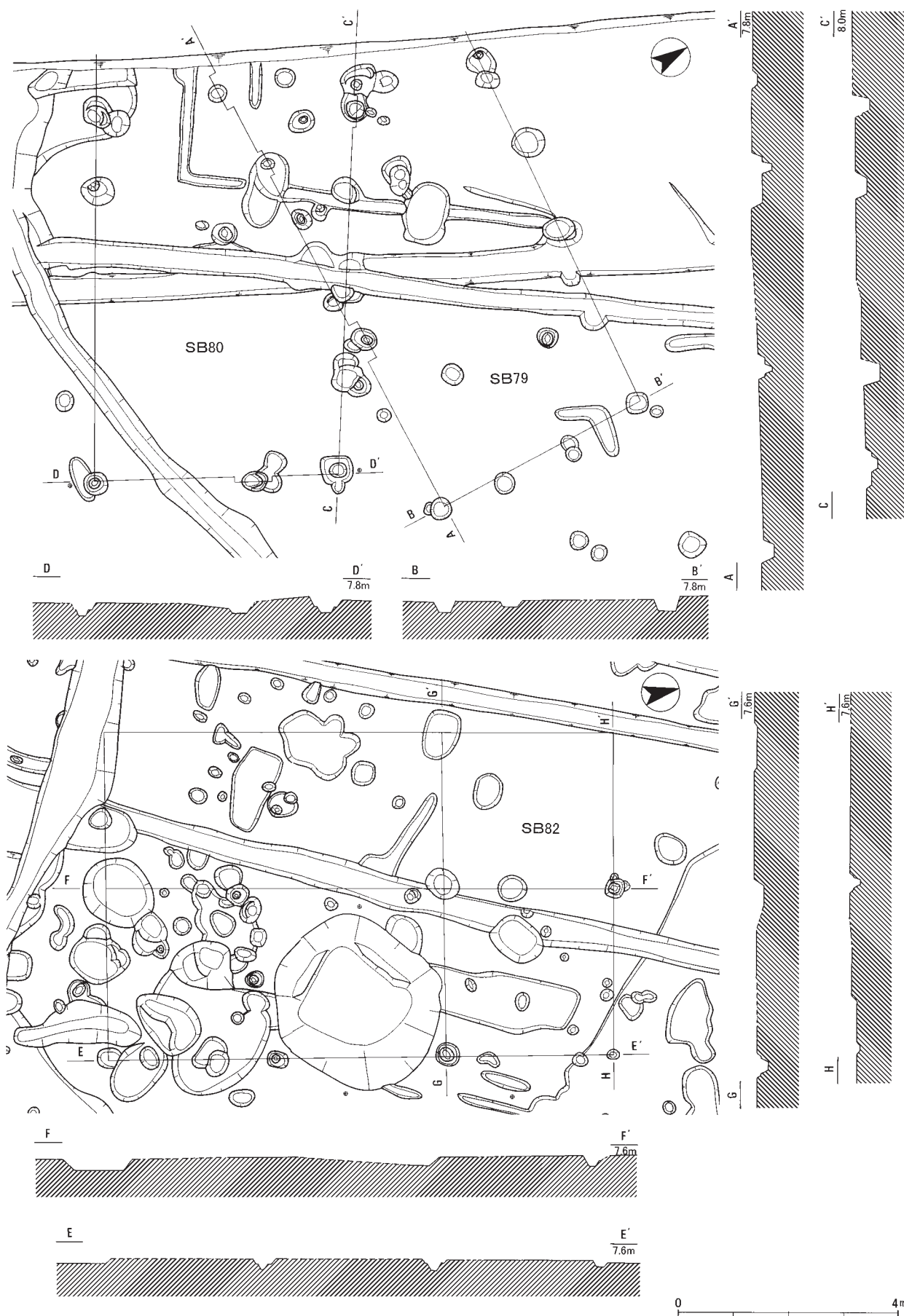




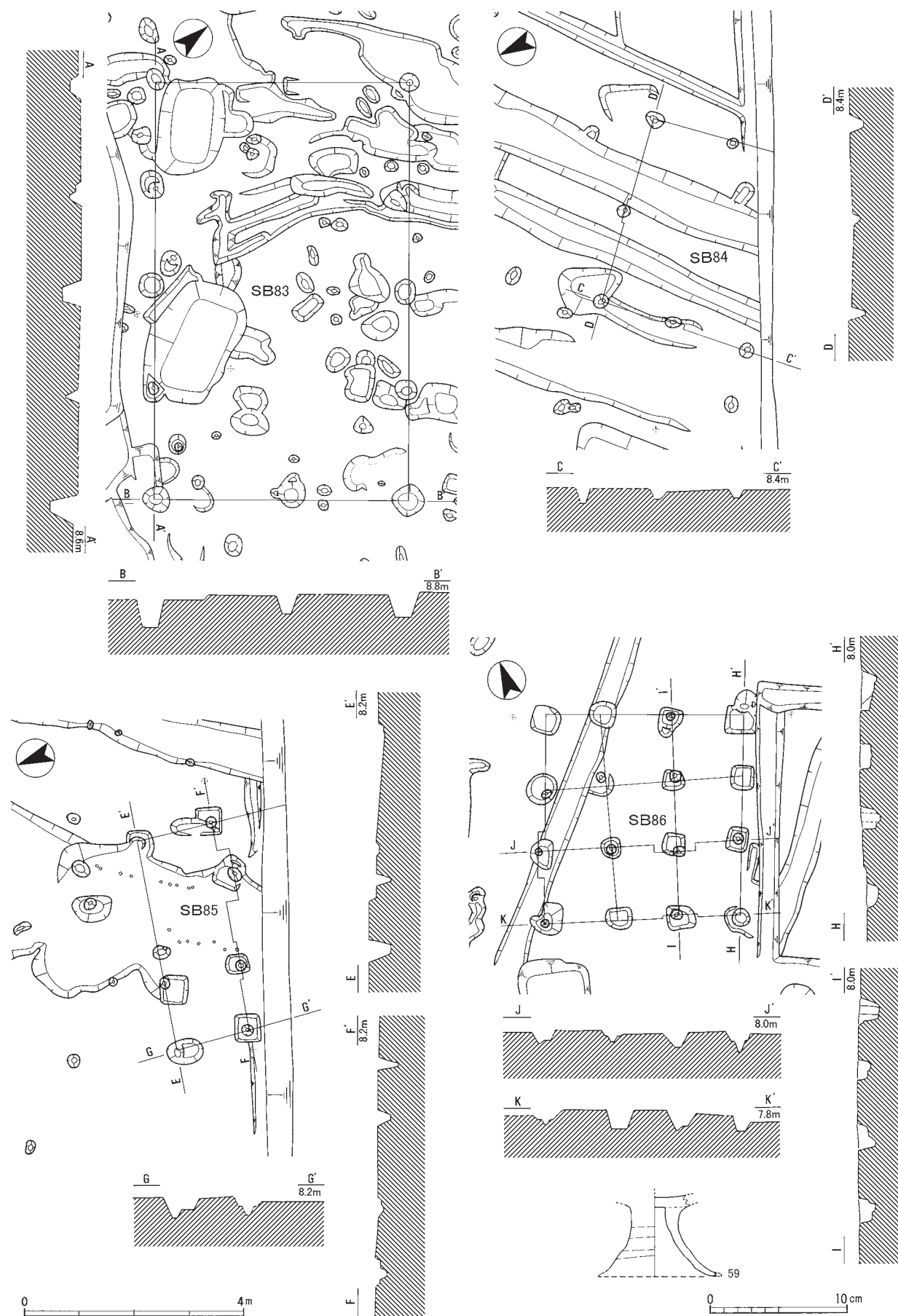
第44図 SB73~75実測図 (1 : 100)



第45図 SB76~78・81実測図 (1 : 100)

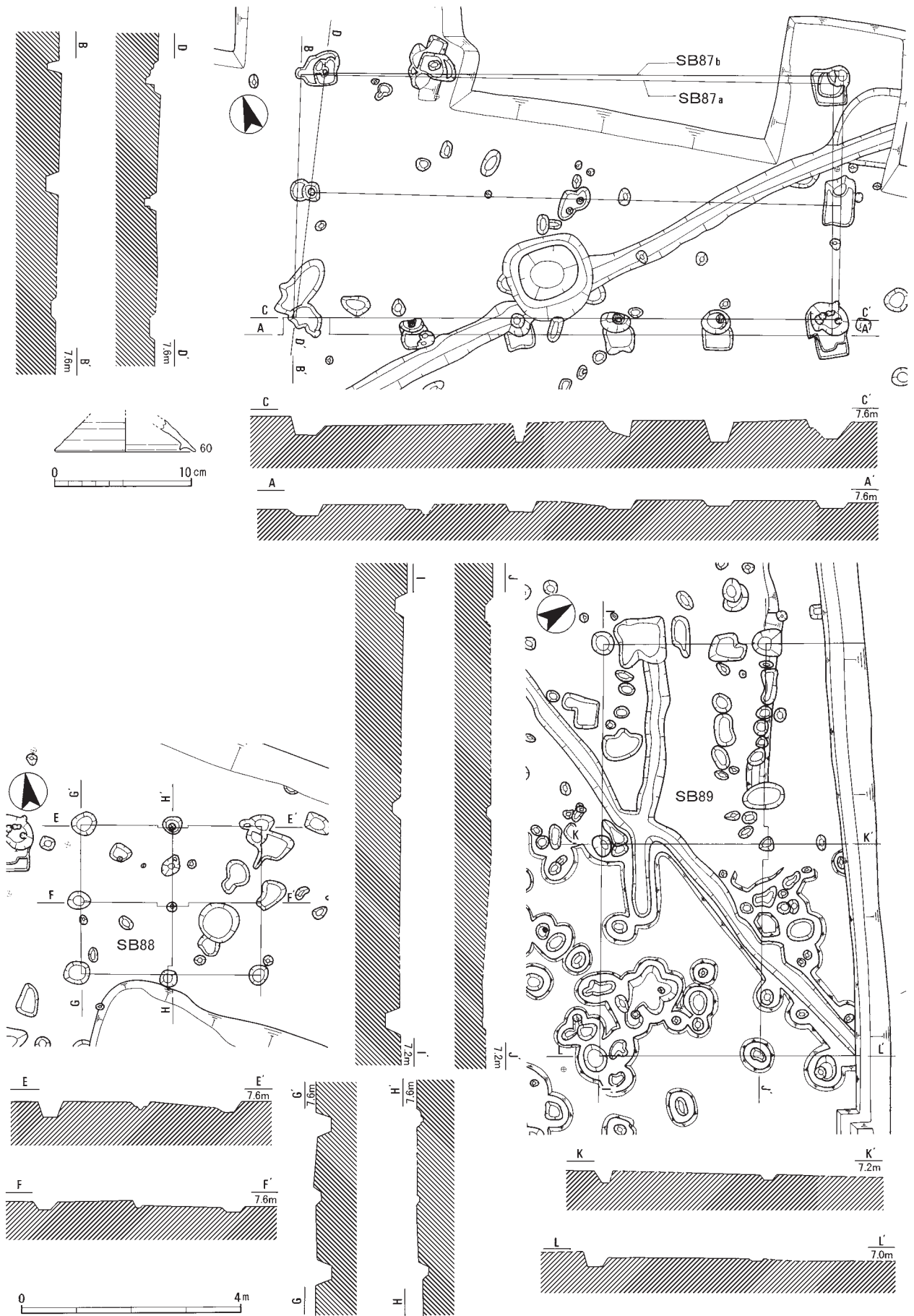


第46図 SB79・80・82実測図 (1:100)

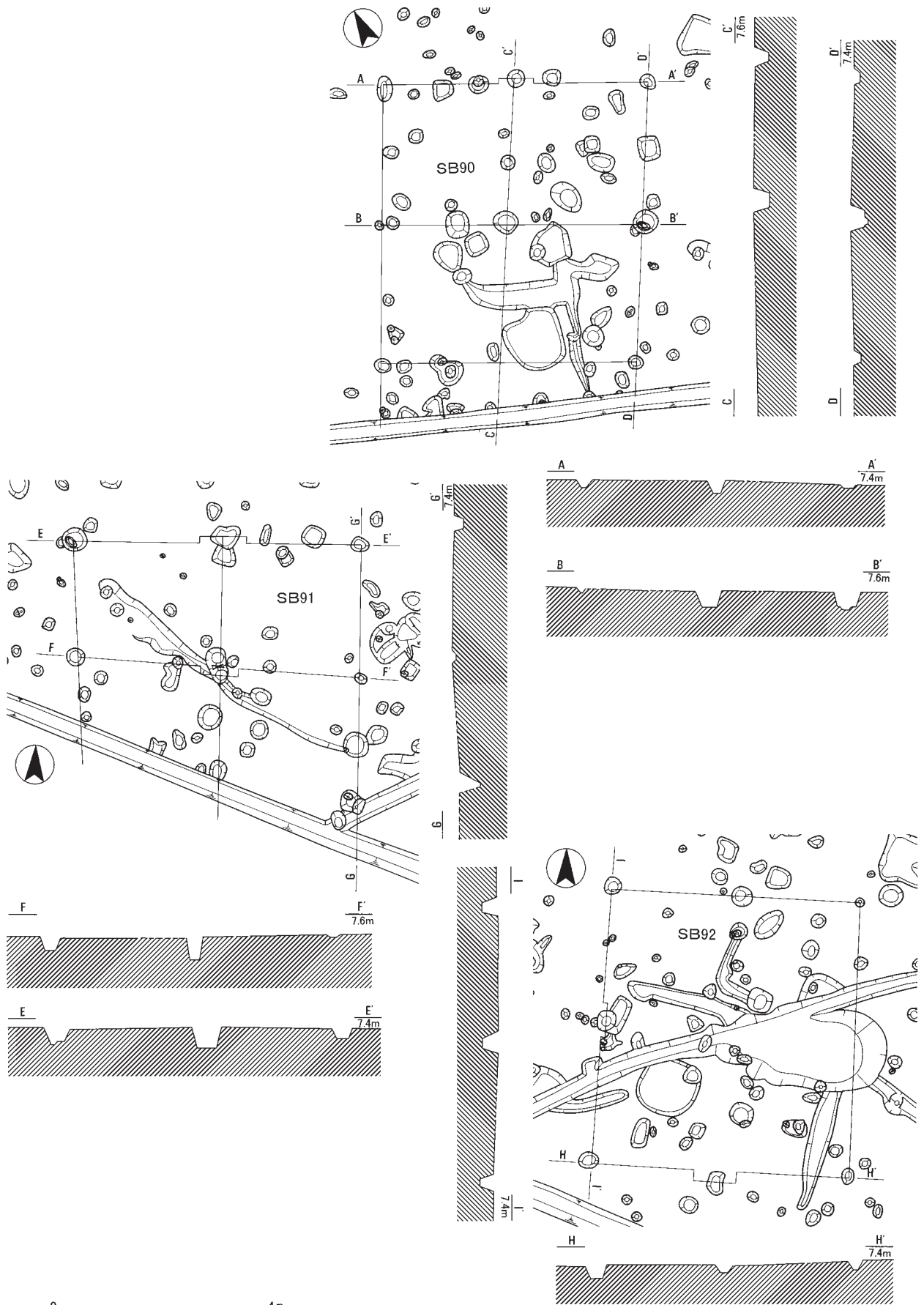


第47図 SB83~86実測図 (1 : 100)、出土遺物実測図 (1 : 4)[59 ; SB86]

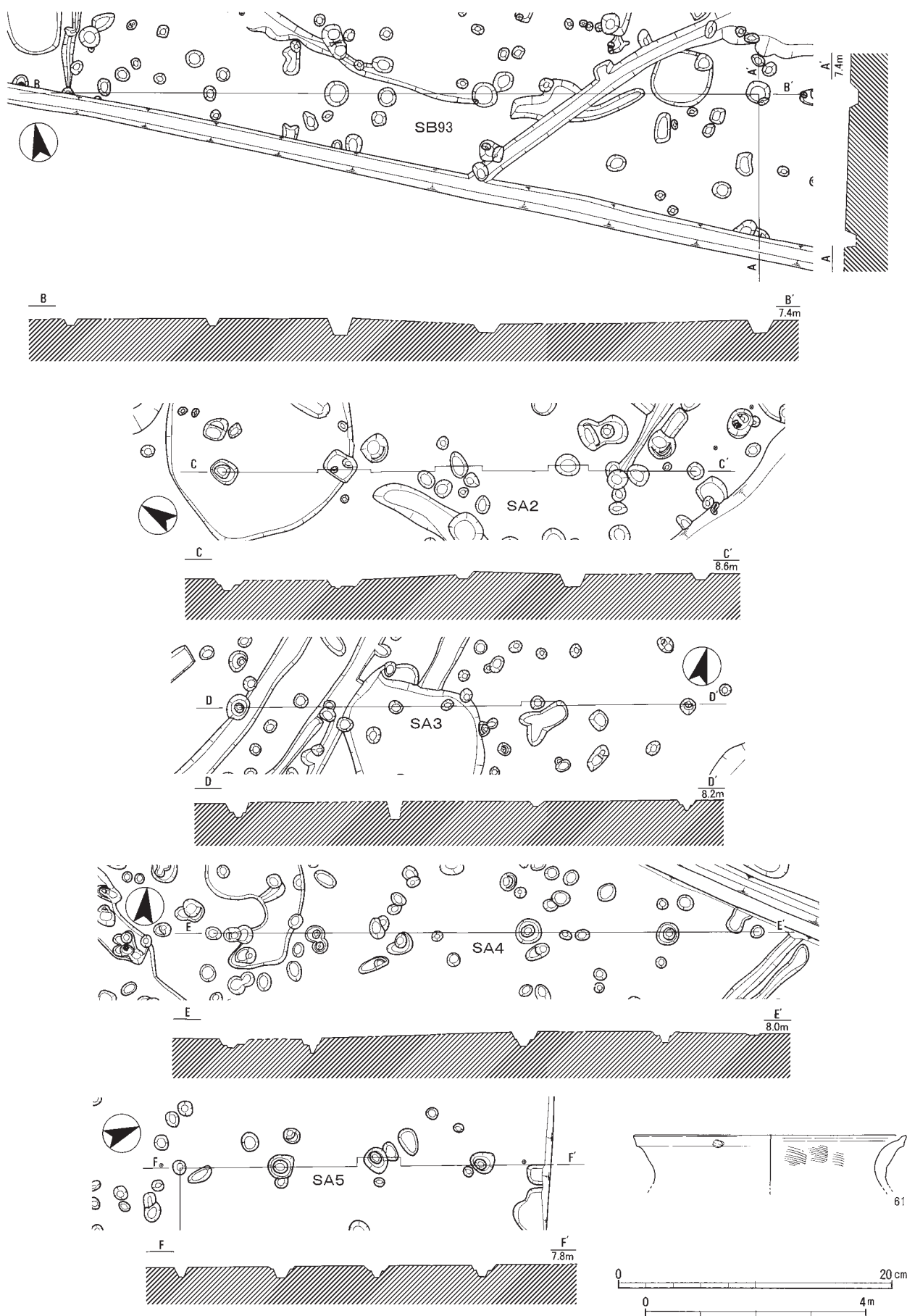




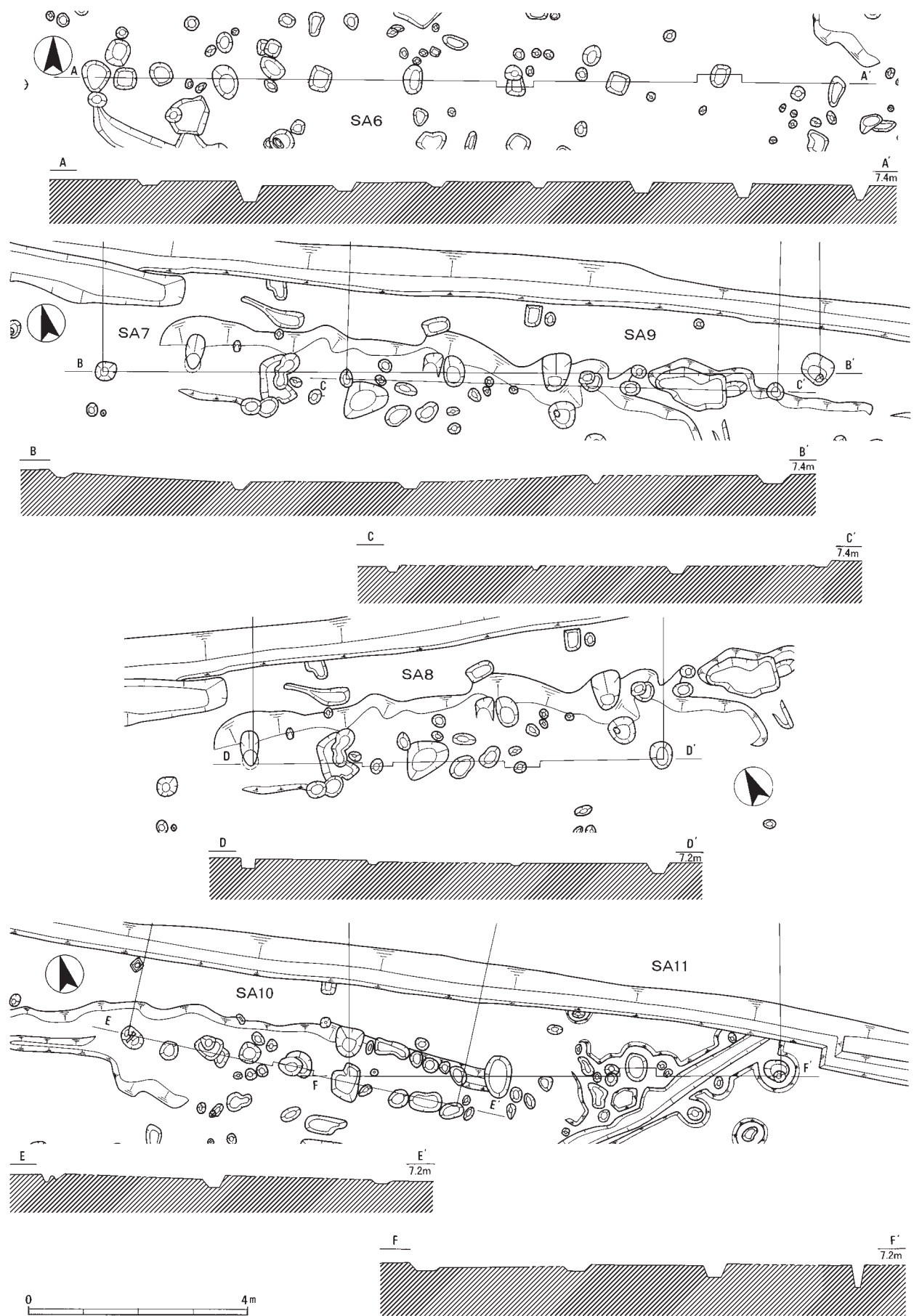
第48図 SB87ab・88・89実測図(1:100)、出土遺物実測図(1:4)[60;SB87b]



第49図 SB90~92実測図 (1 : 100)

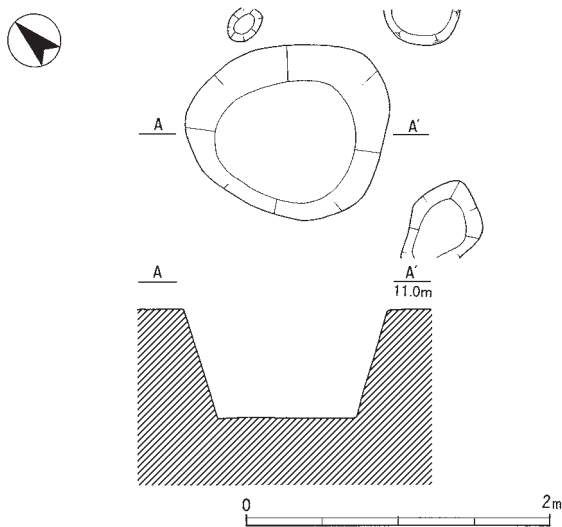


第50図 SB93・SA 2～5実測図（1：100）、出土遺物実測図（1：4）〔61；SA 5〕

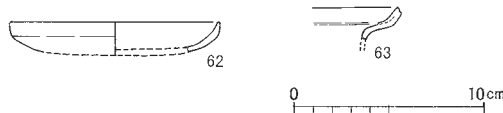


第51図 SA6~11実測図(1:100)





第52図 SE 1 実測図 (1 : 50)



第53図 SE 1 出土遺物実測図 (1 : 4)

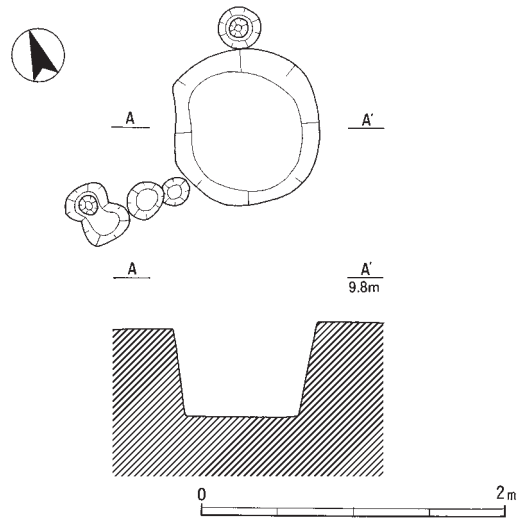
### (5) 井戸

今回の調査区からは、24基の井戸が検出された。時期は、弥生時代から幕末までと幅ひろい。以下、概略を述べる。個別の詳細なデータについては、一覧表を参照されたい。

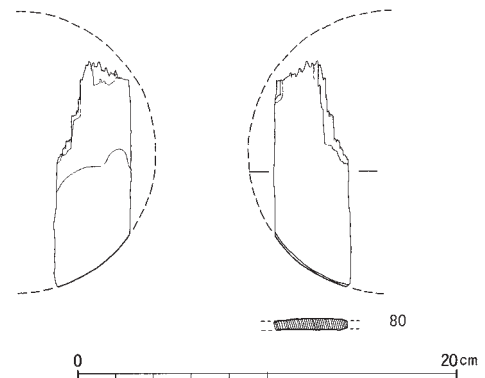
SE 1 長径約1.4m、深さ約0.7mの楕円形の素掘りの井戸である。出土遺物はわずかであるが、土師器の皿(62)や鍋(63)が出土した。

SE 2 SD 3と重複している。SD 3の埋土掘削後に検出したものであるが、出土遺物を比較したところ、SD 3より先行するものと考えられる。平面形は一辺約1.9mの略方形で、深さは約1.1mである。深さ0.9m付近では西側を除く3方向にテラスがあり、この部分に井戸枠の一部とみられる木材がL字状に残っていた。遺物は、土師器杯(64)・椀(67)・皿(65)・黒色土器椀(68~70)、灰釉陶器椀(71~74)、皿(75)、製塩土器(76)、土錘(77)、瓦(78・79)などが出土している。黒色土器はいずれもA類であるが、高台のつくもの(69・70)とつかないもの(68)があり、68と69の内面には螺旋状の暗文が施されている。灰釉陶器は猿投編年<sup>①</sup>の黒笹90号窯式に相当する。

SE 3 直径約1m、深さ約0.7mの円形の素掘りの井戸である。遺物は、曲物(80)のほか、土師器や陶器山茶椀がわずかに出土しただけである。



第54図 SE 3 実測図 (1 : 50)

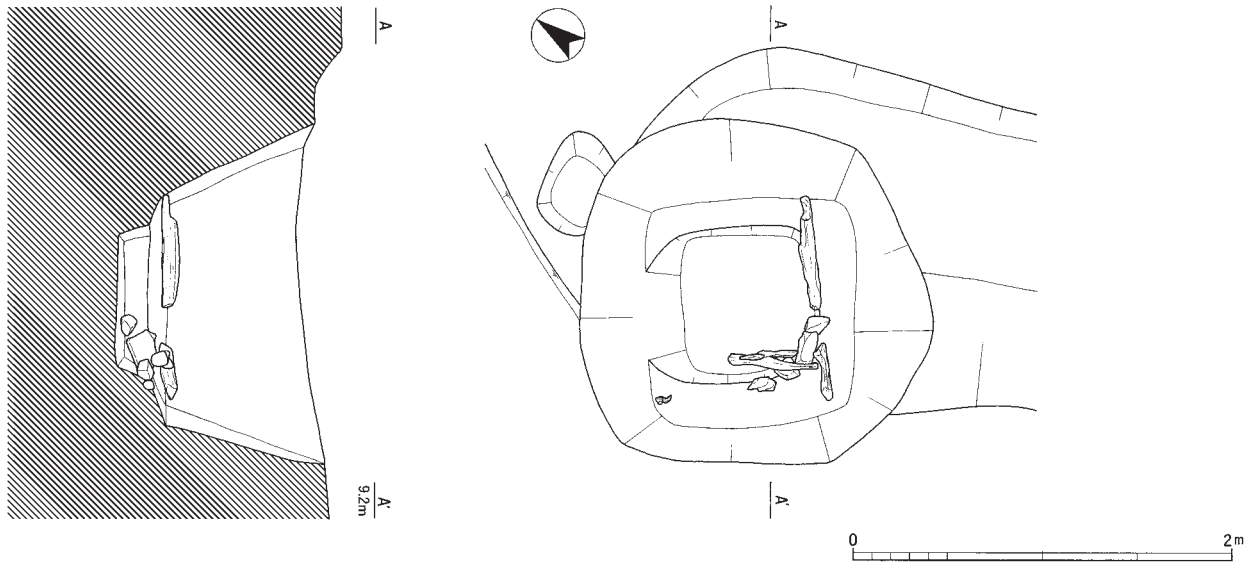


第55図 SE 3 出土遺物実測図 (1 : 4)

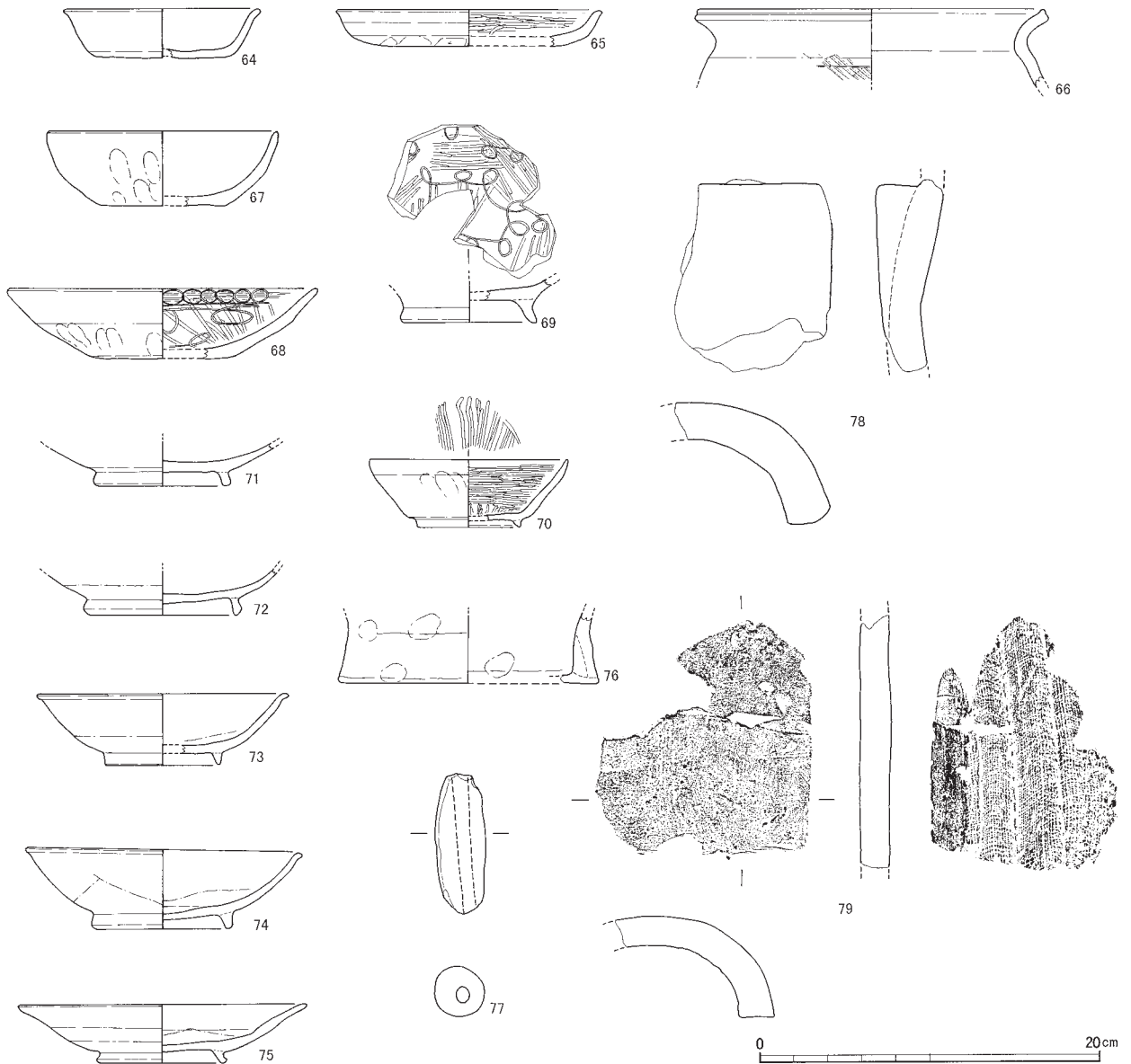
SE 4 長径約2.8m、深さ約1.9mの楕円形の石組みの井戸である。石組みには比較的小振りな川原石が使われているが、底まで達しておらず、地盤が固い砂礫層になるところ(深さ0.7m付近)で終わっている。南東側では用途不明ながら、石組み直下の壁面に板材がはめ込まれていた。石組みを除去したところ、板材の左右の壁面には凹みがあって、ここに棒状の木材が若干残っていたが、位置的にみてこの凹みは、板材が壁面から外れないように前面から支える棒を渡すために掘られたものと考えられる。

出土遺物のうち81~92は掘方や石組みから、93~98は埋土から出土した。土師器皿(81・82)・鍋(83)、陶器山茶椀(86~90)・小椀(84)・小皿(85)・鉢(91・92)があり、山茶椀・小皿は藤澤編年<sup>②</sup>の第4型式から第6型式に相当する。

SE 5 SD 6の埋土掘削後に検出した。直径約1.6m、深さ約1.8mの円形の素掘りの井戸で、底には曲物が据えられていた。遺物は、土師器皿(99・

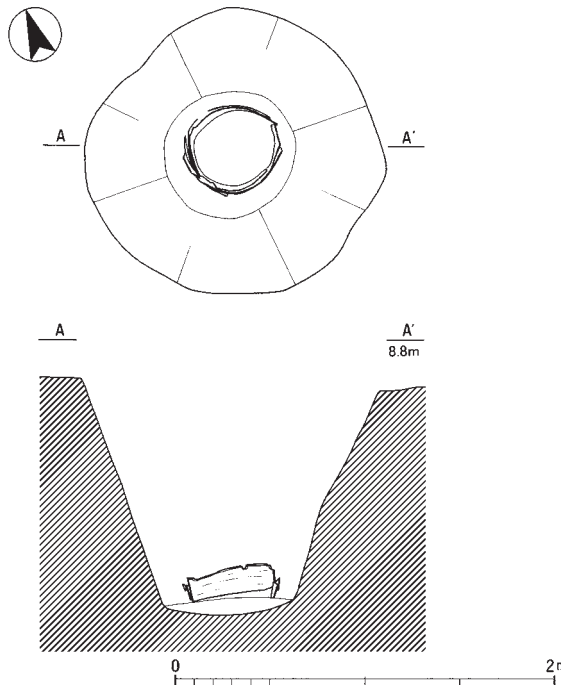


第56図 SE 2 実測図 (1 : 40)

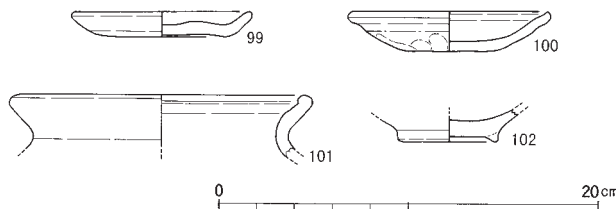


第57図 SE 2 出土遺物実測図 (1 : 4)

100)・甕(101)・灰釉陶器碗(102)が出土したが、このうち100はいわゆる「て」の字状口縁の皿である。



第58図 SE 5 実測図 (1 : 40)

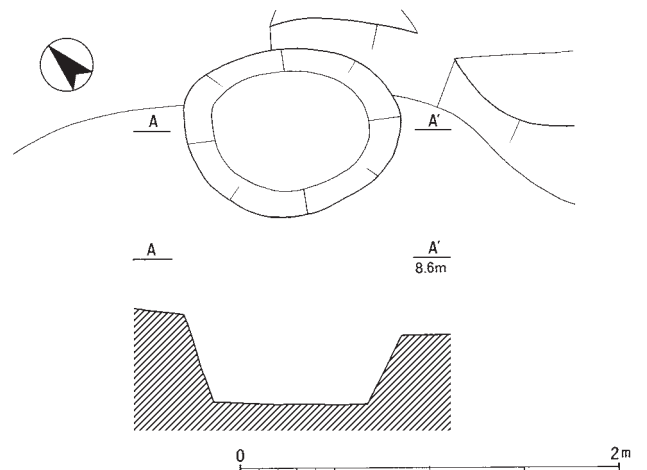


第59図 SE 5 出土遺物実測図 (1 : 4)

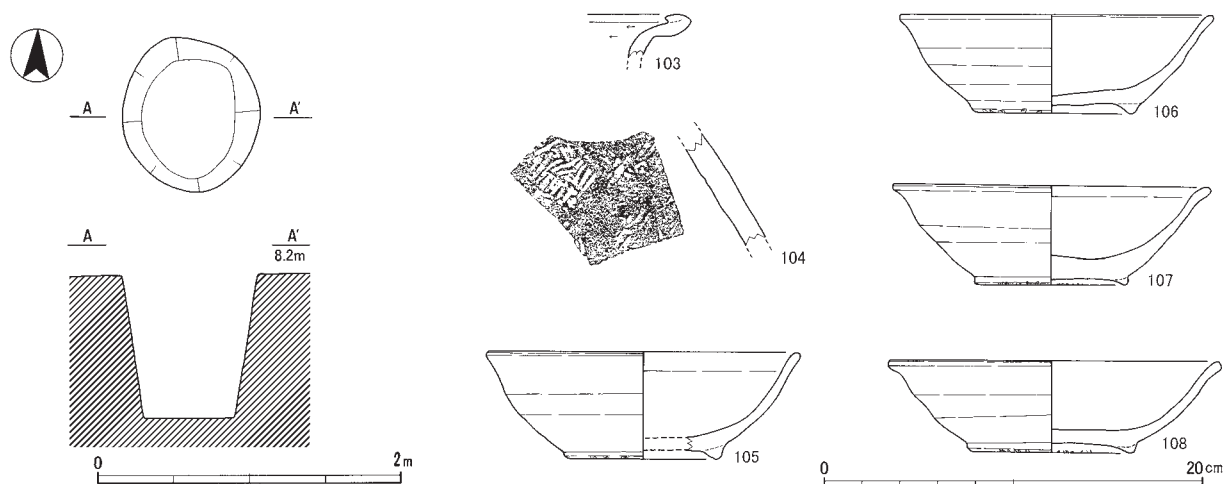
SE 6 SD 6 の埋土掘削後に検出した。長径約1.2m、深さ0.5mの楕円形の素掘りの井戸である。遺物は土師器鍋や灰釉陶器がわずかに出土しただけである。

SE 7 直径約1m、深さ約1mの円形の素掘りの井戸である。遺物は、土師器鍋(103)、陶器甕(104)・山茶碗(105~108)が出土しており、鍋は伊藤分類<sup>③</sup>の(仮) A段階に、山茶碗は藤澤編年の第4型式から第5型式に相当する。

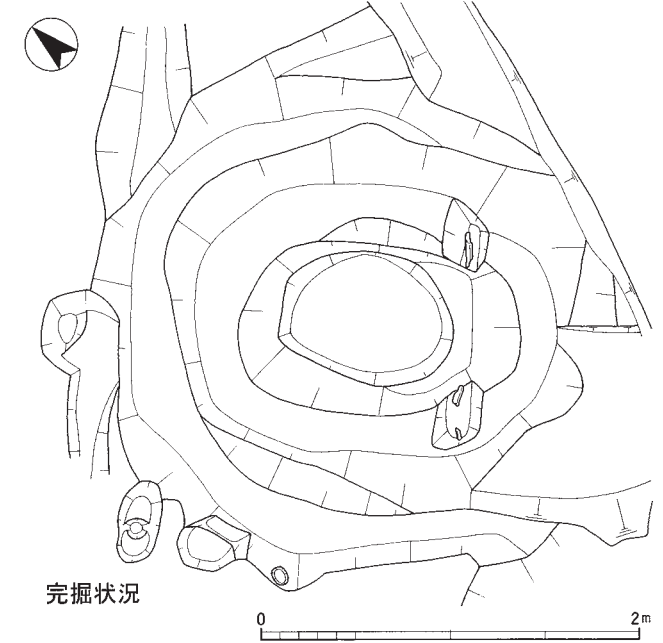
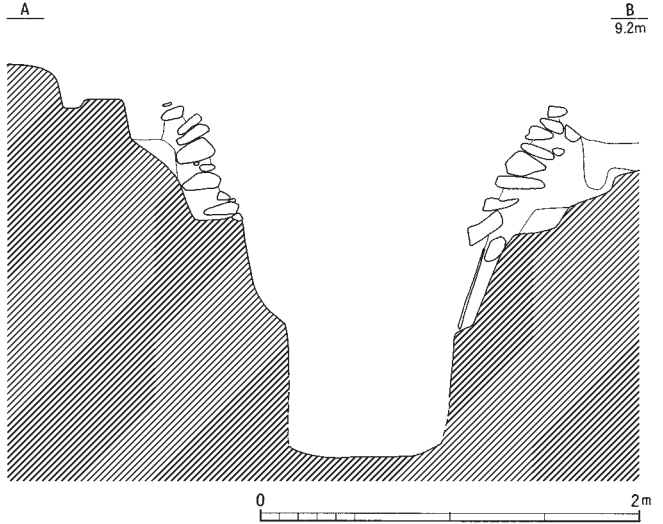
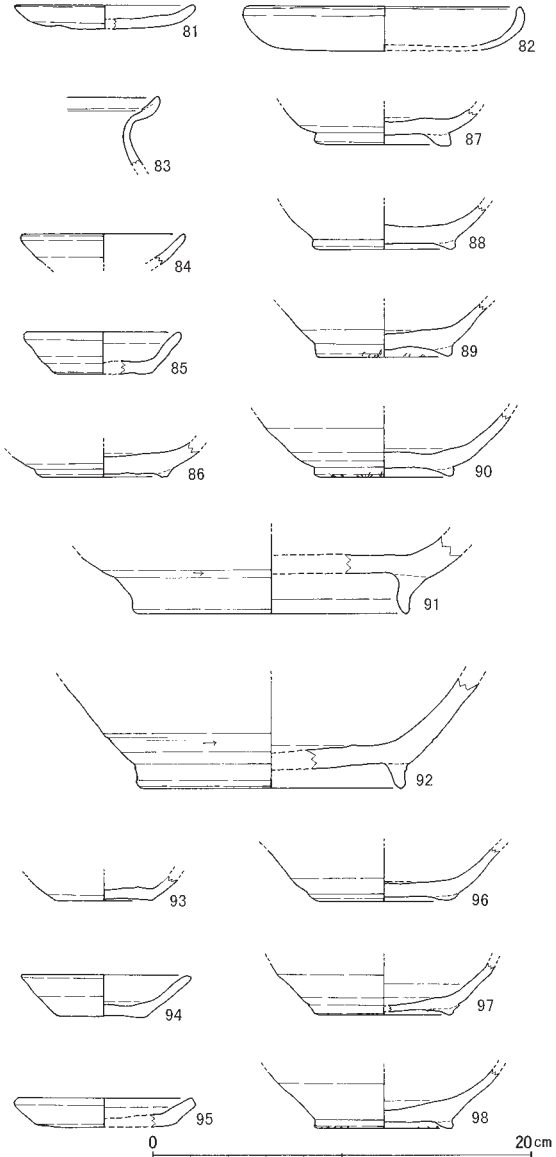
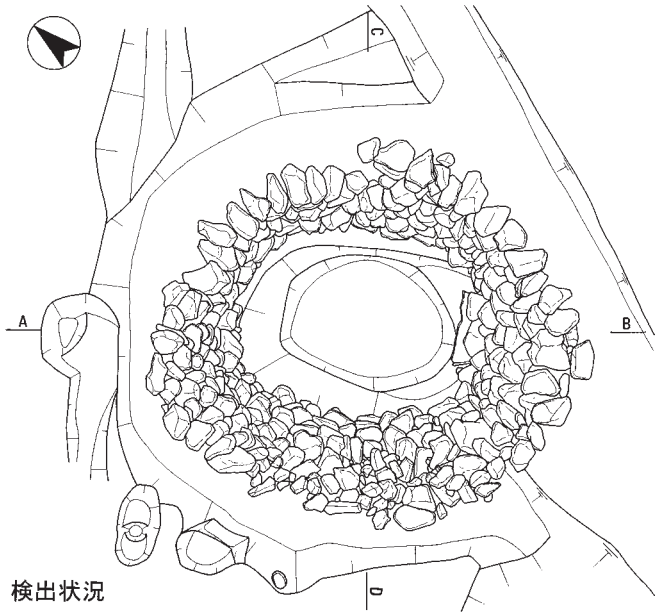
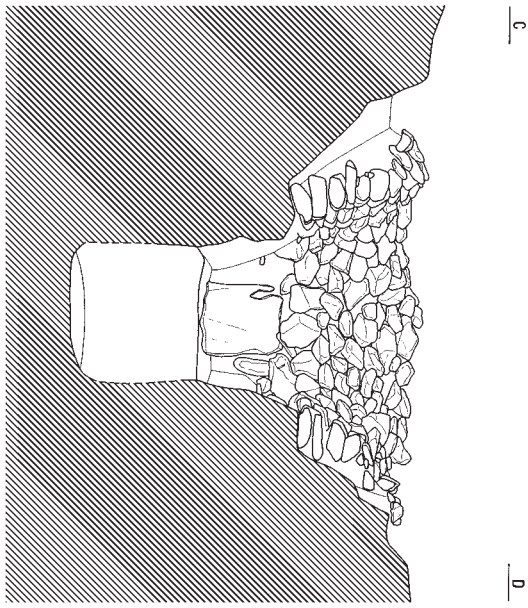
SE 8 長径約2.6m、深さ約1.3mの楕円形の素掘りの井戸である。遺物の量は多く、土師器皿(110~113)・鍋(114~117)陶器山茶碗(118・123~139)・小碗(120)・小皿(119・121・122)・甕(140)、白磁碗(141)、曲物(109)が出土した。土師器皿のうち110・111は口縁部が上方に立ち上がるものである。



第60図 SE 6 実測図 (1 : 40)



第61図 SE 7 実測図 (1 : 50)、出土遺物実測図 (1 : 4)



第62図 SE 4 実測図 (1 : 40)、出土遺物実測図 (1 : 4)



鍋は伊藤分類の（仮）A段階から第1段階a型式に相当する。山茶碗、小碗、小皿は藤澤編年の第4型式から第5型式のものが中心で122の底部外面には「×」の墨書がある。白磁碗(141)は大宰府編年<sup>④</sup>のIV-1類に相当するもので、曲物109の側面には木釘孔がある。

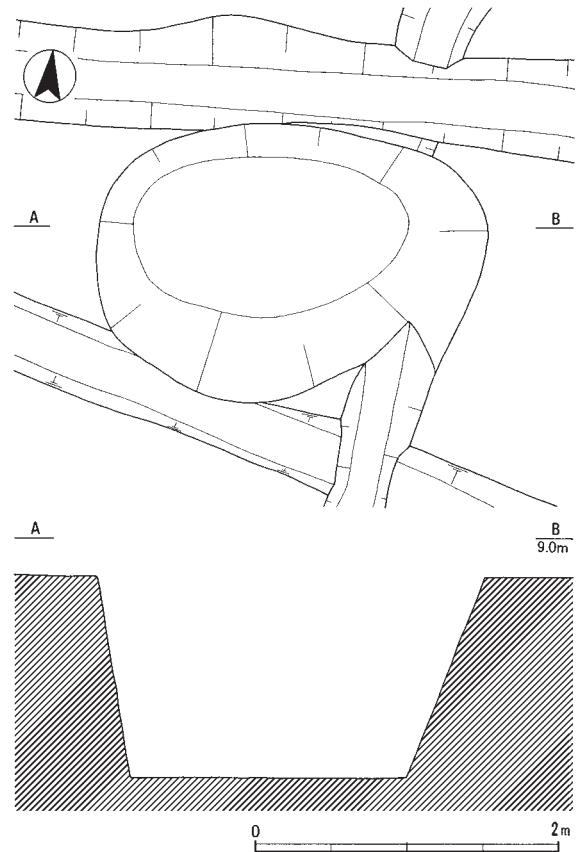
SE9 直径約1.3m、深さ約1.3mの円形の素掘りの井戸で、断面形は漏斗状を呈する。遺物は、陶器山茶碗(142)のほか土師器が出土した。

SE10 直径約1.1m、深さ約0.7mの円形の素掘りの井戸で底は東側に偏っている。遺物は、土師器皿(143)、陶器山茶碗(144・145)、板状の木製品(146)が出土した。山茶碗は藤澤編年の第7型式に相当する。

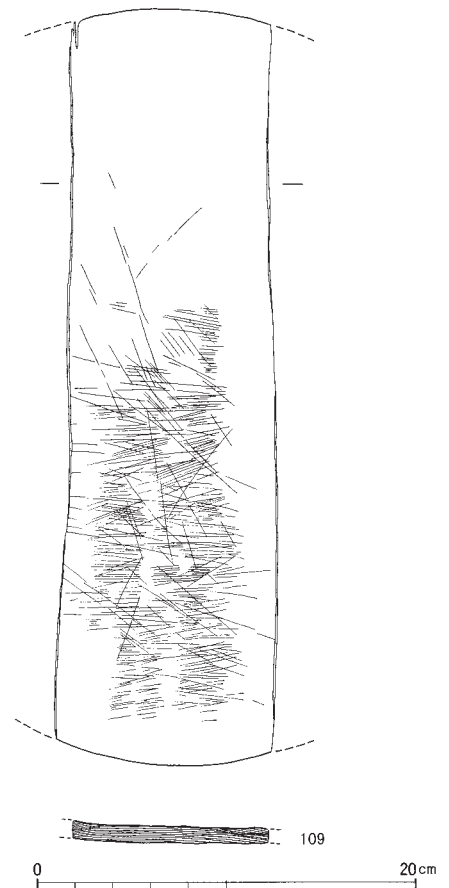
SE11 調査区を東へ拡張して掘削したもので、南側はSK14と重複している。長径約2.4m、深さ約1.6mの楕円形の素掘りの井戸で、断面形は漏斗状を呈する。遺物は、土師器杯(147)・甕(148・149)、須恵器杯(150～153)、壺(154)が出土した。須恵器は猿投編年の岩崎25号窯式に相当する。

SE12 SE11と同様に調査区を東へ拡張して掘削したもので、遺構の輪郭はやや不明瞭であるが、一辺3m程度の略方形になるものとみられる。深さは約1.6mで、上半は漏斗状に、下半は円筒状に掘られている。井戸壁の傾斜変換点に井戸枠の一部とみられる木材がコの字形に残っており、そのコーナーにあたる井戸壁が架構のために掘り窪められていた。板材(189)も出土していることから、この上方に方形の井戸枠が組み立てられていたものと考えられる。

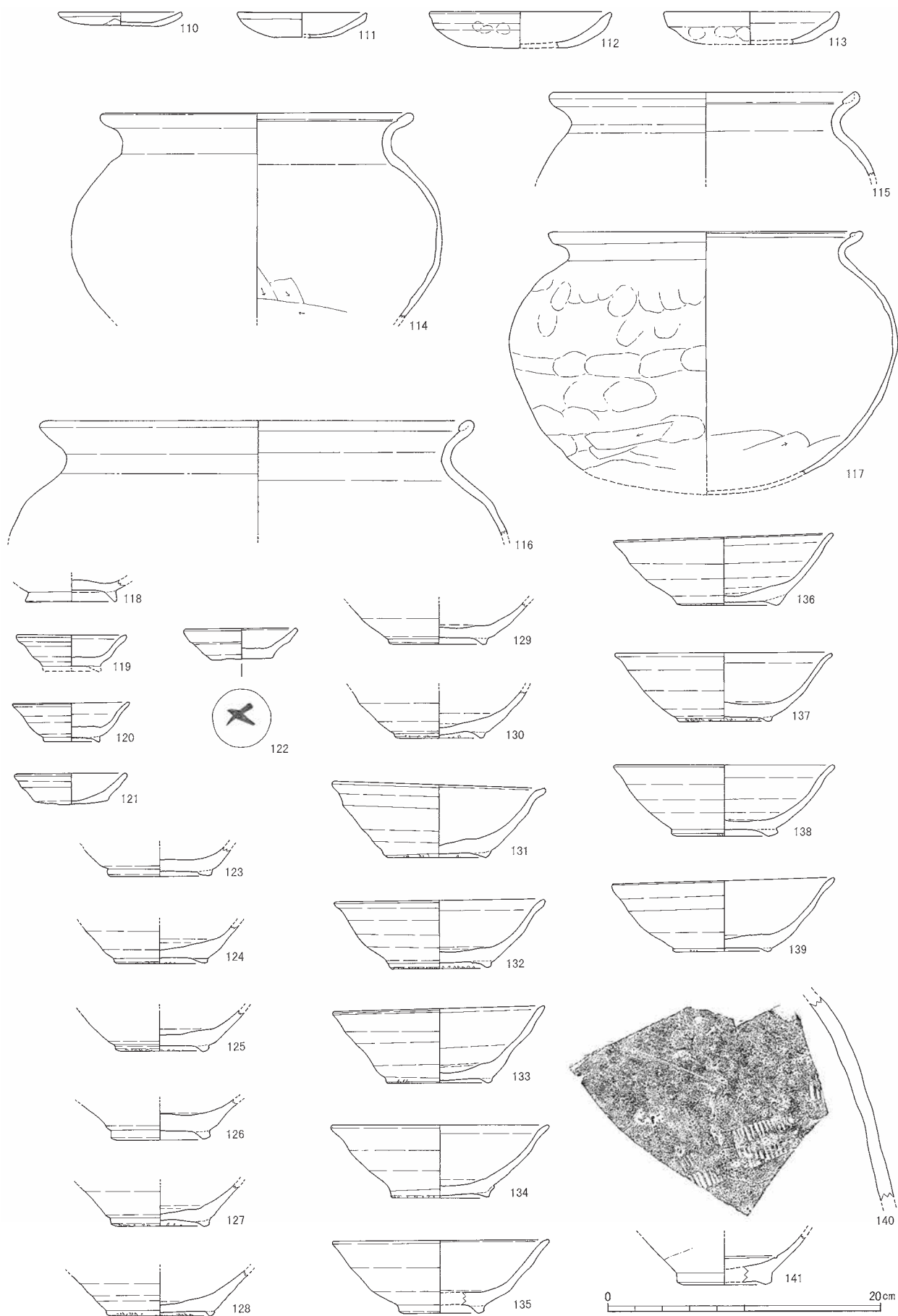
遺物は、土師器杯(155～164)・碗(165・166)、黒色土器碗(167～169)、灰釉陶器皿(170・171)・碗(172～179)、緑釉陶器碗(180・181)、土錘(182～184)のほか、木製品(185～189)や多量の堅果類が出土した。土師器杯は比較的薄手で、平坦な底部から口縁部が斜めに直線的にのび、その1/2がヨコナデされるもので、平安時代型の杯の終末形態と考えられる。黒色土器はいずれもA類で、167のみ高台がつく。灰釉陶器は、猿投編年の折戸53号窯式から東山72号窯式のものが見られる。棒状木製品186は先端が二つに割られており、割れ目に他の木が挟まっていた。185の横櫛はA II 型式にあたるもので、1



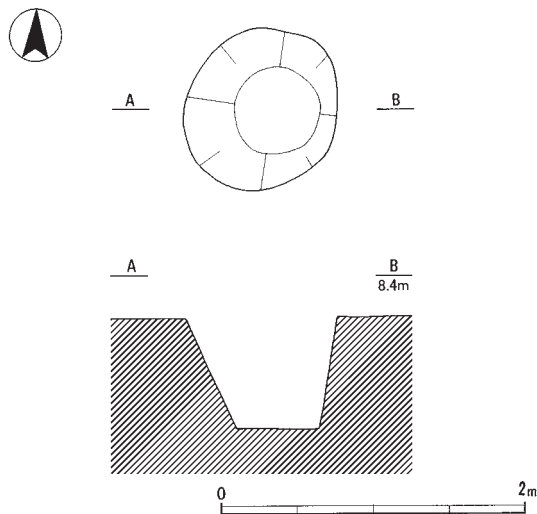
第63図 SE8実測図(1:50)



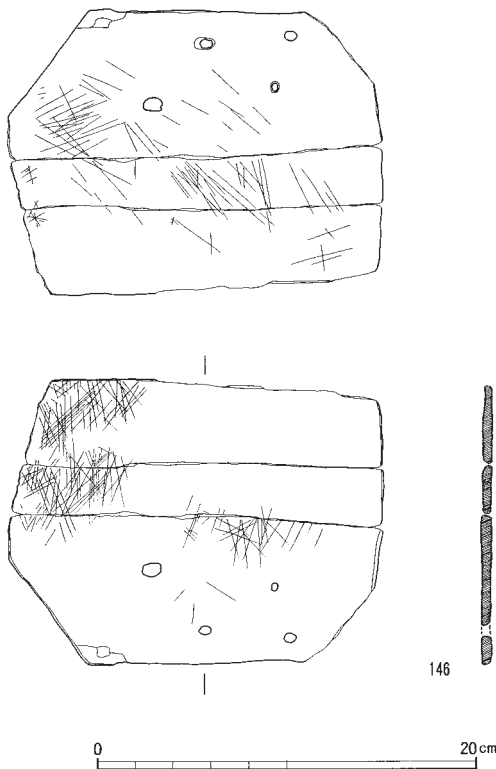
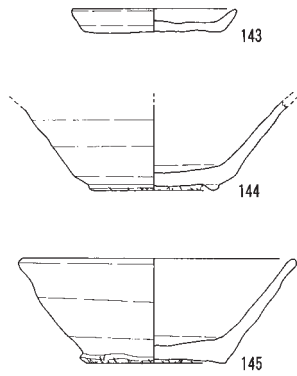
第64図 SE8出土遺物実測図①(1:4)



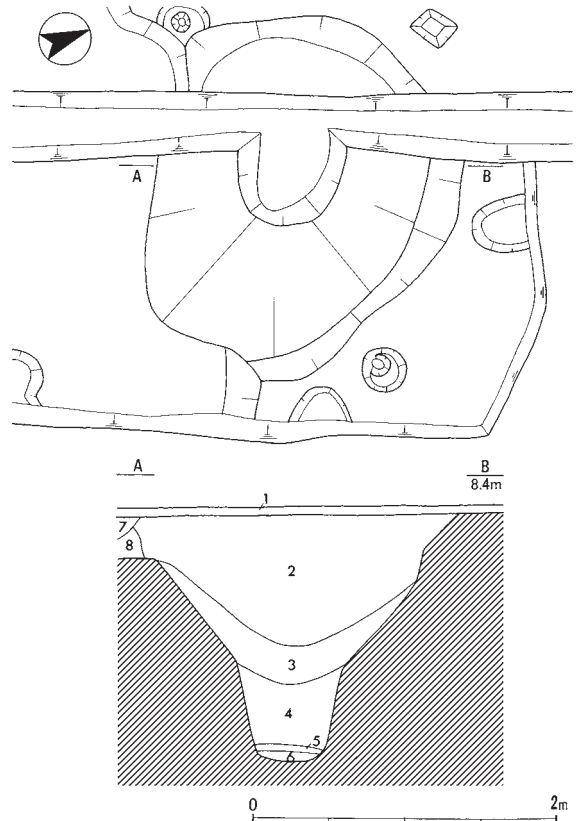
第65図 SE 8 出土遺物実測図② (1 : 4)



第66図 SE10実測図 (1 : 50)

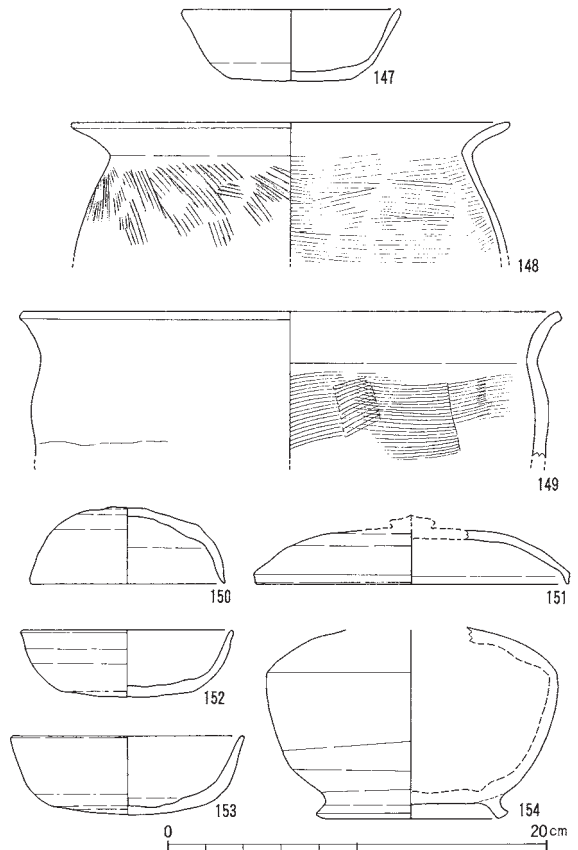


第67図 SE10出土遺物実測図 (1 : 4)

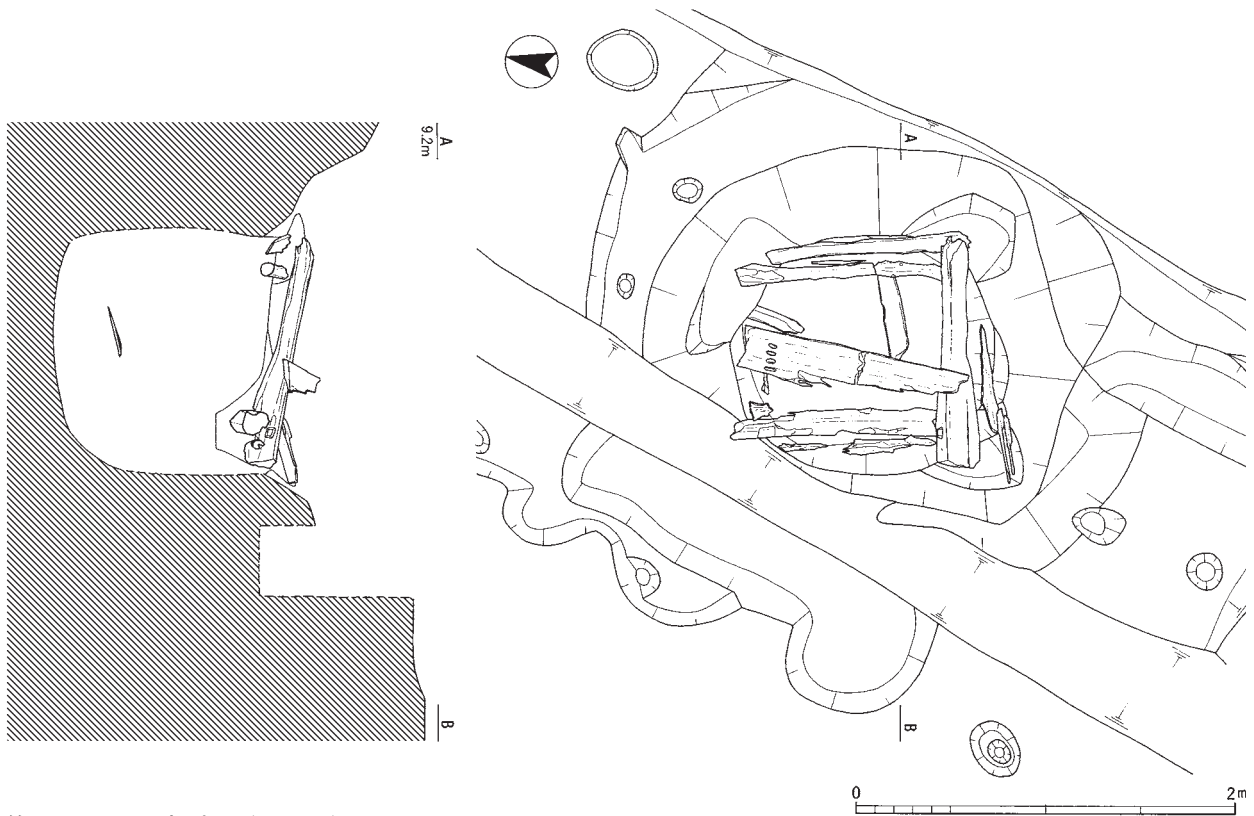


- |             |                       |
|-------------|-----------------------|
| 1 耕作土       | 5 淡灰色砂質シルト            |
| 2 黒灰色シルト    | 6 暗灰色シルト              |
| 3 黒灰色粘土質シルト | 7 黒灰色シルト(黄灰色粘土質シルト混入) |
| 4 暗灰色シルト    | 8 黒灰色シルト(黄灰色粘土質シルト混入) |

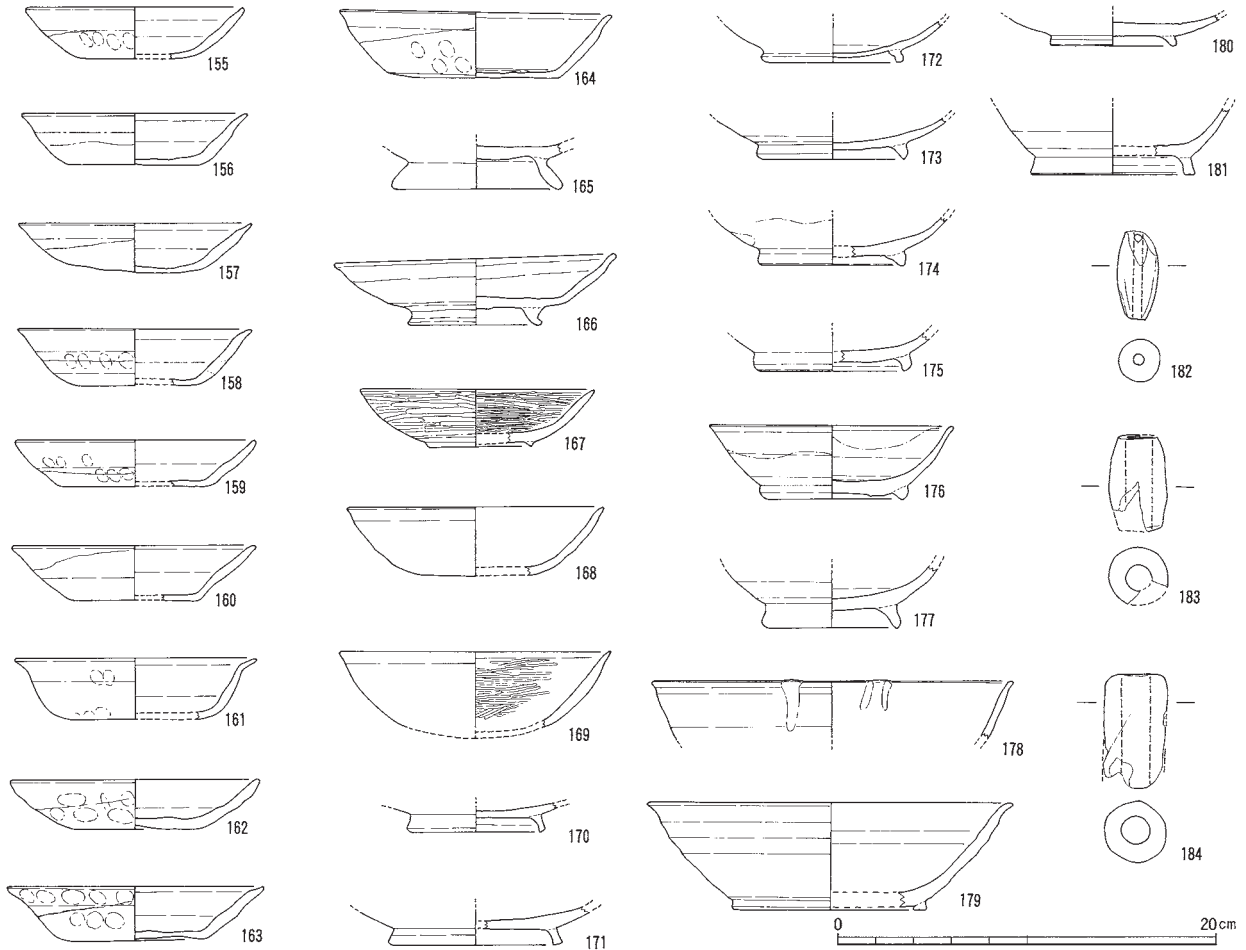
第68図 SE11実測図・土層断面図 (1 : 50)



第69図 SE11出土遺物実測図 (1 : 4)

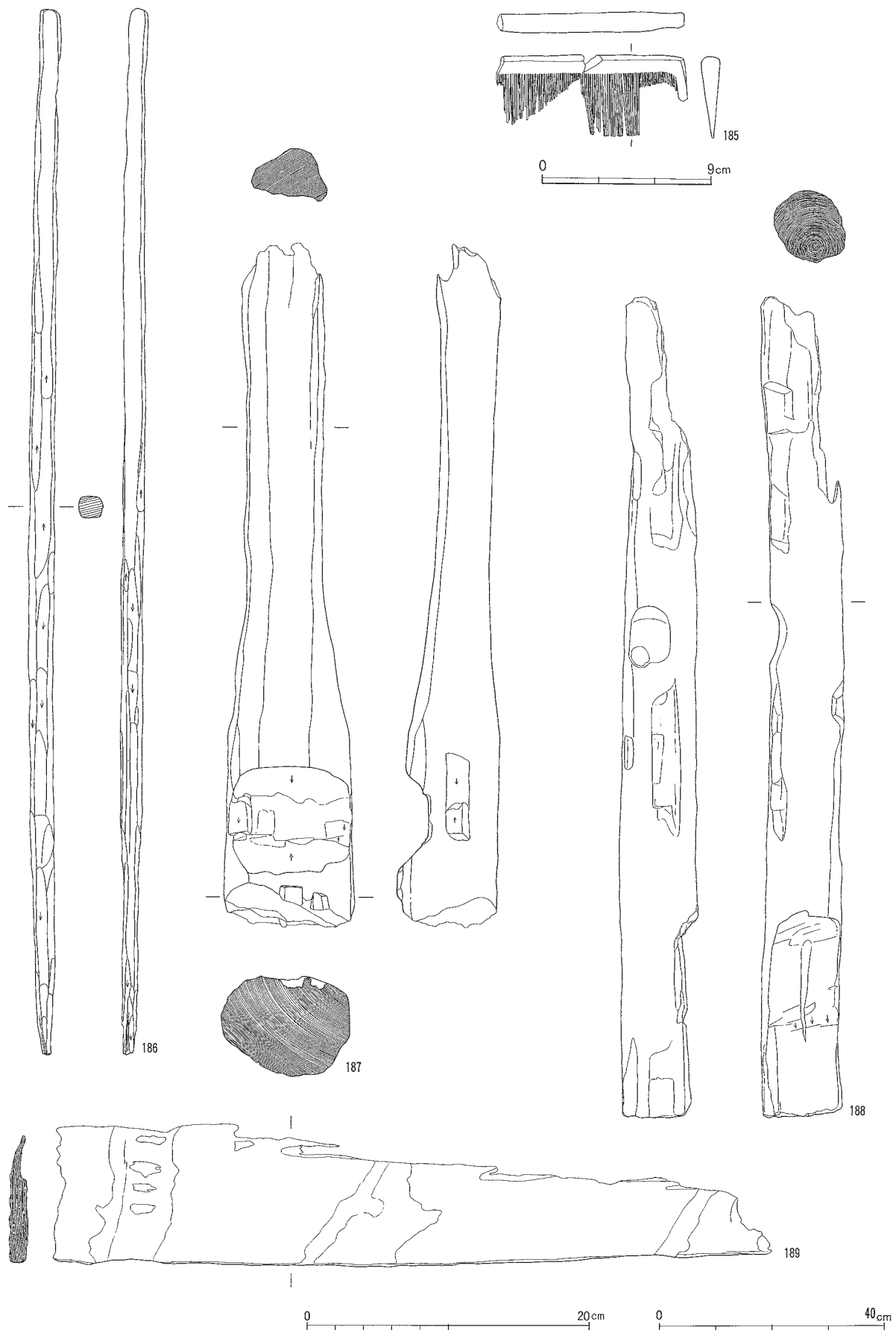


第70図 SE12実測図 (1 : 40)

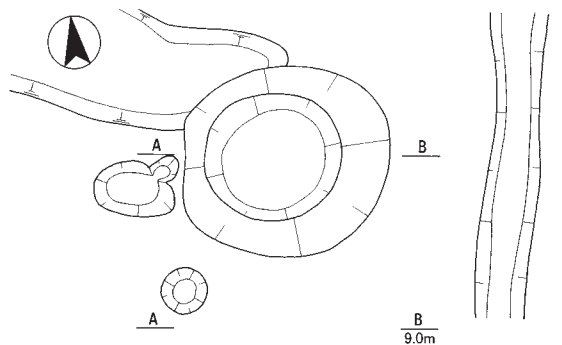


第71図 SE12出土遺物実測図① (1 : 4)

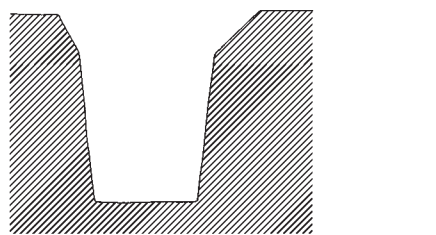




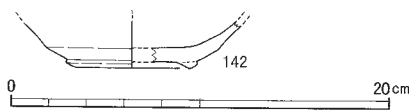
第72図 SE12出土遺物実測図② 185 (1 : 3)、186 (1 : 4)、187~189 (1 : 10)



第73図 SE 9 実測図 (1 : 50)



第74図 SE 9 出土遺物実測図 (1 : 4)

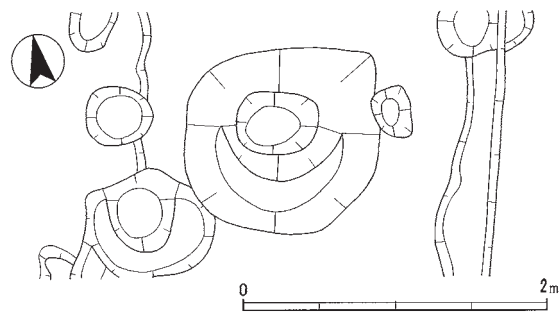


cmあたり9～10本の歯が挽き出されている。187～189は井戸枠で、このうち188と組み合わされていた187は柱から転用されたものである。

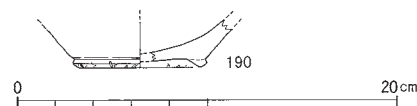
SE13 直径約1.3mの円形の素掘りの井戸である。南側にテラスがあり、底はやや北側に偏っている。遺物は、土師器や陶器山茶椀(190)が出土した。

SE14 直径約1.5m、深さ約2mの円形の素掘りの井戸で断面形は漏斗状を呈する。遺物は、土師器皿(191)・椀(192)、ロクロ土師器皿(193)・台付皿(194)、灰釉陶器小椀(195)・山茶椀(196～198)、緑釉陶器椀(199)、土錘(200)、板状の木製品(201)が出土した。山茶椀は藤澤編年の第4型式に相当するもので、198の底部外面には「上」の墨書がある。また混入品である緑釉陶器椀199の内側には陰刻花文が施されている。

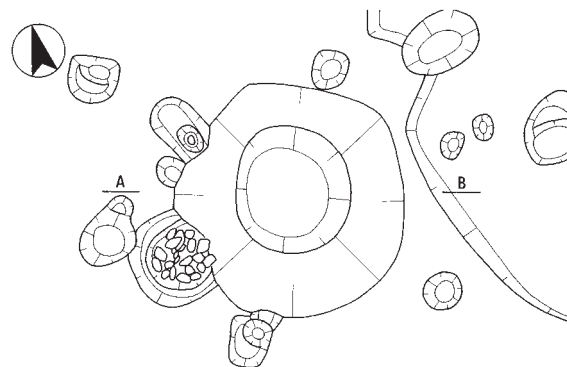
SE15 SD10と重複していることもあって、平面形はやや不整形である。直径は最大で約1.9m、深さは約1mの素掘りの井戸で、断面形は漏斗状を呈している。遺物は、灰釉陶器椀(202)のほか、土師器や製塩土器が出土した。202は猿投編年の黒笹90号窯



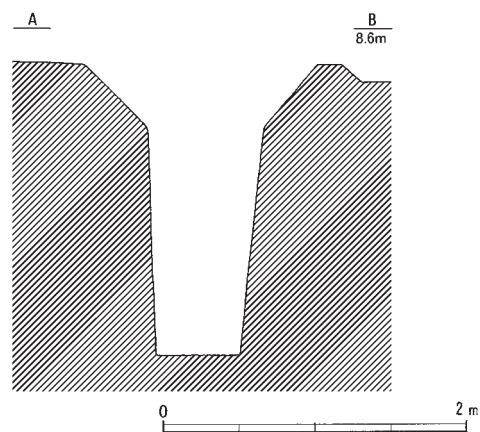
第75図 SE13実測図 (1 : 50)



第76図 SE13出土遺物実測図 (1 : 4)



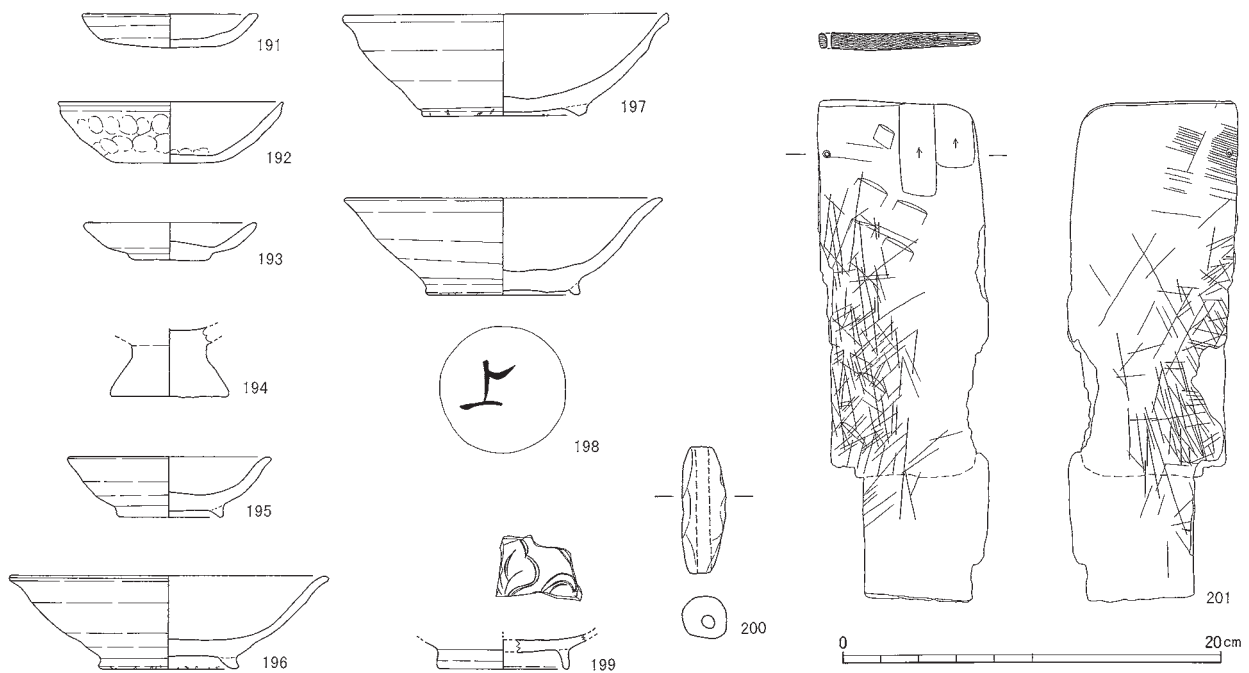
第77図 SE14実測図 (1 : 50)



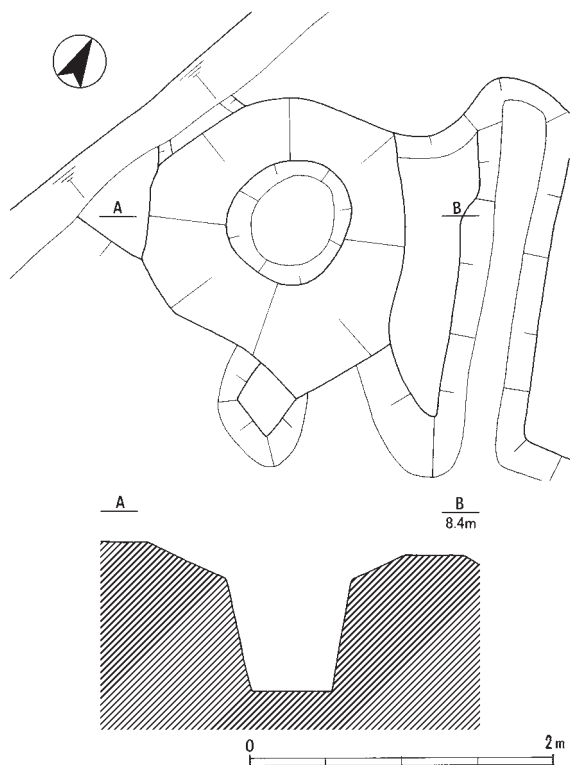
式に相当する。

SE16～SE19 出土した陶磁器類から、いずれも19世紀第3四半期頃に比定できるもので、「安政元年窪田村地図」に描かれた「窪田出屋」に関する遺構と考えられる。完掘したものはない。

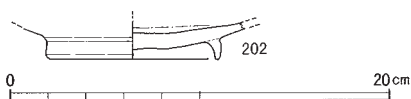
SE16は、長辺約3mの略方形の井戸で、北側にテ



第78図 SE14出土遺物実測図 (1:4)



第79図 SE15実測図 (1:50)



第80図 SE15出土遺物実測図 (1:4)

ラスをもつ。遺物は、陶器土瓶蓋(203)、磁器椀蓋(204・205)、寛永通寶(206)などが出土した。204は瀬戸産、205は伊万里産である。

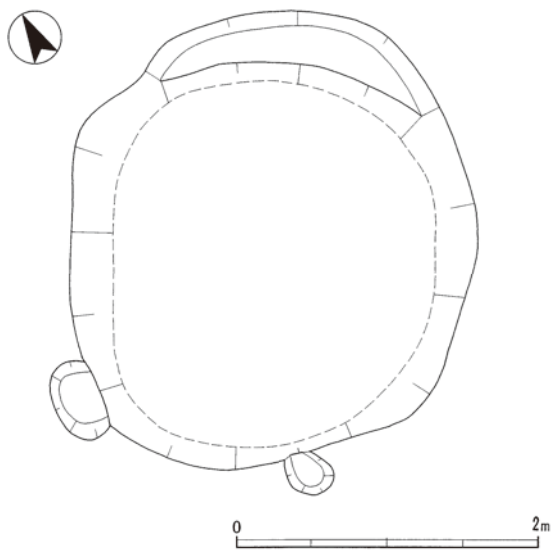
SE17は、一辺約2.8mの略方形の井戸で、中央には陶器製の井戸杵が2段に積まれていた。遺物は、瓦質焙烙(207・208)、陶器挿鉢(209)・井戸杵(210・211)などが出土した。焙烙には鏝があり、207は鏝の直上で内側から穿孔されている。また井戸杵210・211の外面には墨書がみられる。

SE18は、いびつな方形の井戸で、長辺は約3mである。細かいテラスがいくつもある。中央は円形に掘られており、SE17と同様な陶器製の井戸杵(214・215)が据えられていた。遺物は、陶磁器類のほかに曲物(212)や砥石(213)が出土した。212の側面には木釘孔がある。

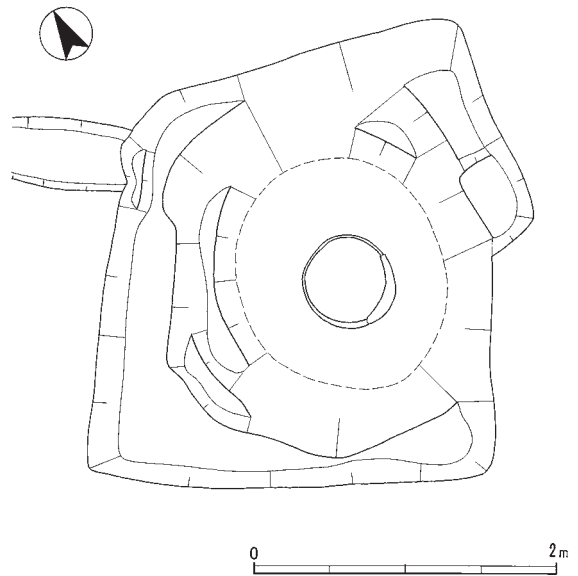
SE19は、長辺約2.9mの略方形の井戸である。テラスが2箇所あり、中央は円形に掘られているようである。

SE20 直径約1.3m、深さ約2.3mの円形の素掘りの井戸である。遺物は、土師器や陶器山茶碗がわずかに出土しただけである。

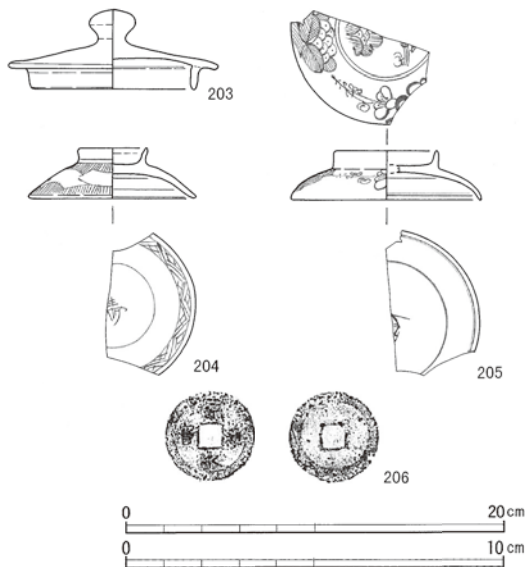
SE21 SK43、SD35と重複している。長径約2.7m、深さ約1.5mの楕円形の素掘りの井戸で、断面形は漏斗状を呈している。



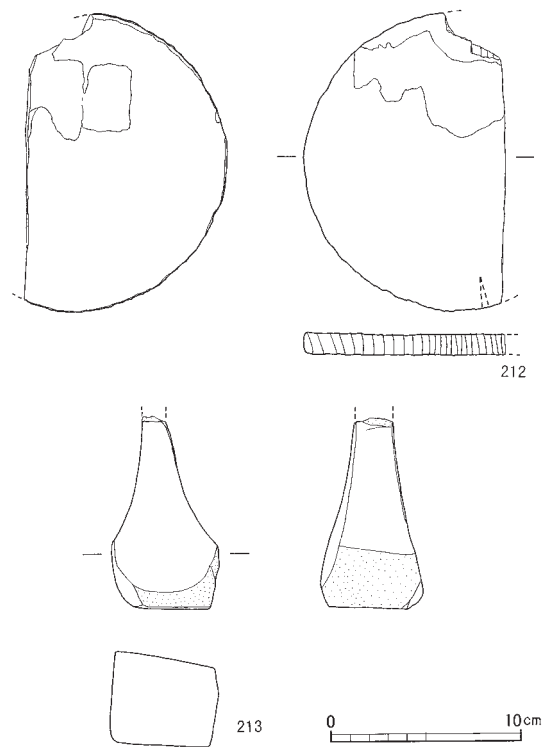
第81図 SE16実測図 (1 : 50)



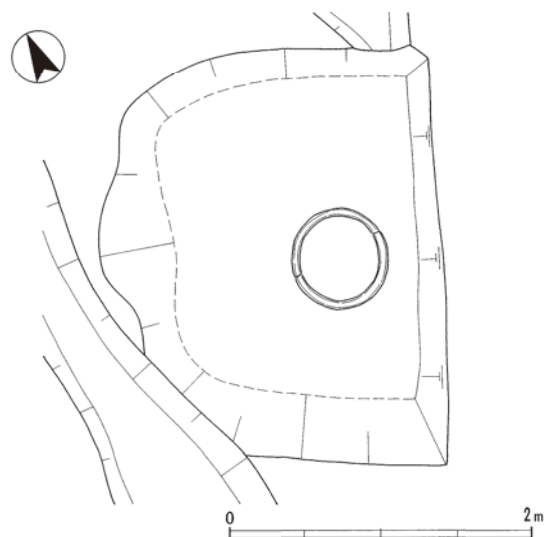
第84図 SE18実測図 (1 : 50)



第82図 SE16出土遺物実測図 (1 : 4)、206 (1 : 2)



第85図 SE18出土遺物実測図① (1 : 4)



第83図 SE17実測図 (1 : 50)

遺物の量は多く、多様な木製品も出土している。土器には土師器皿(225)・鍋(254~256)、陶器小皿(226~239)・山茶碗(240~250)・鉢(251・253)片口鉢(252)、白磁(257・258)がある。山茶碗・小皿は藤澤編年の第6型式のものが中心である。このうち底部に墨書をもつものが6点(237~240・249・250)、外面に墨書をもつものが1点(248)あるが、239の「×」以外は判読できない。鍋のうち254と



256は伊藤分類の第2段階に相当し、白磁椀のうち258は大宰府編年のIV-1類に相当する。木製品には漆椀(216)、曲物(220・222~224)、球状木製品(217・218)、刀の鞘(221)、荷札と考えられる木札(219)などがある。球状木製品のうち217には穿孔が施されており、218については毬杖の玉や毬の芯の可能性がある。曲物のうち220は平面形が八角形のもので、側板と底板は木釘で接合されている。223は3箇所側板と固定するための孔が2孔1対で穿たれており、3箇所とも樺皮紐が残っている。また224も周縁部に1箇所孔が穿たれている。

SE22 長径約1.4m、深さ約1mの楕円形の素掘りの井戸で、テラスをもつ。遺物は、土錘(264・265)、

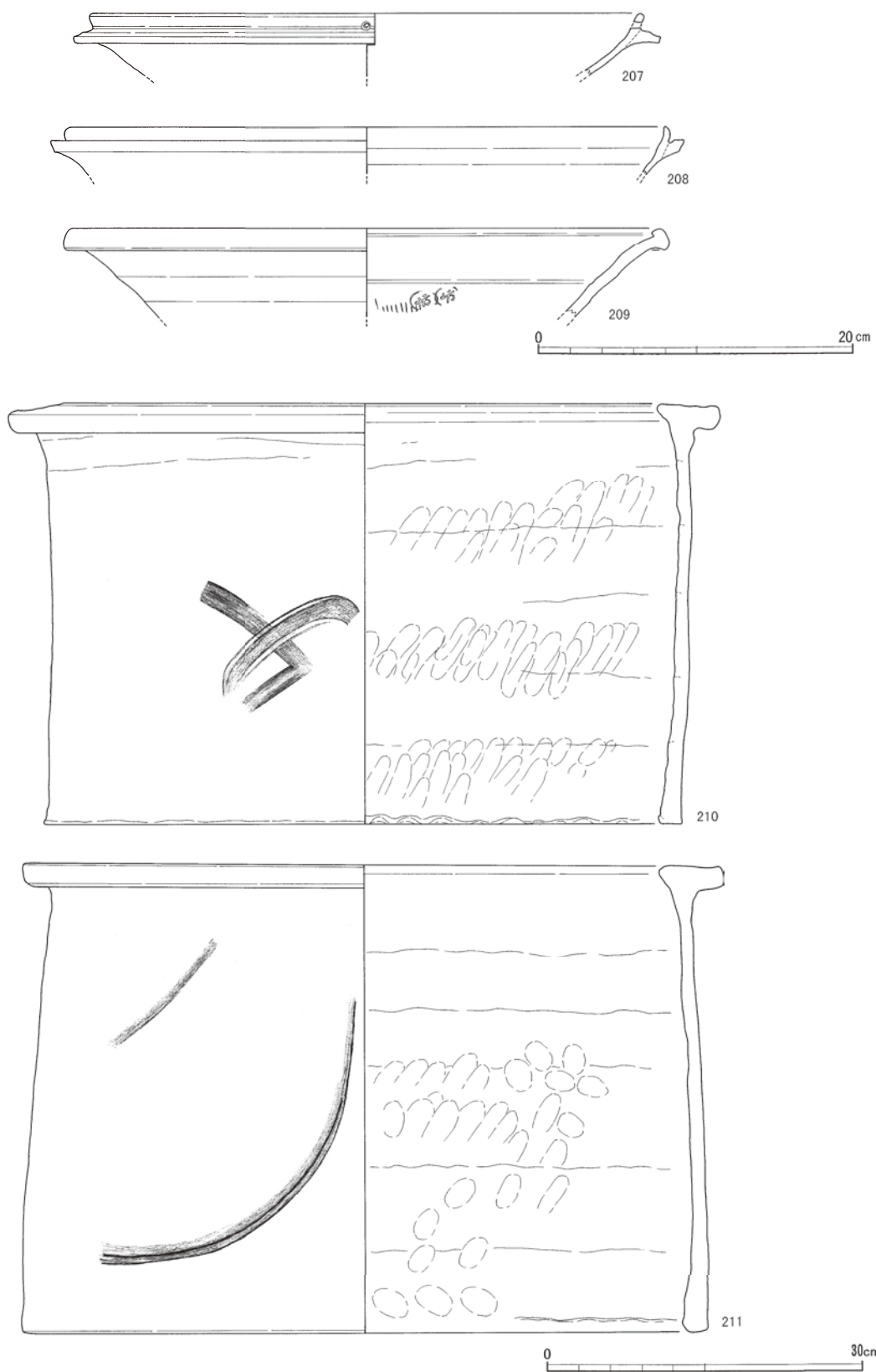
陶器甕(263)・山茶椀などがわずかに出土しただけである。

SE23 直径約1.2m、深さ約1mの楕円形の井戸で、底には石組みが一段のみ残っている。埋土内に人頭大の川原石が80個あまり含まれていたが、これらは円筒形に積まれた石組みが崩壊したものと考えられる。遺物は陶器甕(266・267)・山茶椀、土師器などが出土した。甕は両者とも常滑産のもので、赤羽編年<sup>⑤</sup>のV期の前半に相当するものである。

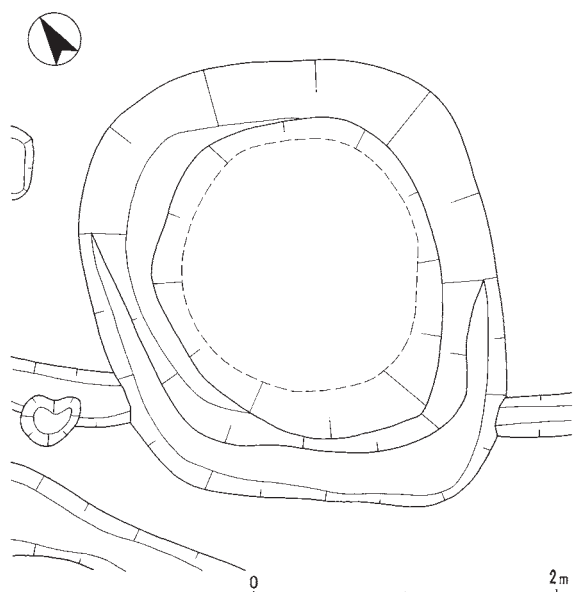
SE24 長径約1.6m、深さ約1.3mの楕円形の素掘りの井戸で、南側以外にテラスをもつ。遺物は、混入品である勾玉(272)のほか陶器小皿(268)・山茶椀(269・270)・壺(271)、曲物(273)、編台(274)、鎌



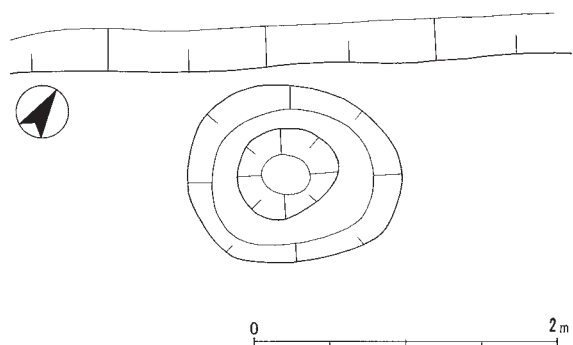
第86図 SE18出土遺物実測図②(1:6)



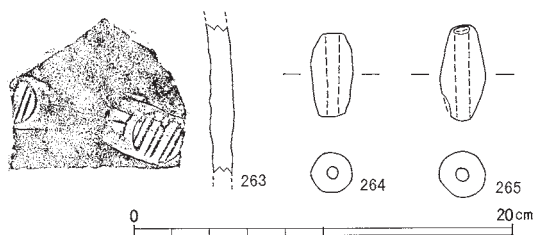
第87図 SE17出土遺物実測図 207~209 (1 : 4)、210・211 (1 : 6)



第88図 SE19実測図 (1 : 50)

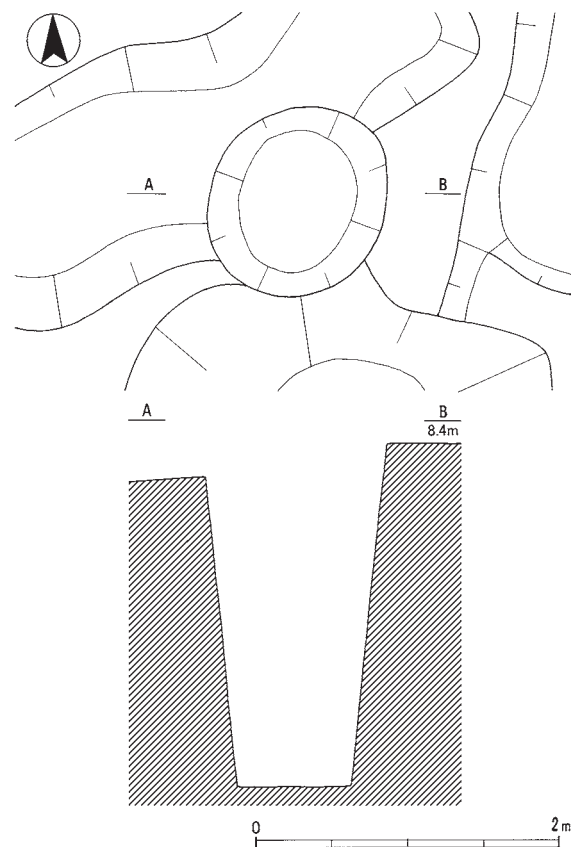


第89図 SE22実測図 (1 : 50)

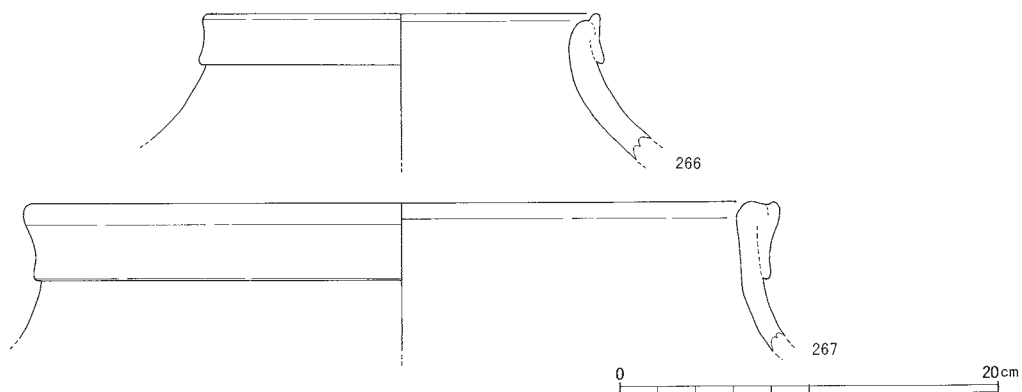


第90図 SE22出土遺物実測図 (1 : 4)

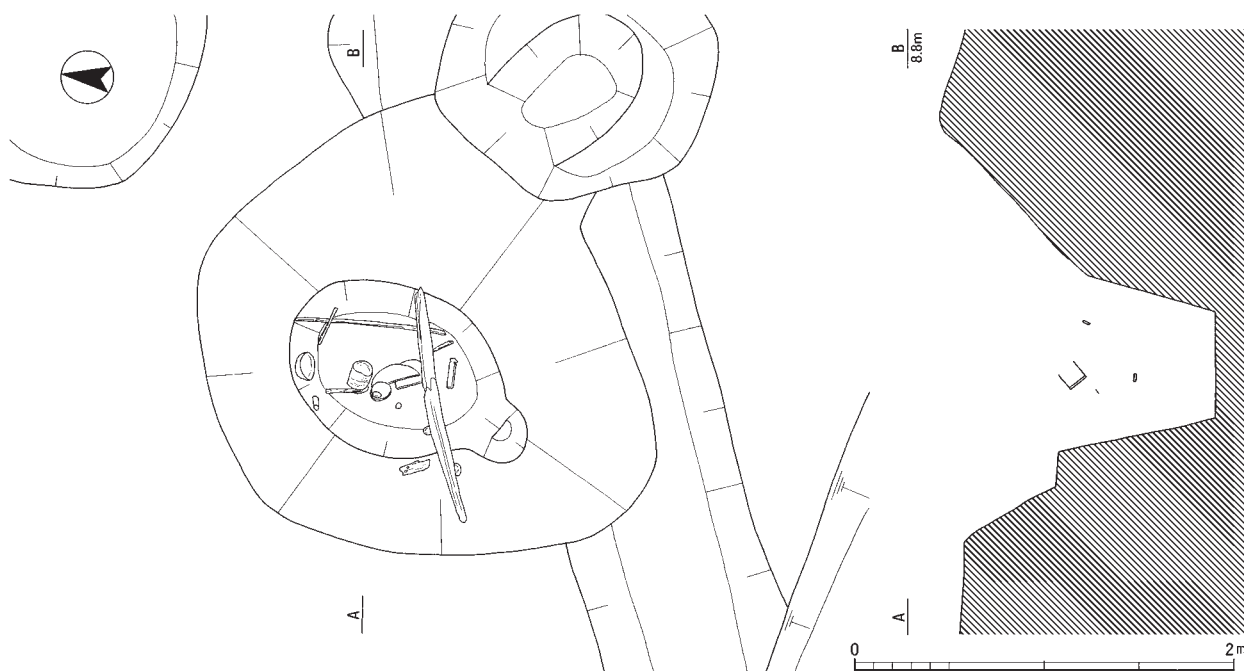
柄(275)などが出土した。山茶椀・小皿は藤澤編年の第5型式から第6型式にあたるもので、268は底部外面に、269は体部外面と底部外面に墨書があり、269のものはともに「十」と記されている。鎌柄275は装着孔内に刃の基部が残っており、上端から2cmほどのところに釘孔が1孔ある、柄尻の腹面にはすべり止めの突起が作りだされている。



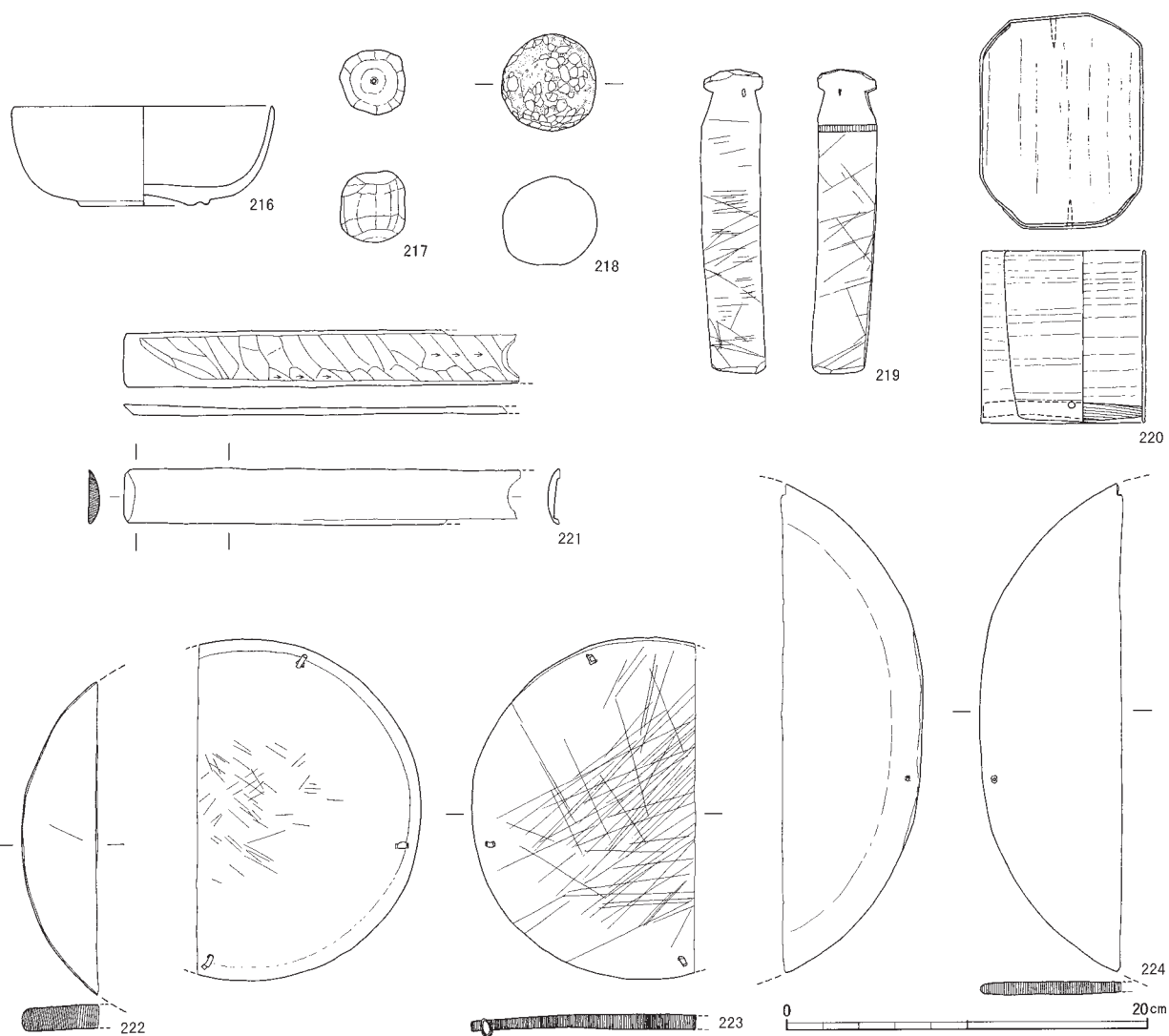
第92図 SE20実測図 (1 : 50)



第91図 SE23出土遺物実測図 (1 : 4)

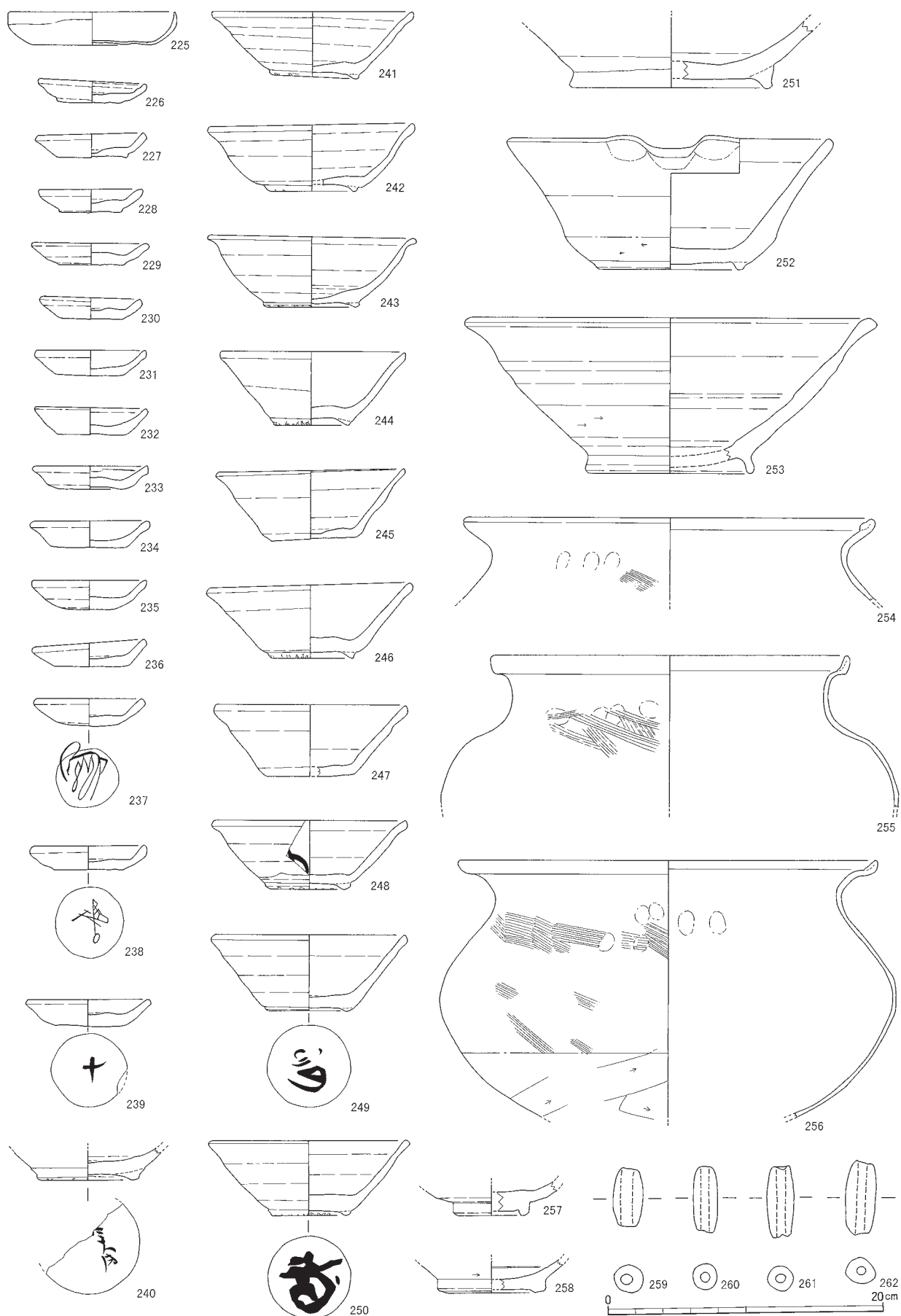


第93図 SE21実測図 (1 : 40)

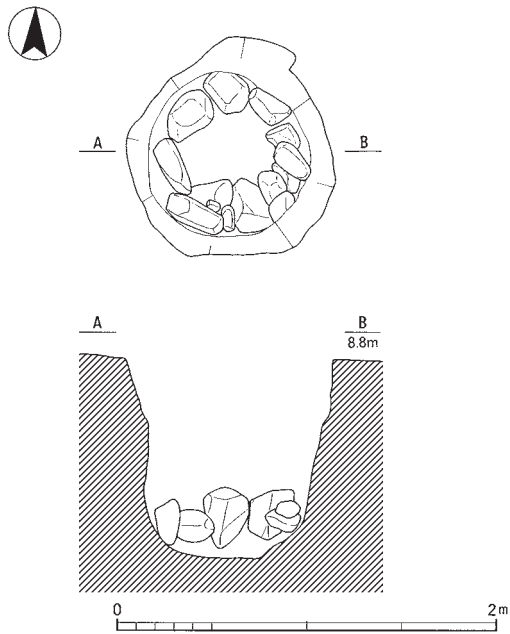


第94図 SE21出土遺物実測図① (1 : 4)

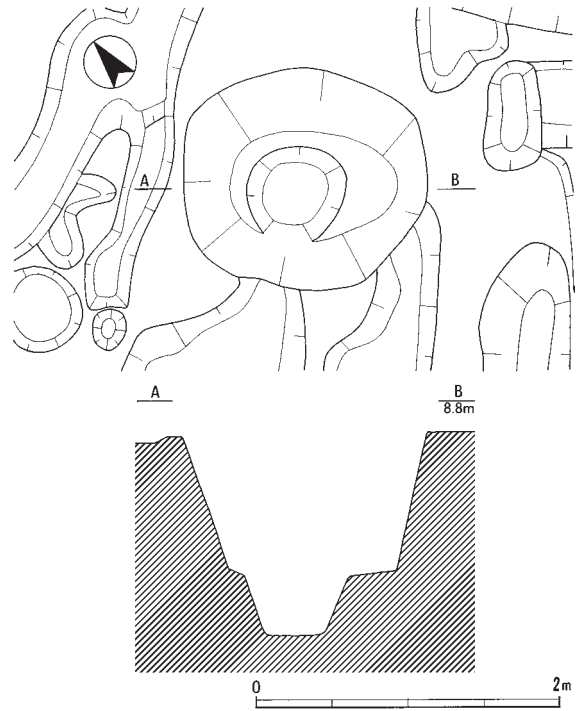




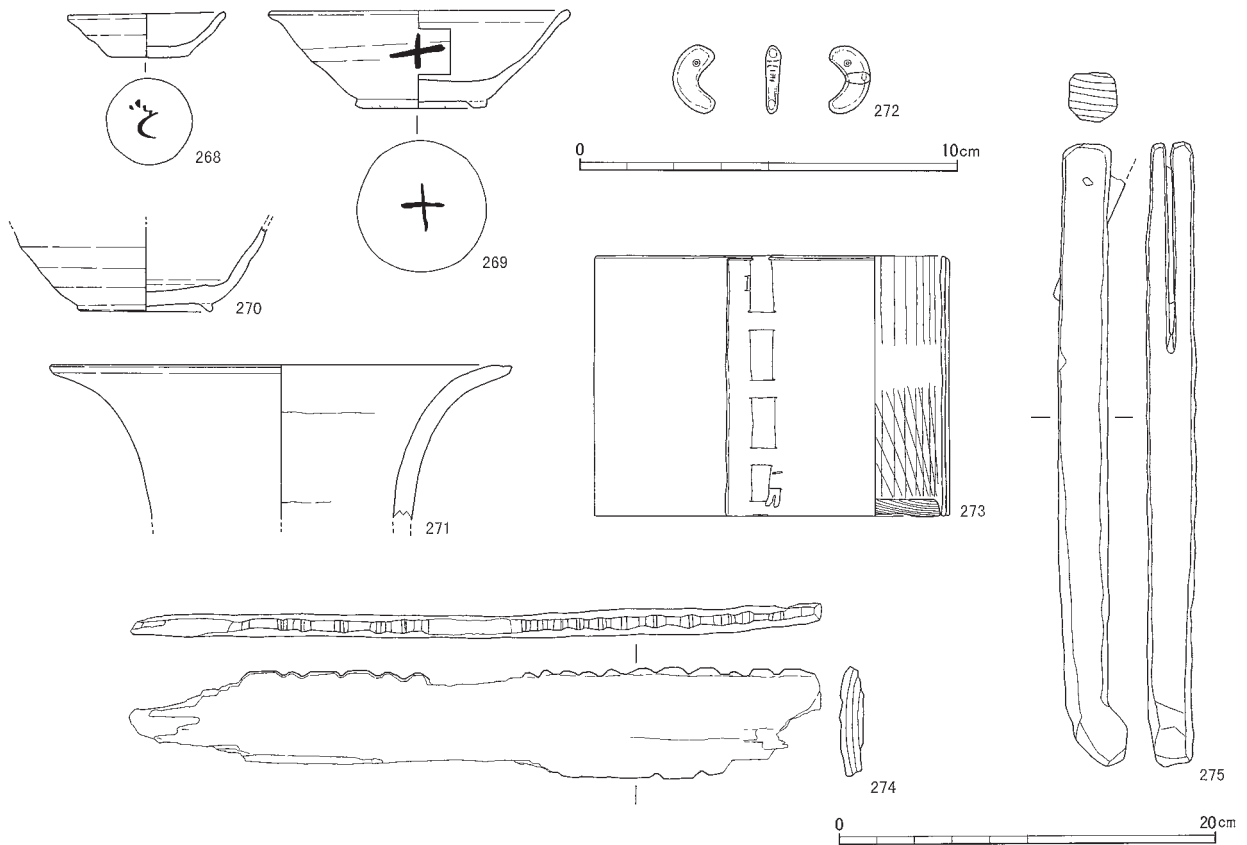
第95図 SE21出土遺物実測図② (1 : 4)



第96図 SE23実測図 (1 : 40)



第97図 SE24実測図 (1 : 50)



第98図 SE24出土遺物実測図 (1 : 4)、272 (1 : 2)

(6) 土坑

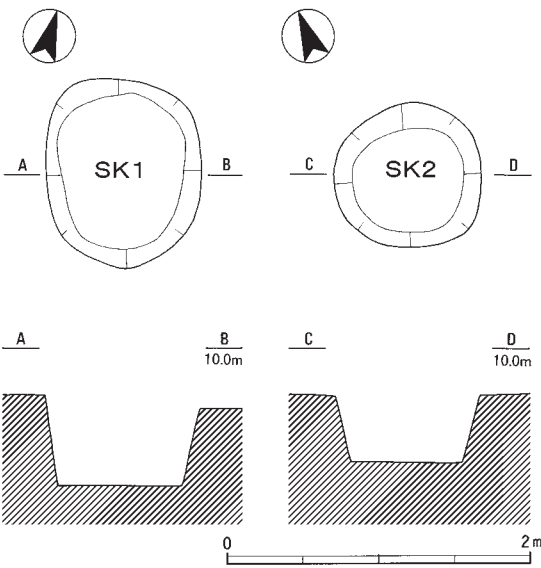
土坑60基の詳細なデータについては一覧表を参照されたい。以下、主な土坑と出土遺物について概略を述べる。

**SK 1** B地区の南端、SD 3の北側に位置する。平面形は短径1m×長径1.3mの楕円形である。検出面からの深さは60cmであるが、水田造成の際に上部が40cm以上削平されている。弥生土器壺の口縁部(276~278)が出土している。276は、やや外反しながら垂直気味に立ち上がる直口壺で、外面はタテハケによる調整がなされている。277も直口壺で、口縁~体上部で、頸部で「く」の字に折れ曲がる。口縁部は内外面ともヨコナデ、体部は外面タテハケ、内面ユビオサエである。278は広口壺で、口縁部は外反して斜め外方向に下垂する。頸部外面はタテハケ、内面はタテ方向のヘラミガキ、口縁部外面はヨコナデ。内面はヨコ方向のヘラミガキによる調整である。時期はいずれも後期前葉である。

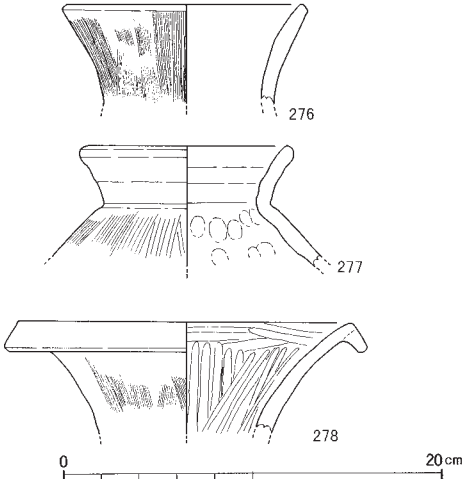
**SK 2** B地区の南端、SD 3のすぐ南に位置する。平面形は直径1mの円形である。深さは40cmだが、水田造成の際に上部が40cm以上削平されている。欠山期と考えられる壺(279)と鉢(280)が出土している。279は球形の体部に、斜め上方に直線的に立ち上がる口縁とからなる直口壺である。頸部には断面三角形の突帯がめぐる。調整は、口縁部外面タテハケとヨコナデ、内面がヨコナデ、体部外面が上からタテハケ→ヨコハケ→ヘラケズリである。280は、球形に膨らむ体部の上半と玉縁状の口縁からなる鉢である。調整は、口縁外面がヨコナデ、内面がヨコ方向のヘラミガキ、体部は内外面ともタテ方向のヘラミガキで丁寧な作りである。このあたりでは類例をみないので搬入品であろう。

**SK 3** C地区の北西よりで検出した。SB 5の中にあるが、掘立柱建物に伴うものではない。平面形は南端の細いたまご形をしており、長径(南北)1.5m×短径(東西)1mを測る。深さ85cmであるが、水田造成の際に上部40cm以上が削平されている。

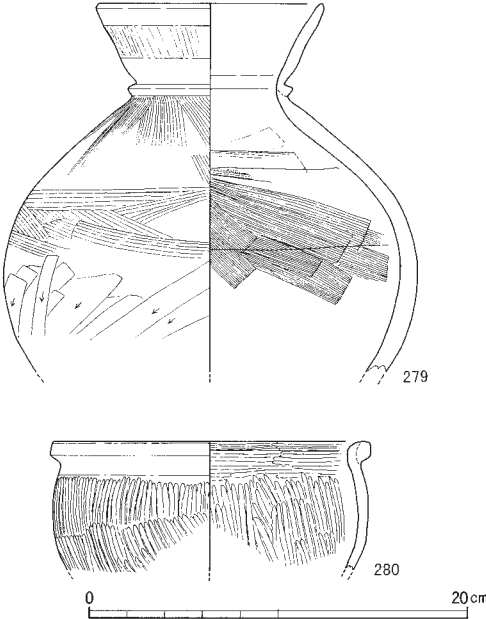
土坑内からは、拳大の礫とともに大量の弥生土器が重なり合って出土した。土器の総数は30個体前後であるが、ほとんどのものは、破損、横転した状態で出土している。例えば、302の高杯は杯部と脚部



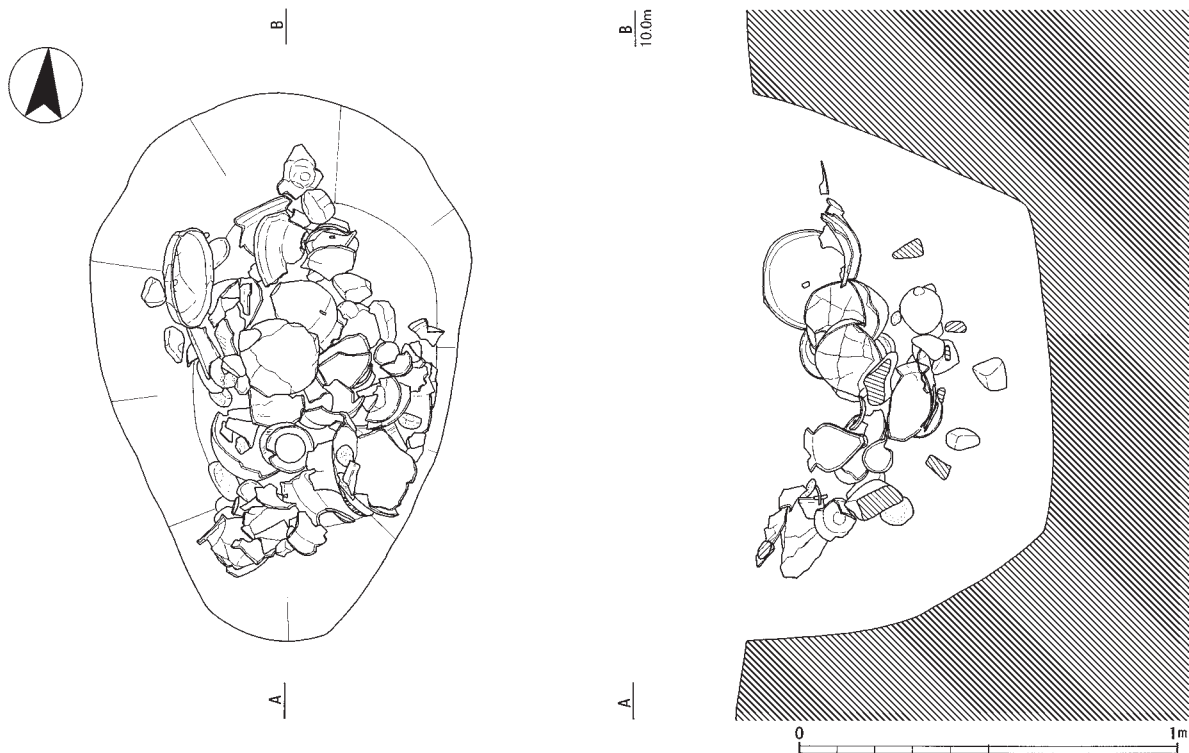
第99図 SK 1・SK 2 実測図 (1 : 50)



第100図 SK 1 出土遺物実測図 (1 : 4)



第101図 SK 2 出土遺物実測図 (1 : 4)



第102図 SK 3 実測図（1：20）

がまったく違う位置から出土しており、土坑に入れられる前からすでに破損していたようである。

出土した土器は弥生時代後期初頭のものと考えられ、図化できたものは27点(281～307)である。壺(281～290)・甕(291～301)が大半をしめ、そのほか、高杯(302～305)・台付甕(306)・器台(307)がある。壺はさらに、広口壺281・283、受口状口縁の広口壺282、直口壺284、長頸壺285・286などに細分される。甕は、いわゆる「近江系」とよばれる受口状口縁のもの291～298が圧倒的に多い。一点出土した台付甕306も同様のものである。

283は、口縁部のみ完存している。頸部には張り付け突帯を巡らし、その上に2段の刺突文を施す。それから続く体部上半も2段の刺突文+波状文で飾られる。口縁端部の面にも刺突列点文を施している。

284は完存しており、焼成後肩部に穿孔されている。

285の頸部下半から体部上半にかけて、横線文→列点文→横線文→列点文が施されている。そのほかの頸部外面は、ヘラミガキ、体部はハケメで調整されている。

292は小ぶりの受口状口縁甕で、完存している。

外面はハケメ、内面は、上半部ナデ、下半部ヘラケズリによる調整である。

このほかの受口状口縁甕は、外面を横線文・列点文・波状文で美しく飾ったものが多い。内面は未調整のものもみられる。

302の高杯は完存で、杯部内外面・脚部外面をていねいにヘラミガキする。脚部には、5孔2段の透孔を穿つ。

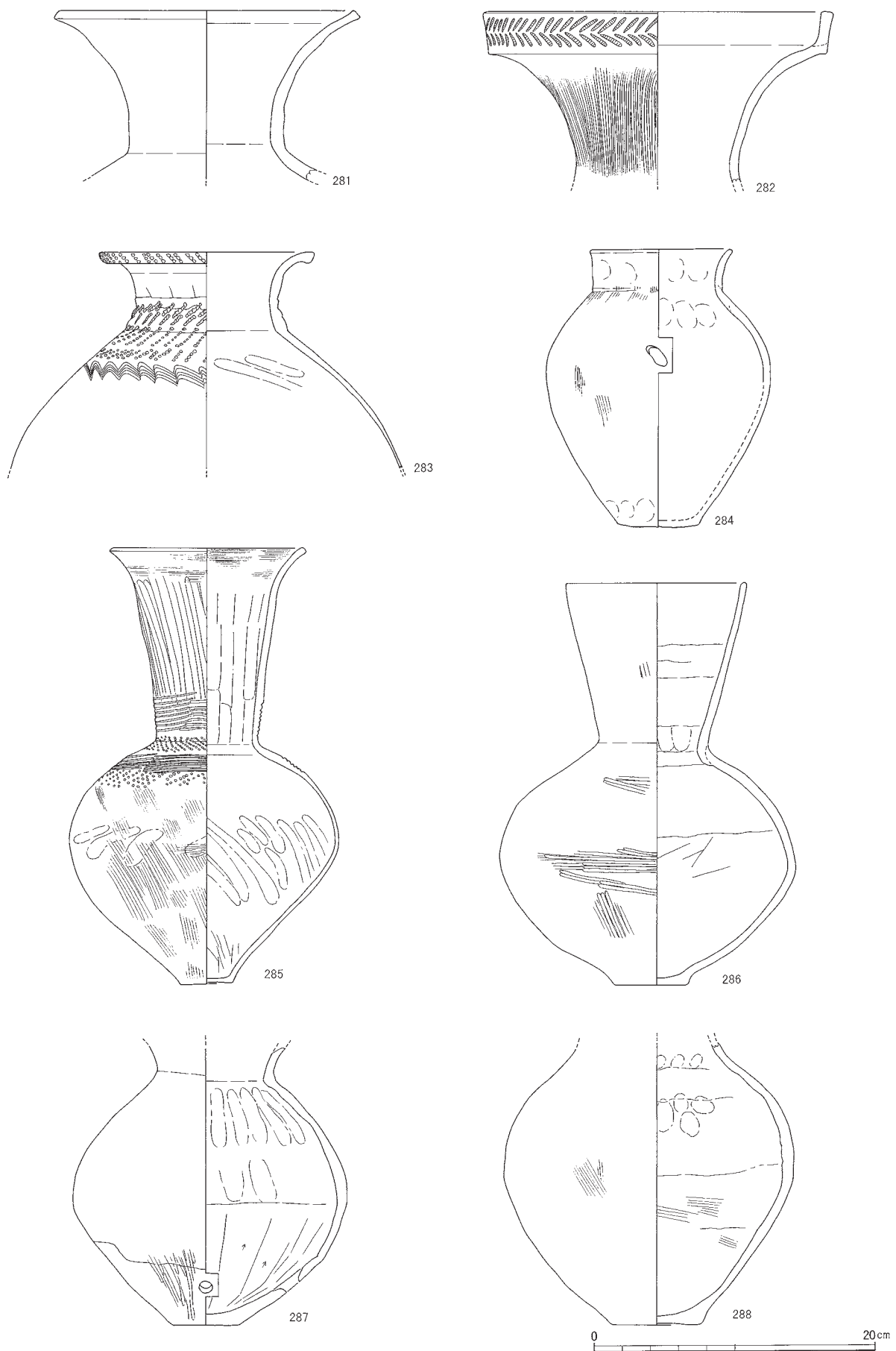
304は、脚部のみだが、ヘラミガキの後2段の横線をめぐらす。透孔は4孔2段。赤彩とみられる。

306の台付甕も赤彩であろう。口縁部外面に列点文、体部上半は、列点文+横線文+波状文を施し、下半と脚部はハケメ調整される。内面はナデである。津市太田遺跡<sup>®</sup>に類例がある。

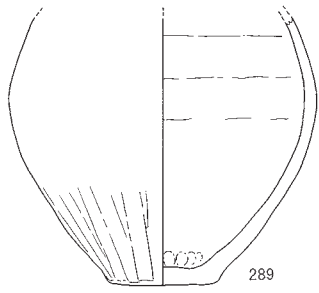
307の器台は、口縁端部の面に2個一組の円形浮文と4個一組の竹管文を交互にめぐらしている。筒部外面は、横線文をめぐらす。磨滅がはげしく、細かな調整は不明である。透孔は6方にみられる。内面はハケメ調整されている。

SK 4～6 SK 3の西側で検出した。平面形は、一部矩形を想定させる部分もあるが、全体としては

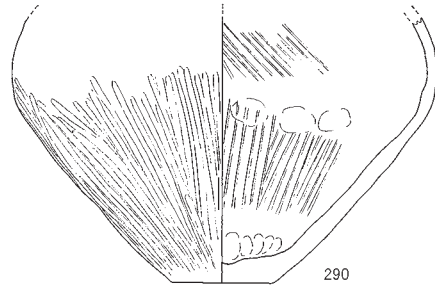




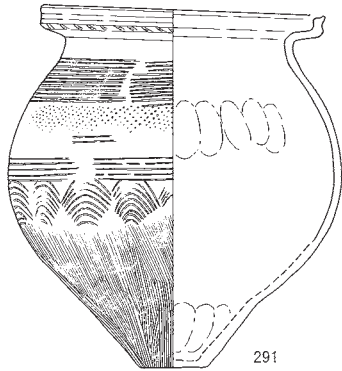
第103図 SK 3 出土遺物実測図① (1 : 4)



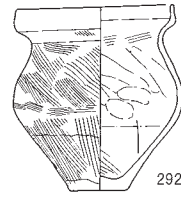
289



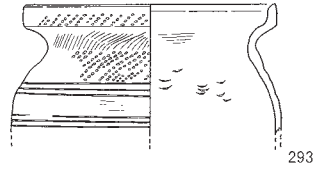
290



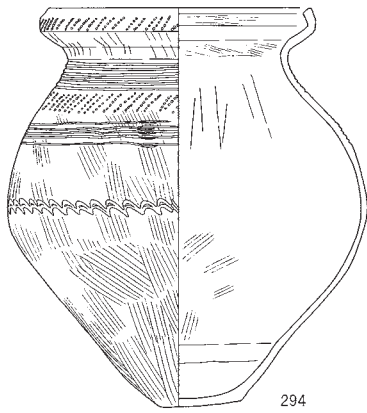
291



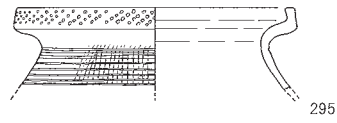
292



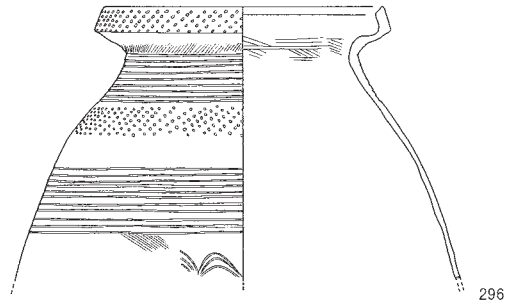
293



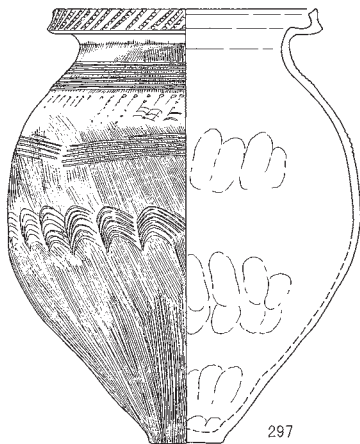
294



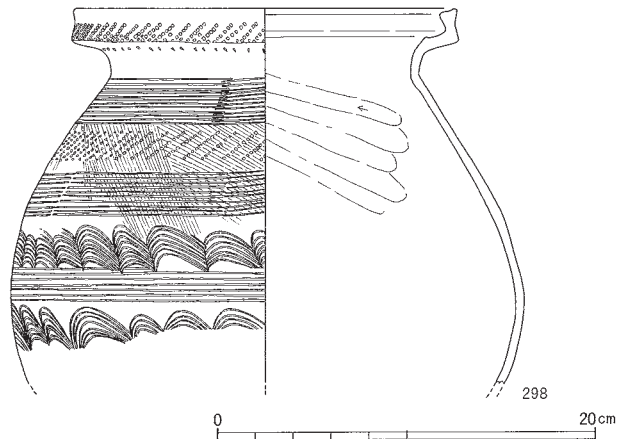
295



296



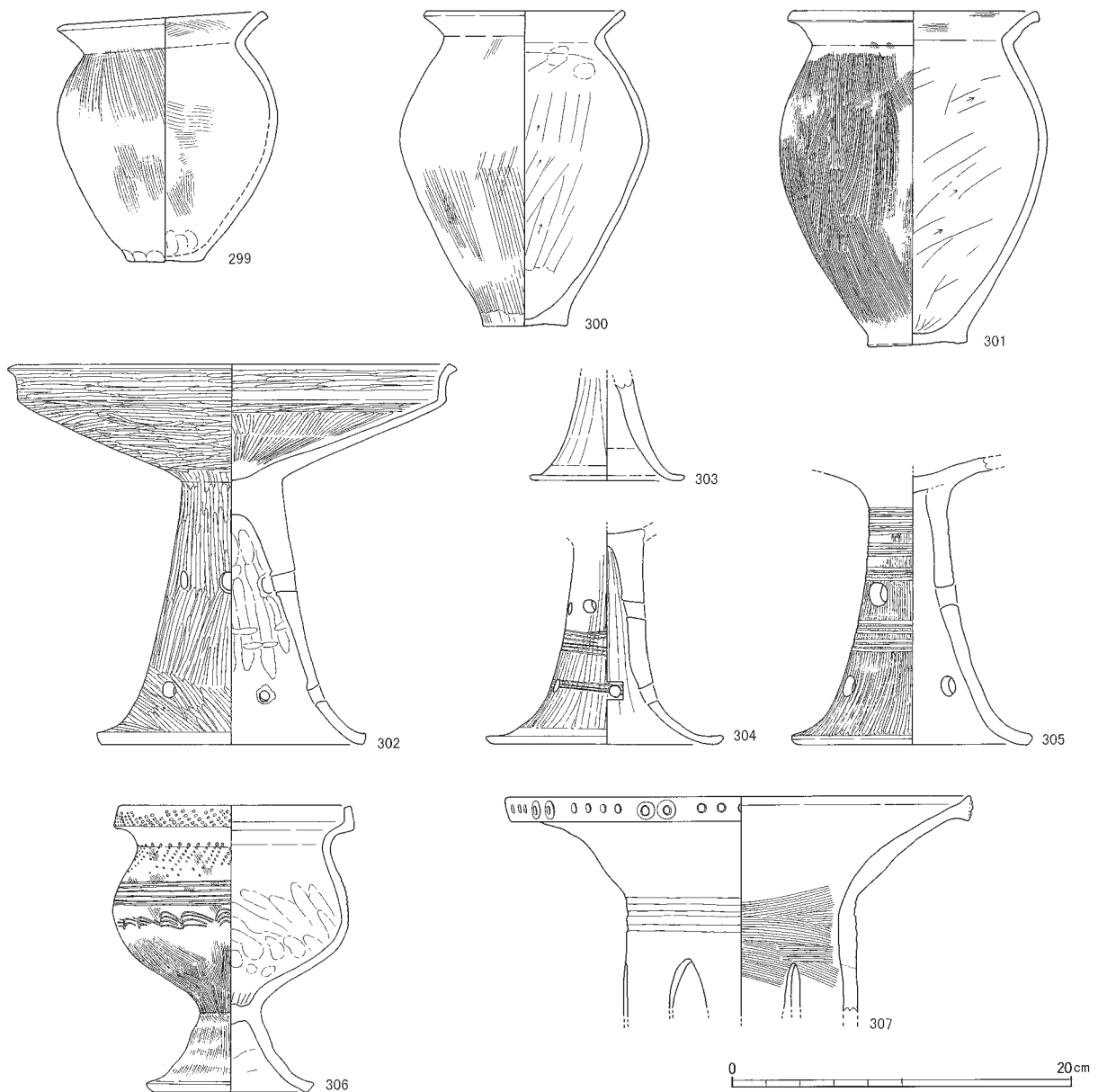
297



298

0 20cm

第104図 SK 3 出土遺物実測図② (1 : 4)



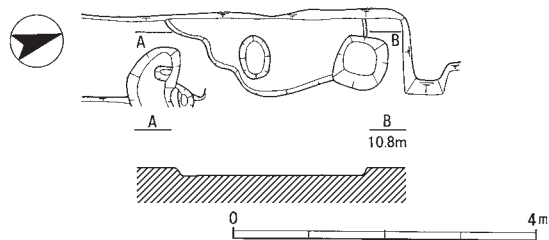
第105図 SK 3 出土遺物実測図③ (1 : 4)

不定形である。長さ2.3m~2.8m、深さは8~10cmである。いずれも奈良時代~平安時代初頭と考えられる。遺物は、SK 4から土師器皿(308)・甕(309)、須恵器杯(310・311)・甕口縁部(312)が、SK 6から土師器甕(313・314)が出土している。312は頸部が直線的に立ち上がり口縁部に至って外反しかつ垂直に下垂する。口縁外面には面を持つ。基本的にロクロナデによる調整である。313・314は口径のよく似た甕である。長胴甕であろうか。形もよく似ているが、313の方は口縁が外反し、体部がやや丸みをおびる。

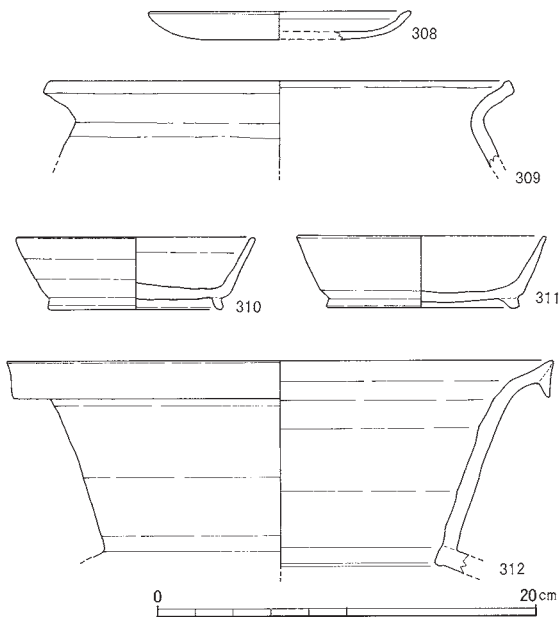
SK 7 C地区中央やや東よりで検出した。SK 4

~6とよく似た形態を持つ。須恵器壺底部(315)が出土している。外面にはヘラケズリによる調整である。奈良時代後期のものである。

SK 8 SK 7のすぐ南で検出した。不定形であり、ほかの2つの土坑が重複したり、切ったりしている。最長は推定5.1m、深さは30cmである。出土遺物は、土師器杯(316~322)・皿(323・324)・甕(325~328)、製塩土器(329)、鉄鎌(330)、鉄鎌(331)がある。このほか、図化できなかったが、猿投編年の折戸10~井ヶ谷78号窯式に相当する須恵器があり、平安時代初期に位置づけられる。土師器杯・皿は底部外面を指先でナデつけ、口縁部をヨコナデするものがほ



第106図 SK 4 実測図 (1 : 100)



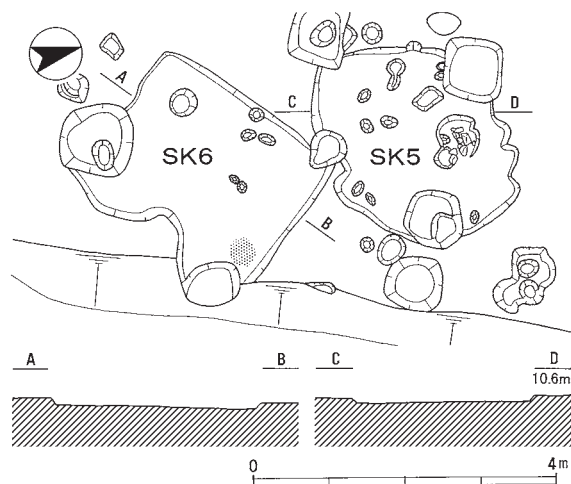
第107図 SK 4 出土遺物実測図 (1 : 4)

とんどである。鉄鎌331は、刃部側に内弯するもので、基部は着柄のため折り曲げられ木質が残存する。鉄鎌330は逆刺が長いものである。

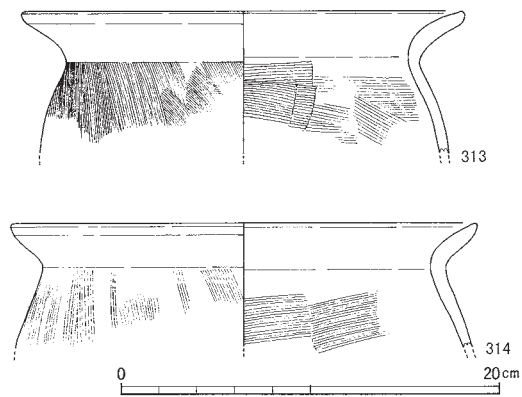
SK 9 C地区南東部で検出した。平面形はほぼ長方形である。東西方向に長く、規模は6.6m×3.8m、深さ20cm。同時期のSB15・16と重複するが、前後関係はわからない。出土遺物は、土師器羽釜・鍋(332・333)、陶器小皿(335・336)・山茶碗(337～339)・鉢(340)のほか、青磁碗(334)がある。山茶碗は藤澤良祐氏の編年による第6型式にあたる。

SK10 C地区の南中央部で検出した。平面形は南北に長い楕円形で、規模は1.3m×0.9m、深さ90cmである。弥生後期前葉の壺(341)が出土している。ほかに、陶器山茶碗・小碗が出土しているが、341が底付近で横転していたことから考えると、これらの遺物は混入品であろう。341の体部と頸部には各一カ所焼成後の穿孔がみられる。

SK11 D地区の北西部で検出した。平面形はほぼ



第108図 SK 5・SK 6 実測図 (1 : 100)



第109図 SK 6 出土遺物実測図 (1 : 4)

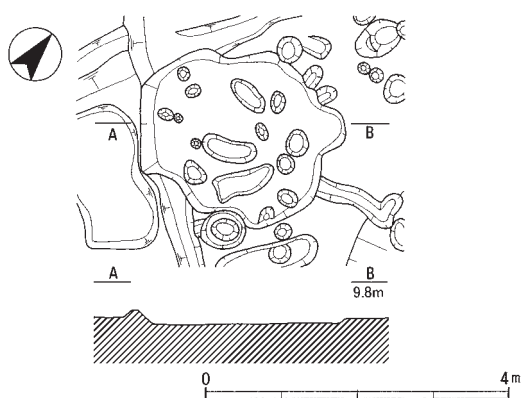
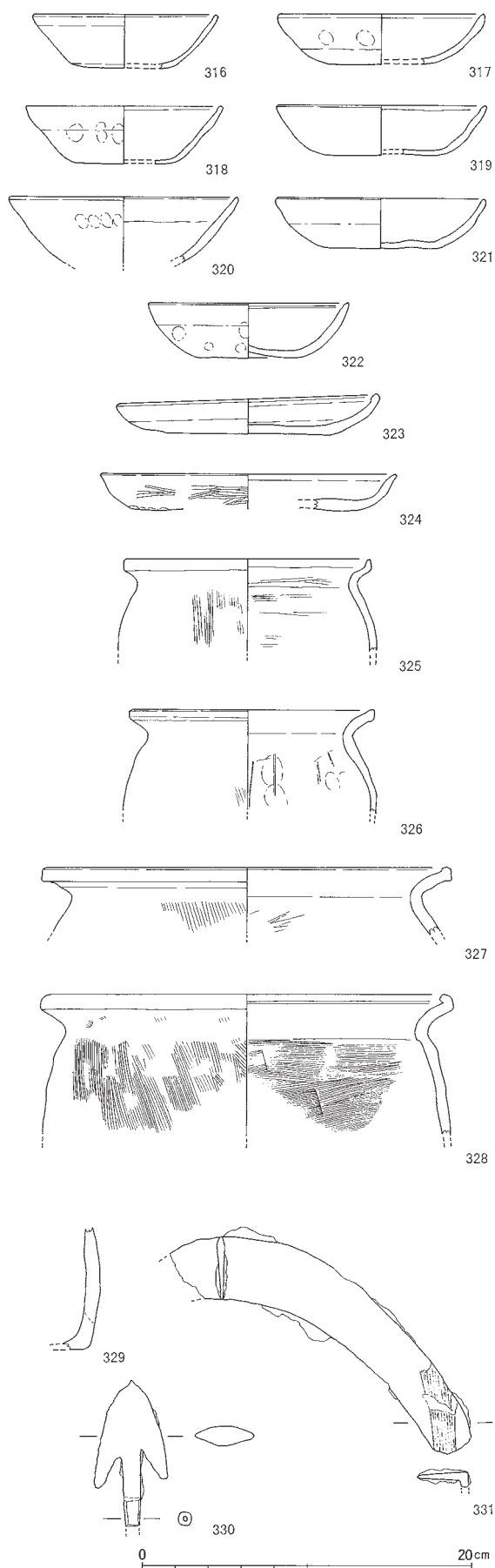
円形で、規模は1.5m×1.4m、船底形の底部は最深部で50cmを測る。弥生後期の台付甕・壺(342～346)及び、高杯脚部(347)が出土している。

SK12～15 D地区の中央部に点在するほぼ方形の土坑群である。規模は、一辺2m～3.6m、深さは20～30cmである。時期的には、SK13の須恵器(351・352)が猿投編年の折戸10号窯式にあたり、平安時代初頭である。SK12の須恵器(348)はそれより古く奈良時代。SK14は遺物の時期にばらつきがある。須恵器は奈良時代後期であるが、土師器杯(353)は平安時代初頭までくだる可能性がある。SK15は、灰釉陶器(369)が猿投編年の黒笹90号窯式に相当し、平安時代前半に位置づけられる。369は内面が摩耗しており、墨も若干付着していることから、転用碗の可能性も考えられる。

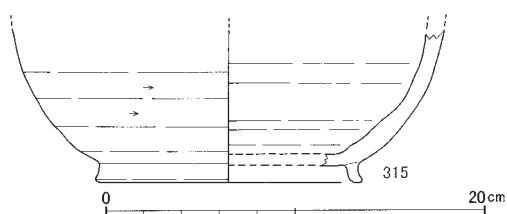
SK16～20 E地区に点在する土坑である。平面形、規模とも様々であるが、いずれも平安時代前半のものである。出土遺物は、SK16から土師器杯(370～



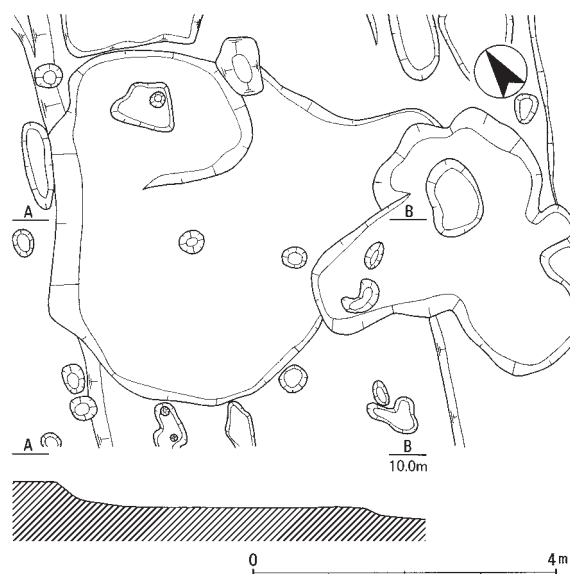
374)、須恵器壺頸部(375)・円面硯(376)、灰釉陶器  
 椀・皿(377~380)、ほかがある。灰釉陶器は猿投編  
 年の黒笹90号窯式にあたる。SK17では、土師器皿  
 (384)1点を図化したのみだが、ほかに灰釉陶器片・  
 須恵器杯B蓋片が出土している。SK18・19では、土  
 錘(385~388)を図化したが、ほかに土師器片・須恵  
 器片(SK18)及び、灰釉陶器(SK19)がある。  
 SK20では、土師器甕(389)1点を図化した  
 が、ほかに土師器片・須恵器片がある。灰釉陶器はみられない。



第110図 SK 7 実測図 (1 : 100)

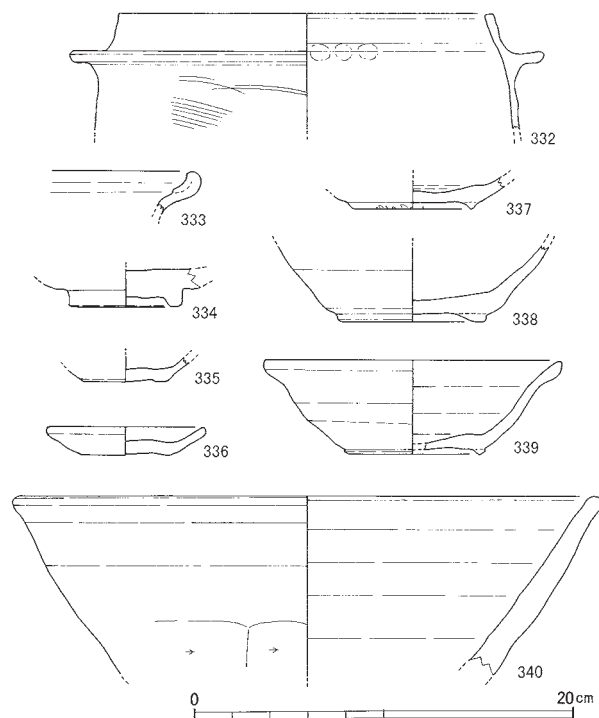


第111図 SK 7 出土遺物実測図 (1 : 4)



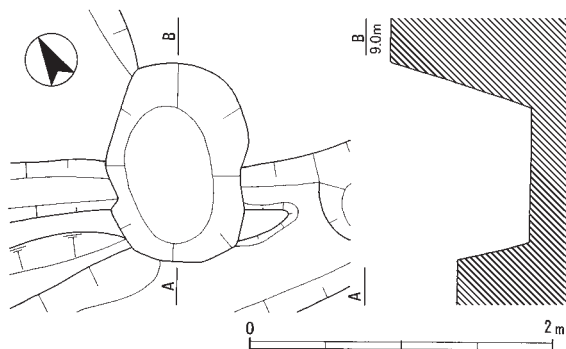
第112図 SK 8 実測図 (1 : 100)

第113図 SK 8 出土遺物実測図 (1 : 4)

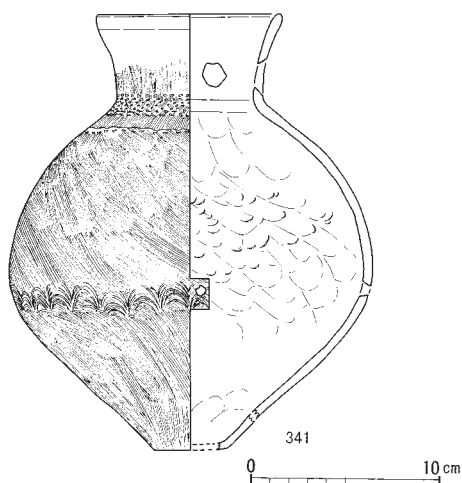


第114図 SK9実測図(1:100)、出土遺物実測図(1:4)

SK21 長径約1.3m、深さ約20cmの楕円形の土坑で、北側がテラス状になる。遺物は須恵器杯蓋(390)が出土した。



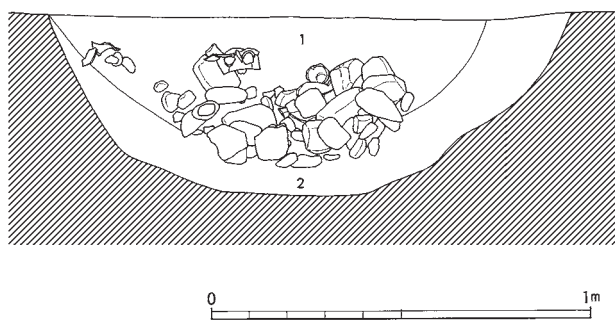
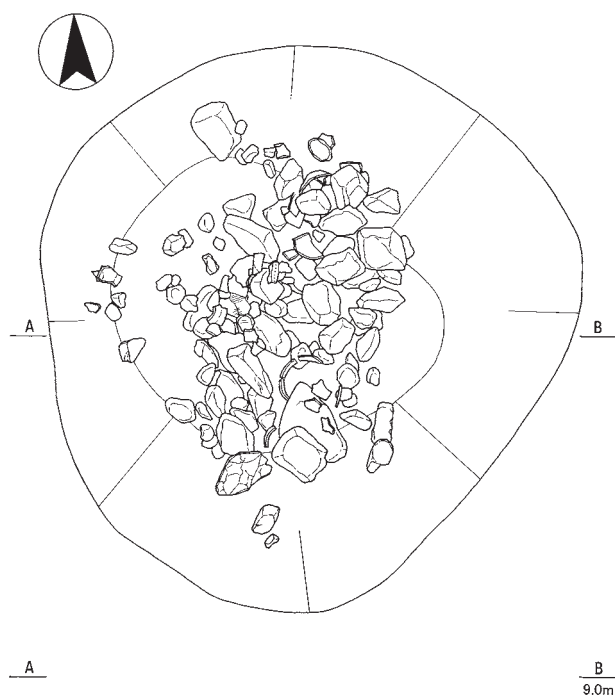
SK22 長径約4m、深さ約50cmの楕円形の土坑で、南側がテラス状になる。遺物は、土師器甕(391)・杯(392)、須恵器杯(394~401)・高杯(402)が出土した。甕391は口縁端部がつまみ上げられている。杯392は外面がヘラミガキ調整されており、内面には放射状の暗文が施されている。須恵器の杯蓋には古墳時代タイプのもの(393)のほか、内面に返りをもつもの395・396と、返りをもたないもの397・398とがあり、杯身についても古墳時代タイプのもの394のほか、高台がつくもの400・401とつかないもの399とがある。



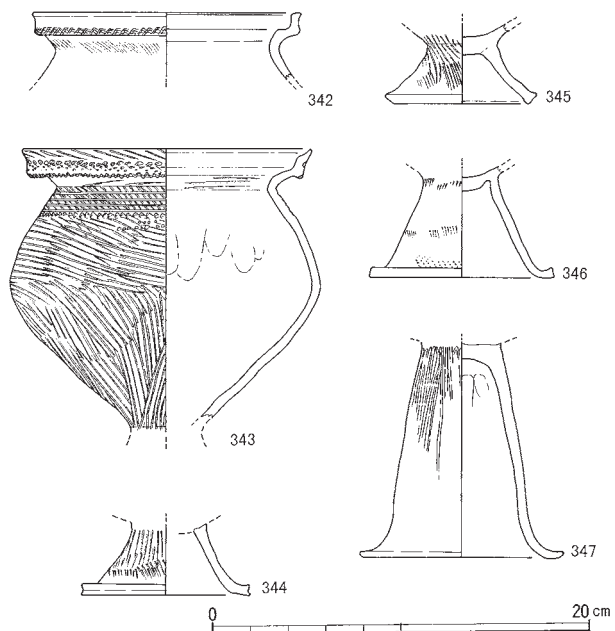
SK23 長辺約3.2m、深さ約80cmの略方形の土坑で、西側と南側に小さなテラスがある。中央部には土の質が違う部分(第135図の1. 茶褐色やや粘質土)があったが、この部分のみ中世の遺物(408・409)が出土していることから考えると、まったく別の遺構として扱うべきであろう。

遺物は、土師器甕(403・405)・杯(404)、須恵器壺(406)・甕(407)、曲物(410)が出土した。土師器甕403・405は口縁端部がわずかにつまみ上げられる

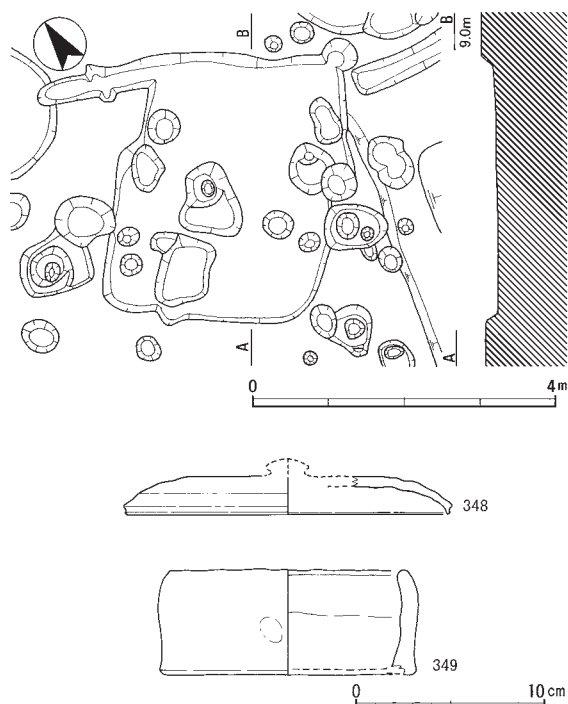
第115図 SK10実測図(1:50)、出土遺物実測図(1:4)



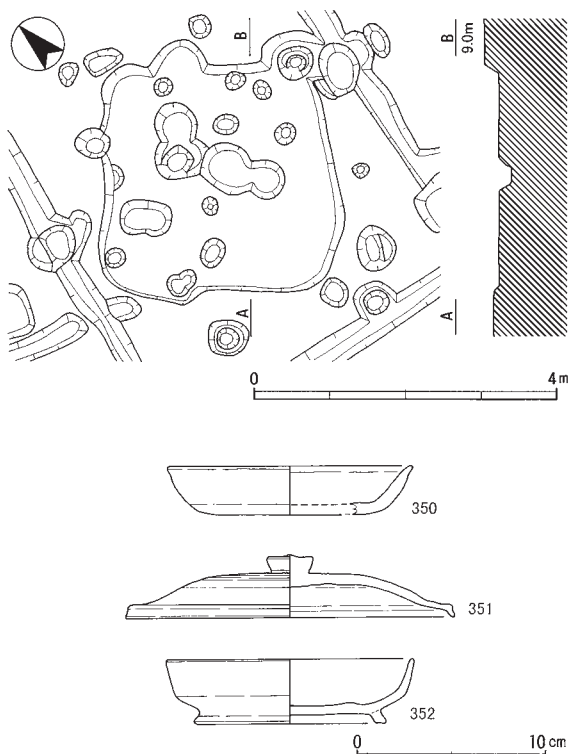
1 暗黒色粘質土 2 黄褐色粘質土  
第116图 SK11実測図・土層断面図 (1 : 20)



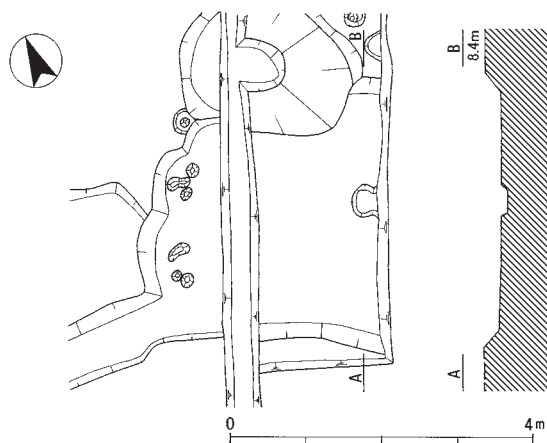
第117图 SK11出土遺物実測図 (1 : 4)



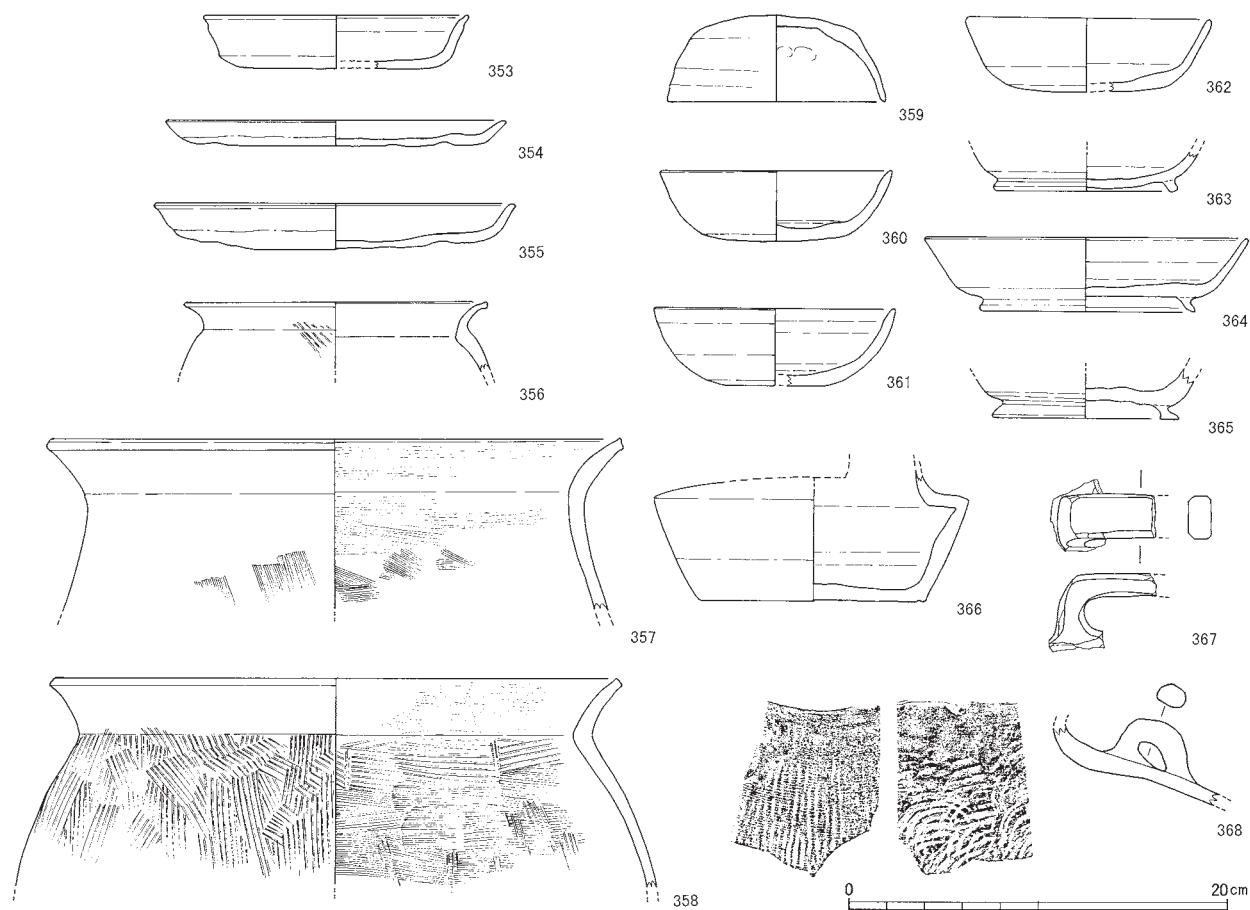
第118图 SK12実測図 (1 : 100)、出土遺物実測図 (1 : 4)



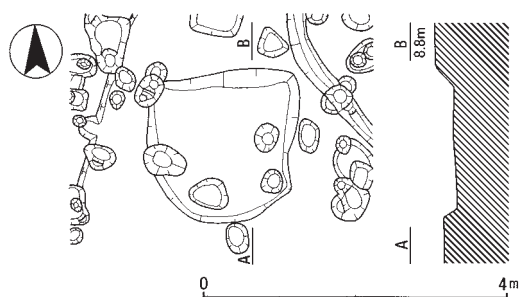
第119图 SK13実測図 (1 : 100)、出土遺物実測図 (1 : 4)



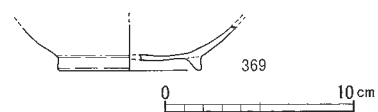
第120図 SK14実測図 (1 : 100)



第121図 SK14出土遺物実測図 (1 : 4)

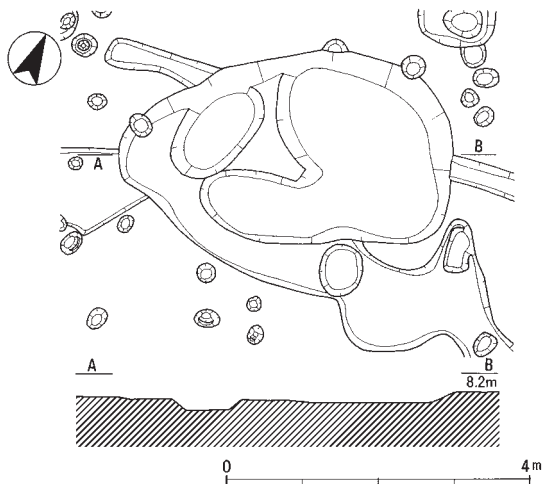


第122図 SK15実測図 (1 : 100)

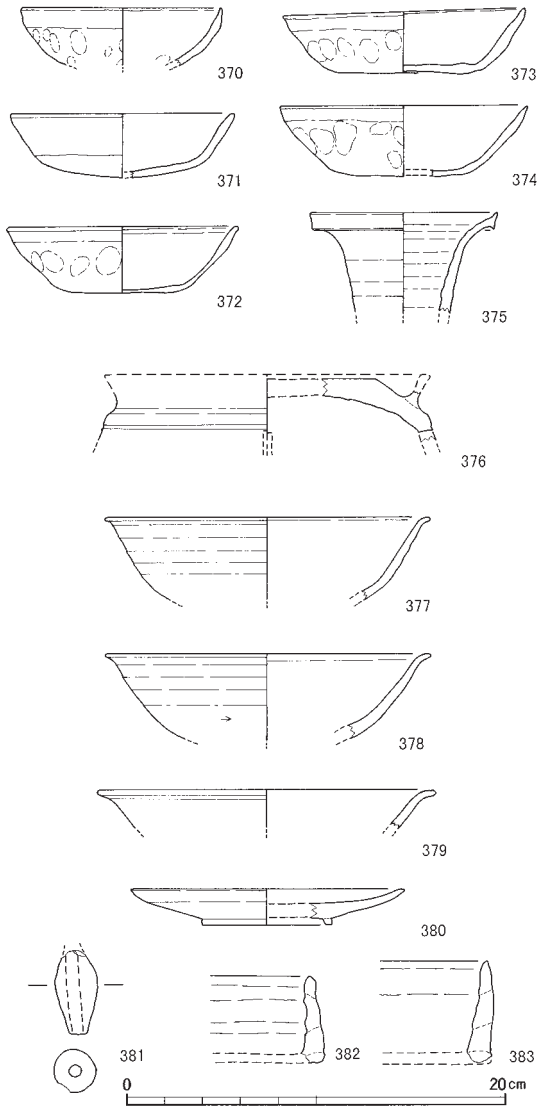


第123図 SK15出土遺物実測図 (1 : 4)

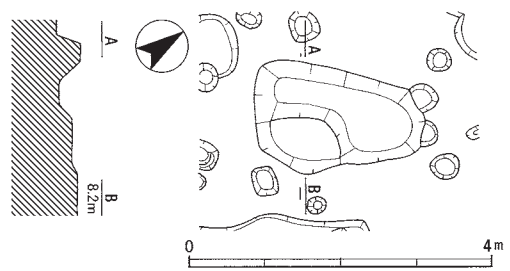




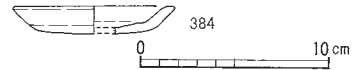
第124図 SK16実測図 (1 : 100)



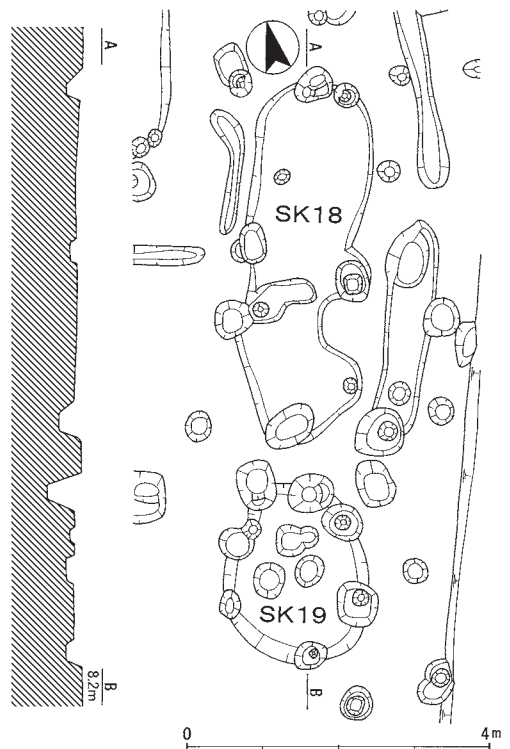
第125図 SK16出土遺物実測図 (1 : 4)



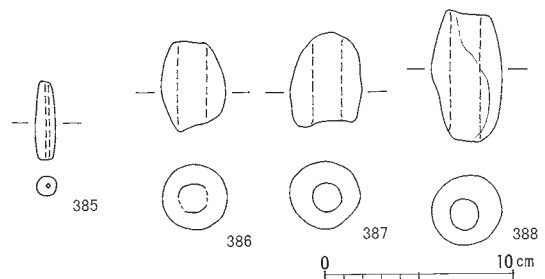
第126図 SK17実測図 (1 : 100)



第127図 SK17出土遺物実測図 (1 : 4)



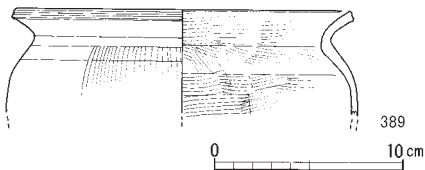
第128図 SK18・19実測図 (1 : 100)



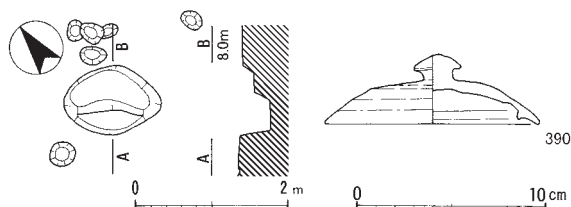
第129図 SK18・19出土遺物実測図 (1 : 4)  
[385 ; SK18、386~388 ; SK19]



第130図 SK20実測図 (1 : 100)



第131図 SK20出土遺物実測図 (1 : 4)

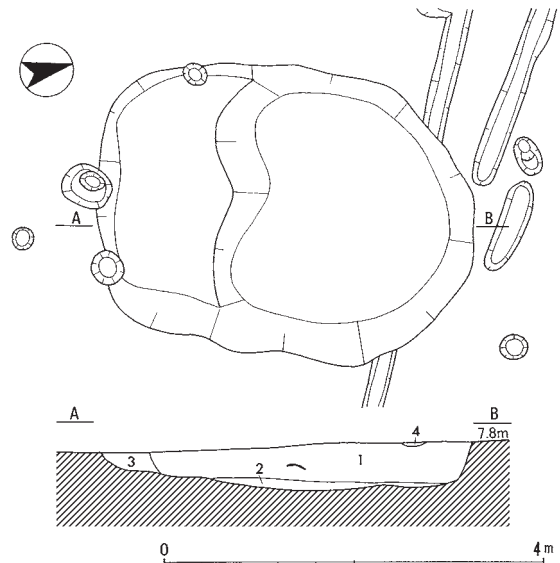


第132図 SK21実測図 (1 : 100)、出土遺物実測図 (1 : 4)

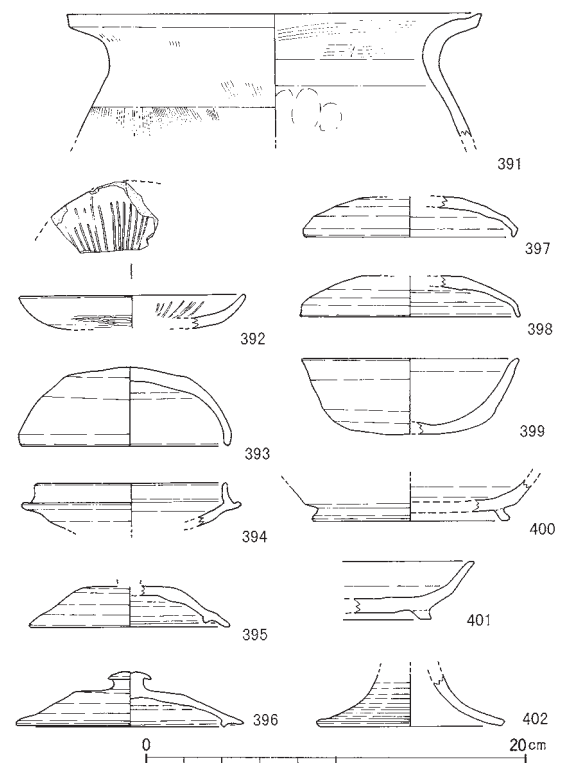
もので、土師器杯404は内面に螺旋状の暗文が施されている。また、須恵器甕407は口縁部の内面が突出している。

SK24 長径約3m、深さ約1mの楕円形の土坑で、テラスが2段ある。遺物は、土師器皿(411)、須恵器杯(412)などが出土した。411は、外面がヘラミガキ調整され、内面は口縁部に放射状の暗文、底部に螺旋状の暗文が施されている。

SK25 長径約3.5m、深さ約60cmの楕円形の土坑で、南西部の輪郭は不明瞭であり、内部は何段もテラスがある。遺物は、土師器甕(414)、須恵器杯(415)・



1 暗茶褐色土(遺物多含) 3 茶褐色土  
2 灰茶褐色砂質土(黒褐色土混じる) 4 灰褐色土

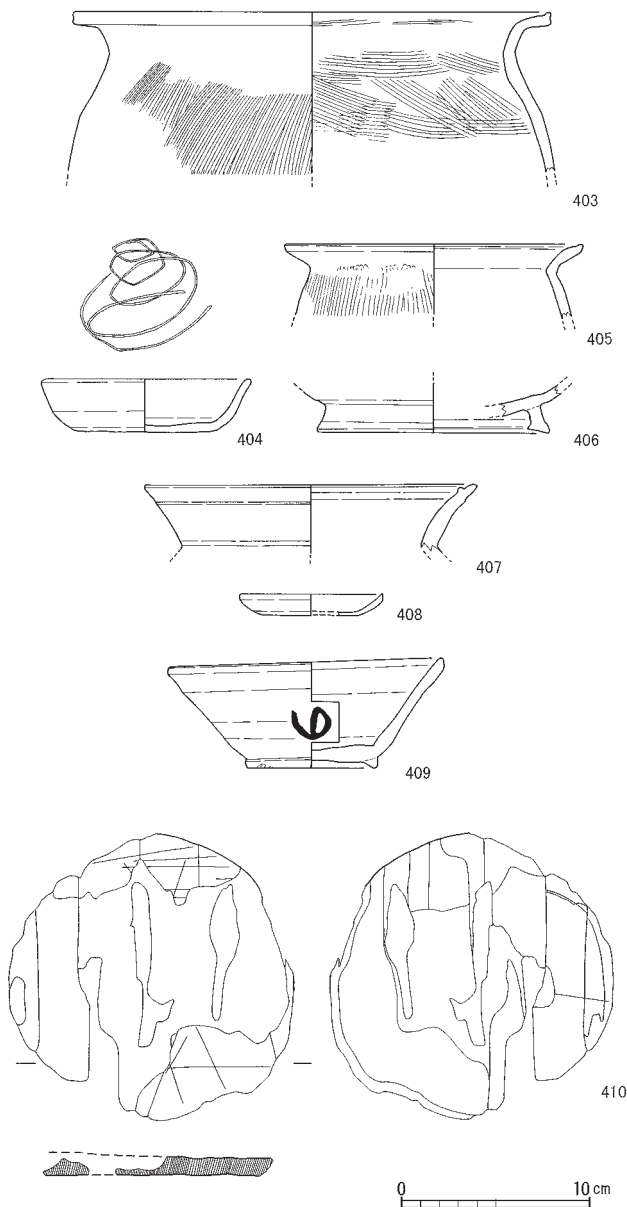


第133図 SK22実測図・土層断面図 (1 : 80)、出土遺物実測図 (1 : 4)

甕(417)、土馬(416)が出土した。417は注口部が突出するタイプのもので、7世紀代のものであろう。

SK26 直径約1.6m、深さ約80cmの土坑である。遺物は、土師器、須恵器がわずかに出土した。

SK27~SK40 出土した陶磁器類から、いずれも19世紀第3四半期に比定できるもので、SE16~



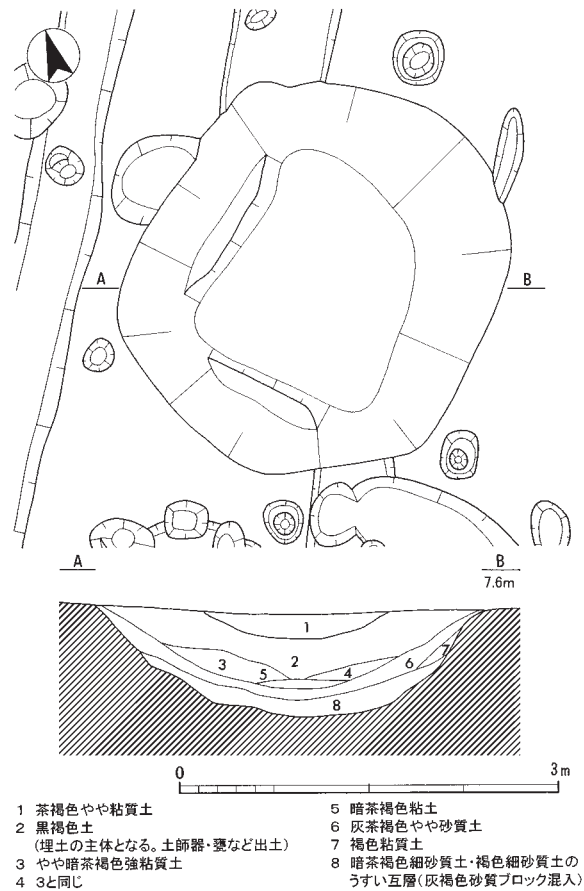
第134図 SK23出土遺物実測図 (1 : 4)

SE19と同様「安政元年窪田村地図」に描かれた「窪田出屋」に関する遺構と考えられる。ほとんどのものの平面形は方形で、出土した陶磁器の大半は瀬戸美濃製品である。

SK29は、長さ約1.6mの凸形の土坑で、周囲がタキで固められている。

SK30は、長辺約3m、深さ約0.2mの方形の土坑である。遺物は磁器湯呑(418)・猪口(419)などが出土した。

SK33は、幅約2.3m、深さ約10cmの土坑で、平面形は長方形になるものとみられる。遺物は、陶磁器のほかに漆器碗(421・422)が出土している。421は



第135図 SK23実測図・土層断面図 (1 : 60)

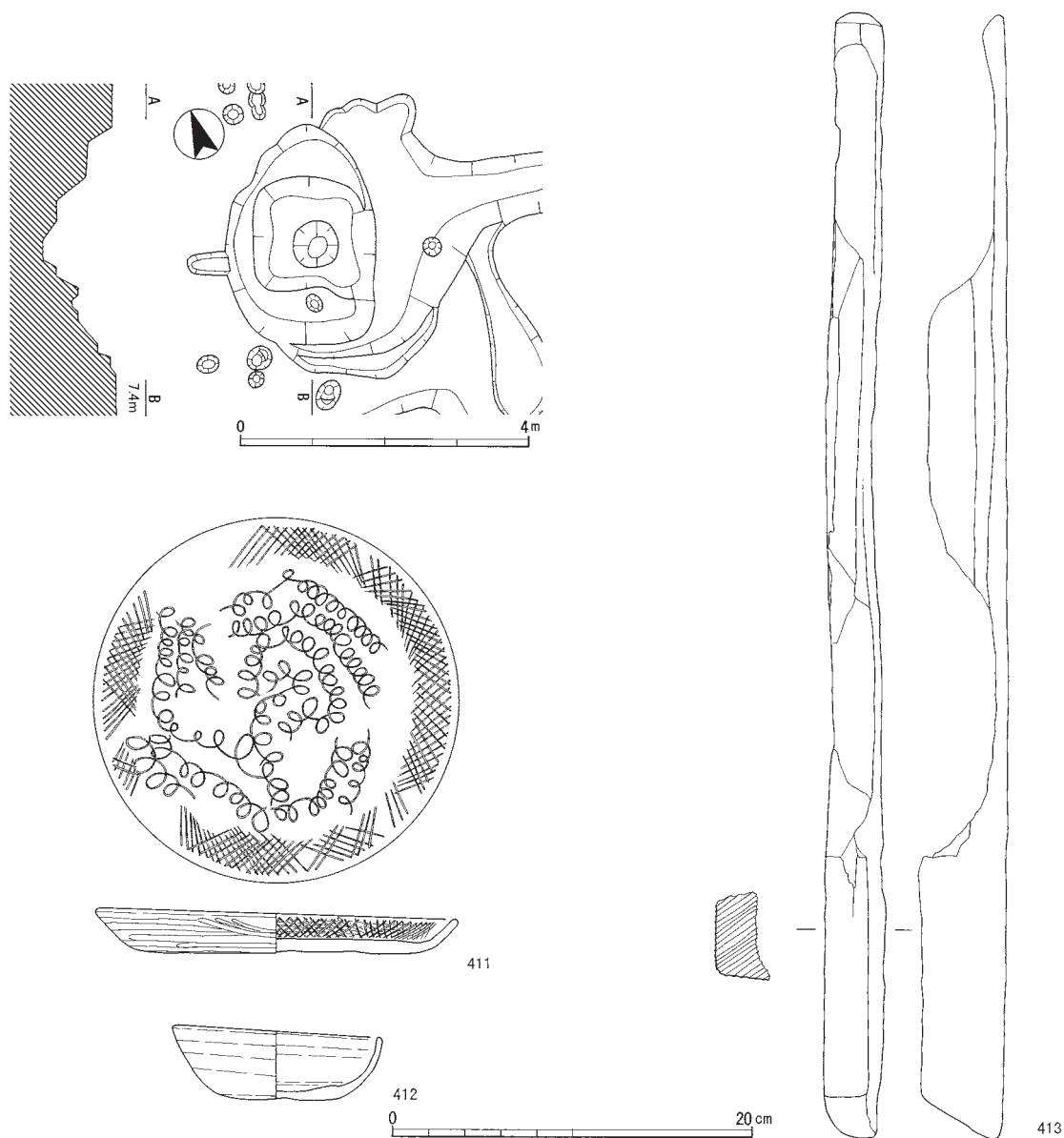
内外面とも赤色漆が、422は内面に赤色漆、外面に黒色漆が施されており、421の底部外面には「一」と記されている。

SK34は、長辺約3.2m、深さ20cmの長方形の土坑である。遺物は、陶磁器のほかに用途不明の木製品(423)が出土した。

SK35は、長辺約3.7m、深さ約20cmの土坑で南側の輪郭は不明瞭となっている。遺物は、磁器碗(424)、磁器仏飯具(425)・播鉢(426・427)・甕(428)、下駄(429)が出土した。429は台の裏側をくり抜いて歯を作り出すタイプのもので、歯が台の周縁を廻っている。

SK37は、長辺約4.2m、深さ約0.2mの長方形の土坑である。遺物は、磁器碗(430)、瓦質焙烙(431)などが出土した。431は鏝のつくタイプのものである。

SK40は、一辺約4m、深さ約60cmの方形の土坑で、東側がテラス状になっている。遺物は、瓦質焙烙(432)、陶器香炉(433)、磁器碗(434・435)、下駄(437)などが出土した。焙烙432はSK37やSE17で出



第136図 SK24実測図（1：100）、出土遺物実測図（1：4）

土したものの207・208と同様で、鏝のつくタイプのものである。437は歯を原木から削り出すタイプのもので、後ろの歯が磨滅している。

SK41 直径約80cm、深さ約60cmの円形の土坑である。遺物は、近世の陶磁器類が出土しているが、混入品である陶器山茶碗(438)の底部外面には墨書が施されている。

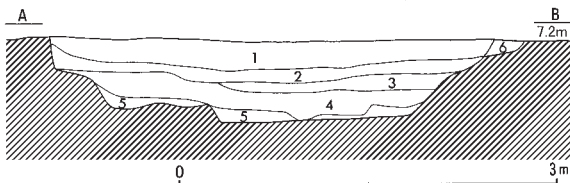
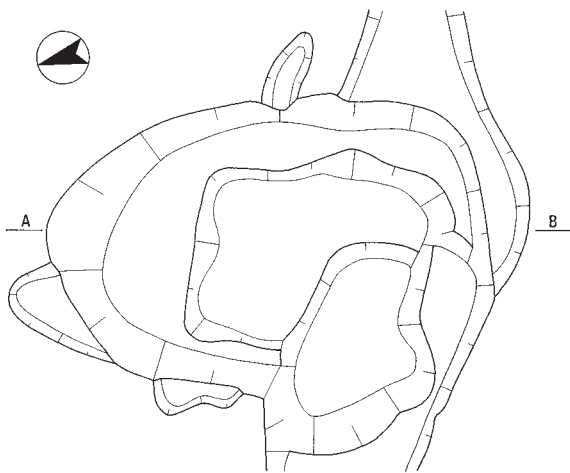
SK42 長径約1.6m、深さ約40cmの楕円形の土坑で、埋土内には拳大の石が多く含まれていた。遺物は、土師器鍋(439～441)、陶器小皿(442)・山茶碗(443・444)、曲物(445)が出土した。小皿・山茶碗は藤澤編年の第7型式のものが中心で、442と443

の底部外面には同一とみられる墨書で「きくや」と記されている。

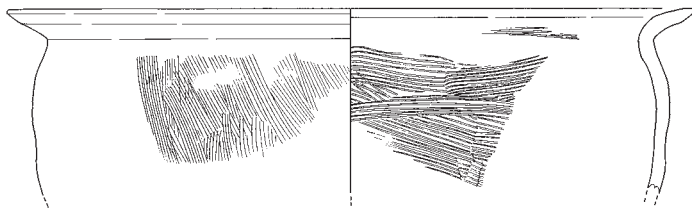
SK43 SE21、SD35と重複しているため、遺構の輪郭はやや不整形であるが、一辺1.5m程度の方形であったと考えられる。西側以外がテラス状になり、深さは約0.8mである。遺物は、土師器甕(446)・鍋(447)、陶器山茶碗(448～450)が出土した。山茶碗は藤澤編年の第6型式のものが中心である。

SK44 長辺約1.8m、深さ約50cmの長方形の土坑である。遺物は、土師器、陶器山茶碗・小皿(451)、板材(452)が出土した。451は、藤澤編年の第6型式に相当する。

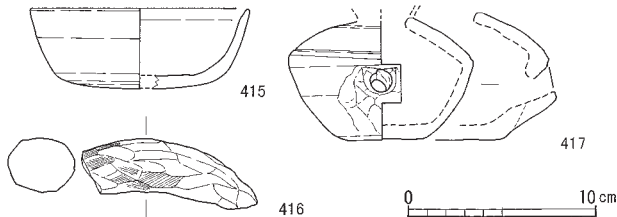




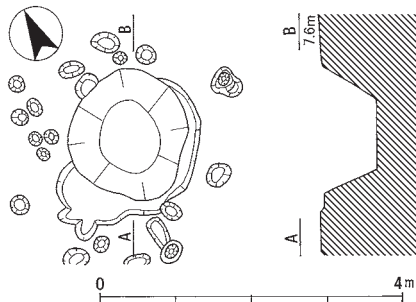
- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| 1 暗茶褐色粘質土(やや砂質)    | 4 黒褐色粘質土         |
| 2 暗茶褐色粘質土          | 5 明灰褐色砂土(灰褐色混じる) |
| 3 暗灰褐色粘質土(やや鉄分混じる) | 6 明茶褐色粘質砂土       |



414



第137図 SK25実測図・土層断面図(1:60)、  
出土遺物実測図(1:4)



第138図 SK26実測図(1:100)

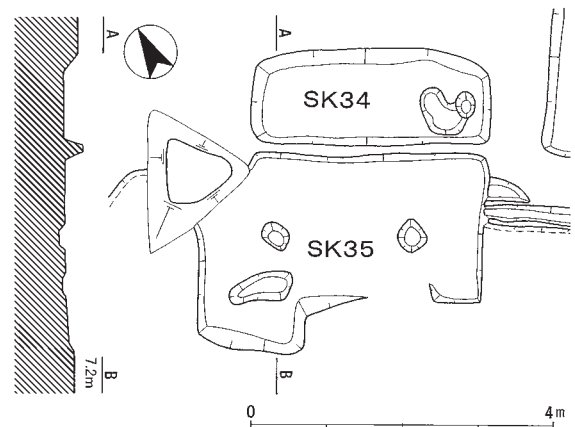
SK45 長辺約2.3m、深さ約90cmの長方形の土坑で、埋土は大きく二つ(第155図の1と2~5)に分層できる。遺物は、土師器、陶器山茶碗(453)が出土した。453は外面に墨書があり、藤澤編年の第8型式に相当する。

SK46 長辺約2.4m、深さ約70cmの長方形の土坑である。遺物は、土師器、陶器山茶碗が出土した。

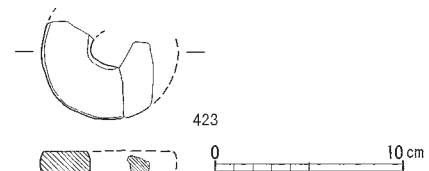
SK47 SD16と重複している。一辺約1.6m、深さ約80cmの方形の土坑である。SD16と切り合いが認められないことから、SD16にともなう水溜り的な施設とも考えられる。遺物は、土師器碗(454・455)・甕(457)などが出土した。

SK48 長さ約5.7m、深さ約40cmの細長い土坑である。遺物は、弥生土器壺(458)・高杯(459)が出土した。458は直口壺で、体部が長胴になるものである。弥生時代後期前葉のものであろう。

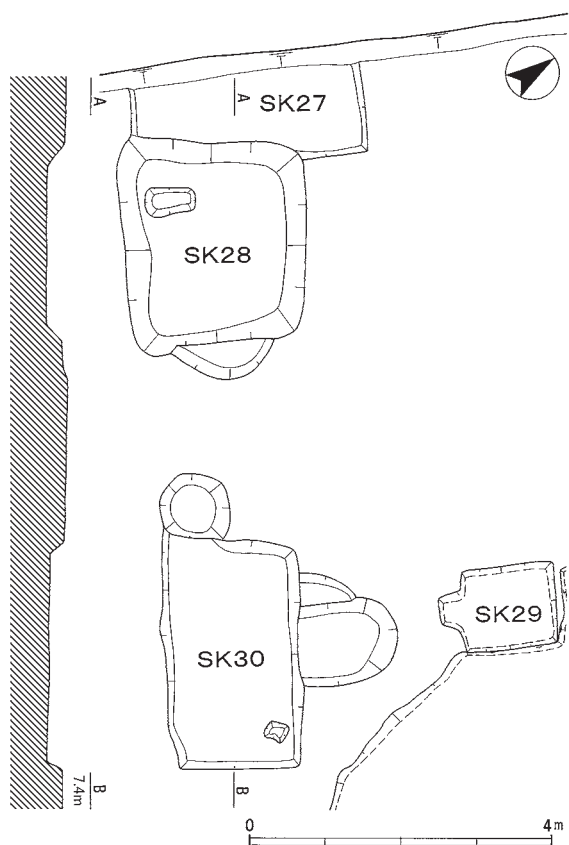
SK49 東西約4.2mの不整形な形状の土坑である。内部は複雑な形状になっており、深さは約90cmである。遺物は、土師器杯(460~468)・甕(469・470)、黒色土器皿(471)・杯(472)、須恵器杯(474)・碗(473)、灰釉陶器短頸壺蓋(475)・碗(476~479・482)・皿(480・481)、土錘(483)、製塩土器(484)が出土した。土師器杯のほとんどはe手法で調整されるものである。土師器甕は両者とも口縁端部がつ



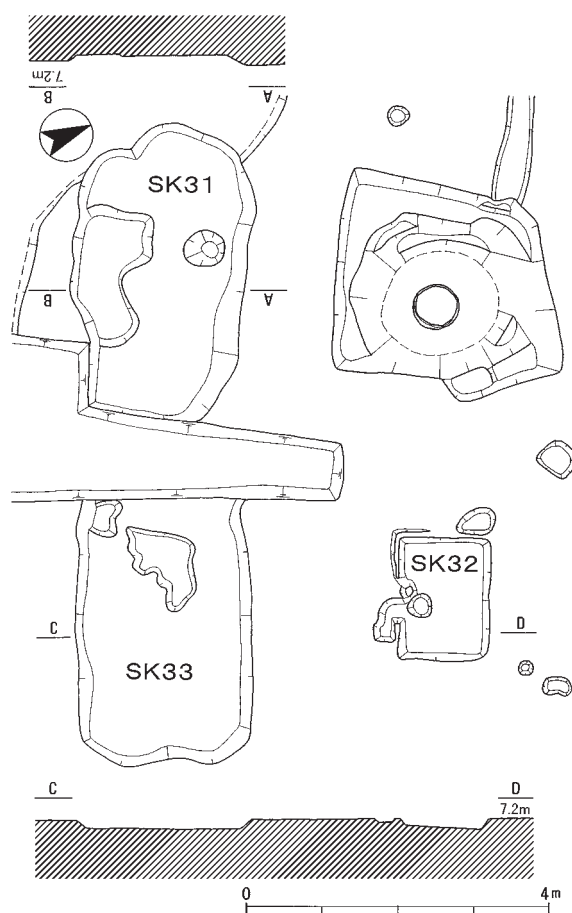
第139図 SK34・35実測図(1:100)



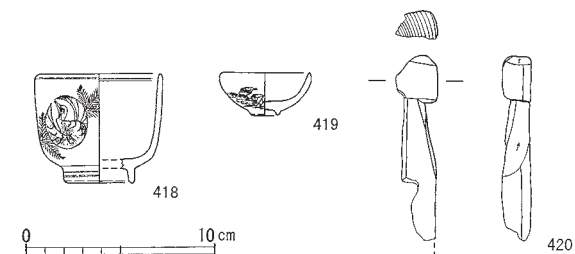
第140図 SK34出土遺物実測図(1:4)



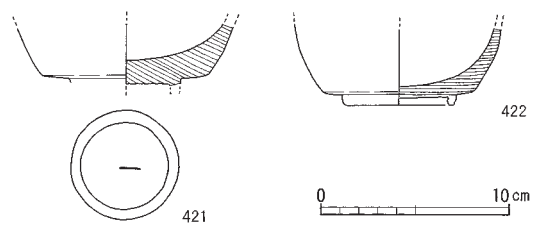
第141図 SK27~30実測図 (1 : 100)



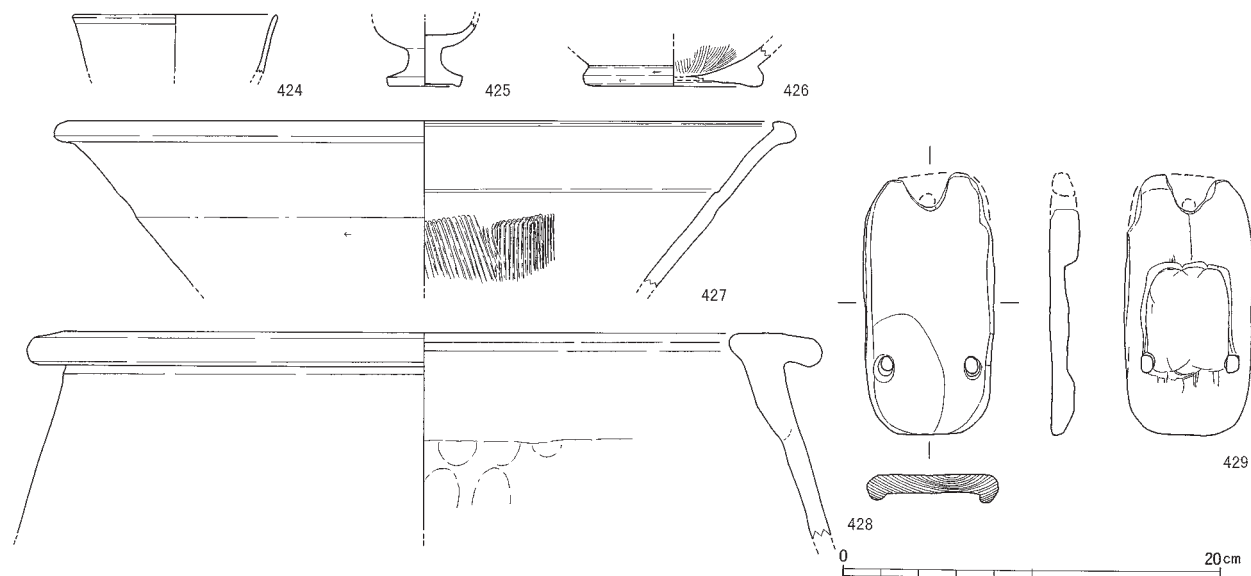
第143図 SK31~33実測図 (1 : 100)



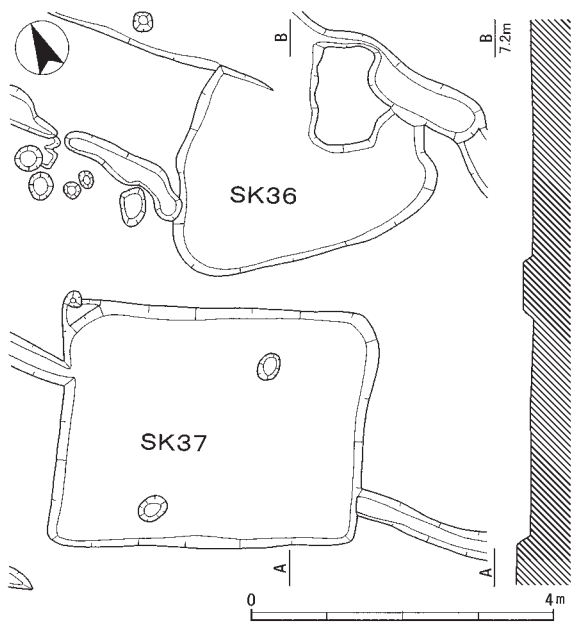
第142図 SK30出土遺物実測図 (1 : 4)



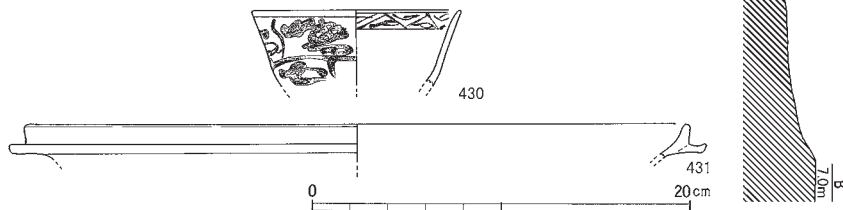
第144図 SK33出土遺物実測図 (1 : 4)



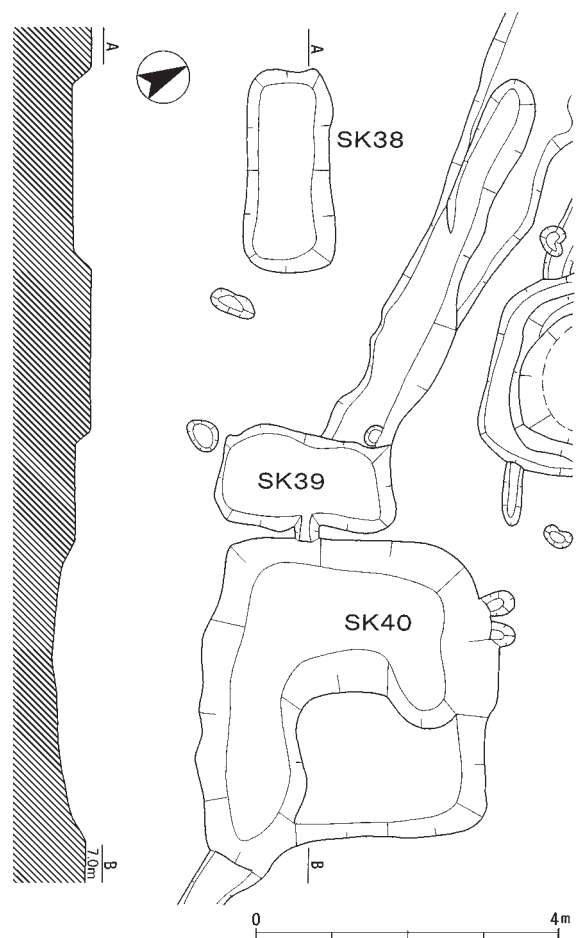
第145図 SK35出土遺物実測図 (1 : 4)



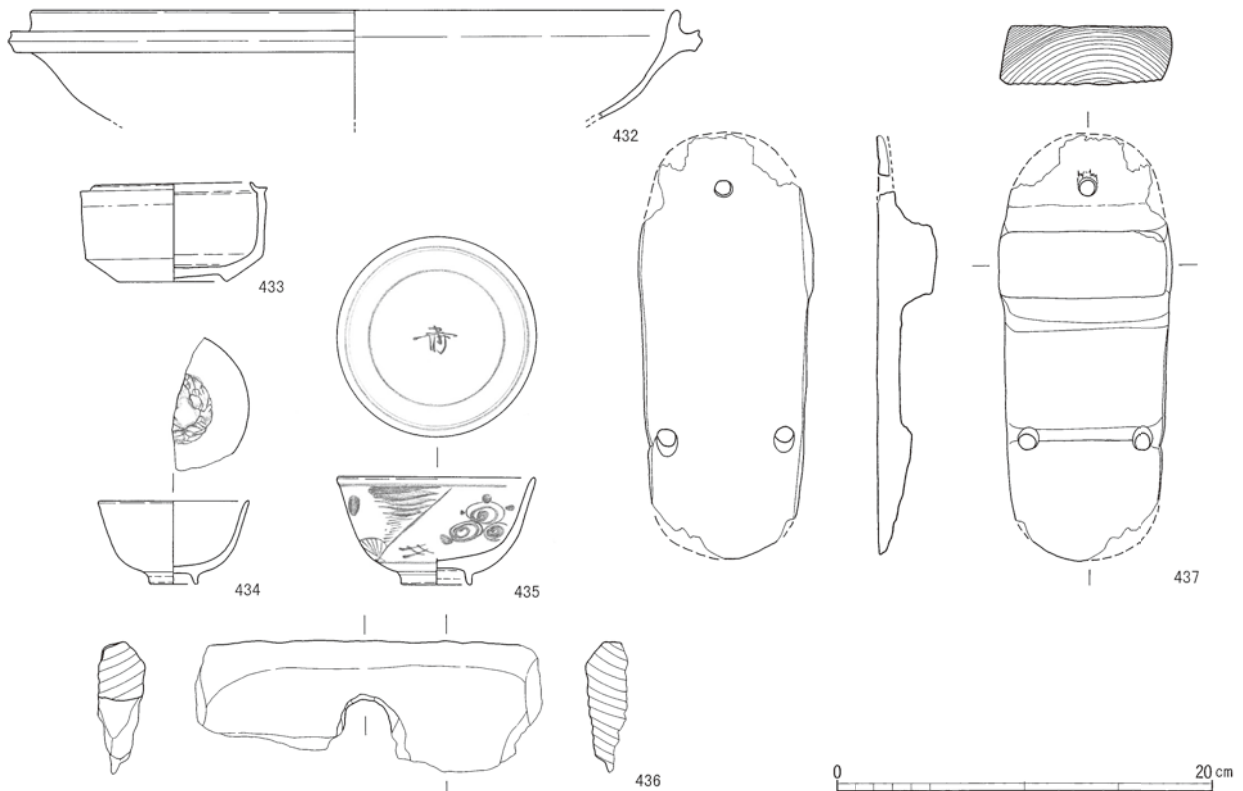
第146図 SK36・37実測図（1：100）



第147図 SK37出土遺物実測図（1：4）



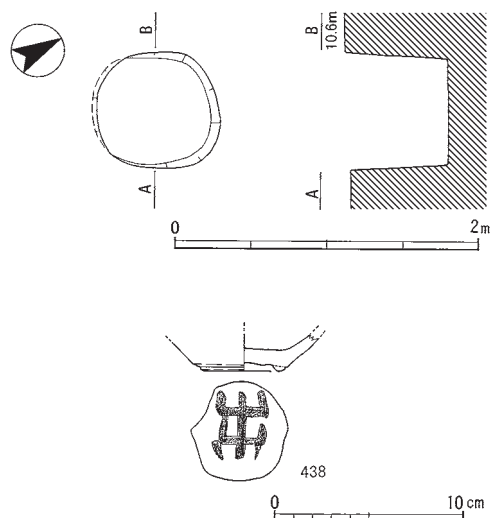
第148図 SK38~40実測図（1：100）



第149図 SK40出土遺物実測図（1：4）

まみ上げられるもので、やや受口状になるもの469と内傾するもの470がある。黒色土器は両者とも内面のみが黒色のA類である。須恵器碗473の内面には墨書が施されている。灰釉陶器碗には高台の高いものと低いものがあるが、いずれも猿投編年の黒笹90号窯式に相当するものである。

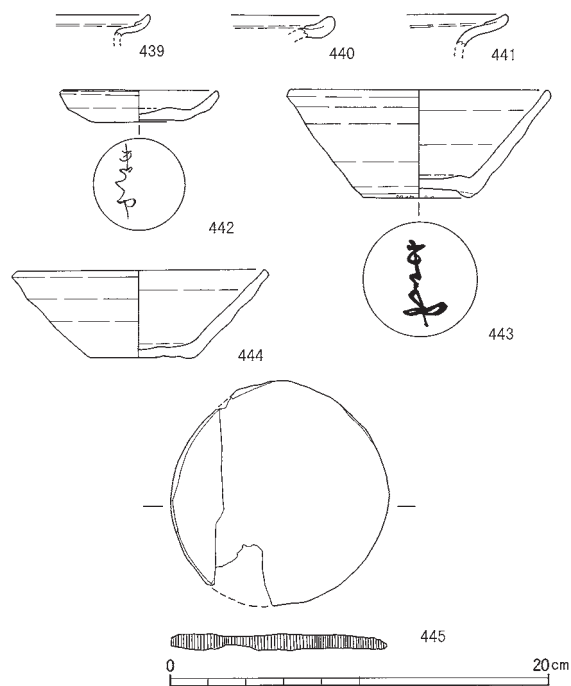
SK50~60 近世土坑群として、一括して報告する。近世土坑群は、B地区のほぼ全面で検出され、複雑に重複していた。切り合いで前後関係を確認できた



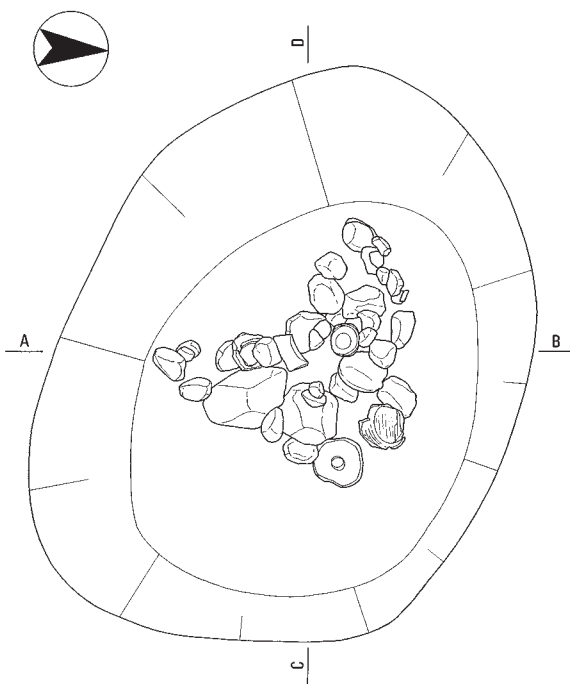
第150図 SK41実測図(1:50)、出土遺物実測図(1:4)

ものはなかった。性格についてはわからない。いずれの埋土も耕作土のように締まりがなく、地山などがブロック状になって入り込んでいた。

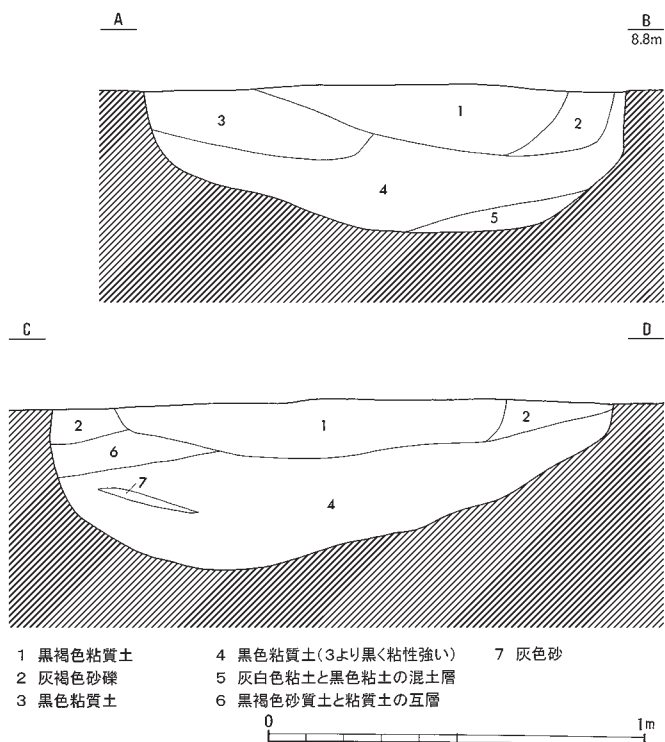
SK50~60の平面形はさまざまである。単一の土坑と考えられるもの(SK54・56・59・60)や、いく



第152図 SK42出土遺物実測図(1:4)

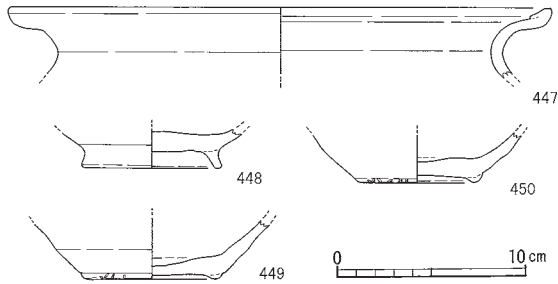
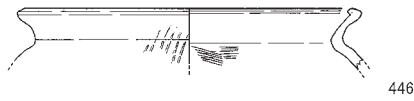
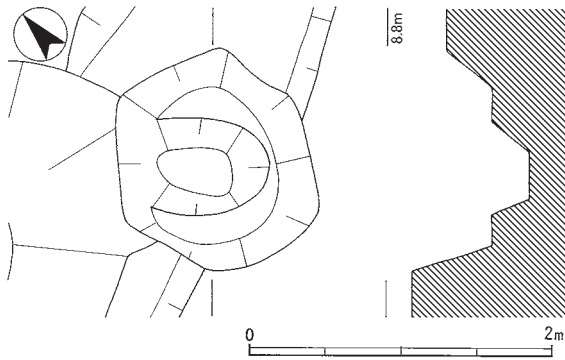


第151図 SK42実測図・土層断面図(1:20)

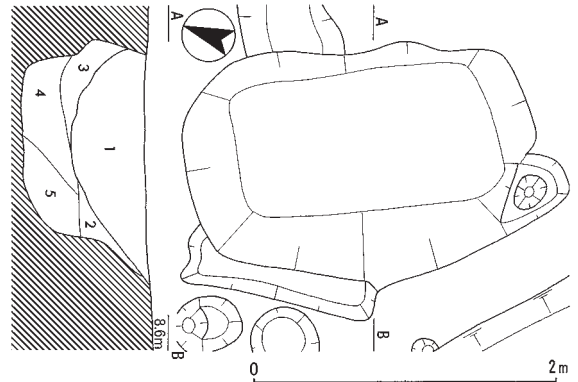


- 1 黒褐色粘質土
- 2 灰褐色砂礫
- 3 黒色粘質土
- 4 黒色粘質土(3より黒く粘性強い)
- 5 灰白色粘土と黒色粘土の混土層
- 6 黒褐色砂質土と粘質土の互層
- 7 灰色砂

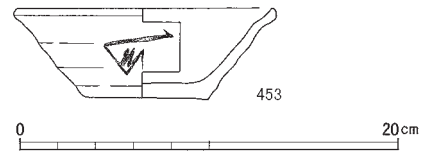




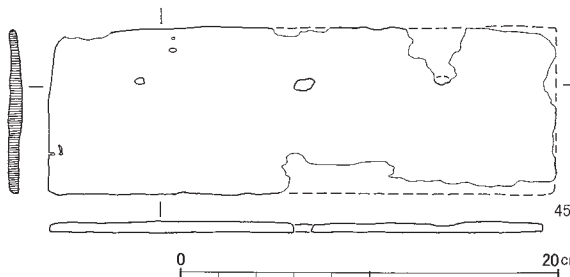
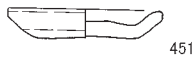
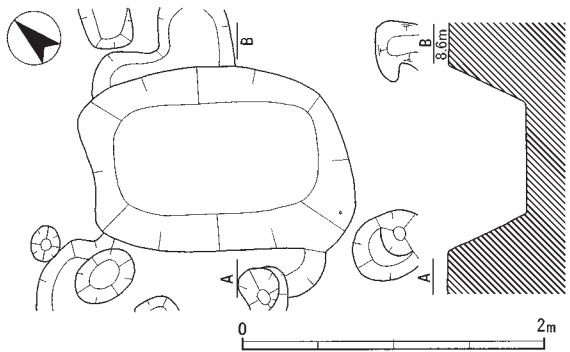
第153図 SK43実測図(1:50)、出土遺物実測図(1:4)



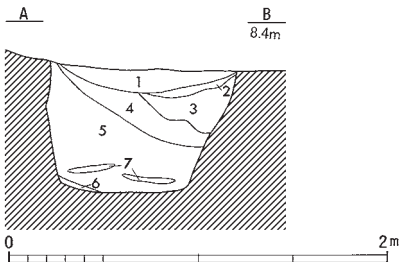
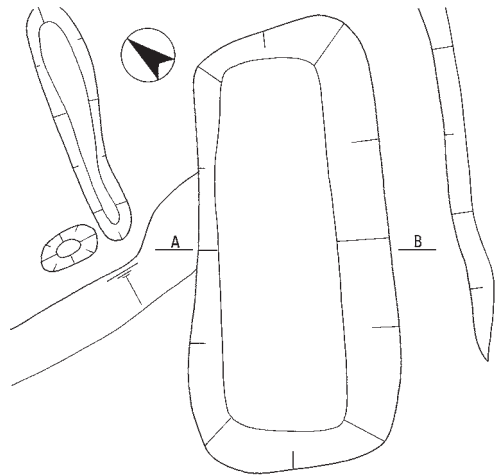
- |                         |                  |      |
|-------------------------|------------------|------|
| 1 暗赤褐色粘質土(粘性強い)[5YR3/3] | 4 黒褐色粘土[10YR2/2] | } 混土 |
| 2 黒褐色粘土[10YR2/2]        | 5 青灰色粘土[10BG6/1] |      |
| 3 青灰色粘土[5BG6/1]         |                  |      |



第155図 SK45実測図・土層断面図(1:50)、出土遺物実測図(1:4)

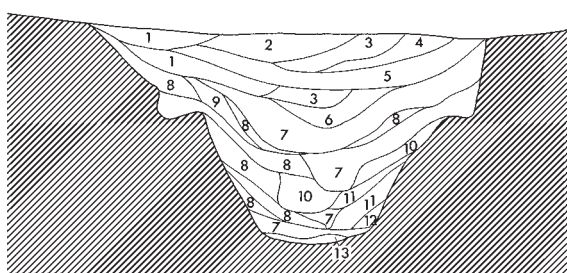
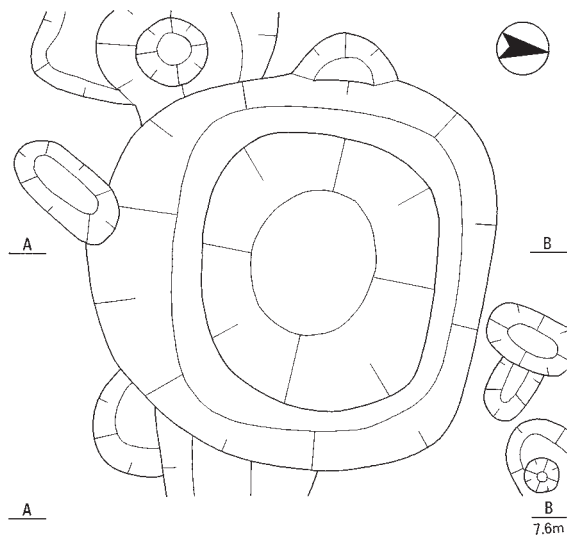


第154図 SK44実測図(1:50)、出土遺物実測図(1:4)

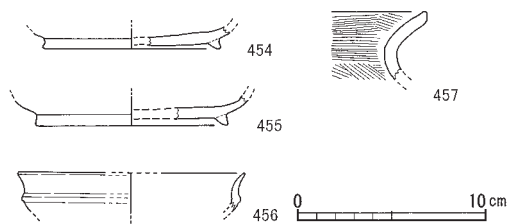


- |                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| 1 赤黒色粘質土[2.5YR1.7/1]   | 5 3と同じ                |
| 2 黒褐色粘質土[5YR2/1](砂利粒含) | 6 黒褐色粘土[7.5YR3/1]     |
| 3 黒色粘土[7.5YR2/1]       | 7 黒褐色粘土[10YR2/2](混入土) |
| 4 2と同じ                 |                       |

第156図 SK46実測図・土層断面図(1:40)



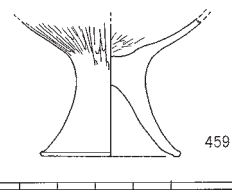
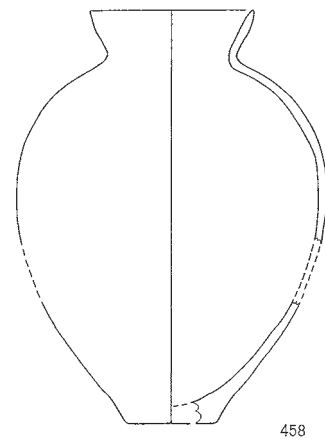
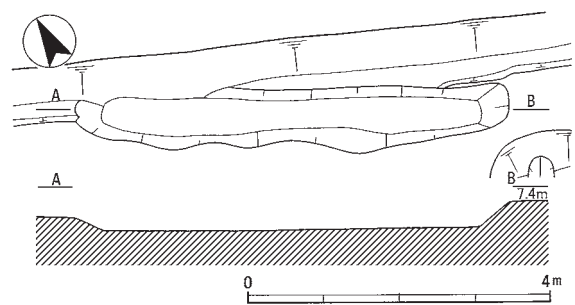
- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| 1 黒褐色粘質土           | 8 黒色土に黄色土混じる     |
| 2 黒褐色粘質土           | 9 黒灰色粘土          |
| 3 暗灰褐色粘質土(黄色土粒混じる) | 10 黒色土(黄色土少量)    |
| 4 暗灰褐色粘質土(黄色土粒少ない) | 11 黒色土に黄褐色砂混じる   |
| 5 暗灰褐色粘質土          | 12 黒色粘土(黄色土混じる)  |
| 6 黄色土のブロック         | 13 灰色砂礫に青灰色粘土混じる |
| 7 黒色粘土             |                  |



第157図 SK47実測図・土層断面図(1:30)、  
出土遺物実測図(1:4)

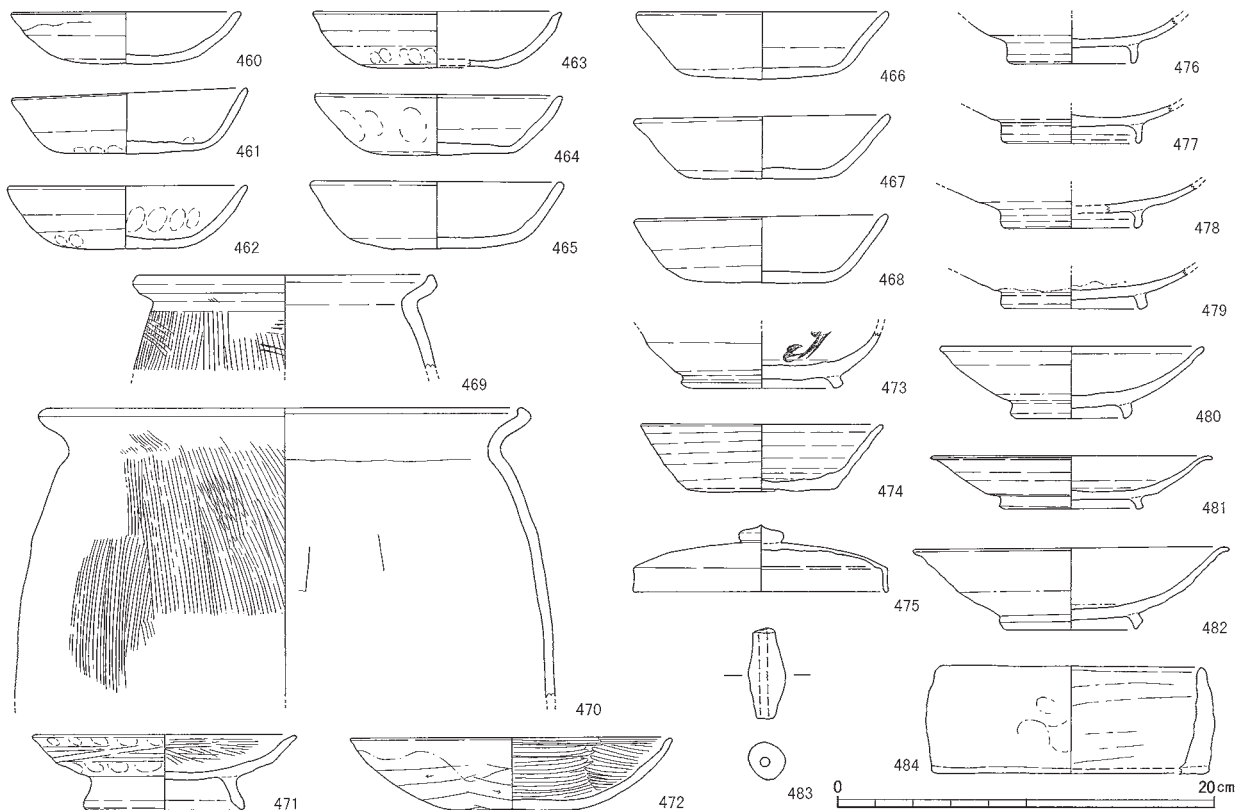
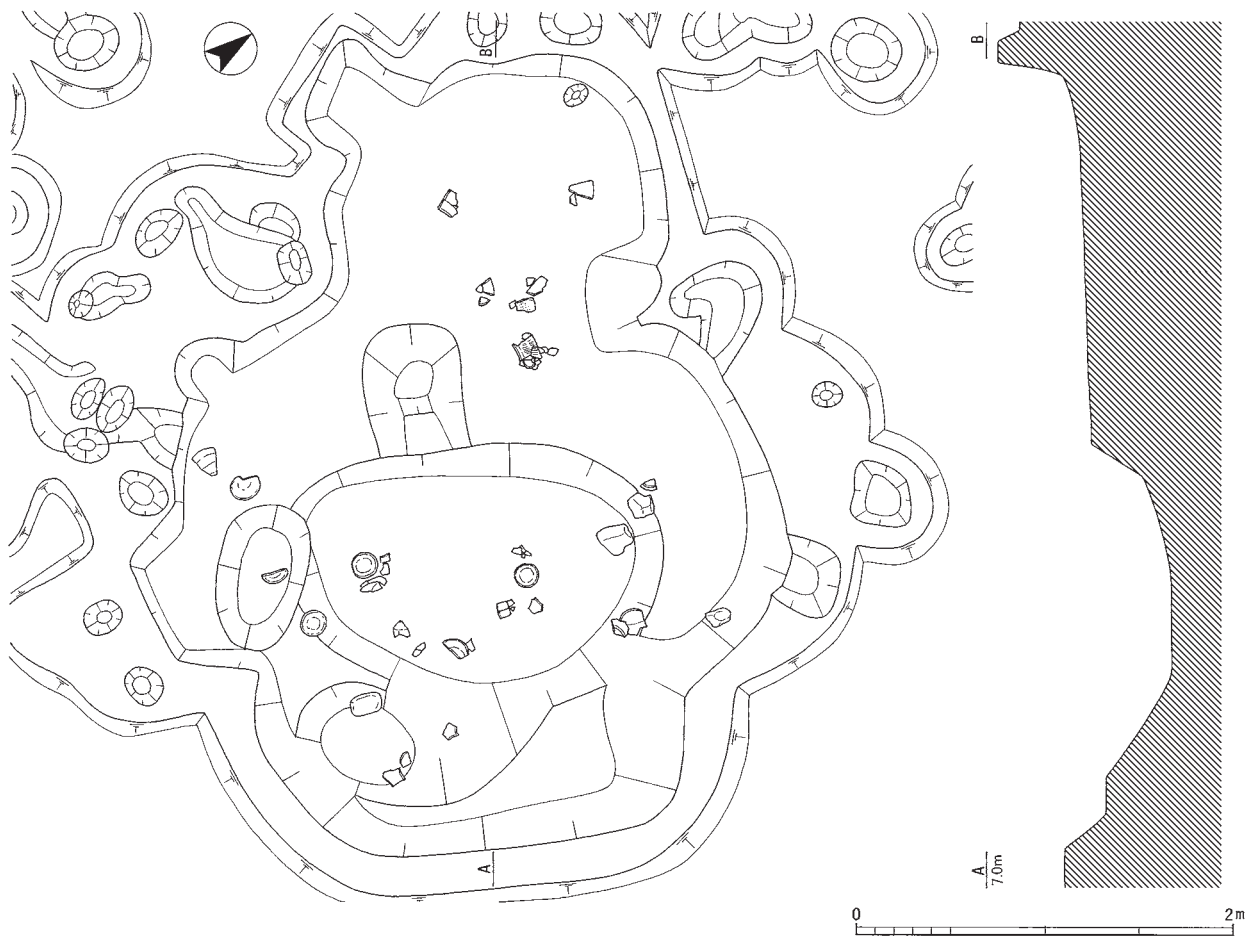
つかの土坑が集まったもの(SK57・58)には、方形と思われるもの(SK54・57・60)と楕円形のもの(SK59)、不定形のもの(SK56・58)がある。ほかには溝状のもの(SK51・52・55)と、いくつかの土坑がならんで溝状になったもの(SK50・53)がある。溝状のものはC地区・D地区にも若干存在するが、周辺の水田の地割りと方向の近いものが多く、複数のものが平行している部分もある。

遺物は、主に17世紀から19世紀第3四半期に比定できる陶磁器類が出土した。土師器には、皿(487～

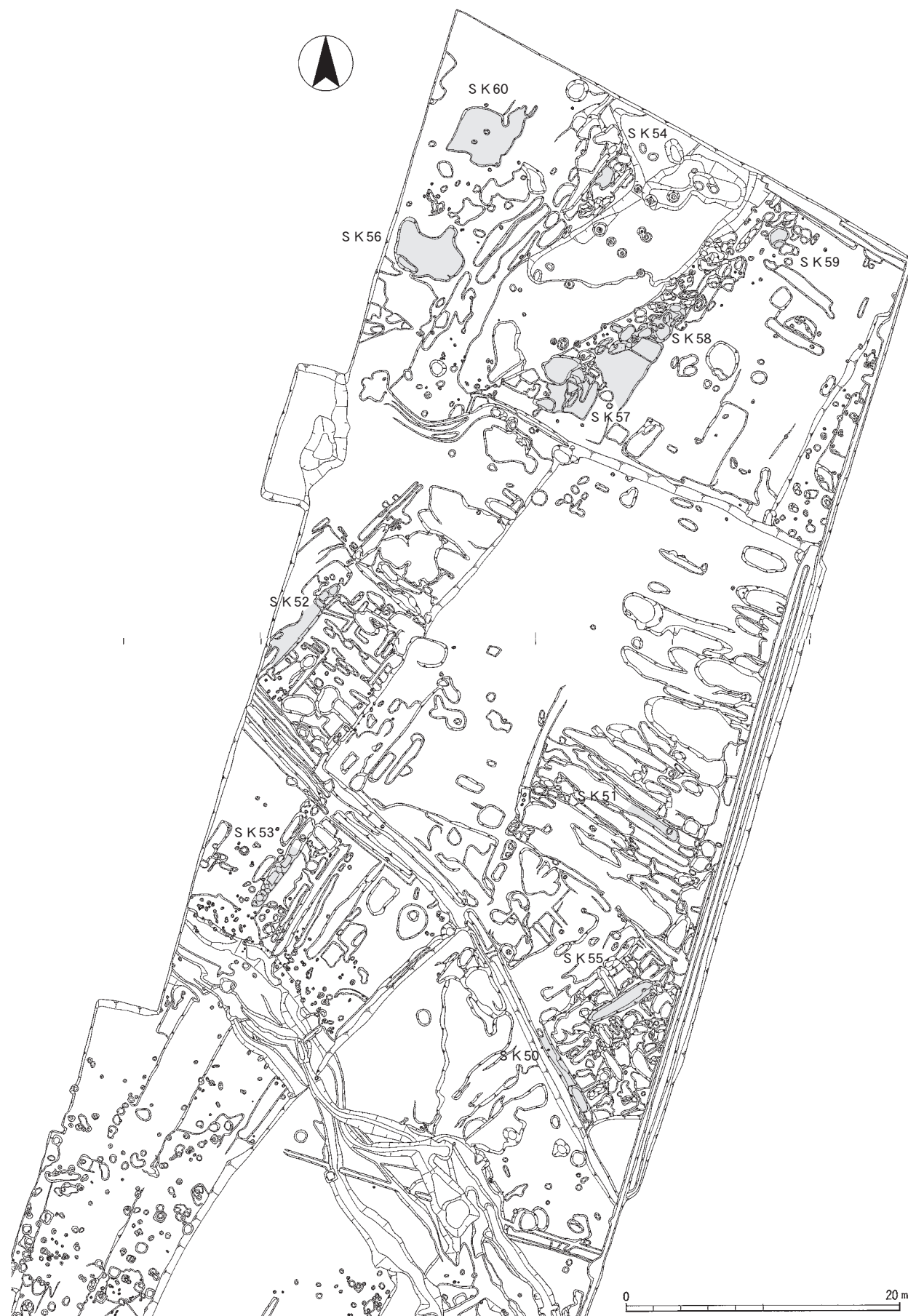


第158図 SK48実測図(1:100)、出土遺物実測図(1:4)

489)・焙烙(490・491)がある。陶器には、皿(493・497・499・511・515)・椀(502・503・521)・乗燭(496)・挿鉢(508・509・513・514)などがある。磁器には、椀(517～520・524)・紅皿(530)などがある。ほかには、鞆の羽口(505)、砥石(510)などが出土している。鞆の羽口はSK53からまとめて出土しており、SK53出土の土師器焙烙491の口縁部外面には鉄滓が付着していた。(494)は、陶器の灯明受皿、(495)は、信楽焼の青土瓶蓋、(499)は陶器の馬目皿口縁部、(500)は信楽焼の雪平である。(509)の挿鉢の内面には、⊕の刻印がある。(511)は、陶器の木瓜形皿で、ほぼ全面に御深井釉がかけられている。磁器椀は、(517)が肥前、(518～520)が波佐見のものと考えられる。肥前製と考えられるのは、ほかに猪口(522)と筒形湯呑(529)がある。そのほかの磁器は、ほとんどが瀬戸製品と考えられる。

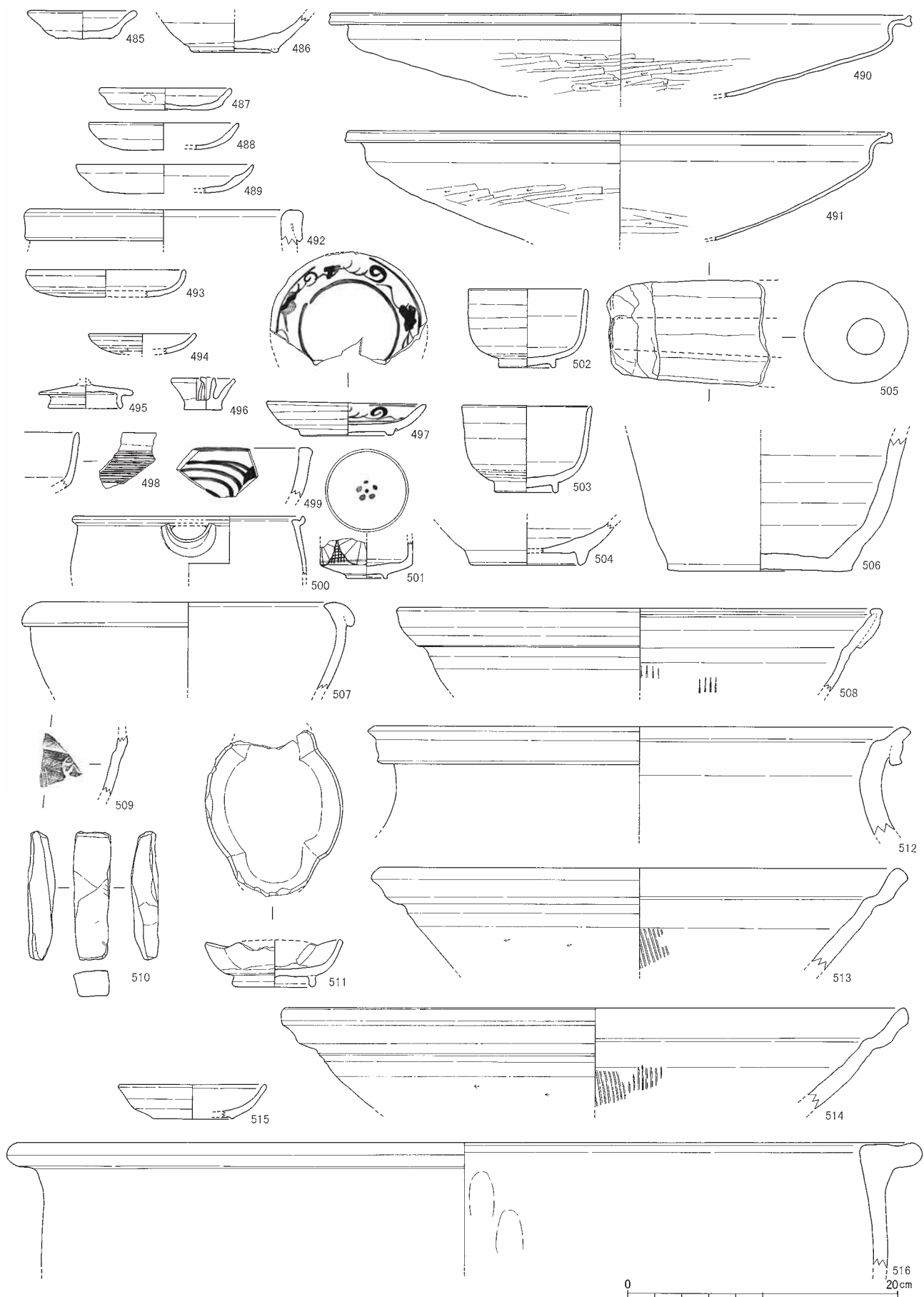


第159図 SK49実測図（1：40）、出土遺物実測図（1：4）

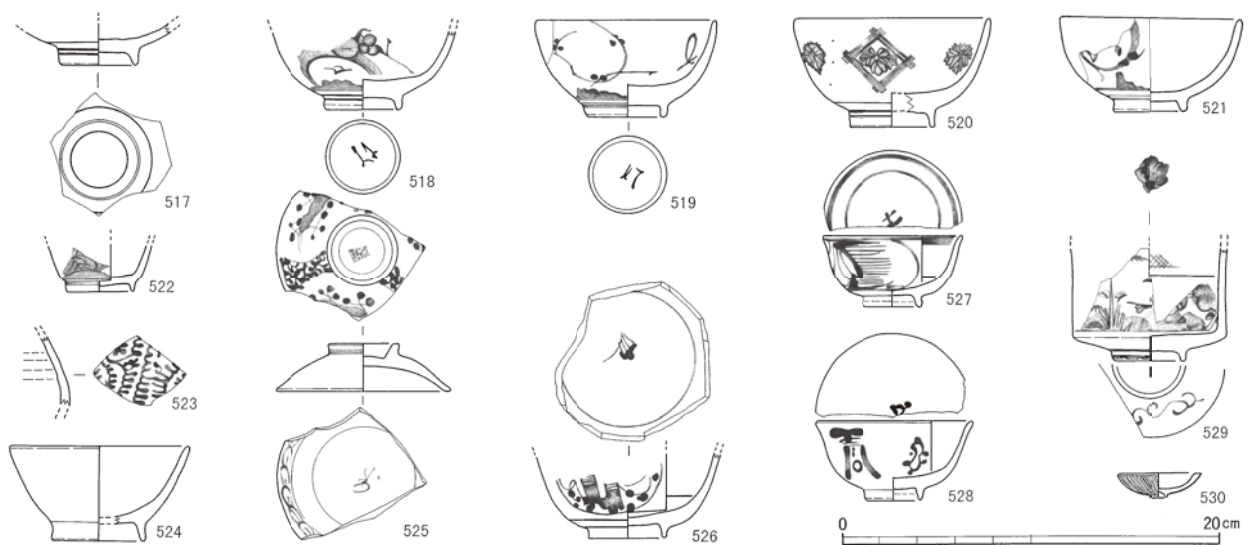


第160図 近世土坑群 (SK50~60) (1 : 400)





第161图 近世土坑群出土遺物① (1 : 4) [485 ; SK50, 486 ; SK54, 487~489 · 492 ; SK56, 491 · 502~506 · 508 ; SK53, 493 · 512 ; SK51, 494~496 · 498~501 · 507 · 509 · 510 ; SK57, 497 ; SK55, 511 · 513 · 514 · 516 ; SK52, 515 ; SK60, 490 ; 不明]



第162図 近世土坑群出土遺物② (1 : 4) [517・522 ; SK53, 518~521 ; SK52, 523~528 ; SK57, 529 ; SK59, 530 ; SK58]

### (7) 溝・自然流路

本遺跡は、東と南に緩やかに傾斜しており、調査では多数の溝・自然流路が検出された。このうち、38条について、遺構と出土遺物の概略を述べる。個別の詳細なデータについては一覧表を参照されたい。

SD 1 B地区北端部で検出された、北東-南西方向の幅の広い溝である。底部は北東部ほど低くなっている。幅約5mの道路を挟んだ北側の六大B遺跡A地区の南端では、この溝の続きは検出されなかったが、全体に広く窪み、東に低い地形がみられた。こうしたことから、SD1は北東方向へ流れていたと考えられる。

出土遺物には弥生時代以降のものがみられるが、中心は平安時代後半である。石匙(531)は、重さ7.5g、サヌカイト製である。弥生土器壺(532~538)は、表面が摩滅したものが多い。奈良・平安時代以降の遺物としては、土師器甕(539~542)、須恵器(543・545~547・562)、緑釉陶器(548)、ロクロ土師器(553・559)、灰釉陶器(552)、陶器山茶碗(550・551・555~558)などがみられる。562は須恵器壺の獣脚部分である。その他、白磁碗(560)、平瓦(561・565)、土玉(563)などがある。

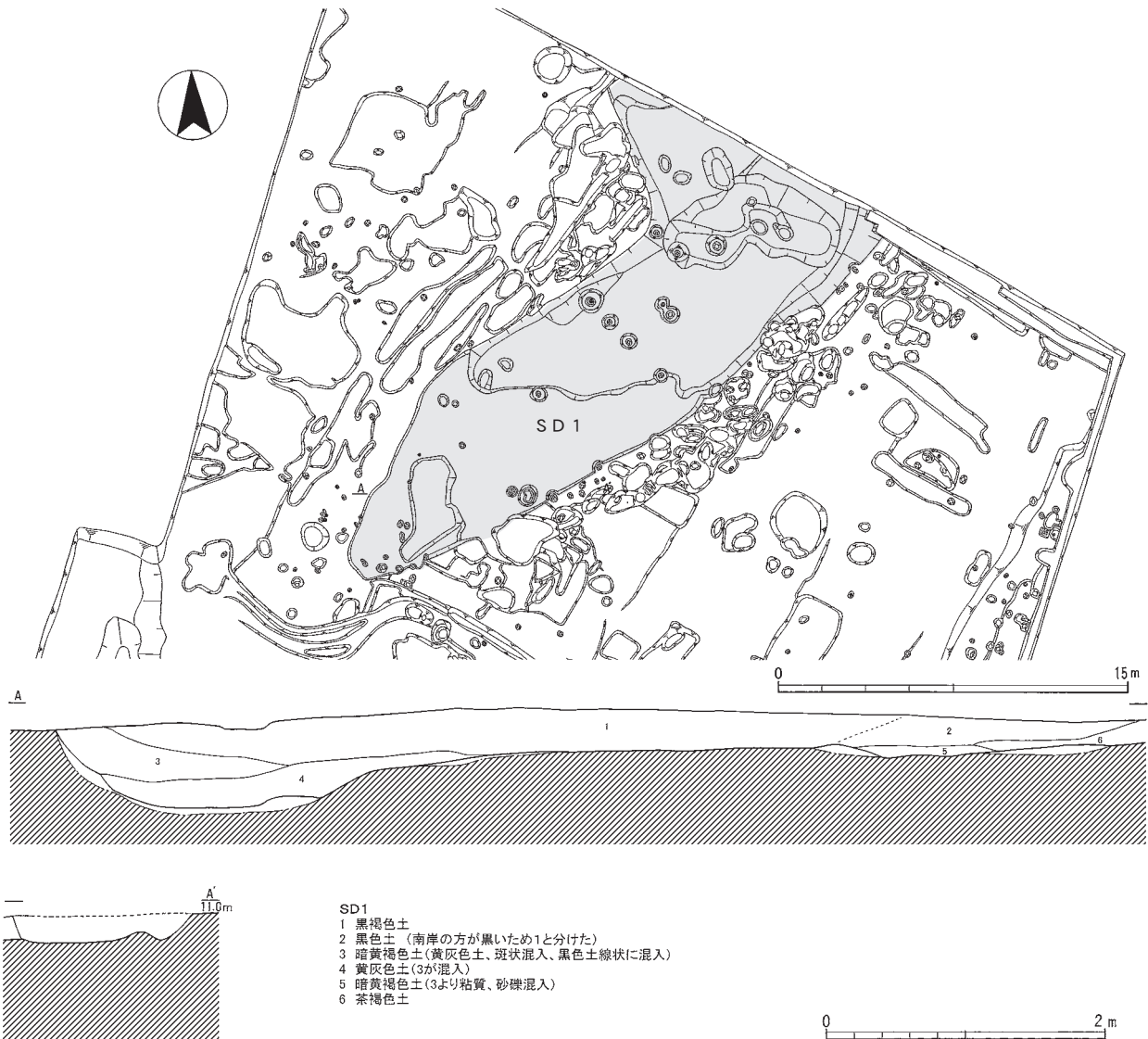
SD 2 B・C地区の境界付近を北西から南東方向に流れる幅の広い溝である。東端はいったん調査区外となり、I-2地区に続く。2~3条の溝が絡み合っているように見えるが、全体としては1本で、幅は広いところで10mにもなる。1カ所くびれたよ

うに見えるところは、上部が削平され、底の部分だけが残ったものであろう。

出土遺物は、弥生土器(567)、土師器(568~573・590~592・599~605)、須恵器(574~589・640・641・648)、ロクロ土師器(594・595)、黒色土器(596~598)、灰釉陶器(593・606~639・642~647・649・655・671)、緑釉陶器(660~663)など、種類も量も多い。中心は、平安時代前半である。(566)はチャートの剥片で、一部に加工痕がみられる。(575・576)の須恵器杯・高杯には、ヘラ記号が付けられている。(583)は、獣脚を持つ須恵器壺の底部である。黒色土器(596~598)はいずれも内面が黒化するA類である。灰釉陶器には、碗・皿・壺がある。碗・皿の灰釉は、漬掛けか刷毛塗りか判断のつくものが多い。緑釉陶器は、662が硬質、他の3点は軟質である。灰釉陶器は、612の底部外面にはヘラ記号、625・628の底部外面には墨書がみられる。(650・651)は、複弁八葉蓮華文軒丸瓦で、同種のもので津市四天王寺廃寺や渋見廃寺から出土している。(652・654)は丸瓦、(653)は軒平瓦である。その他、製塩土器(665・666)、土錘(667~669)、鉄鎌(670)、鉄製盤(672)などがある。

SD 3 C地区中央東部のSE2付近にはじまり、蛇行しながらほぼ東流し、SD2に達する。SD2との切り合い関係は攪乱のため確認できなかったが、SD2を越えて東へは延びない。

出土遺物は、土師器皿(673~677)・杯(678~



第163図 SD 1実測図（1：300）・土層断面図（1：50）

684・688～691）・椀(685・686・692・693)・甕(694～700・702)、須恵器杯身(687・708・710～713)・杯蓋(705～707・709)・甕(714)・壺(715・716)・鉢(717)、黒色土器杯(718・719)・椀(720・722・723)・皿(721)、緑釉陶器皿(724)・椀(725)、灰釉陶器皿(726)・椀(727・729～732)、陶器山茶椀(728)などがある。時期は、平安時代前半が中心である。土師器杯のうち677～680・682の内面には暗文が施される。687はロクロナデで調整（底部外面は未調整）された酸化焼成による須恵器である。須恵器杯蓋709の天井部内面には同心円の当て具痕が残る。黒色土器はすべてA類である。720・721・723の内面には螺旋暗文が施される。灰釉陶器椀のうち731の高台見込みには墨書がみられる。この他出土遺物には、ロクロ土師器を加工した円形加工板(703)、製塩土器

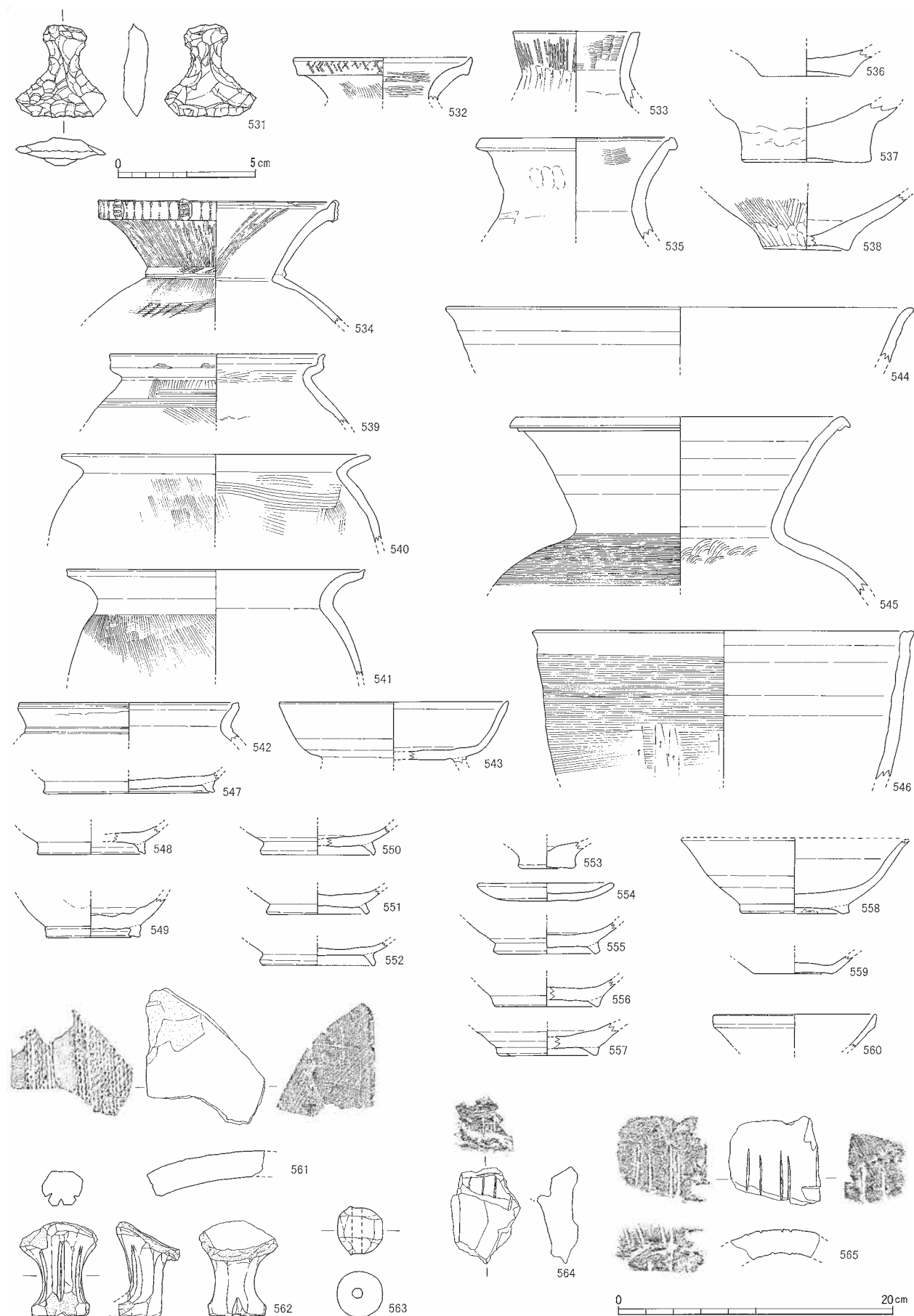
(704)、平瓦(733・734)がある。

SD 4 C地区の中央部やや南よりで検出された南北方向の溝である。図化できた遺物はないが、平安時代後半頃のものと考えられる。

SD 5 C地区南東部で検出された南北方向の溝である。出土遺物には、土師器皿(735)、陶器山茶椀(736・737)、土錘(738)がある。南端部はSD 6に切られた形になっているが、出土遺物からもSD 5の方が古いと思われる。

SD 6 C地区南東部で検出された。蛇行しながら東流し、調査区外へ出る。東端にSE4があるが、出土遺物を見る限り、SD 6の方が古い傾向にある。西側は、削平されており検出できなかった。

出土遺物の中心は鎌倉時代である。土師器皿(739～741・744・745)・椀(759)・鍋(746～749)、ロクロ

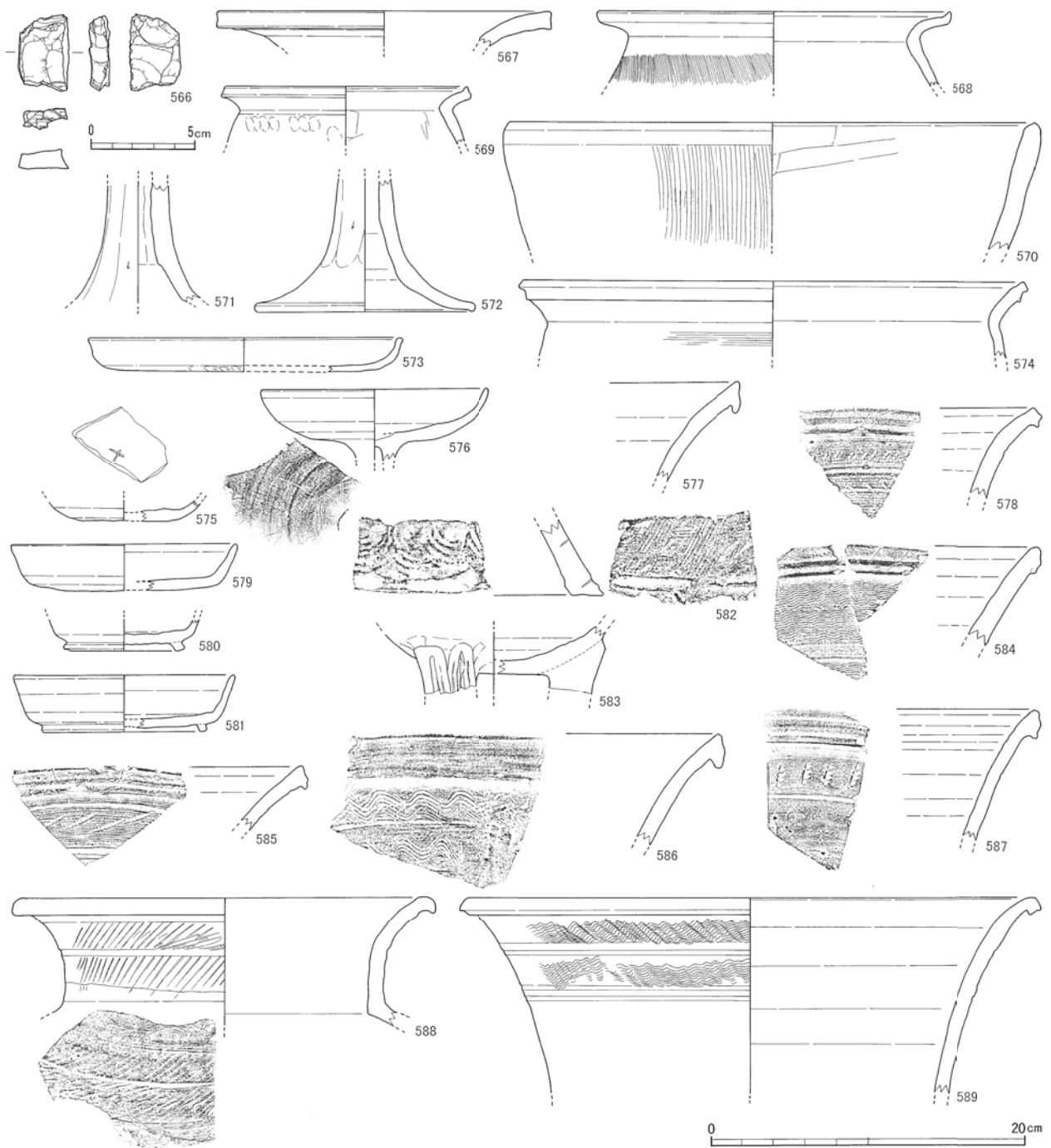


第164图 SD 1 出土遺物実測図 (1 : 4)、531 (1 : 2)





第165図 SD 2・3・34実測図 (1 : 300)



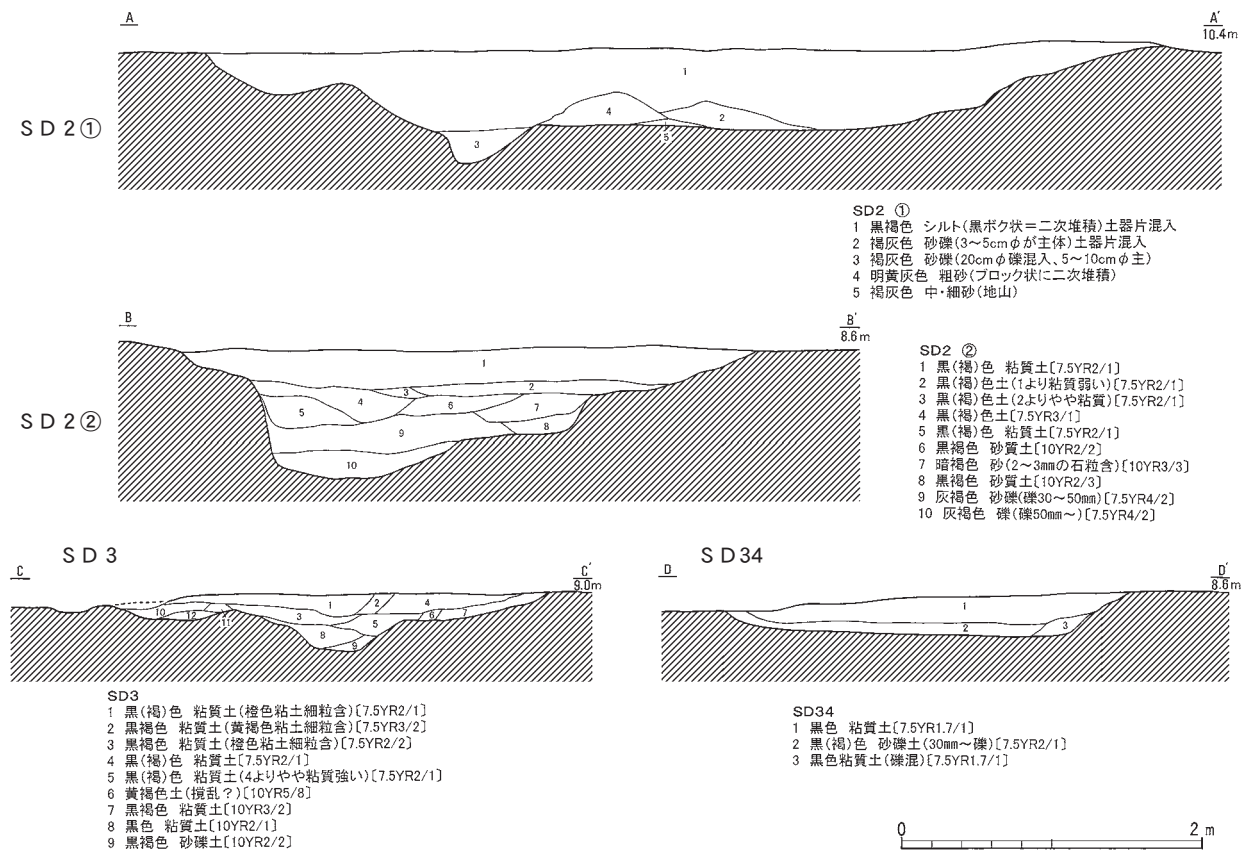
第166図 SD 2 出土遺物実測図① (1 : 4)、566 (1 : 3)

土師器皿(742・743)、黒色土器(A類)椀(785)、灰釉陶器皿(755)・椀(757・758・760～763)・壺(764・784)、緑釉陶器椀(786～788)、陶器山茶椀(756・776～783)・小皿(765～775)、青磁椀(789・790)、白磁皿(791)などがある。土師器皿744の口縁部にはススが付着する。746はいわゆる清郷鍋である。緑釉陶器には軟質のもの(786・788)と硬質のもの(787)がある。この他の遺物としては、土錘(750～753)、須恵質の紡錘車(754)、陶器甕(792・793・795)、平瓦

(794)、重弧文の軒平瓦(796)がある。

SD 7・SD 8 C地区の南西部で検出された。ほぼ平行して西から東に流れる。SD 7は、図化できた遺物はないが、およそ中世頃と考えられる。SD 8からは、土師器皿(797～799)・鍋(800)、陶器甕(801)・山茶椀(802～804)が出土しており、鎌倉時代と考えられる。801は常滑焼で、押印文がみられる。

SD 9 C地区の南端からD地区中央を縦断するように南へ流れる。SD 9の北端部は東に向かって鍵の



第167図 SD2・3・34土層断面図(1:50)

手に曲がり、SD8と絡み合う。

出土遺物は、土師器鍋(805)、ロクロ土師器皿(806)、陶器山茶碗(809~824)・小皿(807・808)・鉢(826)・壺(827)、風字硯(825)がある。825は、やや磨耗し、内面に墨が付着する。山茶碗は、藤澤編年で第5・6型式に相当するものが多く、12~13世紀頃に埋没したと考えられる。

SD10 E地区を西から東へ流れる溝である。西端部には幅が広く、水溜り状になったところがある。そこから東に伸びる溝は深くしっかりしている。

出土遺物には、弥生土器高杯(1030)や韓式系土器(1031)もあるが、中心は平安時代後半である。

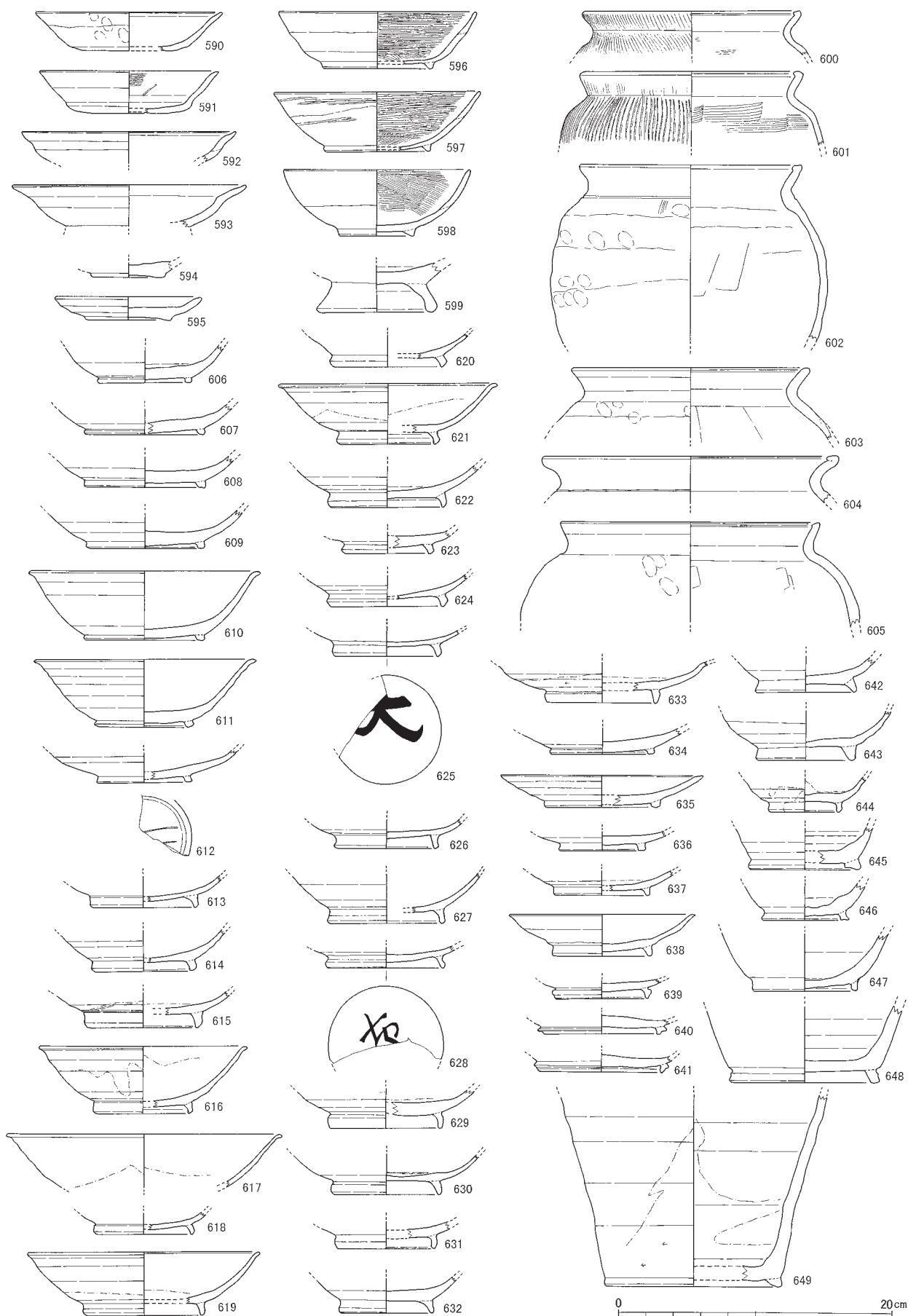
土師器には、皿(828~830)・杯(833~839・843・844・846・847・849~851)・碗(840~842・845・848・852~854)・鉢(832)・手捏ねの鉢(855)・甕(856~867・873・874)・甌(868~871・875)・鍋(872)・高杯(876)がある。杯の一部には暗文がみられるものがある。甌は底部868・875と把手部分869~871の破片である。872はいわゆる清郷鍋である。876は、脚部が八角形に面取りされている。この他土師器には、筒状土器(882)、移動式竈(883)がある。

ロクロ土師器には、皿(831)と碗(852)がある。製塩土器(877~881)、轆轤口(884~886)も比較的多く出土している。土錘(887~915)は、球形のもの887~890と筒状のもの891~915とがある。大きさ、重さはまちまちで細分化はできなかった。

須恵器には、杯蓋(916~920)・杯身(921・923・927~929・931~934・937)・盤(922)・鉢(924・926)・壺(925・935・939~941)・甕(943~946)・横瓶(947)・平瓶(948)などがある。(930)は杯の転用硯、(936)は杯蓋の転用硯である。947の横瓶は、内部が2室構造になっており、半球状の壺を2つ合わせたような作りとなっている。外面はカキメによる調整がなされている。(949)は体部3方に透孔を持つが器形は不明である。

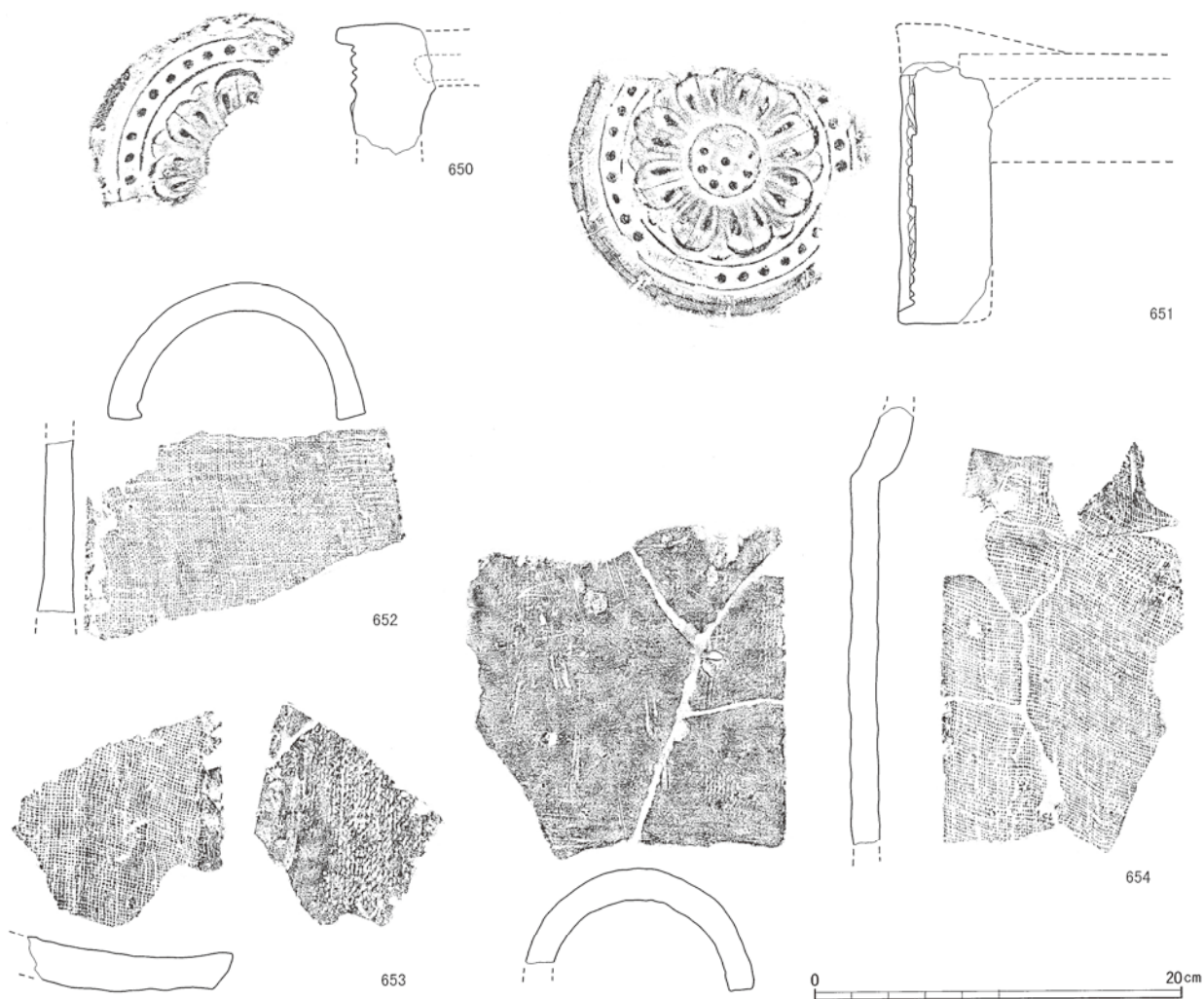
黒色土器には、杯(950)と碗(951~953)がある。いずれもA類である。

灰釉陶器は、出土遺物中で数が最も多く、図化したもので57点を数える。器種は、皿(954~956・958~960・963・965)・碗(957・961・962・964・966~970・972~1000・1002~1005)・壺(938・942・1006~1008・1010)がある。954・976・987・988・989・997・

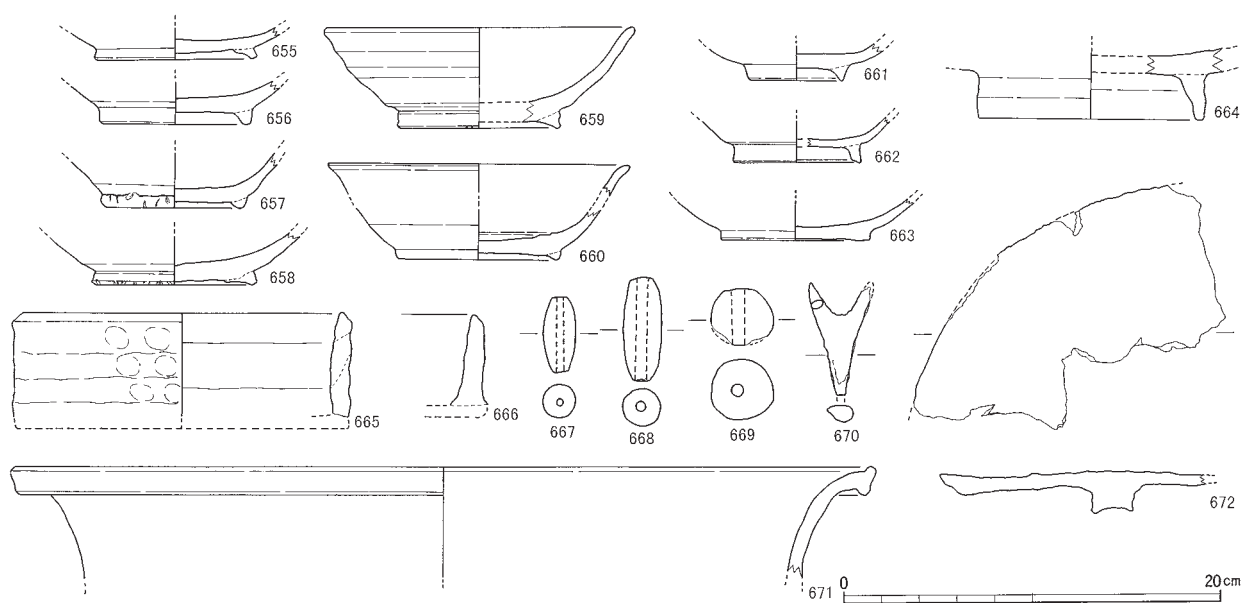


第168图 SD 2 出土遺物実測図② (1 : 4)

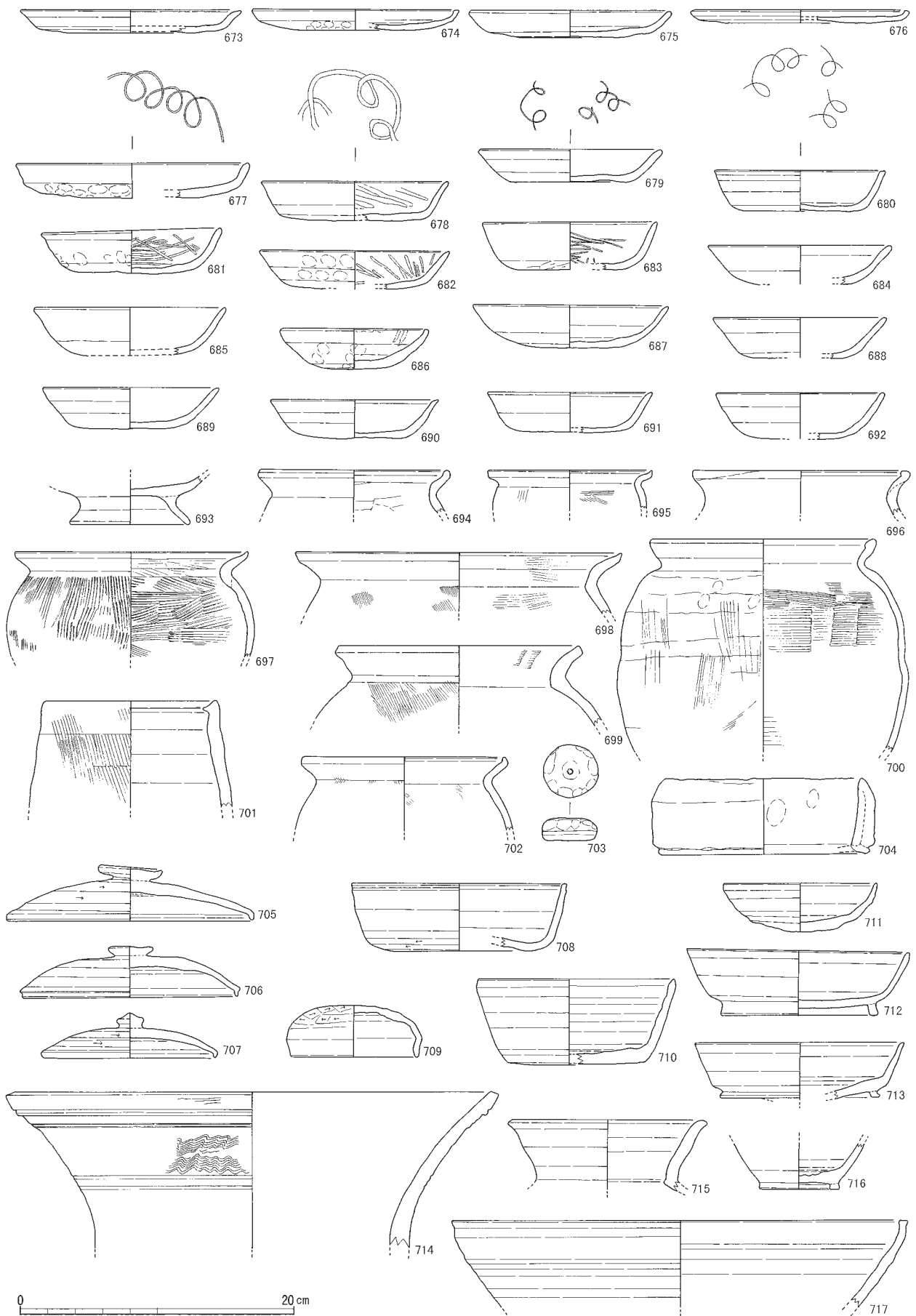




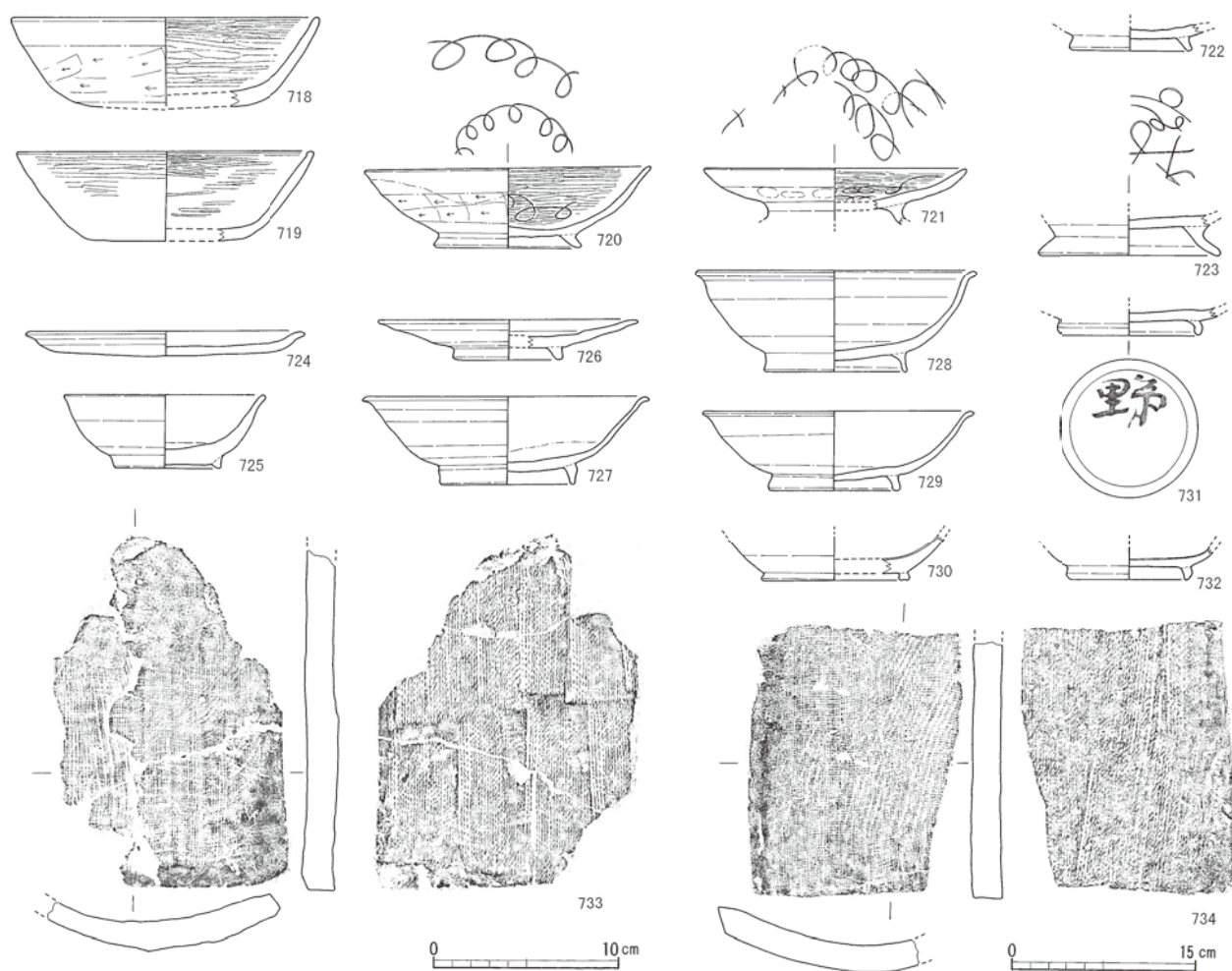
第169図 SD 2 出土遺物実測図③ (1 : 4)



第170図 SD 2 出土遺物実測図④ (1 : 4)



第171図 SD 3 出土遺物実測図① (1 : 4)



第172図 SD3 出土遺物実測図② (1:4)、733・734 (1:6)

1004・1005の底部外面には墨書がみられる(989は墨痕のみ)。942の底部外面には4条の平行線、977の底部外面には「×」のヘラ記号が付けられている。また、996は輪花椀である。(1009)は、灰釉陶器を加工した円形加工板である。

緑釉陶器には皿(1011)と椀(1012~1025)がある。1018の1点が軟質のほかは、すべて硬質である。1016・1017・1019・1023の見込みには沈線がめぐる。1025の口縁部には4方に輪花がみられる。

陶器は、山茶椀(971・1001)と小椀(1029)の3点がある。この他、丸瓦(1026)、白磁椀(1027)、鉄製釘(1028)が出土している。

SD11 D地区の南端からE地区の中央を南に流れる。途中SD10と切り合う。SD10、SD11とも平安時代後半に位置づけられる溝であるが、検出時の切り合いは、SD11がSD10を切っている状況であった。出土遺物も、SD11の方が新しい傾向にある。

出土遺物は、土師器椀(1032)・杯(1033)・甕

(1034)・鍋(1035)が各1点ずつ、ロクロ土師器皿(1036~1038)、土錘(1039~1042)、須恵器壺(1043)、灰釉陶器皿(1044・1046・1048)・椀(1045・1047・1049)、緑釉陶器皿(1050)・椀(1051~1054)、陶器山茶椀(1055~1066)、平瓦(1068)、偏行唐草文の軒平瓦(1069)、砥石と思われる石製品(1067)がある。1035はいわゆる清郷鍋である。緑釉陶器は、皿1050が軟質のほかは、すべて硬質である。1054以外は、見込みに沈線がめぐる。偏行唐草文軒平瓦1069は、同種のものが津市四天王寺廃寺から出土している。また、かつて大里窪田町から出土したと伝えられるものも⑩1069と同種である。

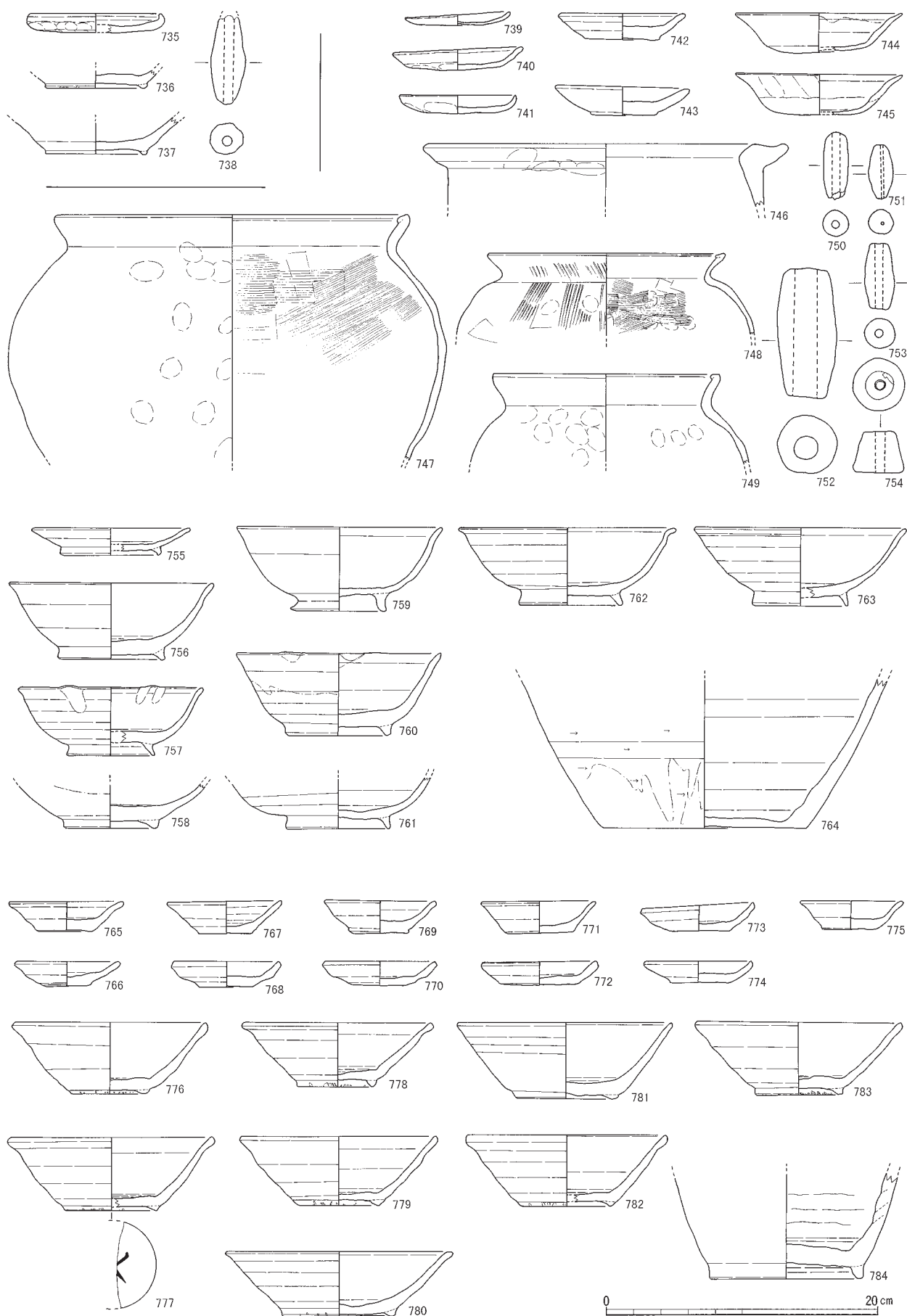
SD12 E地区北西部からF地区南東部に向けて流れる自然の谷状の地形である。幅は、6mから場所によっては10mと広く、今回の調査で検出した長さも、98mと長い。層位は、大きく上層・中層・下層の3層に分けられるが、遺物の出土は上層に集中する。時期的には飛鳥・奈良時代の遺物が中心であり、



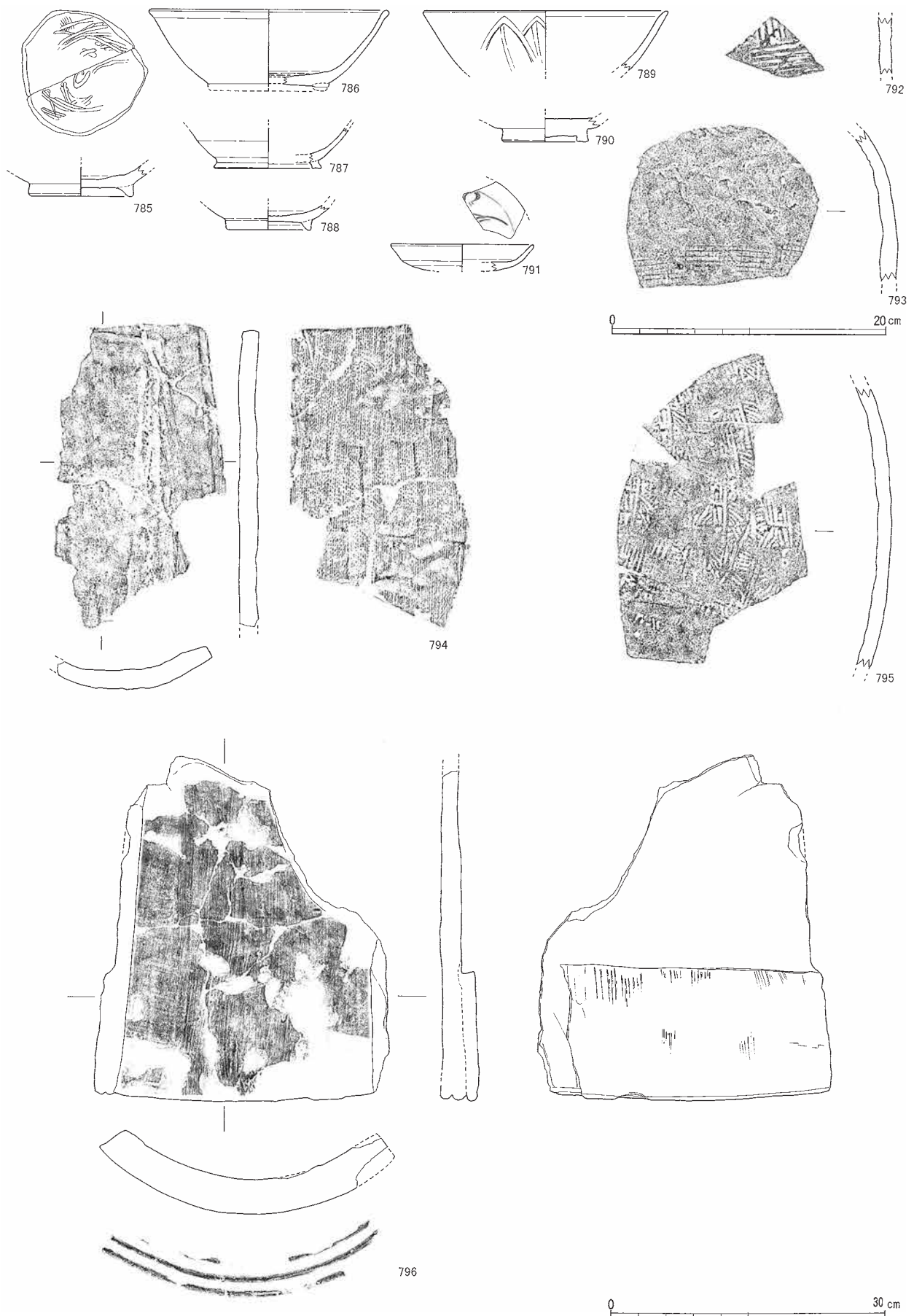


第173図 SD 4～9実測図（1：300）

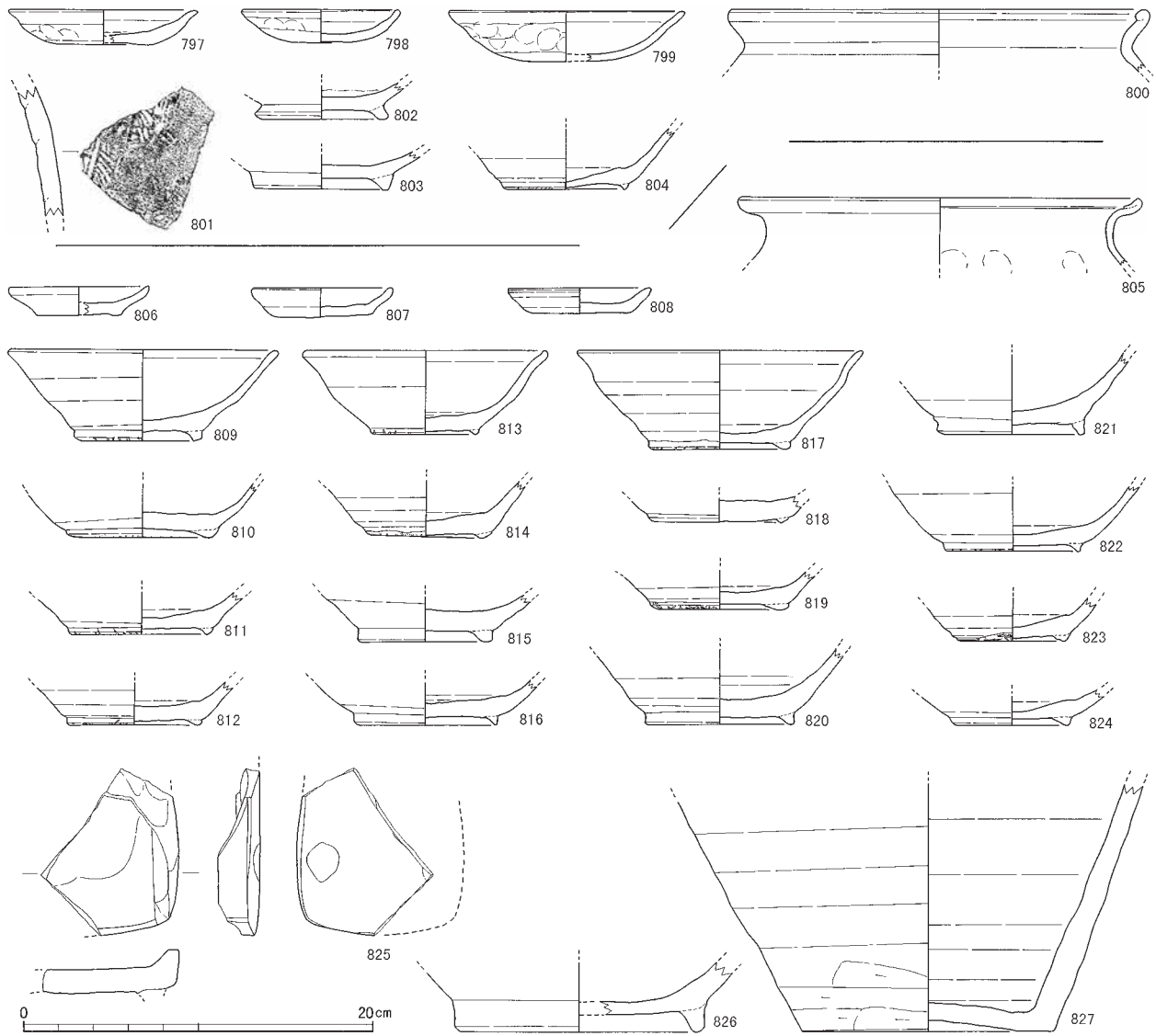




第174図 SD5・6 出土遺物実測図 (1:4) [735~738; SD5、739~784; SD6]



第175図 SD 6 出土遺物実測図 785~793 (1 : 4)、794~796 (1 : 6)



第176図 SD 8・9 出土遺物実測図 (1:4) [797~804; SD 8、805~827; SD 9]

この時期に埋没したものと考えられる。

韓式系土器(1074~1077)は、いずれも甕の体部小片である。土師器には、杯(1078・1079)・甕(1080~1083・1085・1086・1090)・鍋(1084)がある。土製品には、土錘(1088・1089)・土馬(1091)・竈(1093)・土管と考えられるもの(1092)・および不明品(1087)がある。土馬1091は、頭部胴部のみで、脚部すべてと尾の先端、たてがみの半分ほどを欠く。頭部には沈線で手綱の表現がある。小笠原編年<sup>®</sup>の第1段階B形式に相当する。不明土製品1087は、扁平な板状の粘土の端部を約90°に曲げたものである。表面はヘラミガキで調整されている。

須恵器は、杯蓋(1094~1096)・皿(1097)・杯身(1098~1110)・鉢(1111)・壺(1112・1113・1115~1119・1122)・甕(1114)・甕(1120・1121)がある。

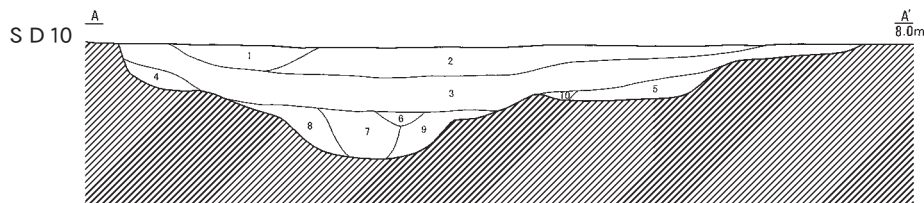
1120の頸部外面には、カキメと波状文が施される。壺には、頸部の短いもの1117・1122と長いもの1113・1115がある。1122の口縁部外面には2本の沈線がめぐる。

灰釉陶器は、皿(1123・1124)・椀(1125)・小椀(1126)がある。緑釉陶器椀(1127・1128)は、いずれも硬質のもので、見込みに凹線がめぐり、三叉トチンの痕が残る。

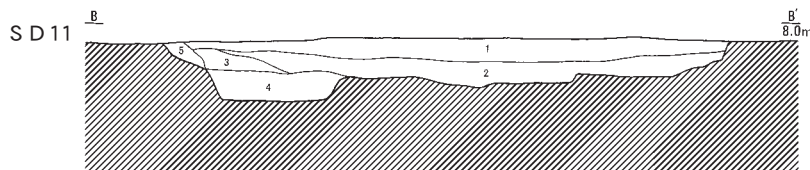
この他、平瓦(1130・1131)、砥石(1129・1132)、石製紡錘車(1135)、石鎌(1133)などがある。

SD13 E地区の南部を横断するように北西から南東に流れる溝である。幅がほぼ一定でしっかりしているが、両端は調査区外に延びる。鎌倉時代の溝である。

出土遺物は、土師器杯(1136)、灰釉陶器椀(1137)、



- SD10
- 1 茶褐色 砂質土
  - 2 暗茶褐色 やや粘質土
  - 3 やや黒っぽい暗茶褐色 やや粘質土
  - 4 黒褐色 粘質土(黄褐色土粒混じり)
  - 5 黒褐色 粘質土(黄褐色ブロック混じり)
  - 6 黒灰色土
  - 7 明茶褐色 砂質土(灰茶褐色砂礫混じり)
  - 8 黒灰色 砂質土
  - 9 黒灰色 砂質土

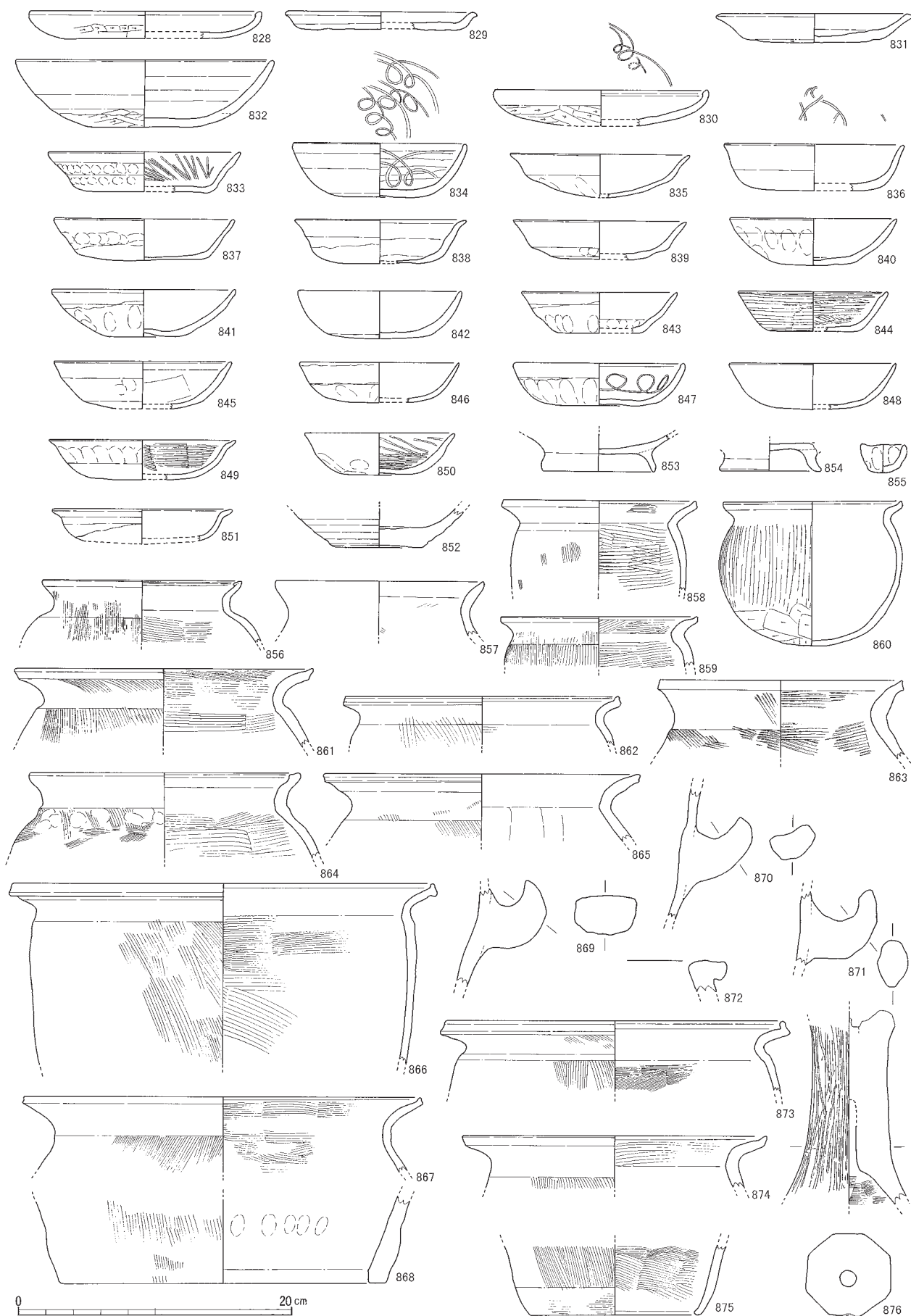


- SD11
- 1 暗黒色 粘質土
  - 2 暗黒色土(1より砂質、礫混入)
  - 3 暗黒色 粘質土(灰黄色土ブロック状混入)
  - 4 淡褐色 砂(地山より粘質)
  - 5 灰黄色土(暗黒色土混入、地山?)

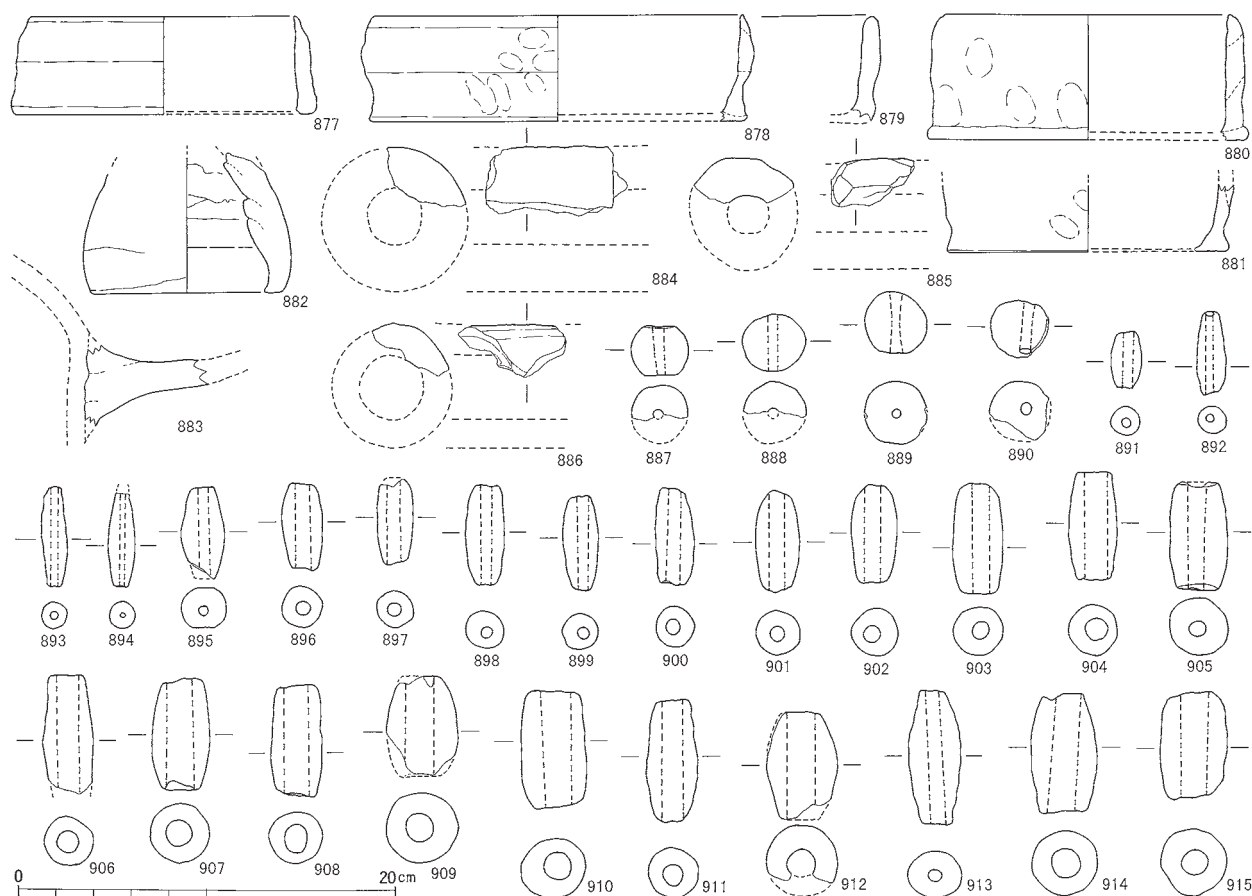


第177図 SD10・11・13実測図(1:300)・SD10・11土層断面図(1:50)





第178図 SD10出土遺物実測図① (1 : 4)



第179図 SD10出土遺物実測図②（1：4）

陶器山茶椀(1138～1140・1145)・鉢(1142)、青磁皿(1141)、陶器甕(1143・1144)・皿(1146)・鉢(1147)・天目茶椀(1148)、磁器蓋(1149)、円形加工板(1150～1154)、磨製石剣(1155)がある。1141の青磁皿は、12世紀後半～13世紀前半のもので、同安窯系と思われる。1143の陶器甕は常滑焼で13世紀後半頃のものである。陶器皿1146は志野釉が施され基筭底となっている。円形加工板には、天目茶椀底部を転用したものの1150・常滑焼甕胴部を転用したものの1151～1153・青磁椀底部を転用したものの1154がある。

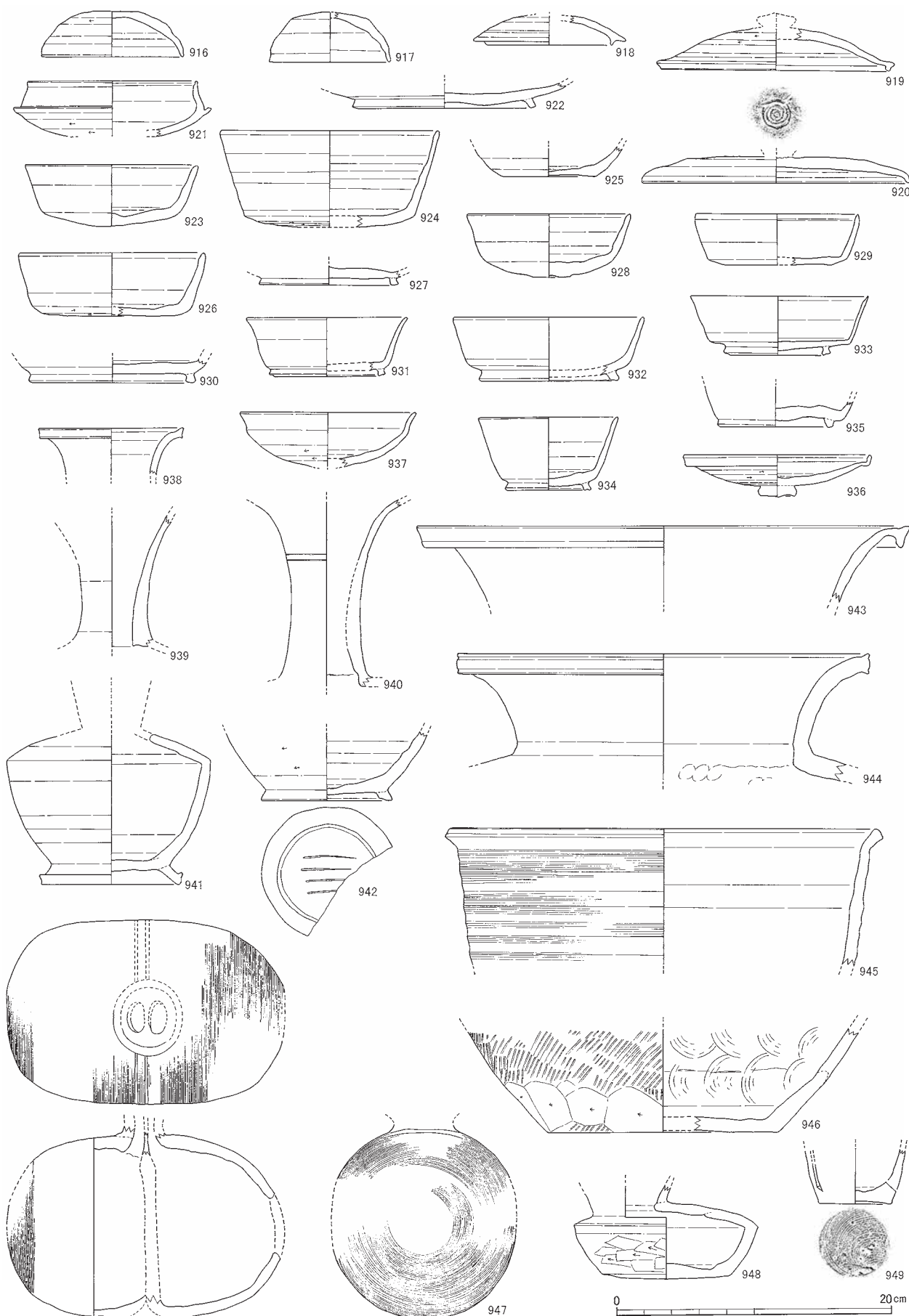
SD14 F地区南東部にある飛鳥・奈良時代の溝であるが、SD12を切った状態で検出された。方向もSD12と同じく南東に向かって流れ調査区外へ出る。北西端は、直径3.0～3.7m程で丸くなる。飛鳥時代の土坑SK24との切り合い関係は図面上では明らかなでないが、検出状況と出土遺物からはSD14の方が新しい。出土遺物は、土師器高杯脚部(1070)・甕(1073)、須恵器杯身(1071)・壺底部(1072)の4点がある。

SD15・16 それぞれF地区・F～I-4地区を東に流れる幅50～60cmの溝である。途中、途切れているが一連のものであった可能性もある。図化した遺物はないが、飛鳥・奈良時代の遺構である。切り合い関係から、ともにSD12より新しいと考えられる。また、SD16はSB87に先行するが、SK47とは切り合いが見られず、同時期のものであると考えられる。SK47は、SD16の水溜め的な施設と考えられる。

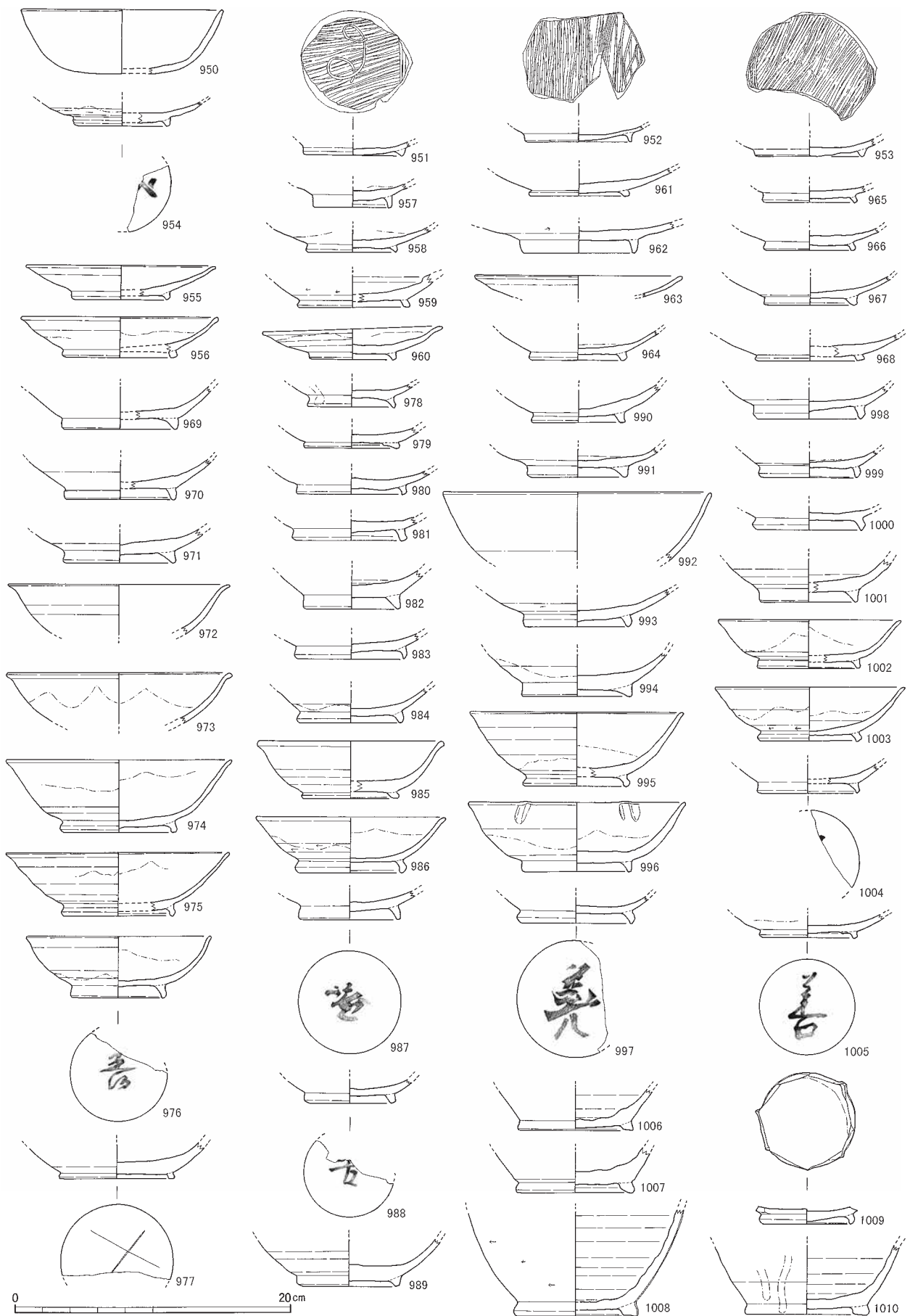
SD17 F地区南部を南東に向かって流れる飛鳥・奈良時代の溝である。西端部では、SD15と一緒になっている水溜状となっており、そこから2本の溝が流れ出す状況である。

図化した遺物は、ワイングラス形の須恵器高杯(1157)が1点である。

SD18～27 F地区中央部からG地区北端部で検出された小溝群である。当時の水田の境と考えられる。SD18・22・23・24は南北方向の溝で平行しているが、志登茂川流域の条里方向N30° Eよりやや東にふれる傾向にある。SD19・20・21・25～27は、それらに直交する方向の溝である。SD18・19・22は、一方の

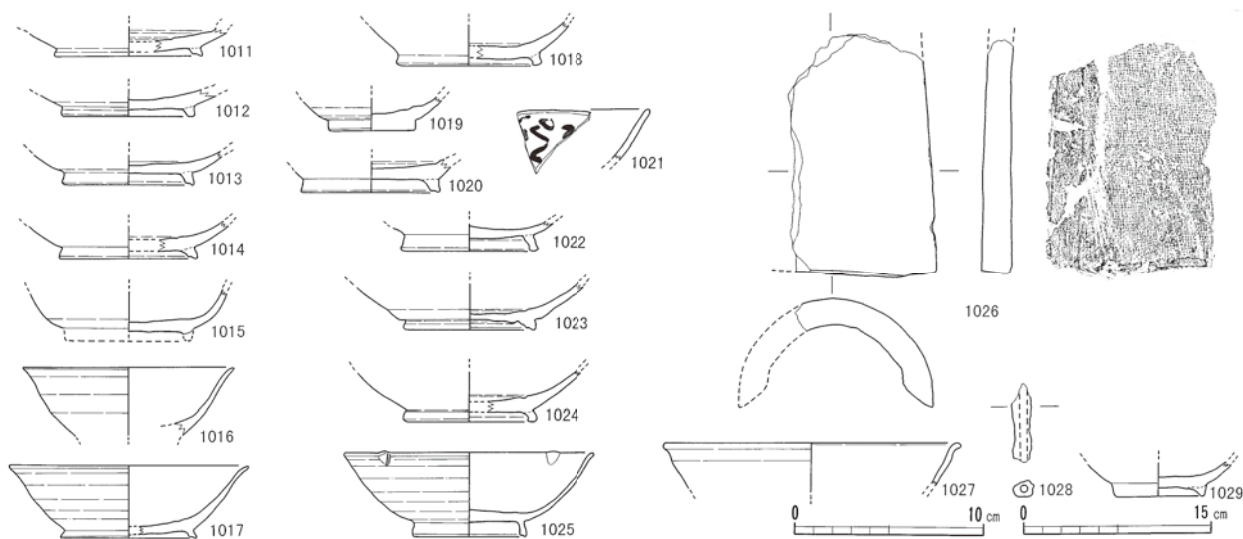


第180図 SD10出土遺物実測図③ (1 : 4)

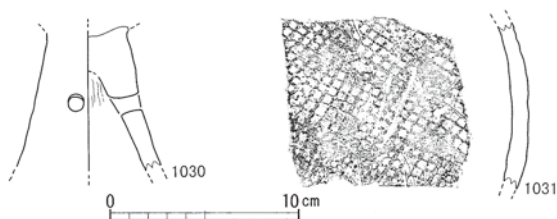


第181图 SD10出土遺物実測図④ (1 : 4)





第182図 SD10出土遺物実測図⑤（1：4）、1026（1：6）



第183図 SD10出土遺物実測図⑥（1：4）

端で約90°折れ曲がる。その結果、SD18・19・20・21、SD19・22、およびSD25～27はそれぞれ一連の溝と考えられる。なお、SD25・26は、検出・掘削後、自然流路SD29を掘削したため、図面上には表れていない。図化した遺物はないが、鎌倉時代の小溝群で、条里方向とほぼ一致することは興味深い。

SD28 G地区の北端部を東に向けて流れる。検出・掘削後に自然流路SD30を掘削したため、断続的にみえる。遺物は、硬質の緑釉陶器碗の底部が出土しており、平安時代後半の遺構である。時期は異なるが、SD25～27と6m間隔で平行していることは注目される。

SD29～31 それぞれF地区南端からG地区にかけて、G地区北端、G地区中央で検出された。いずれも数本の溝をまとめて自然流路とした。SD29は東に向いて流れる飛鳥・奈良時代の流路である。南東方向に流れるSD30が埋没後、SD29が残ったものと考えられる。SD31も南東方向に流れる古墳時代の流路で、SD30とほぼ平行している。

SD29の出土遺物は、土師器甕(1158)、須恵器杯蓋(1160・1161)・杯身(1162・1163)・壺(1159)の他、灰釉陶器碗(1164)と陶器山茶碗(1165)がある。1159

は肩部にカキメが施される。1162は酸化焼成の須恵器である。

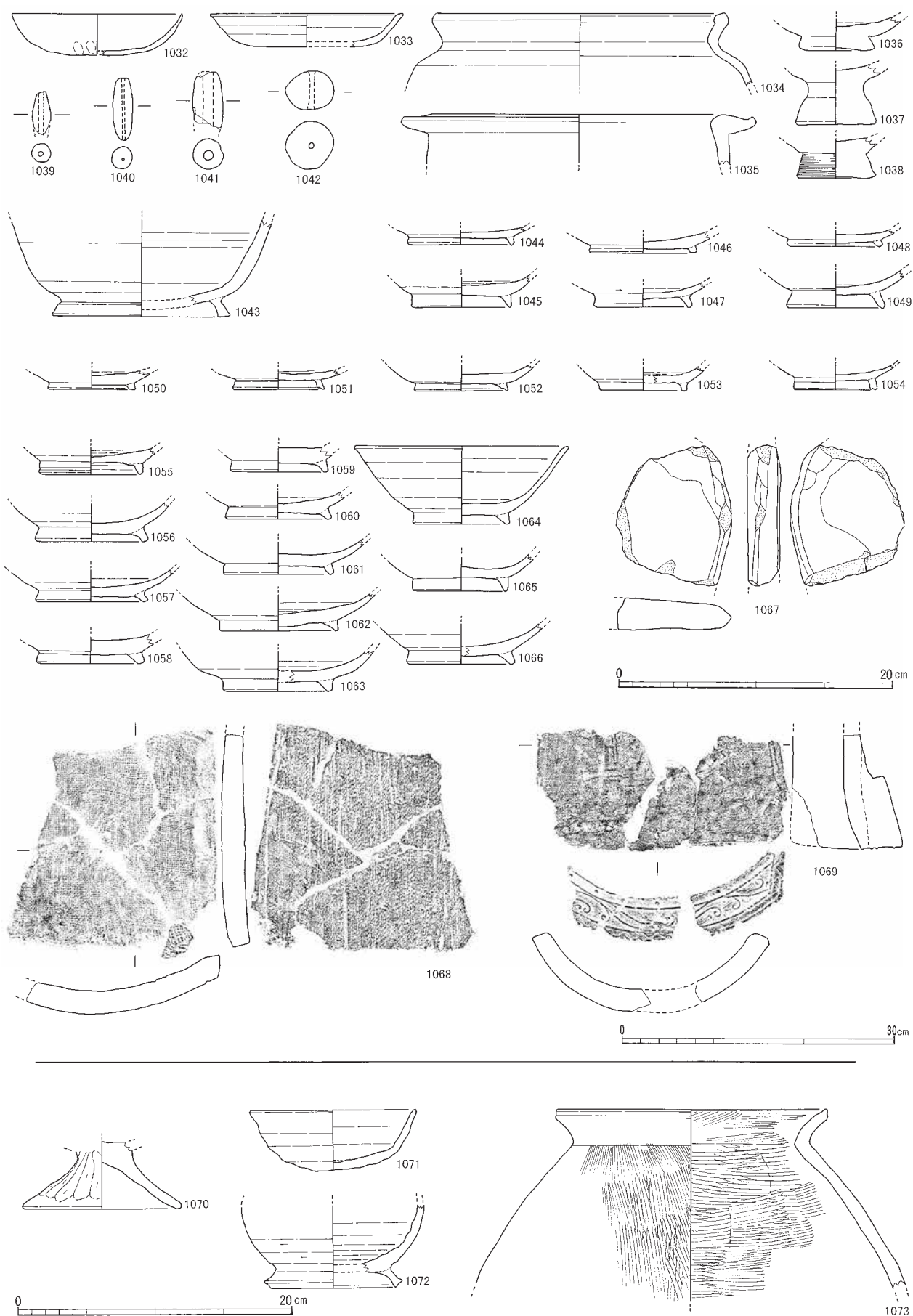
SD30の出土遺物は、土師器高杯(1166)・甕(1169)、須恵器杯蓋(1167)・杯身(1168)とサヌカイトの石鎌(1170)がある。

SD31の出土遺物は、須恵器蓋(1172)・横瓶口縁部(1171)、および滑石製紡錘車(1173)、サヌカイトの石鎌(1174・1175)がある。

SD32 G地区南端部を南西に流れる室町時代の溝である。調査区の端になり、南の肩が一部不明の部分もあるが、幅1.8mとしっかりしており、深さ15～20cmである。

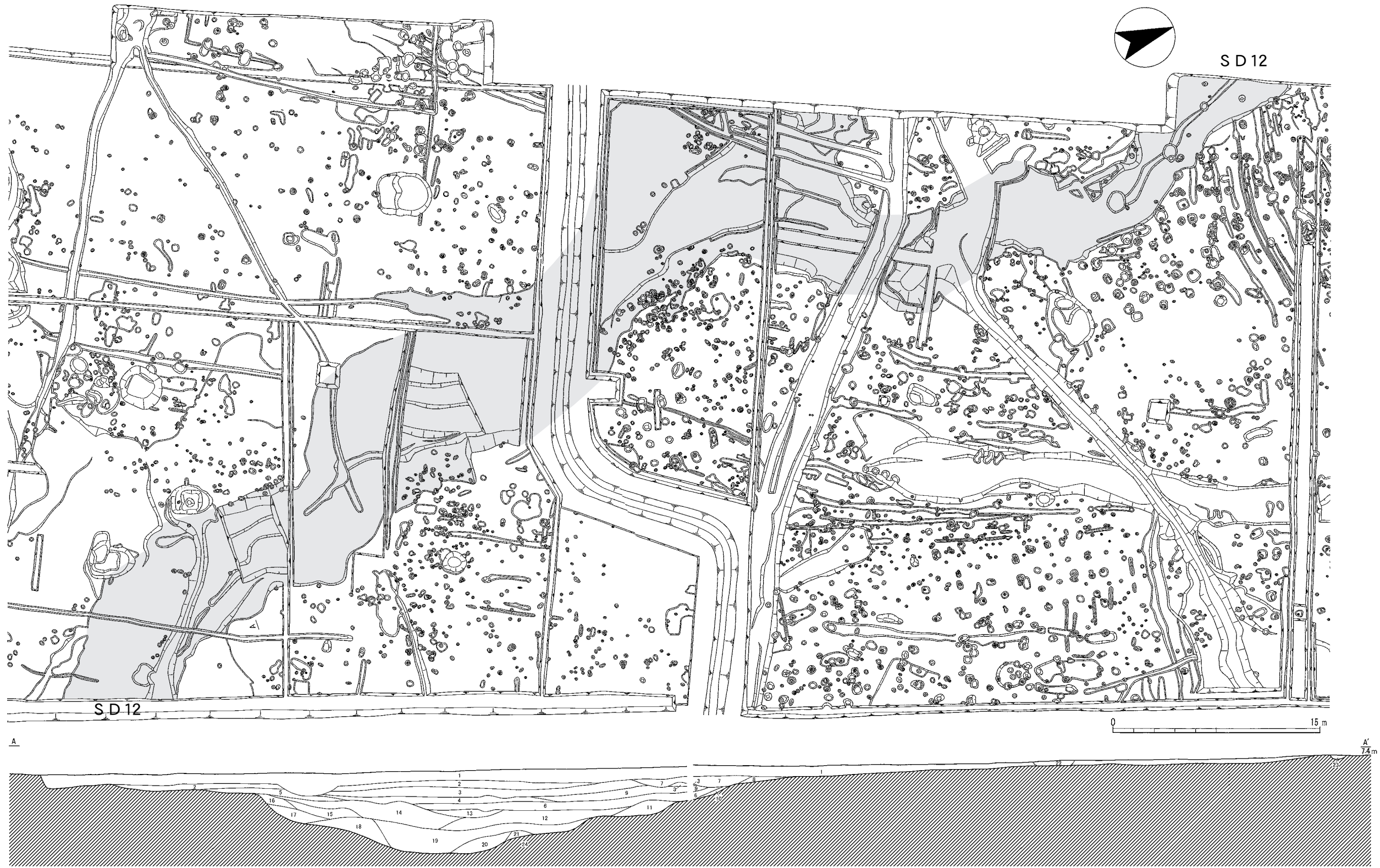
出土遺物は、土師器鍋(1176・1177)・羽釜(1178)、須恵器円面硯(1182)、灰釉陶器碗(1183～1185)、陶器山茶碗(1186～1188・1191)・小皿(1189・1190)・鉢(1192・1193)、陶器甕(1194～1197)・鉢(1198～1200)、銭(1201)、ガラス製白玉(1179)、石鎌(1180・1181)がある。1176・1177はともに南伊勢系の鍋で、伊藤分類で、それぞれ第3段階・第4段階にあたる。1176の内外面にはススが付着している。1194～1197の陶器甕4点と1198・1200の陶器鉢2点は、常滑製品で、1197の体部外面には、格子の押印文がある。1201の銭は2枚癒着しており、文字は不明である。石鎌は、1180がサヌカイト製、1181がチャート製である。

SD33 中世の毛無川の旧河道である。面積的にはH地区の南部分約6割を占める。河床部は東・中央・西の3本のトレンチ調査とした。東・西のトレ



第184図 SD11・14出土遺物実測図(1:4)、1068・1069(1:6)〔1032~1069; SD11、1070~1073; SD14〕

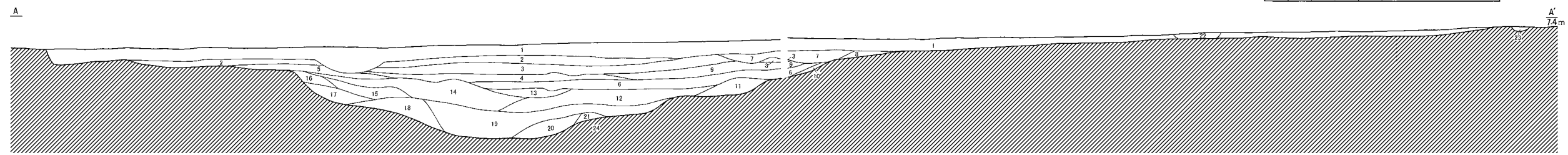




S D 12

S D 12

0 15 m



**上層**  
1 暗茶褐色土  
(奈良前後の遺物倉、上面で灰褐色系埋土の遺構に切られる)

**中層**  
2 やや暗茶を帯びた灰黒色 粘質土  
3 灰黒色 粘質土(黄灰色土粒混) かなり粘質  
4 灰黒色 細砂質粘質土 やや砂っぽい  
5 灰黒色 粘質土 3層と6層の中間的なもの  
6 明灰黒色 粘質土 やや白っぽく見える  
7 黒褐色土(黄褐色ブロック混) (遺構埋土)  
8 暗褐色土  
9 4層のやや粘質の強い層  
10 黒灰色 粘質土(黄褐色ブロック多含)

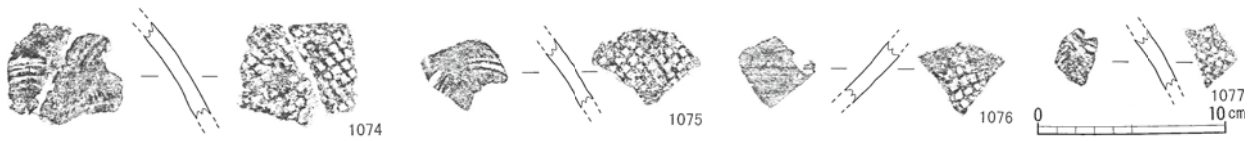
**下層**  
11 暗褐色土(黄褐色ブロック多含)  
12 暗褐色 砂質土  
13 暗褐色 細砂質土  
14 暗茶褐色土  
15 12層に同じ  
16 黒褐色 細砂質土(黄褐色土粒混)  
17 16層に同じ(黄褐色土粒なし)  
18 暗褐色 砂質土  
19 暗褐色 粗砂質土(よくしまる、砂粒3~7mmが中心)

20 暗褐色 砂質土  
21 暗黄褐色 砂質土

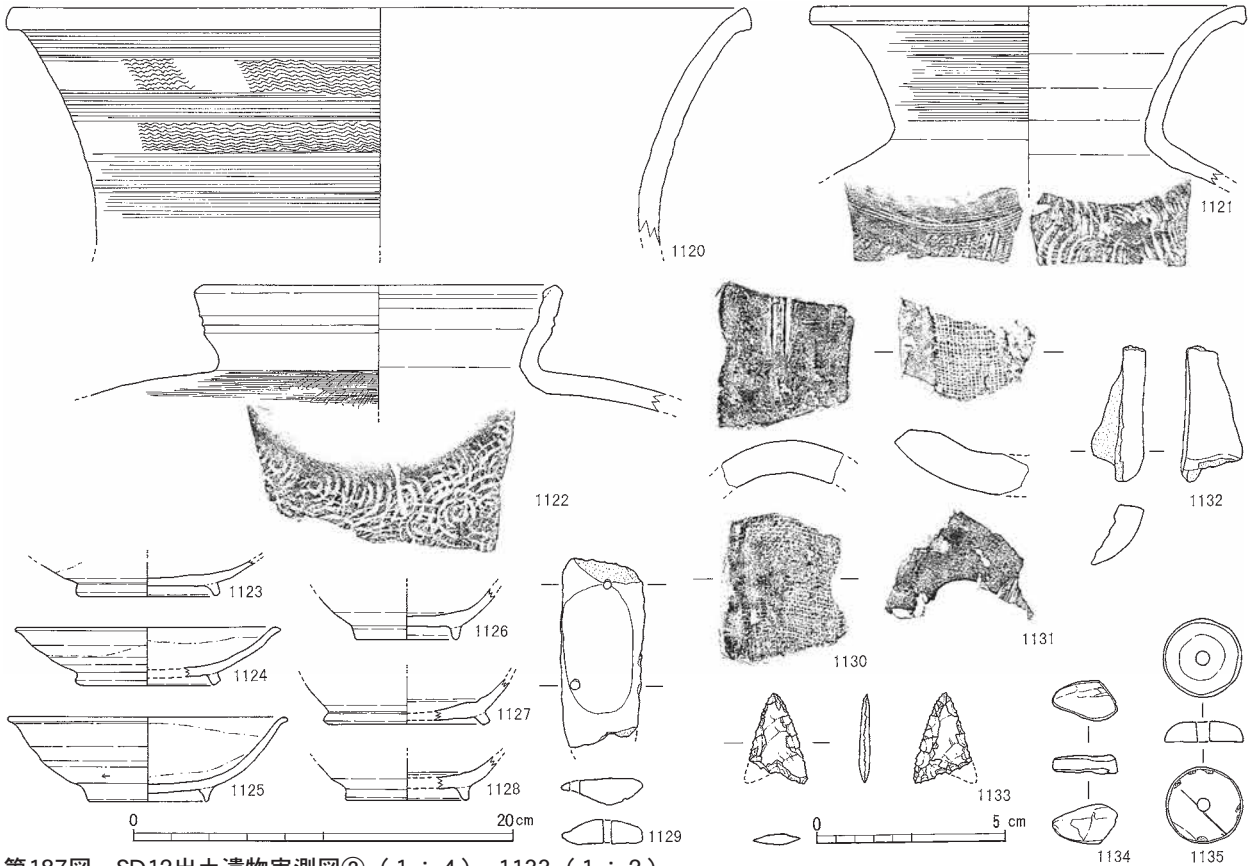
22 灰褐色土 [新しい溝埋土]  
23 灰褐色土 [新しい溝埋土]  
24 黄褐色 粘質土~淡青灰色粘質土[地山]

0 2 m

第185図 S D 12実測図 (1 : 300)、土層断面図 (1 : 50)



第186図 SD12出土遺物実測図①（1：4）



第187図 SD12出土遺物実測図②（1：4）、1133（1：2）

ンチは調査区南端まで掘削したが、旧河道の南肩は検出できなかった（図面はトレンチを埋め戻した状態）。検出面からの深さは約2mで、幅は40～60mと推測される。埋土は、大きく3層に分けられ、河床の地山はよくしまった白灰色砂礫である。なお、現毛無川は調査区のすぐ南を東に流れる。

出土遺物には、弥生時代から室町時代までのものがみられる。室町時代の遺物がより上層から出土している傾向にあり、この河道は、鎌倉から室町時代にしだいに埋没し、流路が南に移っていったものと思われる。

弥生土器には、壺(1202・1203)・高杯(1204)・甕(1205)がある。壺の口縁端部の面には羽状刻目1202や、波状文と円形浮文（2個一組）1203が施される。

土師器には、皿(1216～1222)・甕(1206～1211)・甕の台部(1212・1213)・高杯(1214・1215・1236)・羽釜(1223・1224)がある。皿は薄手で、内

面はナデ調整される。外面にはユビオサエの残るものもある。1208は、筒型甕と思われる。

須恵器には、杯身(1229～1231)・杯蓋(1225～1228)・高杯(1232)・鉢(1233)・甕(1234)・甕(1235・1237・1239)・甕(1238)がある。1234は、注口が隆起し、体部には沈線と刺突列点文が施される。1237は、外面タタキ調整され、内面には同心円文が残る。

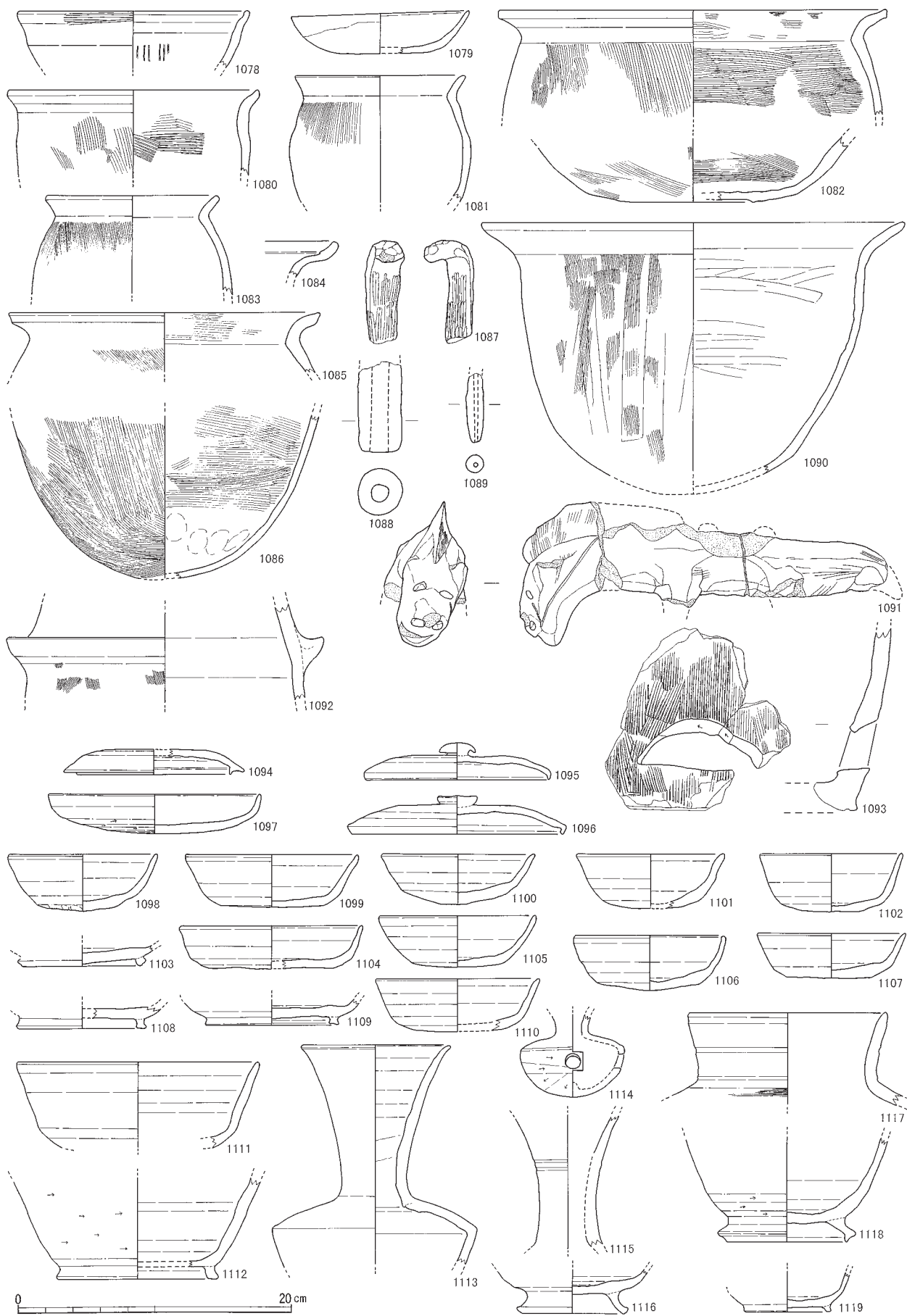
灰釉陶器には、皿(1241)・椀(1242)・壺(1243)がある。

陶器山茶椀には、小皿(1245)・椀(1246～1252・1254)・鉢(1253)がある。多くは、藤澤編年の第6型式にあたる。

陶器には、鉢(1255・1257・1258)・壺(1256)・常滑焼の甕(1259)がある。1259は、幅の広い縁帯を持っており、13世紀前半のものであろう。

この他、須恵質の円筒埴輪片(1240)、青磁椀(1244)、天目茶椀の底部を使った円形加工板(1260)、平瓦





第188図 SD12出土遺物実測図③ (1 : 4)



第189図 SD14~27実測図 (1 : 300)



第190図 SD28実測図（1：300）

(1261)、石製硯(1262)、石器未製品(1263)がある。

SD34 I-2で検出された。東西とも別の遺構によって切られており、検出した長さは5.7mである。検出長が短く、流れる方向は明らかでないが、南東方向と推定される。

出土遺物には、混入品とみられる須恵器杯身(1290)が1点あるが、中心は弥生時代である。壺口縁部(1288)と底部(1289)の2点を図化した。1288は、後期のもので、外面には、羽状刺突列点文が施される。

SD35 I-3地区の北端部で検出された。北東方向に流れる。最大幅は1.5mほどであるが、下流ほど狭く深くなる。

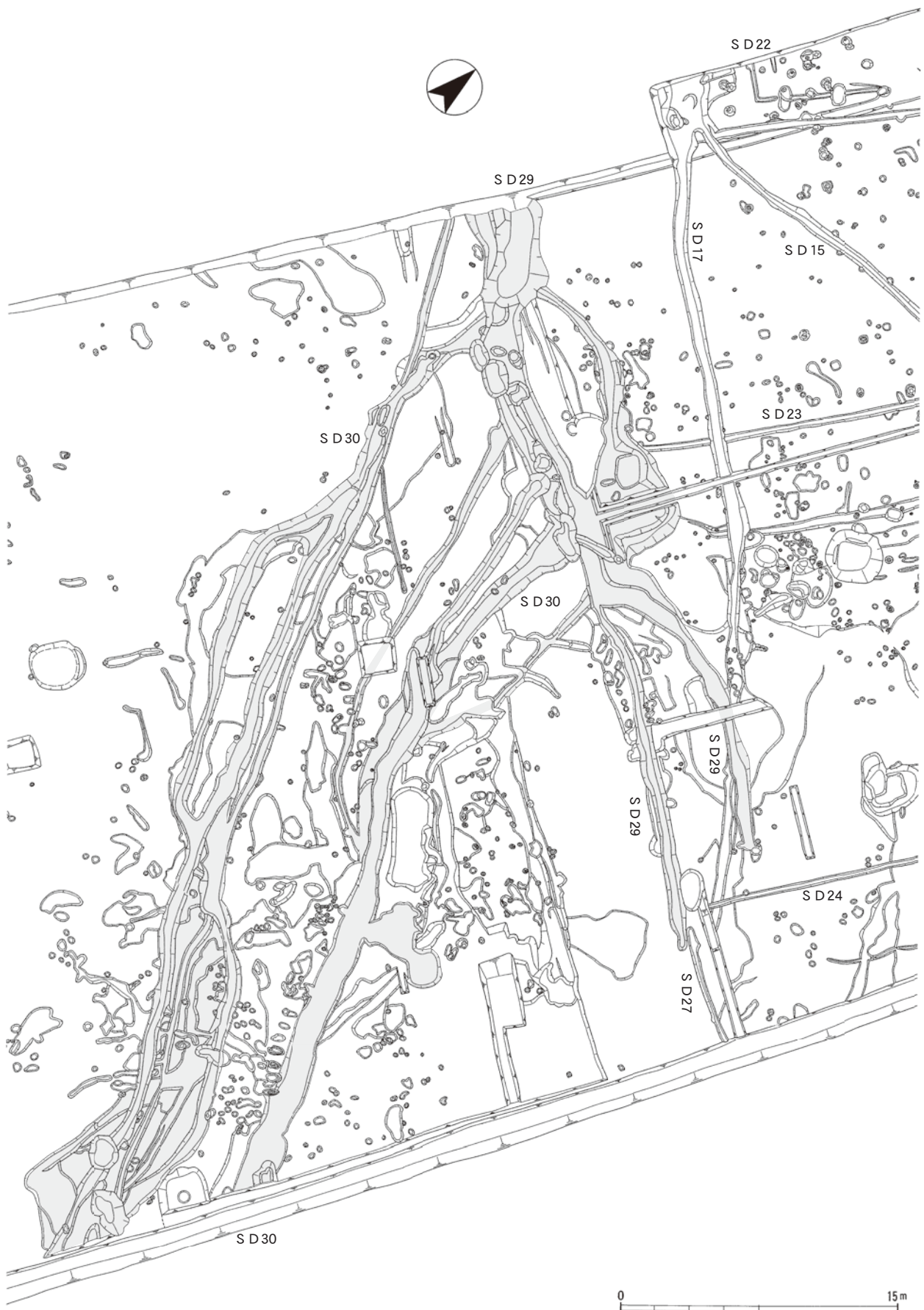
出土遺物は、灰釉陶器などがあり、平安時代後半が中心である。土師器には、皿(1291・1292)・椀(1293)・甕(1294～1298)がある。須恵器には杯身(1299・1300)がある。灰釉陶器には、皿(1302)と椀(1303～1309)がある。1302の底部内面には印刻花文が施される。猿投編年の折戸53号窯式に相当する。また、1305は輪花椀で他の椀に比べ口径が大きい。土鍾は筒状のもの5点(1311～1315)がある。その他、須恵質の円筒埴輪片(1301)と製塩土器(1310)が出土している。

SD36 I-3地区の北辺を緩やかに蛇行しながら南東方向に流れる。断面U字状のしっかりとした溝である。時期は飛鳥・奈良時代と考えられる。

出土遺物は、土師器と須恵器、および木簡である。土師器には、皿(1264・1265)・杯(1266)・甕(1267～1273)がある。1264の内面には放射暗文、1265の内面には格子暗文、1266の内面には螺旋と放射暗文が施される。須恵器には、杯蓋(1274・1275)・杯身(1276～1278・1281)・盤(1279・1280)・甕(1282～1284)・壺(1285・1286)がある。1286は、台付長頸壺である。

木簡(1287)は、溝の埋土上層(黒褐色粘質土)から出土した。相伴遺物には、土師器皿(1264)・須恵器杯身(1278)・須恵器盤(1280)がある。いずれも8世紀後半と考えられる。大きさは、長さ23.4cm、幅2.8cm、厚さ0.5cmで、表裏とも墨痕が認められる。表の面は、赤外線カメラを通して上端と下端近くに墨書痕が認められるが、判読はできなかった。全体に火を受けて炭化している。裏面は、下半が判読可能で、「□ □□□十□年十月七日□前東人」と読める。十の前には元号が、年の前には漢数字が入ると考えられ、数字に関しては「一」か「四」の可能性が高い。元号は、奈良時代後半に時期を限定すれば、



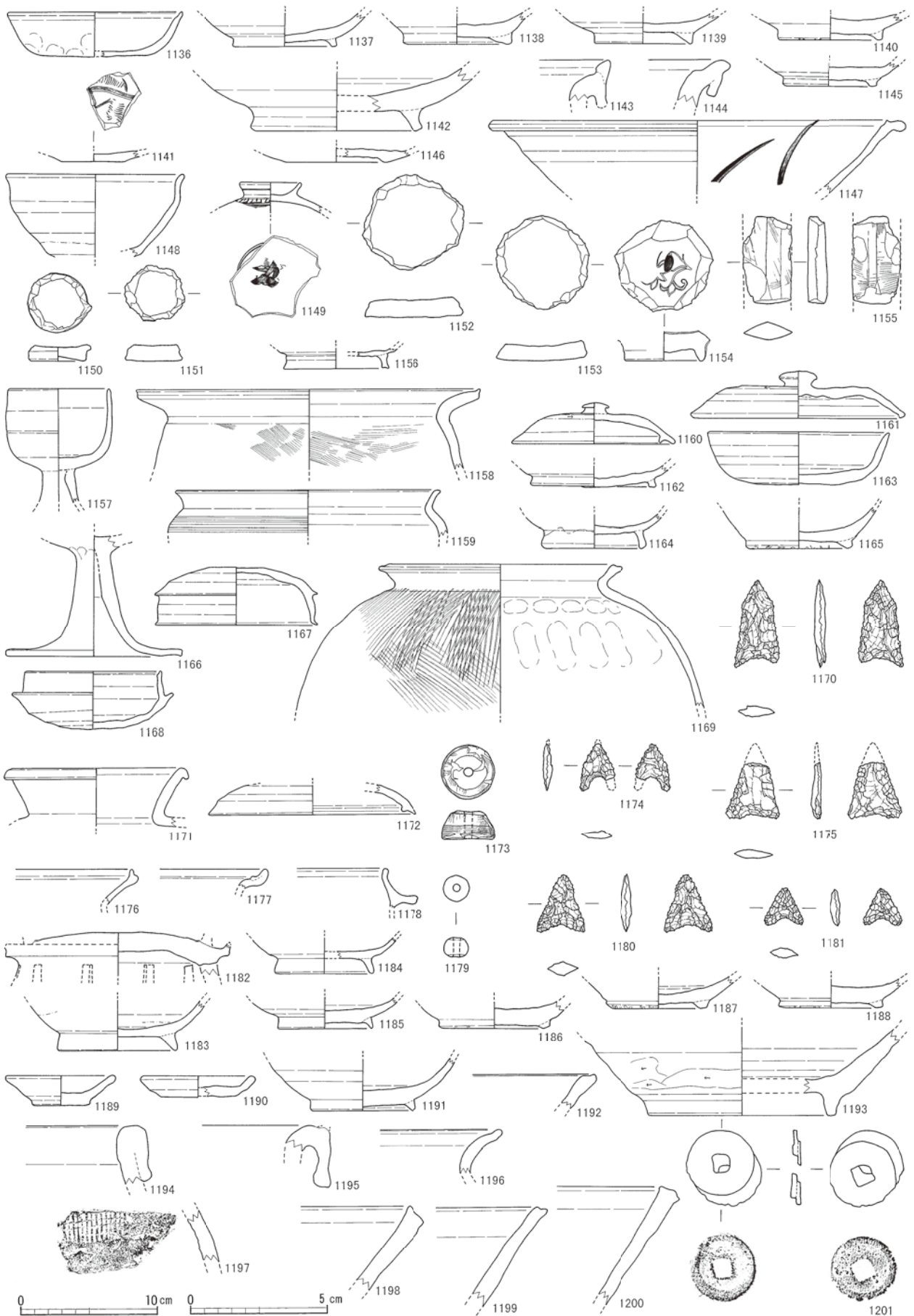


第191図 SD29・30実測図 (1 : 300)





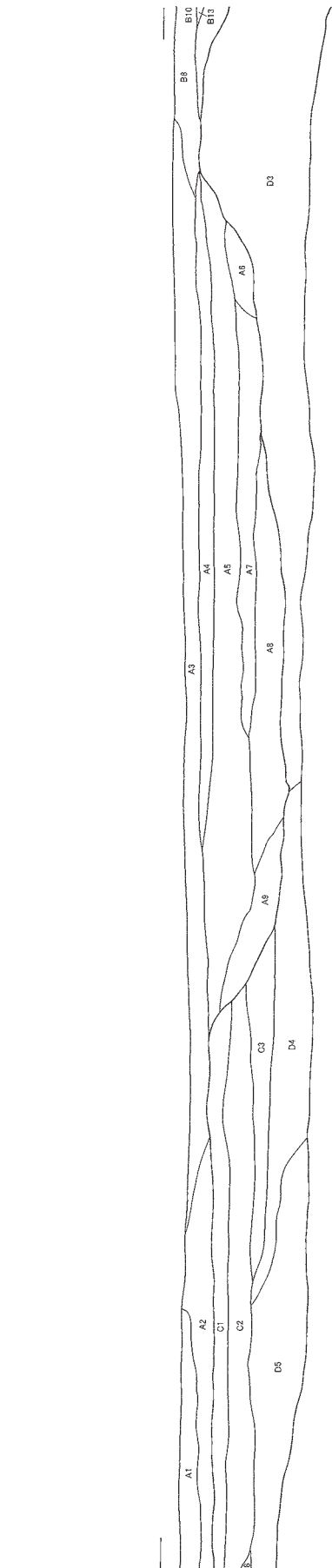
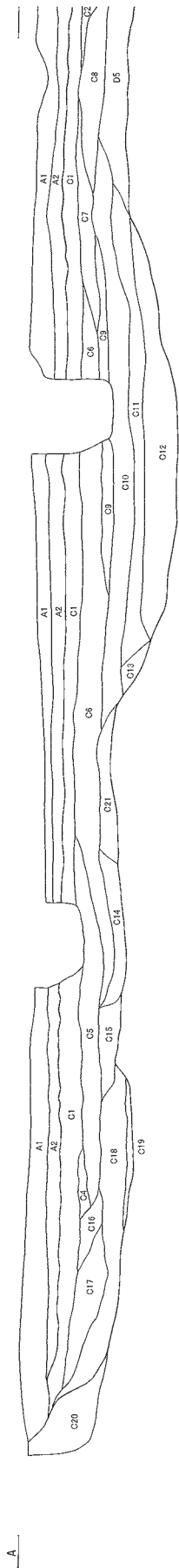
第192図 SD31・32実測図 (1 : 300)



第193图 SD13·17·28~32出土遺物実測図(1:4)、1170·1174·1175·1179~1181·1201(1:2)[1136~1155;SD13、1156;SD28、1157;SD17、1158~1165;SD29、1166~1170;SD30、1171~1175;SD31、1176~1201;SD32]



第194図 SD33実測図 (1 : 300)



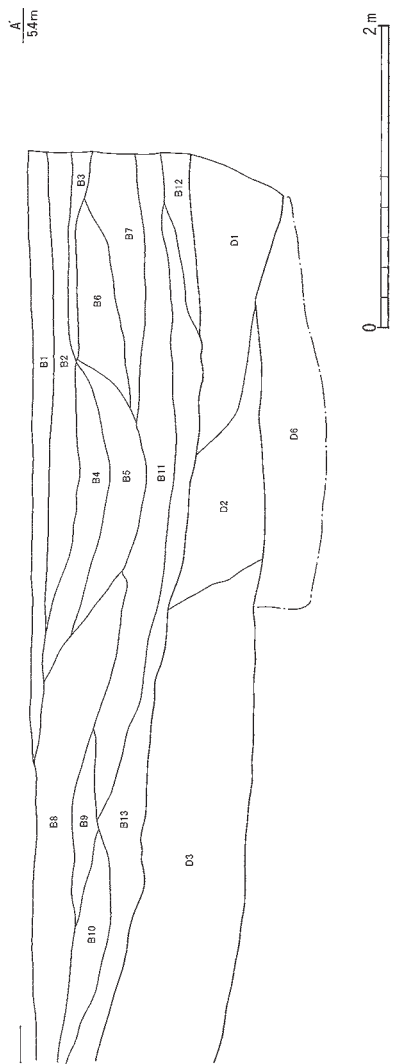
**第I層**

- A1 灰褐色粘土質シルト
- A2 黄褐色粘土質シルト
- A3 白褐色細砂をばさむ、腐食土含
- A4 赤褐色粘土質シルト
- A5 暗灰色シルト質粘土
- A6 黄褐色シルト質粘土
- A7 黄褐色粘土質シルト
- A8 黄褐色細砂
- A9 灰色粘土質シルト
- B1 褐色シルト
- B2 淡褐色細砂
- B3 淡褐色粗砂
- B4 白褐色粗砂
- B5 暗褐色粗砂
- B6 淡褐色粗砂
- B7 黄褐色粗砂
- B8 黄褐色粗砂
- B9 褐色粗砂
- B10 褐色粗砂
- B11 褐色粗砂
- B12 淡褐色粗砂
- B13 灰色粗砂(下部巨礫20cmφ含)

**第II層**

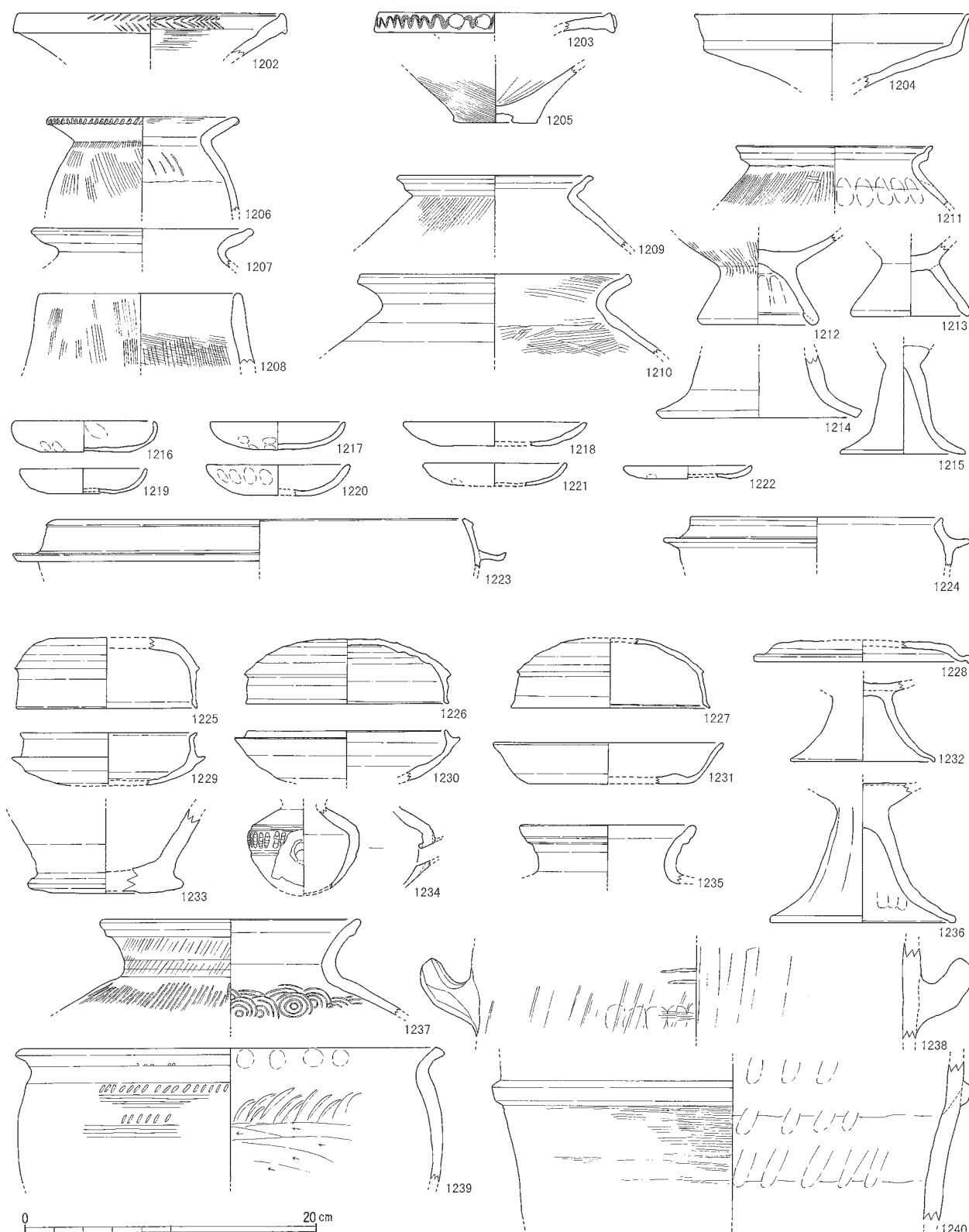
- C1 淡灰色粘土質シルト
- C2 白褐色細砂
- C3 (白灰色細砂をばさむ、腐食土含)
- C4 白褐色粗砂(小礫2~3cmφ含)
- C5 黒褐色シルト質粘土
- C6 淡灰色砂
- C7 黄褐色粗砂(小礫1~2cmφ含)
- C8 黄褐色細砂
- C9 黄褐色砂(小礫1~2cmφ含)
- C10 黄褐色粘土(腐食土含)
- C11 淡褐色細砂(腐食土含)
- C12 黄褐色シルト質粘土(腐食土・木含)
- C13 黄褐色粘土
- C14 黄褐色シルト質粘土(小礫1cmφ含)
- C15 黄褐色粗砂(小礫1~2cmφ含)
- C16 暗褐色シルト質粘土(腐食土含)
- C17 暗褐色粗砂
- C18 黄褐色粘土質シルト(腐食土含)
- C19 黄褐色粘土質シルト(小礫1~2cmφ含、黄褐色粗砂も混じる)
- C20 暗褐色シルト
- C21 黄褐色粗砂(小礫0.5~1cmφ含)

- D1 淡灰色粘土質シルト+黒褐色粘土質シルト
- D2 淡灰色粗砂(巨礫10cmφ含、腐食土含)
- D3 黄褐色粗砂(巨礫10cmφ含、腐食土含)
- D4 黄褐色粗砂(巨礫10cmφ含、腐食土含)
- D5 黄褐色粗砂(巨礫10cmφ含、腐食土含)
- D6 黄褐色粗砂(巨礫10cmφ含、腐食土含)



第195図 SD33中央トレンチ東壁土層断面図 (1:50)





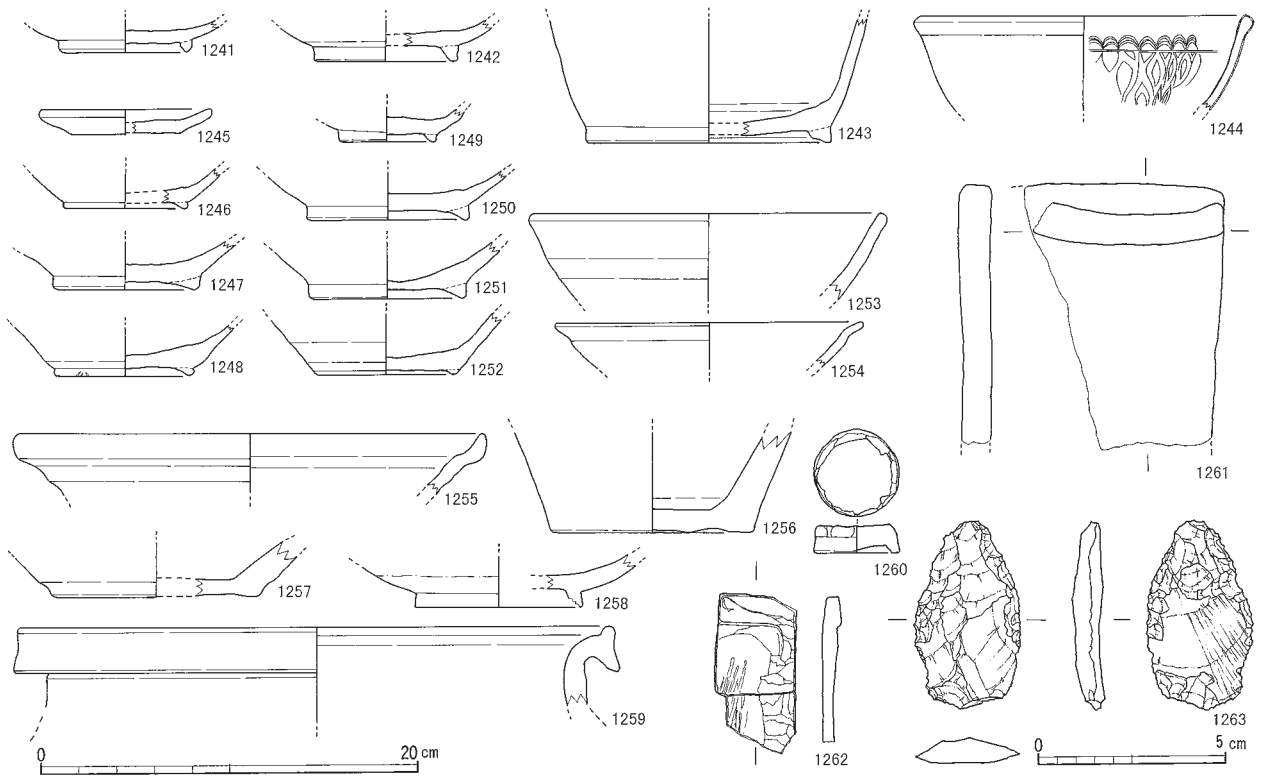
第196図 SD33出土遺物実測図①(1:4)

宝亀、延暦のいずれかで、宝亀11年、延暦11年、同14年が考えられるが断定には至らない。

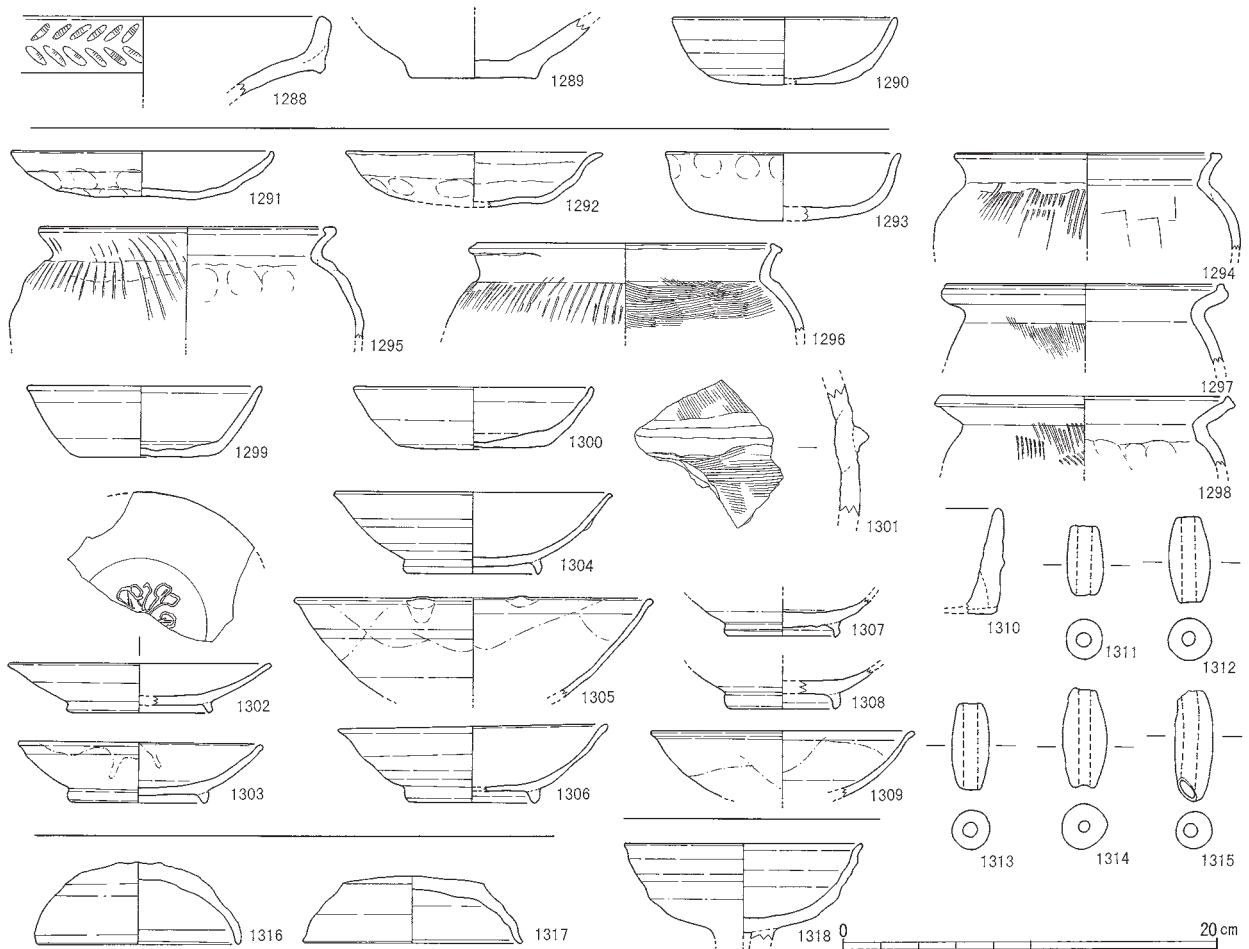
SD37 SD36のすぐ南で検出された。SD36と同様、飛鳥・奈良時代の溝で、南東に向かって流れると考えられる。両端をSD36に切られており、SD37が先

行する。SD36が蛇行するのに比べ、直線的で、規格性がうかがわれる。

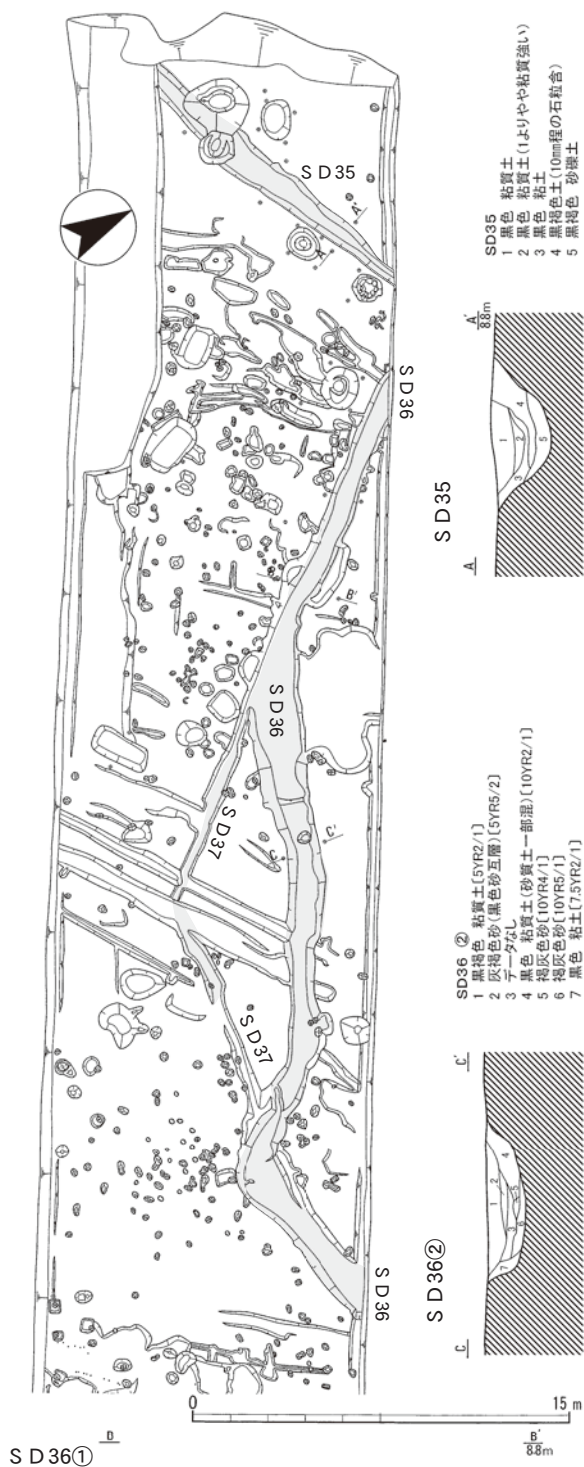
出土遺物には須恵器杯蓋2点(1316・1317)がある。いずれも、底部外面は、ヘラ切り未調整で、TK217窯式®に相当しよう。



第197図 SD33出土遺物実測図② (1 : 4)、1263 (1 : 2)

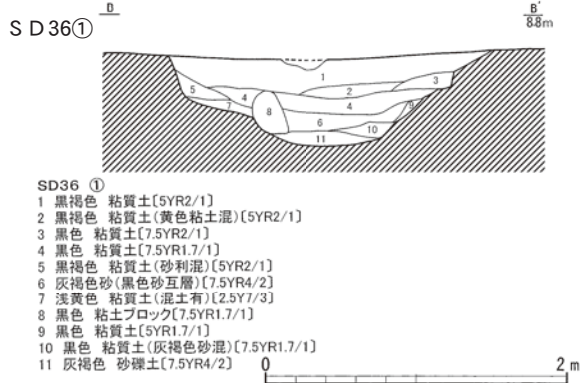


第198図 SD34・35・37出土遺物実測図 (1 : 4) [1288~1290 ; SD34、1291~1315 ; SD35、1316・1317 ; SD37、1318 ; SD16]



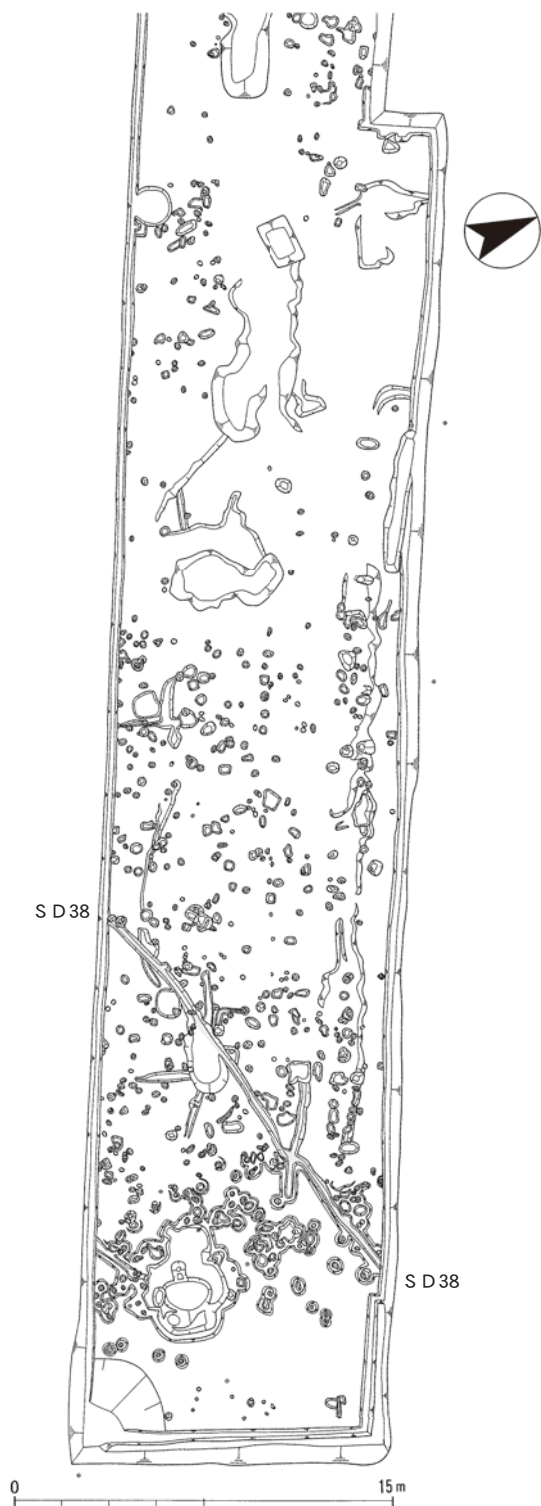
- SD35 粘質土  
 1 黒色 粘質土 (1よりやや粘質強い)  
 2 黒色 粘質土  
 3 黒色 粘土  
 4 黒褐色土 (10mm程の石を含む)  
 5 黒褐色 砂礫土

- SD36 ② 粘質土 [5YR2/1]  
 1 黒褐色 粘質土 (砂利混) [5YR2/1]  
 2 灰褐色 砂 (黒色砂互層) [5YR5/2]  
 3 テーグなし  
 4 黒色 粘質土 (砂質土一部混) [10YR2/1]  
 5 黒色 粘質土 [10YR4/1]  
 6 褐灰色 砂 [10YR5/1]  
 7 黒色 粘土 [7.5YR2/1]



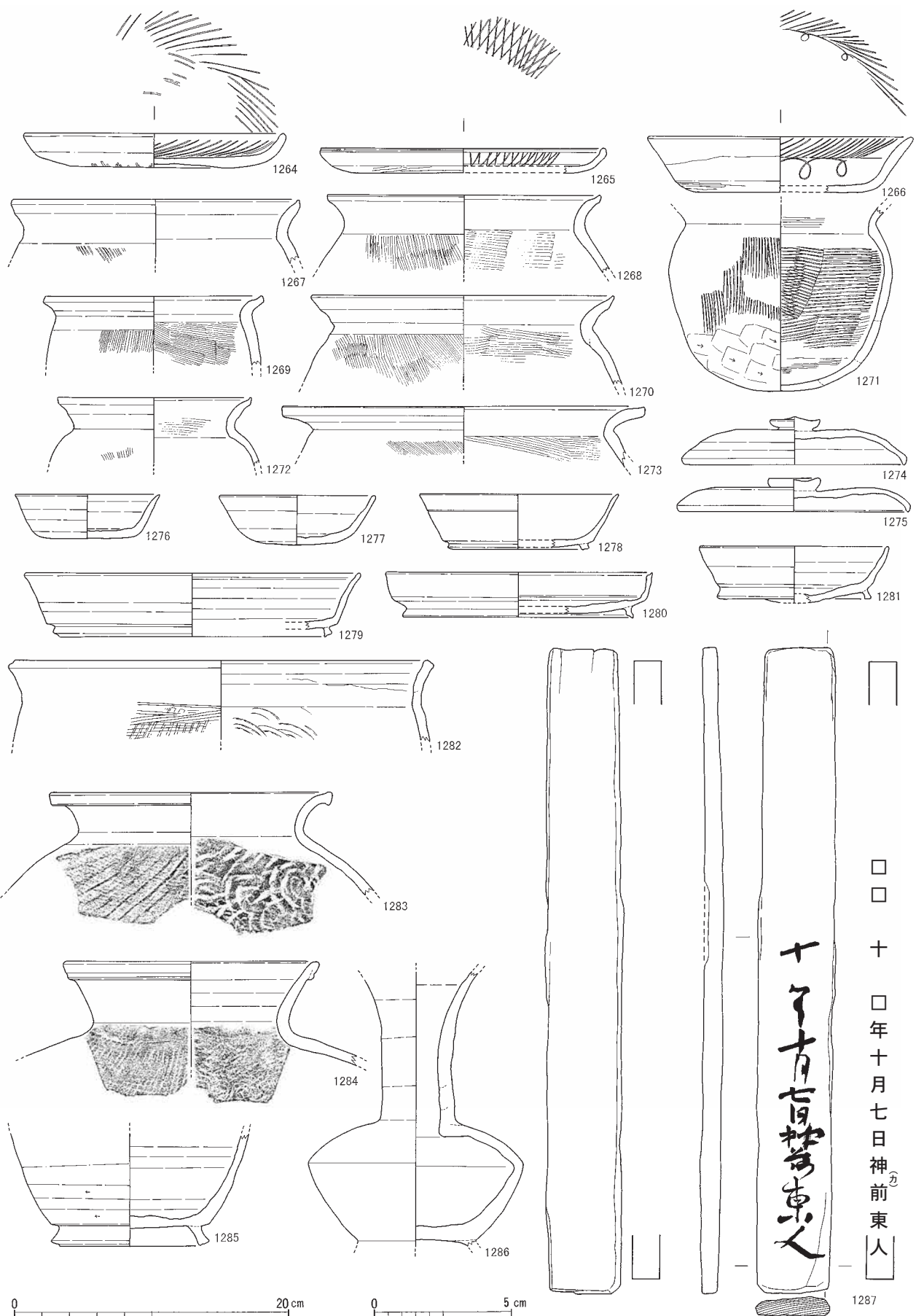
- SD36 ①  
 1 黒褐色 粘質土 [5YR2/1]  
 2 黒褐色 粘質土 (黄色粘土混) [5YR2/1]  
 3 黒色 粘質土 [7.5YR2/1]  
 4 黒色 粘質土 [7.5YR1.7/1]  
 5 黒褐色 粘質土 (砂利混) [5YR2/1]  
 6 灰褐色 砂 (黒色砂互層) [7.5YR4/2]  
 7 淡黄色 粘質土 (混土有) [2.5Y7/3]  
 8 黒色 粘土ブロック [7.5YR1.7/1]  
 9 黒色 粘質土 [5YR1.7/1]  
 10 黒色 粘質土 (灰褐色砂混) [7.5YR1.7/1]  
 11 灰褐色 砂礫土 [7.5YR4/2]

第199図 SD35～37実測図 (1:300)・  
 SD35・36土層断面図 (1:50)



第200図 SD38実測図 (1:300)

SD38 I-4地区の南部を東流する。図化遺物はないが、SD16と平行しており、時期も同様、飛鳥・奈良時代と推定される。



第201図 SD36出土遺物実測図 (1 : 4)、1287 (1 : 2)



註

- ① 植崎彰一・斎藤孝正「猿投窯編年の再検討について」『愛知県陶磁資料館研究紀要』2 愛知県陶磁資料館 1983

以下 猿投編年については、上記を参考とした。

- ② 藤澤良祐「瀬戸古窯址群Ⅰ」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』Ⅰ 瀬戸市民俗資料館 1982

以下 藤澤編年については、上記を参考とした。

- ③ 伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」『Mie history』vol.1 三重歴史文化研究会 1990

以下 伊藤分類については、上記を参考とした。

- ④ 横田賢二郎・森田勉「大宰府出土の中国輸入陶磁器について」『九州歴史資料館研究紀要』4 九州歴史資料館 1987

以下 大宰府編年については、上記を参考とした。

- ⑤ 赤羽一郎「常滑焼一中世窯の様相一」『考古学ライブラリー』23 ニューサイエンス社 1984

- ⑥ 浅生悦生ほか「V. 太田遺跡」『一般国道23号中勢道路（9工区）建設事業に伴う 松ノ木遺跡・森山東遺跡・太田遺跡発掘調査報告』 三重県埋蔵文化財センター 1993

- ⑦ 萱室康光ほか『安養院跡発掘調査報告』津市教育委員会 1990

- ⑧ 小笠原好彦「土馬考」『物質文化』25 1975

- ⑨ 田辺昭三『陶邑古窯址群』平安考古学クラブ 1966

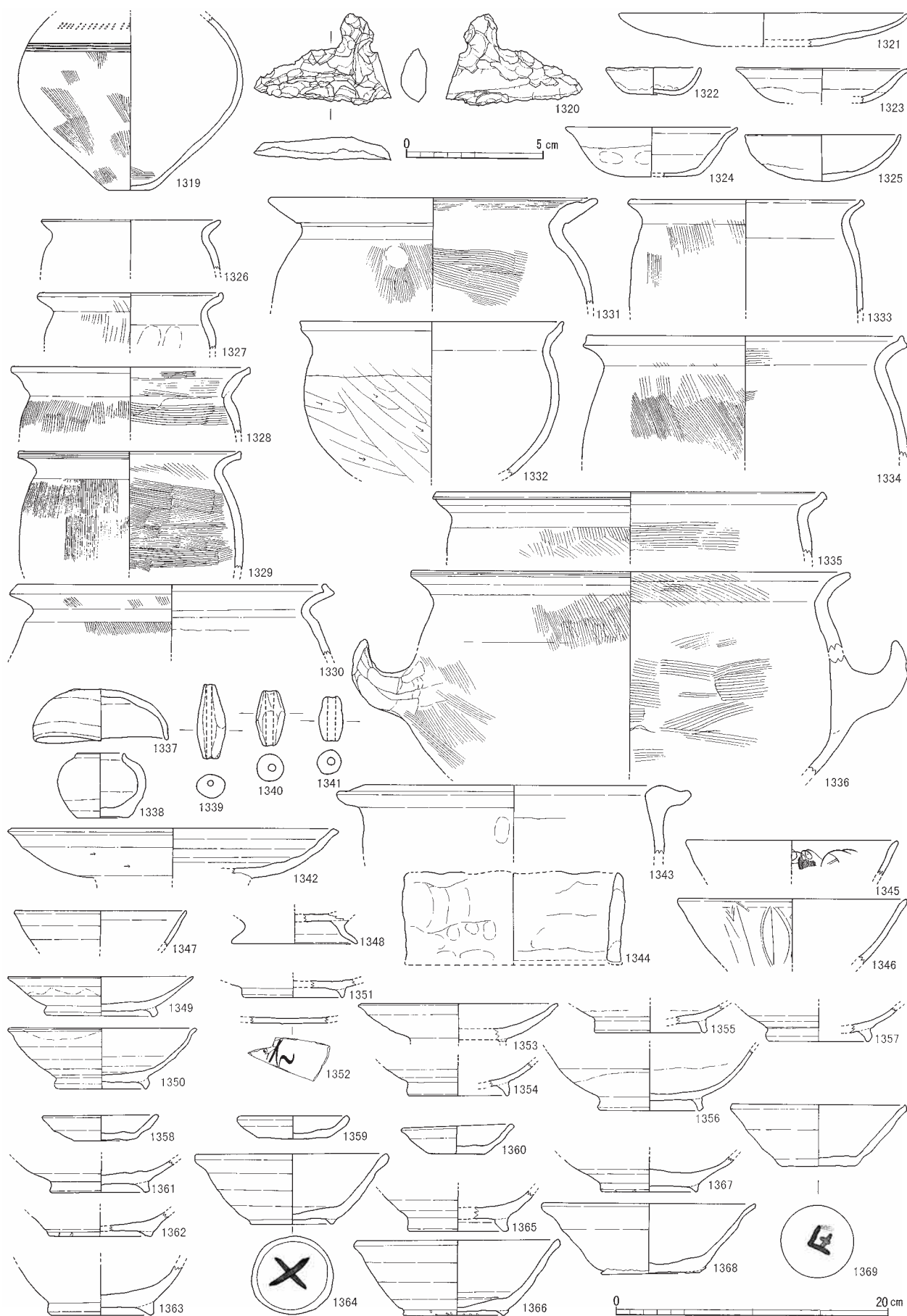
## (8) P i t ・ 包含層出土遺物

P i t ・ 包含層出土遺物には弥生土器・土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・石製品・土製品・銭貨など多様な遺物がある。詳細は遺物観察表に表記している。ここでは主な遺物について記述する。

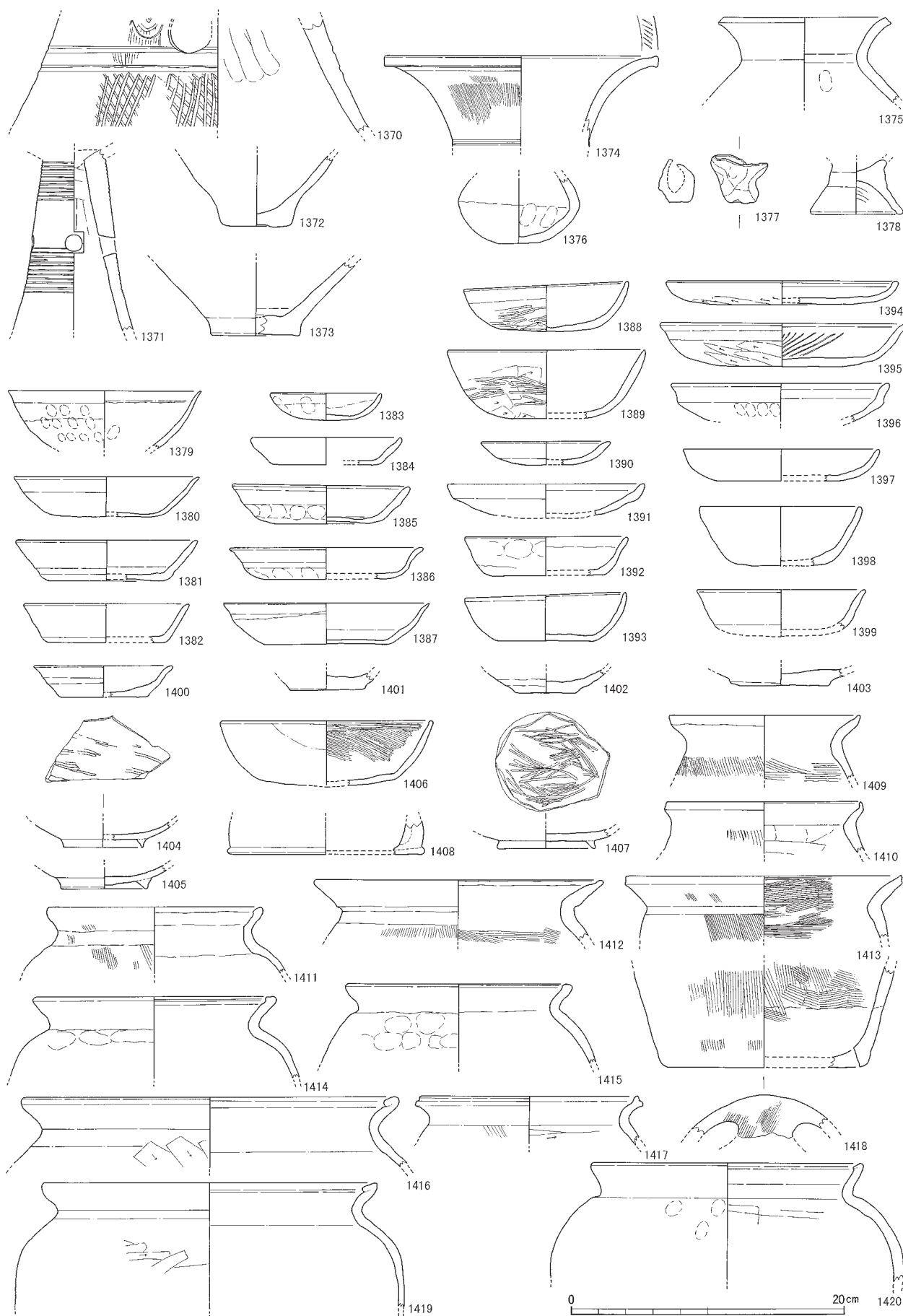
石帯（1494）は、E地区の包含層から出土した。遺構に伴うものではないが、建物群に隣接した場所から出土しており、これらに関連するものと考えられる。黒色の巡方で、縦幅4.2cm、横幅4.25cm、厚さ0.73cmである。下半分に長方形の透かし穴を持ち、表面と周縁は丁寧に研磨され、稜の部分も面取りされている。裏面の四隅には装着用潜穴が透かし穴と直交する方向に2孔1対で設けられている。

和銅開珎銀錢(1496)はE地区の包含層掘削後、遺構検出中に単独で出土したもので、遺構に伴うものではない。河芸町千里ヶ丘遺跡、明和町上村神社遺跡、鳥羽市奈佐遺跡に次いで県内で4例目の出土となる。「開」の門構えが楷書体であることから不隸開和銅錢と呼ばれ、小字に分類される。全体に黒褐色の錆に覆われ、表面が外縁・内郭・文字とも比較的明瞭なのに対して、裏面は外縁・内郭ともに不明瞭である。どのような経緯で当地域にもたらされたかは不明であるが、当時の貨幣流通を考えるうえで興味深い。

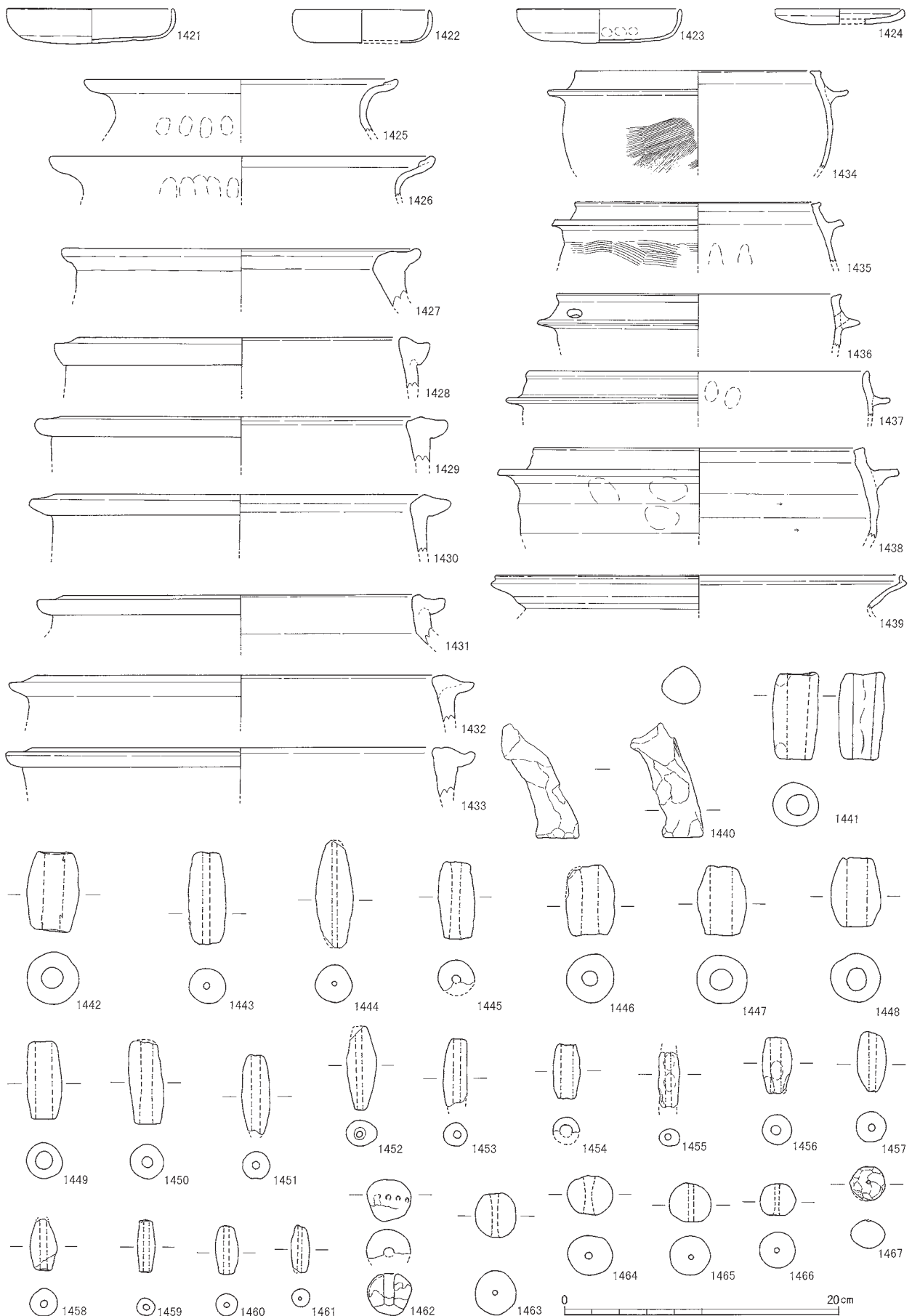
当遺跡の平安時代を特徴づける遺物として緑釉陶器がある。P i t および包含層出土のもので凶化できたものは(1347・1497～1539)である。遺跡全体では破片を含め、約670点の緑釉陶器が出土している。そのうち約7割がD・E地区から集中して出土している。当遺跡での出土数は県内では斎宮跡に次ぐものである。大半は椀・皿類で、その他には瓶類がわずかにあるにすぎない。産地は山城・近江・美濃・尾張などのものがみられる。また、緑釉緑彩陶器(1508・1533・1539)もみられる。



第202図 Pit 出土遺物実測図 (1:4)、1320 (1:2)

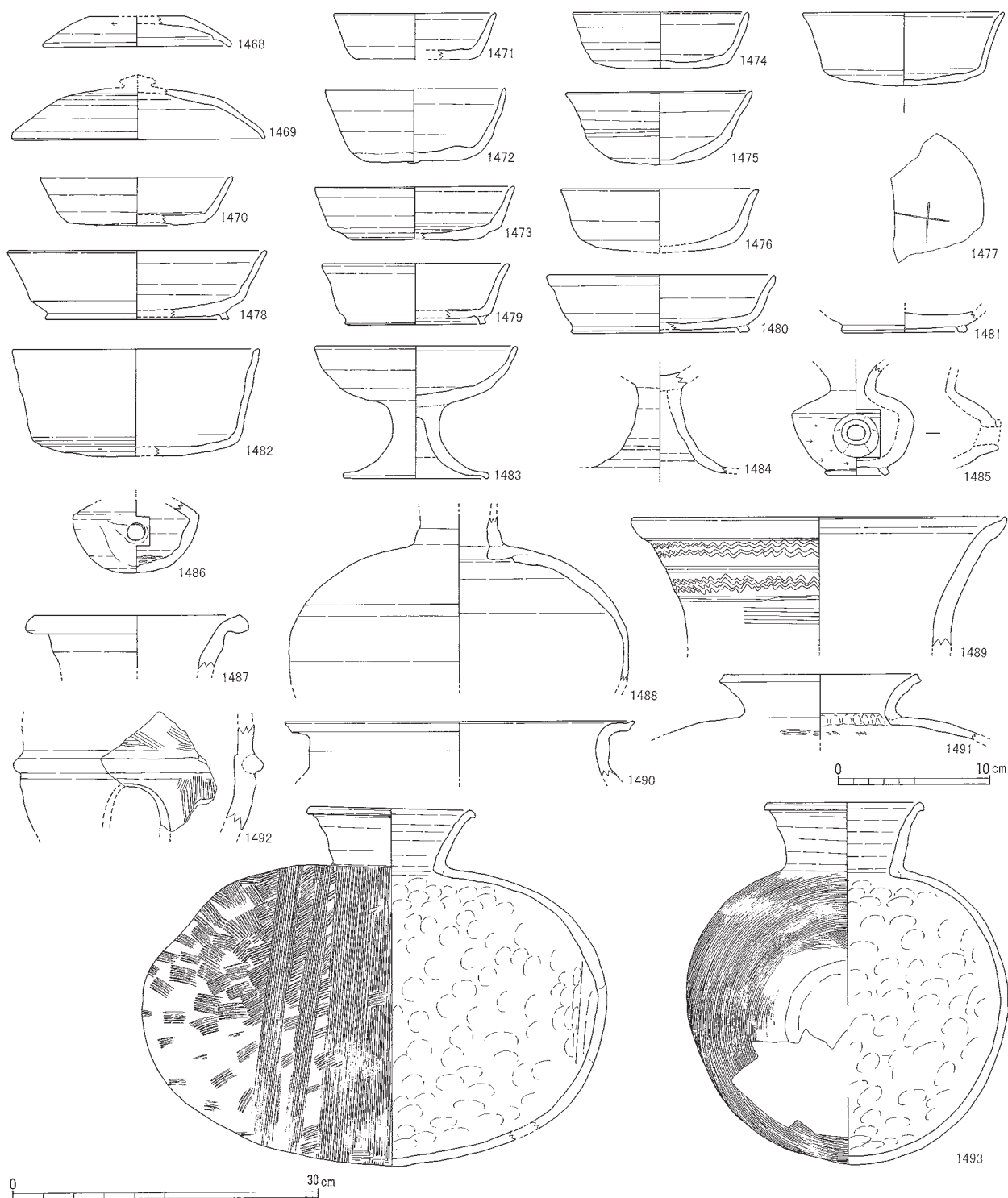


第203図 包含層出土遺物実測図①土師器 (1 : 4)

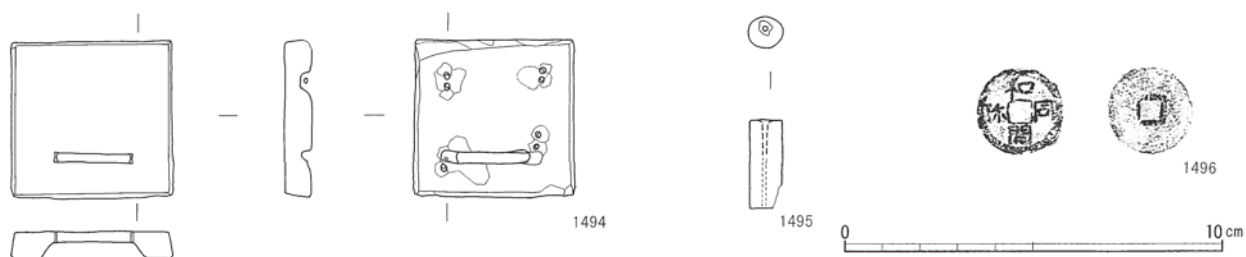


第204図 包含層出土遺物実測図②土師器・土製品 (1:4)

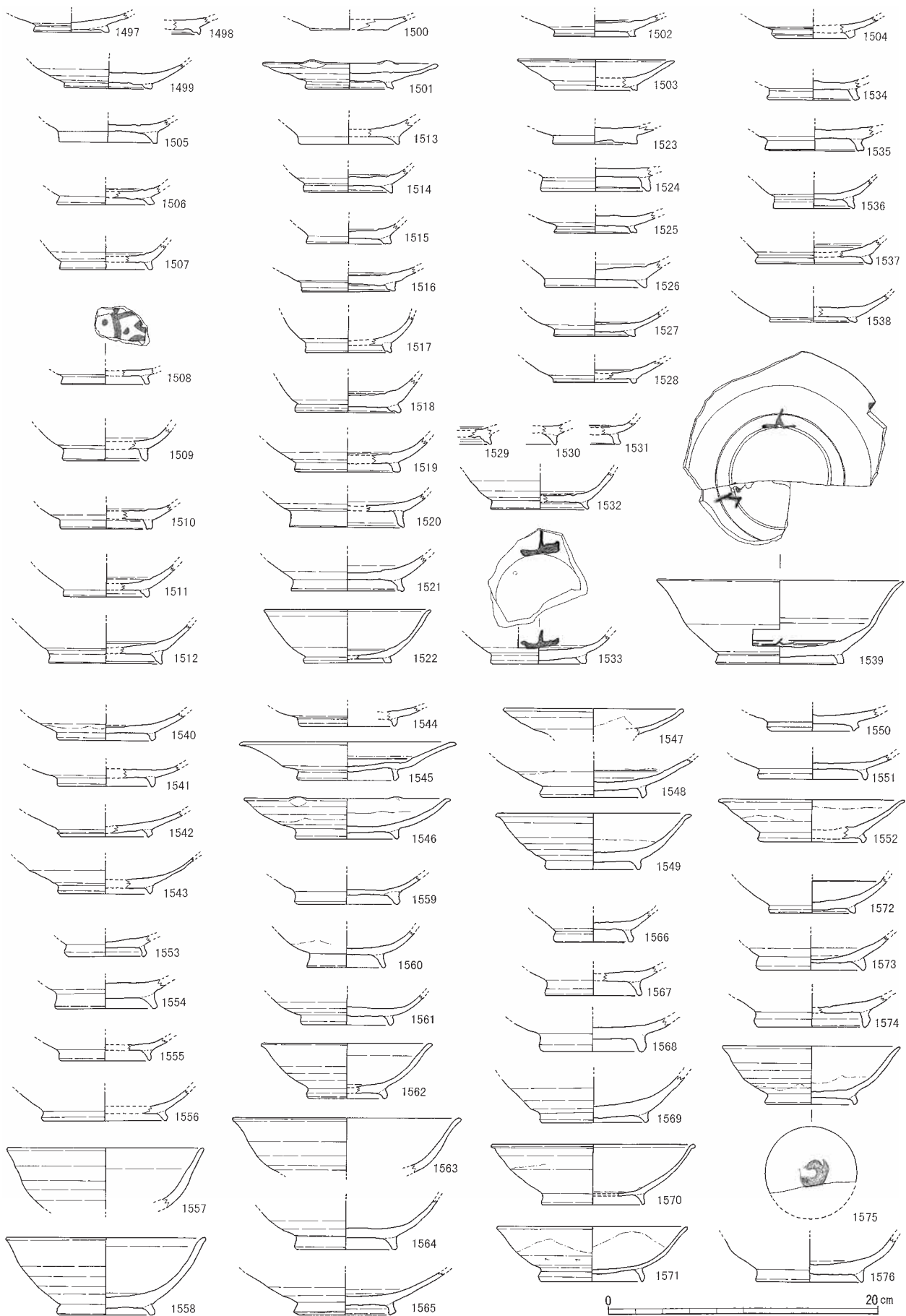




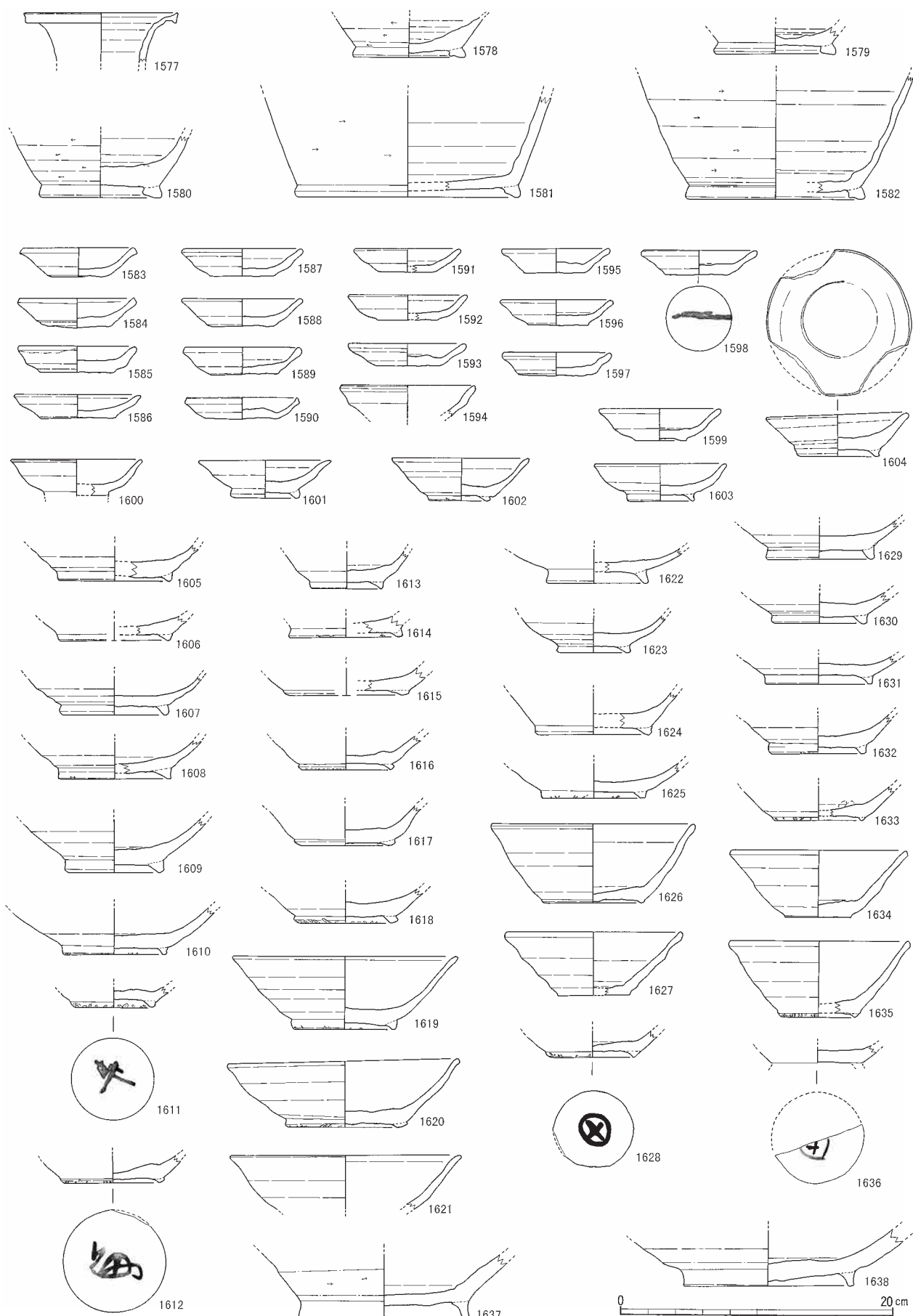
第205図 包含層出土遺物実測図③須恵器 (1 : 4)、1493 (1 : 6)



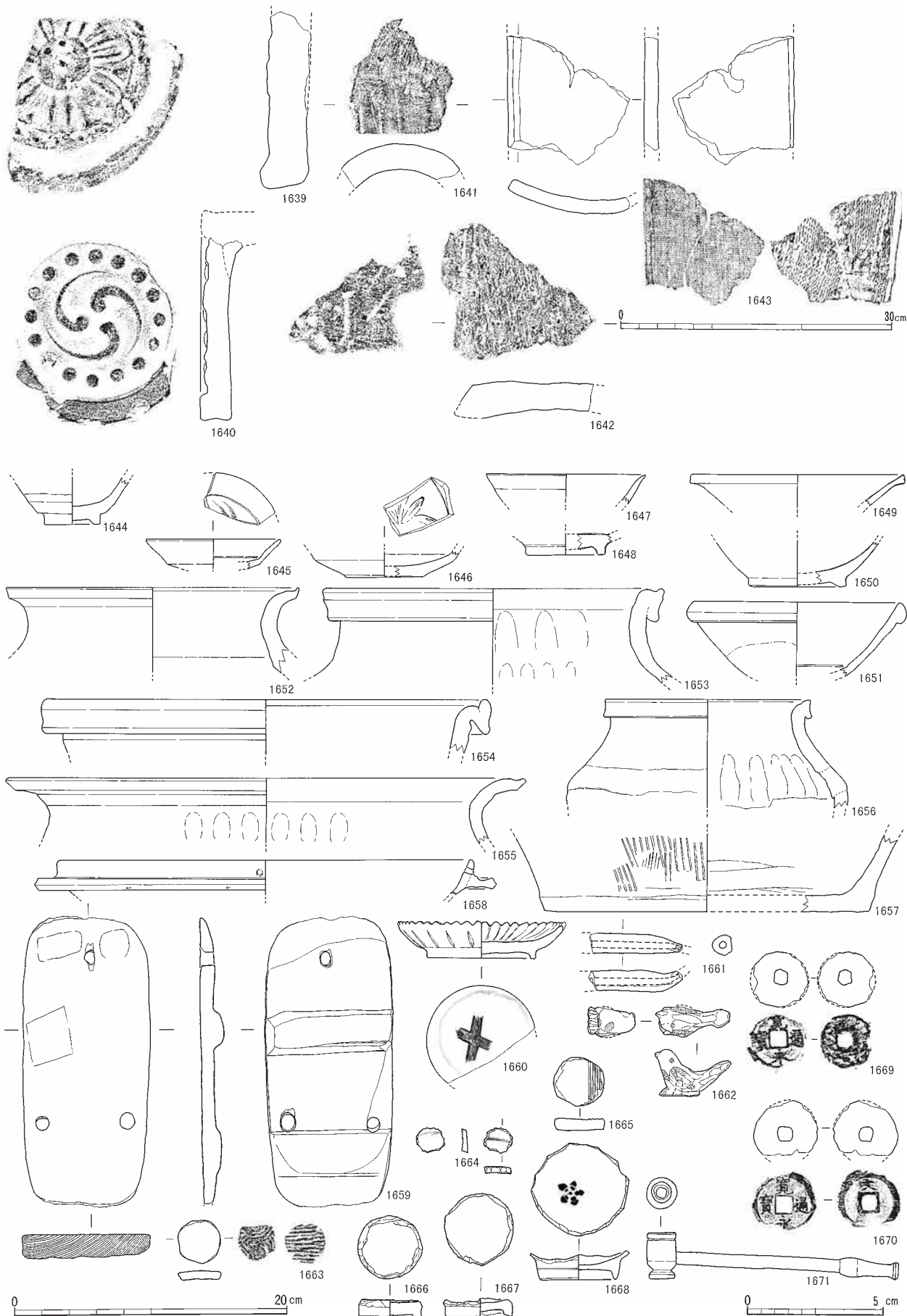
第206図 包含層出土遺物実測図④石帯・管玉・和銅開珎 (1 : 2)



第207図 包含層出土遺物実測図⑤緑釉陶器 (1 : 4)



第208图 包含層出土遺物実測図⑥灰釉陶器・山茶碗 (1 : 4)



第209图 包含層出土遺物実測図⑦瓦・青磁・白磁・陶器ほか 1639~1643(1:6)、1644~1668(1:4)、1669~1671(1:2)



## IV 結語

### 1 遺構

ここでは、掘立柱建物の変遷についてまとめることとする。

#### 飛鳥時代～奈良時代

この時期の建物はC・F・I地区で検出されている。C地区の掘立柱建物群は大きく、方向に規則性があるのに対して、F地区の建物群は規模が小さく方向に規則性もみられない。I-3地区で検出された総柱建物SB85・86は隣接するF地区の建物に付随する倉庫の可能性はある。

#### 平安時代

C地区の掘立柱建物は条里の方向に乗る特徴を示し、平安時代前期まで存続するが、その後D・E地区に移動したものと想定される。D・E地区では建物がかかなり重複しており、同一場所で何度も建て替えられ、建物群の占地範囲が平安時代を通じて大きく変化しなかった結果と想定される。

また、SB45が主屋、SB46・47が副屋と考えられる逆L字形の計画的配置の建物群は、緑釉緑彩・印刻花文陶器を含む大量の緑釉陶器や墨書土器などの出土とともに、六大B遺跡の性格を考えるうえで重要である。おそらく、地方の富豪層の居館もしくは下級官衙が想定される。

### 2 遺物

総数30個体前後の土器が出土し、27個体が図化可能であったSK3出土遺物についてまとめておく。土坑出土の一括遺物として弥生時代後期前半の貴重な資料である。

長頸壺(285)は体部高と口頸部高がほぼ同じもので、口頸部は端部で少し外反し、体部はイチジク形である。全体に器壁が薄く、底部も非常に薄い。琵琶湖周辺・近江の南部型土器群の搬入品の可能性がある。壺には受口状口縁の広口壺(282)も残存している。また、この土坑出土の甕は2/3以上が受口状口縁の甕であるが、大きくは口縁部が内傾し、端部内面に面をもつもの(296・297)、口縁部が直

立し端部上面に面をもつ(291)、直立するが端部のみ内傾する(294)などに分かれる。頸部に近い体部上半に直線文や刺突列点文、体部最大径付近に直線文、その下に連弧文を施す。甕にはハケ調整を主体として加飾が少なく、器壁のやや厚い口縁部がくの字に折れる(301)なども若干みられる。高杯(302)は内外面ともヘラミガキ調整をするもので、口縁端部が外反する。このことから、一部には後期初頭のやや古い様相を示すものの、それより一時期下る資料群と考えた。

### 3 総括

六大B遺跡では平成2年から4年にかけてB地区からI地区の発掘調査を行い、平成8年から断続的に報告書作成を行ってきた。A地区については平成5年・6年で発掘調査を行い、平成11年2月に報告書を刊行した。今回を含めこれらの報告書により、「和名抄」記載の「窪田郷」に比定されているこの地の解明の一助になれば幸いである。

報告書 番号	地区	調査時	概報番号	掘形平面形	規模(m)		主な遺物	時期	図版番号		備考
					平面	深さ			遺構	遺物	
SE1	B	井戸13	井戸13	楕円	1.4×1.2	0.7	土師器皿、土師器鍋	室町	52	53	
SE2	C	井戸8	井戸8	方	1.9×1.8	1.1	土師器皿・杯・甕、黒色土器、灰釉陶器	平安前半	56	57	SD3より新
SE3	C	井戸7	井戸7	円	1.0×1.0	0.7	曲物底板	鎌倉	54	55	山茶碗片
SE4	C	井戸6	井戸6	楕円	2.8×2.6	1.9	土師器皿・鍋、山茶碗小皿・碗・鉢	鎌倉	62	62	石組
SE5	C	井戸5	井戸5	円	1.6×1.6	1.8	土師器皿・甕、灰釉陶器	平安後半	58	59	底に曲物
SE6	C	井戸14	井戸14	楕円	1.2×0.9	0.5	凶化遺物なし	平安後半	60		
SE7	C	井戸16	井戸16	円	1.1×0.9	1.0	土師器鍋、山茶碗	平安後半	61	61	
SE8	C	井戸15	井戸15	楕円	2.6×1.9	1.3	曲物底板、土師器皿・鍋、山茶碗、白磁	鎌倉	63	64・65	
SE9	D	井戸4	井戸4	円	1.3×1.3	1.3	山茶碗、横櫛	鎌倉	73	74	木製井戸枠
SE10	D	井戸3	井戸3	円	1.1×1.1	0.7	土師器皿、山茶碗、木製箱(底板)	鎌倉	66	67	
SE11	D	井戸10	井戸10	楕円?	2.4×2.0	1.6	須恵器杯・壺・壺、土師器甕	飛鳥～奈良	68	69	
SE12	D	井戸9	井戸9	方?	2.9×2.6	1.6	土師器皿・杯、土鍾、黒色土器、灰釉陶器、緑釉陶器	平安後半	70	71・72	木製井戸枠
SE13	D	井戸117	井戸117	円	1.3×1.2	—	山茶碗	鎌倉	75	76	
SE14	D	井戸2	井戸2	円	1.5×1.5	2.0	土師器、ロクロ土師器、山茶碗、灰釉陶器、緑釉陶器	平安後半	77	78	
SE15	E	H-K13土坑1	—	円?	1.9×1.7	1.0	灰釉陶器	平安前半	79	80	
SE16	G	井戸510	井戸510	方?	3.0×2.7	—	陶器、磁器、銭貨	近世	81	82	
SE17	G	井戸511	井戸511	方	2.8×?	—	瓦質土器、陶器播鉢	近世	83	87	陶器井戸枠
SE18	G	井戸512	井戸512	方	3.0×2.5	—	曲物底板、砥石	近世	84	85・86	陶器井戸枠
SE19	G	井戸513	井戸513	方	2.9×2.7	—	凶化遺物なし	近世	88		
SE20	I-2	—	井戸8	円	1.3×1.2	2.3	凶化遺物なし	室町	92		山茶碗 藤澤第6型式
SE21	I-3	SK2	井戸3	楕円	2.7×2.2	1.5	土師器皿・鍋、山茶碗小皿・碗、白磁、土鍾、曲物、球状木製品、木札状木製品	鎌倉	93	94・95	
SE22	I-3	SE5	井戸5	楕円	1.4×1.2	1.0	陶器甕、土鍾	鎌倉	89	90	
SE23	I-3	SE4	井戸6	楕円	1.2×1.1	1.0	陶器甕	室町	96	91	石組
SE24	I-3	SK8	井戸7	楕円	1.6×1.5	1.3	山茶碗、陶器壺、勾玉、曲物、紡織具、鎌の柄	鎌倉	97	98	

報告書 番号	地区	調査時	概報番号	掘形平面形	規模(m)		主な出土遺物	時期	図版番号		備考
					平面	深さ			遺構	遺物	
SK1	B	井戸11	土坑56	楕円形	1.3×1.0	0.6	土師器 壺	弥生～古墳	99	100	
SK2	B	井戸12	土坑55	円形	1.0×1.0	0.4	土師器 壺・鉢	弥生～古墳	99	101	欠山?
SK3	C	土坑27	土坑27	楕円形	1.5×1.0	0.85	弥生 壺・甕	弥生	102	103・104・105	
SK4	C	土坑114	土坑114	不定形	2.7×?	0.1	土師器 皿、須恵器 杯	奈良	106	107	
SK5	C	土坑31	—	方形?	2.8×2.3	0.1	図化遺物なし	奈良	108		
SK6	C	土坑30	—	方形?	2.5×2.4	0.1	土師器 甕	奈良	108	109	
SK7	C	土坑24	土坑24	円形?	2.6×2.3	0.2	須恵器 壺	奈良	110	111	
SK8	C	土坑25	土坑25	不定形	4.5(?)×4.5	0.3	土師器 椀・甕、鉄鍬、鎌	平安前半	112	113	
SK9	C	土坑33	土坑33	長方形	6.6×3.8	0.2	土師器 羽鎌・鍋、青磁、山茶椀	鎌倉	114	114	
SK10	C	井戸17	土坑57	楕円形	1.3×0.9	0.9	弥生 壺	弥生	115	115	
SK11	D	土坑18	土坑18	円形	1.5×1.4	0.5	弥生 台付甕	弥生	116	117	
SK12	D	土坑4	—	方形	3.5×3.1	0.2	須恵器 蓋、製塩土器	奈良	118	118	
SK13	D	竪穴1	竪穴1	方形	3.1×3.0	0.2	土師器 杯、須恵器 蓋・杯	平安前半	119	119	
SK14	D	土坑10	土坑10	方形?	3.6×?	0.2	土師器 杯・皿・甕、須恵器 杯・平瓶	平安初頭	120	121	
SK15	D	土坑3	—	方形?	2.0×2.0	0.3	灰軸 椀	平安前半	122	123	
SK16	E	土坑506	土坑506	楕円形	4.4×3.6	0.1	土師器 杯、須恵器 凹面碗、灰軸 椀	平安前半	124	125	
SK17	E	土坑512	—	長方形?	2.3×1.5	0.3	土師器 皿	平安前半	126	127	
SK18	E	土坑509	—	不定形	4.8×1.5	0.1	土鍬	平安前半	128	129	
SK19	E	土坑513	—	楕円形	2.4×1.9	0.1	土鍬	平安前半	128	129	
SK20	E	土坑503	土坑503	溝状	7.5×2.3	0.3	土師器 甕	平安前半	130	131	

報告書 番号	地区	調査時	概報番号	掘形平面形	規模(m)		主な出土遺物	時期	図版番号		備考
					平面	深さ			遺構	遺物	
SK21	F	土坑541	-	楕円	1.3×0.9	0.2	須恵器 蓋	飛鳥	132	132	
SK22	F	土坑556	土坑556	楕円	4.0×3.1	0.5	土師器 甕・杯、須恵器 蓋・杯	飛鳥	133	133	
SK23	F	土坑565	土坑565	方形	3.2×2.8	0.8	土師器 杯・甕、須恵器 甕、曲物底板	飛鳥	135	134	山茶碗は重複した別の遺構
SK24	F	土坑568	土坑568	楕円形	3.0×2.1	1.0	土師器 皿・杯	飛鳥	136	136	
SK25	F	土坑570	土坑570	楕円形	3.5×2.4	0.6	土師器 甕、須恵器 はそう、土馬	飛鳥	137	137	
SK26	F	土坑544	土坑544	円形	1.6×1.5	0.8	図化遺物なし	平安前半	138		
SK27	G	土坑598	土坑598	方形	3.1×?	0.05	図化遺物なし	近世	141		
SK28	G	土坑599	土坑599	方形	2.6×2.4	0.3	図化遺物なし	近世	141		
SK29	G	土坑609	土坑609	方形	1.6×1.1	-	図化遺物なし	近世	141		タタキ
SK30	G	土坑600	土坑600	方形	3.0×1.9	0.2	磁器 湯呑	近世	141	142	
SK31	G	土坑601	土坑601	方形?	3.9×2.4	0.1	図化遺物なし	近世	143		
SK32	G	-	-	長方形	1.6×1.2	0.15	図化遺物なし	近世	143		
SK33	G	土坑602	-	長方形	2.3×?	0.1	漆碗	近世	143	144	
SK34	G	土坑603	-	長方形	3.2×1.3	0.2	不明木製品	近世	139	140	
SK35	G	土坑604	土坑604	長方形	3.7×2.5	0.2	陶器 挿鉢、磁器 碗、下駄	近世	139	145	
SK36	G	-	-	楕円形?	3.4×2.8(?)	0.1	図化遺物なし	近世	146		
SK37	G	土坑605	土坑605	長方形	4.2×3.2	0.2	瓦質 焙烙、磁器 碗	近世	146	147	
SK38	G	土坑606	土坑606	長方形	2.7×1.2	0.3	図化遺物なし	近世	148		
SK39	G	-	-	長方形	2.3×1.4	0.25	図化遺物なし	近世	148		
SK40	G	土坑607	土坑607	正方形	4.0×4.0	0.6	瓦質 焙烙、陶器 香炉、磁器 碗、下駄	近世	148	149	



報告書 番号	地区	調査時	概報番号	掘形平面形	規模(m)		主な出土遺物	時期	図版番号		備考
					平面	深さ			遺構	遺物	
SK41	I-1	土坑1	-	円形	0.8×0.8	0.6	山茶碗	近世以降	150	150	
SK42	I-3	SK3	土坑2	楕円形	1.6×1.3	0.4	土師器 鍋、山茶碗、曲物底板	鎌倉	151	152	底に石
SK43	I-3	SK16	土坑4	方形?	1.5×1.3	0.8	土師器 甕・鍋、山茶碗	鎌倉	153	153	
SK44	I-3	SK7②	土坑9	長方形	1.8×1.2	0.5	山茶碗 小皿、土製箱材	鎌倉	154	154	
SK45	I-3	SK10	土坑10	長方形	2.3×1.5	0.9	山茶碗	鎌倉	155	155	
SK46	I-3	SK23	土坑11	長方形	2.4×1.0	0.7	図化遺物なし	鎌倉	156		
SK47	I-4	SK9	土坑2	方形?	1.6×1.6	0.9	土師器 碗・甕、須恵器 高杯	飛鳥	157	157	
SK48	I-4	SK5	土坑6	溝状	5.7×0.9	0.4	弥生 壺・高杯	弥生	158	158	
SK49	I-4	SK7	土坑8	不定形	4.2×3.1	0.9	土師器 杯・甕、黒色土器 須恵器 杯、灰釉 碗・皿	平安前半	159	159	
SK50	B	土坑46	-	溝状	7.0×0.7	-	山茶碗 小皿	近世	160	161	混入
SK51	B	溝49	-	溝状	6.3×0.8	-	陶器 皿・甕	近世	160	161	近世土坑群
SK52	B	溝52	-	溝状	7.5×1.5	-	陶器 木瓜皿・甕・擂鉢、磁器 碗	近世	160	161・162	近世土坑群
SK53	B	溝55・SD55	-	溝状	5.4×1.1	-	陶器 碗、土師器 焙烙 磁器 碗、フイゴ 羽口	近世	160	161・162	近世土坑群
SK54	B	溝636	-	方?	1.7×1.2	-	山茶碗	近世	160	161	混入
SK55	B	土坑35	-	溝状	5.5×1.2	-	陶器 皿	近世	160	161	近世土坑群
SK56	B	土坑38	-	不定形	5.2×4.4	-	土師器 皿、陶器 壺	近世	160	161	近世土坑群
SK57	B	土坑43	-	方形	4.5×4.1	-	陶器 馬目皿・雪平・ひょうそく、磁器 碗	近世	160	161・162	近世土坑群
SK58	B	土坑44	-	不定形	8.3×4.2	-	磁器 紅皿	近世	160	162	近世土坑群
SK59	B	溝46	-	楕円	1.5×1.2	-	磁器 筒形湯呑	近世	160	162	近世土坑群
SK60	B	土坑52	-	方?	5.4×4.3	-	陶器 皿	近世	160	161	近世土坑群

報告書 番号	地区	調査時	概報番号	検出長 (m)	幅 (m)	深さ (cm)	時期	図版番号		備考
								遺構	遺物	
SD1	B	溝62	溝62	24.7	7.5	80	平安後半	163	164	
SD2	BC I-2	溝42	溝42	43.5	2.0~10.0	40	平安前半	165・167	166・168	
		SD8	溝4	17.2					169・170	
SD3	C I-2	溝39	溝39	27.0	0.9~6.0	55	平安前半	165・167	171・172	
		SD10	溝2							
SD4	C	溝36	—	9.0	1.5	20	平安後半?	173		
SD5	C	溝35	—	5.0	1.0	15	鎌倉	173	174	
SD6	C	溝30	溝30	15.8	5(?)	60	鎌倉	173	174・175	
SD7	C	溝37	—	13.8	0.3	20	中世	173		
SD8	C	溝65	溝65	15.0	0.9	30	鎌倉	173	176	
SD9	D	溝16	溝16	40.0	0.3~0.6	10~25	鎌倉	173	176	
SD10	E	溝502	溝502	51.0	2.0~9.0	50~80	平安後半	177	178・179・180 181・182・183	
SD11	DE	溝504	溝504	40.0	3.0~4.5	45	平安後半	177	184	
SD12	EF	溝505	溝505	98.0	6.0~10.0	10~25	飛鳥・奈良	185	186・187・188	
SD13	E	溝503	溝503	44.0	2.1~2.7	20~25	鎌倉	177	193	
SD14	F	溝564	—	18.5	3.0~5.7	20	飛鳥・奈良	189	184	SD12より新しい
SD15	F	溝558	溝558	38.0	0.6	20~30	飛鳥・奈良	189		
SD16	F I-4	溝559	溝559	7.5	0.5	30	飛鳥・奈良	189		
		SD8	溝1	18.0						
SD17	F	溝570	溝570	43.5	0.6~0.9	20~30	飛鳥・奈良	189	193	
SD18	F	溝555	溝555	27.5	0.4	15~20	鎌倉	189		条里方向の溝群
SD19	F	溝552	溝552	11.7	0.3	10	鎌倉	189		条里方向の溝群
SD20	F	溝553	溝553	16.0	0.5	10	鎌倉	189		条里方向の溝群
SD21	F	溝554	溝554	2.4	0.3	15	鎌倉	189		条里方向の溝群
SD22	F	SD133・135	—	9.0	0.2	10	鎌倉?	189		条里方向の溝群
SD23	F	溝567	溝567	32.0	0.3	20~25	鎌倉	189		条里方向の溝群

報告書 番号	地区	調査時	概報番号	検出長 (m)	幅 (m)	深さ (cm)	時期	図版番号		備考
								遺構	遺物	
SD24	F	溝569	溝569	29.0	0.3	10	鎌倉	189		条里方向の溝群
SD25	G	溝600	溝600	13.5	0.4?	不明	鎌倉	189		条里方向の溝群 検出・掘削後さらに掘 り下げたため、図には 載っていない。
SD26	G	溝605	溝605	24.7	0.4?	不明	鎌倉	189		〃
SD27	G	溝601	溝601	6.5	0.3	10	鎌倉	189		条里方向の溝群
SD28	G	溝603	溝603	47.0	0.6~0.9	15?	平安後半	190	193	
SD29	FG	溝571~573 土坑572	溝571~573 土坑572	41.0	1.5~3.0	20~40	飛鳥・奈良	191	193	自然流路群
SD30	G	溝607~610・ 612・613 土坑590・596	溝607~610・ 612・613 土坑590・596	58.5	0.6~4.5	20~40	古墳	191	193	自然流路群 土坑596の番号は、概 報にあらわれない。
SD31	G	溝619~622	溝619~622	53.0	1.0~3.7	10~20	古墳	192	193	自然流路群 溝620・621の番号は、 概報にあらわれない。
SD32	G	溝630	溝630	52.5	1.8	15~20	室町	192	193	
SD33	H	SD5	—	51.0	不明	(190)	中世	194・195	196・197	旧河道
SD34	I-2	SD9	溝3	5.7	2.4	20~30	弥生	165・167	198	
SD35	I-3	SD1	溝1	12.6	0.6~1.5	35	平安後半	199	198	
SD36	I-3	SD13	溝13	38.0	1.2~1.5	20	飛鳥・奈良	199	201	木簡出土
SD37	I-3	SD20	溝14	18.0	0.6	10	飛鳥・奈良	199	198	山茶碗混入
SD38	I-4	SD3	溝1	18.0	0.3	10~15	不明	200		

報告書 番号	外報番号 地区	間数		柱間寸法(m)	棟方向	柱掘形	柱痕跡	柱根	時期	図版番号		備考
		桁行	梁行							遺構	遺物	
SB1	掘立75 C	4間以上	×1間以上	2.6+2.2+2.3+2.1	南北	方	—	—	平安初	22	22	南1間は廂か
		9.2以上	×2.4以上	2.4	N34° E							
SB2	掘立76 C	3間	×1間以上	2.5+2.2+1.6	南北	円	—	—	不明(平安初?)	22	22	南1間は廂か
		6.3	×1.9以上	1.9	N33° E							
SB3	掘立74 C	5間以上	×1間以上	2.1+2.0+1.7+1.7+1.7	南北	方	円	—	奈良	22	22	
		9.2以上	×1.9以上	1.9	N1° W							
SB4	掘立61 C	1間以上	×2間	2.2	東西	円	—	—	奈良	22	22	
		2.2以上	×5.3	2.8+2.5	E29° S							
SB5	掘立63 C	5間?	×2間	2.1+8.4(柱間不明)	東西	方	—	—	奈良	23	23	
		10.5	×4.3	1.9+2.4	E30° S							
SB6	掘立62 C	1間以上	×2間	2.7+2.3	南北	円	—	—	奈良	23	23	総柱か
		1.9以上	×5.0	1.9	N36° E							
SB7	掘立67 C	1間以上	×3間	1.9	東西	円・方	—	—	奈良	24	24	総柱か
		1.9以上	×4.5	2.6+1.6+1.3	E25° S							
SB8	掘立68 C	3間	×3間	2.2+1.8+1.8	東西	円	—	—	奈良	24	24	総柱(床束)
		5.8	×4.7	1.7+1.6+1.4	E33° S							
SB9	掘立64 C	5間	×2間	1.9+1.9+1.9+1.9+1.9	東西	円	—	—	奈良	24	24	
		9.5	×4.9	2.4+2.5	E35° S							
SB10	掘立70 C	4間	×3間	1.5+3.0+2.3+2.5	東西	円	—	—	鎌倉	25	25	2面廂(東南)
		9.3	×6.8	2.2+2.3+2.3	E1° S							
SB11	掘立65 C	3間以上	×2間	2.5+2.4+2.7	東西	方	—	有 円	奈良	24	24	
		7.6以上	×4.4	2.3+2.1	E26° S							
SB12	掘立66 C	5間	×2間	1.9+1.9+2.3+2.2+2.1	東西	方	円方?	—	奈良	25	25	西1間は総柱(床柄?) (廂か)
		10.4	×5.1	2.6+2.5	E26° S							
SB13	掘立71 C	4間	×2間	1.3+2.0+2.0+2.1	東西	円	円	—	不明(平安~鎌倉)	25	25	西側1間は廂か
		7.4	×4.0	2.1+1.9	E20° S							
SB14	掘立69 C	3間	×3間	1.6+1.7+1.8	南北	方	円	—	平安前半	26	26	総柱
		5.1	×4.2	1.3+1.4+1.5	N10° E							
SB15	掘立72 C	4間	×2間	2.3+2.2+1.7+1.9	東西	円	—	—	鎌倉	26	26	総柱
		8.1	×3.8	2.0+1.8	E12° S							
SB16	掘立73 C	6間	×4間	2.0+1.9+2.3+2.0+1.5+1.6	東西	円	円	—	鎌倉	26	26	総柱(一部床束無)南東隅土坑か
		11.3	×6.5	1.5+1.5+1.8+1.7	E12° S							
SB17	掘立74 D	1間	×1間	4.4	南北	円	円	—	弥生?	27	27	棟持柱2本(内部)
		4.4	×3.1	3.1	N30° E							
SB18	掘立25 D	5間	×2間	1.8+1.9+1.8+1.8+2.0	東西	円	—	—	不明(鎌倉)	27	27	
		9.3	×4.2	2.0+2.2	E21° S							
SB19	掘立52 D	3間	×2間	2.4+2.8+2.4	東西	方	—	—	平安前半	27	27	
		7.6	×4.7	2.4+2.3	E9° S							
SB20	掘立53 D	1間以上	×2間	1.9	東西	円	—	—	平安前半	27	27	総柱
		1.9以上	×3.1	1.4+1.7	E4° S							
SB21	掘立51 D	3間	×2間	1.9+1.8+1.6	東西	方	—	—	平安後半	28	28	
		5.3	×4.2	2.1+2.1	E27° S							



報告書 番号	外報番号 地区	間数		柱間寸法(m)	棟方向	柱掘形	柱痕跡	柱根	時期	図版番号		備考
		桁行	×梁行(m)							遺構	遺物	
SB22	掘立3 D	3間	×2間	2.8+2.4+2.7	東西 E12° S	方	—	有	平安後半	28	28	
				2.3+2.2								
SB23	掘立1 D	4間	×2間	2.0+1.9+2.0+2.3	東西 E8° S	円	—	—	平安前半	28		
				2.1+2.1								
SB24	掘立2 D	3間	×2間	2.3+2.4+2.4	東西 E16° S	円	—	—	平安後半	28		
				2.4+2.2								
SB25	掘立5 D	7間	×2間	2.0+1.8+1.8+2.0+1.8+2.0	南北 N16° E	円	—	—	平安後半	29		南から2間に中心柱(建物を南北に分割)北側5間分には中心柱有)
				2.3+2.5								
SB26	掘立22 D	3間	×2間	2.5+2.7+2.6	東西 E9° S	方	—	—	平安後半	30		
				2.3+2.3								
SB27	掘立23 D	7間	×2間	2.6+2.4+2.1+2.3+1.9+2.6+2.4	東西 E15° S	円	—	—	平安後半	31	31	
				2.3+2.7								
SB28	掘立4 D	5間	×2間	1.7+1.6+1.5+1.7+1.4	東西 E16° S	円	—	—	平安前半	31		
				2.3+2.1								
SB29	掘立24 D	3間	×3間	2.2+2.3+2.6	南北 E6° S	円・方	—	—	平安前半	30	30	南側は廂
				2.4+2.5+2.6								
SB30	掘立82 D	3間	×1間以上	2.5+2.2+2.4	南北 N15° E	円	円	—	平安後半	31	31	総柱か、
				2.3								
SB31	掘立81 D	4間	以上×4間	2.0+2.4+2.2+2.1	東西 E27° S	円	円	—	平安後半	32	32	総柱(南東隅に空間)
				2.1+1.6+1.6+2.1								
SB32	掘立83 D	4間	以上×1間以上	2.2+2.6+2.8+2.2	南北 N10° E	円	円・方	—	平安前半	30		
				2.6								
SB33	掘立56 D	3間	×3間	1.4+1.4+1.2	南北 N3° E	方	—	—	平安前半	32	32	総柱
				1.4+1.2+1.5								
SB34	掘立54 D	2間	×2間	2.5+2.0	南北 N5° E	円	—	—	平安前半	33	33	総柱
				2.3+2.5								
SB35	掘立60 D	5間	×2間	2.0+2.9+2.3+1.9+2.3	東西 E7° S	円	—	—	平安前半	29		総柱
				2.5+2.4								
SB36	掘立29 D	2間	×2間	2.3+2.2	南北 N18° E	円・方	—	—	平安後半	33	33	総柱
				2.1+2.2								
SB37	掘立59 D	3間	×2間	2.4+2.7+2.6	東西 E8° S	円・方	—	—	平安前半	33	33	総柱
				2.4+2.4								
SB38	掘立58 D	5間	×3間	1.4+1.5+2.1+2.3+2.2	東西 E2° S	円・方	—	—	平安後半	34	34	西1間は廂
				2.1+2.3+2.3								
SB39	掘立55 D	3間	×2間	2.2+2.1+2.0	東西 E4° S	円・方	—	—	平安前半	33	33	
				1.9+2.0								
SB40	掘立28 D	2間	×2間	1.9+1.9	南北 N4° E	方	—	—	不明(平安?)	35	35	総柱
				1.6+1.7								
SB41	掘立79 D	2間	以上×2間	2.5+2.3	東西 E23° S	円	—	—	平安後半	35	35	総柱
				2.1+2.0								
SB42	掘立80 D	3間	×2間	2.5+2.6+2.8	東西 E10° S	方	円	—	平安前半	35	35	
				2.2+2.3								

報告書 番号	外報番号 地区	間数		柱間寸法(m)	棟方向	柱掘形	柱痕跡	柱根	時期	図版番号		備考
		桁行	梁行							遺構	遺物	
SB43	掘立98 D	3間	2間	2.2+2.0+2.0	東西 E11° N	円	円	—	不明(鎌倉?)	34	34	総柱
		6.2	3.8	2.0+1.8	南北	円・方	円・方	—	不明(奈良~平安)	34	34	西側桁行2間
SB44	掘立109 D	4間	2間	1.9+1.3+1.9+1.5	N22° E	円・方	円・方	—	平安前半	36	36	3面楠(西・北・東)
		6.6	4.2	2.2+2.0	東西 E6° S	円・方	円・方	—	平安前半	37	37	西側2間分は梁間2間
SB45	掘立6 D	7間	4間	1.8+2.2+2.0+2.2+1.6+2.8	東西 E6° S	円・方	円・方	有	平安前半	37	37	方形抜き取り痕
		14.9	7.1	2.3+1.6+1.2+1.9+2.4	東西 E11° S	円・方	円・方	—	不明(平安前半)	35	35	
SB46	掘立7 D	5間	3間	1.7+1.8+1.9+1.7+1.8	南北 N5° E	円	円	—	平安前半	36	36	
		8.9	5.0	1.6+1.8+1.6	南北 N17° E	円	円	—	平安後半	38	38	
SB47	掘立8 D	5間	3間	1.6+1.7+1.3+1.8+1.5	南北 N1° W	円・方	円・方	—	平安後半	38	38	
		7.9	5.1	1.7+1.7+1.7	南北 N21° E	円	円	—	平安初	39	39	
SB48	— E	4間	2間	1.5+1.7+2.1+1.8	南北 N2° W	円	円	—	平安初	38	38	
		7.1	4.0	2.0+2.0	南北 N19° W	円	円	—	平安前半	39	39	
SB49	掘立530 E	3間	2間	2.3+1.6+2.3	南北 N8° E	円	円	—	平安前半	40	40	
		6.2	4.5	2.3+2.2	南北 E1° S	円	円	—	平安前半	41	41	
SB50	掘立519 E	3間	2間	2.1+2.5+2.5	南北 N23° E	円	円	—	平安前半	40	40	
		7.1	4.1	2.1+2.0	東西 E11° S	円	円	—	平安前半	41	41	
SB51	掘立531 E	2間	2間	2.4+2.5	東西 E11° S	円	円	—	平安前半	41	41	
		4.9	4.3	2.2+2.1	東西 E11° S	円	円	—	平安前半	41	41	
SB52	掘立538 E	3間	2間	1.7+2.2+2.0	南北 N1° W	円	円	—	平安前半	41	41	
		5.9	4.3	2.1+2.2	南北 N13° W	円	円	—	平安前半	41	41	
SB53	掘立509 E	4間	2間	1.9+1.9+1.9+2.2	南北 N2° W	円	円	—	平安前半	41	41	
		7.9	4.2	2.3+1.9	南北 N19° W	円	円	—	平安前半	41	41	
SB54	掘立510 E	4間	2間	2.1+2.2+2.1+2.3	南北 N8° E	円	円	—	平安前半	41	41	
		8.7	5.1	2.5+2.6	南北 N2° W	円	円	—	平安前半	41	41	
SB55	掘立511 E	3間	3間	1.4+1.5+1.2	南北 N19° W	円	円	—	平安前半	41	41	
		4.1	4.0	1.2+1.3+1.5	南北 N8° E	円	円	—	平安前半	41	41	
SB56	掘立532 E	2間	2間	1.4+1.5	南北 N5° E	円	円	—	平安前半	41	41	
		2.9	2.9	1.5+1.4	東西 E1° N	円	円	—	平安前半	41	41	
SB57	掘立533 E	3間	3間	1.6+1.2+1.5	東西 E2° S	円	円	—	平安前半	41	41	
		4.3	3.8	1.3+1.1+1.4	南北 N14° E	円	円	—	平安前半	41	41	
SB58	掘立534 E	3間	2間	2.4+2.7+2.4	南北 N23° E	円	円	—	平安前半	41	41	
		7.5	4.7	2.3+2.4	東西 E1° S	円	円	—	平安前半	41	41	
SB59	掘立514 E	3間	3間	1.5+1.4+1.5	南北 N16° W	円	円	—	平安前半	41	41	
		4.4	3.9	1.3+1.2+1.4	東西 E11° S	円	円	—	平安前半	41	41	
SB60	掘立513 E	5間	2間	2.1+1.9+2.0+2.1+2.3	南北 N14° E	円	円	—	平安前半	41	41	
		10.4	4.5	2.2+2.3	南北 N23° E	円	円	—	平安前半	41	41	
SB61	掘立515 E	3間	2間	2.4+2.2+2.4	東西 E11° S	円	円	—	平安前半	41	41	
		7.0	4.4	2.1+2.3	南北 N23° E	円	円	—	平安前半	41	41	
SB62	掘立516 E	3間以上	2間	1.6+1.5+1.6	東西 E11° S	方	方	—	平安前半	41	41	
		4.7	以上	2.1+2.0	南北 N16° W	円	円	—	平安前半	41	41	
SB63	掘立535 E	3間以上	2間	2.6+2.4+2.9	南北 N16° W	円	円	—	平安前半	41	41	
		7.9	以上	1.9+1.9	南北 N16° W	円	円	—	平安前半	41	41	

報告書 番号	外報番号 地区	間数		柱間寸法(m)	棟方向	柱掘形	柱痕跡	柱根	時期	図版番号		備考
		桁行	梁行							遺構	遺物	
SB64	掘立517 E	4間×3間	1.7+1.6+2.0+1.7	南北	円・方	円	—	平安前半	41	41	西側廂	
		7.0×6.2	2.3+2.2+1.7	N1° W								
SB65	掘立521 E	2間×1間以上	2.2+2.1	南北	方	円	—	平安前半	42	42	東西棟か	
		4.3×2.5以上	2.5	N15° E								
SB66	掘立536 E	4間×1間以上	1.9+1.8+2.3+2.4	南北	円・方	円	—	平安前半	42	42		
		8.4×2.2以上	2.2	N1° W								
SB67	掘立518 E	3間×2間	1.6+2.3+2.1	南北	円	—	—	平安前半	42	42	総柱	
		6.0×3.8	1.8+2.0	N1° E								
SB68	掘立520 E	4間以上×2間	1.9+1.7+1.9+1.6	東西	円・方	—	—	平安前半	42	42		
		7.1以上×4.8	2.4+2.4	E25° S								
SB69	掘立537 E	2間以上×1間以上	1.7+2.1	南北	円	—	—	平安前半	43	43		
		3.8以上×2.4以上	2.4	N13° W								
SB70	—	3間×2間	2.6+2.2+2.4	南北	円	—	—	不明(平安)	43	43	総柱	
		7.2×4.8	2.5+2.3	N27° W								
SB71	—	2間以上×2間以上	2.1+2.3	南北	円	—	—	不明(平安前半?)	43	43	総柱	
		4.4以上×4.5以上	2.5+2.0	N1° E								
SB72	掘立550 F	3間×3間	1.5+1.5+1.6	南北	円・方	円	—	奈良	43	43	総柱	
		4.6×4.2	1.4+1.2+1.6	N8° E								
SB73	—	3間×2間	2.9+3.8+2.9	南北	円・方	円	—	不明(平安前半)	44	44	総柱(床柱?) (SK26を伴う?)	
		9.6×5.3	2.8+2.5	N19° E								
SB74a	掘立552 F	3間×2間	1.9+1.5+1.3	東西	円・方	円	—	飛鳥・奈良	44	44		
		4.7×3.3	1.5+1.8	E31° S								
SB74b	掘立552 F	3間×2間	1.9+1.5+1.3	東西	円・方	円	—	飛鳥・奈良	44	44	SB74aの建て替え	
		4.7×3.7	1.5+2.2	E31° S								
SB75	掘立553 F	3間×2間	1.8+1.8+1.5	東西	円	—	—	奈良	44	44		
		5.1×3.8	2.2+1.6	E34° N								
SB76	掘立554 F	3間以上×2間	2.0+1.7+1.4	東西	円・方	円	—	奈良	45	45		
		5.1×3.8	2.0+1.8	E8° S								
SB77	掘立555 F	3間×2間	2.7+2.1+2.4	東西	円・方	円	—	奈良	45	45		
		7.2×3.9	1.8+2.1	E32° S								
SB78	掘立556 F	3間×2間	1.7+1.6+1.7	南北	円・方	円	有	奈良	45	45	総柱(床束?)	
		5.0×3.5	1.8+1.7	N16° W								
SB79	掘立557 F	5間以上×3間	1.7+1.7+1.8+1.9+1.6	東西	円	円	—	飛鳥・奈良	46	46	中心柱穴か	
		8.7×4.2	1.5+1.4+1.3	E2° N								
SB80	掘立558 F	4間以上×3間	1.7+1.5+1.8+1.5	東西	円・方	円	有	飛鳥・奈良	46	46	中心柱穴か	
		6.5×4.6	1.6+1.5+1.5	E27° S								
SB81	掘立559 F	1間×1間	3.3	南北	円・方	—	—	飛鳥・奈良	45	45	中心柱穴か	
		3.3×2.9	2.9	N43° E								
SB82	—	3間×2間以上	3.1+3.2+3.0	南北	円・方	円	有	不明(飛鳥・奈良)	46	46	総柱 SK23を伴うか	
		9.3×5.9以上	3.1+2.8	N13° E								
SB83	掘立8 I-3	4間×2間	2.0+1.8+1.9+2.0	東西	円・方	円	—	不明(奈良～平安)	47	47		
		7.7×4.6	2.1+2.5	E39° S								

報告書 番号	外報番号 地区	間数		柱間寸法(m)	棟方向	柱掘形	柱痕跡	柱根	時期	図版番号		備考
		桁行	梁行							遺構	遺物	
SB84	掘立12	2間以上×2間	1.4+1.4	南北 N44° E	円	—	—	不明(鎌倉?)	47			
		2.8以上×3.5	1.7+1.8									
SB85	掘立16	3間×1間以上	1.3+1.6+1.0	東西 E15° S	円・方	円	—	飛鳥	47		総柱	
		3.9×1.4	1.4									
SB86	掘立17	3間×3間	1.3+1.2+1.3	南北 N19° E	円・方	—	—	飛鳥	47		47	総柱
		3.8×3.6	1.3+1.1+1.2									
SB87a	掘立3	5間×2間	2.2+2.0+1.8+1.8+2.1	東西 E15° S	円・方	—	—	飛鳥	48			中心柱穴
		9.9×4.5	2.3+2.2									
SB87b	掘立4	5間×2間	2.1+1.9+1.9+1.9+2.2	東西 E15° S	円・方	円	有	飛鳥	48		48	SB87aの建て替え 中心柱穴
		10.0×4.5	2.1+2.4									
SB88	掘立5	2間×2間	1.7+1.7	東西 E8° S	円	円	—	不明(平安?)	48			床束
		3.4×2.7	1.4+1.3									
SB89	—	2間×1間以上	3.7+3.9	東西 E27° S	円・方	—	—	不明(平安?)	48			総柱(床束?)
		7.6×2.9以上	2.9									
SB90	—	2間以上×2間	2.6+2.5	南北 N31° E	円	—	—	不明(鎌倉?)	49			総柱(床束?)
		5.1以上×4.8	2.4+2.4									
SB91	—	2間以上×2間	2.5+2.3	南北 N2° E	円・方	—	—	不明(鎌倉)	49			総柱 建て替え?
		4.8以上×5.2	2.7+2.5									
SB92	—	2間×2間	2.4+2.5	南北 N5° E	円	—	—	不明(鎌倉?)	49			総柱?
		4.9×4.7	2.3+2.4									
SB93	—	5間以上×1間以上	2.5+2.5+2.7+2.3+2.6	東西 E11° S	円	—	—	不明(平安)	50			
		12.6以上×2.6以上	2.6									
SA1	堀1	3間	2.0+2.4+2.2	南北 N4° E	方	円	—	平安前半	37			SB46・47と一体か
		6.6										
SA2	—	4間	2.0+2.3+2.0+2.3	東西 E26° N	円・方	不整形	—	不明(平安?)	50			
		8.6										
SA3	—	3間	2.9+2.6+2.8	東西 E12° N	円	円	—	不明(平安?)	50			
		8.3										
SA4	—	5間	1.5+2.2+1.7+2.6+1.6	東西 E2° N	円	円	—	不明(奈良～平安)	50			
		9.6										
SA5	—	3間以上	1.9+1.8+1.9	南北 N20° E	円	—	—	不明(奈良～平安前半)	50		50	建物か
		5.6										
SA6	—	7間	1.9+1.8+1.7+1.9+1.9+1.9+2.1	東西 E1° S	円・方 不整形	—	—	不明(奈良～平安)	51			
		13.2										
SA7	—	4間	3.3+3.2+3.4+3.3	東西 E17° S	円・方	—	—	不明(奈良～平安)	51			建物か
		13.2										
SA8	—	3間	2.3+2.6+2.6	東西 E29° S	円	—	—	不明(鎌倉?)	51			建物か
		7.5										
SA9	—	3間	2.6+2.6+2.7	東西 E29° S	円	—	—	不明(鎌倉)	51			建物か
		7.9										
SA10	—	2間	3.1+3.1	東西 E27° S	円	—	—	不明(平安前半)	51			建物か
		6.2										
SA11	—	3間	2.7+2.5+2.6	東西 E14° S	円・方	円	—	不明(平安前半)	51			建物か
		7.8										



報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
1	17102	銭貨	銭	SX1	-	-		-	-	-	完存	6枚癒着 重さ14.8g 政和通寶(北宋1111年) 磨滅が激しく調整不明瞭
2	29302	土師器	杯	SB1	12.7	2.8	底部外面未調整、他はナデ	密	5YR7/6	良	1/6	
3	29301	土師器	皿	SB1	16.0	1.7	底部外面未調整、他はナデ	密	2.5YR6/6	良	口縁部1/12	
4	29401	須恵器	鉢	SB3	16.6	7.2	底部外面未調整、他はロクロナデ	粗	N7/	良	底部完存	
5	28902	土師器	鉢	SB4	16.4	-	外面ハケス、内面ナデ	密	7.5YR8/2	良	口縁部1/12	
6	28901	須恵器	蓋	SB4	-	-	ロクロナデ	密	N5/	良	口縁部小片	
7	29105	土師器	皿	SB5	16.6	2.1	底部外面未調整、他はナデ	密	5YR7/8	良	口縁部1/6	
8	29101	土師器	皿	SB5	15.1	2.0	外面ハラクスリ、内面ナデ	密	5YR7/4	良	口縁部1/6	
9	29102	須恵器	鉢	SB5	11.6	4.4	外面ロクロスリ、内面ロクロナデ	密	N8/	不良	口縁部5/12	
10	29104	土製品	土錘	SB5	5.0×1.1	-	未調整	密	7.5YR8/1	良	ほぼ完存	重さ(4.9g)
11	29103	土製品	土錘	SB5	5.1×1.3	-	ナデ	密	7.5YR8/2	良	ほぼ完存	重さ(6.6g)
12	29001	須恵器	甕	SB6	40.0	-	ロクロナデ	密	N8/	良	口縁部1/4	
13	28905	土師器	甕	SB7	-	-	ハケス	密	7.5YR7/6	良	口縁部小片	
14	28904	須恵器	蓋	SB7	-	-	ロクロナデ	密	N8/	良	口縁部小片	
15	36703	灰釉陶器	椀	SB9	底径7.0	-	底部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	密	7.5Y7/1	良	底部1/2	
16	36702	山茶椀	椀	SB9	底径7.2	-	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y7/1	良	底部完存	内面磨耗
17	36701	山茶椀	椀	SB9	底径7.4	-	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	7.5Y7/1	良	底部完存	
18	36704	山茶椀	椀	SB9	底径8.4	-	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	5Y7/1	良	底部1/2	
19	29201	白磁	椀	SB10	14.4	-	ロクロナデ	密	N8/ 釉 2.5GY8/1	良	口縁部1/12	
20	28903	土師器	蓋	SB12	-	-		密	5YR7/8	良	口縁部小片	磨滅が激しく調整不明
21	29202	土師器	鍋	SB15	-	-	ヨコナデ	密	5YR8/4	良	口縁部小片	
22	29203	土製品	土錘	SB15	6.1×1.4	-	ナデ	密	5YR7/6	良	4/5	重さ(9.5g)
23	29702	土師器	皿	SB22	13.7	-	外面未調整、内面ナデ	密	2.5Y8/2	良	口縁部1/6	
24	29701	山茶椀	椀	SB24	底径7.8	-	ロクロナデ	密	5Y7/1	良	底部1/6	内面磨耗
25	29601	灰釉陶器	椀	SB24	18.3	6.4	外面下半ロクロスリ、他はロクロナデ	密	N7/ 釉 2.5GY6/1	良	底部完存	灰釉刷毛塗り
26	29704	土師器	杯	SB29	(11.9)	-		やや粗	10YR8/3	良	1/4	磨滅が激しく調整不明 歪み大径推定
27	29706	石製品	砥石	SB29	(5.3)×6.4	厚さ2.9		-	-	-	小片	重さ(92g) 凝灰岩 5面に使用痕
28	29805	土師器	杯	SB27	11.9	3.0	ナデ	やや密	2.5Y8/3	良	2/3	
29	29903	黒色土器	椀	SB27	15.6	-	外面未調整、内面ハラクスリ	密	10YR8/1	良	口縁部1/4	A類
30	29602	土師器	皿	SB30	11.7	2.6	外面未調整、内面ナデ	密	10YR7/2	良	1/2	
31	30204	土師器	皿	SB30	14.2	-	ナデ	やや密	外 10YR8/4 内 2.5Y8/3	良	口縁部1/6	
32	30206	土師器	甕	SB31	16.5	-	外面ハケス、内面工具ナデ	やや粗	10YR8/3	良	口縁部1/12	外面一部スス
33	30101	灰釉陶器	椀	SB31	底径6.8	-	ロクロナデ	やや密	2.5Y7/1 釉 2.5Y7/2	良	底部完存	灰釉漬掛け 内面磨耗
34	30103	山茶椀	椀	SB31	底径7.2	-	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	2.5Y6/2	良	底部完存	
35	29906	土製品	土錘	SB31	4.5×2.4	-	ナデ	粗	10YR8/2	良	ほぼ完存	重さ(20.0g)
36	30208	土師器	鉢	SB33	14.8	-	ハケス	やや粗	10YR8/3	良	口縁部1/6	
37	29905	土師器	高杯	SB34	胴柱径5.0	-	ハラクスリ	やや密	10YR8/2	良	脚柱部完存	
38	30001	土師器	甕	SB34	13.4	-		やや粗	5YR7/4	良	口縁部1/6	磨滅が激しく調整不明
39	29802	土師器	杯	SB36	12.2	2.7	外面未調整、内面ナデ	やや粗	10YR7/3	良	ほぼ完存	
40	30102	灰釉陶器	椀	SB39	底径7.6	-	底部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y7/1	良	底部1/2	内面磨耗 直接重ね焼き
41	30104	灰釉陶器	皿	SB38	13.5	2.8	底部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	密	2.5Y8/1 釉 2.5Y7/2	良	5/12	灰釉漬掛け 直接重ね焼き
42	29803	土師器	鍋	SB40	24.3	-	ヨコナデ	粗	10YR8/3	良	口縁部1/5	
43	29804	石製品	鍋	SB40	底径20.0	-		-	外 N3/ 内 N5/	-	底部1/12	外面スス 内面使用痕
44	29806	山茶椀	椀	SB40	底径7.3	-	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	N7/	良	底部1/4	
45	30205	土師器	甕	SB42	16.0	-	ハケス	やや密	2.5Y8/3	良	口縁部1/6	磨滅が激しく調整不明瞭 外面一部スス
46	30202	黒色土器	椀	SB42	底径6.8	-		やや密	外 2.5Y8/3 内 10YR3/1	やや不良	底部1/6	A類 磨滅が激しく調整不明

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
47	30105	灰釉陶器	碗	SB42	底径8.1		底部外面ロクロケスリ、他はロクロナデ	やや密	2.5Y7/1	良	底部1/4	直接重ね焼き
48	30107	灰釉陶器	皿	SB42	底径6.7		底部外面ロクロケスリ、他はロクロナデ	やや密	2.5Y7/1	良	底部7/12	直接重ね焼き
49	29703	灰釉陶器	碗	SB47	17.2		ロクロナデ	やや密	5Y8/1	良	口縁部1/10	清郷
50	30802	土師器	鉢	SB50	-		ナデ	やや粗	7.5YR6/4	良	口縁部小片	
51	30703	製塩土器	土鉢	SB55	-		ナデ	やや粗	7.5YR6/6	良	底部小片	
52	30702	土製品	土鉢	SB55	(4.7)×2.6		ナデ	やや粗	2.5Y8/3	良	3/4	重さ(18.4g)
53	30701	土師器	鍋	SB53	-		ヨコナデ	やや密	10YR8/4	良	口縁部小片	
54	30803	灰釉陶器	碗	SB58	底径6.2		ロクロナデ	密	2.5Y8/1 釉 2.5Y8/2	良	底部1/6	
55	30706	灰釉陶器	碗	SB62	底径7.1		ロクロナデ	密	2.5Y8/1	良	底部1/4	
56	31002	土師器	甕	SB64	20.8		ハケメ	やや粗	7.5YR7/4	良	口縁部1/6	
57	30707	土師器	甕	SB65	-		ハケメ	やや密	2.5Y8/3	良	底部小片	
58	30906	土製品	土鉢	SB68	3.3×3.1		ナデ	やや密	7.5Y7/4	良	ほぼ完存	重さ(31.4g)
59	31401	須恵器	高杯	SB86	脚柱径3.4		ロクロナデ	密	5Y4/1	不良	脚部ほぼ完存	
60	31501	須恵器	蓋	SB87b	10.0		ロクロナデ・ロクロケスリ	密	7.5Y4/1	良	底部1/12	
61	31203	土師器	甕	SA5	(19.6)		内面ハケメ、外面ヨコナデ	密	10YR7/3	良	口縁部1/12	
62	4501	土師器	皿	SE1	(11.0)		外面未調整、内面ナデ	やや密	2.5Y8/3	良	口縁部1/12	推定径
63	4502	土師器	鉢	SE1	-		ヨコナデ	やや粗	10YR8/2	良	口縁部小片	
64	4102	土師器	杯	SE2	11.2	2.9	底部外面未調整、内面ナデ	やや粗	10YR8/4	良	口縁部1/12	底部に黒斑
65	4101	土師器	皿	SE2	15.4	2.1	底部外面ハケスリ、内面ハケミガキ	やや密	5YR7/6	良	口縁部1/6	内面一部暗文
66	4207	土師器	甕	SE2	20.2		外面ハケメ、内面ナデ	やや粗	5YR7/6	良	口縁部1/6	口縁端部外面に沈線
67	4103	土師器	碗	SE2	13.4	4.4	外面未調整、内面ナデ	やや粗	外 7.5YR7/4 内 10YR7/4	良	口縁部1/12	
68	4105	黒色土器	杯	SE2	18.0	4.1	外面未調整、内面ハケミガキ	やや密	外 10YR8/4 内 10YR3/1	良	口縁部1/6	A類 内面放射状+螺旋暗文
69	4106	黒色土器	碗	SE2	底径7.8		外面未調整、内面ハケミガキ	やや密	外 5YR7/6 内 10YR3/1	良	底部1/12	A類 内面螺旋暗文
70	4104	黒色土器	碗	SE2	11.6	4.0	外面未調整、内面ハケミガキ	やや密	外 7.5YR8/4 内 7.5YR3/1	良	口縁部1/6	A類
71	4201	灰釉陶器	碗	SE2	底径7.8		底部外面ロクロケスリ、他はロクロナデ	やや密	2.5Y8/1	良	底部5/12	
72	4203	灰釉陶器	碗	SE2	底径8.6		底部外面ロクロケスリ、他はロクロナデ	やや密	5Y8/1 釉 5Y7/2	良	底部完存	灰釉刷毛塗り 直接重ね焼き
73	4202	灰釉陶器	碗	SE2	14.6	4.2	体部下半ロクロケスリ	やや粗	5Y8/1	良	底部1/3	灰釉刷毛塗り
74	4205	灰釉陶器	碗	SE2	15.9	4.6	体部下半ロクロケスリ、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y8/1 釉 5Y7/3	良	口縁部1/4	灰釉刷毛塗り
75	4204	灰釉陶器	皿	SE2	16.8	3.5	体部下半ロクロケスリ、他はロクロナデ	密	2.5Y8/3 釉 10Y7/2	良	口縁部1/4	灰釉刷毛塗り 直接重ね焼き
76	4206	製塩土器	鉢	SE2	底径15.1		外面未調整、内面ナデ	粗	5YR7/6	良	底部1/4	底部外面墨付着 転用硯
77	4401	土製品	土鉢	SE2	8.2×2.9		手捏	やや粗	10YR6/1	良	ほぼ完存	重さ(65g)
78	4402	瓦	丸瓦	SE2	-		凹面布目痕	やや密	7.5Y8/1	やや粗	小片	外面磨減が激しく調整不明瞭
79	4301	瓦	丸瓦	SE2	-		凸面タタ後ナデ、凹面布目痕	やや粗	2.5Y7/2	良	小片	
80	木106	容器	曲物(底板)	SE3	径(14.9)	厚さ0.6		-	-	-		
81	4002	土師器	皿	SE4	9.4	1.2	外面未調整、内面ナデ	密	10YR8/3	良	口縁部1/4	
82	4003	土師器	皿	SE4	14.4	2.3	外面未調整、内面ナデ	密	10YR8/6	良	口縁部1/4	
83	4004	土師器	鉢	SE4	-		ナデ	密	2.5Y8/3	良	口縁部小片	
84	3913	山茶碗	小碗	SE4	8.5		ロクロナデ	密	2.5Y7/1	良	口縁部1/3	
85	3912	山茶碗	小皿	SE4	7.9	2.2	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	5Y8/1	良	口縁部1/4	高台に砂痕 内面磨耗
86	3903	山茶碗	碗	SE4	底径6.3		底部外面ナデ、他はロクロナデ	密	2.5Y7/1	良	底部完存	高台に砂痕 内面磨耗
87	3902	山茶碗	碗	SE4	底径5.8		底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや密	10YR7/1	良	底部完存	高台に砂痕 内面磨耗
88	3911	山茶碗	碗	SE4	底径7.0		底部外面ナデ、他はロクロナデ	密	5Y7/1	良	底部1/2	内面磨耗
89	3909	山茶碗	碗	SE4	底径6.7		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	2.5Y7/1	良	底部完存	高台にミカウ痕
90	3910	山茶碗	碗	SE4	底径6.9		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	5Y7/1	良	底部1/3	高台にミカウ痕 内面磨耗
91	4005	山茶碗	鉢	SE4	底径14.1		体部下半ロクロケスリ、他はロクロナデ	やや密	2.5Y7/2	良	底部1/6	内面磨耗
92	3901	山茶碗	鉢	SE4	底径13.7		体部下半ロクロケスリ、他はロクロナデ	粗	2.5Y7/2	良	底部1/3	内面磨耗 直接重ね焼き

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
93	4001	山茶碗	碗	SE4	底径5.1		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	5Y7/1	良	底部5/12	
94	3906	山茶碗	小皿	SE4	8.7	2.2	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	2.5Y7/1	良	底部完存	内面磨耗
95	3908	山茶碗	小皿	SE4	9.1		底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密	2.5Y7/1	良	口縁部1/6	
96	3904	山茶碗	碗	SE4	底径7.2		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	2.5Y7/1	良	底部3/4	高台に砂痕
97	3907	山茶碗	碗	SE4	底径6.9		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	5Y6/1	良	底部5/12	高台にモカワ痕 内面磨耗
98	3905	山茶碗	碗	SE4	底径7.2		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	2.5Y7/1	良	底部完存	高台にモカワ痕
99	3802	土師器	皿	SE5	9.3	1.3	底部外面ヘラ切痕、他はナデ	やや密	2.5Y8/2	良	口縁部1/4	
100	3803	土師器	皿	SE5	10.4	2.1	底部外面未調整、内面ナデ	密	7.5Y8/1	良	口縁部1/12	
101	3804	土師器	甕	SE5	15.1		ナデ	やや粗	5Y8/3	良	口縁部1/12	
102	3801	灰釉陶器	碗	SE5	底径4.9		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	N8/	良	底部完存	灰釉漬掛け
103	5505	土師器	鍋	SE7	-		外面ナデ、内面ヘラナデ	粗	10YR5/3	良	口縁部小片	
104	5506	陶器	甕	SE7	-		外面タタキ、内面ロクロナデ	やや粗	7.5Y6/1	良	体部小片	
105	5504	山茶碗	碗	SE7	16.4	5.6	ロクロナデ	密	10Y7/1	良	1/2	高台にモカワ痕
106	5501	山茶碗	碗	SE7	16.6	5.2	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	5Y6/1	良	完存	高台にモカワ痕 内面磨耗
107	5502	山茶碗	碗	SE7	16.7	5.2	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	2.5Y7/2	良	完存	高台にモカワ痕 内面磨耗
108	5503	山茶碗	碗	SE7	17.4	4.8	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	7.5Y6/1	良	ほぼ完存	高台にモカワ痕 内面磨耗
109	木601	容器(底板)		SE8	40.0×(11.6)	厚さ0.9		-	-	-		木釘痕1
110	5003	土師器	皿	SE8	9.0	1.0	外面未調整、内面ナデ	密	10YR7/2	良	口縁部7/12	
111	5001	土師器	皿	SE8	9.3	1.8	外面未調整、内面ナデ	密	2.5Y7/2	良	ほぼ完存	
112	5002	土師器	皿	SE8	13.1	2.7	外面未調整、内面ナデ	密	10YR7/3	良	口縁部1/6	
113	5102	土師器	皿	SE8	16.0		外面未調整、内面ナデ	密	2.5Y8/2	良	口縁部1/12	
114	5101	土師器	鍋	SE8	22.3		体部内面下半ヘラナデ、他はナデ	やや密	2.5Y3/1	良	口縁部7/12	
115	5202	土師器	鍋	SE8	22.2		外面未調整、内面ナデ	やや粗	2.5Y8/1	良	口縁部1/2	
116	5201	土師器	鍋	SE8	30.8		外面体部下半雑なヘラナデ、上半ナデ	やや粗	10YR4/1	良	口縁部1/3	
117	5401	土師器	鍋	SE8	22.5		外面体部下半雑なヘラナデ、上半ナデ	やや粗	10YR6/2	良	口縁部5/6	体部外面下半・内面にスス
118	4904	山茶碗	碗	SE8	底径6.3		底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや密	5Y7/1	良	底部完存	
119	4804	山茶碗	小皿	SE8	8.1	2.3	底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや密	2.5Y7/1	良	1/2	
120	4803	山茶碗	小碗	SE8	8.5	2.8	底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや粗	5Y7/1	良	底部7/12	内面磨耗
121	4905	山茶碗	小皿	SE8	8.0	2.3	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	2.5Y6/1	良	底部完存	
122	4802	山茶碗	小皿	SE8	8.1	2.3	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	2.5Y7/1	良	底部完存	底部外面に墨書「X」
123	4902	山茶碗	碗	SE8	底径6.5		底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや密	2.5Y6/1	良	底部完存	高台に砂痕
124	4901	山茶碗	碗	SE8	底径6.3		底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y7/1	良	底部完存	高台にモカワ痕
125	4606	山茶碗	碗	SE8	底径6.0		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	5Y7/1	良	底部完存	高台にモカワ痕 内面磨耗
126	4605	山茶碗	碗	SE8	底径6.2		底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや密	5Y8/1	良	底部完存	高台に砂痕 内面磨耗
127	4604	山茶碗	碗	SE8	底径6.4		底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y6/1	良	底部完存	高台にモカワ痕 外面に炭化物付着
128	4805	山茶碗	碗	SE8	底径7.3		底部外面ナデ、他はロクロナデ	密	2.5Y6/1	良	底部完存	高台にモカワ痕
129	4607	山茶碗	碗	SE8	底径6.4		底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや密	5Y6/1	良	底部5/12	高台に砂痕 内面磨耗
130	4603	山茶碗	碗	SE8	底径6.0		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y7/1	良	底部完存	高台にモカワ痕
131	4705	山茶碗	碗	SE8	15.2	5.4	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	2.5Y7/1	良	底部完存	高台にモカワ痕 内面磨耗
132	4704	山茶碗	碗	SE8	15.2	4.9	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	7.5Y7/1	良	底部完存	高台にモカワ痕 内面磨耗 高台にモカワ痕 内面磨耗 直接重ね焼き
133	4701	山茶碗	碗	SE8	15.3	5.4	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	N7/	良	ほぼ完存	高台にモカワ痕 内面やや磨耗 内外面スス
134	4801	山茶碗	碗	SE8	15.6	5.3	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	5Y7/1	良	底部完存	高台にモカワ痕 内面磨耗
135	4602	山茶碗	碗	SE8	15.8	5.3	ロクロナデ	やや密	2.5Y8/1	良	1/4	高台に砂痕
136	4702	山茶碗	碗	SE8	15.9	5.0	底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや密	N8/	良	ほぼ完存	高台にモカワ痕 内面磨耗
137	4601	山茶碗	碗	SE8	16.0	4.9	底部外面ナデ、他はロクロナデ	密	5Y7/1	良	底部完存	高台にモカワ痕
138	4703	山茶碗	碗	SE8	15.9	5.2	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	N7/	良	底部ほぼ完存	高台にモカワ痕 内面磨耗
139	4706	山茶碗	碗	SE8	16.1	5.3	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	N7/	良	底部完存	高台にモカワ痕 内面磨耗
140	5103	陶器	甕	SE8	-		外面一部分タタキ、他はナデ	やや密	2.5Y7/2	良	体部小片	常滑
141	5004	白磁	碗	SE8	底径6.0		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	密	5Y7/1 粗 7.5Y7/1	良	底部1/3	底部内面に沈線

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
142	9504	山茶碗	碗	SE9	底径6.0		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	2.5Y8/1	良	底部1/4	高台に砂痕
143	9503	土師器	皿	SE10	8.8	1.2	外面未調整、内面ナデ	やや粗	10YR8/3	良	口縁部1/2	
144	9502	山茶碗	碗	SE10	底径6.9		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	N7/	良	底部完存	高台にミカハラ痕
145	9501	山茶碗	碗	SE10	14.5	5.5	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	N8/	良	底部ほぼ完存	高台にミカハラ痕
146	木701	容器	箱(底板)	SE10	(15.0)×19.5	厚さ0.6		-	-	-		
147	10203	土師器	杯	SE11	11.4	3.8	底部外面未調整、他はナデ	やや粗	7.5YR7/6	不良	1/6	磨滅が激しく調整不明瞭 酸化焼成
148	10501	土師器	甕	SE11	23.0		ハケム	やや粗	5YR7/6	良	口縁部1/4	井戸10の可能性大
149	10103	土師器	甕	SE11	28.4		内面ナデ、内面ハケム	やや粗	7.5Y6/6	良	口縁部1/12	
150	10103	須恵器	蓋	SE11	10.3	4.1	天井部外面未調整、他はロクロナデ	やや粗	N6/	良	ほぼ完存	歪み激しい
151	10202	須恵器	蓋	SE11	16.4		天井部外面ロクロケスリ 他はロクロナデ	やや粗	N5/	良	口縁部1/6	
152	10201	須恵器	杯	SE11	11.0	3.5	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密	5Y6/1	良	口縁部5/6	
153	10102	須恵器	杯	SE11	12.2	4.2	底部外面未調整、内面ロケスリ 他はロクロナデ	やや粗	2.5Y8/1	不良	口縁部1/4	
154	10204	須恵器	壺	SE11	底径9.2		体部外面下半ロクロケスリ 他はロクロナデ	やや粗	N6/	良	体底部完存	
155	9603	土師器	杯	SE12	11.4	2.7	外面未調整、内面ナデ	密	2.5Y8/1	良	口縁部1/2	
156	9803	土師器	杯	SE12	12.0	2.7	外面未調整、内面ナデ	やや密	2.5Y7/2	良	1/3	
157	10001	土師器	杯	SE12	12.1	2.5	外面未調整、内面雑なナデ	やや粗	10YR7/3	良	ほぼ完存	内面に炭化物付着
158	9601	土師器	杯	SE12	12.2	3.0	外面未調整、内面ナデ	密	外 5YR6/4 内 2.5Y7/2	良	1/4	
159	9602	土師器	杯	SE12	12.6	2.4	外面未調整、内面ナデ	密	2.5Y7/2	良	1/4	
160	10008	土師器	杯	SE12	12.6	2.9	外面未調整、内面雑なナデ	やや密	10YR7/3	良	口縁部3/4	
161	9706	土師器	杯	SE12	12.8	3.2	外面未調整、外面ナデ	密	10YR7/3	良	口縁部1/6	
162	10003	土師器	杯	SE12	13.0	2.6	外面未調整、内面ナデ	密	2.5Y8/2	良	口縁部1/6	内面黒変
163	10002	土師器	杯	SE12	13.4	2.8	外面未調整、内面ナデ	やや密	7.5YR7/3	良	ほぼ完存	
164	9905	土師器	杯	SE12	14.2	3.5	外面未調整、内面ナデ	密	2.5Y8/2	良	口縁部ほぼ完	
165	9802	土師器	碗	SE12	底径8.8		ナデ	密	10YR7/3	良	底部3/4	磨滅が激しく調整不明瞭
166	9904	土師器	碗	SE12	14.7	3.8	外面未調整、内面ナデ	密	7.5YR8/2	不良	ほぼ完存	
167	10009	黒色土器	碗	SE12	12.3	3.0	ヘラミカキ	密	外 7.5YR7/3 内 7.5Y2/1	良	底部1/2	A類
168	9705	黒色土器	碗	SE12	13.4	3.6		密	外 10YR7/1 内 N4/	良	口縁部1/4	A類 磨滅が激しく調整不明
169	9707	黒色土器	碗	SE12	14.4		内面ヘラミカキ	密	外 2.5Y7/2 内 N3/	良	口縁部1/6	A類 磨滅が激しく調整不明瞭
170	9701	灰釉陶器	皿	SE12	底径6.9		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	10YR7/1	良	底部1/2	
171	9702	灰釉陶器	皿	SE12	底径8.2		底部外面ロクロケスリ、他はロクロナデ	やや密	10YR7/1	良	底部1/4	灰釉刷毛塗り
172	9703	灰釉陶器	碗	SE12	底径7.0		体部下半ロクロケスリ、他はロクロナデ	密	外 2.5Y7/1 内 2.5Y7/2	良	底部1/3	
173	10005	灰釉陶器	碗	SE12	底径7.4		底部外面ロクロケスリ、他はロクロナデ	密	7.5Y7/1	良	底部完存	直接重ね焼き 内面磨耗 灰釉漬掛け 直接重ね焼き
174	9902	灰釉陶器	碗	SE12	底径7.6		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	N8/	良	底部1/2	
175	9806	灰釉陶器	碗	SE12	底径7.6		底部外面ロクロケスリ、他はロクロナデ	やや密	2.5Y8/1	良	底部1/3	
176	9901	灰釉陶器	碗	SE12	12.8	3.9	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	N8/	良	ほぼ完存	
177	9805	灰釉陶器	碗	SE12	底径6.8		底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密	2.5Y8/1	良	底部完存	内面磨耗 灰釉漬掛け
178	9903	灰釉陶器	碗	SE12	19.0		ロクロナデ	密	N7/	良	口縁部1/6	精製品 口縁部に輪花 口縁部スス
179	10006	灰釉陶器	碗	SE12	19.1	5.7	ロクロナデ	密	5Y8/1	良	底部1/4	灰釉刷毛塗り
180	10004	緑釉陶器	碗	SE12	底径6.5		底部外面ロクロケスリ、他はロクロナデ	密	2.5GY6/1 釉 2.5GY4/1	良	底部完存	硬質
181	9906	緑釉陶器	碗	SE12	底径8.6		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	10YR6/1 釉 7.5Y5/3	良	底部1/3	内面段風圏線 硬質
182	9907	土製品	土錘	SE12	(4.7)×2.2		ナデ	密	7.5Y8/1	良	ほぼ完存	重さ(18.2g)
183	9604	土製品	土錘	SE12	(5.1)×3.1		手捏ね	密	10YR8/2	良	3/5	重さ(28.0g)



報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
184	9908	土製品	土鉢	SE12	(6.1)×3.3		ナデ	やや粗	10YR7/3	良	1/2	重さ(44.4g)
185	木1201	装着具	檜櫛	SE12	4.3×(10.1)	厚さ1.1		-		-		櫛種イヌノキ
186	木301	棒状木製品	不明品	SE12	長さ74.0	太さ1.8		-		-		先端に他の部材有り
187	木1101	柱状木製品	井戸枠	SE12	(121.1)×(22.9)	厚さ17.8		-		-		
188	木1001	柱状木製品	井戸枠	SE12	長さ(144.9)	太さ13.9		-		-		
189	木401	板状木製品	井戸枠	SE12	(126.6)×25.1	厚さ(3.2)		-		-		
190	9505	山茶碗	碗	SE13	底径6.4		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	5Y7/1	良	底部1/4	高台にモカワ痕
191	9402	土師器	皿	SE14	9.2	1.8	外面未調整、内面ナデ	密	外 7.5YR8/3 内 10YR6/1	やや不良	完存	内面黒斑
192	9303	土師器	碗	SE14	11.8	3.2	外面未調整、内面ナデ	やや密	7.5YR7/6	良	口縁部1/2	
193	9305	ロクロ土師器	皿	SE14	8.8	2.0	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	5YR7/3	良	底部完存	
194	9306	ロクロ土師器	皿	SE14	底径6.2		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y8/2	良	台部7/12	
195	9307	灰釉陶器	小碗	SE14	10.5	3.2	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	7.5Y7/1	良	ほぼ完存	灰釉漬掛け 直接重ね焼き
196	9302	山茶碗	碗	SE14	16.5	4.9	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	7.5Y7/1	良	底部5/12	高台にモカワ痕 内面磨耗 直接重ね焼き
197	9301	山茶碗	碗	SE14	17.0	5.3	ロクロナデ	やや密	2.5Y7/1	良	底部3/4	高台にモカワ痕 内面磨耗 底部外面に墨書「上」
198	9403	山茶碗	碗	SE14	16.6	5.1	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	5Y7/1	良	ほぼ完存	内面に陰刻花文 トチン痕
199	9401	緑釉陶器	碗	SE14	底径6.7		ナデ	密	10YR4/1	良	底部1/4	
200	9404	土製品	土鉢	SE14	6.7×2.3		手埋ね	やや密	2.5Y8/2	良	ほぼ完存	重さ(28.8g)
201	木201	板状木製品	不明品	SE14	(8.8)×(26.3)	厚さ0.9		-		-		孔1
202	11701	灰釉陶器	碗	SE15	底径6.8		底部外面ロクロケスリ、他はロクロナデ	やや粗	7.5Y7/1	良	底部1/2	灰釉刷毛塗り 直接重ね焼き
203	19502	陶器	蓋	SE16	8.5	4.1	ロクロナデ	密	5Y8/2	良	口縁部1/2	天井部のみ施釉
204	19503	磁器	蓋	SE16	8.8	2.6	ロクロナデ	密	釉 青緑 釉 白・藍	良	1/2	内外面塗柄 瀬戸
205	19504	磁器	蓋	SE16	10.0	2.6	ロクロナデ	密	釉 白・藍	良	1/2	内外面塗柄 伊万里
206	19604	銭貨	銭	SE16	-			-		-	完存	「寛永通宝」重さ2.7g
207	19601	瓦質土器	焙烙	SE17	34.8		ナデ	密	外 5Y3/1 内 N4/ 外 N3/ 内 N4/	良	口縁部1/12	口縁部に穿孔 外面ス
208	19602	瓦質土器	焙烙	SE17	37.6		ナデ	密	外 N3/ 内 N4/ 外 N4/ 内 N4/	良	口縁部1/12	
209	19603	陶器	播鉢	SE17	37.3		ロクロナデ	やや粗	2.5Y8/2 釉 5YR5/4	良	口縁部1/10	内面に刻印
210	20301	陶器	井戸枠	SE17	67.6	39.9	ナデ	やや粗	10YR6/6	良	ほぼ完存	外面墨痕 常滑
211	20401	陶器	井戸枠	SE17	65.3	44.5	ナデ	やや粗	5YR7/6	良	7/8	外面墨痕 常滑
212	木501	容器(底板)	曲物	SE18	径15.6	厚さ1.2		-		-		木釘痕1
213	19501	石製品	砥石	SE18	(10.2)×5.7	厚さ4.8		-		-	端部欠	重さ(289.0g) 4面使用
214	20201	陶器	井戸枠	SE18	53.8	40.6	ナデ	やや密	10R4/8	良	ほぼ完存	外面墨痕 常滑
215	20501	陶器	井戸枠	SE18	63.8	42.6	ナデ	やや粗	5YR8/4	良	7/8	外面墨痕 常滑
216	木1703	容器	碗	SE21	14.6	5.5		-		-		内外面黒漆
217	木1602	球状木製品	不明品	SE21	径3.9×3.4			-		-		穿孔
218	木1701	球状木製品	不明品	SE21	径5.3×5.2			-		-		孔1
219	木1702	木札	木札	SE21	16.8×3.3	厚さ0.4		-		-		木釘2
220	木1704	容器	曲物	SE21	11.8×9.0	高さ9.5		-		-		
221	木1503	武器	劍鞘	SE21	(21.9)×3.0	厚さ0.6		-		-		
222	木1301	容器(底板)	曲物	SE21	径(21.5)	厚さ1.3		-		-		
223	木1302	容器	曲物(底板)	SE21	径18.9	厚さ0.9		-		-		
224	木1303	容器	曲物(底板)	SE21	径(15.5)	厚さ0.7		-		-		
225	23904	土師器	皿	SE21	12.0	2.4	外面未調整、内面ナデ	密	10YR7/3	良	1/3	木釘1 緊縛紐3 木釘痕1
226	24102	山茶碗	小皿	SE21	7.7	1.5	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	5Y8/1	良	完存	
227	24203	山茶碗	小皿	SE21	7.6	1.7	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	5Y7/1	良	ほぼ完存	
228	24304	山茶碗	小皿	SE21	7.6	1.7	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	10YR7/1	良	底部7/12	
229	24302	山茶碗	小皿	SE21	8.2	1.6	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	N7/	良	底部完存	内面磨耗



報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
230	24301	山茶碗	小皿	SE21	7.1	1.6	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	N8/	良	口縁部3/4	内面磨耗
231	24205	山茶碗	小皿	SE21	7.8	1.8	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	7.5Y7/1	良	3/4	内面磨耗
232	24204	山茶碗	小皿	SE21	8.0	2.0	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	7.5Y7/1	良	ほぼ完存	内面磨耗
233	24208	山茶碗	小皿	SE21	8.1	1.7	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	N8/	良	3/4	内面磨耗
234	24201	山茶碗	小皿	SE21	8.2	1.9	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	2.5Y7/1	良	1/2	内面磨耗
235	24103	山茶碗	小皿	SE21	8.2	2.2	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	5Y6/1	良	口縁部ほぼ完	内面磨耗
236	24209	山茶碗	小皿	SE21	8.8	1.8	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	5Y8/1	良	ほぼ完存	内面磨耗
237	24207	山茶碗	小皿	SE21	7.7	2.0	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	7.5Y7/1	良	ほぼ完存	内面磨耗
238	24206	山茶碗	小皿	SE21	8.1	1.7	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	7.5Y7/1	良	ほぼ完存	内面磨耗
239	24202	山茶碗	小皿	SE21	8.7	1.9	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	N8/	良	2/3	内面磨耗
240	23601	山茶碗	碗	SE21	口径6.4		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	7.5YR6/1	良	底部1/2	高台にミカワ痕 底部外面に墨書 内面磨耗 尾張5
241	23703	山茶碗	碗	SE21	14.6	4.7	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	N8/	良	底部ほぼ完存	高台にミカワ痕 内面やや磨耗
242	23704	山茶碗	碗	SE21	14.7	4.8	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	5Y7/1	良	底部5/12	高台にミカワ痕 内面やや磨耗
243	23803	山茶碗	碗	SE21	14.8	5.1	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	N7/	良	1/2	高台にミカワ痕 内面やや磨耗
244	24104	山茶碗	碗	SE21	13.3	5.7	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	10Y7/1	良	口縁部ほぼ完	高台にミカワ痕 内面に炭化物付着 瀬戸風
245	23702	山茶碗	碗	SE21	13.6	5.2	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	7.5Y7/1	良	底部完存	尾張(瀬戸風)7
246	24101	山茶碗	碗	SE21	14.6	5.0	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	7.5Y7/1	良	底部ほぼ完	高台にミカワ痕 内面やや磨耗
247	24004	山茶碗	碗	SE21	13.8	5.2	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	2.5Y6/1	良	1/5	高台にミカワ痕 内面やや磨耗
248	23805	山茶碗	碗	SE21	13.8	5.0	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	N7/	良	底部完存	高台にミカワ痕 内面磨耗 体部外面に墨書
249	23701	山茶碗	碗	SE21	13.8	5.5	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	7.5YR7/1	良	1/3	高台にミカワ痕 底部外面に墨書 直接重ね焼き 尾張6
250	23804	山茶碗	碗	SE21	14.0	5.5	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	N7/	良	底部ほぼ完存	高台にミカワ痕 内面やや磨耗 底部外面に墨書
251	23902	陶器	鉢	SE21	口径14.2		底部外面へ切痕 外面ロクロスリ、内面ロクロナデ	粗	5Y7/1	良	底部1/3	直接重ね焼き
252	23901	陶器	鉢	SE21	23.0	9.6	体部外面下半ロクロスリ 他はロクロナデ	粗	外 2.5YR5/4 内 2.5Y8/1	良	1/4	片口
253	24305	山茶碗	鉢	SE21	29.0	11.3	体部外面下半ロクロスリ 他はロクロナデ	やや粗	5Y6/1	良	1/6	
254	23402	土師器	鍋	SE21	30.0		外面ハケム、内面ナデ	やや密	10YR3/3	良	口縁部5/12	外面ス
255	23401	土師器	鍋	SE21	25.6		外面上半ハケム、下半ヘラケスリ 内面ナデ	密	7.5YR4/2	良	口縁部1/4	外面ス 伊勢型
256	23501	土師器	鍋	SE21	30.2		外面上半ハケム、下半ヘラケスリ 内面ナデ	やや密	7.5YR4/2	良	口縁部1/4	外面ス 伊勢型
257	24002	白磁	碗	SE21	口径4.9		外面ロクロスリ、内面ロクロナデ	密	10YR8/3 釉 2.5Y7/2	良	底部1/4	
258	24001	白磁	碗	SE21	口径7.6		外面ロクロスリ、内面ロクロナデ	やや密	2.5Y7/3 釉 5Y8/1	良	底部1/4	内面に沈線1条
259	24307	土製品	土鉢	SE21	4.3×2.6		ナデ	やや密	10YR8/2	良	完存	重さ15.6g
260	23903	土製品	土鉢	SE21	4.8×1.9		ナデ	やや粗	7.5YR7/4	良	完存	重さ13.6g
261	24306	土製品	土鉢	SE21	5.2×1.9		ナデ	やや粗	10YR7/1	良	完存	重さ16.0g
262	24308	土製品	土鉢	SE21	5.4×2.1		ナデ	やや粗	7.5YR8/1	良	ほぼ完存	重さ(21.2g)
263	24801	陶器	甕	SE22	-		外面ナデ、内面未調整	やや粗	外 7.5Y8/1 内 5Y3/1	良	小片	外面に刻印 常滑
264	24703	土製品	土鉢	SE22	4.5×2.2		ナデ	やや密	10YR8/1	良	完存	重さ17.8g
265	24702	土製品	土鉢	SE22	5.1×2.4		ナデ	やや粗	5YR7/6	良	ほぼ完存	重さ(25.8g)
266	24502	陶器	甕	SE23	21.0		ロクロナデ	やや粗	5YR4/1	良	口縁部1/12	常滑
267	24501	陶器	甕	SE23	40.0		ロクロナデ	密	外 2.5Y3/1 内 2.5Y4/1	良	口縁部1/6	常滑
268	25004	山茶碗	小皿	SE24	8.3	2.3	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	5Y6/1	良	完存	内面やや磨耗 底部外面に墨書

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
269	25003	山茶椀	椀	SE24	15.6	5.1	底部外面未調整、他はロクロナデ	密	5Y6/1	良	完存	体部外面・底部外面に墨書「十」 滷美5(箱書)高台に砂痕
270	25001	山茶椀	椀	SE24	底径6.7		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	10YR7/1	良	底部完存	内面磨耗 尾張6
271	25002	陶器	壺	SE24	24.2		ロクロナデ	やや密	外 2.5YR4/6 内 10Y5/2	良	口縁部1/8	
272	25005	石製品	勾玉	SE24	1.8×1.1	厚さ0.4	外面ハケス、内面ヨコナデ	密	5YR7/6	やや不良	口頸部完存	重さ1.1g 緊縛紐有り
273	木1402	容器(銅板)	曲物	SE24	径不明	高さ13.7	外面ハケス、内面未調整	粗	10YR7/3	良	口縁部1/2	
274	木1502	紡織具	編台	SE24	(36.7)×5.8	厚さ1.3	外面ハケス、内面ハツカキ	粗	10YR7/4	良	口頸部ほぼ完	
275	木1505	農具	鎌(柄)	SE24	33.0×2.6	厚さ2.5	体部外面下半ハラクスリ、他はハケス	やや密	10YR6/1	良	口縁部3/4	
276	101	弥生土器	壺	SK1	12.4		内外面ハツカキ	やや密	7.5YR7/6	良	口縁部1/4	
277	103	弥生土器	壺	SK1	10.5		外面ハケス、内面不明	やや粗	2.5Y7/4	良	口縁部1/3	磨減が激しく調整不明
278	102	弥生土器	壺	SK1	17.6		外面ハケス、内面不明	やや粗	7.5YR7/6	良	口縁部1/3	口縁端部外面に羽状刻目 内面磨減が激しく調整不明
279	201	土師器	鉢	SK2	11.8		外面ハツカキ	密	2.5Y7/4	良	口縁部1/3	頸部に張り付け突起
280	202	土師器	鉢	SK2	16.8		外面ハツカキ	密	2.5Y7/4	良	口縁部1/3	体部外面焼成後穿孔 体部外面黒斑
281	20802	弥生土器	壺	SK3	21.0		外面ハケス、内面未調整	やや粗	10YR8/2	良	口縁部完存	体部外面焼成後穿孔 体部外面黒斑
282	1901	弥生土器	壺	SK3	23.4		外面ハケス、内面未調整	やや粗	10YR8/2	良	口縁部完存	体部外面焼成後穿孔 体部外面黒斑
283	1902	弥生土器	壺	SK3	14.4		内外面ナデ	やや粗	10YR8/2	良	口縁部完存	体部外面焼成後穿孔 体部外面黒斑
284	2401	弥生土器	壺	SK3	10.1	19.8	内外面ナデ	粗	7.5YR7/3	良	完存	口縁端部刺突列点文 磨減激しく調整不明
285	2001	弥生土器	壺	SK3	13.4	30.8	外面頸部ハツカキ、体部ハケス 内面未調整	粗	7.5YR7/6	良	底部完存	体部外面焼成後穿孔 体部外面黒斑
286	2502	弥生土器	壺	SK3	12.2	28.5	外面ハツカキ、内面ナデ	やや粗	10YR5/4	良	底部2/3	磨減が激しく調整不明
287	20901	弥生土器	壺	SK3	底径4.6		外面ハツカキ、内面ナデ	やや粗	2.5Y6/2	良	体部完存	体部下半に穿孔 磨減が激しく調整不明
288	21001	弥生土器	壺	SK3	底径6.1		内面上半ナデ、下半ハラクスリ	やや粗	7.5YR6/4	良	底部完存	磨減が激しく調整不明
289	21201	弥生土器	壺	SK3	底径5.8		内面上半ナデ、他はハケス	粗	10YR7/3	良	底部完存	磨減が激しく調整不明 底部に黒斑
290	20801	弥生土器	壺	SK3	底径5.2		外面ハツカキ、内面ハケス	やや粗	10YR8/6	良	底部完存	外面に黒斑 磨減が激しく調整不明
291	20602	弥生土器	甕	SK3	14.8	18.9	外面ハケス、内面未調整	粗	10R6/6	良	3/5	口縁端部外面列点文 体部外面横線文+列点文+横線文+波状文 体部外面に黒斑 赤彩?
292	2501	弥生土器	甕	SK3	8.3	9.8	外面ハケス 内面上半ナデ、下半ハラクスリ	粗	5Y6/1	良	完存	
293	20902	弥生土器	甕	SK3	13.2		外面ハケス、内面ナデ	やや粗	5YR7/4	良	口縁部1/2	口縁端部外面列点文 体部外面列点文+横線文 内面に爪痕 磨減が激しく調整不明
294	2002	弥生土器	甕	SK3	13.9	20.9	外面ハケス、内面ナデ	やや粗	10YR6/3	良	底部完存	口縁端部外面列点文 体部外面横線文+列点文+横線文+波状文
295	21204	弥生土器	甕	SK3	14.7		外面ハケス、内面未調整	やや密	10YR6/4	良	口縁部1/3	口縁端部外面列点文 体部外面横線文+横線文+波状文
296	2101	弥生土器	甕	SK3	14.7		外面ハケス、内面未調整	粗	2.5Y8/2	やや不良	口縁部3/8	口縁端部外面列点文 体部外面横線文+列点文+横線文+波状文 磨減が激しく調整不明
297	20601	弥生土器	甕	SK3	13.8	23.0	外面ハケス、内面未調整	やや粗	10YR6/3	良	3/4	口縁端部外面列点文 体部外面横線文+列点文+横線文+波状文 体部外面に黒斑 外面ス
298	2201	弥生土器	甕	SK3	20.1		外面ハケス、内面ナデ	粗	外 10R6/6 内 10YR4/1	やや不良	口縁部1/2	口縁端部外面列点文 磨減が激しく調整不明
299	20701	弥生土器	甕	SK3	11.7	14.3	外面ハケ、内面一帯ハケス	やや粗	10YR6/4	良	ほぼ完存	波状文+横線文+波状文
300	21002	弥生土器	甕	SK3	11.5	18.6	外面ハケス、内面ハラクスリ	やや密	10YR8/4	良	口縁部5/12	
301	2301	弥生土器	甕	SK3	14.2	19.6	外面ハケス、内面ハラクスリ	やや密	10YR6/3	良	口縁部完存	口縁部外面に黒斑
302	2601	弥生土器	高杯	SK3	26.1	22.3	脚部内面ツボリ痕、他はハツカキ	密	7.5YR7/6	良	完存	体部外面横線文+列点文+横線文+ 波状文+横線文+波状文
303	21202	弥生土器	高杯	SK3	底径8.6		外面ハツカキ、内面未調整	やや密	10YR5/3	良	脚柱部1/3	

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
304	21101	弥生土器	高杯	SK3	底径13.1		外面ヘラカキ、内面シカリ痕	粗	10YR6/4	良	脚柱部ほぼ完	脚部外面横線文2段透孔4方2段 赤彩 脚部外面横線文5段 透孔3方+5方 裾部に黒斑
305	20702	弥生土器	高杯	SK3	底径13.7		筒部内面シカリ痕、外面ヘラカキ	密	10YR7/4	良	脚部ほぼ完存	口縁部外面列点文 外面赤彩？ 口縁部外面列点文+横線文+波状文 筒部横線文+透孔6方 外面磨滅が激しく調整不明瞭
306	2302	弥生土器	脚付甕	SK3	13.5	16.8	外面ハケム、内面ナデ	粗	2.5YR6/3	良	口縁部1/6	
307	2701	弥生土器	器台	SK3	27.0		外面不明、内面ハケム	粗	10YR7/3	良	口縁部1/4	
308	3602	土師器	皿	SK4	13.6	1.5	底部外面未調整、他はナデ	密	7.5Y5/6	良	口縁部1/12	磨滅が激しく調整不明
309	3603	土師器	甕	SK4	24.3		口縁部ナデ	やや粗	2.5Y8/3	良	口縁部1/6	高台に沈線
310	3701	須恵器	杯	SK4	12.4	3.8	口縁部ナデ	密	5Y7/1	良	底部完存	
311	3601	須恵器	杯	SK4	13.0	3.8	底部外面未調整、他は口縁部ナデ	密	2.5Y7/1	不良	底部完存	
312	3604	須恵器	甕	SK4	29.0		口縁部ナデ	やや密	2.5Y7/2	良	口縁部1/6	
313	3201	土師器	甕	SK6	23.0		内外面ハケム	やや粗	7.5YR7/4	良	口縁部1/4	
314	3202	土師器	甕	SK6	24.6		内外面ハケム	やや密	10YR8/2	不良	口縁部1/4	
315	2801	須恵器	壺	SK7	底径13.8		外面口縁部ナデ、内面口縁部ナデ	密	外 N5/ 内 5Y6/1	良	底部1/3	
316	2904	土師器	杯	SK8	11.0		内外面ナデ	密	7.5YR7/8	良	口縁部1/2	
317	2903	土師器	杯	SK8	12.3		外面未調整、内面ナデ	密	7.5YR7/6	良	口縁部1/4	
318	3005	土師器	杯	SK8	11.8	3.5	外面未調整、内面ナデ	密	7.5YR6/6	良	口縁部1/6	
319	3103	土師器	杯	SK8	12.6	3.1	外面未調整、内面ナデ	密	5YR6/6	良	口縁部1/4	磨滅が激しく調整不明
320	2905	土師器	杯	SK8	13.8		外面未調整、内面ナデ	密	10YR7/4	良	口縁部1/8	磨滅が激しく調整不明
321	3003	土師器	杯	SK8	12.6	3.1	外面未調整、内面ナデ	密	10YR8/2	良	口縁部5/12	
322	3004	土師器	杯	SK8	13.1	3.4	外面未調整、内面ナデ	密	10YR6/4	良	口縁部1/4	
323	3104	土師器	皿	SK8	15.7	2.1	外面一部ヘラカキ、内面ナデ	やや密	5YR7/6	不良	口縁部1/2	口縁部内面に沈線 磨滅が激しく調整不明瞭
324	3001	土師器	皿	SK8	17.8	2.1	外面底部未調整、ヘラカキ 内面ナデ	密	10YR7/4	良	口縁部1/6	
325	3102	土師器	甕	SK8	14.8		内外面ハケム	密	5YR7/4	良	口縁部1/2	磨滅が激しく調整不明瞭
326	2902	土師器	甕	SK8	14.4		外面ヘラカキ、内面ナデ	やや粗	7.5YR7/4	良	口縁部5/12	外面磨滅が激しく調整不明瞭 内面にヘラ状工具痕
327	2901	土師器	甕	SK8	24.1		内外面ハケム	密	7.5Y6/4	良	口縁部1/6	
328	3101	土師器	甕	SK8	23.8		内外面ハケム	密	7.5YR7/6	良	口縁部1/4	
329	3002	製塩土器	鉢	SK8	-		外面ハケム	粗	2.5YR6/4	不良	底部小片	磨滅が激しく調整不明
330	2907	鉄製品	鉄鏃	SK8	(8.8)×4.5			-	-	-	ほぼ完存	
331	2906	鉄製品	鎌	SK8	長さ(20.1)			-	-	-	刃部ほぼ完存	
332	3401	土師器	羽釜	SK9	20.0		外面ハケム、内面ナデ	粗	2.5Y8/2	良	口縁部1/6	体部外面スス
333	3402	土師器	鍋	SK9	-		ナデ	やや粗	10YR7/3	良	口縁部小片	外面スス
334	3302	青磁	椀	SK9	底径5.2		底部外面口縁部ナデ、他は口縁部ナデ	密	7.5Y7/1	良	底部7/12	施釉のため調整不明瞭
335	3303	山茶椀	小皿	SK9	底径4.6		底部外面糸切痕、他は口縁部ナデ	粗	5Y7/1	良	底部完存	底部外面に板圧痕
336	3304	山茶椀	小皿	SK9	8.2	1.4	底部外面糸切痕、他は口縁部ナデ	粗	2.5Y8/1	良	口縁部1/3	
337	3307	山茶椀	椀	SK9	底径6.2		底部外面糸切痕、他は口縁部ナデ	粗	2.5Y8/1	良	底部完存	高台にモカウ痕 内面磨滅
338	3309	山茶椀	椀	SK9	底径8.0		外面未調整、他は口縁部ナデ	粗	5Y8/1	良	底部1/2	高台にモカウ痕 内面磨滅
339	3305	山茶椀	椀	SK9	15.7	5.0	底部外面糸切痕、他は口縁部ナデ	粗	2.5Y8/1	良	口縁部5/8	高台にモカウ痕 内面やや磨滅
340	3301	山茶椀	鉢	SK9	30.2		底部外面下半ヘラカキ 他は口縁部ナデ	粗	7.5Y7/1	良	口縁部1/12	
341	5601	弥生土器	壺	SK10	9.6	23.1	外面ハケム、内面未調整	やや密	10YR7/3	良	口縁部完存	体部外面列点文+波状文 頸部・体部に焼成後穿孔 体部に黒斑
342	10905	弥生土器	甕	SK11	14.2		外面ハケム、内面ナデ	やや粗	7.5YR6/3	良	口縁部7/8	口縁部部に刻目
343	10906	弥生土器	台付甕	SK11	15.2		外面ハケム、内面未調整	やや粗	10YR6/4	良	口縁部1/2	口縁部外面列点文 体部外面横線文+列点文
344	10904	弥生土器	台付壺	SK11	底径9.0		台部外面ハケム、内面ナデ	やや粗	10YR7/3	良	台部ほぼ完存	
345	10903	弥生土器	台付壺	SK11	底径7.4		台部外面ハケム、内面ナデ	やや粗	10YR5/2	良	台部ほぼ完存	
346	10902	弥生土器	台付壺	SK11	底径9.8		台部外面ハケム、内面ナデ	やや粗	10YR7/2	良	台部1/12	台部列点文 磨滅が激しく調整不明
347	10901	弥生土器	高杯	SK11	底径10.4		脚部外面ヘラカキ、内面ナデ	やや密	10YR7/3	良	脚部1/6	

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
348	10302	須恵器	蓋	SK12	17.0		天井部外面ロクロスリ 他はロクロナデ	密	2.5Y7/1	不良	口縁部1/6	
349	10303	製塩土器	鉢	SK12	12.4	5.6		やや粗	5YR6/8	良	口縁部1/12	
350	9201	土師器	杯	SK13	13.0			やや粗	5YR6/6	良	口縁部1/8	磨滅が激しく調整不明
351	9203	須恵器	蓋	SK13	17.4	3.3	天井部外面ロクロスリ 他はロクロナデ	密	5Y8/1	不良	口縁部1/4	
352	9202	須恵器	杯	SK13	13.0	3.4	底部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	密	5Y6/1	良	1/2	
353	10007	土師器	杯	SK14	13.8	2.8	ナデ	やや粗	5YR7/6	良	口縁部1/3	
354	10402	土師器	皿	SK14	17.7	1.4	底部外面未調整、内面ナデ	やや粗	7.5YR7/3	良	口縁部5/12	須恵器の酸化焼成？
355	10401	土師器	皿	SK14	18.9	2.4	底部外面未調整、他はナデ	やや粗	10YR7/3	良	1/2	口縁部に黒斑 須恵器の酸化焼成？
356	10507	土師器	甕	SK14	15.8			粗	5YR8/3	良	口縁部1/4	磨滅が激しく調整不明
357	10601	土師器	甕	SK14	30.2		ハケム	やや粗	7.5YR6/4	良	口縁部1/6	
358	10602	土師器	甕	SK14	29.8		ハケム	やや粗	7.5YR5/4	良	口縁部1/12	
359	10504	須恵器	蓋	SK14	11.5	4.6	天井部外面ヘラケリ、他はロクロナデ	やや粗	10YR7/1	不良	口縁部1/3	
360	10505	須恵器	杯	SK14	12.2	3.7	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや粗	5YR8/2	不良	口縁部1/4	
361	10506	須恵器	杯	SK14	12.6	4.1	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや粗	N6/	良	口縁部1/4	
362	10407	須恵器	杯	SK14	12.8	3.9	ロクロナデ	密	7.5Y8/1	不良	口縁部1/6	磨滅が激しく調整不明瞭
363	10503	須恵器	杯	SK14	底径9.2		底部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	やや密	N6/	良	底部1/2	
364	10405	須恵器	杯	SK14	16.5	3.9	底部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	密	N6/	良	底部3/4	
365	10502	須恵器	壺	SK14	底径9.8		底部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	やや密	N7/	良	底部完存	
366	10403	須恵器	平瓶	SK14	底径12.0		体部外面下半ロクロスリ 他はロクロナデ	やや粗	5Y6/1	良	底部11/12	
367	10702	須恵器	平瓶	SK14	-		ナデ	やや粗	N7/	良	把手部小片	
368	10701	須恵器	甕	SK14	-		外面ハケム、内面同心円文	やや密	N5/	良	小片	壺？3方に環状把手
369	10301	灰釉陶器	椀	SK15	底径7.2		外面ロクロスリ、内面ロクロナデ	密	N8/	良	底部1/4	内面磨耗 墨痕(転用硯)
370	11504	土師器	杯	SK16	10.4		外面未調整、内面ナデ	密	7.5YR6/1	良	口縁部1/6	
371	11603	土師器	杯	SK16	12.1	2.9	外面未調整、内面ナデ	やや密	5YR7/6	良	口縁部1/3	
372	11601	土師器	杯	SK16	12.1	3.5	外面未調整、内面ナデ	やや密	10YR7/4	良	口縁部1/4	
373	11506	土師器	杯	SK16	12.7	3.5	外面未調整、内面ナデ	やや密	7.5YR6/6	良	ほぼ完存	
374	11602	土師器	杯	SK16	12.5	3.7	外面未調整、内面ナデ	やや密	7.5YR7/4	良	口縁部1/4	
375	11507	須恵器	壺	SK16	9.8		ロクロナデ	やや密	7.5Y6/1	良	頸部1/4	
376	11503	須恵器	円面硯	SK16	最大径17.8		ロクロナデ	密	5Y7/1	良	陸部1/12	内面磨滅 陸部磨耗
377	11605	灰釉陶器	椀	SK16	17.0		体部下半ロクロスリ、他はロクロナデ	密	7.5Y7/1 紺 7.5Y6/1	良	口縁部1/16	灰釉刷毛塗り
378	11604	灰釉陶器	椀	SK16	17.0		体部下半ロクロスリ、他はロクロナデ	粗	7.5Y7/1 紺 7.5Y6/1	良	口縁部1/12	灰釉刷毛塗り
379	11606	灰釉陶器	椀	SK16	17.6		ロクロナデ	密	2.5Y8/1 紺 緑灰	良	口縁部1/12	灰釉刷毛塗り
380	11505	灰釉陶器	皿	SK16	14.2	1.9	ロクロナデ	密	5Y7/1 紺 5Y5/3	良	口縁部1/18	灰釉刷毛塗り 内面にトチン痕
381	11607	土製品	土錘	SK16	(4.4)×2.2	4.6	ナデ	やや密	10YR7/2	良	ほぼ完存	重さ(17.4g)
382	11501	製塩土器	鉢	SK16	-			やや粗	10YR8/2	良	口縁部小片	磨滅が激しく調整不明
383	11502	製塩土器	鉢	SK16	-	5.4		やや粗	5YR6/8	良	口縁部小片	磨滅が激しく調整不明
384	11702	土師器	皿	SK17	8.4	1.5	底部外面未調整、他はナデ	やや密	10YR8/1	良	口縁部1/6	
385	11704	土製品	土錘	SK18	4.1×1.1		ナデ	密	2.5Y8/2	良	ほぼ完存	重さ(4.4g)
386	11705	土製品	土錘	SK19	4.5×3.5		ナデ	密	2.5Y8/1	良	ほぼ完存	重さ(36.6g)
387	11707	土製品	土錘	SK19	(5.0)×3.8		ナデ	密	5Y8/2	良	2/3	重さ(48.6g)
388	11706	土製品	土錘	SK19	7.0×3.7		ナデ	密	2.5Y8/2	良	ほぼ完存	重さ(73.0g)
389	11703	土師器	甕	SK20	17.6		ハケム	やや粗	10YR7/3	良	口縁部1/6	口縁部外面に沈線
390	16403	須恵器	蓋	SK21	11.2	3.7	天井部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	やや粗	10Y6/1	良	口縁部1/3	
391	16401	土師器	甕	SK22	21.8		外面ハケム、内面ナデ	やや密	10YR6/3	良	口縁部1/6	
392	16402	土師器	杯	SK22	(12.0)		内面ナデ、外面ヘラケリ	やや密	2.5YR6/3	良	口縁部1/12	内面放射暗文
393	16301	須恵器	蓋	SK22	11.4	4.1	天井部外面未調整、他ロクロナデ	やや粗	N7/	良	天井部ほぼ完	
394	16302	須恵器	杯	SK22	10.1		ロクロナデ	やや密	N6/	良	口縁部小片	
395	16303	須恵器	蓋	SK22	10.6		天井部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	やや粗	N6/	良	口縁部1/3	



報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
396	16304	須恵器	蓋	SK22	12.0	2.9	天井部外面ロクロスリ、他はロクロナデ、他はロクロナデ	やや粗	外7.5Y4/1 内N6/	良	口縁部1/6	
397	16306	須恵器	蓋	SK22	11.0		口縁端部外面ロクロスリ	やや粗	N6/	良	口縁部1/12	外面自然釉のため調整不明瞭
398	16305	須恵器	蓋	SK22	11.6		ロクロナデ	やや粗	N6/	良	1/6	
399	16307	須恵器	杯	SK22	11.4		底部外面未調整、他はロクロナデ	やや粗	5Y8/1	不良	口縁部1/6	
400	16309	須恵器	杯	SK22	底径10.3		ロクロナデ	やや密	N6/	良	底部1/12	
401	16308	須恵器	杯	SK22	-	3.1	ロクロナデ	粗	N4/	良	小片	
402	16310	須恵器	高杯	SK22	底径9.6		ロクロナデ	やや粗	N3/	良	底部5/12	内面自然釉のため調整不明瞭
403	16601	土師器	甕	SK23	25.0		ハケム	やや密	10YR8/3	良	口縁部1/4	
404	16502	土師器	杯	SK23	10.8	2.9	外面未調整、内面ナデ	やや密	7.5YR8/3	良	ほぼ完存	内面螺旋暗文
405	16504	土師器	甕	SK23	15.7		外面ハケム、内面ナデ	やや粗	外 5YR8/1 内 5YR2/1	良	口縁部1/4	
406	16503	須恵器	壺	SK23	底径12.2		底部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	やや粗	N8/	良	底部1/6	自然釉のため調整不明瞭
407	16505	須恵器	甕	SK23	17.6		ロクロナデ	やや密	N7/	良	口縁部1/12	口縁端部内面に凸線一条
408	16506	土師器	皿	SK23	7.6	1.1	外面未調整、内面ナデ	やや粗	7.5YR7/4	良	1/4	
409	16501	山茶碗	碗	SK23	14.4	5.6	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	N7/	良	ほぼ完存	体部外面に墨書「の」高台にモミガヲ痕
410	木105	容器	曲物(底板)	SK23	径(15.0)	厚さ1.0		-	-	-	-	
411	16801	土師器	皿	SK24	20.2	2.3	内面ミガキ、 外面はヘラケスリ後ヘラミガキ	粗	外 10YR6/4 内 5YR6/4	良	ほぼ完存	内面斜格子暗文+螺旋暗文
412	16802	須恵器	杯	SK24	11.3	3.8	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密	N4/	良	4/5	
413	木204	不明品	杯	SK24	(62.4)×(3.4)	厚さ(4.7)		-	-	-	-	
414	16901	土師器	甕	SK25	36.4		ハケム	やや密	10YR6/4	良	口縁部1/12	
415	16902	須恵器	杯	SK25	11.5	4.2	底部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	やや粗	N5/	良	口縁部1/4	内面焼き膨れ有り
416	37004	土製品	土馬	SK25	-		一部ハケム	やや粗	7.5YR6/4	良	小片	
417	16903	須恵器	臍	SK25	体径9.8		体部外面下半ロクロスリ 他はロクロナデ	やや粗	N8/	不良	体部完存	
418	19701	磁器	湯呑	SK30	6.5	5.7	ロクロナデ	密	N8/ 釉 藍	良	1/2	外面絵柄
419	19702	磁器	猪口	SK30	4.7	2.2	ロクロナデ	密	N8/ 釉 藍	良	1/3	外面絵柄
420	木107	不明品		SK30	(9.9)×(2.2)	厚さ(1.5)		-	-	-	-	
421	木103	容器	碗	SK33	底径5.8			-	2.5Y8/1	-	底部1/8	内外面赤漆 底部外面墨書「一」 樹種ブナ
422	木102	容器	碗	SK33	底径5.8			-	10R3/3	-	底部1/8	外面黒漆 内面赤漆 樹種トチ
423	木101	不明品		SK34	(5.1)×(5.9)	厚さ1.3		-	-	-	-	中央に楕円孔?
424	19902	磁器	碗	SK35	10.6		ロクロナデ	密	N8/ 釉 藍	良	口縁部1/10	内外面絵柄 伊万里
425	19804	磁器	仏飯具	SK35	底径3.7		底部外面糸切りの痕、他はロクロナデ	密	N8/ 釉 灰緑	良	脚部完存	瀬戸?
426	19803	陶器	播鉢	SK35	底径8.8		外面ロクロスリ、内面卸し目	やや密	2.5Y8/1	良	底部1/8	
427	19802	陶器	播鉢	SK35	37.7		外面ロクロスリ、内面卸し目	やや粗	2.5Y8/2 釉 5YR6/8	良	口縁部1/10	
428	19801	陶器	甕	SK35	38.0		内面未調整、他はロクロナデ	やや粗	10R4/4 釉 7.5YR3/1	良	口縁部1/10	常滑
429	木502	装着具	下駄	SK35	(13.8)×6.8	厚さ1.6		-	-	-	-	
430	20001	磁器	碗	SK37	11.0		ロクロナデ	密	N8/ 釉 藍	良	口縁部1/4	内外面絵柄
431	20002	瓦質土器	焙烙	SK37	35.1		ヨコナデ	密	N4/	良	口縁部1/6	外面スス
432	20003	瓦質土器	焙烙	SK40	34.4		ヨコナデ	密	外 2.5Y5/1 内 N4/	良	口縁部1/12	外面スス
433	20004	陶器	香炉	SK40	8.3	5.3	外面ロクロスリ、内面ロクロナデ	やや粗	N6/ 釉 2.5GY7/1	良	ほぼ完存	瀬戸美濃 二次焼成
434	20101	磁器	碗	SK40	8.0	4.4	ロクロナデ	密	N8/ 釉 藍	良	1/4	底部内面に絵柄

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項	
435	20102	磁器	椀	SK40	10.4	5.7	ロクロナデ	密	N8/釉 藍	良	完存	内外面絵柄	
436	木104	不明品		SK40	(7.0)×(18.4)	厚さ2.5		-	-	-			
437	木702	装着具	下駄	SK40	(22.4)×8.7	厚さ1.2		-	-	-			
438	21301	山茶碗	碗	SK41	底径3.8		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	5Y8/1	良	底部ほぼ完存	底部外面に墨書 高台ほとんど剥離	
439	24406	土師器	鉢	SK42	-		ヨコナデ	密	10YR6/2	良	口縁部小片	外面ス	
440	24404	土師器	鍋	SK42	-		ヨコナデ	やや粗	10YR7/3	良	口縁部小片	外面ス	
441	24405	土師器	鉢	SK42	-		ヨコナデ	やや粗	10YR6/3	良	口縁部小片	外面ス	
442	24402	山茶碗	小皿	SK42	8.1	1.7	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	2.5YR7/1	良	完存	底部外面に墨書「きくや」	
443	24401	山茶碗	碗	SK42	13.6	5.7	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	10YR7/1	良	ほぼ完存	高台にモカウ痕 底部外面に墨書「きくや」	
444	24403	山茶碗	碗	SK42	13.0	4.6	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	10YR7/1	良	1/3		
445	木1601	容器 曲物(底板)		SK42	径11.4	厚さ0.8		-	-	-			
446	26305	土師器	甕	SK43	17.2		内外面ハケム	密	2.5Y7/2	良	口縁部1/12		
447	26304	土師器	鉢	SK43	28.4		ヨコナデ	やや粗	7.5Y3/1	良	口縁部1/12	外面ス	
448	26302	山茶碗	碗	SK43	底径7.2		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	2.5Y8/1	良	底部完存	内面磨耗	
449	26303	山茶碗	碗	SK43	底径6.7		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	5Y7/1	良	底部3/4	内面磨耗 高台にモカウ痕	
450	26301	山茶碗	碗	SK43	底径6.0		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	7.5Y7/1	良	底部完存	高台にモカウ痕	
451	24901	山茶碗 小皿		SK44	8.0	1.5	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	N8/	良	ほぼ完存	内面磨耗	
452	木1501	板状木製品	不明品	SK44	8.8×27.0	厚さ0.6		-	-	-			
453	25201	山茶碗	碗	SK45	13.5	4.7	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	2.5Y7/1	不	ほぼ完存	緊縛紐1 孔2	
454	27402	土師器	碗	SK47	底径9.2		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	2.5Y8/3	やや不良	底部1/3	底部外面に墨書 瀬戸風尾張(縮書)	
455	27403	土師器	碗	SK47	底径10.2		ロクロナデ	やや密	2.5Y8/3	やや不良	底部5/12	磨減が激しく調整不明	
456	27404	須恵器	高杯	SK47	-		ロクロナデ	密	5GY5/1	良	口縁部小片	磨減が激しく調整不明	
457	27401	土師器	甕	SK47	-		ヨコナデ・ハケム	やや粗	10YR7/3	良	口縁部小片		
458	26701	弥生土器	壺	SK48	8.6			粗	7.5Y7/4	良	口縁部5/12	磨減が激しく調整不明	
459	26703	弥生土器	高杯	SK48	底径7.2		杯部内外面ヘラガキ、脚部ナデ	やや密	10YR4/2	良	脚部5/12		
460	26904	土師器	杯	SK49	11.9	2.8	外面未調整、内面ナデ	密	10YR8/3	良	口縁部1/4		
461	27002	土師器	杯	SK49	12.4	3.2	底部外面簡單ナデ、内面ナデ	密	外 5YR8/3 内 10YR8/2	良	ほぼ完存		
462	27001	土師器	杯	SK49	12.6	3.3	外面未調整、内面ナデ	密	5YR8/4	良	完存		
463	26903	土師器	杯	SK49	13.0	2.9	外面未調整、内面ナデ	やや密	7.5YR7/4	良	口縁部1/4	口縁端部内面に沈線	
464	26804	土師器	杯	SK49	13.0	3.2	外面未調整、内面ナデ	やや密	7.5Y8/3	良	ほぼ完存	口縁部に黒斑	
465	26805	土師器	杯	SK49	13.1	3.5	底部外面に簡單ナデ、内面ナデ	やや密	7.5YR8/4	良	口縁部1/10		
466	27102	土師器	杯	SK49	13.2	3.6	外面未調整、内面ナデ	密	7.5YR8/3	良	完存	底部に黒斑	
467	26803	土師器	杯	SK49	13.3	3.2	外面未調整、内面ナデ	やや密	2.5Y8/2	良	ほぼ完存	内面放射暗文? 体部に黒斑	
468	26905	土師器	杯	SK49	13.3	3.5	外面未調整、内面ナデ	密	10YR8/3	良	ほぼ完存	外面に黒斑	
469	26902	土師器	甕	SK49	15.6		外面ハケム、内面ナデ	粗	10YR8/3	良	口縁部1/4	口縁端部外面に凹線	
470	26901	土師器	甕	SK49	25.0		外面ハケム、内面工具ナデ	やや粗	10YR6/4	良	口縁部1/6		
471	27105	黒色土器	皿	SK49	14.0	4.0	内外面ヘラガキ	やや密	外 10YR7/4 内 5Y2/1	良	1/4	A類	
472	26801	黒色土器	杯	SK49	16.9	3.8	外面ヘラガキ、内面ヘラガキ	密	2.5Y3/1	良	口縁部1/3	A類	
473	27202	須恵器	碗	SK49	底径7.6		底部外面ヘラ切痕、他はロクロナデ	やや密	5Y6/1	良	底部5/6	内面に墨痕	
474	27104	須恵器	杯	SK49	12.8	3.5	底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y7/2	良	ほぼ完存		
475	27103	灰釉陶器	蓋	SK49	13.4	3.5	天井部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	密	5Y7/1 釉 7.5Y5/3	良	ほぼ完存	灰釉刷毛塗り 口縁部融着	
476	27206	灰釉陶器	碗	SK49	底径6.4		ロクロスリ、ロクロナデ	密	2.5Y8/1	良	底部1/3	内面磨耗	
477	27205	灰釉陶器	碗	SK49	底径7.0		底部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	密	5Y8/1	良	底部完存	灰釉刷毛塗り 内面磨耗	
478	27207	灰釉陶器	碗	SK49	底径7.0		ロクロナデ	密	5Y8/1	良	底部1/3		
479	27203	灰釉陶器	碗	SK49	底径7.1		底部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	密	5Y8/2 釉 5Y6/2	良	底部完存	灰釉刷毛塗り 直接重ね焼き	
480	27204	灰釉陶器	皿	SK49	13.8	3.8	底部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	密	7.5Y8/1	良	底部完存	灰釉刷毛塗り 内面磨耗	
481	27101	灰釉陶器	皿	SK49	14.4	2.8	底部外面未調整、他はロクロナデ	密	2.5Y8/2	やや不良	底部完存	釉なし	
482	27106	灰釉陶器	碗	SK49	16.8	4.3	底部外面ヘラガキ 体部下半ロクロスリ、他はロクロナデ	密	2.5Y8/1	良	完存	底部外面に墨痕?	
483	27003	土製品	土鏝	SK49	4.8×1.9			密	2.5Y8/2	良	ほぼ完存	重さ(15.4g)	

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
484	26802	製塩土器	鉢	SK49	14.0	5.7	外面未調整、内面ナデ	粗	5YR7/6	良	口縁部1/3	
485	1507	山茶碗	小皿	近世土坑SK50	7.8	2.1	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	7.5Y6/1	良	底面完存	内面やや磨耗
486	1803	山茶碗	碗	近世土坑SK54	底径6.1		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	5Y7/1	良	底部完存	高台にモカワ痕 内面に墨付着
487	1504	土師器	皿	近世土坑SK56	9.6	1.6	外面未調整	密	2.5Y8/3	良	1/6	
488	1502	土師器	皿	近世土坑SK56	11.0		ナデ	密	2.5Y8/3	良	口縁部1/3	
489	1503	土師器	皿	近世土坑SK56	12.9		ナデ	密	外 7.5YR7/6 内 10YR8/3	良	口縁部1/12	
490	1601	土師器	焙烙	近世土坑	42.8		ヘラクスリ	密	外 7.5YR2/1 内 7.5YR8/6	良	1/8	外面ス
491	1102	土師器	焙烙	近世土坑SK53	39.8		外面ヘラクスリ、内面ナデ	密	7.5YR6/6	良	口縁部7/12	外面に鉄滓
492	1505	陶器	壺	近世土坑SK56	19.8		ロクロナデ	密	10R4/3	良	口縁部1/12	
493	1001	陶器	皿	近世土坑SK51	11.6			密	7.5GY8/1	良	口縁部1/6	
494	1305	陶器	皿	近世土坑SK57	7.8		外面ロクロスリ、内面ロクロナデ	密	2.5Y8/3 釉 2.5YR4/3	良	口縁部1/4	灯明受皿
495	1304	陶器	蓋	近世土坑SK57	5.4		ロクロナデ	密	5Y8/2 釉 緑/白斑	良	3/4	信楽 青土瓶蓋
496	1306	陶器	乗燭	近世土坑SK57	4.5	2.5	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	10Y8/1 釉 2.5GY8/1	良	口縁部1/2	
497	1501	陶器	皿	近世土坑SK55	11.7	2.4	底部外面ロクロクスリ、他はロクロナデ	密	白/黒茶	良	1/2	瀬戸
498	1302	陶器	湯呑	近世土坑SK57	-		ロクロナデ	やや密	2.5Y7/1 釉 5Y8/1	良	口縁部小片	瀬戸・美濃
499	1203	陶器	皿	近世土坑SK57	-		ロクロナデ	密	白/茶	良	口縁部小片	馬目皿
500	1404	陶器	雪平	近世土坑SK57	16.8			密	7.5Y8/2	良	口縁部1/4	信楽
501	1307	陶器	湯呑	近世土坑SK57	底径2.8			密	7.5Y8/1 釉 7.5GY8/1	良	底部完存	瀬戸・美濃
502	1005	陶器	碗	近世土坑SK53	8.6	5.8	底部外面ロクロクスリ、他はロクロナデ	密	7.5Y8/1 釉 7.5YR4/4	良	2/3	瀬戸 美濃
503	1006	陶器	碗	近世土坑SK53	9.4	6.4	底部外面ロクロクスリ、他はロクロナデ	密	7.5Y8/1 釉 7.5YR4/4	良	口縁部1/4	瀬戸 美濃
504	1002	磁器	壺	近世土坑SK53	底径8.0			密	5Y8/1 釉 白	良	底部5/12	
505	1103	ブイゴ	羽口	近世土坑SK53	-		外面ヘラクスリ	粗	7.5YR5/4	良	小片	
506	1007	陶器	甕	近世土坑SK53	底径13.7		ナデ	粗	2.5YR4/3	良	底部完存	常滑
507	1403	陶器	鉢	近世土坑SK57	21.4			密	7.5Y7/2	良	口縁部1/12	瀬戸
508	1101	陶器	播鉢	近世土坑SK53	35.4		ロクロナデ	やや粗	2.5YR4/3	良	口縁部1/12	
509	1205	陶器	播鉢	近世土坑SK57	-		外面ロクロクスリ、口縁部ロクロナデ	密	5YR3/3	良	底部小片	内面に刻印「㊦」瀬戸
510	1204	石製品	砥石	近世土坑SK57	9.4×2.7	厚さ2.0		-	-	-		重さ70.0g 凝灰岩
511	905	陶器	皿	近世土坑SK52	底径5.7			密	5Y8/1 釉 5GY7/1	良	底部完存	御深井釉 木瓜形皿
512	1701	陶器	甕	近世土坑SK51	39.0		ロクロナデ	粗	外 10R5/3 内 10YR8/3	良	口縁部1/12	常滑
513	1802	陶器	播鉢	近世土坑SK52	38.0		外面ロクロクスリ、口縁部ロクロナデ	やや密	2.5Y8/3 釉 7.5YR3/3	良	口縁部1/12	瀬戸・美濃
514	1801	陶器	播鉢	近世土坑SK52	45.7		外面ロクロクスリ、口縁部ロクロナデ	やや密	2.5Y8/2 釉 5YR4/4	良	口縁部1/12	瀬戸・美濃
515	1508	陶器	皿	近世土坑SK60	10.8	2.5	外面ロクロクスリ、内面ロクロナデ	密	7.5YR5/3	良	口縁部1/12	瀬戸
516	1805	陶器	甕	近世土坑SK52	66.2		ロクロナデ	やや密	10YR8/3	良	口縁部1/12	常滑
517	1003	磁器	碗	近世土坑SK53	底径4.0			密	7.5GY8/1 釉 10BG6/1	良	底部完存	直接重ね焼き 肥前
518	903	磁器	碗	近世土坑SK52	底径3.8			密	5Y8/1 釉 青	良	底部1/2	波佐見
519	901	磁器	碗	近世土坑SK52	9.5	5.1		密	10Y8/1 釉 青	良	3/4	波佐見
520	904	磁器	碗	近世土坑SK52	10.2	5.7		密	10Y8/1 釉 青	良	1/4	波佐見

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
521	902	陶器	碗	近世土坑SK52	9.6	5.9	ロクロナデ	やや密 5Y8/1 釉 薄青緑	やや不 良	2/3	瀬戸	
522	1004	磁器	猪口	近世土坑SK53	底径3.4			密 白/青	良	底部完 存	肥前	
523	1303	磁器	小瓶	近世土坑SK57	-		内面ロクロナデ	密 白/藍	良	底部小 片	瀬戸?	
524	1201	磁器	碗	近世土坑SK57	9.4	5.0		密 白/藍	良	1/4	瀬戸	
525	1301	磁器	蓋	近世土坑SK57	9.2	2.5		密 白/藍	良	3/5	端反碗蓋	瀬戸
526	1202	磁器	碗	近世土坑SK57	底径3.6			密 白/青	良	底部完 存		
527	1402	磁器	小碗	近世土坑SK57	7.4	3.8		密 白/青	良	1/2	瀬戸	
528	1401	磁器	小碗	近世土坑SK57	8.2	4.2		密 白/青	良	1/2	瀬戸?	
529	1804	磁器	筒形湯呑	近世土坑SK59	底径3.7			密 7.5Y8/1	良	1/4	肥前?	
530	1506	磁器	紅皿	近世土坑SK58	4.4	1.2		密 白	良	1/4		
531	305	石製品	石匙	SD1	3.3×4.3	厚さ0.8		-	-	完 存	重さ7.5g	サヌカイ
532	301	弥生土器	壺	SD1	12.8		外面ハケス、内面ヘラスカキ	やや密 7.5Y7/4	良	口縁部1/6	口縁端部外面に刺突列点による斜格子文	
533	509	弥生土器	壺	SD1	9.1		口縁部外面ヘラスカキ、内面ハケス	やや密 7.5Y7/4	良	口縁部1/3		
534	404	弥生土器	壺	SD1	17.2		口縁部内外面ヘラスカキ、 体部外面ハケス、内面ナデ	やや密 7.5Y7/4	良	口縁部2/3	口縁端部外面浮文8方+刺突列点文 頸部に突帯+刺突列点文 体部に刺突列点文	
535	601	弥生土器	壺	SD1	13.9			粗 外 10YR7/3 内 10YR6/3	良	口縁部1/3	磨滅が激しく調整不明	
536	603	弥生土器	壺	SD1	底径6.4			粗 外 7.5YR7/6 内 5Y4/1	良	底部ほぼ完 存	磨滅が激しく調整不明	
537	604	弥生土器	壺	SD1	底径9.1			粗 外 10YR7/3 内 10YR4/1	良	底部1/2	磨滅が激しく調整不明	
538	602	弥生土器	壺	SD1	底径6.2		外面ヘラスカキ、内面ナデ	粗 外 10YR7/4 内 10YR3/1	良	底部1/2	磨滅が激しく調整不明	
539	302	土師器	甕	SD1	15.6		外面ハケス、内面未調整	やや粗 2.5Y4/2	良	口縁部1/8	口縁端部外面に刺突列点文	
540	303	土師器	甕	SD1	22.2		外面浅いハケス、内面ハケス	やや粗 2.5Y5/2	良	口縁部1/12		
541	401	土師器	甕	SD1	21.8		外面ハケス、内面ナデ	やや粗 7.5YR7/3	良	口縁部1/2		
542	606	土師器	甕	SD1	16.0		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや粗 10YR8/3	良	口縁部1/6	口縁端部外面及び頸部に沈線	
543	402	須恵器	杯	SD1	16.6		ロクロナデ	やや密 5Y7/1	良	底部1/2		
544	304	陶器	鉢	SD1	33.9		外面ハケス、内面同心円文	密 5Y7/2	良	口縁部1/12		
545	701	須恵器	甕	SD1	23.8		体部外面下半ヘラスカスリ、他はロクロナデ	密 10R4/2	良	口縁部1/12		
546	801	須恵器	鉢	SD1	27.2		内面ロクロナデ	やや密 5Y6/1	良	口縁部1/8		
547	505	須恵器	杯	SD1	底径12.1		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや密 5Y6/1	良	底部1/2		
548	702	緑釉陶器	碗	SD1	底径7.7		ロクロナデ	密 10YR6/1 釉 10YR4/1	良	底部1/6	三叉トチン痕 硬質	
549	506	陶器	壺	SD1	底径6.6		底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや密 2.5Y8/1	良	底部完 存		
550	608	山茶碗	碗	SD1	底径8.1		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密 2.5Y7/1	良	底部5/12	直接重ね焼き	
551	609	山茶碗	碗	SD1	底径7.1		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密 2.5Y7/1	良	底部1/2	内面磨耗 直接重ね焼き	
552	502	灰釉陶器	碗	SD1	底径7.9		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密 7.5Y8/1	良	底部完 存		
553	508	ロクロ土師器	皿	SD1	底径3.6		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密 2.5Y8/3	良	底部1/2		
554	605	土師器	皿	SD1	9.6		内面工具によるナデ、外面未調整	やや密 7.5YR8/6	良	ほぼ完 存		
555	504	山茶碗	碗	SD1	底径7.0		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密 2.5Y8/1	良	底部2/3	高台に砂痕 内面磨耗	
556	607	山茶碗	碗	SD1	底径7.3		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密 2.5Y7/1	良	底部1/2	高台に砂痕 内面磨耗	
557	503	山茶碗	碗	SD1	底径6.8		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密 7.5Y8/1	良	底部1/3	高台に砂痕 内面磨耗	
558	501	山茶碗	碗	SD1	底径7.2		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗 7.5Y7/1	良	1/2	高台にミカアラ痕 内面磨耗	
559	507	ロクロ土師器	碗	SD1	底径5.7		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密 5YR8/4	不良	底部完 存		
560	703	白磁	碗	SD1	11.8		ロクロナデ	密 5Y8/1 釉 5Y8/2	良	口縁部1/12		
561	802	瓦	平瓦	SD1	-		凹面布目痕 凸面細タキ痕 一部ヘラスカスリ	やや密 7.5Y7/1	良	小片	陶質	
562	405	須恵器	壺	SD1	-		ヘラスカスリ	密 N6/	良	脚部1片	獣足	
563	403	土製品	土玉	SD1	3.5×3.2		一部ヘラスカスリ、他はナデ	やや粗 5YR7/4	良	完 存	重さ37.2g	
564	803	瓦	瓦	SD1	-		ナデ	やや粗 5Y5/1	良	小片	陶質	
565	804	瓦	平瓦	SD1	-		凹面布目痕、凸面ナデ	やや粗 5YR6/6	良	小片	凹面にヘラスカスリ 土師質	



報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
566	22104	石製品	RF	SD2	3.70×2.45	厚さ1.00	ナデ	-	-	-	完存	重さ13.0g チャート 磨減が激しく調整不明瞭
567	21804	弥生土器	甕	SD2	21.2		外面ハケム、内面ナデ	やや粗	7.5YR8/4	良	口縁部1/4	
568	8701	土師器	甕	SD2	22.3		外面ハケム、内面ナデ	粗	10YR8/3	良	口縁部1/4	
569	21803	土師器	甕	SD2	15.4		外面未調整、内面工具ナデ	やや密	5YR8/4	良	口縁部1/6	
570	8703	土師器	甕	SD2	33.6		外面ハケム、内面工具ナデ	粗	7.5YR6/4	良	口縁部1/12	
571	8307	土師器	高杯	SD2	胴径3.8		脚柱部外面ハケム、内面ナデ	密	5YR7/4	良	脚柱部1/3	脚部八面に面取り 報572と同一個体か
572	8306	土師器	高杯	SD2	底径14.0		脚柱部外面ハケム、内面ナデ	密	外 7.5YR8/4 内 2.5Y8/3	良	脚部八面に面取り	
573	22001	土師器	皿	SD2	20.0		外面ハケム、内面ナデ	密	7.5YR7/8	良	口縁部1/5	磨減が激しく調整不明瞭
574	21501	須恵器	甕	SD2	31.8		外面ハケム、内面ナデ	やや密	N6/	良	口縁部1/10	
575	8103	須恵器	杯	SD2	底径5.6		底部外面未調整、他はロクロナデ	やや粗	5Y5/1	良	底部1/12	内面にヘラ記号「+」
576	8106	須恵器	高杯	SD2	14.4		杯部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや粗	N5/	やや不良	杯部1/4	杯部外面にヘラ記号
577	8504	須恵器	甕	SD2	-		ロクロナデ	密	外 2.5YR4/1 内 N8/	良	口縁部小片	
578	8502	須恵器	甕	SD2	-		外面ハケム、内面ロクロナデ	やや密	5Y4/1	良	口縁部小片	口縁部に刺突列点による羽状文
579	8102	須恵器	皿	SD2	14.2		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや密	7.5Y6/1	良	1/4	
580	8104	須恵器	杯	SD2	底径6.8		底部外面未調整、他はロクロナデ	やや粗	N5/	やや不良	底部1/4	
581	22002	須恵器	杯	SD2	13.9		底部外面ナデ、他はロクロナデ	密	7.5Y6/1	良	底部1/4	
582	36901	須恵器	器台	SD2	-		外面ハケム後ハケム、内面同心円文	粗	5Y5/1	良	底部小片	
583	8107	須恵器	壺	SD2	-		ロクロナデ	やや粗	N6/	良	脚部片	獣脚
584	8503	須恵器	甕	SD2	-		ロクロナデ	やや密	N6/	良	口縁部小片	口縁部外面に波状文
585	8501	須恵器	甕	SD2	-		外面ハケム、内面ロクロナデ	やや粗	外 10YR8/2 内 7.5Y3/1	良	口縁部小片	口縁部外面に刺突列点文
586	8603	須恵器	甕	SD2	-		ロクロナデ	やや密	外 5YR4/3 内 N8/	良	口縁部小片	口縁部外面に波状文
587	8602	須恵器	甕	SD2	-		ロクロナデ	やや密	外 2.5Y3/1 内 2.5Y5/1	良	口縁部小片	口縁部外面に刺突列点文+沈線
588	21502	須恵器	甕	SD2	26.0		口縁部ロクロナデ 体部内面同心円文	やや粗	N7/	良	口縁部1/4	口縁部外面に筒状工具による押圧文 +ヘラ状工具による押圧文
589	8601	須恵器	甕	SD2	36.0		ロクロナデ	やや密	N5/	良	口頸部1/6	口縁部外面に波状文+沈線
590	8304	土師器	皿	SD2	13.4	2.8	外面未調整、内面ナデ	密	外 7.5YR7/3 内 7.5YR8/3	良	口縁部1/8	
591	8303	土師器	皿	SD2	12.9	3.1	内外面ナデ、一部ヘラミカキ	密	外 5YR8/4 内 7.5YR8/4	良	口縁部1/6	磨減が激しく調整不明瞭
592	8302	土師器	皿	SD2	15.5		ナデ	密	2.5Y8/2	良	口縁部1/8	
593	7605	灰釉陶器	段皿	SD2	16.8		ロクロナデ	密	2.5Y7/1 釉 5Y5/2	良	口縁部1/8	灰釉刷毛塗り
594	8301	ロクロ土師器	椀	SD2	底径5.0		底部外面糸切痕他はロクロナデ	密	7.5YR8/2	不良	底部完存	磨減が激しく調整不明瞭
595	8203	ロクロ土師器	皿	SD2	10.4	1.7	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	7.5YR7/4	良	口縁部1/6	
596	8405	黒色土器	椀	SD2	14.3	4.1	外面未調整、内面ヘラミカキ	密	外 10YR8/2 内 5Y3/1	良	口縁部1/2	A類
597	8404	黒色土器	椀	SD2	14.9	4.3	内面ヘラミカキ、外面一部ヘラミカキ	密	外 10YR8/2 内 5Y3/1	良	1/3	A類
598	8406	黒色土器	椀	SD2	13.6	4.8	外面未調整、内面ヘケム	密	外 10YR8/2 内 7.5Y3/1	良	口縁部1/4	A類
599	8305	土師器	皿	SD2	底径8.3		ナデ	密	10YR8/2	良	底部完存	
600	8308	土師器	甕	SD2	15.3		ハケム	密	10YR8/3	良	口縁部1/4	
601	8202	土師器	甕	SD2	15.6		ハケム	やや密	10YR7/3	良	口縁部7/12	
602	21701	土師器	甕	SD2	16.0		外面未調整、内面ナデ	やや粗	7.5YR7/3	良	口縁部完存	
603	21802	土師器	甕	SD2	17.0		外面未調整、内面工具ナデ	やや粗	10YR8/3	良	口縁部1/4	
604	8702	土師器	甕	SD2	21.2		ナデ	粗	7.5YR6/3	良	口縁部1/12	
605	21801	土師器	甕	SD2	18.8		外面未調整、内面工具ナデ	やや密	7.5YR8/3	良	口縁部1/6	
606	7606	灰釉陶器	椀	SD2	底径6.8		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	密	2.5Y7/1 釉 5Y5/2	良	底部3/5	灰釉刷毛塗り

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
607	7607	灰軸陶器	椀	SD2	底径8.6		底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	密 2.5Y8/1 釉 5Y6/3	2.5Y8/1 釉 5Y6/3	良	底部1/4	灰軸刷毛塗り
608	7807	灰軸陶器	椀	SD2	底径8.5		底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	やや密 2.5Y8/1	2.5Y8/1	良	底部1/4	
609	22003	灰軸陶器	椀	SD2	底径8.0		底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	密 2.5Y8/1 釉 7.5Y7/2	2.5Y8/1 釉 7.5Y7/2	良	底部完存	内面やや磨耗
610	8002	灰軸陶器	椀	SD2	16.5	5.0	底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	やや密 5Y8/1	5Y8/1	良	底部1/2	灰軸刷毛塗り 内面磨耗
611	8204	灰軸陶器	椀	SD2	15.4	4.9	底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	密 2.5Y7/1	2.5Y7/1	良	底部5/12	灰軸刷毛塗り
612	7809	灰軸陶器	皿	SD2	底径6.6		底部外面未調整、他はロクロナデ	密 5Y8/1	5Y8/1	良	底部1/4	灰軸漬掛け 底部外面にヘラ記号
613	7804	灰軸陶器	椀	SD2	底径7.4		底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	密 2.5Y8/2	2.5Y8/2	良	底部1/2	
614	7702	灰軸陶器	椀	SD2	底径7.1		底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	密 2.5Y8/1	2.5Y8/1	良	底部1/2	
615	7902	灰軸陶器	椀	SD2	底径8.0		底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	密 2.5Y8/2 釉 2.5Y8/2	2.5Y8/2 釉 2.5Y8/2	良	底部3/8	灰軸刷毛塗り
616	7604	灰軸陶器	椀	SD2	14.8	4.9	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密 5Y7/1	5Y7/1	良	1/2	灰軸漬掛け
617	8206	灰軸陶器	椀	SD2	19.7		ロクロナデ	密 10YR7/1	10YR7/1	良	口縁部1/12	灰軸漬掛け
618	7802	灰軸陶器	椀	SD2	底径6.9		底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	密 2.5Y7/1	2.5Y7/1	良	底部1/4	
619	7601	灰軸陶器	椀	SD2	16.8	4.6	ロクロナデ	密 2.5Y7/1 釉 5Y6/2	2.5Y7/1 釉 5Y6/2	良	1/4	灰軸漬掛け
620	8207	灰軸陶器	椀	SD2	底径7.8		底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	密 2.5Y6/2	2.5Y6/2	良	底部1/4	
621	7701	灰軸陶器	椀	SD2	15.6	7.0	ロクロナデ	密 2.5Y8/2 釉 5Y7/2	2.5Y8/2 釉 5Y7/2	良	底部1/7	灰軸漬掛け
622	21903	灰軸陶器	椀	SD2	底径8.0		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密 2.5Y7/1	2.5Y7/1	良	底部1/4	内面磨耗 直接重ね焼き
623	7801	灰軸陶器	椀	SD2	底径6.1		底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	やや密 2.5Y6/1	2.5Y6/1	良	底部1/4	
624	7704	灰軸陶器	椀	SD2	底径8.2		底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	密 10YR7/2	10YR7/2	良	底部1/4	
625	8005	灰軸陶器	椀	SD2	底径7.3		底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	密 2.5Y7/1	2.5Y7/1	良	底部2/3	底部外面に墨書「大」 内面磨耗
626	21902	灰軸陶器	椀	SD2	底径7.0		底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	密 2.5Y7/1	2.5Y7/1	良	底部完存	内面磨耗
627	7703	灰軸陶器	椀	SD2	底径8.2		ロクロナデ	密 2.5Y8/1 釉 2.5Y8/2	2.5Y8/1 釉 2.5Y8/2	良	底部1/3	
628	7901	灰軸陶器	椀	SD2	底径8.4		底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	密 2.5Y8/2	2.5Y8/2	良	底部5/8	底部外面に墨書 直接重ね焼き
629	7706	灰軸陶器	椀	SD2	底径8.1		底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	密 2.5Y7/1 釉 5Y7/2	2.5Y7/1 釉 5Y7/2	良	底部1/3	
630	7603	灰軸陶器	椀	SD2	底径7.8		底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	密 2.5Y8/1	2.5Y8/1	良	底部1/4	内面磨耗
631	21605	灰軸陶器	椀	SD2	底径7.0		底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	やや密 N8/	N8/	良	底部1/3	直接重ね焼き
632	21604	灰軸陶器	椀	SD2	底径6.6		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密 N8/	N8/	良	底部1/2	内面磨耗
633	7803	灰軸陶器	皿	SD2	底径8.0		体部外面下半ロクロズリ 他はロクロナデ	やや密 5Y7/1	5Y7/1	良	底部1/4	直接重ね焼き
634	8001	灰軸陶器	椀	SD2	底径7.0		底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	やや密 2.5Y8/2	2.5Y8/2	良	底部完存	灰軸刷毛塗り
635	7806	灰軸陶器	皿	SD2	14.6	2.3	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密 2.5Y8/1	2.5Y8/1	良	1/4	灰軸刷毛塗り 高台部・内面に直接重ね焼き
636	7805	灰軸陶器	椀	SD2	底径5.9		底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや密 2.5Y7/1	2.5Y7/1	良	底部1/4	灰軸刷毛塗り
637	7705	灰軸陶器	皿	SD2	底径6.7		底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	密 2.5Y8/1 釉 2.5Y8/2	2.5Y8/1 釉 2.5Y8/2	良	底部1/2	転用硯 底部外面に墨付着
638	8205	灰軸陶器	皿	SD2	13.0	3.0	底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	密 2.5Y6/2	2.5Y6/2	良	口縁部1/4	灰軸刷毛塗り 内面やや磨耗
639	21904	灰軸陶器	椀	SD2	底径6.6		体部外面ロクロズリ、内面ロクロナデ	密 5Y7/1	5Y7/1	良	底部3/4	内面磨耗
640	8105	須恵器	杯	SD2	底径8.1		底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	やや粗 N5/	N5/	良	底部ほぼ完存	
641	8101	須恵器	杯	SD2	底径8.8		底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	やや粗 10YR5/2	10YR5/2	良	底部1/2	
642	22004	灰軸陶器	椀	SD2	底径7.1		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密 5Y6/1	5Y6/1	良	底部1/4	内面磨耗
643	21606	灰軸陶器	椀	SD2	底径6.8		底部外面ナデ、他はロクロナデ	密 5Y8/1	5Y8/1	良	底部完存	内面磨耗 直接重ね焼き
644	22005	灰軸陶器	椀	SD2	底径5.0		底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	密 2.5Y8/1 釉 10Y6/2	2.5Y8/1 釉 10Y6/2	良	底部1/3	
645	8401	灰軸陶器	壺	SD2	底径7.9		外面ロクロズリ、内面ロクロナデ	やや粗 2.5Y8/2	2.5Y8/2	良	底部1/3	
646	8403	灰軸陶器	壺	SD2	底径6.2		底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密 2.5Y6/1	2.5Y6/1	良	底部1/4	
647	8402	灰軸陶器	壺	SD2	底径7.5		底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	やや密 2.5Y7/1	2.5Y7/1	良	底部1/6	
648	21901	須恵器	壺	SD2	底径11.0		体部外面ロクロズリ、内面ロクロナデ	密 2.5Y4/1	2.5Y4/1	良	底部1/4	
649	21601	灰軸陶器	壺	SD2	底径12.6		体部外面下半ロクロズリ 他はロクロナデ	やや粗 N8/	N8/	良	底部1/5	
650	8801	瓦	軒丸瓦	SD2	-		他はロクロナデ	やや密 10YR7/3	10YR7/3	やや不良	小片	復弁蓮弁文

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
651	22202	瓦	軒丸瓦	SD2	-		凸面ナデ'一部へラケズリ、凹面布目痕	やや粗	2.5Y7/1	良	瓦頭部4/5	複弁蓮弁文
652	8802	瓦	丸瓦	SD2	-		凸面細タタキ、凹面布目痕	やや密	7.5Y5/1	良	小片	
653	9001	瓦	平瓦	SD2	-		凸面細タタキ、凹面布目痕	やや粗	N6/	良	小片	玉縁
654	8901	瓦	丸瓦	SD2	-		凸面細タタキ、後ナデ、凹面布目痕	やや密	2.5Y7/2	やや不良	小片	内面磨耗
655	7602	灰釉陶器	椀	SD2	底径8.0		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	密	2.5Y8/1	良	底部3/4	内面磨耗
656	7906	山茶椀	椀	SD2	底径9.7		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y7/1	良	底部1/4	内面磨耗
657	21603	山茶椀	椀	SD2	底径7.1		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	N8/	良	底部1/2	高台にミカガハ痕
658	7905	山茶椀	椀	SD2	底径8.3		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	2.5Y8/2	良	底部3/8	高台にミカガハ痕 内面磨耗
659	7904	山茶椀	椀	SD2	16.2	5.3	ロクロナデ	やや粗	2.5Y8/2	良	底部1/6	高台にわすかミカガハ痕
660	22101	緑釉陶器	椀	SD2	16.0	5.0		密	7.5YR8/4 釉 緑	良	底部ほぼ完存	磨減が激しく調整不明 軟質
661	22102	緑釉陶器	椀	SD2	底径4.9		ロクロナデ	密	10YR8/2 釉 10Y3/2	良	底部1/4	磨減が激しく調整不明瞭 軟質
662	8505	緑釉陶器	椀	SD2	底径6.6		ロクロナデ	密	2.5Y8/1 釉 7.5Y5/3	良	底部1/6	硬質
663	8201	緑釉陶器	椀	SD2	底径6.9			密	10YR7/2 釉 10Y6/2	良	底部完存	磨減が激しく調整不明 軟質
664	21602	陶器	盤	SD2	底径12.0		ロクロナデ	密	7.5Y7/1	良	底部1/8	内面磨耗
665	8704	製塩土器	鉢	SD2	17.0		内面ナデ、外面未調整	粗	5YR6/6	良	口縁部1/12	
666	8705	製塩土器	鉢	SD2	-		内面ナデ、外面未調整	粗	5YR6/6	良	口縁部小片	
667	8706	土製品	土鉢	SD2	4.0×1.7		ナデ	密	10YR8/2	良	ほぼ完存	重さ(10.8g)
668	21805	土製品	土鉢	SD2	5.5×2.1			やや密	7.5YR8/4	良	ほぼ完存	磨減が激しく調整不明 重さ(18.6g)
669	8707	土製品	土鉢	SD2	3.0×3.2		ナデ	密	7.5YR7/4	良	ほぼ完存	重さ(27.2g)
670	8004	鉄製品	鉄鍔	SD2	(6.0)×3.3			-	-	-	ほぼ完存	重さ(12.6g)
671	22006	灰釉陶器	甕	SD2	49.4		ロクロナデ	密	外 5YR5/3 内 2.5Y7/2	良	口縁部1/12	
672	22201	鉄製品	盤	SD2	-			-	-	-	小片	棒状脚
673	7201	土師器	皿	SD3	15.8	1.7	底部外面未調整、他はナデ	密	外 7.5YR7/4 内 7.5YR8/3	良	口縁部1/6	
674	7202	土師器	皿	SD3	14.7	1.5	ナデ	密	5YR6/6	良	口縁部1/6	
675	7203	土師器	皿	SD3	14.4	1.9	底部外面未調整、内面ナデ	密	5YR7/6	良	口縁部1/4	
676	7204	土師器	皿	SD3	15.4	0.9	底部外面未調整、内面ナデ	密	7.5YR7/6	良	口縁部1/8	
677	7101	土師器	皿	SD3	16.7		底部外面未調整、内面ナデ	密	外 5YR7/6 内 10YR8/4	良	1/4	内面に螺旋暗文
678	7102	土師器	杯	SD3	13.5	2.9	底部外面未調整、内面雑なへラミカキ	密	5YR7/6	良	口縁部1/4	底部内面に螺旋暗文
679	7103	土師器	杯	SD3	13.0	2.4	外面未調整、内面ナデ	密	5YR7/8	良	底部1/2	底部内面に螺旋暗文
680	7206	土師器	杯	SD3	12.4	2.9	外面未調整、内面ナデ	密	5YR6/6	良	1/2	底部内面に螺旋暗文
681	7105	土師器	杯	SD3	12.9	3.1	外面未調整、内面へラミカキ	密	2.5YR7/6	良	完存	内面に雑な放射暗文
682	7001	土師器	杯	SD3	13.6		外面未調整、内面ナデ	密	5YR7/6	良	1/4	
683	7009	土師器	杯	SD3	12.6		外面へラケズリ、内面雑なへラミカキ	密	5YR7/8	良	口縁部1/6	
684	7008	土師器	杯	SD3	13.2		外面未調整、内面ナデ	密	5YR7/6	良	口縁部1/4	
685	22903	土師器	椀	SD3	13.8		ナデ	密	外 2.5Y8/3 内 7.5YR8/6	良	口縁部1/6	口縁部にスス 酸化焼成
686	7205	土師器	椀	SD3	10.4	2.9	外面未調整、内面ナデ	密	2.5Y8/2	良	3/8	
687	7002	須臾器	杯	SD3	14.1	3.1	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密	10YR8/2	良	1/2	
688	7007	土師器	杯	SD3	12.5		外面未調整、内面ナデ	密	10YR8/4	良	1/4	
689	7006	土師器	杯	SD3	12.6	3.0	内外面ナデ	密	5YR7/8	良	1/3	
690	7004	土師器	杯	SD3	12.2	2.8	底部外面未調整、内面ナデ	密	7.5YR8/6	良	1/2	
691	7005	土師器	杯	SD3	11.9	2.5	内外面ナデ	密	5YR7/8	良	1/3	外面スス 内面にミカキ?
692	7003	土師器	椀	SD3	12.2		外面未調整、内面ナデ	密	7.5YR8/4	良	1/4	
693	7406	土師器	椀	SD3	底径8.6		ナデ	やや密	7.5YR7/4	良	底部2/3	磨減が激しく調整不明瞭
694	7403	土師器	甕	SD3	13.6		内面工具ナデ	やや粗	外 5YR7/3 内 7.5YR8/2	良	口縁部1/4	磨減が激しく調整不明瞭

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
695	7402	土師器	甕	SD3	11.8		ハケム	密	10YR8/3	良	口縁部1/8	磨滅が激しく調整不明瞭
696	22902	土師器	甕	SD3	15.8		口縁部ヨコナデ	密	7.5YR6/6	良	口縁部1/6	
697	7401	土師器	甕	SD3	16.8		ハケム	やや密	外 5YR6/2 内 10YR8/3	良	口縁部2/3	
698	7405	土師器	甕	SD3	23.6		ハケム	やや粗	7.5YR7/2	良	口縁部1/6	
699	22901	土師器	甕	SD3	17.5		外面ハケム、内面ナデ	やや密	7.5YR6/6	良	口縁部1/6	
700	22601	土師器	甕	SD3	16.6		外面雑なハケム、内面ハケム	やや密	2.5Y8/3	やや不良	口縁部完存	
701	7304	土師器	筒型土器	SD3	12.5		外面ハケム、内面ナデ	やや密	5YR6/4	良	口縁部1/7	
702	7404	土師器	甕	SD3	14.8		打ち欠き	やや粗	7.5YR6/3	良	口縁部1/6	磨滅が激しく調整不明
703	22907	ろくろ土師器	円形加工板	SD3	4.0×3.8	厚さ1.6	外面未調整、内面ナデ	やや密	7.5YR7/4	良	完存	重さ26g ろくろ土師器柄を転用
704	7303	製塩土器	鉢	SD3	14.4	5.5	外面未調整、内面ナデ	粗	7.5YR7/8	良	口縁部1/12	
705	22401	須恵器	蓋	SD3	17.8	3.8	天井部外面ロクロズリ他はロクロナデ	やや粗	5Y6/1	良	1/2	天井部内面磨耗
706	6801	須恵器	蓋	SD3	15.6	3.7	天井部外面ロクロズリ他はロクロナデ	やや粗	N8/	良	口縁部1/4	
707	22402	須恵器	蓋	SD3	12.5	3.3	天井部外面ロクロズリ他はロクロナデ	やや粗	N7/	良	1/2	
708	6802	須恵器	杯	SD3	15.6	4.9	底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	やや密	2.5Y7/1	良	口縁部1/2	
709	6807	須恵器	蓋	SD3	9.1	3.7	天井部外面ヘラガシ、他はロクロナデ	やや粗	N6/	良	口縁部1/2	天井部同心円当て具痕
710	6804	須恵器	杯	SD3	14.2	6.2	底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	やや密	N6/	良	1/4	
711	6805	須恵器	杯	SD3	11.2	3.5	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密	N6/	良	底部ほぼ完存	
712	6803	須恵器	杯	SD3	16.1	4.7	底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	やや粗	外 N5/ 内 N7/	良	底部4/5	
713	7503	須恵器	杯	SD3	15.2		底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密	N7/	良	口縁部1/4	
714	7504	須恵器	甕	SD3	34.8		ロクロナデ	やや粗	外 N6/ 内 N3/	良	口縁部1/10	口縁部外面に波状文2条
715	7502	須恵器	壺	SD3	13.8		ロクロナデ	やや粗	5YR6/3	良	口縁部1/2	中世陶器か？
716	6806	須恵器	壺	SD3	底径5.6		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	N7/	良	底部3/4	
717	7501	須恵器	鉢	SD3	33.2		ロクロナデ	やや密	2.5Y6/1	良	口縁部1/12	
718	6904	黒色土器	杯	SD3	16.4		外面ヘラガシ、内面ヘラミガキ	やや粗	外 2.5Y8/3 内 2.5Y3/1	良	口縁部1/4	A類
719	6905	黒色土器	杯	SD3	15.7		内外面ヘラミガキ	密	外 7.5YR6/6 内 5Y3/1	良	口縁部1/8	A類
720	7301	黒色土器	椀	SD3	15.2	4.2	外面ヘラガシ、内面ヘラミガキ	やや密	外 10YR7/3 内 7.5Y3/1	良	ほぼ完存	A類 内面に螺旋暗文
721	6906	黒色土器	皿	SD3	14.0		外面未調整、内面ヘラミガキ	密	外 10YR8/3 内 5Y3/1	良	口縁部1/2	A類 内面に螺旋暗文
722	7302	黒色土器	椀	SD3	底径6.2			やや粗	外 7.5YR8/4 内 5Y3/1	良	底部完存	A類 磨滅が激しく調整不明
723	6907	黒色土器	椀	SD3	底径9.6		内外面ヘラミガキ	やや密	外 2.5Y8/3 内 2.5Y3/1	良	底部1/4	A類 内面に螺旋暗文
724	7104	緑釉陶器	皿	SD3	14.5	1.3		密	10YR8/3 釉 7.5Y8/2	良	1/4	磨滅が激しく調整不明
725	22501	緑釉陶器	椀	SD3	10.6	3.9	ロクロナデ	密	10YR8/3 釉 7.5Y5/3	良	ほぼ完存	磨滅が激しく調整不明瞭
726	6901	灰釉陶器	皿	SD3	13.9	2.1	底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	密	5Y8/1	良	口縁部1/3	
727	6902	灰釉陶器	椀	SD3	15.0	4.7	底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	やや密	5Y8/1 釉 5Y6/3	良	底部完存	灰釉刷毛塗り 直接重ね焼き
728	22403	山茶椀	椀	SD3	14.8	5.5	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	N8/	良	底部1/2	内面やや磨耗
729	6903	灰釉陶器	椀	SD3	14.4	4.2	底部外面ロクロズリ、他はロクロナデ	やや密	2.5Y8/1	良	底部完存	
730	22904	灰釉陶器	椀	SD3	底径7.8		ロクロナデ	密	2.5Y8/1 釉 10Y6/2	良	底部1/4	灰釉刷毛塗り 内面にトチン痕
731	22905	灰釉陶器	椀	SD3	底径7.4		ロクロナデ	やや密	2.5Y8/1 釉 10Y5/2	良	底部完存	底部外面に墨書
732	22906	灰釉陶器	椀	SD3	底径6.0		底部外面ロクロズリ？、他はロクロナデ	密	2.5Y8/1 釉 2.5Y5/1	良	底部1/2	灰釉刷毛塗り



報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
733	22801	瓦	平瓦	SD3	-		凹面布目痕、凸面縄タキ	やや粗	7.5YR6/6	良	1/3	凹面に横骨痕
734	22701	瓦	平瓦	SD3	-		凹面布目痕、凸面縄タキ	やや粗	N6/	良	1/4	1枚作り
735	6703	土師器	皿	SD5	9.4	1.4	外面未調整、内面ナデ	密	N8/	良	口縁部1/6	
736	6701	山茶碗	碗	SD5	底径7.2		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	N8/	良	底部完存	高台にモカアラ痕
737	6702	山茶碗	碗	SD5	底径7.2		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y7/1	良	底部1/2	
738	6704	土製品	土鉢	SD5	(6.4)×2.5		ナデ	やや密	2.5Y7/1	良	ほぼ完存	重さ(28.0g)
739	6107	土師器	皿	SD6	7.5	0.8	外面未調整、内面ナデ	やや密	10YR8/3	良	2/3	磨滅が激しく調整不明瞭
740	6108	土師器	皿	SD6	9.3	1.5	外面未調整、内面ナデ	密	10YR8/4	良	7/12	磨滅が激しく調整不明瞭
741	6105	土師器	皿	SD6	8.4	1.3	外面未調整、内面ナデ	密	10YR8/4	良	1/2	磨滅が激しく調整不明瞭
742	6106	ロクロ土師器	皿	SD6	8.9	1.9	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	10YR8/3	良	底部完存	
743	6104	ロクロ土師器	皿	SD6	9.5	2.0	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	10YR7/3	良	底部5/6	
744	6102	土師器	皿	SD6	12.0	2.8	ナデ	やや密	5YR8/4	良	5/12	口縁部に煤付着
745	6101	土師器	皿	SD6	12.1	3.0	外面未調整、内面ナデ	やや密	10YR8/3	良	1/6	口縁部1/12
746	6109	土師器	鍋	SD6	26.0		ナデ	やや粗	10YR6/4	良		清郷
747	6203	土師器	鍋	SD6	25.4		外面未調整、内面ハケム	やや粗	7.5YR8/2	良	口縁部1/2	
748	6202	土師器	鍋	SD6	17.1		外面雑なハケム、内面ハケム	密	10YR7/3	良	口縁部1/2	
749	6304	土製品	土鉢	SD6	15.8		外面未調整、内面ナデ	やや粗	10YR8/3	良	口縁部1/6	
751	6303	土製品	土鉢	SD6	(4.9)×1.8		ナデ	やや粗	2.5Y8/2	良	ほぼ完存	重さ(11.9g)
752	6301	土製品	土鉢	SD6	3.9×1.8		ナデ	やや粗	7.5YR6/4	良	ほぼ完存	重さ(11.3g)
753	6302	土製品	土鉢	SD6	9.5×4.4		ナデ	やや粗	10YR8/2	良	ほぼ完存	重さ(159.2g)
754	6005	須恵質	絞鉢車	SD6	4.8×2.2		ナデ	やや密	2.5Y8/3	良	完存	重さ25.0g
755	5906	灰釉陶器	皿	SD6	3.8×3.9	厚さ3.0	ナデ	密	N5/	良	ほぼ完存	重さ(44.4g)
756	5810	山茶碗	碗	SD6	11.3	2.0	底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	密	N8/	良	1/4	灰釉刷毛塗り 直接重ね焼き
757	5902	灰釉陶器	碗	SD6	14.8	5.6	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	2.5Y7/1	良	底部9/12	内面磨耗・漆付着 直接重ね焼き
758	5905	灰釉陶器	碗	SD6	底径6.6	5.0	ロクロナデ	密	N8/	良	1/2	口縁部に輪花
759	6103	土師器	碗	SD6	14.8	6.1	ナデ	密	N8/	良	底部完存	灰釉漬掛け 内面磨耗 直接重ね焼き
760	5809	灰釉陶器	碗	SD6	14.9	6.0	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	2.5Y8/2	良	底部完存	
761	5903	灰釉陶器	碗	SD6	底径7.4		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	N8/	良	底部完存	灰釉漬掛け 口縁部に輪花 山茶碗?
762	5901	灰釉陶器	碗	SD6	15.6	5.7	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	5Y8/1	良	底部完存	内面磨耗
763	5904	灰釉陶器	碗	SD6	15.4	5.7	ロクロナデ	密	N8/	良	3/5	内面やや磨耗
764	6401	灰釉陶器	壺	SD6	底径14.8		外面ロクロナデ、内面ロクロナデ	密	N8/	良	底部3/4	内面磨耗
765	5802	山茶碗	小皿	SD6	8.2	2.2	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	5Y6/1	良	底部5/6	体部内面ス
766	5908	山茶碗	小皿	SD6	7.4	1.8	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	N8/	良	ほぼ完存	磨滅が激しく調整不明瞭
767	5803	山茶碗	小皿	SD6	8.2	2.3	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	5Y7/1	良	底部完存	
768	5804	山茶碗	小皿	SD6	7.6	1.9	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	N7/	良	完存	
769	5807	山茶碗	小皿	SD6	7.9	2.4	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	5Y7/1	良	底部完存	
770	5910	山茶碗	小皿	SD6	8.0	1.8	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	N8/	良	底部完存	口縁部1/8
771	5909	山茶碗	小皿	SD6	8.2	2.4	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	N8/	良	底部完存	
772	5806	山茶碗	小皿	SD6	8.2	1.7	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	N7/	良	底部完存	
773	5801	山茶碗	小皿	SD6	8.1	1.9	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	7.5Y7/1	良	底部7/12	
774	5805	山茶碗	小皿	SD6	7.8	1.6	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	5Y8/1	良	底部完存	
775	5907	山茶碗	小皿	SD6	7.4	2.1	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	N8/	良	底部完存	
776	5707	山茶碗	碗	SD6	14.0	5.2	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	N8/	良	ほぼ完存	高台にモカアラ痕 別個体の口縁部が融着(直接重ね焼き)
777	5705	山茶碗	碗	SD6	14.8	5.3	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	N8/	良	底部1/2	高台にモカアラ痕 底部外面に墨書
778	5704	山茶碗	碗	SD6	13.6	4.7	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	N7/	良	底部完存	高台にモカアラ痕
779	5701	山茶碗	碗	SD6	14.2	5.0	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	7.5Y7/1	良	口縁部1/4	高台にモカアラ痕
780	5703	山茶碗	碗	SD6	16.4	4.7	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	7.5Y7/1	良	底部3/5	高台にモカアラ痕
781	5808	山茶碗	碗	SD6	15.6	5.6	底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや粗	5Y7/1	良	底部完存	高台に砂痕
782	5702	山茶碗	碗	SD6	14.5	5.2	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	5Y7/1	良	口縁部1/4	高台にモカアラ痕
783	5706	山茶碗	碗	SD6	14.9	5.3	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	N8/	良	底部完存	高台にモカアラ痕
784	6402	灰釉陶器	壺	SD6	底径11.2		外面ロクロナデ、内面ロクロナデ	やや密	5Y7/1	良	底部完存	
785	6307	黒色土器	碗	SD6	底径7.3		底部外面糸切痕 内面雑なハケム	やや密	外 7.5YR8/6 内 7.5Y4/1	良	底部完存	A類

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
786	6001	緑釉陶器	碗	SD6	17.0		ロクロナデ	密	2.5Y8/2 釉 濃緑	良	1/4	軟質 内面にトチン痕
787	6002	緑釉陶器	碗	SD6	底径7.6		ロクロナデ	密	N5/ 釉 7.5Y4/2	良	台部1/8	硬質
788	6003	緑釉陶器	碗	SD6	底径6.0		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	10YR8/3 釉 10YR4/2	良	台部1/2	軟質
789	6305	青磁	碗	SD6	17.5		ロクロナデ	密	5Y6/1 釉 5GY6/1	良	口縁部1/12	外面に連弁文
790	6004	青磁	碗	SD6	底径6.2		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	密	5Y5/1 釉 7.5Y5/2	良	底部完存	
791	6306	白磁	皿	SD6	10.2		ロクロナデ	密	N8/ 釉 7.5Y7/1	良	口縁部1/12	内面に印刻文
792	6503	陶器	甕	SD6	-		外面タタキ、内面ナデ	密	2.5Y5/1	良	体部小片	常滑
793	6502	陶器	甕	SD6	-		外面一部タタキ、他はナデ	やや粗	5Y6/1	良	体部小片	常滑
794	6601	瓦	平瓦	SD6	-		凹面布目痕、凸面縄タタキ	やや粗	7.5YR8/2	良	小片	
795	6501	陶器	甕	SD6	-		外面タタキ、内面ナデ	粗	外 5Y5/2 内 5Y7/1	良	体部小片	常滑
796	6504	瓦	軒平瓦	SD6	-		凹面布目痕、凸面ナデ、一部縄タタキ	やや粗	10YR5/3	良	小片	重弧文
797	9104	土師器	皿	SD8	10.8	2.0	外面未調整、内面ナデ	やや密	10YR8/3	良	口縁部1/6	磨減が激しく調整不明瞭
798	9106	土師器	皿	SD8	9.0	1.9	ナデ	やや粗	10YR8/3	良	口縁部1/2	
799	9105	土師器	皿	SD8	13.6	2.9	外面未調整、内面ナデ	やや粗	5YR7/4	良	口縁部2/3	
800	9107	土師器	鍋	SD8	24.0		口縁部コナデ	やや粗	10YR8/3	良	口縁部1/12	
801	9108	陶器	甕	SD8	-		外面タタキ、内面ナデ	やや粗	N7/	良	体部小片	常滑
802	9102	山茶碗	碗	SD8	底径6.8		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	N8/	良	底部ほぼ完存	内面磨耗
803	9103	山茶碗	碗	SD8	底径7.6		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	N8/	良	底部完存	
804	9101	山茶碗	碗	SD8	底径6.8		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y7/1	良	底部完存	高台にミカヲラ痕
805	11401	土師器	鍋	SD9	22.8		ナデ	やや粗	2.5Y8/3	良	口縁部1/6	外面ス
806	11007	土師器	皿	SD9	8.0	1.6	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	7.5Y8/4	良	底部5/12	
807	11008	山茶碗	小皿	SD9	8.1	1.7	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y7/1	良	ほぼ完存	
808	11403	山茶碗	小皿	SD9	8.0	1.5	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	5Y7/1	良	ほぼ完存	
809	11001	山茶碗	碗	SD9	15.2	5.2	底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや粗	10Y8/1	良	口縁部7/12	高台にミカヲラ痕
810	11002	山茶碗	碗	SD9	底径7.6		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	10Y8/1	良	底部完存	内面やや磨耗
811	11206	山茶碗	碗	SD9	底径7.8		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y7/1	良	底部3/4	高台にミカヲラ痕
812	11204	山茶碗	碗	SD9	底径7.5		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y7/1	良	底部完存	高台にミカヲラ痕 内面やや磨耗
813	11101	山茶碗	碗	SD9	13.8	4.8	底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y7/1	良	底部3/4	高台にミカヲラ痕 内面やや磨耗
814	11205	山茶碗	碗	SD9	底径6.5		底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y7/1	良	底部完存	高台に砂痕
815	11005	山茶碗	碗	SD9	底径7.2		底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや粗	7.5Y8/1	良	底部完存	内面磨耗
816	11003	山茶碗	碗	SD9	底径7.8		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	5Y8/1	良	底部完存	内面磨耗 直接重ね焼き
817	11104	山茶碗	碗	SD9	16.2	5.7	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密	2.5Y7/1	良	底部1/2	高台にミカヲラ痕
818	11009	山茶碗	碗	SD9	底径7.2		底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや密	5Y7/1	良	底部完存	
819	11202	山茶碗	碗	SD9	底径7.2		底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや密	2.5Y7/1	良	底部完存	高台にミカヲラ痕 内面やや磨耗
820	11105	山茶碗	碗	SD9	底径8.3		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y8/1	良	底部2/3	
821	11004	山茶碗	碗	SD9	底径7.8		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	5Y8/1	良	底部完存	
822	11102	山茶碗	碗	SD9	底径7.6		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	5Y7/1	良	底部完存	高台にミカヲラ痕 内面やや磨耗
823	11203	山茶碗	碗	SD9	底径5.8		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y7/1	良	底部完存	高台にミカヲラ・砂痕
824	11006	山茶碗	碗	SD9	底径6.3		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y8/1	良	底部完存	内面やや磨耗 内面墨付着
825	11402	陶器	硯	SD9	-			やや粗	5Y6/1	良	1/4	風字硯 内面墨痕
826	11103	山茶碗	鉢	SD9	底径13.7		外面ロクロナデ、内面ロクロナデ	やや粗	2.5Y4/1	良	底部1/6	内面磨耗
827	11201	山茶碗	壺	SD9	底径14.3		体部外面下半ヘラクスリ 他はロクロナデ	粗	2.5Y7/2	良	底部完存	
828	11904	土師器	皿	SD10	17.0	2.0	外面ヘラクスリ、内面ナデ	やや密	5YR7/3	良	口縁部1/6	
829	12106	土師器	皿	SD10	13.5	1.3	外面未調整、内面ナデ	やや粗	2.5Y8/2	良	口縁部1/4	
830	12301	土師器	皿	SD10	15.4		外面ヘラクスリ、内面ナデ	やや密	5YR7/6	良	口縁部1/6	内面に螺旋暗文
831	11810	ロクロ土師器	皿	SD10	13.6	2.1	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密	10YR8/3	良	口縁部1/6	

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
832	12202	土師器	鉢	SD10	18.6	4.9	外面ヘラカスリ、内面ナデ	密	7.5YR8/4	良	1/8	
833	14602	土師器	杯	SD10	14.0	2.9	外面未調整、内面ナデ	やや密	外 7.5YR8/3 内 5YR7/6	良	1/3	内面粗い放射暗文
834	12201	土師器	杯	SD10	12.4	3.9	外面ヘラカスリ、内面粗いミガキ	やや粗	7.5YR7/4	良	底部1/4	内面に螺旋暗文
835	11808	土師器	杯	SD10	13.0	2.5	外面未調整、内面ナデ	やや密	10YR8/3	良	1/5	
836	11902	土師器	杯	SD10	13.0	3.4	外面未調整、内面ナデ	やや粗	5YR7/6	良	口縁部1/4	内面暗文
837	12101	土師器	杯	SD10	13.2	3.0	外面未調整、内面ナデ	やや密	7.5YR8/3	良	完存	
838	11807	土師器	杯	SD10	12.3	3.2	外面未調整、内面ナデ	やや粗	7.5YR7/4	良	口縁部1/4	
839	12102	土師器	杯	SD10	12.6	2.8	外面未調整、内面ナデ	密	10YR8/2	良	口縁部1/6	
840	11802	土師器	椀	SD10	12.1	3.4	外面未調整、内面ナデ	やや粗	5YR6/6	良	口縁部1/3	
841	11803	土師器	椀	SD10	13.2	3.4	外面未調整、内面ナデ	やや粗	10YR7/3	良	口縁部1/3	磨滅が激しく調整不明
842	11804	土師器	椀	SD10	11.8	3.5	外面未調整、内面ナデ	やや密	2.5Y7/1	良	口縁部7/12	
843	12105	土師器	杯	SD10	11.4	3.0	外面未調整、内面ナデ ヘラカキ	密	2.5Y8/3	良	口縁部1/4	
844	12104	土師器	杯	SD10	11.0	2.9	外面未調整、内面ナデ	やや粗	2.5Y8/2	良	口縁部1/4	
845	12103	土師器	椀	SD10	13.0	2.9	外面未調整、内面工具ナデ	やや密	10YR8/2	良	口縁部1/4	
846	11806	土師器	杯	SD10	11.5	2.9	外面未調整、内面ナデ	やや粗	5YR7/4	良	口縁部1/3	
847	11801	土師器	杯	SD10	12.2	3.1	ナデ	やや粗	5YR7/6	良	口縁部5/12	内面に螺旋暗文
848	12007	土師器	椀	SD10	12.2	3.3	外面未調整、内面ナデ	やや粗	5YR7/6	良	口縁部1/4	磨滅が激しく調整不明
849	11903	土師器	杯	SD10	13.6	2.9	外面未調整、内面工具ナデ	やや密	10YR8/1	良	口縁部1/3	
850	11805	土師器	杯	SD10	10.8	3.1	外面未調整、内面ナデ	やや密	5YR7/6	良	1/4	
851	11809	土師器	杯	SD10	12.9		外面未調整、内面ナデ	やや密	2.5Y8/3	良	1/6	
852	12506	ロコ土師器	椀	SD10	6.3		底部外面未切痕、他はロコナデ	密	2.5Y8/3	良	底部完存	
853	11901	土師器	椀	SD10	底径8.2			やや粗	10YR8/3	良	底部1/2	磨滅が激しく調整不明
854	12405	土師器	椀	SD10	底径7.2			やや密	2.5Y8/3	良	底部1/2	磨滅が激しく調整不明
855	14811	土師器	手捏	SD10	3.2	2.1	ユビオサエ	やや粗	2.5Y7/3	良	ほぼ完存	
856	12503	土師器	甕	SD10	14.4		ハケム	やや密	2.5Y8/3	良	口縁部1/4	
857	14005	土師器	甕	SD10	15.2			やや粗	7.5YR8/1	良	口縁部1/6	磨滅が激しく調整不明
858	12107	土師器	甕	SD10	14.0		ハケム	やや粗	10YR7/3	良	口縁部1/4	
859	12502	土師器	甕	SD10	14.3		ハケム	やや密	7.5YR7/3	良	口縁部1/4	
860	12501	土師器	甕	SD10	13.0	10.6	体部外面下半ヘラカスリ、 上半ハケム、内面ナデ	やや粗	2.5Y8/3	良	口縁部3/4	内外面ス
861	12304	土師器	甕	SD10	21.3		ハケム	粗	10YR8/3	良	口縁部1/4	
862	12504	土師器	甕	SD10	20.0		外面ハケム、内面ナデ	やや密	10YR7/3	良	口縁部1/8	
863	14003	土師器	甕	SD10	17.8		ハケム	やや粗	7.5YR8/4	良	口縁部1/4	
864	12402	土師器	甕	SD10	19.6		ハケム	やや密	2.5Y8/2	良	口縁部1/6	
865	12505	土師器	甕	SD10	23.0		外面ハケム、内面工具ナデ	やや密	10YR6/4	良	口縁部1/6	
866	12303	土師器	甕	SD10	30.6		ハケム	やや粗	10YR7/4	良	口縁部1/12	
867	13101	土師器	甕	SD10	29.0		ハケム	やや密	10YR8/2	良	口縁部1/8	
868	13102	土師器	甕	SD10	底径24.0		外面ハケム、内面未調整	やや粗	7.5YR5/6	良	底部1/12	
869	12904	土師器	甕	SD10	-		内面ハケム	やや粗	10YR6/3	良	把手部片	
870	12108	土師器	甕	SD10	-		ナデ	やや粗	7.5YR6/4	良	把手部片	把手のみ
871	14006	土師器	甕	SD10	-		未調整	やや密	10YR7/3	良	把手部片	清郷
872	14903	土師器	鍋	SD10	-		ナデ	やや粗	7.5YR7/6	良	口縁部小片	
873	12302	土師器	甕	SD10	24.6		ハケム	やや密	7.5Y7/4	良	口縁部1/5	
874	12401	土師器	甕	SD10	22.0		ハケム	やや密	10YR7/3	良	口縁部1/8	
875	11905	土師器	甕	SD10	底径12.4		ハケム	やや粗	7.5YR8/4	良	底部1/12	
876	12406	土師器	高杯	SD10	脚柱径5.5		外面ヘラカキ、内面ハケム	やや粗	10YR8/3	良	脚柱部完存	筒部人面に面取り
877	13307	製塩土器	鉢	SD10	14.0	5.2		粗	5YR6/6	良	口縁部1/6	磨滅が激しく調整不明
878	13306	製塩土器	鉢	SD10	19.6	5.6		粗	7.5YR6/6	良	口縁部1/12	磨滅が激しく調整不明
879	14902	製塩土器	鉢	SD10	-		外面未調整、内面ナデ	粗	5YR7/6	良	口縁部小片	
880	14105	製塩土器	鉢	SD10	15.2	6.6	ナデ	粗	7.5YR8/6	良	1/7	
881	14901	製塩土器	鉢	SD10	底径14.8		外面未調整、内面ナデ	粗	外 10R6/4 内 2.5YR7/6	良	底部1/16	
882	12206	土師器	筒状土器?	SD10	底径10.0		ナデ	密	10YR8/1	良	脚部1/4	
883	11907	土師器	移動式甕	SD10	-		ハケム	やや粗	10YR7/3	良	つば部小片	

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
884	14106	フイゴ	羽口	SD10	-		ナデ	やや粗	5Y8/1	良	小片	
885	14605	フイゴ	羽口	SD10	-			やや密 外 10YR6/1 内 10YR8/3		良	小片	
886	14201	フイゴ	羽口	SD10	-			やや粗 5Y7/1		良	小片	
887	12205	土製品	土鍾	SD10	2.6×3.0		一部ケスリ、他はナデ	やや粗 10YR7/3		良	1/2	重さ(15.4g)
888	13107	土製品	土鍾	SD10	3.0×3.3		ナデ	やや密 10YR7/3		良	1/2	重さ(15.6g)
889	14801	土製品	土鍾	SD10	3.3×3.3		未調整	やや粗 7.5YR7/3		良	4/5	重さ(33.8g)
890	12906	土製品	土鍾	SD10	2.9×3.1			やや粗 10YR8/1		やや不良	ほぼ完存	土玉? 重さ(23.6g)
891	14913	土製品	土鍾	SD10	3.0×1.6		ナデ	密 10YR8/2		良	ほぼ完存	重さ(6.0g)
892	13105	土製品	土鍾	SD10	4.4×1.4		ナデ	やや密 2.5Y8/2		やや不良	ほぼ完存	重さ(7.9g)
893	14810	土製品	土鍾	SD10	5.3×1.4		ナデ	やや粗 10YR7/1		良	ほぼ完存	重さ(9.0g)
894	14008	土製品	土鍾	SD10	(4.9)×1.4		ナデ	やや密 2.5Y8/2		良	ほぼ完存	重さ(10.6g)
895	13106	土製品	土鍾	SD10	4.8×2.1		ナデ	やや密 2.5Y8/2		良	ほぼ完存	重さ(17.4g)
896	14911	土製品	土鍾	SD10	4.6×2.2		ナデ	密 10YR8/2		良	ほぼ完存	重さ(18.4g)
897	14809	土製品	土鍾	SD10	(4.6)×1.9		ナデ	やや粗 10YR8/2		良	ほぼ完存	重さ(12.6g)
898	14808	土製品	土鍾	SD10	5.2×2.0		未調整	やや密 2.5Y8/2		良	完存	重さ18.6g
899	14912	土製品	土鍾	SD10	5.0×1.9		ナデ	やや密 2.5Y8/3		良	完存	重さ16.8g
900	14803	土製品	土鍾	SD10	5.1×2.2		未調整	やや粗 2.5Y7/2		良	ほぼ完存	重さ(18.8g)
901	14802	土製品	土鍾	SD10	5.3×2.3		ナデ	やや粗 10YR7/3		良	ほぼ完存	重さ(21.8g)
902	14805	土製品	土鍾	SD10	5.1×2.5		ナデ	やや粗 2.5Y8/2		良	ほぼ完存	重さ(27.8g)
903	14804	土製品	土鍾	SD10	5.8×2.6		ナデ	やや粗 2.5Y8/2		良	ほぼ完存	重さ(37.0g)
904	14907	土製品	土鍾	SD10	5.7×2.7		ナデ	密 10YR7/3		良	ほぼ完存	重さ(31.2g)
905	12203	土製品	土鍾	SD10	(5.7)×3.1		ナデ	やや粗 10YR8/2		良	ほぼ完存	重さ(55.5g)
906	14910	土製品	土鍾	SD10	(6.2)×2.6		ナデ	密 10YR7/3		良	3/4	重さ(28.6g)
907	12905	土製品	土鍾	SD10	5.9×3.1		ナデ	密 7.5YR8/2		やや不良	ほぼ完存	重さ(40.4g)
908	14806	土製品	土鍾	SD10	5.9×2.8		未調整	やや粗 2.5Y8/2		良	ほぼ完存	重さ(34.2g)
909	14807	土製品	土鍾	SD10	(5.2)×3.8		ナデ	やや粗 2.5Y8/2		良	7/8	重さ(51.0g)
910	14904	土製品	土鍾	SD10	6.3×3.4		ナデ	密 2.5Y4/1		良	完存	重さ66.0g
911	14908	土製品	土鍾	SD10	6.5×2.6		ナデ	密 2.5Y8/3		良	ほぼ完存	重さ(33.4g)
912	12204	土製品	土鍾	SD10	(5.7)×3.8		ナデ	やや密 10YR7/2		良	2/3	重さ(42.4g)
913	14909	土製品	土鍾	SD10	7.1×2.8		ナデ	密 7.5YR7/2		良	完存	重さ48.2g
914	14905	土製品	土鍾	SD10	6.3×3.5		ナデ	密 10YR8/3		良	ほぼ完存	重さ(49.6g)
915	14906	土製品	土鍾	SD10	5.7×3.6		ナデ	密 7.5YR8/4		良	ほぼ完存	重さ(57.5g)
916	12603	須恵器	蓋	SD10	10.3	3.3	天井部外面一部ロケスリ、他はロケナデ	密 N6/		良	2/3	
917	12602	須恵器	蓋	SD10	8.8	3.7	天井部外面未調整、他はロケナデ	やや密 N5/		良	1/2	
918	12903	須恵器	蓋	SD10	9.0		天井部外面ロケスリ、他はロケナデ	やや密 N5/		良	口縁部1/3	
919	12601	須恵器	蓋	SD10	16.4		天井部外面ロケスリ、他はロケナデ	密 5YR6/1		良	1/3	
920	13003	須恵器	蓋	SD10	19.4		天井部外面ロケスリ、他はロケナデ	やや粗 N6/		良	3/4	
921	12002	須恵器	杯	SD10	12.2		底部外面ロケスリ、他はロケナデ	やや密 N6/		良	口縁部1/6	
922	12703	須恵器	盤	SD10	底径13.4		底部外面ロケスリ、他はロケナデ	やや密 外 10Y7/1 内 10YR8/2		良	底部1/2	
923	13504	須恵器	杯	SD10	12.4	4.5	底部外面未調整、他はロケナデ	やや粗 7.5YR6/1		不良	完存	底部外面磨耗 内外面スス
924	12605	須恵器	鉢	SD10	15.8	7.0	底部外面ロケスリ、他はロケナデ	密 2.5GY7/1		良	1/3	
925	13002	須恵器	壺	SD10	底径6.8		底部外面糸切痕、他はロケナデ	やや密 2.5Y6/1		良	底部1/2	
926	12606	須恵器	鉢	SD10	13.4	4.6	底部外面ロケスリ、他はロケナデ	密 5Y6/1		良	1/4	
927	12801	須恵器	杯	SD10	底径9.2		底部外面ロケスリ、他はロケナデ	やや粗 N6/		良	底部1/3	
928	13109	須恵器	杯	SD10	12.0	4.5	底部外面雑なヘラケスリ、他はロケナデ	やや粗 N7/		良	1/2	
929	12702	須恵器	杯	SD10	12.0	3.7	底部外面ロケスリ、他はロケナデ	密 N6/		良	1/2	
930	12802	須恵器	杯	SD10	底径11.6		底部外面ロケスリ、他はロケナデ	密 7.5Y6/1		良	底部1/4	内面磨耗 転用硯



報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
931	12902	須恵器	杯	SD10	11.5	4.2	ロクナデ	密	外 5Y5/1 内 10YR6/1	良	底部2/3	
932	12901	須恵器	杯	SD10	13.7	4.6	ロクナデ	やや粗	N7/	良	底部1/6	
933	12701	須恵器	杯	SD10	12.9	4.2	底部外面ロクナデ、他はロクナデ	密	N7/	良	口縁部1/6	
934	12804	須恵器	杯	SD10	10.0	5.3	底部外面ロクナデ、他はロクナデ	やや密	10Y6/1	良	底部完存	
935	12803	須恵器	壺	SD10	底径7.8		底部外面未調整、他はロクナデ	やや粗	N7/	良	底部完存	
936	13103	須恵器	蓋	SD10	13.7	3.0	天井部外面ロクナデ、他はロクナデ	密	2.5Y5/1	良	1/6	内面磨耗 墨痕(転用碗)
937	12604	須恵器	杯	SD10	12.8		ロクナデ	密	5PB4/1	良	1/4	
938	14007	灰釉陶器	壺	SD10	10.4		ロクナデ	やや密	10YR6/1 釉 5Y4/3	良	口縁部1/6	
939	14004	須恵器	壺	SD10	頸径4.8		ロクナデ	やや密	N6/	良	頸部完存	
940	12806	須恵器	壺	SD10	頸径5.0		ロクナデ	やや粗	N7/	良	頸部完存	
941	13004	須恵器	壺	SD10	底径10.0		体部外面下半ロクナデ、他はロクナデ	やや粗	5B6/1	良	底部3/4	
942	14103	灰釉陶器	壺	SD10	底径9.4		外面ロクナデ、内面ロクナデ	やや粗	2.5Y6/2	良	底部3/4	底部外面にヘラ記号
943	14402	須恵器	甕	SD10	36.0		ロクナデ	密	5Y3/1	良	口縁部1/6	
944	14601	須恵器	甕	SD10	30.0		ロクナデ	やや密	外 2.5Y4/1 内 10R5/1	良	口縁部1/4	
945	14401	須恵器	甕	SD10	30.8		口縁部外面かき、内面ナデ	密	7.5Y6/1	良	口縁部1/8	
946	14501	須恵器	甕	SD10	底径16.8		体部外面下端ヘラカスリ他はタタキ	やや密	N8/	良	底部1/6	
947	14301	須恵器	横瓶	SD10	体最大径20.2		底部内面強いロクナデ、同心円文	やや粗	N6/	良	体部1/2	内部2室構造
948	12607	須恵器	平瓶	SD10	9.3		体部外面下半ヘラカスリ、他はロクナデ	やや粗	N7/	良	1/3	
949	12805	須恵器	不明品	SD10	底径5.0		底部外面糸切痕、他はロクナデ	密	2.5Y5/1	良	底部完存	体部に三方透孔
950	12006	黒色土器	杯	SD10	14.6	4.7	内面ヘラミカキ	やや粗	外 5YR7/6 内 5YR4/1	良	口縁部1/4	A類 磨減が激しく調整不明
951	12403	黒色土器	碗	SD10	底径7.1		内面ヘラミカキ	密	外 2.5Y8/3 内 10YR3/1	良	底部ほぼ完存	A類 内面に螺旋暗文 磨減が激しく調整不明瞭
952	14812	黒色土器	碗	SD10	底径7.5		内面ヘラミカキ、外面未調整	密	外 10YR8/3 内 N3/	良	底部3/4	A類
953	12404	黒色土器	碗	SD10	底径7.8		内面ヘラミカキ	やや密	外 10YR8/3 内 10YR1.7/1	良	底部5/8	A類 磨減が激しく調整不明瞭
954	13604	灰釉陶器	皿	SD10	底径6.4		底部外面ロクナデ、他はロクナデ	やや密	2.5Y8/1	良	底部1/4	底部外面に墨書
955	13805	灰釉陶器	皿	SD10	13.8	2.5	底部外面ロクナデ、他はロクナデ	密	7.5Y7/1 釉 5Y6/3	良	口縁部1/3	灰釉刷毛塗り 直接重ね焼き
956	13806	灰釉陶器	皿	SD10	14.4	3.0	ロクナデ	密	5Y7/1	良	口縁部1/6	灰釉漬掛け
957	12004	灰釉陶器	碗	SD10	底径5.4		底部外面未調整、他はロクナデ	密	2.5Y8/1	良	底部完存	内面磨耗
958	13703	灰釉陶器	皿	SD10	底径6.4		底部外面糸切痕、他はロクナデ	密	7.5Y7/1	良	底部完存	灰釉漬掛け 直接重ね焼き
959	13603	灰釉陶器	皿	SD10	底径8.3		底部外面ロクナデ、他はロクナデ	密	7.5Y8/1 釉 5Y8/3	良	底部2/3	灰釉刷毛塗り 内面にトチン痕
960	13802	灰釉陶器	皿	SD10	13.1	2.4	底部外面糸切痕、他はロクナデ	密	7.5Y7/1	良	底部完存	灰釉漬掛け 直接重ね焼き痕
961	13001	灰釉陶器	碗	SD10	底径7.2		底部外面ロクナデ、他はロクナデ	やや密	N8/ 釉 2.5GY5/1	良	底部3/4	灰釉刷毛塗り トチン痕
962	13601	灰釉陶器	碗	SD10	底径8.0		底部外面ロクナデ、他はロクナデ	やや粗	5Y6/1	良	底部5/12	直接重ね焼き 灰釉刷毛塗り
963	14603	灰釉陶器	皿	SD10	15.0		ロクナデ	密	7.5Y7/1	良	口縁部1/4	
964	12001	灰釉陶器	碗	SD10	底径6.6		底部外面ナデ、他はロクナデ	密	2.5Y8/2	良	底部5/6	内面磨耗
965	13705	灰釉陶器	皿	SD10	底径6.6		底部外面糸切痕、他はロクナデ	密	2.5Y7/1	良	底部完存	内面磨耗
966	12005	灰釉陶器	碗	SD10	底径6.2		底部外面糸切痕、他はロクナデ	密	10YR7/1	良	底部完存	内面磨耗 直接重ね焼き
967	13704	灰釉陶器	碗	SD10	底径6.4		底部外面糸切痕、他はロクナデ	密	N8/	良	底部完存	内面磨耗 直接重ね焼き
968	13906	灰釉陶器	碗	SD10	底径7.8		底部外面ロクナデ、他はロクナデ	やや密	N8/ 釉 5GY6/1	良	底部1/4	灰釉刷毛塗り 外面三又トチン痕
969	13902	灰釉陶器	碗	SD10	8.2		底部外面糸切痕、他はロクナデ	やや密	N8/	良	底部5/12	内面磨耗 直接重ね焼き
970	13607	灰釉陶器	碗	SD10	底径7.6		底部外面ロクナデ、他はロクナデ	密	N8/	良	底部5/12	内面磨耗 直接重ね焼き

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
971	14002	山茶椀	椀	SD10	底径7.8		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	N8/	良	底部1/2	内面磨耗
972	13907	灰軸陶器	椀	SD10	16.2		ロクロナデ	やや密	N8/	良	口縁部1/6	灰軸刷毛塗り
973	13807	灰軸陶器	椀	SD10	16.5		ロクロナデ	密	7.5Y5/3	良	口縁部1/12	灰軸漬掛け
974	13501	灰軸陶器	椀	SD10	16.2	5.3	底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや密	N8/	良	底部7/12	灰軸漬掛け
975	13803	灰軸陶器	椀	SD10	16.2	4.6	ロクロナデ	密	5Y8/1	良	底部1/4	灰軸漬掛け 直接重ね焼き
976	13402	灰軸陶器	椀	SD10	14.4	4.5	底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y6/1	良	底部3/4	灰軸漬掛け 底部外面に墨書
977	13901	灰軸陶器	椀	SD10	底径8.2		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや密	N8/	良	底部7/12	灰軸刷毛塗り 内面にトチン痕 底部外面にベラ記号「X」
978	13706	灰軸陶器	椀	SD10	底径6.1		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	5Y7/1	良	底部1/2	
979	13108	灰軸陶器	椀	SD10	底径7.0		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや密	2.5Y8/1	良	底部1/4	灰軸刷毛塗り トチン痕
980	13702	灰軸陶器	椀	SD10	底径7.3		ロクロナデ	密	N8/	良	底部完存	直接重ね焼き
981	13701	灰軸陶器	椀	SD10	底径8.0		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	密	2.5Y7/2	良	底部完存	灰軸刷毛塗り 直接重ね焼き
982	13602	灰軸陶器	椀	SD10	底径6.7		ロクロナデ	やや密	5Y8/1	良	底部完存	内外面直接重ね焼き
983	13505	灰軸陶器	椀	SD10	底径7.8		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	N8/	良	底部1/2	直接重ね焼き
984	13605	灰軸陶器	椀	SD10	底径7.2		ロクロナデ	密	N8/	良	底部完存	内面磨耗 直接重ね焼き
985	13904	灰軸陶器	椀	SD10	13.4	4.2	底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや密	N8/	良	1/2	灰軸刷毛塗り
986	13801	灰軸陶器	椀	SD10	13.8	4.1	底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや密	N8/	良	7/8	灰軸漬掛け 直接重ね焼き
987	13404	灰軸陶器	椀	SD10	底径7.2		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや密	N8/	良	底部完存	底部外面墨書 内面磨耗 直接重ね焼き
988	13405	灰軸陶器	椀	SD10	底径6.0		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや密	2.5Y7/1	良	底部7/12	底部外面墨書 内外面直接重ね焼き
989	13507	灰軸陶器	椀	SD10	底径6.6		底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや密	N8/	良	底部ほぼ完存	内面磨耗 内面わずかに墨痕
990	13502	灰軸陶器	椀	SD10	底径6.8		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや密	N8/	良	底部完存	灰軸刷毛塗り 内外面直接重ね焼き
991	12003	灰軸陶器	椀	SD10	底径6.6		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	N8/	良	底部完存	内面磨耗
992	13709	灰軸陶器	椀	SD10	19.4		体部下半ロクロナデ、他はロクロナデ	密	5Y7/1	良	口縁部1/8	灰軸刷毛塗り
993	13606	灰軸陶器	椀	SD10	底径7.6		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや粗	7.5Y7/1	良	底部ほぼ完存	内面磨耗
994	13508	灰軸陶器	椀	SD10	底径7.8		底部外面ナデ、他はロクロナデ	密	N8/	良	底部完存	内面磨耗 直接重ね焼き
995	13503	灰軸陶器	椀	SD10	15.4	5.4	底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや密	10YR7/2	良	口縁部1/6	灰軸漬掛け 直接重ね焼き
996	14101	灰軸陶器	椀	SD10	15.6	5.1	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	5Y7/1	良	1/2	灰軸漬掛け 口縁部に輪花 直接重ね焼き
997	13403	灰軸陶器	椀	SD10	底径8.0		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや粗	N8/	良	底部3/4	底部外面墨書 直接重ね焼き
998	13506	灰軸陶器	椀	SD10	底径7.5		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや密	N8/	良	底部完存	内面磨耗 直接重ね焼き
999	14001	灰軸陶器	椀	SD10	底径7.0		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや密	N8/	良	底部完存	
1000	13903	灰軸陶器	椀	SD10	底径7.8		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや密	N8/	良	底部2/3	
1001	14202	山茶椀	椀	SD10	底径6.8		底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや密	2.5Y7/1	良	底部1/3	
1002	13707	灰軸陶器	椀	SD10	13.3	3.4	底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	密	2.5Y8/1	良	底部5/12	灰軸漬掛け
1003	13804	灰軸陶器	椀	SD10	14.0	3.9	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	N8/	良	底部1/4	灰軸漬掛け
1004	13406	灰軸陶器	椀	SD10	底径7.0		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや密	5Y8/2	良	底部5/12	底部外面墨書 直接重ね焼き
1005	13401	灰軸陶器	椀	SD10	底径6.7		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや密	2.5Y7/1	良	底部完存	灰軸刷毛塗り 底部外面に墨書 直接重ね焼き
1006	13708	灰軸陶器	壺	SD10	底径8.2		ロクロナデ	密	5Y6/1	良	底部1/2	
1007	14102	灰軸陶器	壺	SD10	底径8.2		外面ロクロナデ、内面ロクロナデ	やや密	2.5Y8/1	良	底部完存	
1008	14104	灰軸陶器	壺	SD10	底径8.7		外面ロクロナデ、内面ロクロナデ	やや粗	10Y8/1	良	底部1/2	
1009	13905	灰軸陶器	円形加工板	SD10	7.3×7.1	厚さ1.2	打ち欠き	やや密	N8/	良	底部完存	内外面磨耗 円形に加工 内外面墨痕
1010	13104	灰軸陶器	壺	SD10	底径9.0		外面ロクロナデ、内面ロクロナデ	やや粗	N7/	良	底部5/6	
1011	13205	緑釉陶器	皿	SD10	底径7.7		ロクロナデ	密	N6/	良	底部1/5	硬質 底部外面にトチン痕
1012	13202	緑釉陶器	椀	SD10	底径6.7		ロクロナデ	密	10P8/1	良	底部1/4	硬質
1013	13304	緑釉陶器	椀	SD10	底径6.8		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	密	10Y5/1	良	底部7/12	硬質
1014	12109	緑釉陶器	椀	SD10	底径7.1		ロクロナデ	密	5Y8/1	不良	底部1/4	硬質

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
1015	12305	緑釉陶器	椀	SD10	底径(6.8)		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密 7.5YR7/4 釉 7.5Y4/3	7.5YR7/4 釉 7.5Y4/3	良	底部5/12	硬質 高台剥離
1016	13308	緑釉陶器	椀	SD10	11.0		ロクロナデ	密 N6/ 釉 7.5Y4/3	N6/ 釉 7.5Y4/3	良	口縁部1/6	硬質 内面に沈線
1017	13301	緑釉陶器	椀	SD10	12.6	3.8	底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	密 2.5Y8/2 釉 7.5Y6/2	2.5Y8/2 釉 7.5Y6/2	不良	底部1/4	硬質 内面に沈線
1018	12807	緑釉陶器	椀	SD10	底径7.0			密 2.5Y8/3 釉 10GY7/6	2.5Y8/3 釉 10GY7/6	やや不良	底部1/4	軟質 磨滅が激しく調整不明
1019	13303	緑釉陶器	椀	SD10	底径4.5		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密 2.5Y7/3 釉 7.5Y6/3	2.5Y7/3 釉 7.5Y6/3	不良	底部7/12	硬質 内面に沈線
1020	13203	緑釉陶器	椀	SD10	底径7.2		ロクロナデ	密 2.5YR6/4 釉 10Y4/4	2.5YR6/4 釉 10Y4/4	良	底部ほぼ完存	硬質 内外面にトチン痕
1021	13206	緑釉陶器	椀	SD10	-		ロクロナデ	密 N7/ 釉 7.5Y6/3	N7/ 釉 7.5Y6/3	良	口縁部小片	硬質？
1022	13201	緑釉陶器	椀	SD10	底径6.8		ロクロナデ	やや密 5YR5/1 釉 5GY7/4	5YR5/1 釉 5GY7/4	良	底部2/3	硬質 内外面にトチン痕
1023	13305	緑釉陶器	椀	SD10	底径6.8		底部外面未調整、他はロクロナデ	密 7.5Y6/1 釉 7.5Y6/3	7.5Y6/1 釉 7.5Y6/3	良	底部9/12	硬質 内面に沈線
1024	13204	緑釉陶器	椀	SD10	底径6.4		ロクロナデ	密 2.5Y8/2 釉外 7.5Y7/2 内 5Y6/4	2.5Y8/2 釉外 7.5Y7/2 内 5Y6/4	不良	底部1/4	硬質 内外面にトチン痕 底部内面に沈線
1025	13302	緑釉陶器	椀	SD10	13.1	4.4	ロクロナデ	密 10Y6/1 釉 10Y5/2	10Y6/1 釉 10Y5/2	良	底部7/12	硬質 口縁部に輪花4方
1026	15001	瓦	丸瓦	SD10	-		凹面布目痕、凸面ナデ	粗 N5/ 釉 5Y7/1	N5/ 釉 5Y7/1	良	1/2	
1027	14606	白磁	椀	SD10	15.4		ロクロナデ	密	-	-	小片	
1028	11906	鉄製品	釘	SD10	(4.1)×(0.4)			-	-	-		
1029	13608	山茶椀	小椀	SD10	底径4.8		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密 5Y6/1	5Y6/1	良	底部5/12	内面磨耗
1030	14604	弥生土器	高杯	SD10	胴柱径4.2			粗 2.5Y8/2	2.5Y8/2	良	脚柱部完存	磨滅が激しく調整不明 透孔4方
1031	14701	韓式系土器	甕	SD10	-		外面タタキ、内面ナデ	やや粗 外 2.5Y8/1 内 10YR7/2	外 2.5Y8/1 内 10YR7/2	良	小片	
1032	15701	土師器	椀	SD11	12.3	3.0	外面未調整、内面ナデ	やや粗 5YR6/6	5YR6/6	不良	1/4	
1033	15502	土師器	杯	SD11	13.8	2.4	外面未調整、内面ナデ	密	外 7.5YR8/2 内 5YR8/4	不良	口縁部1/7	磨滅が激しく調整不明瞭
1034	15503	土師器	甕	SD11	21.0		ナデ	粗 10YR7/3	10YR7/3	良	口縁部1/8	
1035	15504	土師器	鍋	SD11	20.8		ナデ	粗 外 7.5YR5/1 内 7.5YR6/6	外 7.5YR5/1 内 7.5YR6/6	良	口縁部1/10	清郷
1036	15807	ロクロ土師器	皿	SD11	底径5.5		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密 10YR8/2	10YR8/2	やや不良	底部完存	磨滅が激しく調整不明瞭
1037	15505	ロクロ土師器	皿	SD11	底径5.6		ロクロナデ	密 2.5Y8/2	2.5Y8/2	良	底部1/2	
1038	15806	ロクロ土師器	皿	SD11	底径5.0		底部外面糸切痕 底部外面がタタキ、他はロクロナデ	密 2.5Y8/2	2.5Y8/2	やや不良	底部完存	
1039	15507	土製品	土鍔	SD11	(3.2)×1.4		ナデ	密 2.5Y7/1	2.5Y7/1	良	2/3	重さ(4.2g)
1040	15508	土製品	土鍔	SD11	4.5×1.5		ナデ	やや密 2.5Y8/2	2.5Y8/2	良	完存	重さ9.4g
1041	15808	土製品	土鍔	SD11	(4.1)×2.2		ナデ	やや粗 2.5Y8/2	2.5Y8/2	良	4/5	重さ(17.8g)
1042	15510	土製品	土鍔	SD11	3.5×2.8		ナデ	やや粗 10YR7/3	10YR7/3	良	完存	重さ30.4g
1043	15501	須臾器	壺	SD11	底径11.3		外面ロクロナデ、内面ロクロナデ	やや密 N6/ 釉 2.5Y8/1	N6/ 釉 2.5Y8/1	良	底部1/6	
1044	15803	灰釉陶器	皿	SD11	底径7.5		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密 2.5Y8/1	2.5Y8/1	良	底部1/4	内面磨耗
1045	15902	灰釉陶器	椀	SD11	底径7.3		ロクロナデ 他はロクロナデ	やや密 2.5Y8/1	2.5Y8/1	良	底部1/4	内面磨耗 直接重ね焼き
1046	15804	灰釉陶器	皿	SD11	底径7.4		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや密 2.5Y8/1	2.5Y8/1	良	底部1/4	内面やや磨耗
1047	15909	灰釉陶器	椀	SD11	底径6.6		外面ロクロナデ、内面ロクロナデ	やや密 5Y8/1	5Y8/1	良	底部完存	内面磨耗
1048	15908	灰釉陶器	皿	SD11	底径6.5		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや密 N8/ 釉 10YR9/1	N8/ 釉 10YR9/1	良	底部3/4	内面やや磨耗
1049	15702	灰釉陶器	椀	SD11	底径6.8		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗 N7/ 釉 10YR9/1	N7/ 釉 10YR9/1	良	底部9/10	内面やや磨耗
1050	15509	緑釉陶器	皿	SD11	底径6.3		ロクロナデ	密 10GY8/4	10GY8/4	不良	底部3/4	軟質 底部内面に沈線

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
1051	15602	緑釉陶器	碗	SD11	底径6.6		クロナデ	密	5B6/1 粗 2.5GY5/4	良	底部完存	硬質 内面三又トチン痕 底部内面に沈線
1052	15603	緑釉陶器	碗	SD11	底径6.6		底部外面糸切痕、他はクロナデ	密	10YR7/1 粗 10Y5/4	良	底部1/3	硬質 内面三又トチン痕 底部内面に沈線
1053	15604	緑釉陶器	碗	SD11	底径6.0		底部外面糸切痕、他はクロナデ	やや密	2.5Y7/1 粗 7.5Y5/3	良	底部1/3	硬質 内面三又トチン痕 底部内面に沈線
1054	15601	緑釉陶器	碗	SD11	底径6.0		底部外面糸切痕、他はクロナデ	密	N6/ 粗 緑	良	底部3/4	硬質
1055	15904	山菜碗	碗	SD11	底径6.9		底部外面糸切痕、他はクロナデ	やや粗	2.5Y8/1	良	底部完存	内面磨耗
1056	15903	山菜碗	碗	SD11	底径7.5		底部外面糸切痕、他はクロナデ	密	2.5Y8/1	良	底部1/2	内面磨耗 直接重ね焼き
1057	15910	山菜碗	碗	SD11	底径7.6		底部外面糸切痕、他はクロナデ	やや密	N8/	良	底部完存	内面磨耗 直接重ね焼き
1058	15801	山菜碗	碗	SD11	底径6.9		底部外面糸切痕、他はクロナデ	粗	2.5Y8/1	良	底部4/5	内面磨耗
1059	15905	山菜碗	碗	SD11	底径6.6		底部外面糸切痕、他はクロナデ	やや密	N8/	良	底部完存	内面磨耗
1060	15802	山菜碗	碗	SD11	底径7.3		底部外面糸切痕、他はクロナデ	やや密	N8/	良	底部ほぼ完存	内面磨耗 直接重ね焼き
1061	15901	山菜碗	碗	SD11	底径7.6		底部外面糸切痕、他はクロナデ	やや密	7.5Y7/1	良	底部3/4	内面磨耗 直接重ね焼き
1062	15907	山菜碗	碗	SD11	底径8.3		底部外面糸切痕、他はクロナデ	やや密	N8/	良	底部2/3	内面磨耗
1063	15906	山菜碗	碗	SD11	底径7.4		底部外面糸切痕、他はクロナデ	やや密	N8/	良	底部1/2	内面磨耗
1064	15703	山菜碗	碗	SD11	15.4	5.7	クロナデ	密	7.5Y7/1	良	底部完存	内面磨耗 直接重ね焼き
1065	15805	山菜碗	碗	SD11	底径6.5		底部外面糸切痕、他はクロナデ	密	N8/	良	底部9/10	内面磨耗 直接重ね焼き
1066	15911	山菜碗	碗	SD11	底径7.9		底部外面糸切痕、他はクロナデ	密	2.5Y8/1	良	底部1/2	内面磨耗 直接重ね焼き
1067	15506	石製品	砥石?		(10.2)×8.3	厚さ2.3		-	-	-	小片	重さ(274.0g)
1068	16101	瓦	平瓦	SD11	-		凹面布目痕、凸面縄タキ	やや粗	10Y5/1	良	2/3	
1069	16001	瓦	軒平瓦	SD11	-		凹面布目痕一部ハケタキ	やや粗	N5/	良	小片	段頸 偏行唐草文
1070	18304	土師器	高杯	SD14	底径10.1		外面ハケタキ、内面ナデ	やや粗	7.5YR7/4	良	脚部ほぼ完存	磨滅が激しく調整不明瞭
1071	18303	須恵器	杯	SD14	12.0	4.4	外面ハケタキ、内面ナデ	やや粗	5Y7/1	やや不良	3/4	
1072	18302	須恵器	壺	SD14	底径9.0		外面下半コクロケスリ、他はクロケナデ	やや粗	2.5GY4/1	良	底部1/3	
1073	18301	土師器	甕	SD14	18.8		ハケタキ	やや密	10YR7/6	良	2/3	
1074	36903	韓式系土器	甕	SD12	-		外面タキ、内面ナデ	やや密	7.5YR7/3	良	体部小片	
1075	36904	韓式系土器	甕	SD12	-		外面タキ、内面ナデ	やや密	7.5YR7/2	良	体部小片	
1076	36905	韓式系土器	甕	SD12	-		外面タキ、内面ナデ	やや密	10YR7/3	良	体部小片	
1077	36906	韓式系土器	甕	SD12	-		外面タキ、内面ナデ	やや密	10YR7/3	良	体部小片	
1078	17806	土師器	杯	SD12	8.9		外面ハケタキ、内面ナデ	密	7.5YR8/2	良	口縁部1/8	内面放射暗文
1079	17402	土師器	杯	SD12	12.8	2.8	外面未調整、内面ナデ	やや密	外 7.5YR8/3 内 5YR6/6	良	1/3	
1080	17601	土師器	甕	SD12	18.1		ハケタキ	やや密	10YR8/3	良	口縁部1/10	
1081	17803	土師器	甕	SD12	12.2		外面上半ハケタキ、他はナデ	やや密	2.5Y8/3	良	口縁部1/4	
1082	17602	土師器	甕	SD12	28.2		ハケタキ	粗	10YR7/4	良	口頸部1/4	
1083	17802	土師器	甕	SD12	12.3		外面ハケタキ、内面ナデ	密	2.5Y8/3	良	口縁部1/2	
1084	17904	土師器	鍋	SD12	-		ナデ	粗	7.5YR7/4	良	口縁部小片	外面スス
1085	17801	土師器	甕	SD12	22.4		外面ハケタキ、内面ナデ	やや粗	10YR7/3	良	口縁部1/6	
1086	17702	土師器	甕	SD12	胴径(22.4)		ハケタキ	やや密	10YR8/3	良	体底部小片	推定径
1087	18104	土製品	不明品	SD12	-		ハケタキ	密	7.5YR7/4	良	小片	
1088	17406	土製品	土錘	SD12	(6.7)×3.4		ナデ	やや密	2.5Y8/2	良	ほぼ完存	重さ(82.5g)
1089	18105	土製品	土錘	SD12	(5.0)×1.3		ナデ	密	2.5Y8/2	良	ほぼ完存	重さ(7.3g)
1090	17905	土師器	甕	SD12	30.6		外面ハケタキ、内面ナデ	やや粗	10YR6/3	良	口縁部2/3	ヘアスリ状のハケタキ
1091	18201	土製品	土馬	SD12	現長(26.8)		ナデ、一部ハケタキ	やや粗	10YR6/4	良	頸部胴部	頸部に沈線で手綱の表現あり
1092	18101	土製品	土管?	SD12	銜径23.0		外面ハケタキ、内面ナデ	密	外 7.5YR8/4 内 2.5Y8/3	良	銜部1/12	推定径
1093	17701	土製品	甕	SD12	-		外面ハケタキ、内面ナデ	やや粗	10YR6/3	良	体部小片	
1094	17207	須恵器	蓋	SD12	11.1		天井部外面コクロケスリ、他はクロケナデ	密	N7/	良	1/4	
1095	17209	須恵器	蓋	SD12	13.3	2.7	天井部外面コクロケスリ、他はクロケナデ	やや粗	N7/	良	1/2	



報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
1096	17208	須恵器	蓋	SD12	15.4	2.8	天井部外面ロクロケスリ、他はロクロナデ	密	N6/ 2.5Y7/1	良	1/2	
1097	17501	須恵器	皿	SD12	15.4	2.9	底部外面ロクロケスリ、他はロクロナデ	やや密	外 7.5YR7/3 内 7.5YR4/3	やや不良	1/2	
1098	17202	須恵器	杯	SD12	10.7	4.1	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや粗	外 N6/ 内 N7/	不良	底部完存	
1099	17308	須恵器	杯	SD12	12.6	3.8	底部外面ロクロケスリ、他はロクロナデ	やや密	外 N6/ 内 2.5Y6/1	良	口縁部1/6	
1100	17203	須恵器	杯	SD12	11.0	3.6	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密	外 N6/ 内 7.5Y7/1	良	底部完存	
1101	17309	須恵器	杯	SD12	10.8		底部外面未調整、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y7/1	良	1/4	
1102	17305	須恵器	杯	SD12	10.3	4.2	底部外面未調整、他はロクロナデ	密	2.5Y7/1	良	1/8	
1103	17301	須恵器	杯	SD12	底径8.6		底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密	N6/ 外 5Y6/1 内 10YR6/1	良	底部完存	
1104	17306	須恵器	杯	SD12	13.2	3.1	外面下半ロクロケスリ、他はロクロナデ	密	外 5Y6/1 内 10YR6/1	良	1/4	
1105	17201	須恵器	杯	SD12	11.2	3.7	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密	N6/ 外 10YR8/4 内 2.5Y7/1	良	1/2	
1106	17204	須恵器	杯	SD12	10.8	4.0	底部外面未調整、他はロクロナデ	密	外 10YR8/4 内 2.5Y7/1	不良	底部1/2	
1107	17310	須恵器	杯	SD12	10.8	3.2	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや粗	N5/ 外 10YR8/4 内 2.5Y7/1	良	底部完存	
1108	17303	須恵器	杯	SD12	底径9.2		底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密	N7/ 7.5Y6/1	良	底部ほぼ完存	
1109	17302	須恵器	杯	SD12	底径9.5		底部外面未調整、他はロクロナデ	密	7.5Y6/1	良	底部1/2	
1110	17307	須恵器	杯	SD12	11.2		底部外面未調整、他はロクロナデ	密	10YR5/1	良	1/3	
1111	17206	須恵器	鉢	SD12	17.4		ロクロナデ	やや密	外 5Y7/1 内 N7/	良	1/8	
1112	17503	須恵器	壺	SD12	底径11.6		外面下半ロクロケスリ、他はロクロナデ	やや粗	外 10YR5/1 内 N6/	良	底部1/8	
1113	17405	須恵器	壺	SD12	10.7		ロクロナデ	やや粗	N5/ 外 10YR5/1 内 N6/	良	口縁部1/2	
1114	17603	須恵器	甕	SD12	体径7.5		底部外面ベラケスリ、他はロクロナデ	やや粗	5Y5/1	良	底部完存	
1115	17804	須恵器	壺	SD12	頸径4.3		ロクロナデ	やや密	N7/	良	頸部完存	頸部に沈線2条
1116	17506	須恵器	壺	SD12	底径7.4		底部外面ロクロケスリ、他はロクロナデ	密	5B6/1	良	底部1/2	
1117	17505	須恵器	壺	SD12	14.2		外面ケスリ、内面は同心円文	やや粗	N4/	良	口縁部1/2	口縁部外面に沈線
1118	17502	須恵器	壺	SD12	底径8.7		外面下半ロクロケスリ、他はロクロナデ	やや粗	2.5GY7/1	やや不良	底部2/3	
1119	17304	須恵器	壺	SD12	底径6.1		底部外面未調整、他はロクロナデ	密	N6/	良	底部完存	
1120	18002	須恵器	甕	SD12	38.6		外面ケスリ一部ケスリ、内面ロクロナデ	やや粗	N5/	良	口縁部1/6	
1121	18001	須恵器	甕	SD12	20.5		外面ケスリ一部ケスリ、内面同心円文	やや粗	7.5Y6/1	良	口縁部1/4	
1122	17504	須恵器	壺	SD12	18.4		外面ケスリ、内面は同心円文	やや粗	5Y7/2	良	口縁部1/12	口縁部外面に沈線2条
1123	17805	灰釉陶器	皿	SD12	底径7.2		底部外面ロクロケスリ、他はロクロナデ	やや密	2.5Y8/1 釉 7.5Y8/1	良	底部1/4	
1124	17205	灰釉陶器	皿	SD12	13.8	3.1	ロクロナデ	密	5Y7/1	良	1/4	灰釉漬掛け
1125	17401	灰釉陶器	椀	SD12	14.1	4.4	外面下半ロクロケスリ、他はロクロナデ	やや粗	5Y8/1	良	1/4	灰釉漬掛け 直接重ね焼き
1126	17210	灰釉陶器	小椀	SD12	底径5.3		ロクロナデ	密	外 7.5Y7/1 内 2.5Y6/1	良	底部1/2	
1127	17903	緑釉陶器	椀	SD12	底径8.0		ロクロナデ	密	7.5Y7/1 釉 5Y7/4	良	底部1/3	三又トチン痕 内面に凹線 硬質
1128	17902	緑釉陶器	椀	SD12	底径6.3		ロクロナデ	密	2.5Y7/2 釉 5Y7/4	良	底部1/5	三又トチン痕 内面に凹線 硬質
1129	17403	石製品	砥石	SD12	(10.1)×4.2	厚さ1.4	凹面布目	-	-	-	端部欠	重さ94.0g 石包丁転用? 片麻岩
1130	18102	瓦	平瓦	SD12	-	-	凹面布目、凸面ナデ	やや粗	2.5Y8/3	良	小片	磨滅が激しく調整不明瞭 土師質
1131	18103	瓦	平瓦	SD12	-	-	凹面布目、凸面ナデ	やや粗	N6/	良	小片	陶質
1132	17404	石製品	砥石	SD12	(7.2)×(1.4)			-	-	-	小片	重さ(41.8g)
1133	17311	石製品	石鱗	SD12	2.35×(1.55)	厚さ0.30		-	-	-	ほぼ完存	重さ(0.80g) サヌカイ
1134	18106	石製品	不明品	SD12	3.4×2.1	厚さ1.0		-	-	-	完存	未製品?
1135	17901	石製品	紡錘車	SD12	径4.1	厚さ1.0		-	-	-	ほぼ完存	重さ(31.8g)
1136	15106	土師器	杯	SD13	12.6	3.4	底部外面未調整、内面ナデ	密	5YR6/6	良	口縁部1/4	
1137	15105	灰釉陶器	椀	SD13	底径7.3		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	2.5Y8/1	良	底部1/4	内面磨耗

報告 番号	実測 番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高 (cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
1138	15103	山茶碗	碗	SD13	底径7.5		底部外面ナデ、他はロクロナデ	密	2.5Y8/1	良	底部3/4	内面磨耗 高台に砂痕?
1139	15101	山茶碗	碗	SD13	底径7.0		底部外面ナデ、他はロクロナデ	密	2.5Y7/1	良	底部完存	内面磨耗
1140	15102	山茶碗	碗	SD13	底径7.4		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y8/1	良	底部1/4	内面磨耗
1141	15203	青磁	皿	SD13	底径4.6		底部外面ロクロスリ、 他はロクロナデ	密	7.5Y7/1	良	底部1/4	同安窯系
1142	15206	山茶碗	鉢	SD13	底径11.8		底部外面ロクロスリ	やや粗	N8/	良	底部1/4	内面磨耗
1143	15205	陶器	甕	SD13	-		ロクロナデ	粗	2.5YR4/2	良	口縁部小片	常滑
1144	15305	陶器	甕	SD13	-		ロクロナデ	粗	10YR7/3 釉 5YR4/6	良	口縁部小片	
1145	15104	山茶碗	碗	SD13	底径6.6		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	2.5Y7/1	良	底部1/2	内面やや磨耗 高台に砂痕
1146	15108	施釉陶器	皿	SD13	底径7.3		ハケム	密	5Y5/1 釉 5Y6/1	良	底部1/4	志野 碁筒底
1147	15204	陶器	鉢	SD13	30.0		ロクロナデ	密	7.5Y7/1 釉 5Y2/2	良	口縁部1/8	笠原鉢
1148	15107	陶器	天目茶碗	SD13	12.6		底部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	密	2.5Y8/2 釉 10YR4/6	良	口縁部1/12	
1149	15201	磁器	蓋	SD13	つまみ径4.5			密	10Y8/1 釉 白・藍	良	つまみ部完存	伊万里 肥前系
1150	15202	施釉陶器	円形加工板	SD13	4.6×4.3	厚さ1.2	打ち欠き	やや粗	2.5Y8/1 釉 5YR4/3	良	完存	天目茶碗底部を転用 重さ20.8g
1151	15304	陶器	円形加工板	SD13	4.3×4.0	厚さ1.2	打ち欠き	やや粗	7.5YR5/3 釉 7.5YR4/3	良	完存	常滑甕胴部を転用 重さ27.0g
1152	15302	陶器	円形加工板	SD13	7.3×6.9	厚さ1.4	打ち欠き	やや粗	2.5Y6/6	良	完存	常滑甕胴部を転用 重さ86.0g
1153	15303	陶器	円形加工板	SD13	6.8×6.7	厚さ1.2	打ち欠き	やや密	外 2.5YR4/3 内 10YR5/4	良	完存	常滑甕胴部を転用 重さ72.0g
1154	15301	青磁	円形加工板	SD13	7.2×6.5	厚さ2.2	打ち欠き	密	10Y7/1 釉 10Y5/2	良	完存	青磁碗底部を転用 重さ106.0g
1155	15401	石製品	石剣	SD13	(6.4)×3.6	厚さ1.3		-	-	-	小片	磨製 重さ(37.6g)
1156	18901	緑釉陶器	碗	SD28	底径7.6		底部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	密	10YR5/1 釉 10Y6/2	良	底部1/6	硬質
1157	18501	須恵器	高杯	SD17	7.2		杯部外面下半ロクロスリ 他はロクロナデ	やや粗	N5/	良	杯部1/2	ワイングラス形
1158	17002	土師器	甕	SD29	25.2		ハケム	やや粗	10YR8/2	良	口縁部1/6	
1159	17003	須恵器	壺	SD29	19.2		外面ハケム、内面ロクロナデ	やや密	N5/	良	口縁部1/8	
1160	18604	須恵器	蓋	SD29	11.7	3.0	天井部外面ロクロスリ 他はロクロナデ	密	N6/	良	ほぼ完存	
1161	18601	須恵器	蓋	SD29	13.2	3.4	天井部外面ロクロスリ 他はロクロナデ	やや粗	N6/	良	1/4	
1162	18602	須恵器	杯	SD29	底径9.0		底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密	7.5YR7/4	良	底部1/4	酸化焼成
1163	17001	須恵器	杯	SD29	13.0	3.8	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや粗	N7/	良	1/3	
1164	18603	灰釉陶器	碗	SD29	底径7.0		底部外面ロクロスリ、 他はロクロナデ	密	2.5Y7/1	良	底部ほぼ完存	
1165	17004	山茶碗	碗	SD29	底径7.2		底部外面未調整、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y7/1	良	底部1/4	高台にモカウ痕 直接重ね焼き
1166	19005	土師器	高杯	SD30	底径12.7		脚部内面ハケスリ	やや粗	10YR8/3	良	脚注部完存	磨減が激しく調整不明瞭
1167	19003	須恵器	蓋	SD30	11.8	4.2	天井部外面ロクロスリ 他はロクロナデ	密	5PB7/1	良	1/2	
1168	19002	須恵器	杯	SD30	9.8	4.2	底部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	やや粗	N8/	良	3/4	
1169	19001	土師器	甕	SD30	16.5		外面ハケム、内面ナデ	やや粗	2.5Y8/3	良	口縁部1/4	
1170	19004	石製品	石鉢	SD30	3.20×1.65	厚さ0.40		-	-	-	完存	重さ1.80g サスカイト
1171	19101	須恵器	横瓶	SD31	12.0		ロクロナデ	やや粗	N8/	良	口縁部2/3	
1172	19102	須恵器	蓋	SD31	15.1		天井部外面ロクロスリ 他はロクロナデ	やや粗	N6/	良	口縁部1/8	
1173	19105	石製品	碁鉢車	SD31	径3.95	厚さ2.10		-	-	-	ほぼ完存	重さ(46.4g) 滑石
1174	19104	石製品	石鉢	SD31	(1.80)×(1.25)	厚さ0.30		-	-	-	ほぼ完存	重さ(0.5g) サスカイト
1175	19103	石製品	石鉢	SD31	(2.00)×(1.95)	厚さ0.35		-	-	-	ほぼ完存	重さ(1.4g) サスカイト

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
1176	19404	土師器	鍋	SD32	-		ヨコナデ	密	2.5Y8/3	良	口縁部小片	伊勢型 内外面スス
1177	19403	土師器	鍋	SD32	-		ヨコナデ	やや粗	2.5Y8/3	やや不良	口縁部小片	伊勢型
1178	19402	土師器	羽釜	SD32	-			やや粗	2.5Y8/2	やや不良	口縁部小片	磨減が激しく調整不明
1179	19212	ガラス製品	白玉	SD32	径0.95	厚さ0.70		-	-	-	完存	重さ0.75g
1180	19409	石製品	石鏃	SD32	2.05×1.70	厚さ0.40		-	-	-	ほぼ完存	重さ(0.95g) サヌカイト
1181	19201	石製品	石鏃	SD32	1.80×1.45	厚さ0.38		-	-	-	完存	重さ0.5g チャート
1182	19304	須恵器	円面硯	SD32	最大径16.2			やや密	7.5Y5/2	良	陸部磨耗	陸部磨耗
1183	19205	灰釉陶器	椀	SD32	底径8.4		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	5Y8/1	良	底部1/4	直接重ね焼き
1184	19207	灰釉陶器	椀	SD32	底径6.9		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	7.5Y7/1	良	底部1/3	直接重ね焼き
1185	19203	灰釉陶器	椀	SD32	底径6.7		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	N8/	良	底部完存	内面磨耗 直接重ね焼き
1186	19201	山茶椀	椀	SD32	底径7.2		底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや粗	N8/	良	底部完存	内面磨耗 高台にモカワ痕
1187	19204	山茶椀	椀	SD32	底径6.5		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	N8/	良	底部完存	内面磨耗 高台にモカワ痕
1188	19202	山茶椀	椀	SD32	底径6.6		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	5Y8/1	良	底部1/2	内面磨耗 高台にモカワ痕
1189	19208	山茶椀	小皿	SD32	7.6	2.2	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや粗	N8/	良	1/4	内面磨耗 高台にモカワ痕
1190	19209	山茶椀	小皿	SD32	7.8	1.5	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	N7/	良	1/4	
1191	19206	山茶椀	椀	SD32	底径7.4		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	N8/	良	底部3/5	内面磨耗
1192	19401	山茶椀	鉢	SD32	-		ロクロナデ	やや粗	7.5Y6/1	良	口縁部小片	
1193	19210	山茶椀	鉢	SD32	底径13.4		体部外面下端ヘラケスリ、他はロクロナデ	粗	N8/	良	底部1/4	
1194	19407	陶器	甕	SD32	-		ヨコナデ	やや粗	外 5YR5/1 内 2.5YR5/3	良	口縁部小片	常滑
1195	19406	陶器	甕	SD32	-		ヨコナデ	やや粗	N5/	良	口縁部小片	常滑
1196	19405	陶器	甕	SD32	-		ヨコナデ	やや粗	外 2.5Y7/1 内 7.5YR6/2	良	口縁部小片	常滑
1197	19408	陶器	甕	SD32	-		外面一部タタキ、他はナデ	やや粗	外 10YR8/3 内 2.5Y8/2	良	小片	常滑 体部外面格子押印文
1198	19301	陶器	鉢	SD32	-		外面未調整、内面ナデ	やや粗	外 5YR6/6 内 2.5YR6/4	良	口縁部小片	常滑
1199	19303	陶器	鉢	SD32	-		ナデ	やや粗	7.5YR6/4	良	口縁部小片	常滑
1200	19302	陶器	鉢	SD32	-		外面未調整、内面ナデ	やや粗	2.5YR6/6	良	口縁部小片	常滑
1201	19305	銭貨	銭	SD32	-			-	-	-	完存	2枚施着 重さ5.4g
1202	27906	弥生土器	壺	SD33	17.8			やや粗	2.5Y7/2	良	口縁部1/12	口縁端部外面及び内面に羽状刻目 円形浮文+波状文
1203	27502	弥生土器	壺	SD33	15.8			やや密	2.5Y7/3	良	口縁部1/6	
1204	28602	弥生土器	高杯	SD33	18.8		ヘラガキ	密	10YR8/3	不良	口縁部1/4	磨減が激しく調整不明瞭
1205	27902	弥生土器	甕	SD33	底径5.7		外面ハケム、内面工具ナデ	やや密	10YR7/2	やや不良	底部完存	
1206	28305	土師器	甕	SD33	12.8		外面ハケム、内面ナデ	粗	10YR6/3	良	口縁部5/12	
1207	27903	土師器	甕	SD33	15.6		ヨコナデ	やや粗	2.5Y7/4	良	口縁部1/3	口縁端部に刻目
1208	28302	土師器	甕	SD33	13.6		ハケム	やや粗	10YR6/4	良	口縁部1/6	筒型甕小?
1209	27501	土師器	甕	SD33	13.4		外面ハケム	やや粗	10YR7/2	良	口縁部1/12	磨減が激しく調整不明瞭
1210	28501	土師器	甕	SD33	13.3		外面ハケム、内面ハケム	密	7.5Y8/3	良	口縁部1/3	
1211	28101	土師器	甕	SD33	13.3		外面ハケム、内面ナデ	やや密	2.5Y7/2	良	口縁部1/6	
1212	28102	土師器	甕	SD33	底径7.6		外面ハケム、内面ナデ	粗	2.5Y4/1	良	台部1/12	
1213	27606	土師器	甕	SD33	底径7.6		外面ハケム、内面ナデ	やや粗	7.5YR8/3	良	台部1/3	
1214	27603	土師器	高杯	SD33	底径13.3			やや粗	7.5YR7/4	やや不良	脚部1/4	磨減が激しく調整不明
1215	27904	土師器	高杯	SD33	底径8.5			やや密	5YR6/8	良	脚注部完存	磨減が激しく調整不明
1216	27702	土師器	皿	SD33	9.5	2.1	外面未調整、内面ナデ	密	10YR8/3	良	1/5	
1217	28404	土師器	皿	SD33	9.3	1.9	外面未調整、内面ナデ	やや密	2.5Y8/2	良	口縁部1/12	
1218	28704	土師器	皿	SD33	12.6	1.6	外面未調整、内面ナデ	やや密	10YR8/2	良	口縁部1/12	
1219	28707	土師器	皿	SD33	8.8	1.6	外面未調整、内面ナデ	密	2.5Y8/2	良	口縁部1/12	
1220	28202	土師器	皿	SD33	9.8	2.1	外面未調整、内面ナデ	やや密	2.5Y8/2	良	口縁部1/4	
1221	28705	土師器	皿	SD33	9.8	1.5	外面未調整、内面ナデ	密	10YR8/2	良	口縁部1/12	
1222	28706	土師器	皿	SD33	8.8	0.8	外面未調整、内面ナデ	密	10YR8/2	良	口縁部1/12	
1223	28709	土師器	羽釜	SD33	28.0		ヨコナデ	密	10YR7/3	良	口縁部1/12	鏝以下スス
1224	28801	土師器	羽釜	SD33	17.3		ヨコナデ	やや密	2.5Y7/2	良	口縁部1/12	鏝以下スス

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
1225	28304	須恵器	蓋	SD33	12.2	4.9	天井部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	密	N7/	良	口縁部1/12	
1226	28601	須恵器	蓋	SD33	13.8	4.4	天井部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	密	10Y7/1	やや不良	1/4	
1227	27701	須恵器	蓋	SD33	13.6		天井部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	密	N4/	良	1/4	
1228	27601	須恵器	蓋	SD33	14.7		天井部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	やや粗	N7/	良	口縁部1/12	磨滅が激しく調整不明
1229	28708	須恵器	杯	SD33	13.2	3.5	底部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	やや粗	N5/	良	1/4	
1230	27704	須恵器	杯	SD33	13.5		ロクロナデ	やや密	N8/	良	口縁部1/12	
1231	28201	須恵器	杯	SD33	15.7	2.8	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密	N5/	良	口縁部1/12	
1232	28001	須恵器	高杯	SD33	底径9.9		ロクロナデ	やや粗	7.5Y5/1	良	脚部ほぼ完存	
1233	27801	須恵器	鉢	SD33	底径10.3		ロクロナデ	密	N6/	良	底部1/3	
1234	27802	須恵器	甕	SD33	体径7.6		体部外面下端未調整、他はロクロナデ	密	N5/	良	体部1/3	注口隆起 体部に沈線+刺突列点文
1235	27504	須恵器	甕	SD33	11.6		ロクロナデ	やや粗	N5/	良	口縁部1/3	
1236	28002	土師器	高杯	SD33	底径12.6		ロクロナデ	密	2.5Y7/2	良	脚部3/4	磨滅が激しく調整不明
1237	28502	須恵器	甕	SD33	17.4		外面タタキ、内面同心円文	やや粗	7.5Y7/1	良	口縁部1/2	
1238	28303	須恵器	甕	SD33	胴径(30.8)		外面粗いハラスリ、内面ハラスリ	やや粗	2.5Y7/1	良	把手部片	推定径
1239	27907	須恵器	甕?	SD33	28.6		外面タタキ、内面タタキ、同心円文	やや粗	N5/	良	口縁部1/12	
1240	28402	須恵質	円筒輪	SD33	直径32.8		外面横ハケ、内面未調整	やや密	10YR7/4	やや不良	口縁部1/6	
1241	28205	灰釉陶器	皿	SD33	底径6.4		底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや密	5Y8/1	良	底部1/6	灰釉漬掛け
1242	27905	灰釉陶器	碗	SD33	底径7.5		ロクロナデ	やや密	5Y7/1	良	底部1/6	内面磨耗
1243	28103	灰釉陶器	壺	SD33	底径12.6		外面ロクロスリ、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y7/1 釉 5Y6/3	良	底部1/6	
1244	28401	青磁	碗	SD33	17.2		ロクロナデ	密	10Y8/1 釉 10Y7/2	良	口縁部1/10	内面に印刻文
1245	28703	山来碗	小皿	SD33	9.1	1.3	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	N7/	良	1/3	直接重ね焼き
1246	27703	山来碗	碗	SD33	底径6.3		ロクロナデ	やや粗	2.5Y8/1	良	1/4	
1247	28104	山来碗	碗	SD33	底径7.2		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	2.5Y8/1	良	底部1/2	高台にミカウ痕
1248	27602	山来碗	碗	SD33	底径6.9		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	5Y8/1	良	底部1/2	高台にミカウ痕 内面磨耗
1249	28405	山来碗	碗	SD33	底径4.9		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y8/1	良	底部完存	
1250	28204	山来碗	碗	SD33	底径8.2		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y7/1	良	底部1/2	瀬戸 II-4~5
1251	28701	山来碗	碗	SD33	底径8.3		底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや密	2.5Y7/1	良	底部1/3	内面ミカ
1252	28702	山来碗	碗	SD33	底径7.6		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	5Y7/1	良	底部1/2	内面ミカ
1253	28802	山来碗	鉢	SD33	18.6		ロクロナデ	やや粗	N7/	良	口縁部1/12	
1254	27604	山来碗	碗	SD33	16.4		ロクロナデ	やや密	N8/	良	口縁部1/12	内面ミカ
1255	27503	陶器	鉢	SD33	24.5		ロクロナデ	やや密	2.5Y8/3 釉 7.5YR3/2	良	口縁部1/12	
1256	28301	陶器	壺	SD33	底径10.4		体部外面ロクロスリ	やや粗	5Y5/1	良	底部1/4	自然釉のため調整不明瞭
1257	28403	陶器	鉢	SD33	底径10.6		外面未調整、内面ナデ	やや粗	7.5Y5/4	良	底部1/12	推定径
1258	27607	陶器	鉢?	SD33	底径8.9		外面ロクロスリ、内面ナデ	やや密	2.5Y8/2 釉 2.5Y7/4	良	底部1/4	
1259	28206	陶器	甕	SD33	31.6		ヨコナデ	やや粗	7.5Y4/2	良	口縁部1/12	常滑
1260	28203	陶器	円形加工板	SD33	4.5×4.6	厚さ1.5	打ち欠き	やや密	2.5Y8/2 釉 2.5Y3/1	良	底部1/2	天目茶碗底部を転用
1261	27609	瓦	平瓦	SD33	-		凹面布目痕	やや粗	2.5Y6/2	やや不良	小片	磨滅が激しく調整不明瞭
1262	27901	石製品	硯	SD33	(8.4)×(4.2)	厚さ1.0		-	-	-	小片	重さ(44.4g)
1263	27608	石製品	RF	SD33	5.00×2.80	厚さ0.80		-	-	-	ほぼ完存	重さ(10.2g)サヌカイト
1264	25601	土師器	皿	SD36	18.8	2.5	外面ハラスカキ、内面ナデ	やや密	5Y8/2	良	1/2	内面放射暗文
1265	25403	土師器	皿	SD36	20.5	1.8	外面ハラスカキ、内面ナデ	密	10YR8/2	良	口縁部1/12	内面格子暗文
1266	25404	土師器	杯	SD36	19.0	4.1	内外面ナデ・ハラスカキ	密	10YR8/2	良	1/4	内面蟻痕+放射暗文
1267	25503	土師器	甕	SD36	20.8		外面ハケム、内面ナデ	やや粗	5YR5/3	良	口縁部1/6	磨滅が激しく調整不明瞭
1268	25502	土師器	甕	SD36	19.8		ハケム	やや粗	10YR8/3	良	口縁部1/10	
1269	25402	土師器	甕	SD36	15.6		ハケム	やや粗	7.5YR6/3	良	口縁部1/2	
1270	25501	土師器	甕	SD36	21.8		ハケム	やや粗	7.5YR7/4	良	口縁部1/6	



報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
1271	25701	土師器	甕	SD36	体径16.2		体部外面下半ラケスリ、他はハケメ	やや粗	外 10YR6/2 内 5YR7/6	良	1/4	
1272	25504	土師器	甕	SD36	14.0		外面ハケメ、内面ナデ	やや密	5YR7/4	良	口縁部1/8	磨減が激しく調整不明瞭
1273	25401	土師器	甕	SD36	26.1		ハケメ	やや密	7.5YR5/4	良	口縁部1/4	
1274	25801	須恵器	蓋	SD36	16.0	3.5	天井部外面ラケスリ、他はロクロナデ	やや粗	N6/	良	1/4	
1275	25702	須恵器	蓋	SD36	16.7	2.4	天井部外面ラケスリ、他はロクロナデ	やや密	7.5Y5/1	良	1/5	
1276	25805	須恵器	杯	SD36	10.4	3.2	底部外面ラケスリ、他はロクロナデ	密	N7/	良	1/4	
1277	25804	須恵器	杯	SD36	11.1	3.6	底部外面ラケスリ、他はロクロナデ	やや粗	5PB7/1	良	1/3	
1278	25603	須恵器	杯	SD36	14.4	4.0	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密	5Y6/1	良	1/5	外面沈線1条
1279	25802	須恵器	盤	SD36	24.2	4.6	ロクロナデ	密	N7/	良	口縁部1/5	
1280	25602	須恵器	盤	SD36	19.3	3.2	底部外面ラケスリ、他はロクロナデ	やや粗	5Y6/1	良	1/5	
1281	25803	須恵器	杯	SD36	13.6	4.1	ロクロナデ	やや密	外 N4/ 内 N6/	良	底部1/2	
1282	25901	須恵器	甕	SD36	29.9		外面残、内面同心円文	やや密	5Y7/1	不良	口縁部1/5	
1283	26001	須恵器	甕	SD36	20.3		外面残、内面同心円文	粗	5Y8/1	やや不良	口縁部1/3	
1284	26002	須恵器	甕	SD36	19.8		外面残、内面同心円文	粗	N6/	良	口縁部1/3	
1285	25902	須恵器	壺	SD36	底径10.2		底部外面へ切痕、外面下半ラケスリ、他はロクロナデ	やや粗	外 5Y7/1 内 2.5Y7/2	良	底部3/4	
1286	25703	須恵器	壺	SD36	体径15.5		体部外面下半ラケスリ、他はロクロナデ	やや粗	N6/	良	頸部～体部1/2	
1287	木1801	木簡	木簡	SD36	23.5×2.8	厚さ0.7		-		-		墨書「口口口口十月七日神前東人」
1288	22301	弥生土器	壺	SD34	-			やや粗	10YR7/4	やや不良	口縁部小片	口縁部外面に羽状刻目 磨減激しく調整不明
1289	22302	弥生土器	壺	SD34	底径6.6			やや粗	10YR7/4	良	底部1/2	磨減が激しく調整不明
1290	22303	須恵器	杯	SD34	12.0	3.6	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密	10YR8/3	良	1/5	
1291	23202	土師器	皿	SD35	13.8	2.4	外面未調整、内面ナデ	やや密	10YR8/3	良	1/2	
1292	23203	土師器	皿	SD35	13.4	2.9	外面未調整、内面ナデ	やや密	10YR8/3	良	1/4	
1293	23101	土師器	椀	SD35	12.4	3.6	外面未調整、内面ナデ	やや密	2.5Y8/3	良	1/7	
1294	23005	土師器	甕	SD35	14.0		外面ハケメ、内面工具ナデ	やや密	7.5YR8/3	良	口縁部1/6	
1295	23004	土師器	甕	SD35	15.6		外面粗いハケメ、内面ナデ	やや密	外 7.5YR8/6 内 7.5YR7/3	良	口縁部1/4	
1296	23003	土師器	甕	SD35	15.6		外面粗いハケメ、内面ハケメ	やや密	10YR6/3	良	口縁部1/8	外面ス
1297	23002	土師器	甕	SD35	14.8		外面ハケメ、内面ナデ	やや粗	10YR7/3	良	口縁部1/4	
1298	23001	土師器	甕	SD35	15.4		外面ハケメ、内面未調整	やや粗	7.5YR6/3	良	口縁部1/6	
1299	23301	須恵器	杯	SD35	11.6	3.8	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密	5Y6/1	良	1/5	
1300	23201	須恵器	杯	SD35	12.6	3.2	底部外面未調整、内面ナデ	やや密	N7/	良	1/4	
1301	23103	須恵器	埴輪	SD35	-		外面ハケメ、内面ナデ	やや粗	5Y6/1	良	小片	
1302	23205	灰釉陶器	皿	SD35	14.0	2.6	底部外面ラケスリ、他はロクロナデ	密	N7/	良	1/3	内面に印刻花文 直接重ね焼き
1303	23303	灰釉陶器	椀	SD35	13.0	3.2	底部外面未調整、他はロクロナデ	密	10YR7/1	良	2/5	直接重ね焼き
1304	23204	灰釉陶器	椀	SD35	14.8	4.3	底部外面ラケスリ、他はロクロナデ	密	N7/	良	1/2	灰釉刷毛塗り 直接重ね焼き
1305	23304	灰釉陶器	椀	SD35	18.8		ロクロナデ	密	N7/	良	口縁部1/4	灰釉漬掛け 口縁部に輪花 直接重ね焼き
1306	23302	灰釉陶器	椀	SD35	14.2	4.2	底部外面ナデ、他はロクロナデ	密	10YR7/1	良	1/3	
1307	23306	灰釉陶器	椀	SD35	底径5.7		底部外面ラケスリ、他はロクロナデ	密	2.5Y8/2	良	底部3/4	
1308	23307	灰釉陶器	椀	SD35	底径5.6		底部外面ラケスリ、他はロクロナデ	やや密	5Y7/1	良	底部1/3	直接重ね焼き
1309	23305	灰釉陶器	椀	SD35	13.8		ロクロナデ	密	10YR7/1	やや不良	口縁部1/5	直接重ね焼き
1310	23102	製塩土器	鉢	SD35	-		外面未調整、内面ナデ	粗	10YR7/4	良	小片	
1311	23108	土製品	土錘	SD35	3.7×2.1		ナデ	やや密	2.5Y8/2	良	定存	重さ12.6g
1312	23105	土製品	土錘	SD35	4.5×2.3		ナデ	密	2.5Y8/3	良	定存	重さ19.4g
1313	23107	土製品	土錘	SD35	4.6×2.1		ナデ	やや粗	2.5Y7/1	良	定存	重さ16.4g
1314	23106	土製品	土錘	SD35	5.3×2.4		ナデ	やや粗	10YR8/2	良	ほぼ定存	重さ(23.8g)
1315	23104	土製品	土錘	SD35	(5.9)×2.0		ナデ	やや粗	2.5Y6/1	良	ほぼ定存	重さ(19.8g)
1316	26402	須恵器	蓋	SD37	10.6		底部外面へ切痕、他はロクロナデ	やや粗	5PB4/1	良	口縁部1/5	
1317	26401	須恵器	蓋	SD37	11.6	3.6	底部外面へ切痕、他はロクロナデ	やや粗	5Y6/1	良	1/2	

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
1318	27301	須恵器	高杯	SD16	12.3		杯部外面下半ロクロケスリ、他はロクロナデ	やや密	7.5Y6/1	良	口縁部2/3	
1319	29902	弥生土器	甕	Pit	底径3.0		外面ハケス、内面ナデ	粗	10YR6/2	不良	底部完存	体部外面に刺突列点文+櫛描き横線文
1320	30601	石製品	石匙	Pit	3.32×(4.95)	厚さ0.84		-	-	-	ほぼ完存	磨滅が激しく調整不明
1321	30405	土師器	皿	Pit	21.2	2.0	ナデ	やや密	7.5YR7/6	良	1/4	内外面に油煙(灯明皿)
1322	36802	土師器	皿	Pit	6.8			密	10YR8/4	良	ほぼ完存	
1323	30203	土師器	皿	Pit	12.6		外面未調整、内面ナデ	やや密	10YR8/3	良	口縁部1/4	
1324	29801	土師器	杯	Pit	12.4	3.6	外面未調整、内面ナデ	やや粗	2.5Y8/3	良	ほぼ完存	
1325	31503	土師器	碗	Pit	11.3	3.4		やや粗	10YR8/4	良	完存	磨滅が激しく調整不明
1326	28906	土師器	甕	Pit	12.8			密	5YR8/3	良	口縁部1/6	磨滅が激しく調整不明
1327	30501	土師器	甕	Pit	13.2		外面ハケ、内面ナデ	密	外 2.5YR6/4 内 10YR5/2	良	口縁部1/6	内面炭化物
1328	31001	土師器	甕	Pit	17.2		ハケス	やや粗	5YR6/4	良	口縁部1/6	
1329	29901	土師器	甕	Pit	16.2		ハケス	密	2.5Y8/2	良	口縁部1/2	
1330	29904	土師器	甕	Pit	22.4		外面ハケス、内面ナデ	やや密	外 7.5YR8/3 内 7.5YR8/2	不良	口縁部1/6	
1331	31402	土師器	甕	Pit	23.4		ハケス	やや密	10YR5/3	良	口縁部1/4	
1332	31504	土師器	甕	Pit	19.0		外面ハラケスリ、内面ナデ	やや密	10YR8/4	良	口縁部1/4	磨滅が激しく調整不明瞭
1333	30502	土師器	甕	Pit	16.8		外面ハケ、内面ナデ	密	10YR7/4	やや不良	口縁部1/6	
1334	30301	土師器	甕	Pit	22.9		外面ハケス、内面ナデ	やや密	10YR8/1	やや良	口縁部1/4	
1335	30207	土師器	甕	Pit	28.2		ハケス	やや粗	10YR5/2	良	口縁部1/12	
1336	31201	土師器	甕	Pit	32.0		ハケス	密	7.5YR6/4	良	口縁部1/6	
1337	31502	須恵器	蓋	Pit	10.2	4.0	天井部外面未調整、他はロクロナデ	やや粗	5BG7/1	良	完存	
1338	29204	灰釉陶器	壺	Pit	3.5	4.7	ロクロナデ	密	N8/	良	3/5	
1339	30406	土製品	土錘	Pit	5.4×2.1		ナデ	やや密	7.5YR5/6	良	完存	重さ18.0g
1340	30407	土製品	土錘	Pit	4.0×2.1		ナデ	やや密	2.5Y8/2	良	完存	重さ13.0g
1341	30907	土製品	土錘	Pit	3.2×1.7		ナデ	やや粗	2.5Y8/2	良	ほぼ完存	重さ(8.5g)
1342	31202	須恵器	盤	Pit	23.4		底部外面ロクロケスリ、他はロクロナデ	やや粗	N5/	良	口縁部1/12	
1343	30304	土師器	鍋	Pit	25.2		ナデ	粗	7.5YR6/8	良	口縁部1/6	清郷
1344	30408	製塩土器	鉢	Pit	15.2	6.5	外面未調整、内面ナデ	粗	10YR8/3	良	口縁部1/8	
1345	36801	青磁	碗	Pit	15.4		ロクロナデ	密	10Y7/1	良	口縁部1/8	内面に印刻文
1346	31302	青磁	碗	Pit	16.6		ロクロナデ	密	5Y8/1	良	口縁部1/12	外面に連弁文
1347	30504	緑釉陶器	碗	Pit	12.4		ロクロナデ	密	N6/	良	口縁部1/12	硬質
1348	31301	黒色土器	皿	Pit	底径9.0			密	外 7.5YR8/3 内 2.5Y3/1	良	底部1/4	A類 磨滅が激しく調整不明
1349	30401	灰釉陶器	皿	Pit	13.5	2.9	底部外面ロクロケスリ、他はロクロナデ	密	2.5Y7/1	良	底部完存	灰釉漬掛け
1350	30503	灰釉陶器	碗	Pit	13.4	4.4	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	N7/	良	底部完存	直接重ね焼き
1351	29705	灰釉陶器	皿	Pit	底径7.1		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	5Y8/1	良	底部1/5	直接重ね焼き
1352	30905	灰釉陶器	碗	Pit	-		外面未調整、内面ロクロナデ	やや密	7.5Y8/1	良	底部小片	底部外面に墨書
1353	30901	灰釉陶器	皿	Pit	14.6		ロクロナデ	やや密	N8/	良	口縁部1/6	
1354	30201	灰釉陶器	碗	Pit	底径7.2		ロクロナデ	密	2.5Y7/1	良	底部1/6	
1355	30801	灰釉陶器	碗	Pit	底径8.0		ロクロナデ	密	2.5Y7/1	良	底部1/4	直接重ね焼き
1356	30902	灰釉陶器	碗	Pit	底径7.1		底部外面ロクロケスリ、他はロクロナデ	やや密	2.5Y8/1	良	底部完存	灰釉漬掛け 直接重ね焼き
1357	30106	灰釉陶器	碗	Pit	底径7.3		ロクロナデ	密	2.5Y8/2	不良	底部1/4	
1358	29908	山茶碗	小皿	Pit	8.5	1.9	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	N8/	良	完存	
1359	30302	山茶碗	小皿	Pit	7.7	1.7	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	7.5Y7/1	良	1/2	
1360	29907	山茶碗	小皿	Pit	8.3	2.2	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	N8/	良	完存	
1361	30903	灰釉陶器	碗	Pit	底径6.7		ロクロナデ	やや密	5Y7/1	良	底部完存	内面磨耗 直接重ね焼き
1362	29205	山茶碗	碗	Pit	底径7.3		底部外面未調整、他はロクロナデ	粗	N8/	良	底部1/4	
1363	30402	山茶碗	碗	Pit	底径7.2		底部外面未調整、他はロクロナデ	密	7.5Y7/1	良	底部7/12	
1364	30303	山茶碗	碗	Pit	14.1	5.1	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	N8/	良	完存	底部外面に墨書「X」
1365	30904	灰釉陶器	碗	Pit	底径6.9		ロクロナデ	やや密	7.5Y8/1	良	底部1/3	内面磨耗 直接重ね焼き

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
1366	31101	山茶碗	碗	Pit	14.5	5.5	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	N7/	良	ほぼ完存	高台にモミガラ痕 内面やや磨耗
1367	30403	山茶碗	碗	Pit	底径6.8		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	2.5Y8/1	良	底部完存	高台にモミガラ痕 内面やや磨耗 直接重ね焼き
1368	29502	山茶碗	碗	Pit	15.4	5.1	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	5Y7/1	やや不良	底部完存	内面やや磨耗 高台にモミガラ痕
1369	29501	山茶碗	碗	Pit	12.7	4.5	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	7.5YR8/1	良	完存	底部外面に墨書
1370	31601	弥生土器	壺	包	最大径(26.0)		外面ヘラミカキ、内面未調整	やや密	外 2.5YR7/4 内 10YR8/4	良	脚部小片	外面に沈線+格子文 円形透孔 推定径
1371	32708	弥生土器	高杯	包	脚柱径4.7			やや粗	7.5YR8/3	良	脚柱部2/3	磨滅が激しく調整不明瞭 櫛描横線文2段+4方透孔
1372	35201	弥生土器	甕	包	底径5.0			やや粗	10YR8/3	良	底部1/2	磨滅が激しく調整不明
1373	35403	弥生土器	壺	包	底径6.2		ナデ	粗	5YR8/3	良	底部1/2	磨滅が激しく調整不明瞭
1374	35401	弥生土器	壺	包	19.8		外面ヘケム、内面ナデ	粗	10YR8/4	良	口縁部1/8	口縁部内面に刺突列点文 頸部外面に櫛描き横線文
1375	35402	土師器	壺	包	11.9		ナデ	粗	10YR8/3	良	口縁部1/4	
1376	32707	土師器	壺	包	底径3.1		ナデ	やや粗	外 7.5YR8/2 内 2.5Y8/2	良	体下部完存	磨の可能性有り
1377	36902	土師器	手捏	包	-		エビオサエ	密	7.5YR7/3	良	完存	
1378	36201	土師器	甕	包	底径6.8			粗	2.5YR6/4	良	脚部ほぼ完存	磨滅が激しく調整不明
1379	32701	土師器	碗	包	14.0		外面未調整、内面ナデ	やや密	7.5YR8/2	良	口縁部1/6	
1380	33411	土師器	杯	包	13.4	2.9		粗	10YR8/3	やや不良	1/2	磨滅が激しく調整不明
1381	32608	土師器	杯	包	13.4	2.9	外面未調整、内面ナデ	密	外 5YR8/4 内 10YR8/3	良	口縁部1/4	
1382	32607	土師器	杯	包	12.0	2.8	ナデ	やや密	5YR7/6	良	口縁部1/5	
1383	34508	土師器	皿	包	7.9	2.0	ナデ	やや密	2.5Y8/3	良	口縁部7/8	口縁部内外面ス
1384	35005	土師器	皿	包	11.0	2.0	外面未調整、内面ナデ	やや密	5YR7/6	良	1/3	口縁部内外面ス
1385	31701	土師器	杯	包	12.8	2.9	外面未調整、内面ナデ	密	7.5YR8/3	良	3/5	
1386	11304	土師器	杯	包	13.6	2.3	外面未調整、内面ナデ	やや粗	7.5YR8/4	良	口縁部1/5	
1387	32610	土師器	杯	包	15.0	3.0	外面未調整、内面ナデ	やや粗	2.5Y8/2	良	1/2	
1388	33410	土師器	碗	包	12.0	3.4	底部外面ヘラミカキ、 体部外面ヘラミカキ	やや粗	7.5YR7/6	良	完存	磨滅が激しく調整不明瞭
1389	33409	土師器	碗	包	14.4	5.0	外面ヘラミカキ後ヘラミカキ	やや粗	5YR7/6	良	1/6	磨滅が激しく調整不明瞭
1390	33405	土師器	皿	包	9.2	1.7		密	7.5YR8/4	良	1/6	磨滅が激しく調整不明
1391	32705	土師器	皿	包	14.2		外面未調整、内面ナデ	密	10YR8/1	良	口縁部1/8	
1392	35205	土師器	杯	包	11.8		外面未調整、内面ナデ	密	10YR8/4	良	1/3	
1393	32609	土師器	杯	包	11.7	3.6		粗	5YR6/8	良	1/2	磨滅が激しく調整不明
1394	31702	土師器	皿	包	16.8	1.7	外面ヘラミカキ、内面ナデ	密	5YR7/8	良	1/3	
1395	18701	土師器	皿	包	17.8	3.1	外面ヘラミカキ、内面放射暗文	密	10YR7/3	良	1/2	
1396	25101	土師器	皿	包	16.0		ナデ	密	10YR8/2	良	口縁部1/6	
1397	32702	土師器	皿	包	14.4	2.3		粗	7.5YR8/3	良	口縁部1/2	磨滅が激しく調整不明
1398	36105	土師器	碗	包	11.7	4.3	ナデ	やや粗	10YR5/1	良	口縁部1/4	
1399	10308	土師器	杯	包	12.2		ヨコナデ	密	5YR7/4	良	口縁部1/6	
1400	10802	ロクロ土師器	皿	包	9.9	2.3	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	外 7.5YR8/6 内 5YR8/3	良	口縁部1/4	
1401	33406	ロクロ土師器	碗	包	底径5.4			やや粗	7.5YR7/6	良	底部2/3	
1402	36106	ロクロ土師器	碗	包	底径4.5		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	10YR7/3	良	底部2/3	
1403	33407	ロクロ土師器	碗	包	底径7.3		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	2.5YR7/3	良	底部ほぼ完存	
1404	34204	瓦器	碗	包	底径5.8		外面未調整、内面ヘラミカキ	やや密	2.5Y8/1	不良	底部1/3	
1405	32201	瓦器	碗	包	底径6.1			密	N4/	不良	底部1/3	磨滅が激しく調整不明
1406	32101	黒色土器	杯	包	15.3		内面ヘラミカキ	やや密	外 7.5YR8/6 内 7.5YR3/1	良	1/2	A類 磨滅が激しく調整不明瞭
1407	33408	黒色土器	碗	包	底径7.0		内面ヘラミカキ	やや密	外 10YR8/3 内 N4/	良	底部ほぼ完存	A類 外面磨滅が激しく調整不明瞭
1408	32202	製塩土器	鉢	包	底径14.3		ナデ	やや粗	5YR7/6	良	底部1/10	
1409	36103	土師器	甕	包	14.0		ヘケム	やや密	2.5Y6/2	良	口縁部1/6	
1410	33502	土師器	甕	包	14.2		外面ヘケム、内面ヘラミカキ	やや密	7.5YR6/4	良	口縁部1/8	

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
1411	36102	土師器	甕	包	15.8		外面ハケム、内面ナデ	やや粗	10YR7/3	良	口縁部1/6	
1412	36101	土師器	甕	包	21.0		ハケム	やや密	10YR5/3	良	口縁部1/12	
1413	32801	土師器	甕	包	20.0		ハケム	やや粗	5YR7/6	良	口縁部1/8	
1414	35204	土師器	甕	包	17.3		外面未調整、内面ナデ	やや密	7.5YR7/3	良	口縁部1/12	
1415	35203	土師器	甕	包	16.2		外面未調整、内面ナデ	やや粗	7.5YR7/4	良	口縁部1/6	
1416	10801	土師器	甕	包	27.1		外面未調整、内面ナデ	粗	7.5YR7/3	良	口縁部1/6	
1417	32706	土師器	甕	包	16.0		外面ハケム、内面工具ナデ	やや粗	10YR7/2	良	口縁部1/7	
1418	32803	土師器	甕	包	底径14.0		ハケム	やや密	2.5Y8/2	良	底部1/7	
1419	32703	土師器	鍋	包	24.4		外面一部工具ナデ、他は未調整内面ナデ	粗	7.5YR8/2	良	口縁部1/10	
1420	32704	土師器	鍋	包	20.0		外面未調整、内面ナデ	やや密	外 2.5Y8/2 内 10YR7/2	良	口縁部1/7	
1421	21402	土師器	皿	包	11.9	2.6	ナデ	やや密	10YR8/1	良	3/4	
1422	35001	土師器	皿	包	9.7	2.4	ナデ	密	2.5Y8/3	良	1/5	
1423	21403	土師器	皿	包	11.8	2.5	ナデ	やや密	10YR8/2	良	3/4	
1424	33404	土師器	皿	包	9.2	1.1	ナデ	やや密	2.5Y8/2	良	1/5	磨減が激しく調整不明
1425	32802	土師器	鍋	包	24.6		外面未調整、内面ナデ	粗	外 10YR6/2 内 10YR8/2	良	口縁部1/8	
1426	36104	土師器	鍋	包	28.0		ナデ	やや密	10YR4/1	良	口縁部1/12	
1427	33603	土師器	甕	包	25.5		ナデ	密	7.5YR4/3	良	口縁部1/12	清郷
1428	34001	土師器	鍋	包	22.0		ナデ	やや粗	7.5YR6/4	良	口縁部1/6	清郷
1429	32303	土師器	鍋	包	26.0		ナデ	やや粗	7.5YR6/6	良	口縁部1/10	清郷
1430	32302	土師器	鍋	包	26.8		ナデ	やや粗	7.5YR5/3	良	口縁部1/10	清郷
1431	34003	土師器	鍋	包	25.8		ナデ	やや粗	5YR6/4	良	口縁部1/8	清郷
1432	34002	土師器	鍋	包	30.0		ナデ	やや粗	5YR6/6	良	口縁部1/10	清郷
1433	32301	土師器	鍋	包	30.0		ナデ	やや粗	7.5YR5/3	良	口縁部1/10	清郷
1434	21404	土師器	羽釜	包	17.8		外面ハケム、内面ナデ	やや密	10YR7/3	良	口縁部1/12	
1435	21405	土師器	羽釜	包	17.8		外面ハケム、内面ナデ	やや密	10YR6/4	良	口縁部1/6	
1436	35007	土師器	羽釜	包	20.7		ナデ	やや粗	10YR7/3	良	口縁部1/12	
1437	35003	土師器	羽釜	包	24.6		ナデ	密	2.5Y7/2	良	口縁部1/12	
1438	32204	土師器	羽釜	包	23.8		外面未調整、内面ハケスリ	やや粗	10YR8/2	良	口縁部1/8	口縁部に穿孔 外面ス
1439	35004	土師器	鍋	包	29.4		手捏ね	密	10YR6/3	良	口縁部1/12	外面ス 南伊勢系
1440	34801	土師器	土馬	包	-		ナデ	密	10YR8/2	良	左後ろ足	
1441	37104	土製品	土鍬	包	6.4×3.4		ナデ	やや粗	2.5Y8/3	良	完存	重さ57.0g
1442	37103	土製品	土鍬	包	5.9×3.7		ナデ	やや粗	2.5Y8/3	良	完存	重さ81.5g
1443	33904	土製品	土鍬	包	6.7×2.7		未調整	やや密	10YR8/2	良	ほぼ完存	重さ(45.2g)
1444	33905	土製品	土鍬	包	7.8×2.7		ナデ	やや密	10YR8/1	良	ほぼ完存	重さ(51.0g)
1445	33903	土製品	土鍬	包	5.6×2.6		ナデ	やや粗	5Y3/1	良	3/4	重さ(32.6g)
1446	33907	土製品	土鍬	包	5.1×3.4		未調整	やや密	10YR8/1	良	完存	重さ57.0g
1447	33906	土製品	土鍬	包	5.0×3.6		ナデ	やや密	2.5Y8/1	良	ほぼ完存	重さ(42.4g)
1448	37105	土製品	土鍬	包	5.0×3.6		ナデ	やや粗	10YR8/2	良	ほぼ完存	重さ(47.8g)
1449	33901	土製品	土鍬	包	5.6×2.6		ナデ	やや密	2.5Y8/2	良	完存	重さ28.8g
1450	33902	土製品	土鍬	包	6.1×2.4		ナデ	やや粗	2.5Y8/1	良	ほぼ完存	重さ(30.0g)
1451	37106	土製品	土鍬	包	(5.8)×2.0		ナデ	やや粗	2.5Y8/3	良	ほぼ完存	重さ(21.4g)
1452	32206	土製品	土鍬	包	(4.9)×1.8		ナデ	やや粗	10YR7/4	良	ほぼ完存	重さ(20.4g)
1453	37108	土製品	土鍬	包	(4.9)×1.8		ナデ	やや粗	2.5Y8/3	良	ほぼ完存	重さ(14.0g)
1454	37112	土製品	土鍬	包	3.9×1.9		ナデ	やや密	5YR7/4	良	1/2	重さ(7.4g)
1455	37109	土製品	土鍬	包	(4.0)×1.5		ナデ	やや粗	2.5Y4/1	良	ほぼ完存	重さ(7.7g)
1456	37107	土製品	土鍬	包	4.1×2.1		ナデ	やや粗	2.5Y8/2	良	ほぼ完存	重さ(16.6g)
1457	32003	土製品	土鍬	包	4.4×2.1		ナデ	やや密	7.5YR8/4	良	完存	重さ18.0g
1458	37111	土製品	土鍬	包	3.7×1.9		ナデ	やや粗	7.5Y8/1	良	ほぼ完存	重さ(11.0g)
1459	37110	土製品	土鍬	包	3.8×1.3		ナデ	やや密	7.5Y6/8	良	完存	重さ5.4g
1460	33908	土製品	土鍬	包	3.6×1.6		ナデ	やや密	10YR6/2	良	完存	重さ7.7g
1461	18804	土製品	土鍬	包	3.5×1.3		ナデ	やや粗	7.5YR7/2	良	ほぼ完存	重さ(4.7g)
1462	37101	土製品	土鍬	包	3.1×3.0		ナデ	やや粗	2.5Y7/3	良	1/2	重さ(18.0g) 竹管刺突



報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
1463	33909	土製品	土錘	包	3.2×3.0		ナデ	やや密	10YR6/3	良	ほぼ完存	重さ(33.6g)
1464	32205	土製品	土錘	包	3.2×2.9		ナデ	やや密	2.5Y8/2	良	ほぼ完存	重さ(25.4g)
1465	18803	土製品	土錘	包	3.0×2.1		ナデ	やや粗	10YR7/2	良	完存	重さ25.4g
1466	37102	土製品	土錘	包	2.6×2.3		ナデ	やや粗	2.5Y8/3	良	完存	重さ15.8g
1467	33910	陶器	陶玉	包	2.4×2.5		ナデ	やや密	2.5Y7/1	良	ほぼ完存	重さ(12.6g)
1468	18703	須恵器	蓋	包	12.2		天井部外面クロケスリ、他はロクロナデ	やや密	N6/	良	1/8	
1469	35202	須恵器	蓋	包	16.5		外面クロケスリ、内面ロクロナデ	やや粗	5Y7/1	良	1/4	
1470	18702	須恵器	杯	包	12.4	3.1	底部外面クロケスリ、他はロクロナデ	やや密	N6/	良	1/6	
1471	26501	須恵器	杯	包	10.5	3.1	底部外面クロケスリ、他はロクロナデ	密	N7/	良	1/8	
1472	10404	須恵器	杯	包	11.6	4.8	底部外面未調整、他はロクロナデ	密	N7/	良	底部完存	
1473	18801	須恵器	杯	包	13.0	3.5	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや粗	7.5Y7/1	不良	1/4	
1474	33302	須恵器	杯	包	11.4	3.8	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや粗	5Y5/1	良	1/4	
1475	17101	須恵器	杯	包	12.0	4.7	底部外面未調整、他はロクロナデ	密	7.5Y7/1	良	1/2	
1476	35804	須恵器	杯	包	12.8		底部外面未調整、他はロクロナデ	やや粗	外 N5/ 内 N7/	良	口縁部1/8	
1477	3501	須恵器	杯	包	13.1	4.8	底部外面クロケスリ、他はロクロナデ	密	N5/	良	底部1/4	底部外面にへら記号「X」
1478	10406	須恵器	杯	包	16.8	4.5	底部外面未調整、他はロクロナデ	密	N5/	良	1/3	
1479	34506	須恵器	杯	包	12.0	4.0	底部外面クロケスリ、他はロクロナデ	やや粗	外 10Y6/1 内 5Y8/1	やや不良	底部1/4	
1480	34507	須恵器	杯	包	14.8	3.8	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや粗	5Y6/1	良	2/3	
1481	35803	須恵器	杯	包	底径7.9		底部外面クロケスリ、他はロクロナデ	密	N8/	やや不良	底部完存	
1482	35701	須恵器	鉢	包	16.0	7.0	底部外面クロケスリ、他はロクロナデ	密	5B6/1	良	口縁部1/8	
1483	18502	須恵器	高杯	包	13.1	8.7	杯部外面下半クロケスリ、他はロクロナデ	密	7.5Y7/1	不良	1/2	
1484	33303	須恵器	高杯	包	脚径2.8		ロクロナデ	やや密	N4/	良	脚柱部完存	
1485	36804	須恵器	聴	包	底径3.7		体部外面下半クロケスリ、他はロクロナデ	粗	2.5Y6/1	不良	体部完存	
1486	18802	須恵器	聴	包	体径8.4		杯部外面下半クロケスリ、他はロクロナデ	やや密	N6/	良	底部完存	注口隆起
1487	32502	須恵器	壺	包	13.4		ロクロナデ	外 N7/ 内 5Y6/1	良	口縁部1/8		
1488	16201	須恵器	壺	包	体最大径22.1		ロクロナデ	やや密	5Y5/1	良	頸部1/4	
1489	34501	須恵器	壺	包	24.3		ロクロナデ	やや粗	外 5Y6/1 内 5Y5/2	良	口縁部1/6	頸部外面に(波状文+沈線)×2段
1490	34601	須恵器	甕	包	22.8		ロクロナデ	やや密	外 5Y7/1 内 5YR5/3	良	口縁部1/10	
1491	35802	須恵器	甕	包	12.6		外面タタキ、内面同心円文	やや粗	N8/	やや良	口縁部1/2	
1492	35801	須恵質	円筒埴輪	包	-		外面ハケス、内面未調整	やや粗	10YR6/1	やや良	小片	
1493	34401	須恵器	横瓶	包	15.5	35.7	外面タタキ後タタキ、内面同心円文	やや密	2.5Y7/1	良	ほぼ完存	
1494	34201	石製品	石帯	包	4.1×4.3	厚さ0.8		-	-	-	ほぼ完存	重さ(29.4g)
1495	35601	石製品	管玉	包	2.4×0.9			-	-	-	4/5	重さ(3.1g)
1496	34202	銭貨	銭	包	-			-	-	-	ほぼ完存	「和銅開珎」銀銭
1497	34302	緑釉陶器	皿	包	底径5.4		ロクロナデ	密	N8/ 釉 緑	良	底部1/12	硬質 底部内面に沈線
1498	35901	緑釉陶器	皿	包	-		ロクロナデ	密	5Y6/1	良	底部小片	硬質
1499	34109	緑釉陶器	皿	包	底径6.4		底部外面ナデ、他はロクロナデ	密	釉 7.5Y5/3	良	底部1/2	硬質
1500	34306	緑釉陶器	皿	包	底径5.6		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	N8/ 釉 7.5Y7/1	良	底部1/4	硬質
1501	33101	緑釉陶器	皿	包	12.5	1.9	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	釉 10Y6/1 釉 7.5Y5/2	良	2/5	口縁部に輪花 内面に沈線 軟質
1502	34703	緑釉陶器	皿	包	底径5.9		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	N8/ 釉 2.5GY4/1	良	底部ほぼ完存	硬質 底部内面に沈線

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
1503	34308	緑釉陶器	皿	包	11.3	2.2	ロロナテ	密	N8/ 釉 10Y7/2	良	1/6	硬質
1504	34301	緑釉陶器	皿	包	底径5.2		ロロナテ	密	N7/ 釉 10Y6/2	良	底部1/5	硬質
1505	35304	緑釉陶器	椀	包	底径7.1			密	10Y8/2 釉 濃緑	良	底部2/3	底部内面に沈線 軟質 三又トチン痕 磨滅が激しく調整不明
1506	34108	緑釉陶器	椀	包	底径7.0		底部外面糸切痕、他はロロナテ	密	5PB7/1 釉 2.5GY6/4	良	底部1/4	内面に凹線 硬質
1507	34205	緑釉陶器	椀	包	底径6.8		ロロナテ	密	2.5Y9/3 釉 10GY7/6	不良	底部1/6	硬質 内面に沈線 トチン痕
1508	33205	緑釉陶器	椀	包	底径6.0		ロロナテ	密	N6/ 釉 淡緑	良	底部1/5	硬質 内面に緑彩花文
1509	31802	緑釉陶器	椀	包	底径6.0		ロロナテ	密	N8/ 釉 10Y6/2	良	底部1/3	硬質
1510	34105	緑釉陶器	椀	包	底径6.6		底部外面ロコケスリ、他はロロナテ	密	7.5YR8/6 釉 7.5Y6/4	良	底部1/4	硬質 トチン痕
1511	34107	緑釉陶器	椀	包	底径6.2			密	10Y8/1 釉 5Y8/2	良	底部1/3	内面に凹線 硬質 磨滅が激しく調整不明
1512	33206	緑釉陶器	椀	包	底径8.2			密	7.5YR8/4 釉 10Y6/2	良	底部1/5	内面に凹線
1513	35903	緑釉陶器	椀	包	底径7.2		ロロナテ	密	10YR8/4 釉 濃緑	不良	底部1/3	軟質 近江系 底部内面に沈線 三又トチン痕
1514	34110	緑釉陶器	椀	包	底径6.4		底部外面ナテ、他はロロナテ	密	5Y7/1 釉 5GY7/2	良	底部1/2	内面に沈線 硬質
1515	34106	緑釉陶器	椀	包	底径6.2			やや粗	10P8/1 釉 10GY7/4	良	底部1/4	内面に凹線 硬質 磨滅が激しく調整不明
1516	34704	緑釉陶器	椀	包	底径6.7		底部外面糸切痕、他はロロナテ	密	N8/ 釉 2.5GY8/1	良	底部4/5	硬質 底部内面に沈線
1517	33203	緑釉陶器	椀	包	底径6.1		ロロナテ	密	10YR8/3 釉 深緑	良	底部1/8	軟質
1518	34203	緑釉陶器	椀	包	底径7.6			密	10Y9/1 釉 10Y6/2	不良	底部3/4	磨滅激しく調整不明 内面に沈線
1519	34102	緑釉陶器	椀	包	底径7.8		底部外面ロコケスリ、他はロロナテ	密	10Y7/1 釉 10Y7/4	不良	底部1/3	硬質 トチン痕
1520	34702	緑釉陶器	椀	包	底径8.3		ロロナテ	密	N8/ 釉 緑	良	底部1/4	硬質
1521	34101	緑釉陶器	椀	包	底径8.2		底部外面ロコケスリ、他はロロナテ	密	7.5YR7/2 釉 2.5GY6/4	良	底部1/4	硬質 トチン痕
1522	33201	緑釉陶器	椀	包	12.0	3.9	底部外面ロコケスリ、他はロロナテ	密	10Y8/2 釉 10Y7/2	良	底部1/4	内面に沈線 軟質
1523	35501	緑釉陶器	椀	包	底径6.2		底部外面ロコケスリ、他はロロナテ	密	N6/ 釉 5GY7/1	良	底部1/2	硬質 京都系
1524	33202	緑釉陶器	椀	包	底径7.8		底部外面ナテ、他はロロナテ	密	2.5Y8/1 釉 緑	良	底部1/6	軟質
1525	34701	緑釉陶器	椀	包	底径5.8		底部外面糸切痕、他はロロナテ	密	2.5Y8/2 釉 7.5Y7/2	不良	底部ほぼ完存	硬質
1526	34103	緑釉陶器	椀	包	底径7.4			密	5Y8/2 釉 10GY7/6	不良	底部1/2	軟質 内面凹線 磨滅が激しく調整不明
1527	34901	緑釉陶器	椀	包	底径5.9		底部外面糸切痕、他はロロナテ	密	N8/ 釉 7.5Y6/3	良	底部完存	硬質 底部内面に沈線
1528	31801	緑釉陶器	椀	包	底径5.8		ロロナテ	密	N8/ 釉 7.5Y8/3	良	底部1/4	内面に沈線 硬質
1529	34304	緑釉陶器	椀	包	-		ロロナテ	密	N7/ 釉 10Y3/2	良	底部小片	硬質

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
1530	35902	緑釉陶器	椀	包	-		ロクロナデ	密	10YR8/4 釉 10Y5/3	不良	底部小片	軟質 近江系
1531	34305	緑釉陶器	椀	包	-		ロクロナデ	密	N8/ 釉 7.5Y7/2	良	底部小片	硬質 底部内面に沈線
1532	33601	緑釉陶器	椀	包	底径6.9		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	7.5YR6/3 釉 漆緑	良	底部1/2	内面に凹線 硬質 トチン痕
1533	33602	緑釉陶器	椀	包	底径6.8		ロクロナデ	密	10Y7/1 釉 10Y7/2	良	底部3/5	内面に沈線 緑彩草文 トチン痕
1534	34206	緑釉陶器	椀	包	底径6.8		やや密	やや密	5YR5/1 釉 5GY7/4	良	底部1/4	硬質 トチン痕
1535	34307	緑釉陶器	椀	包	底径6.5		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	N7/ 釉 7.5Y5/3	良	底部1/3	硬質 底部内面に沈線 三又トチン痕
1536	33204	緑釉陶器	椀	包	底径5.9		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	N7/ 釉 緑	良	底部1/3	硬質
1537	34303	緑釉陶器	椀	包	底径8.4		ロクロナデ	密	N8/ 釉 7.5Y7/3	良	底部1/3	硬質 底部内面に沈線 トチン痕
1538	34104	緑釉陶器	椀	包	底径6.4		底部外面ロクロケズリ、他はロクロナデ	密	10YR9/2 釉 2.5GY8/4	良	底部1/3	硬質
1539	33701	緑釉陶器	稜椀	包	18.0	6.1	底部外面ロクロケズリ、他はロクロナデ	密	N8/ 釉 漆緑	良	底部1/2	内面に2重沈線 緑彩草文 硬質
1540	33607	灰釉陶器	皿	包	底径6.8		底部外面ナデ、他はロクロナデ	密	2.5Y7/1 釉 7.5Y7/1	良	底部1/2	灰釉漬掛け 内面磨耗 直接重ね焼き
1541	35905	灰釉陶器	皿	包	底径6.8		底部外面ロクロケズリ、他はロクロナデ	密	N7/	良	底部5/12	直接重ね焼き 底部外面に墨痕？(転用硯?)
1542	32601	灰釉陶器	皿	包	底径6.6		底部外面ロクロケズリ、他はロクロナデ	密	5Y8/1	良	底部1/4	直接重ね焼き
1543	32602	灰釉陶器	皿	包	底径6.6		底部外面ロクロケズリ、他はロクロナデ	密	7.5Y8/1	良	底部1/4	直接重ね焼き痕
1544	30804	灰釉陶器	皿	包	底径7.0		ロクロナデ	密	2.5Y8/1	良	底部1/6	内面磨耗
1545	32505	灰釉陶器	皿	包	15.3	2.8	底部外面ロクロケズリ、他はロクロナデ	密	N8/ 釉 2.5GY8/1	良	底部1/2	灰釉刷毛塗り 直接重ね焼き
1546	33604	灰釉陶器	皿	包	14.6	3.0	底部外面ロクロケズリ、他はロクロナデ	密	7.5Y7/1 釉 10YR6/1	良	1/3	灰釉漬掛け 口縁部に輪花 直接重ね焼き
1547	32507	灰釉陶器	皿	包	13.0		ロクロナデ	密	N8/ 釉 2.5Y8/1	良	口縁部1/8	灰釉漬掛け
1548	33606	灰釉陶器	段皿	包	底径7.4		底部外面ロクロケズリ、他はロクロナデ	密	2.5Y7/1 釉 7.5Y7/1	良	底部1/2	
1549	35702	灰釉陶器	椀	包	14.0	4.1	底部外面未調整、他はロクロナデ	密	7.5Y8/1	良	口縁部1/3	灰釉漬掛け
1550	35906	灰釉陶器	皿	包	底径6.0		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	10YR7/1	良	底部完存	
1551	10305	灰釉陶器	皿	包	底径7.9		ロクロナデ	密	7.5Y7/1	良	底部1/4	内面磨耗 墨痕(転用硯)
1552	33804	灰釉陶器	皿	包	13.4	3.1	底部外面ロクロケズリ、他はロクロナデ	やや密	2.5Y7/1	良	1/8	灰釉漬掛け 直接重ね焼き
1553	11302	灰釉陶器	椀	包	底径5.6		底部外面ナデ、他はロクロナデ	密	N8/	良	底部1/2	
1554	33005	灰釉陶器	椀	包	底径7.3		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	2.5Y7/2	良	底部3/4	内面磨耗
1555	10307	灰釉陶器	椀	包	底径6.5		ロクロナデ	密	2.5Y7/1	良	底部1/4	内面磨耗
1556	32504	灰釉陶器	椀	包	底径9.0		ロクロナデ	密	N8/	良	底部1/4	
1557	33807	灰釉陶器	椀	包	14.4		ロクロナデ	密	5Y8/3 釉 5Y8/1	良	口縁部1/8	灰釉刷毛塗り
1558	33801	灰釉陶器	椀	包	14.5	5.7	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	5Y7/1	良	1/3	内面磨耗 直接重ね焼き
1559	35904	灰釉陶器	椀	包	底径7.4		底部外面ロクロケズリ、他はロクロナデ	やや密	N7/	良	底部1/2	
1560	32603	灰釉陶器	椀	包	底径5.8		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	N8/	良	底部完存	内面磨耗 灰釉漬掛け
1561	33806	灰釉陶器	椀	包	底径6.4		底部外面ロクロケズリ、他はロクロナデ	密	2.5Y8/1	良	底部1/4	直接重ね焼き
1562	33802	灰釉陶器	椀	包	12.3	4.0	底部外面ロクロケズリ、他はロクロナデ	密	2.5Y7/1	良	1/4	灰釉漬掛け
1563	32905	灰釉陶器	椀	包	16.6		ロクロナデ	密	2.5Y7/1	良	口縁部1/4	
1564	33605	灰釉陶器	椀	包	底径7.3		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	2.5Y6/2 釉 7.5Y7/1	良	底部完存	直接重ね焼き
1565	32508	灰釉陶器	椀	包	底径6.7		底部外面ロクロケズリ、他はロクロナデ	密	2.5Y7/1	良	底部完存	
1566	16203	灰釉陶器	椀	包	底径5.4		底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密	2.5Y8/1	良	底部完存	直接重ね焼き

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
1567	33805	灰釉陶器	碗	包	底径6.9		底部外面未調整、他はロクロナデ	密 N8/		良	底部1/4	内面磨耗
1568	35907	灰釉陶器	碗	包	底径7.2		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密 2.5Y7/1		良	底部1/2	
1569	32903	灰釉陶器	碗	包	底径7.7		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密 2.5Y7/1		良	底部3/4	内面磨耗
1570	32605	灰釉陶器	碗	包	14.6	4.4	外面下半ロクロスリ、他はロクロナデ	やや粗 5Y8/1		良	底部1/4	トーン痕
1571	30404	灰釉陶器	碗	包	13.8	4.0	外面下半ロクロスリ、他はロクロナデ	やや密 7.5Y8/1		良	1/3	灰釉漬掛け 直接重ね焼き
1572	32503	緑釉陶器?	碗	包	底径6.2		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密 7.5Y7/1		良	底部1/3	
1573	33705	灰釉陶器	碗	包	底径7.5		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密 2.5Y7/1		良	底部完存	直接重ね焼き
1574	32506	灰釉陶器	碗	包	底径8.0		底部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	密 2.5Y8/1		良	底部1/4	
1575	33706	灰釉陶器	碗	包	13.0	4.3	底部外面ロクロスリ、他はロクロナデ	密 N8/ 釉 2.5Y6/2		良	1/2	灰釉漬掛け 底部外面に墨書
1576	32604	山茶碗	碗	包	底径8.0		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗 5Y8/1		良	底部1/2	内面やや磨耗
1577	32501	須恵器	壺	包	11.2		ロクロナデ	密 2.5Y6/1		良	口縁部1/6	
1578	30704	灰釉陶器	壺	包扱	底径8.0		底部外面糸切痕、外面ロクロスリ、内面ロクロナデ	密 2.5Y7/1		良	底部1/4	
1579	16204	灰釉陶器	壺	包	底径8.6		ロクロナデ	やや粗 7.5Y8/1		やや不良	底部1/3	
1580	33001	灰釉陶器	壺	包	底径8.7		外面ロクロスリ、内面ロクロナデ	やや密 2.5Y8/2		良	底部1/4	
1581	33301	灰釉陶器	壺	包	底径16.0		外面ロクロスリ、内面ロクロナデ	やや密 5Y7/1 釉 5Y6/3		良	底部1/6	
1582	32901	灰釉陶器	壺	包	底径13.0		外面ロクロスリ、内面ロクロナデ	密 2.5Y7/1		良	底部1/3	
1583	35908	山茶碗	小皿	包	8.0	2.1	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗 N7/		良	底部5/12	尾張5
1584	36306	山茶碗	小皿	包	8.3	2.2	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密 5Y7/1		良	底部7/12	
1585	35909	山茶碗	小皿	包	8.6	1.9	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗 外 N8/ 内 5GY6/1		良	底部5/12	尾張6
1586	33306	山茶碗	小皿	包	9.1	1.7	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗 2.5Y7/1		良	1/3	内面磨耗
1587	33305	山茶碗	小皿	包	8.4	2.0	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗 5Y8/2		良	1/3	
1588	34502	山茶碗	小皿	包	8.6	2.0	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密 N8/		良	底部完存	
1589	32904	山茶碗	小皿	包	8.2	2.0	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密 2.5Y7/1		良	底部3/4	
1590	33308	山茶碗	小皿	包	8.0	1.6	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗 10YR7/1		良	1/3	内面磨耗
1591	33402	山茶碗	小皿	包	7.5	1.7	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや粗 5Y7/1		良	1/2	内面に漆?油煙?付着
1592	33403	山茶碗	小皿	包	8.6	1.8	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密 N8/		良	1/4	内面磨耗
1593	34503	山茶碗	小皿	包	8.4	1.6	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗 N8/		良	底部完存	
1594	32804	山茶碗	小皿	包	9.6		ロクロナデ	やや密 10Y8/1		良	口縁部1/4	
1595	32002	山茶碗	小皿	包	7.8	1.8	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗 5Y7/1		良	完存	
1596	33307	山茶碗	小皿	包	8.0	1.8	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗 2.5Y7/1		良	1/3	
1597	26603	山茶碗	小皿	包	7.9	1.7	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗 2.5Y7/1		良	口縁部1/6	
1598	34504	山茶碗	小皿	包	8.2	1.8	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗 N8/		良	底部完存	底部外面に墨書
1599	35703	山茶碗	小碗	包	8.5	2.3	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密 5Y7/1		良	底部完存	
1600	32805	山茶碗	小碗	包	9.3		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗 5Y7/1		良	1/5	
1601	33401	山茶碗	小碗	包	9.6	2.7	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密 5Y8/2		良	1/2	高台に砂痕
1602	33006	山茶碗	小碗	包	9.8	3.1	底部外面未調整、他はロクロナデ	密 2.5Y7/1		良	底部ほぼ完存	高台にモカウラ痕
1603	34505	山茶碗	小碗	包	9.4	2.7	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密 N8/		良	1/2	直接重ね焼き
1604	33304	山茶碗	小碗	包	10.2	3.0	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗 2.5GY8/1		良	3/4	直接重ね焼き
1605	33003	山茶碗	碗	包	底径8.0		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗 2.5Y8/2		良	底部1/4	内面磨耗 直接重ね焼き
1606	26601	山茶碗	碗	包	-		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗 N7/		良	底部小片	高台にモカウラ痕
1607	35207	山茶碗	碗	包	底径7.9		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密 2.5Y8/1		良	底部1/2	
1608	33007	山茶碗	碗	包	底径8.2		底部外面未調整、他はロクロナデ	密 5Y7/1		良	底部1/6	内面磨耗 高台にモカウラ痕
1609	33704	山茶碗	碗	包	底径6.5		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密 7.5Y7/1		良	底部1/3	内面磨耗 直接重ね焼き
1610	33702	山茶碗	碗	包	底径7.2		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗 N8/		良	底部ほぼ完存	高台にモカウラ痕 底部外面に墨書
1611	35301	山茶碗	碗	包	底径5.7		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密 2.5Y8/1		良	底部3/4	高台にモカウラ痕 内面磨耗
1612	24902	山茶碗	碗	包	底径6.6		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗 外 5Y7/1 内 2.5Y6/1		良	底部完存	高台にモカウラ痕 底部外面に墨書 尾張6
1613	11303	山茶碗	小碗	包	底径4.9		底部外面ナデ、他はロクロナデ	やや密 5Y8/1		良	底部1/2	
1614	30705	山茶碗	碗	包	底径8.0		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密 2.5Y7/2		良	底部1/12	高台にモカウラ痕
1615	26602	山茶碗	碗	包	-		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗 N7/		良	底部小片	



報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
1616	10304	山茶碗	碗	包	底径6.4		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	N8/	良	底部完存	高台にモミカラ痕 内面やや磨耗
1617	25301	山茶碗	碗	包	底径6.2		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	7.5Y6/1	良	底部完存	高台に砂痕 内面磨耗
1618	18401	山茶碗	碗	包	底径6.8		底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密	5Y7/1	良	底部1/2	高台にモミカラ痕
1619	10306	山茶碗	碗	包	16.0	5.3	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	10YR7/1	良	1/3	高台にモミカラ痕 直接重ね焼き
1620	32902	山茶碗	碗	包	16.8	4.8	底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密	2.5Y7/1	良	底部完存	高台にモミカラ痕
1621	32906	山茶碗	碗	包	16.8		ロクロナデ	密	2.5Y8/1	良	口縁部1/9	直接重ね焼き
1622	35206	山茶碗	碗	包	底径8.8		ロクロナデ	密	2.5Y8/1	良	底部1/4	
1623	16202	山茶碗	碗	包	底径6.8		ロクロナデ	やや粗	5Y7/1	良	底部完存	
1624	11301	山茶碗	碗	包	底径8.0		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	5Y7/1	良	底部1/4	
1625	32001	山茶碗	碗	包	底径8.5		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	2.5Y7/1	良	底部完存	高台にモミカラ痕 内面磨耗
1626	26201	山茶碗	碗	包	14.7	5.7	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや密	7.5Y6/1	良	底部1/2	
1627	35302	山茶碗	碗	包	12.7		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	5Y8/1	良	底部1/4	瀬戸?
1628	26202	山茶碗	碗	包	底径6.1		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	N7/	良	底部完存	高台にモミカラ痕 底部外面に墨書 内面磨耗
1629	33002	山茶碗	碗	包	底径7.7		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	2.5Y7/2	良	底部3/4	
1630	16205	山茶碗	碗	包	底径6.4		ロクロナデ	やや密	N8/	良	底部1/4	高台に砂痕 内面磨耗
1631	33703	山茶碗	碗	包	底径7.4		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	7.5Y7/1	良	底部1/4	内面磨耗
1632	33004	山茶碗	碗	包	底径6.8		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	2.5Y7/1	良	底部ほぼ完存	高台に砂痕
1633	33803	山茶碗	碗	包	底径6.5		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	やや粗	7.5Y6/1	良	底部1/3	高台にモミカラ痕 内面やや磨耗
1634	35910	山茶碗	碗	包	12.6	4.9	底部外面糸切痕、他はロクロナデ	粗	N8/	良	底部7/12	瀬戸風8型式
1635	21401	山茶碗	碗	包	12.9	5.6	ロクロナデ	粗	外 5Y8/1 内 10YR8/1	良	底部1/3	高台にモミカラ痕 高台ほとんど剥離
1636	33913	山茶碗	碗	包	底径6.6		底部外面未調整、他はロクロナデ	やや密	N8/	良	底部1/2	外面に墨書
1637	35101	山茶碗	鉢	包	底径12.0		体部外面下半ロクロナデ、他はロクロナデ	やや粗	7.5Y7/1	良	底部1/2	
1638	32606	山茶碗	鉢	包	底径12.5		体部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや粗	5Y8/1	良	底部1/4	内面磨耗
1639	31901	瓦	軒丸瓦	包	-			粗	2.5Y8/1	良	瓦頭部1/4	磨滅のため調整不明
1640	32405	瓦	軒丸瓦	包	-			やや粗	5Y6/1	良	瓦頭部4/5	右巻き三つ巴紋
1641	34604	瓦	丸瓦	包	-		凹面布目痕、凸面ナデ	やや粗	7.5YR6/6	良	小片	
1642	34603	瓦	平瓦	包	-		凹面布目痕、凸面縄タタキ	やや粗	2.5Y7/2	やや不良	小片	
1643	37001	瓦	平瓦	包	-		凹面布目痕、凸面縄タタキ	やや粗	2.5Y8/2	良	小片	
1644	35006	陶器	天目茶碗	包	底径4.1		体部外面下半ロクロナデ、他はロクロナデ	やや粗	5Y8/2 粗 10YR3/2	良	底部ほぼ完存	
1645	34006	青磁	皿	包	9.8		外面一部ロクロナデ、他はロクロナデ	やや密	7.5Y6/1 粗 7.5Y6/2	良	口縁部1/4	内面に横描文 同安窯系
1646	16206	青磁	皿	包	底径5.4		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	やや密	7.5Y8/1 粗 7.5Y6/3	良	底部1/6	
1647	34005	青磁	碗	包	11.6		ロクロナデ	やや密	7.5Y7/1 粗 7.5Y6/2	良	口縁部1/6	
1648	32401	青磁	碗	包	底径5.5		ロクロナデ	やや密	7.5Y7/1 粗 7.5Y6/2	良	底部1/5	トチン痕
1649	32403	白磁	碗	包	15.4		ロクロナデ	やや密	5Y8/1 粗 7.5Y7/2	良	口縁部1/10	
1650	32402	白磁	碗	包	底径6.3		底部外面ロクロナデ、他はロクロナデ	密	7.5Y8/1 粗 7.5Y7/1	良	底部1/5	
1651	34004	白磁	碗	包	15.2		ロクロナデ	やや密	2.5Y5/1 粗 5Y7/2	良	口縁部1/6	
1652	33501	陶器	甕	包	21.2		ロクロナデ	粗	外 5Y5/4 内 5YR4/3	良	口縁部1/4	
1653	32404	陶器	甕	包	24.4		ヨコナデ	やや粗	5YR6/3	良	口縁部1/10	常滑
1654	34602	陶器	甕	包	32.0		ロクロナデ	やや粗	5Y8/1 粗 10YR6/3	良	口縁部1/10	常滑
1655	32509	須恵器?	甕	包	38.0		ロクロナデ	やや粗	外 2.5Y4/1 内 2.5Y6/1	良	口縁部1/7	
1656	35102	陶器	甕	包	14.9		ロクロナデ	やや粗	外 7.5YR5/3 内 2.5Y6/2	良	口縁部1/4	常滑

報告 番号	実測 番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高 (cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
1657	32203	陶器	鉢	包	底径(23.8)		外面タタ、内面同心円文・ナデ	外 5Y5/1 やや密内 2.5Y8/1	5Y5/1 内 2.5Y8/1	不良	底部1/12	
1658	32304	瓦質土器	焙烙	包	30.0		ナデ	やや密	7.5Y8/2	やや不良	口縁部1/10	口縁部に穿孔
1659	木108	装着具	下駄		(21.3)×9.3	厚さ1.0		-	-	-		左足
1660	36001	陶器	皿	包	12.2		底部外面糸切痕、他はロクロナデ	密	2.5Y7/1 釉 2.5GY7/1	良	底部7/12	菊皿 底部外面に墨書 トチン痕
1661	33911	陶器	煙管	包	6.7×1.6		一部ハラカスリ	やや密	2.5Y8/2 釉 2.5Y8/1	良	小片	重さ(16.2g)
1662	33912	土製品	鳥形	包	5.6×2.2	3.4	手捏ね	やや密	7.5Y8/1	良	ほぼ完存	
1663	36803	須恵器	円形加工板	包	3.1×3.1	厚さ0.6	打ち欠き	やや密	N6/	良	完存	甕体部を転用 重さ8.0g
1664	36005	磁器	円形加工板	包	2.0×1.8	厚さ0.5	打ち欠き	密	5Y8/1 釉 白・淡藍	良	完存	磁器碗体部を転用 重さ2.1g
1665	35002	陶器	円形加工板	包	3.6×3.6	厚さ0.9	打ち欠き	やや密	2.5Y7/2 釉 7.5YR4/3	良	完存	播鉢体部を転用
1666	35303	陶器	円形加工板	包	4.7×4.7	厚さ1.3	打ち欠き	密	2.5Y8/2 釉 10YR5/3	良	完存	重さ29.0g 天目茶碗底部を転用
1667	36004	陶器	円形加工板	包	5.3×5.0	厚さ1.2	打ち欠き	密	5Y8/1 釉 5Y7/2	良	完存	陶器碗底部を転用 重さ27.4g
1668	36003	陶器	円形加工板	包	7.1×6.8	厚さ2.1	打ち欠き	密	5Y8/1 釉 10G3/1	良	完存	陶器碗底部を転用 重さ53.0g
1669	37002	銭貨	銭	包	-			-	-	-	ほぼ完存	「寛永通寶」
1670	37003	銭貨	銭	包	-			-	-	-	3/4	「寛永通寶」
1671	36002	鉄製品	煙管	包	長さ9.3			-	-	-	完存	

# 写真図版







B地区調査区全景 東から



C地区調査区全景 東から





D・E地区調査区全景 東から



F地区調査区全景 東から





G地区調査区全景 東から



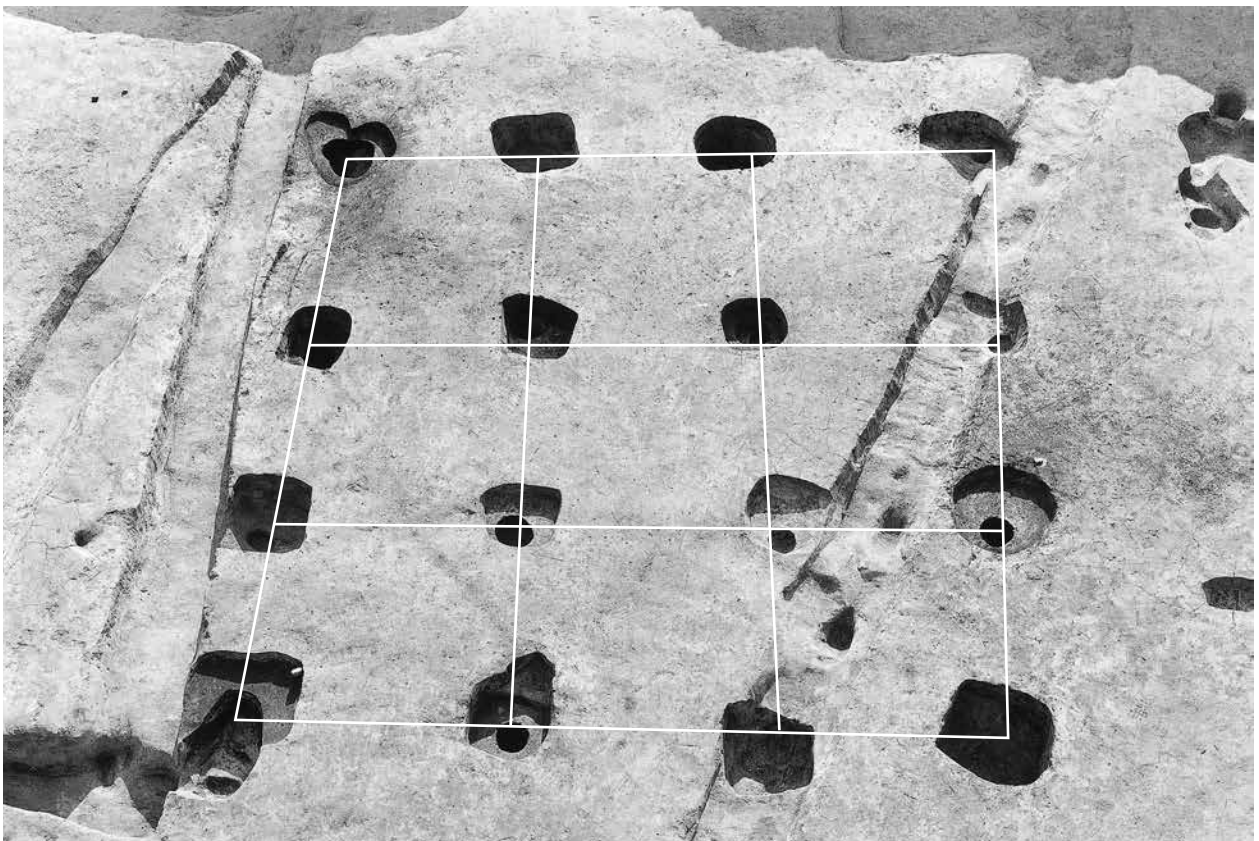
H地区調査区全景 西から



P L 4



D地区SB26 北から

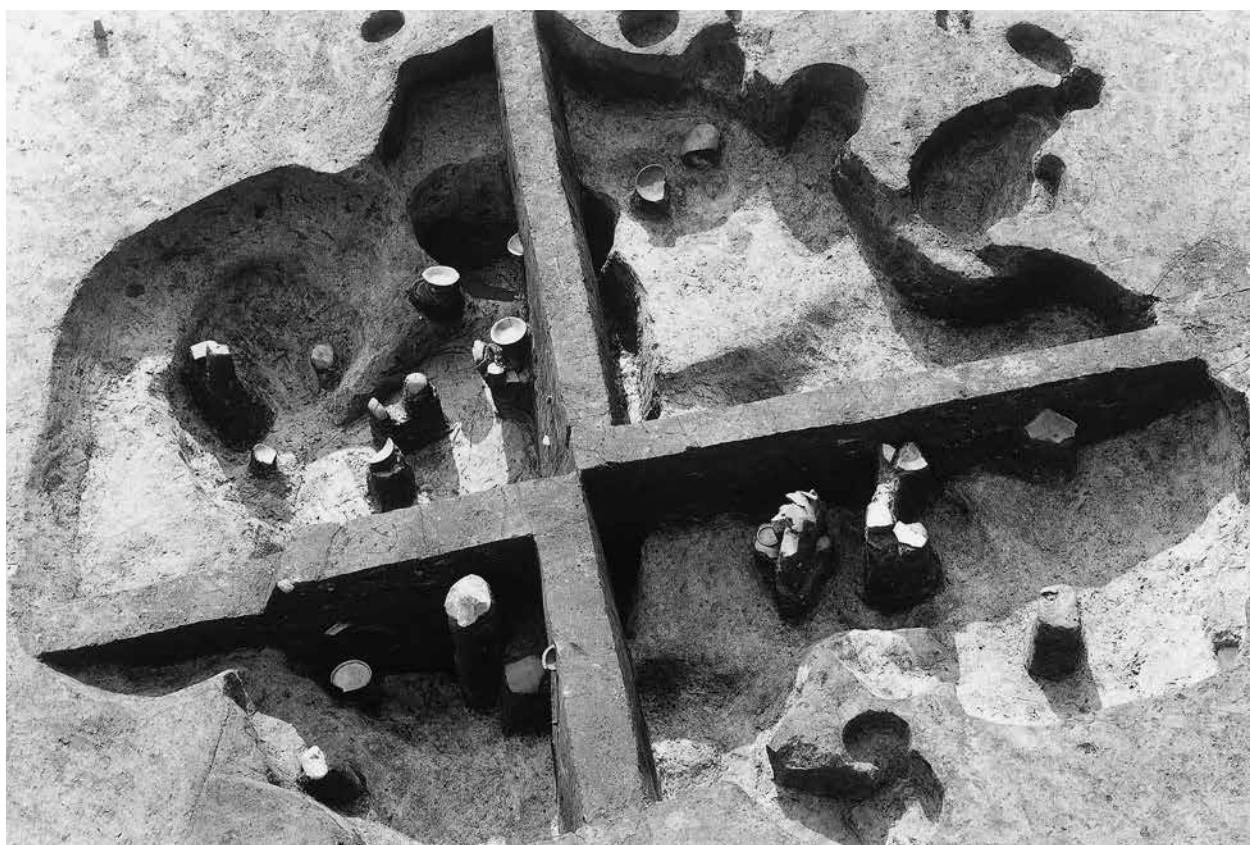


I - 3 地区SB86 北から





C地区SK11 東から



I-4地区SK49 北から



PL 6



B地区SK3 東から



D地区SE12 東から

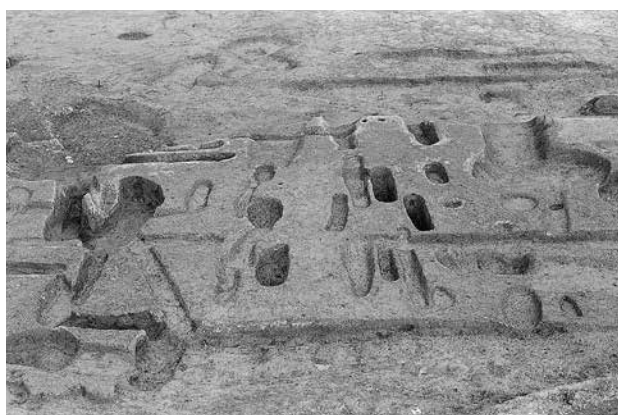




B地区SD 1 南西から



B地区SD 2 北西から



B地区G・H・I・19・20付近 北西から



B地区SE 2 北から



B地区SK 3 完掘後 東から



B地区SD 2 北西から

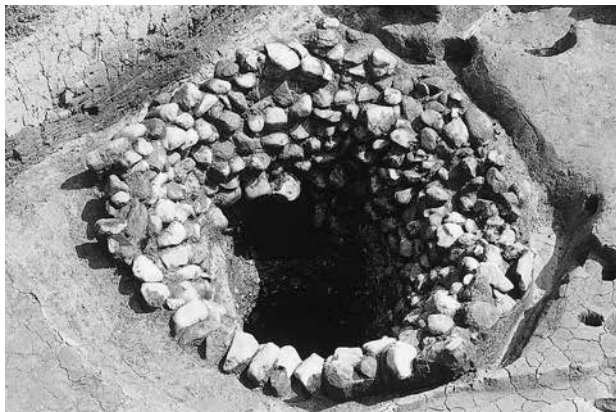


C地区SD 6 東端瓦出土状況 南西から



C地区拡張区中央部 北から





C地区SE 4 北西から



C地区SE 6 東側石組最下部板状木製品 北西から



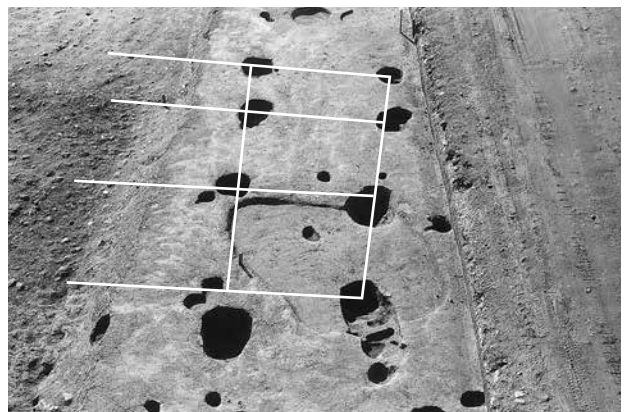
C地区SE 4 ステレオ写真撮影風景



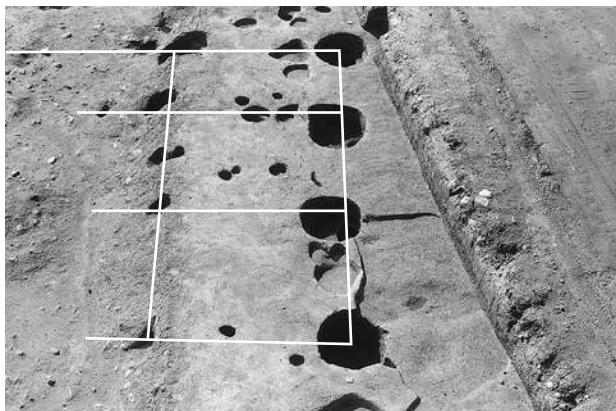
C地区SE 8 南から



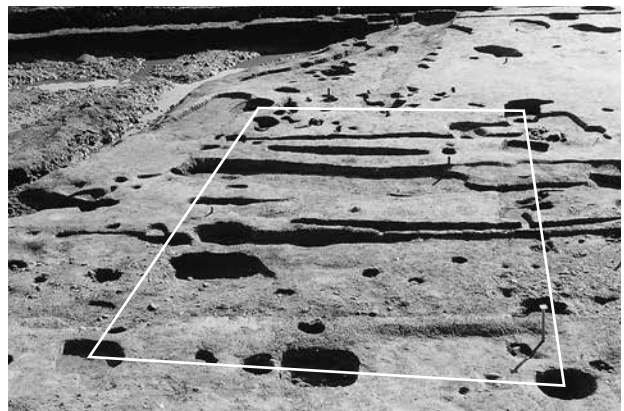
C地区SB 4 北から



C地区SB 7 北から

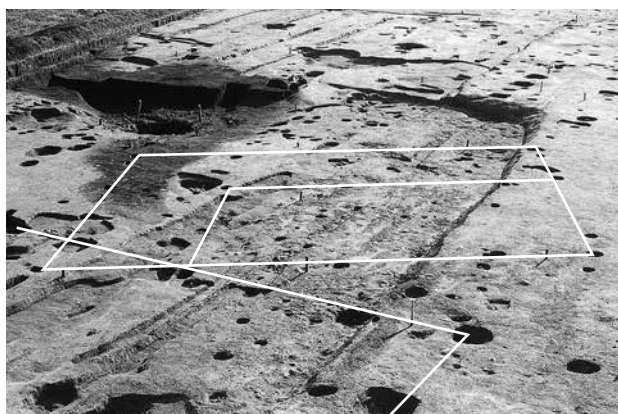


C地区SB 8 北から



C地区SB 9 西から

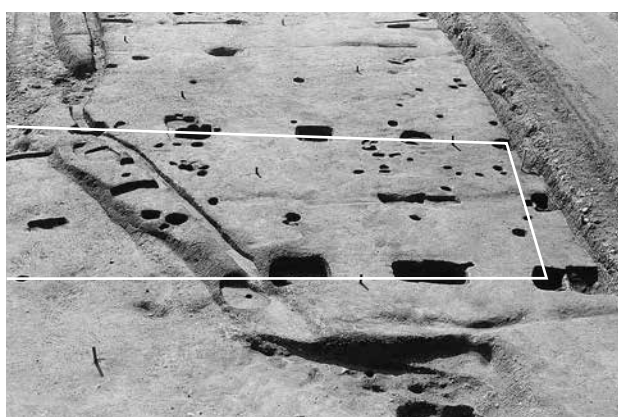




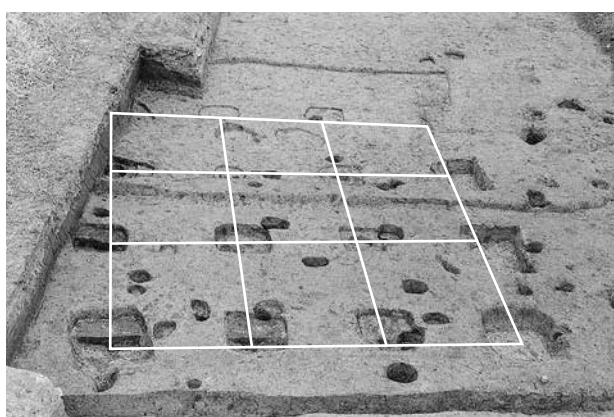
C地区SB9・10 北から



C地区SB11 北から



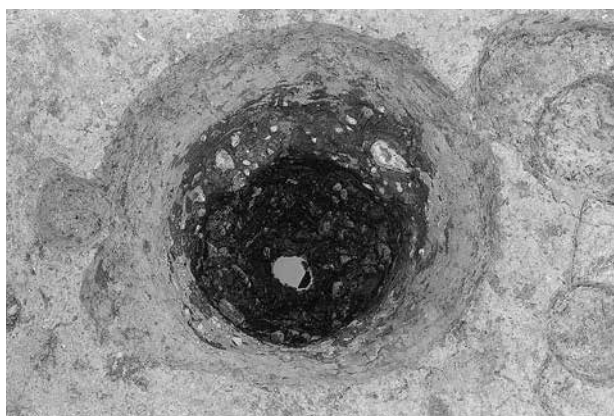
C地区SB12 北から



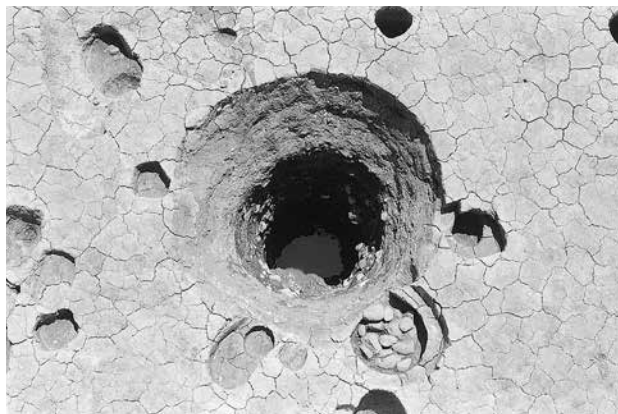
C地区拡張区SB14 南から



C地区南東部Pit群 南から



D地区SE13 南から

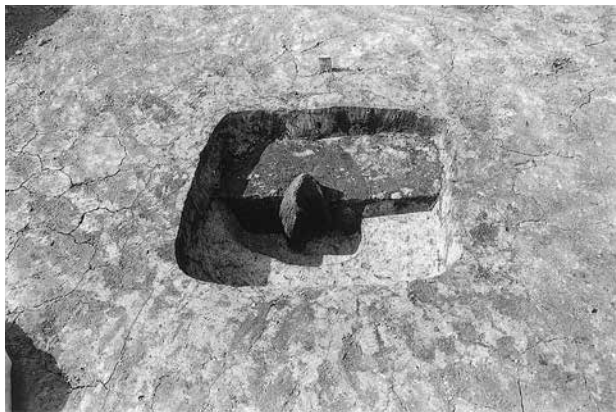


D地区SE14 西から



D地区H-R13Pit2 南から





D地区H-V8Pit5 南から



D地区H-O13以北SD9 南から



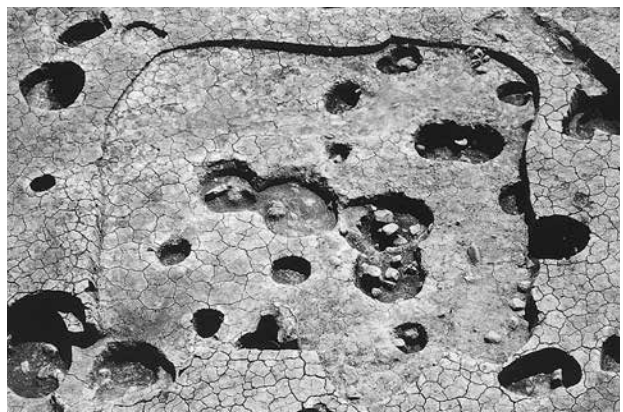
D地区H-N14Pit2SK5 北から



D地区SK11作業風景 北東から



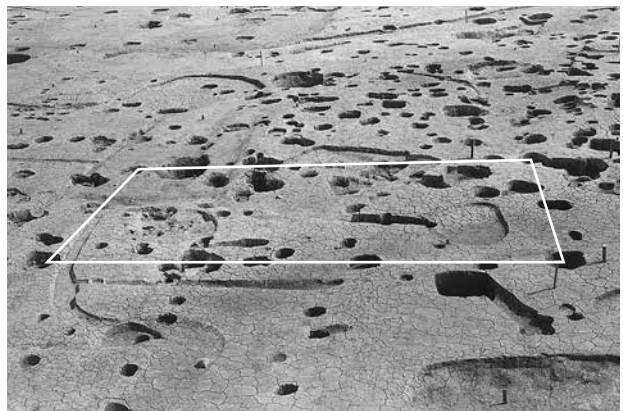
D地区SK12 北西から



D地区SK13 北から

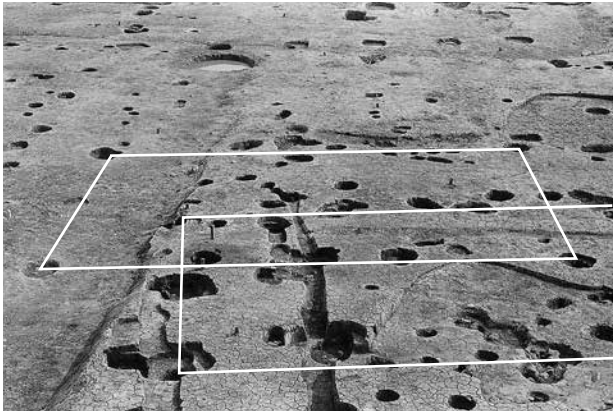


D地区SB18 北から

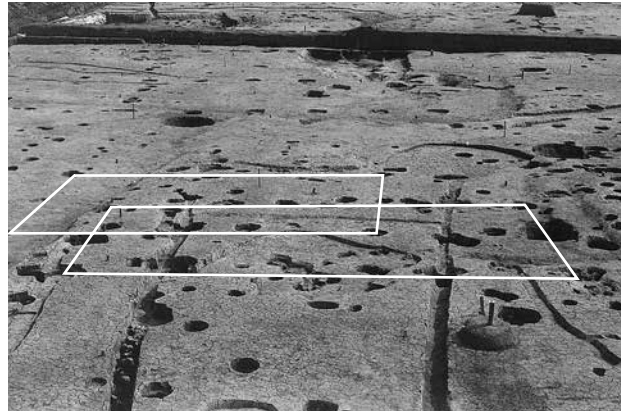


D地区SB22 北から

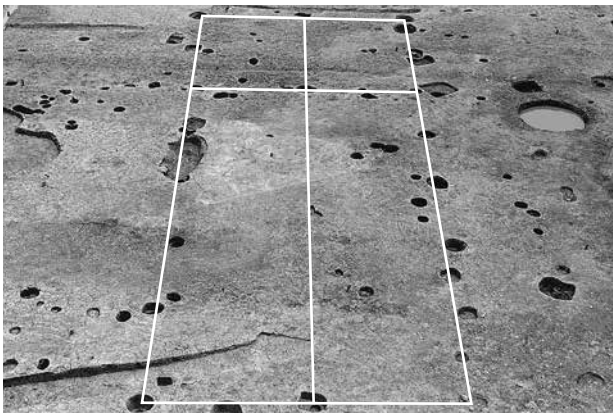




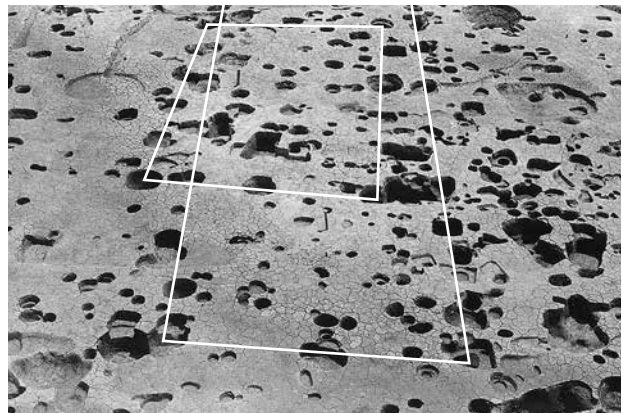
D地区SB23・24 北から



D地区SB23・24 北から



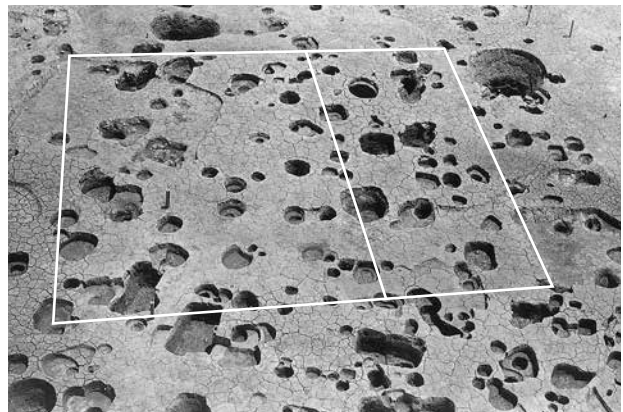
D地区SB25 北から



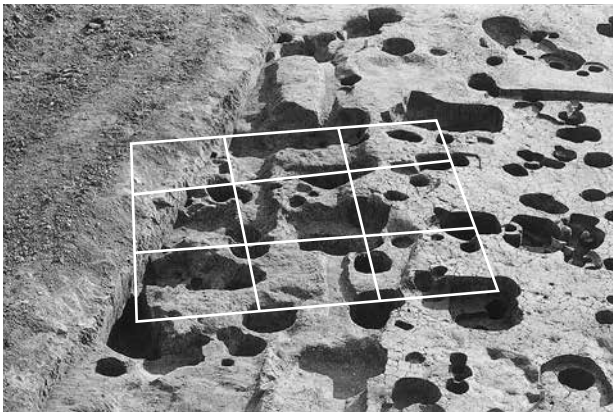
D地区SB27・28 西から



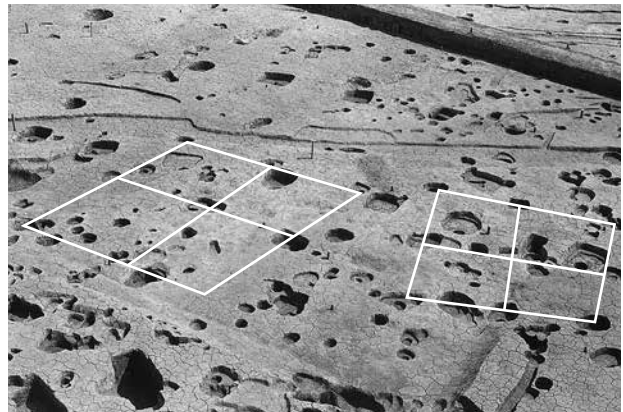
D地区SB28 北から



D地区SB29 西から

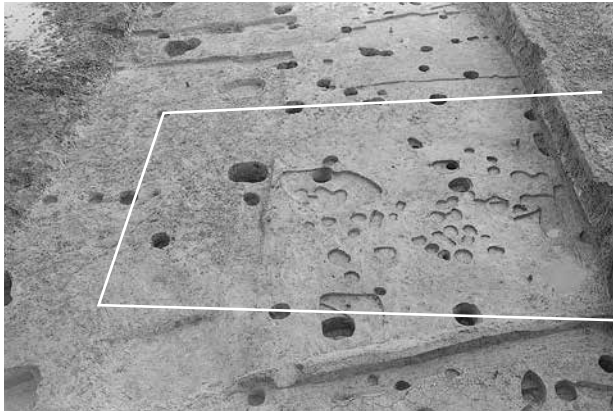


D地区SB33 北から

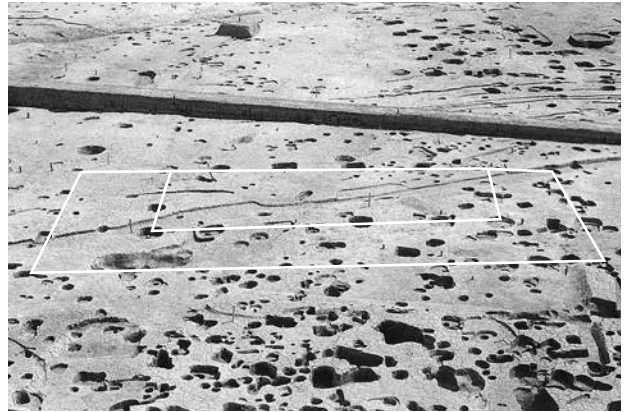


D地区SB36・40 北西から

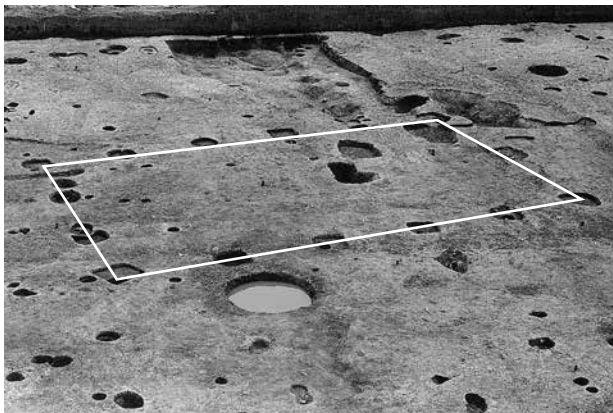




D地区SB41 北から



D地区SB45 北から



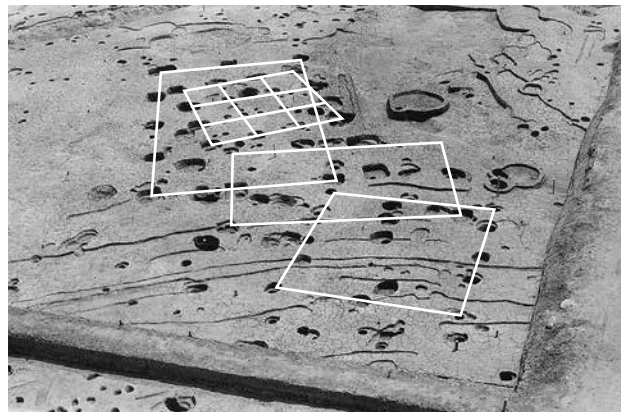
D地区SB46 北東から



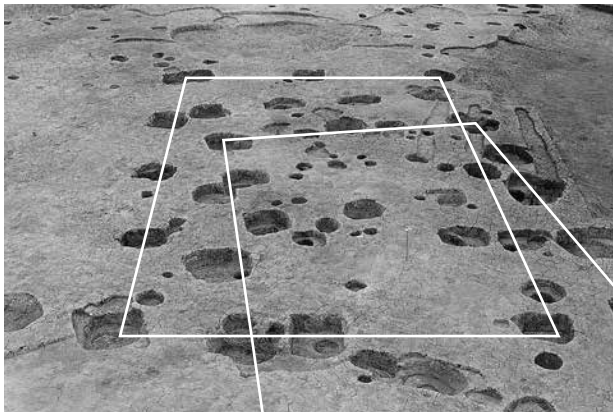
D地区SD30 西から



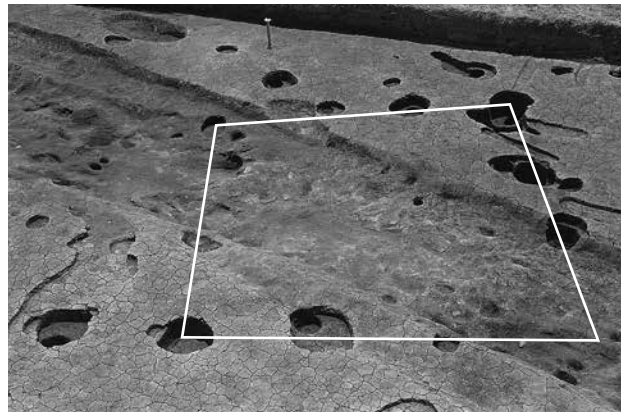
E地区ピット群 北から



E地区SB51・52・54・55 南から

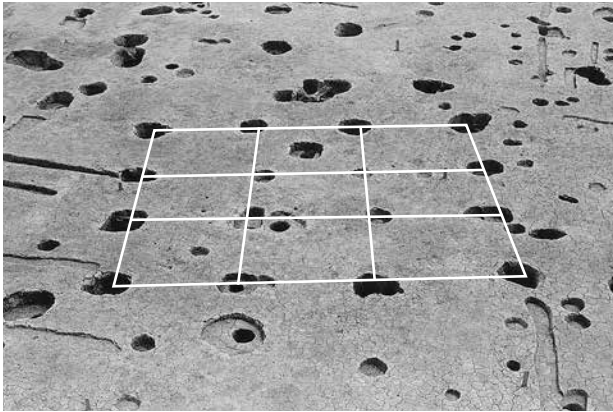


E地区SB53・54 北から

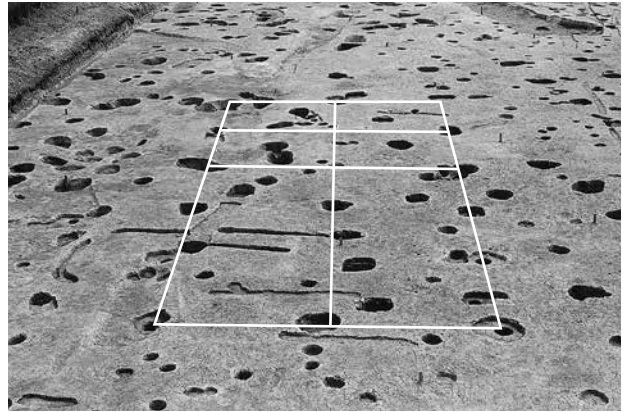


E地区SB57 北から

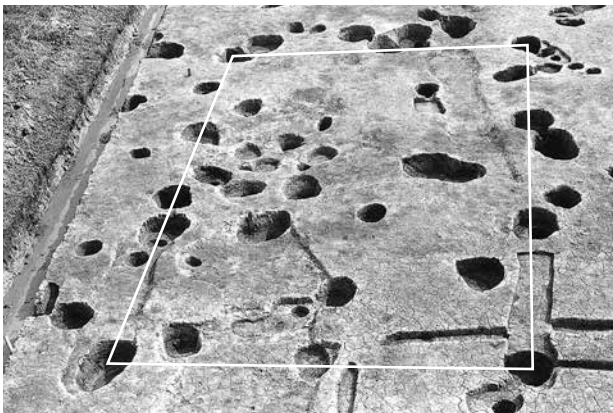




E 地区SB59 北から



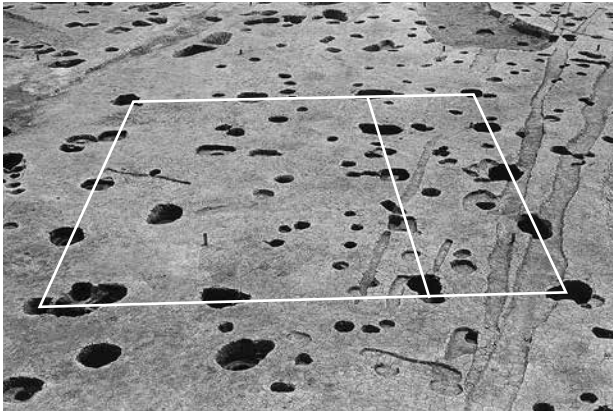
E 地区SB60 北から



E 地区SB61 北から



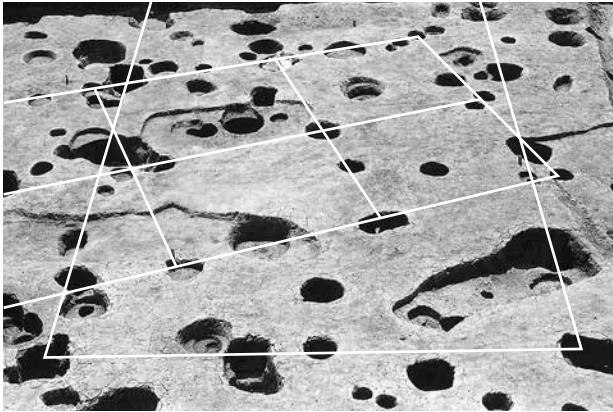
E 地区SB62 西から



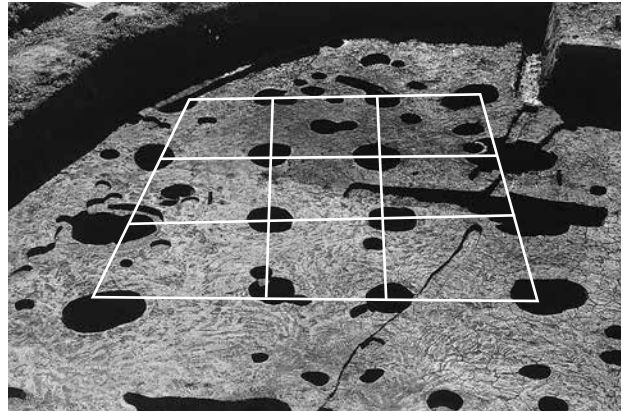
E 地区SB64 北から



E 地区SB65 西から



E 地区SB67・68 西から



E 地区SB72 北から





E 地区拡張区H-W3 P i t 2



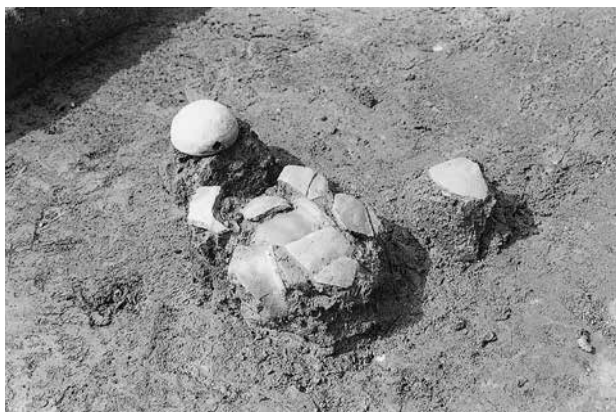
E 地区H-V4 P i t 3 柱根



E 地区SD10 土器出土状況



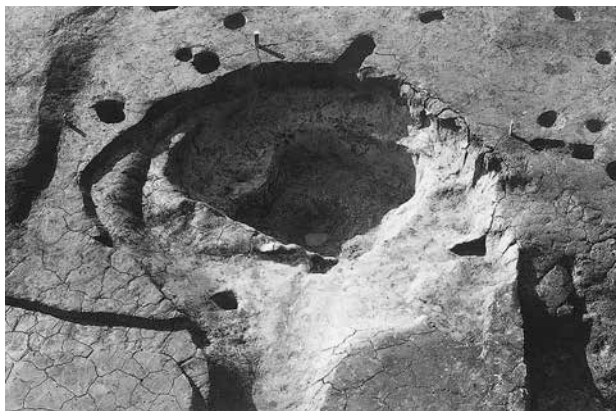
F 地区拡張区SX1 銭出土状況



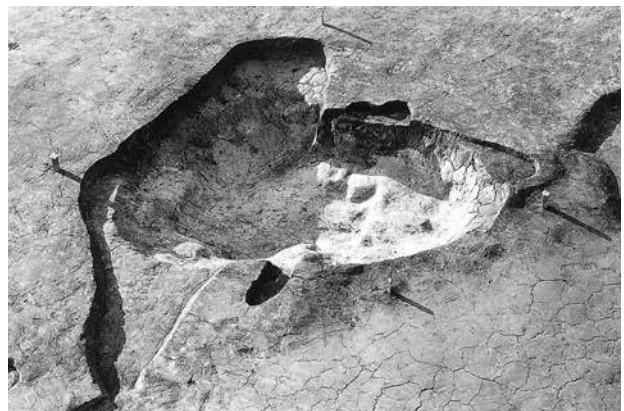
F 地区K-R4大溝上層SD12 東から



F 地区SK23 北から

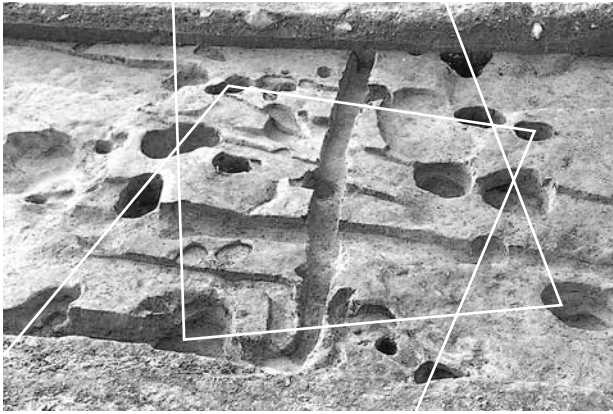


F 地区SK24 東から

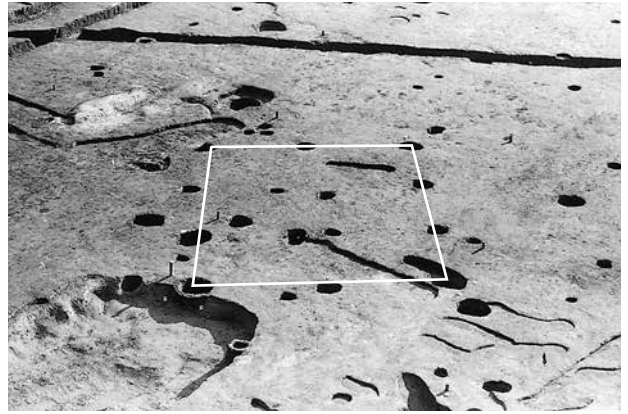


F 地区SK25 東から





F地区拡張区SB76・77 東から



F地区SB78 北から



G地区 土器出土状況



G地区SE17 西から



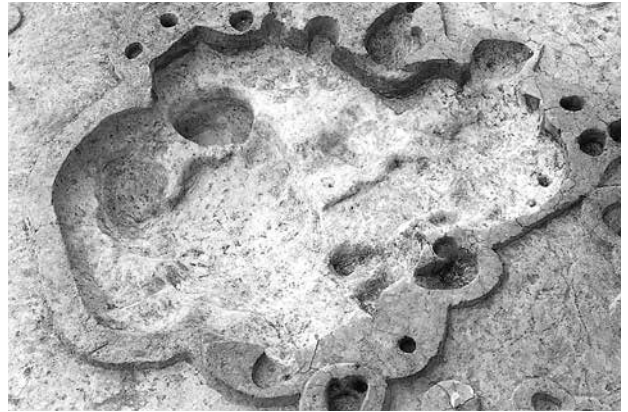
G地区SD31 西から



H地区SD33 西から



I-3地区SK42 北西から



I-4地区SK49 北から





1-1 地区全景 東から



1-2 地区全景 西から



1-3 地区全景 東から



1-4 地区全景 西から



出土遺物 1







76



100



102



75



79



94



106



107



108

出土遺物 3











156



157



160



161



163



164



165



166







187



186



196

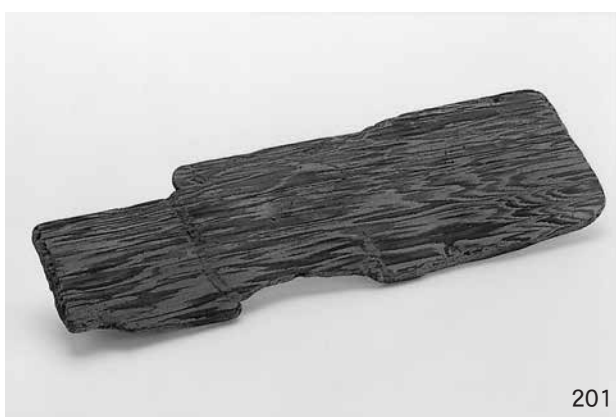
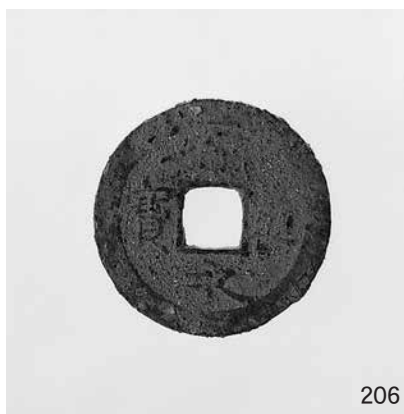


186先端部



198

出土遺物 9







210



214



256



279

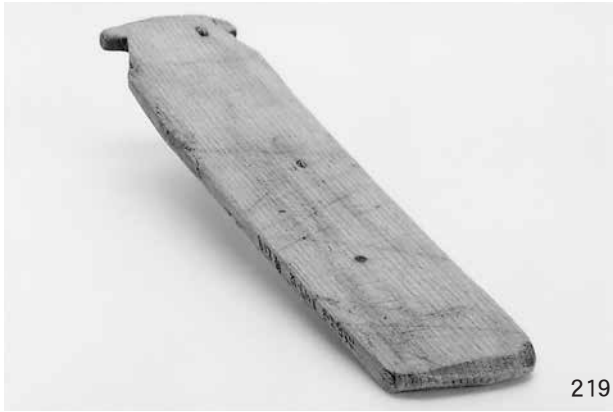


296



298







217



218



257



239



244



245



246



252



255

出土遺物13







278



293



307



310



284



285







出土遺物17



302



304



305



306





311



312



314



315



319



321



322



323







341



343



344



346



367

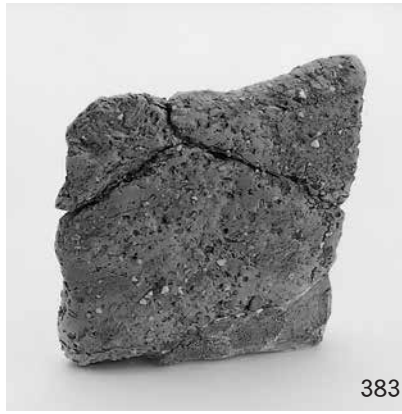


353



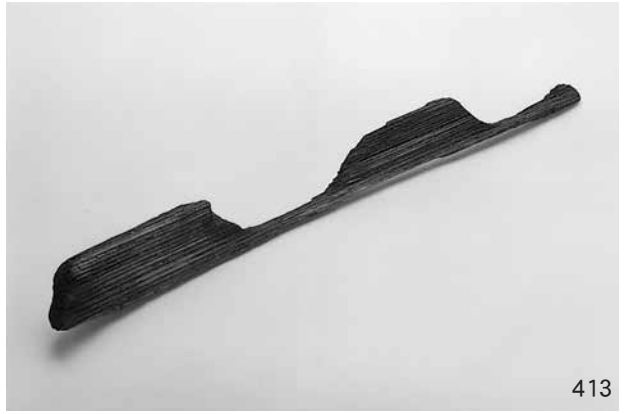
354

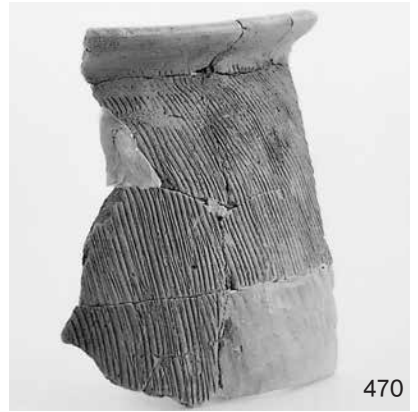




















502



519



531



482



484



490



497



505



511













649



723



754



660



663



670



672



681



687





713



715



720



724



725



726

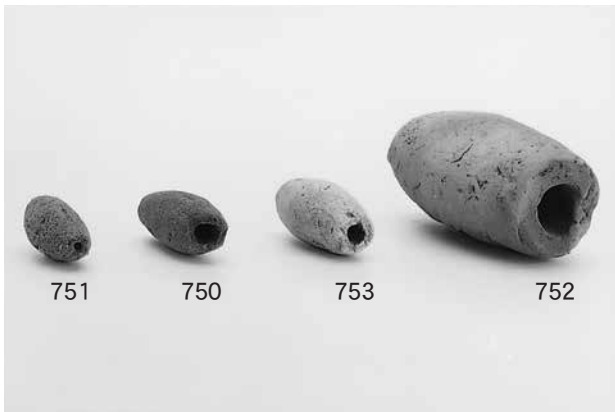


728



729







765



767



772



776



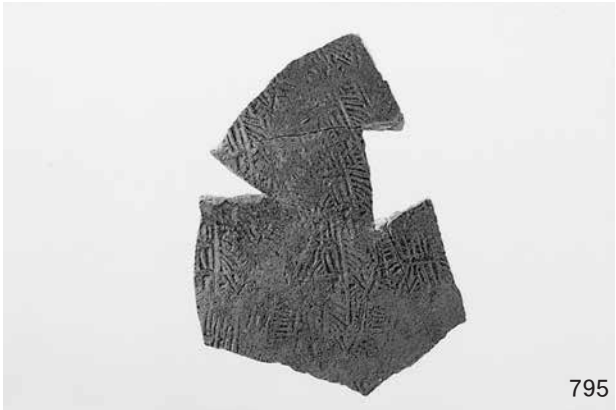
783



785

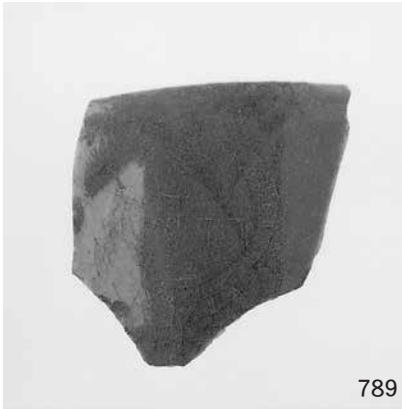


786



795





789



790



791



798



799



807



808



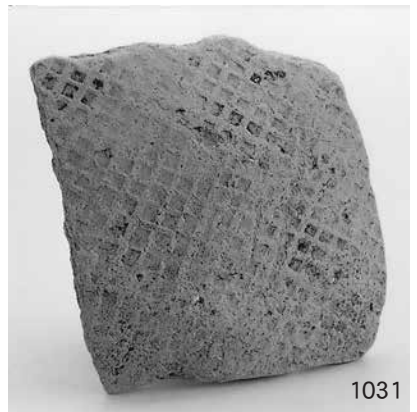
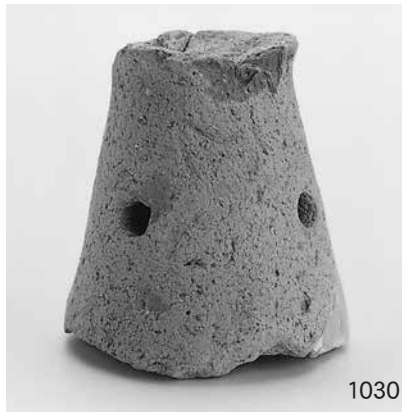
809



825













出土遺物43







960



974



976



977



985



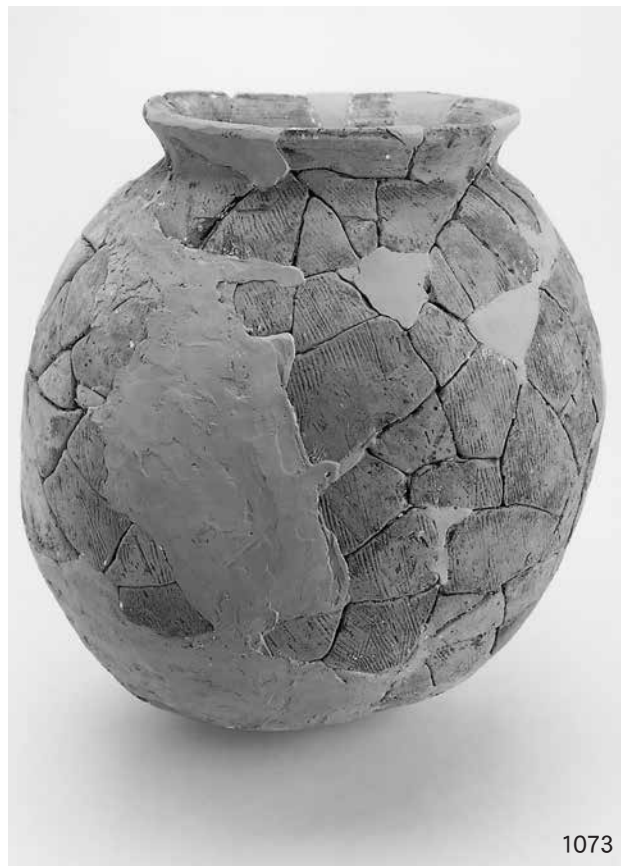
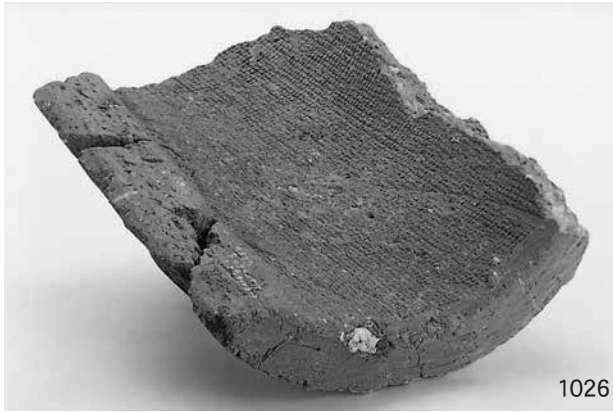
986



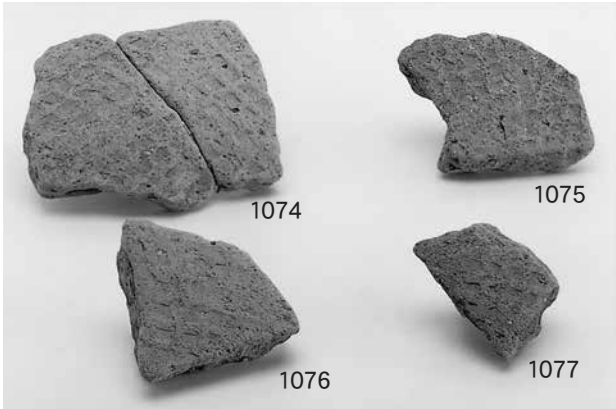
996



1010





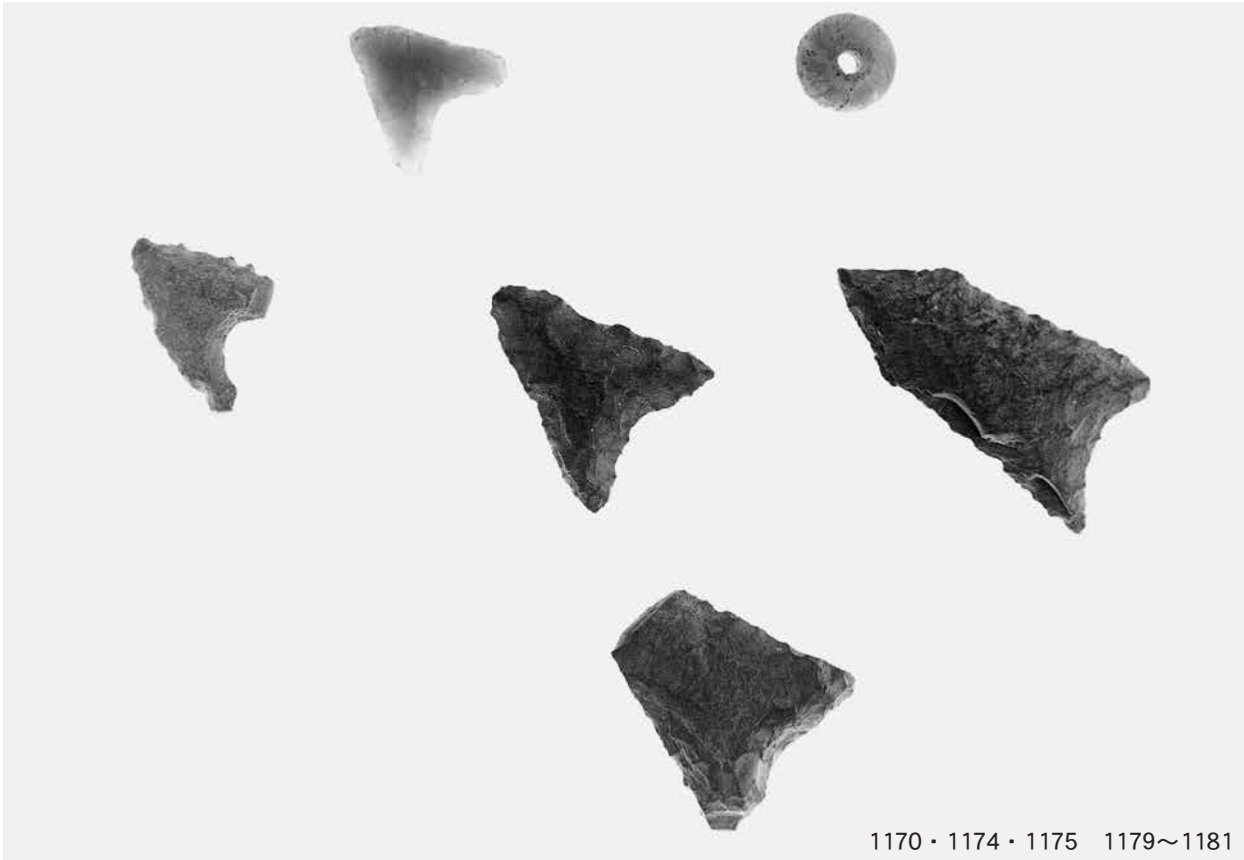






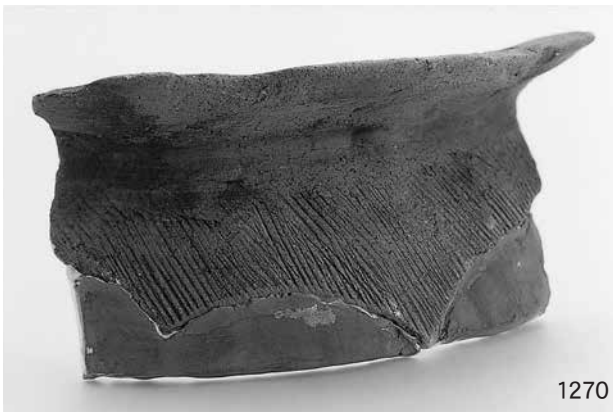
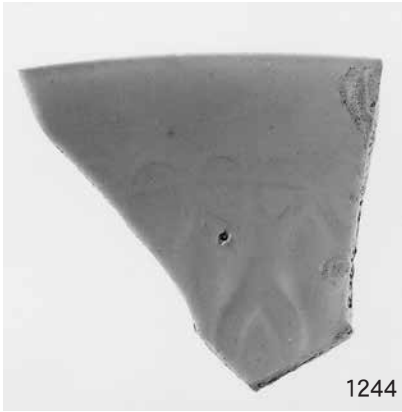




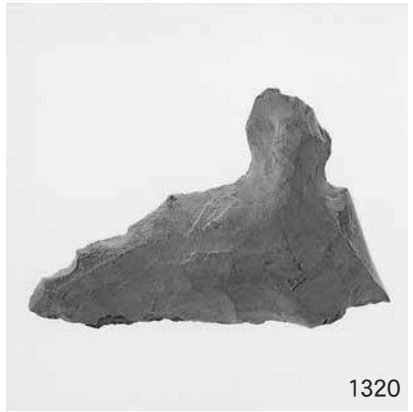


















P L 74



1364



1366



1368



1369



1383



1384



1388



1393

出土遺物58





1093



1113



1129



1483



1639



1640











1598



1604



1645~1651



1659



1660



1662



1666

1667

1663

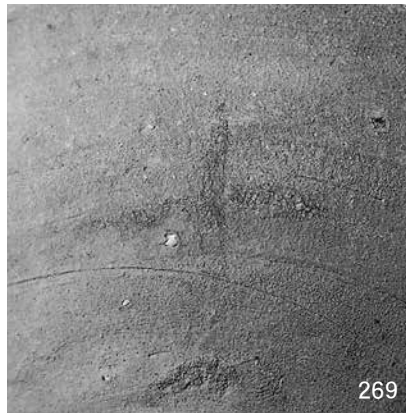
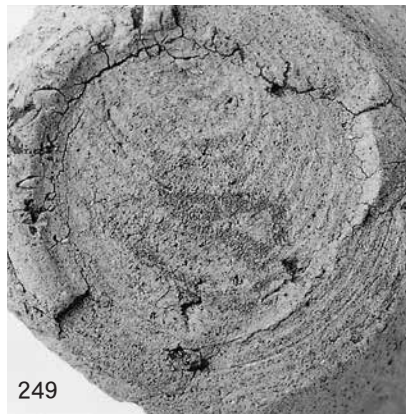
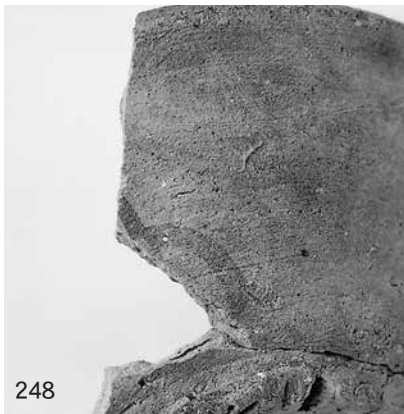
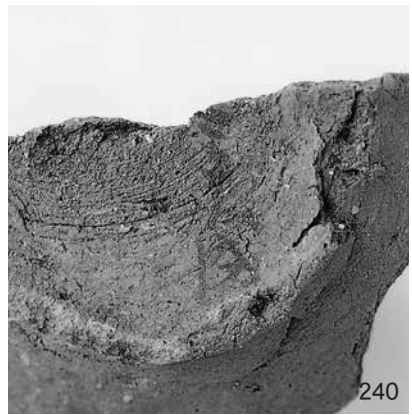
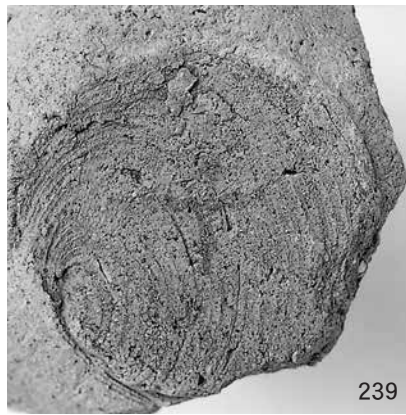
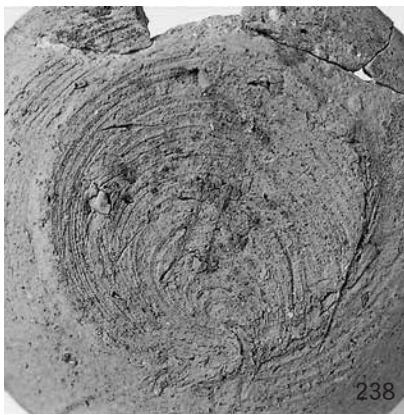
1665



1671

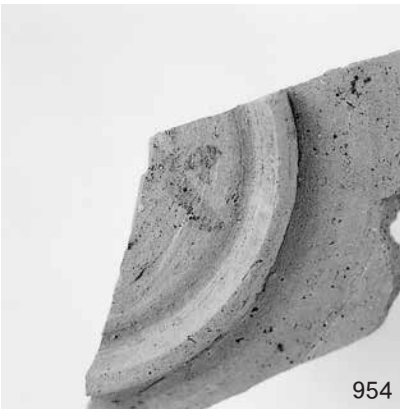
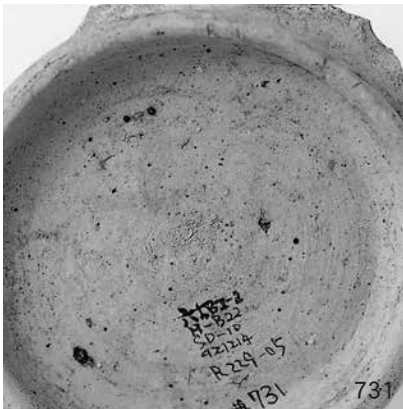
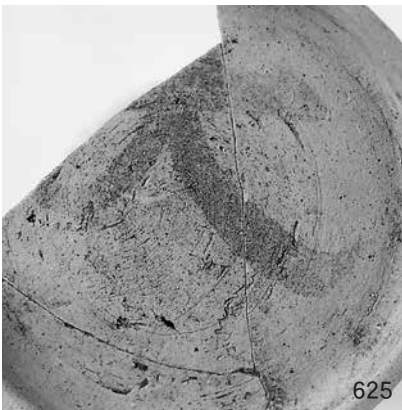


P L 80

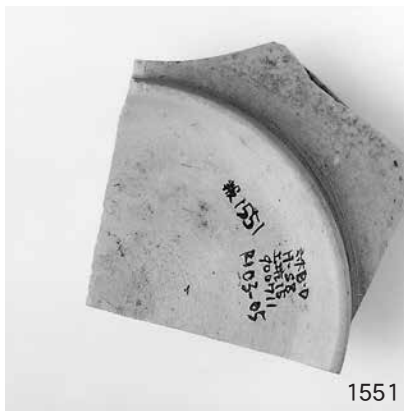
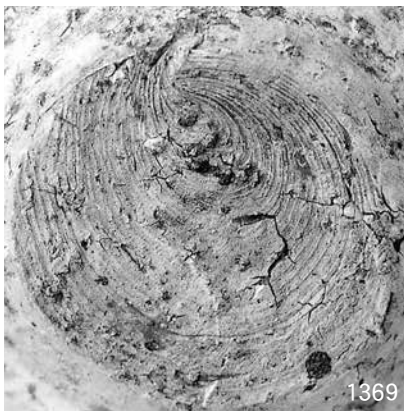
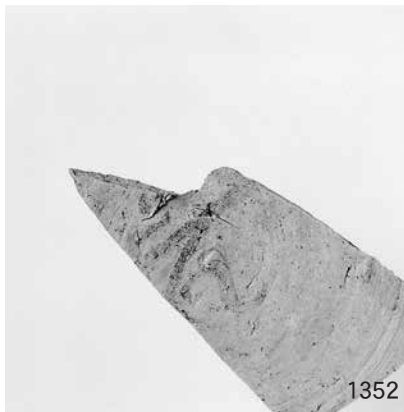
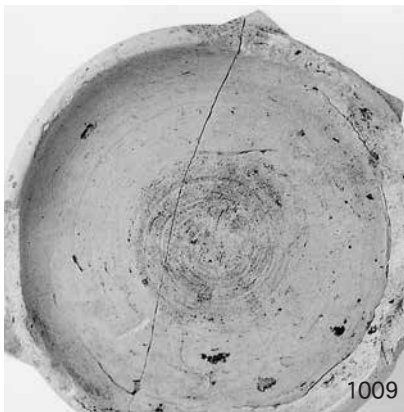
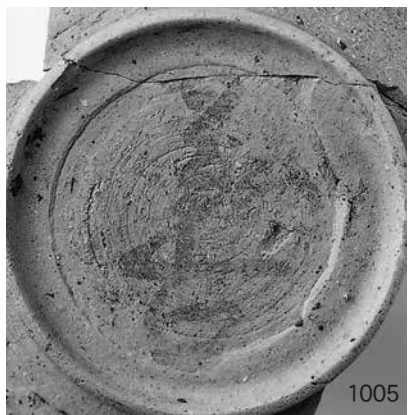
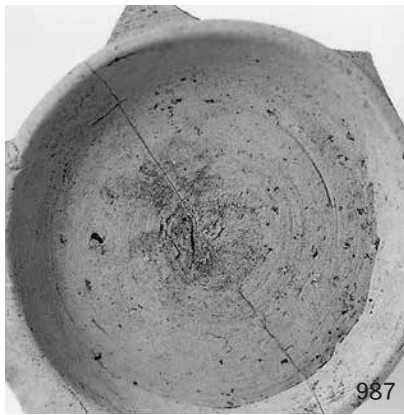


墨書 1





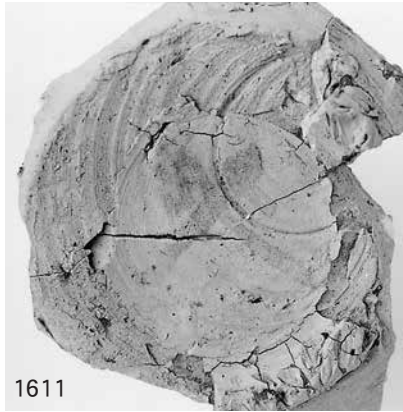




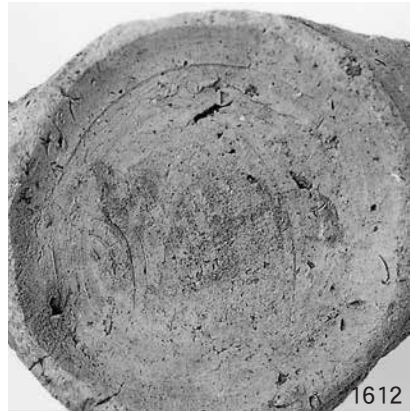




1598



1611



1612



1628



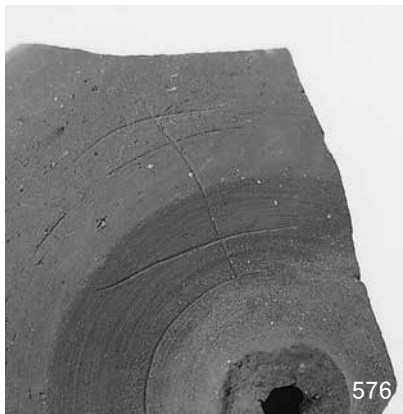
1636



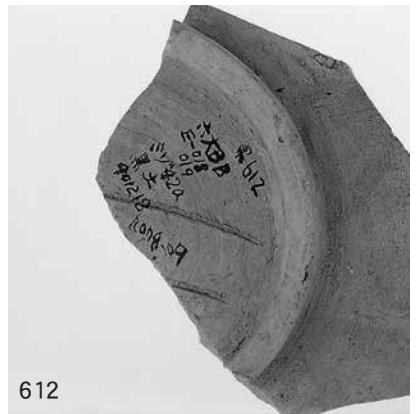
1660



575



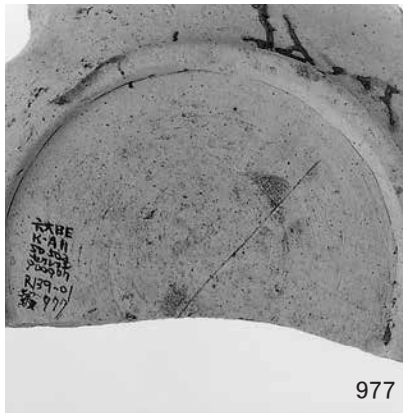
576



612



942



977



1477

墨書 4ヘラ記号





# 報告書抄録

ふりがな	いっばんこくどうにじゅうさんごう(きゅうこうく)けんせつじぎょうにともなう ろくだいびいせき(びいからあいちく)はつくつちようさほうこく							
書名	一般国道23号中勢道路(9工区)建設事業に伴う 六大B遺跡(B～I地区)発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	115-11							
編著者名	本堂弘之・山口 格・村木一弥・上村安生							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503番地 Tel.0596-52-1732							
発行年月日	西暦 2006年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積(m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
ろくだいびいせき 六大B遺跡  びいからあいちく (B～I地区)	みえけんつし 三重県津市  おおざとくぼたちょう 大里窪田町  あざたけはな 字竹花 ほか	24201	694	34° 45' 48"	136° 29' 51"	19900426 ～ 19910315	17,525	一般国道23号 中勢道路建設 事業に伴う事 前調査
						19910507 ～ 19910903		
						19911016 ～ 19911204	2,800	
						19920928 ～ 19921226	3,350	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
六大B遺跡 (B～I地区)	集落跡	弥生時代 、 江戸時代	方形周溝墓・竪穴住居・土坑・井戸・掘立柱建物・溝		弥生土器・土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・黒色土器・ロクロ土師器・土馬・中近世陶磁器・石帯・和銅開珎銀銭・木簡		土坑から弥生時代後期初頭の一括遺物。総数100棟近い飛鳥～中世の掘立柱建物群。緑釉陶器は大量に出土。	



三重県埋蔵文化財調査報告 115-11

一般国道23号中勢道路（9工区）建設事業に伴う

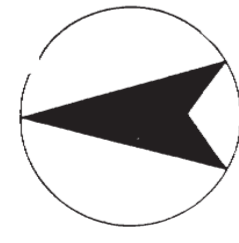
六大B遺跡（B～I地区）発掘調査報告

2006.3

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター

印刷（有）山文印刷





Y=45,600

X=-137,100

Y=45,500

X=-137,200

X=-137,300

X=-137,400

X=-137,500

0 600 m

